

George Adamski- The Untold Story

ジョージ・アダムスキー

語られなかった話

すべての UFO コンタクティの中でもっとも論議される人の最終的な真実

Lou Zinsstag & Timothy Good



Lady Falkender によって特に書かれた序文

50 以上の写真

表紙の写真

メリーランドのシルバースプリングスで証人の目前で死の 2 ヶ月前のジョージ・アダムスキーによって撮影されたセンセーショナルな 8mm 映画フィルムからの 1 フレーム。
このフィルムは、アメリカ政府と NASA の公的機関によって調べられ、光学の専門的学者によって認証された。

George Adamski- The Untold Story

ジョージ・アダムスキー—語られなかった話

宇宙人が我々の間に生きていると最初に言った人の

最新で最も完全な証拠

Lou Zinsstag & Timothy Good

英国の Ceti Publications

第1版 1983年1月

著作権 © ルーZinsstag とティモシーGood

ISBN 0 950841404

すべてに著作権が存在する

著作権所有者の許可なしにこの出版物のどの部分も、複写検索システムに保存 電子回路
などの機械的手段によっても、写真複写などで、記録してはならない。

イングランド Beckenham Kent BR3 IAB 247 の大通り

印刷 Parchment 社 (オックスフォード)

目次

Lady Falkender の序文..

.おぼえがきと感謝.

まえがき

図版.のリスト

1 部 その人を知っている-----ロウ ツィンクタグ Lou Zinsstag の個人的な記憶の中から

第 1 章 はしがきと背景

第 2 章. 砂漠での遭遇..

第 3 章 ヨーロッパへのアダムスキーの最初の訪問

第 4 章 チューリッヒの出来事

第 5 章 .ユングの態度

第 6 章 予想外の幕間の出来事。

第 7 章 アダムスキーは、ヨハネス 2 3 世法王に会う。

第 8 章 分裂のあらわれ.

第 9 章 否定の声が上がる...

第 10 章 隠れるスペースビープル

第 2 部 :

ティモシー Good の研究による検証と証拠

第 11 章..

序文

『二階の少年』

第 12 章 確認と否定。

第 13 章 火星

第 14 章 金星

第 15 章 証明の重さ。...

第 16 章 シルバースプリングス——最終的な証拠？

第 17 章 アダムスキーの死

第 18 章. 判決 付録

インデックス。

この本は故 Waveney Girvan に捧げる

Waveney Girvan はジョージ、長年、アダムスキーについて真実を恐れず追求した。



1953 年に Waveney Girvan は「フライングソーサーは着陸した」を出版した。そしてフライングソーサーレビューの編集者となった。

彼は、1964 に死んだ。

序文

by Lady Falkender

このすでに期限切れになったような評伝は、ジョージ・アダムスキーの刺激的で論争の的となる多くの新しい主張を含む。

この人に起こったことは明らかに極度に重要なことであり、この本の情報は、考えさせ高度な論争の的となる新しいものである。

著者は、きわめて疑問に満ちた、魅力的な主題を偏見なく直視し、当然人々が持つ疑惑に答えようとしている。

私はこの本の出版がこの問題の関心を広げるだろうことを喜ぶ。

Lady Falkender

上院議員

1982 年 10 月

男爵夫人、Lady Falkeuder BA (Hons.),は、1964-70 と 1974-76 の間、首相であったサー Horold ウィルソンと Rt. Han の 1956 年以降の私設政治秘書であった。

おぼえがき

著者は、この本の準備をした以下の方たちに対して感謝したいと思います。
優れたジャーナリストであるチャールズ・ボーエン（Flying Saucer Review の編集者）から多くの資料を使用許可を親切に与えていただいたことに感謝します。

ウォルター Buhler 博士、中央情報局、ロバート・チャップマンとアーサー・バーカー社の Unidentified Flying objects からの我々の序文への引用を感謝する。

ゴードン クリグトン、シャロン・グールド、リチャード・ハイデン、ハンス ホルツ
アー教授、キャロル・ハニー、ジョアンナ Hugill、ヘンリー・ジョンソン、デズモンド・
レスリー、ジャック Li、ジェームズ McCampbell、スーザン・ジーン McCrone、ルーシー
マクギニス、スーザン Marchant-Haycox、The National Aeronautics 国家航空学と航空省
長官

ハンス・ペーターセン、ケルヴィンロウ、フレッド スティッキングとジョージ・アダム
スキー財団。

特別な感謝は、クラカーティ伯爵、レナードクランプ、フォアケンダー女史、マドレーン
ロドファーとウィリアムシャーウッド

最後に、著者はリチャード・トーマスのかけがえのない編集の援助に感謝する。

Gordon Creighton, Sharon Gould, Richard Heiden, Professor Hans Holzer, Carol Honey, Joanna Hugill, Henry Johnson, Desmond Leslie, Jack Li, James McCampbell, Susan Jean McCrone, Lucy McGinnis, Susan Marchant-Haycox, The National Aeronautics 航空学 & Space Administration, 官庁 Major (Ret.) Hans Petersen, Kelvin Rowe, Fred Steckling and The George Adamski Foundation.

Special thanks are due to The Earl of Clancarty, Leonard Cramp, Lady Falkender, Madeleine Rodeffer and William Sherwood.

前書き

ちょうど 1 年前、Ftying Saucer Review の序文で、英国の前外交官ゴードンクリグトン Creighton はこの本の主題のことを次のように言った：

"

「私はアダムスキーに言及することを考えただけでほとんど震えあがる、なぜなら、今日では『誰も彼が詐欺であったということを知っている』 UFO の研究サークルの中でそれを言う事は非常に悪い立場におかれるからだ。

ジョージ・アダムスキーのことを少しでも言及することによって発生する感情的な反発は、もし人がそれを熟考すれば奇妙である。

1952-53 年の間に彼が経験し写真を撮った時から我々の惑星のいろいろな国の至る所の文明で多数の何十もの他の人々が、1952 年以後の 29 年間にアダムスキーと正確に同じ『Mexican Hat メキシカンハット型ディスク』タイプと大きな『空飛ぶ葉巻』を見た主張し写真を撮った。

私はまた、世界中で、多数の UFO コンタクティがアダムスキーが言ったよりもっと十分な証拠もなく『より粗野な』幻想的な物語を話し、主張しつつけたが、それなのに、概して、これらのコンタクティは多くの研究者によってかなりの尊敬をもって聞かれていることに気が付いた。

決して、彼らはアダムスキーに与えられたような大変な非難で迎えられていない。

現在の UFO コンタクティ症候群すべてに、これは言えると私は思う。

我々は、たいていこれらがそうしたもののなので、馬鹿げたうそと矛盾でいっぱいひどく不合理であることを期待させる。

アダムスキーは、今や流行おくれのファッションである。

.しかも、彼は『うそつきと悪ふざけの人』であるという嘲笑は今も終わっていない。

しかし同じような物語を言う他の人は、こうした嘲笑の対象にはならない。」(FSR. Vol 27 の No 3、1981)

栄誉あるフリーのストリートジャーナリスト、ロバート・チャップマン (ベストセラーの Unidentified flying Objects の著者) は『うそつきと悪ふざけの人』といわれたジョージ・アダムスキーに会った。

ジョージ・アダムスキーが 1963 年にロンドンに来たとき、彼に電話をかけ、彼がロンドン去る前の講演の前あわただしい時間に彼が滞在していた小さなホテルで、礼儀正しい彼とのインタビューの時間を与えられた。

彼に対する個人的な真剣な関心を今では全く忘れてしまったが、新聞の三面記事にありそのような問題だぐらいに考えていたと思う。

そのとき私が彼をだまして金星人遭遇が捏造以外の何物でもなかったと認めさせたならば、かなり大きな見出しで書くことができたが、そのときは、単に彼と話しただけのことであった。

私が彼と会ったときには、すでに出来上がった印象を自分で作り上げていたために、彼が持つ明らかに豊かな富に期待していなかった。（彼は資料を持ちだして、他人を無作法にそして強烈に非難するにちがいがなかった！）

確かに、人はジョージ・アダムスキーに投げつけられたあざけりと虐待的批評の宣伝の合唱の中にいなければならなかった。

しかしその時、親切で、忍耐強い顔で適度に穏やかな声で話す人をそこに見た。（その人は敵意なく、または少しも怒ることもなく、充分に、丁寧にあらゆる質問に答えた）そして私の疑問に、釣りあう量で明らかにした。

いままで生きた他の誰よりも反対の合唱の渦中であってこうしたことに慣れているに違いなかったが、私が今まで見たこともない、けたはずれの人物であった。

アダムスキー、やせた、濃い、鉄灰色の髪の風雨にさらされた人物は注目に値する主張をし、躊躇なしに、簡潔に答えた。それはそのとおりに起きたことであった。

誰かが彼を信じるならば、彼はうれしかった；

彼らが信じてくれるならば、悪いことはない、しかし、それについて自分から何ができるろう？

私はすでに、ちょっとした彼の評価においても、批判されていることを知っていた。

アダムスキーはひどく、正常で、全体的な印象はその1言でつきていた。

彼は金星人と連絡をとったことを確信していた。そして、本当に誰も彼を信じていけない理由を見ることができなかった。

「もう一人のコメントを寄せた人は、若き日、核兵器の応用研究と潜水艦と原子力発電のための原子炉設計の理論的研究経歴を持つ科学者ジェームズ McCampbell であった。

1970 年の彼の本「Ufology」の中で、次のように述べた。

「...証人ジョージ・アダムスキーが世界中の多数の、20 年間の無関係な出来事を彼の執筆の時代に完全に予期したことは驚くべきことである。そして、個人の観察を正確に記述しており UFO に関して詳しく精細に調べられているので確かに最高の価値を持つもののうちの1つであった。

（多くの UFO の本の著者であり上院議院全党 UFO 研究 グループの創設者）の有名な「克蘭カーティ伯爵（Brinsley Le Poer Trench）は、書いた：

「1959 年に私はロンドンでハイドパーク・ホテルでパトリック・ムーアとジョン Lade と共にアダムスキーに会う喜びを持った。私は、アダムスキーのたくましい生命力と彼の誠実な魅力に非常に打たれた。

「アダムスキーが宇宙人の宇宙船に乗ったと私に信じさせる出来事は、彼の本 Inside The

Space Ships 宇宙船の内部で、彼の旅行を記述する際に行ったことである。

彼は、舷窓のうちの 1 つから外を見て、宇宙が完全に暗いということを知っていた。

それから、宇宙船のまわりで起こっているまるで何億ものホテルが至る所にゆらめく現象に気がついた。何年後かの地球を軌道に乗って回った最初の宇宙飛行士であったジョン・グレン大佐はアダムスキーの宇宙空間についての記述とほとんど同一の印象を与える記者会見を開いた。

大佐は、宇宙空間が暗いと言って、そのうえ何千ものホテルのようなものが見えたことを話した。

それは、私にとって決め手であった。

それは、アダムスキーが宇宙船に乗った証明であった。

「ルーZinsstag とティモシーGood は、多くの人々にジョージ・アダムスキーを再評価させるきっかけをつくる見事な本を書いた。

最後に、この本の原稿のコピーは、ニューヨーク工科大学のハンス Holzer 教授（The Ufonauts——ユーホーの賄賂——の著者でありと有名な超神理学者）に送られた。

彼は、返事を書いてきた：

「これは、軽く読める本でない。

これは新しい多くの情報を伝え、外面は軽く書かれているが、時々非常に重要な秘密を中に深く隠している。

「この本の中のいくつかは、多くのアダムスキーの支持者を憤慨させようである。

ジョージ・アダムスキーの名誉を回復させようとする著者の意図は、それにもかかわらず実現している。

1982 年 11 月 The Publishers-

図表パート 1

1 George Adamski in the late 1930's

1930 年代のアダムスキー

2 Adamski teaching in the monastery at Laguna Beach, California, in the late 1930's

1930 年代後期のラグーナビーチ（カリフォルニア）の、修道院で教えているアダムスキー

3 Painting of Christ by Adamski アダムスキーによって描かれたキリスト

4 Adamski's former business card アダムスキーの前の名刺

5/6 Two of the famous series of telescopic photos showing a 'mother ship' releasing 'scout craft', taken by Adamski on 5 March 1951 One of the famous photos of a 'Venusian scout craft'

'5/6『偵察技能』をリリースしている『母船』を示している望遠鏡の 2 つの写真のシリーズ、1951 年 3 月 5 日に、ジョージ・アダムスキーに撮影された有名な金星人『偵察宇宙船』

3 の最近の 2 人の中の 1 の有名な写真の 1 つ

7

7 taken by Adamski with his 6-inch telescope on 13 December 1952 Adamski's most famous photo of the 'Venusian scout

1952 年 12 月 13 日アダムスキーによって彼の 6 インチの望遠鏡でとられた・アダムスキーの最も有名な『金星人偵察機の写真

8 craft' taken on 13 December 1952 Adamski with his 6-inch Tinsley reflector telescope

彼の 6 インチ反射体望遠鏡で、1952 年 12 月 13 日にアダムスキーが撮影した宇宙船』

9

9 Adamski's home at Palomar terraces

Palomar テラスでのアダムスキーの家

10 The famous photographic plate with substituted

有名な写真のプレートで代える

11 hieroglyphics Fred Steckling showing the authors where Orthon

著者を示すことを Steckling している象形文字フレッドどこで Orthon

12 dropped the photographic plate on 13 December 1952 Stone given to Alberto Sanmartin in 1954 depicting

1952 年 12 月 13 日の写真のプレートを落とすストーン 1954 年のアルベルト Sanmartin に表すことと与える

13 similar symbols One of the plaster casts of Orthon's footprints

Orthon の石膏でとられた足跡に類似したシンボル

14 One of the plaster casts of Orthon's footprints

15-1 7

Three of the six witnesses to the Desert Center contact 6 人の砂漠の目撃者のうちの 3 人が中心にいる

18 Adamski with Lou Zinsstag in Zurich, 1959

チューリッヒ (1959) でルーZinsstag でアダムスキーと連絡をとる

19 Adamski dictating a letter to Lou Zinsstag in Basle, 1959

Basle で手紙をルーZinsstag に書き取らせているアダムスキー、

20 At the Ristorante La Cisterna, Rome, 1959 ローマのレストラン 「ラ・システーナ」

21 Letter to Lou Zinsstag ルーZinsstag への手紙

22/23 Two faces of Adamski

24 Letter with strange symbols given to Adamski アダムスキーにきた手紙の奇妙なシンボル

25 The Vatican medal given to Adamski by Pope John XXIII in May 1963

1963 年 5 月にヨハネス 23 世法王によってアダムスキーに与えられたバチカン・メダル

26 Adamski after the Vatican visit バチカンの訪問の後のアダムスキー

図表 2 (pages 145-146)

27 月の上のガセンディクレーター

Image orthicon photo of Mars compared with Lowell

28 ローウェルと比較して火星のオルシコンの写真

Observatory map Oddly regular 'furrows' on Mars photographed by

29

火星の上に奇妙な規則的な『すじ』が写真に撮っている地図

Viking 1 The first photograph of the surface of Venus, taken by

30 金星の表面がバイキングによって取られた最初の写真の 1 つ

31

Venera 9 Kelvin Rowe, who claims to have seen Adamski on

アダムスキーと会ったと主張する Venera 9 のケルヴィン Rowe

board a 'mothership' Frame from first part of the Silver Spring film

シルバースプリングスフィルムの最初の部分から、『母船』の写真フ

32

Frames from the Silver Spring film of 26 February 1965

1965 年 2 月 26 日のシルバーイプリングスフィルムからの写真

33

Madeleine Rodeffer showing where she tried to film the

マドレーヌ Rodeffer が見せようとしたフィルム

34 UFO Madeleine Rodeffer マドリノドファー

35 Madeleine Rodeffer's house in Silver Spring,

シルバーイプリングスのマドレーヌ Rodeffer の家、

36 Maryland

メリーランド

37-40 Enlargements from the Silver Spring film Second photo by Stephen Darbishire
taken in February

37-40

スティーブン Darbishire に撮影された二番目の写真

シルバーイプリングスのフィルムの写真の拡大

41 1954

42 Leonard Cramp レナード Cramp

43 William Sherwood ウィリアム シャーウッド

44 Photo of 'Adamski-type' UFO taken by Hugo Vega in October 1973

1973 年 10 月に、ユゴー・ヴェガのそばでとられる『アダムスキー-タイプ』UFO

45 The Washington Sanatorium at Takoma Park, Maryland, where Adamski died

アダムスキーの死んだワシントンサナトリウム とタコマパーク (メリーランド)

46 Adamski's grave in Arlington Cemetery アーリントン墓地

47 Carol Honey カール ハニー

48 Frame from Fred Steckling's film taken in September

この写真は 9 月にフレッド Steckling が撮影したフィルムの中からの 1 フレーム

1 966

49 Extract from Adamski's first book, Wisdom of the Masters of the Far East

ジョージ・アダムスキー最初の本 「極東のマスターズの知恵」

50 George Adamski

アダムスキー

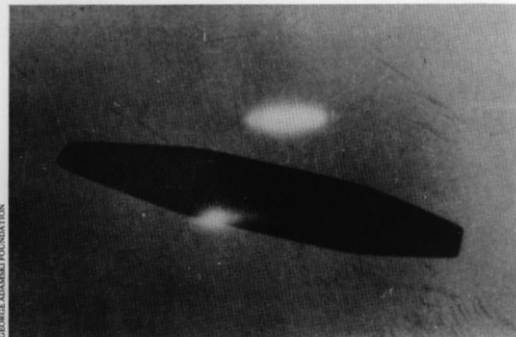


Prof. G. Adamski
*Speaker and Teacher of Universal Laws
 and the Founder of Universal Progressive
 Christianity, Royal Order of Tibet
 and the monastery at
 Laguna Beach*

Headquarters
 Hotel Gastle Green
 89 S. Raymond Ave.

Pasadena
 California

5



Two of Adamski's famous series of photos taken through his telescope on 5 March 1951, showing a 'mother ship' releasing some of the smaller 'scout ships'. The latter are surrounded here by a corona of ionized air, which Adamski stated was a by-product of their propulsion system.

6



GEORGE ADAMSKI FOUNDATION



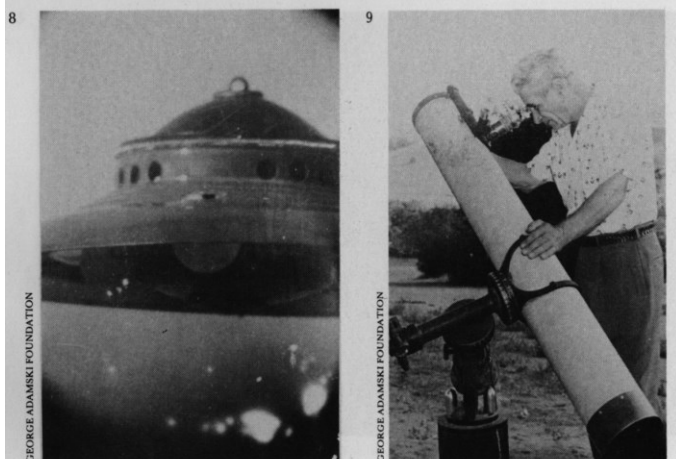
One of the famous series of a 'Venusian scout' taken by Adamski on 13 December 1952 at Palomar Gardens. Note the field of view of the telescope.

Venusian Scout Hovering
PHOTOGRAPHED
Dec 13, 1952 9:00 AM
with 6 inch telescope
at Palomar Gardens
MOUNT PALOMAR, CALIFORNIA
 COPYRIGHT
GEORGE ADAMSKI
1953

GEORGE ADAMSKI
 PALOMAR TERRACES
 STAR ROUTE
 VALLEY CENTER, CALIFORNIA

021

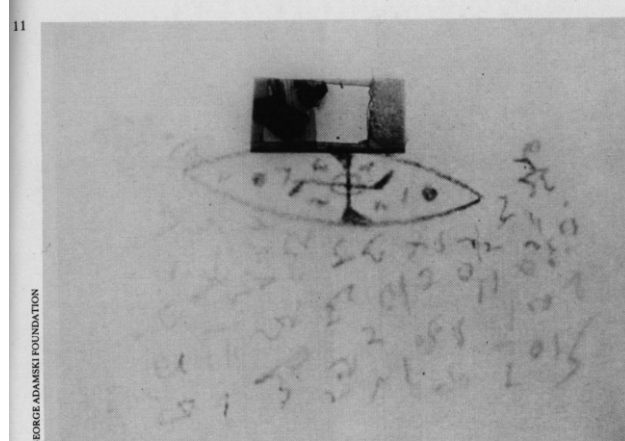
Adamski's stamp on the reverse of the above photo, which particularly impressed Carl Gustav Jung when his cousin Lou Zinsstag showed it to him in 1957.



Left: The famous 'Venusian scout', taken by Adamski on 13 December 1952 through his telescope at Palomar Gardens. Adamski stressed that this particular photo should be printed showing both the field of view of the telescope and internal lens reflections (lower right). *Right:* Adamski with his 6-inch Tinsley reflecting telescope, to which could be attached his Ihagee plate camera.



Adamski's home at Palomar Gardens, where many of his famous photos were taken through the 6-inch portable telescope (shown at right).

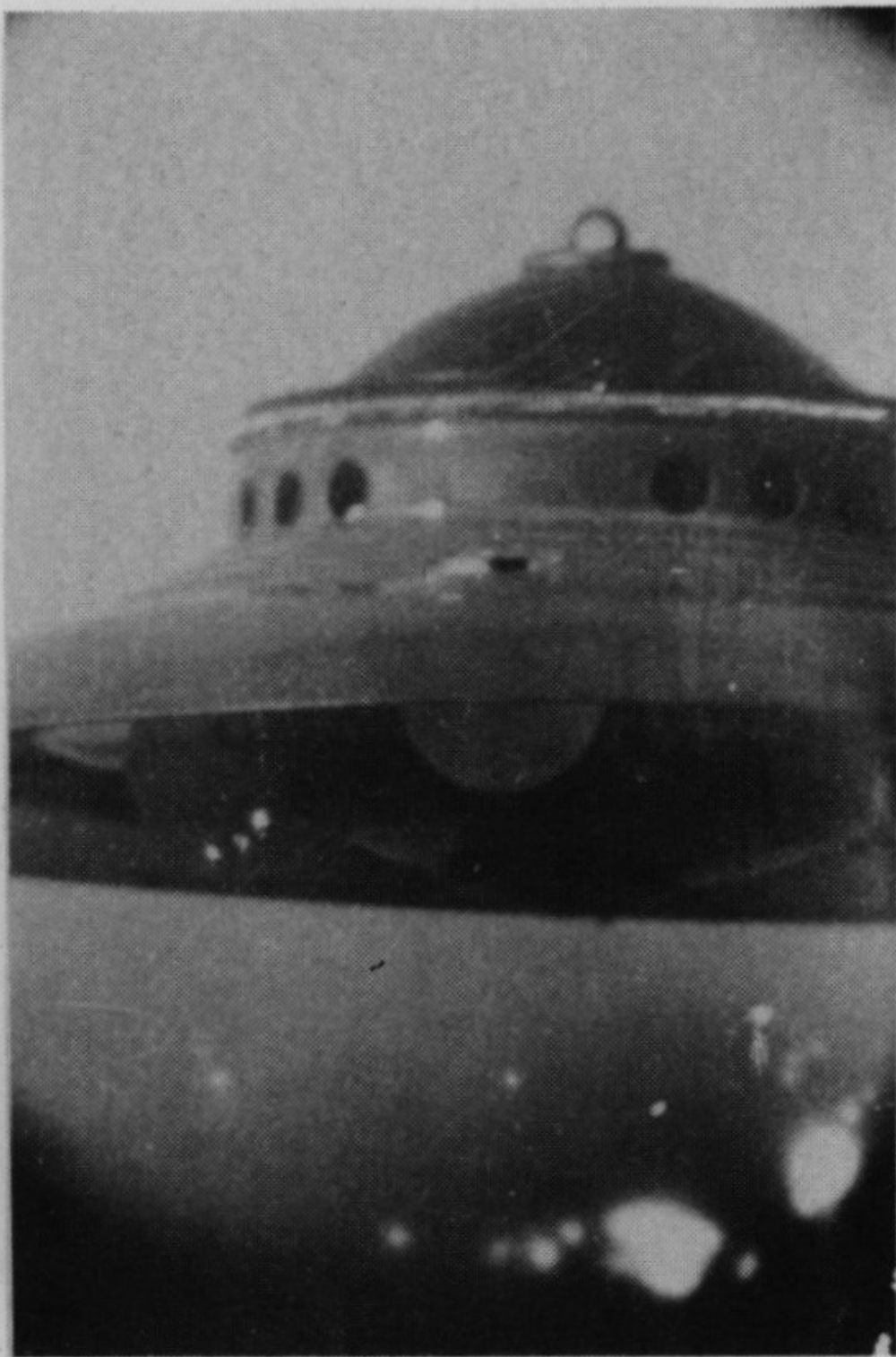


The famous photographic plate with substituted hieroglyphic symbols. *Below:* Fred Steckling (right) showing the authors where 'Orthon' dropped the photographic plate at Palomar Gardens on 13 December 1952.



Three of the six witness to the Desert Contact on 20 November 1952. *Left:* George Hunt Williamson. *Right:* Alice Wells, who died in 1980, was Adamski's closest supporter for over three decades. *Below:* Lucy McGinnis, who was Adamski's voluntary secretary for fourteen years.

GEORGE ADAMSKI FOUNDATION



GEORGE ADAMSKI
Palomar Terrace-Star Route
Valley Center, California

※ 注意: 本表係根據 1995 年 11 月 1 日之資料。

[illegible]

20

January 25, 1962

Dear Lou:

I am writing this letter in a hurry. Do you have the film of the U.F.O., that I have left for you people to use? If you do have it will you please send me the last part of it, where the three are flying in formation and the fourth one is following them from behind. They are flying towards the trees and are finally lost behind the trees in a darkened sky. The picture is almost to the end of the film. So if you have it, you would not need to send the whole film, just cut that part off and roll it in a roll, and send it to me. I could splice it on the film I have here. And after I am through I could send it back and you could replace it on your film.

I am not yet sure that I will make the World's Fair in Seattle, but if I do I want to be ready to show this picture to the thousands of people that will be there. This would do a lot of good for the U.F.O.'s. So please answer as soon as possible.

And if this should mature I could not come to Europe until fall, if all goes well. And this is the way the picture looks, I always considered this part as the best part of the Space Craft film.

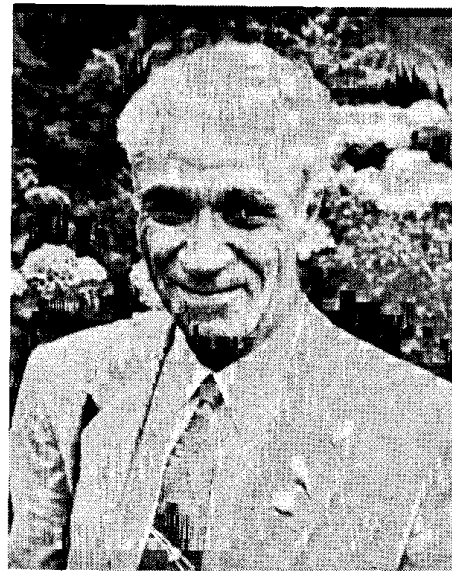


Letter to Lou Zinsstag from Adamski, with a quick sketch.

22



23



Two faces of Adamski. *Left:* A sombre picture taken sometime in the Fifties. *Right:* In New Zealand during the 1959 world tour.

30



NOVOSTI

31



TIMOTHY GOOD 1979

The first photograph of the surface of Venus, taken by the Russian Venera 9 in October 1975. *Left:* Kelvin Rowe, who claims to have seen Adamski on board one of the large 'mother ships'.

27

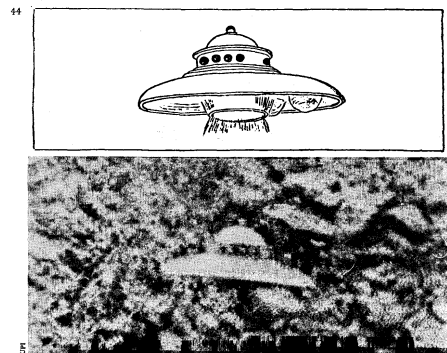


An early telescopic photo of the Gassendi crater on the Moon, with a contrast-heightened picture shown below. Are these grooves merely caused by bygone seismic activity, or could they be artificial?





Leonard Cramp (*left*), an aeronautical designer and engineer who provided technical corroboration for the Silver Spring film, and William Sherwood (*right*), an optical physicist who analysed the film. Both are convinced of its authenticity.



Adamski-type UFO photographed by architect Hugo Vega 31 miles from Lima, Peru, on 19 October 1973. The drawing (*above*) is also by Vega.



The Washington Sanatorium at Takoma Park, Maryland, where Adamski died on 23 April 1965. *Below left*: Adamski's gravestone in Arlington National Cemetery. *Right*: Carol Honey, an aerospace engineer who was Adamski's chief supporter for seven years.



George Adamski (1891-1965)



Frame from 8mm movie film taken by Fred Steckling showing a formation of UFOs observed by many people aboard a train travelling between Frankfurt and Mannheim on 7 September 1966. The film was shown to over twenty officials at NASA headquarters, who ruled out reflections or natural cloud formations.

1 部

わたしはその人を知っている

個人的記憶

by Lou Zinsstag

はしがきと背景

私が故ジョージ・アダムスキーの本を書いた理由は主に 4 つある。

ある日、私の友人ティモシー Good が私の資料を見ているときに、資料の一部を発表しないことは罪だと言いだした。

第二に、UFO 研究者の若い世代が成長し、彼らにとって悪いことにジョージ・アダムスキーが奇人変人または夢想家の代名詞でしかないことを知っていた。

そしてこれら若い研究者のためと同時に、年をとった私の友人達の記憶のためでもある。

第 3 は 本と雑誌にくりかえしくりかえし掲載されるアダムスキーについてのゆがんだ不正確な記事にある。それについて私はなんらかの訂正をしたいと思う。

私の個人的な見方を支持するたくさん証拠が、私の頭の中に、私のファイルの中と同じくらいあり、同時にできるだけ公平で客観的であろうとした。

最後に それを否定する人々にさえジョージ・アダムスキーによって語られた物語の魅力を否定することは、不可能であると、思われたからだ。

あまりに多くの類似した物語が彼の時代から生まれ、多くの類似した写真が世界中でとられた。

私がまず言いたいのは 私は必ずしもジョージの物語の伝え方に同意しなかった — 1965 年にデズモンド・レスリが書いたように「彼は、あまりに一度にたくさん言おうとしすぎた。」 ..

私は盲目的に全て彼の声明と信じるわけではなかった — 彼がしたことが、たとえ私にとって明確であったとしても —

彼と私の文通記録は、この証明である — 特に初期の 16 カ月間は。

私のファイルは、彼に会いたいと思った人全てに公開しよう。

空飛ぶ円盤に対する私の関心は、1954 年に始まりました。

私は美しい 8 月の夜を決して忘れません — 私の部屋の窓から異常に澄み切った星がちりばめられた空を見て考えにふけたとき、心を占めていたことは読み終わったドナルドキーホーの **Flying Saucers from Outer Space** のことでした。

私を深くとりこにしたこの本が人生を変えることを知っていた。それを読んで世界が大きく広がったので、私は務めて頭を冷静にして、地面にしっかり立とうとしていた。

2、3 分間、私は 1 つの考えに基づいて幸福な感情に打ちのめされる危険にさらされていた。

つまるところ、我々は宇宙で一人ではない、向こうに誰かがいると。

その日から、それに関するあらゆる本を買った。レスリーとアダムスキーによる **Flying Saucers Have Landeds** はすばらしい本だったので私はすぐに両方の著者に手紙を書いた。私がもらった返事は、親しみやすく、現実的で、このときからアダムスキーのファンタジ

ックな主張に私はかかわることとなった。

ジョージと私は 10 年間完全に一致して歩いた。彼の手紙は献身的で才能のある秘書ルーシーMcGinnis によってたびたび書かれ、アダムスキーが最後に署名していた。

.1957 年に彼は世界に知らせる活動に私が参加するように誘った、彼のコーワーカーとして私の故郷スイス代表に選ばれた。

皆に知らせ、我々のサークルを大きくするこのプログラムは『スペース人々』によって推薦された最高的手段だと、彼は書いた。私は喜んでこの作業を引き受け、アダムスキーのために特権的に働くことと思った。

彼は我々にこのプログラムの参加者のリストを送った、そして、非常にすぐに、私には世界中にペンフレンドをつくった。:

オーストラリア、オーストリア、ブラジル、デンマーク、イングランド、フランス、メキシコ、ニュージーランドとポーランドで。

我々全てはアダムスキーへの自分の手紙と彼が全てのコーワーカーに送った手紙のコピーを互いに交換しあった。秘書の遅い仕事をその時占有するより、むしろ多くの時間節約するこの関係に私は参加してとても楽しんだ。

私は、イングランドに私の最高の通信員を見つけた。

Flying Saucer Review4 の記事は、熱心に待たれた。(ロンドンで発行された)

私は休みに、出来るかぎりイングランドを訪問した。

私の最初の訪問の 1 つはスタッフォードの近くの **Ranton** のジェシーRoostenberg 夫人のページで、私の友人の **Beryl Fret** を連れていった。

驚くべき目撃は 1954 年 10 月 21 日に起きた一彼女と子供を驚かした、その時のことを後になっても考えるような、忘れられない素晴らしい経験をした。

Gavin ギボンの本、**Space ShipssComing** に彼女の経験は、次のように書かれた。:

「その物体のあらゆる細部を確認できるほど低空で.それはまばゆく光った。

彼らは、ディスクの上の一部は回転し、下部は静止していた、うえにアルミニウム色のディスクドーム見ることができ、正面はアルミニウム色をバックにした 2 枚の透明になった鏡のようなパネルからなっていた。

ジェシーRoostenberg は一瞬はその透明な鏡のようなパネルを通して 2 人の人がいるのを見た。

彼らは、下からよく見えるように、わずかに円盤を傾けこの角度から黙って彼女を見た。、彼らは白い皮膚と肩までの長い髪をもち、全く地球人のように見えたことを覚えている。額は顔の半分ぐらいあってとても高かった。

頭には、ある種の透明なヘルメットのように見えるものをかぶって、スキースーツに似た青いトルコ石の色の服を着ていたのを Roostenberg 夫人は見た。

しかし、地面で見ていた小さなグループの全てに最も奇妙に見えたことは、宇宙からの男の顔の厳粛な表情であった。

厳しく、彼らは Roestenberg の家族を親愛感とほとんどあわれみをもって見下ろし、みつめた。

「我々が Roestenberg 夫人と彼女の家族とともに過ごした午後は、最も印象的だった。私は、20 年以上後に BBC TV ドキュメンタリーの中で、再び彼女に会ってうれしかった。彼女の物語はイギリスで最も納得のいくものの一つである、そして、船の中の男の彼女の記述はアダムスキーのものとはかなり一致する。

私は Waveney Girvan と文通し始めた。そして、彼は 1960 年 Flying Saucer Review の編集者になった。

1955 年に最初に発刊されたこの雑誌は、刺激的で挑戦的であった。

Waveney は、他の物語を伝える以外に、円盤の写真を撮った人々に私を会わせた。

私は、こうして UFO 写真の私の大きなコレクションの基盤を作ることができた。

後に、私は、John Lade に会った、

彼は、60 年代初期までグレートブリテンのアダムスキーのコーワーカーで、今日まで FSR の責任者である。

Waveneyのおかげで、私は世界の 6ヶ国語の UFO 報告の関係書類を集め始めた。そして、現在 26 巻に達した。

これはティモシー Good と私が見つけた、この本のための多くの所有者不明の発掘資料はアダムスキーの出版した本と私のファイルのなかの彼の親書を立証した。

しかし、私の回想を書く前に、私自身についてももう少し言わせてください。

第一次世界大戦の前にスイスで Baste の都市で生まれ、旧来の規範に従属するけれども、私はよい身内とともに、元気で生き生きした活動でいっぱい成長する運命をもった。

私の母の家族は古い清教徒的なブルジョワでその仲間は彼らの 16 世紀以来の市民権を誇りにしていた。

私の父の家族は、第 19 の世紀の中ごろに南ドイツから Baste まで来た。

私の父は宝石商だったが、ハートは音楽の中にあった。

彼の子供時代は、豊かな芸術的関心と、劇場とコンサートで過ごす機会をもった。

才能ある母の演劇とピアノのレッスンで、詩を暗唱し、物語を話す力を養った。

私は地方の女子校でよき古典的な教育を受けた。そこでは 10 才からフランス語とラテン語の文法と構文を研究しなければならなかった。

私は最初、これが嫌だったが、すぐに好きになった、そして、熱心な言語学の学生になった。

しかし、数学と幾何の分野で完全に失敗して、大学で、文献学的研究（私の一番秘められた願い）を続けることは出来なかった。

この重苦しい挫折は、大きな影響を残した。

20 歳の知的な心を持つ少女に、秘書の仕事以外に残された選択は、ほとんどなかった。

スイスのビジネス企業で、女の子に本当の昇進チャンスなどほとんどないことを考えると

期待外れの職業につくことは願い下げにしたかった。

このようなわけで、私の部屋の中のもう一つ別の本棚の世界を理解する喜び、つまり外国語の更なる研究に断固転換した。

30年代のナチのドイツの最善の作家の発禁処分という突然の強烈な出来事によって、ドイツの文学の品質は落ち、私は英国とアメリカの本に関心がむかった。

すぐに、私は英語に恋をして倒れた。詩的でしなやかな語彙と、そのシンタックスの可能性が素晴らしく思えた。

私は夜通し読んだ。それは、私の幼年時代からの習慣が成長しただけであった。私はすぐに大好きな英国の著者に手紙を書き始めた。このようにして多くの面白くて素敵なパーソナリティと接触した。50年代になると特に、UFO問題に私の関心は集中した。

これは、私の人生での転換点であった。そこから知的でしかもエモーショナルな人生が始まったのだった。

私の世界は、いままで会った多くのペンフレンドでいっぱいだった。

素晴らしい友情と活動的な人間関係がつくられた。最も多くのものはジョージ・アダムスキーと私の関係のなかから生まれた。

「ジョージ・アダムスキーは1891年4月17日にポーランドで生まれ、2才で、彼の両親はニューヨーク州 Dunkirk に移住した。

彼の両親は深く宗教的だった、そして、両親から、少年はいろいろな自然の驚異と尊敬を学んだ。

短い正規の学校教育期間の後、彼は個人教授に教わった。

彼は、徐々に人間と自然法則に完全に反するような出来事に引きつけられていった。

1913年に、アダムスキーはメキシコの国境の第13騎兵連隊に入隊した。

[彼の墓石碑銘写真 46 参照。

1919 5月に立派に兵役を終了した。

1917年に、彼はメアリーA. Shimbersky と結婚した。彼女は、1954に死んだ。

彼の人生を宇宙法則を教えることに捧げようと定めたとき、アダムスキーはほぼ40歳であった。

彼のトーク番組は、KFOX ロングビーチというラジオ放送局と KlvPC ロサンゼルスというラジオ放送局にあった。

何人かの学生と共に Palomar 山の斜面に16-インチと15インチの望遠鏡を設置して、天文学に関して鋭い興味をもった。

1946年の流星群の間、Adamski とたくさんの友人は、比較的近くに静止した大きい葉巻き型の宇宙船を観察して、UFO に対する興味がひきおこされた。

「これは私のファイルの中の、Adamski の人生の初期に手作りでプリントされたり、雑誌に発表された記事の全てである。私はこれが誰によって書かれたものかもはや覚えていない。しかし、私は2、3の詳しい補足をジョージ自身と最も親しい友人（例えばデズモンド・

レスリー) との関係から付け加えることができる。

またシャーロットプロジェクト **Blodget** が **Inside The Space Ships** にかいた貴重な伝記略歴がある。

私は、たびたびアダムスキーの伝記で言われる『個人教授』を不思議に思ってきた。

彼が子供のとき、両親は貧しかったので、彼は、個人の家庭教師をもつ余裕はなかったと私に言った。

私は少年がチベットのグループと関係がある先生または指導者によって授業を楽しんで受けたと思う。これで、その後、1930 年代にラグーナビーチ (カリフォルニア) に『チベットの王の法典』という修道院を創立したのだと思う。(図 2 参照)

1979 年 6 月に、フレッドステックリング **Steckling** は、**Cosmic Bulletin** に書いた：

「教授または先生としての資格は、チベットの修道院にある宇宙法則を教える最も高い学校の卒業生に与えられた。

ここでは、6 年間の出席の後、卒業した。「しかし、ティモシー **Good** は第 1 章 8 で) このことを質問した。

そして、『チベットの王の法典』へのアダムスキーの固執が最近までかなりの誤解を引き起こしたことは事実である。

『これで円盤の全分野を整理し、カバーできる』と彼が書いたので逆に一部のグループの自己弁護に使われた。

ドナルド **Keyhoe** とアダムスキーは — 空飛ぶ円盤の真実にふたをしてそれを、突飛な神秘的宗教と思わせる勢力のことを「サイレンスグループ」と呼んだ最初のうちの 1 人であったアダムスキーが世界的な宗教を創立することは本当に簡単でした、しかし、こうしたことを決してしなかったことをみんな知っています。

職業または生活手段について尋ねられると、パロマ山に住む前の数年間、ニューメキシコ、アリゾナとカリフォルニアで、哲学と天文学についての講義をして人気をよんだと答えました —

:彼は自分のことを流浪する人と言った

農夫は冬の間、何も持たずに、先生を訪問し会うことをよろこんでいました。

「TV などなかったし、どんなたぐいの娯楽もなかったので、講義はとても喜ばれたと彼は言いました。また夏の間、パロマ山の下のミセス、アリス、ウェルズの小さなカフェテリアを彼と妻のメアリーが手伝いました。

そこでの夕方、彼は講義をし、時々大勢の人々がやってきました。

これらの講義の多くは、放送されました。

生計を立てるために、彼と妻は、喫茶店で、暖かい飲物、やアイスクリーム、ハンバーガーを出す仕事にしたと、アダムスキーが私に話しました。

私には、民主主義の国で、この事実が、非常にイメージを悪くした理由がわかりません。ジョージは私に、聖職者の弟がいて、弟が訪れてきたときはいつも、たくさん議論をした

と話しました —

ジョージの妻メアリー（信心深いカソリックである）は、夫がとった 危険な活動をたびたび心配し、そのために不幸であった。そして、彼女はかつて、コンタクトをやめて、もうそのことについて書かないよう頼みました —。

、彼女の必死の懇願を聞いても、それでも立ち止まることはできなかつたと、彼は言いました。

40 年代と 50 年代の、アダムスキーの楽しみは彼の 6 インチの望遠鏡でした。それは彼の学生からの贈り物でした。

極端に寒い天気の日以外は、彼は野外の望遠鏡のそばのハンモックで夜を過ごし、その期間に多くの最高の写真をとりました —

彼は、友人と、様々な、中には軍関係者と科学者もいた喫茶店の客にこの写真を見せました。

この 1948 と 1952 の間にとられた多くの写真は、彼のペンフレンドへのプレゼントとして私自身を含む世界の至る所に送られました。

全て、裏側に、時間、日付、場所を証明した、スタンプがおしてありました。そして最も重要な言葉は『6 インチ望遠鏡でこの写真は撮られた』と書かれていることです。（写真 7a）話の中で、彼はどのように古いカメラからレンズを取り外し、望遠鏡ととり代えたか説明するのが好きだった。写真の裏側にかかれたデーターのスタンプ—これは たびたび後で価値があることを証明した — — —例えば私のいとこのカール Gustav ユングにチューリッヒ（第 5 章）でこれを見せたときにその価値が現われた。

しかし 1 つ例外が、ありました。{『オーソン』（彼が会った最初の宇宙人）の絵の写真の裏には明らかに彼が男の写真でなく単に油絵の写真であると書いた筆跡が認められる。

「Flying Saucers Have Landed」が書かれた際、オーソンの絵はアリス・ウェルズによって描かれました。

1959 年に アダムスキーと私が 2 人だけで一緒に座ったとき、私は絵の男性が非常に女性的でほとんど男女の区別のつかない特徴で描かれているのが好きだと話しました。

私は高い知性と精神性を強調していると本に書かれているように、この絵に描かれているように感じた。と私が聞くと、ジョージの目は輝き、非常に表現豊かに微笑みました。彼は答えて：「あなたは、良いヒントをここで見つけた。

実際のオーソンは、まったくこのように見えなかった。

彼は非常に男らしくて、とても知的な顔をしていた、しかし、特徴がそれほどはっきりしていたので、これを明らかにすることは危険だった。

彼は、何度かロサンゼルスにいた。

そして、私が大変驚いたのは、ジョージが彼のポケットの小さな財布のなかからオーソンの顔の写真を出してほんのすこしそれを見たときです。

それは、本当に絵に描かれたものと全く違っていました

アダムスキーが本の出版と講演でたくさんお金を儲けたと広く信じられていたが、これが逆に全くの嘘であること私は知っていた

ベストセラーの「**Flying Saucers Have Landed** 空飛ぶ円盤は着陸した」はデズモンド・レスリーと共同執筆されました、そして、アダムスキーの書いた部分は **55** ページだけでした。

グレイ・バーカーの『ジョージ・アダムスキーへの敬意』で無料で彼の絵がレスリーにプレゼントされたと証言した。

「なんと傑出した人か」、とデズモンドは書きました、「彼は、古今で最も価値のある絵を所持しながら、お金を要求しなかった。」彼は手紙でお金を要求したことはなかった。

彼はコーワーカーに、財政的な援助を求めるという考えはありませんでした。

おおむね、戦争の後の、**50** 年代の貧乏な我々ヨーロッパ人には、自由にドルを使って、人生を楽しむ金持ちでのんきなアメリカ人のイメージが、まだありました。

1958年に ルーシーMcGinnis が我々に次のように書いてきたとき、非常に驚きました。—：

「あなたは **GA** の個人の財政状況への理解を持たなければならないと思います。

どんな人でも、生計を立てなければなりません。

本の販売からの収入は、生活費をカバーしません。

かたわらでやっている **GA** の仕事の経済的貢献は、とてもささやかなものです。

ボランティアの事務員の複雑な仕事は、苦痛だけです。

それでも、多くの仕事が行われるためには経済的援助が必要なのです。

GA の周遊の間も、我々の自宅の出費は続きます。

資金がどこからも来ない限り、**GA** の現在あるお金はほとんど **1** 年でなくなるでしょう。

(**1959** 年の旅行のこと—**LZ**)。

その場合、我々は毎日の生活で必要なお金を外の仕事で確保しなければならないのです

これは おのずから重要な仕事の不履行を意味します。参加者が増えれば、仕事が膨れ上がって資金も余計かかることになるのです。

参加している誰もがこれを読んでとても、申し訳なく思いました。もちろんその時から、誰もが可能なだけの、定期的寄付によって援助することになりました。

しかし、財政的困難は生涯ずっと続いたと私は確信しています。

2 章

砂漠での出会

1952 年 11 月 20 日、アダムスキーがカリフォルニアの砂漠で宇宙人と最初に出会ったかどうか調べることは重要である。

後で起こったことには関係なく、この出来事の肯定するか、または否定するかに問題の核心がある。

これを暗黙のうちに受け入れる人々は、世界の概念がその日から変わったと言っている。私の知る限り、他の 6 人によって目撃され、法的に証言した唯一のコンタクト事件であった。この問題に興味がある人は 25 年以上たった今では、似たような多くの話しがあったことを知っている。しかし、アダムスキーのケースは異常によく証明されている。

この『宇宙からの』訪問客は、着陸し、コンタクトしなければならないため、しばらくの間、空を飛んで、空から偵察したというのが、論理的で整合的にみえる。

だがまだ額面どおり Adamskiy の話を信用しない多くの UFO 研究者がいる。

最初のコンタクトが、ホワイトハウス、クレムリンまたはバッキンガム宮殿の高官ではなく、多数の、明確な政治的分別のない普通の純真な市民だったという事実が最初の問題がある。

もう一つの大きな反対理由は宇宙人が、我々と同じ種類の人間であったとアダムスキーがいったことにある。

今日（ロボットなどの）多くの怪物との奇怪な遭遇事件の知識でこれを考えると、この我々の時代に初めて公表された宇宙人との最初のコンタクトが、2 人の類似した人間との間に起きた事実にとっても感謝しなければならない、それはある目的のもとづいて起こったのだ。

「人間の形態をしていたことは、その目的に非常にふさわしい」と、疑惑を抱く人にしばしばアダムスキーは言った。

「なぜ、他の惑星も類似した状況だと思ってはいけないのか？」

本当に、不思議に思うのは証明され保証されたアダムスキーの物語がなぜ全てのコンタクトの中で最も嘲笑されいまだに意地悪く攻撃されなければならないのかということである。ピーターコロシモの本「Not of this World」に以下の一節を見る：

「彼の想像は子供じみていて、人が悪い SF 漫画と呼ぶかもしれないほど、想像力の傑作である。

すでに死んだ我々の友人が書いた本の効果は、洗練されない読者の頭を動揺させるのに十分強烈だ。

アダムスキーはパロマ山の下の彼のスナックから出かけて空飛ぶ円盤の写真を撮ったというところに注目すべきだ。fSo アダムスキーの発表された写真は自宅でとったので、ピー

ターKolosimo のこの文章はアダムスキーの本を読んでいない証拠だー著者注 LZJ。

彼は、空の円盤の写真を撮って、
驚いて好奇心でいっぱいの市民に、
金星人が、地元のソーセージメーカーから新しい種類のオードブルを売ることになった。」
と彼が言う

そして、常に攻撃者の中で重要な位置を占めていたのは最も著名で影響力があるドナルド Keyhoe であった

しかし、この分野で勇敢な騎士であり一番の権威者でもあった彼の本を私は高く評価している。始めから私はそう評価していた。

私の有名なこの C. G. ユングと、ドナルド Keyhoe の評価は一致していた、
ユングが死んで数年後、Keyhoe は「Allens from Space」という本のなかでユングからの手紙を発表した

「私は、あなたが UFO 現実の厄介な問題を解明するための全ての勇敢な行動に感謝する。
[アメリカの空軍または政府は物語の事実を留保したことが真実ならば、これは人間が考えた中で、最も人間心理を無視したばかな政策だ。
うわさを増幅させるのに無知より大きなものは何もない。
社会では真実のみが語られねばならないことは、自明である。

「私は Keyhoe の仕事に同じように感謝している、しかし、同時に、Keyhoe が UFO 調査に大きな被害を与えたと付け加えなければならない。

キーホーが本を書いたとき、Waveney Girvan は同じものを感じた：(Flying Saucer Review の編集者、最近作家)

「我々は、ドナルド Keyhoe やその他の作家がこの問題からアダムスキーと他のコンタクティを排除することに成功するならば、円盤問題はその暗黒の日々に戻り、真実が出てくるまで『とても長い時間がかかることになるだろう。』

これは、予言的な声明であった。

Girvan は、続く：

「私は Adamski のストーリーが真実であって欲しいと思う。なぜならたとえ他の者がいても、彼なしでは、円盤問題は崩壊しまたは人々の関心がゆっくりと衰え離れてゆく。

私はドナルド Keyhoe がアダムスキーを信じないから、間違っていると思うのではなくアダムスキーなしのほうがより健康的だと考えるその姿勢に、問題を感じている。

「有罪と判決する多くの人々が彼の最初の 55 ページの本さえ読まないことをアダムスキーの支持者はよく知っている、さもなければ、多くの UFO に関する本と記事に不正確で間違った引用がいつまでも生じることはないだろう。

アダムスキーが長髪の金星人を書いたことは、笑い疑惑を引き起こした。

1952 年に、長髪の人アメリカに多くはいなかったが、どこででも見かける今日、誰もこれを笑わないだろう。

私にとって、彼の書いた宇宙からの訪問者の服は、より興味をそそった。

アダムスキーは、書いた：

「ジッパー、ボタン、ファスナーまたはいかなる種類のポケットもなく、衣服の縫い目には気がつかなかった。

服がどのように作られたかは、私には神秘である。

。「4、こうした多くの類似した記述がコンタクトした人からあったと手紙に書いてきた。

そして、私はまた、彼らがどのようにこの宇宙服を地球で着用したか疑問に思う！

12月13日、デザートセンターでのコンタクトの23日後、Orthonの宇宙船がアダムスキーのPalomar Gardensの家の上を低く飛び鮮明な写真を彼の6インチの望遠鏡（プレート7/8）によってとることを可能にした。

もう一人の証人は、10月からPalomarにいたアメリカ空軍の教官のジェロルド・バーカー軍曹である。

両人は、Palomar近郊の砂漠でのコンタクト以降、多くの近くを飛ぶ軍の航空機を観察して、異なる場所でUFOが出現することを予想した一。

12月13日、彼らは幸運だった、そして、グレイ・バーカーの「アダムスキーの本」で、バーカーの誓った声明が発表された。そして、それは次のように書かれた：

「土曜日の朝私が暖炉のためのたき木をのこぎりで切る間、アダムスキーが私に電話をかけてきて、海岸から円盤が飛んで来ると言うと言った。

私はいそいで揚水ポンプの丘にいき、大きい木のそばで10分ぐらい見上げて待った、しかし、何も起こらなかった。

突然、私の視覚の角に円形の物体が（アダムスキーが住んでいた地域のこずえの上の位置をかすめてとんでいった。

それは、空飛ぶ円盤であった一 私にはわかった。

私は、とても低い高度のため、真剣に小さな畑に激突するところだと思った。

それがどんどん接近してきたので衝撃のためにぼうぜんと立ち尽くしていた。

空中での高さは12フィート以上はなかった

私が立っていたところから最高でもおよそ25フィートであった。

私が写真を撮るために待ちかまえたことをまるで知っていたかのようにみえた。

私はす速くシャッターをおした、そのとき、わずかに傾いて、誰もが想像する以上の、速さで、木の上に急上昇した。もう一枚写真を撮ろうと思って木の後ろに飛ぶようにはしっていたが、スピードをあげたその小さな物体はPalomar山の方へ飛び去っていくのがみえただけだ

ベテランの研究者ジェームズ・モーズリーによると、バーカーは1954年6月29日付の手紙でこのことを否定した。そして、言った：

「疑われているが、私はこの写真をとってない。」私はこれを信じていない。

多分、バーカーは確言した事を撤回するよう空軍によって圧力をかけられたのだろう。

もちろん写真は誰かが偽造したものだったとあったが、他の人は納得していない。

確かに、円盤の様子はぼんやりしているがベーカーは非常に遅いシャッター速度だけあるコダック・ブローニー・カメラを使っていた。

宇宙船が消えさる前に、アダムスキーからおおよそ 100 フィートの範囲内に浮かんで、舷窓のうちの 1 つがわずかに開いて、手が伸び、デザートセンターでの Orthon とのコンタクトで、アダムスキーから受けとったフィルムホルダーが地面に落とされた。

後で写真のフィルムが現像すると、オーソンの足跡（写真 11）に似たシンボルに変えられたのが発見された。

足跡とフィルムのシンボルの両方のセットはアダムスキーの **Flying Saucers Have Landed** の中で発表された、そして、世界中の何百もの人々はこれを解読しようとした。

1955 年に、チューリッヒからの Ragaz 氏はアダムスキーと文通した。そして、解明を可能にする鍵が秘教的な領域にあるのかと聞いた。

アダムスキーは、返事をした：

「いいえ、残念だが、写真の記号を霊的に解釈するドイツの方法は全く間違っている。現在の私が言えることは、話すことが許されていない個人的メッセージだということである。

少し真実に近づいたのは 2 人の人間だけである、彼らは科学者ではない。

しかし、彼らの仕事は、私がメッセージを公開するには完全なものではなかった。」

アダムスキーが 1959 年にヨーロッパに来たとき、状況は変わったようだった。彼と一緒に持ってきたフィルムの最初の 1 枚は、記号的パターンを扱っていた。

彼は、メッセージを解読するのに最も接近した 2 人はある点までは成功したと言った。

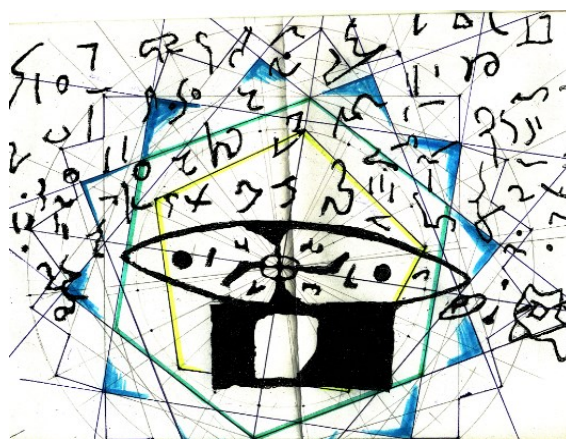
彼らのうちの 1 人（南アフリカの人）は、小さな作動するモデルを造りさえた。

アダムスキーのフィルムは、この作動原理の 1 面を示した。アダムスキーは、足跡とフィルムの両方の記号的パターンは自然の技術的なメッセージを意味しているときわめて明確に強調した。一種の暗号システムで、超自然的なメッセージはこの記号の背後にないと強く言った。

「これらの記号の全ての技術的な解釈は、まちがっている」と、私は彼が言ったのを覚えている。

不思議な公式を得たと主張した男は、ヨハネスバーグのエンジニア (Basil バンデンバーグ) であった。

Flying Saucer Review の通信員フィリップ J. Human、は南アフリカでこの問題を探求し



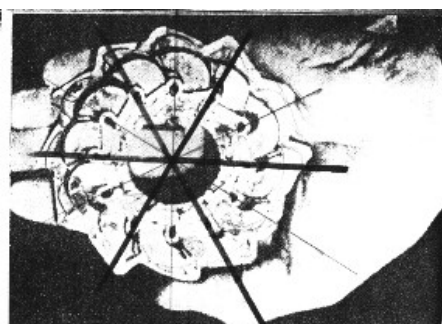
たパイオニアだが 1962 年 8 月、彼を訪問した。

バンデンバーグは彼に会うときふくらんだフォルダと Human に見せるために奇妙な装置を持ってきた。

それは、彼がアダムスキーのシンボルを解説して発明した装置である。そして、1962 年 9 月/10 月の FSR の写真が問題のモーターの部分であった。

「それは、鋼でできているようだった、
そして、私は、その重さに注目して、それが生きているようだとやった。
彼は微笑んで言った、それが生きていると気づいてくれてうれしい。ほら、磁石がここにある』

バンデンバーグは本当に、地球の重力をキャンセルする問題を解決し、空飛ぶ円盤で使われたものに似た 2 台の異なるタイプの電気モーターを発明したといった。1962 年 4 月 1 日彼は南アフリカの新聞、Die Suid Afrikaans Stem、に彼の発明に関する記事を発表し、彼のモーターで「航空機には、もはや全く燃料が必要なくなってしまう、革命となるだろう』と書いた。



『アダムスキー自身は発明を決して見なかった。
バンデンバーグは、フィリップヒューマンに話した
空飛ぶ円盤は着陸したを読んだあと、本の写真が不鮮明なのでアダムスキーに写真原版的な良いコピーを送ることを手紙でたのんだ、
密接に、写真を調べるとき、彼はシンボルが in several dimensions いくつかの寸法で引かれたように見えることがわかって驚いた。
彼が強力な拡大鏡を通して、見ることで、葉巻型円盤の技術の概要と同様にモーターの詳細な技術を理解した。
年が経ち、推進力のためと地球の重力を克服するために彼は 2 つの異なるタイプのモーターの青写真を作った。

初めは信じられなかったが、バンデンバーグが、フィリップ Human に何百もの技術的な図面と数学的な公式のファイルを見せたとき、非常に感じるものがあつた。Van デンバーグはインタビューの終わりに彼の客に心を開いて、仕事が幾度も暗礁に入り込んで落胆し、落ち込んだまさにその時、金星人は彼を訪れ助けにきたと話した。！

1962 の Flying Saucer Review でバジル・バンデンバーグは、技術的なことは秘密にしたまま、彼の発明に関する記事を発表した。最後の一節は次のように書かれている：

「私の狙いは、アダムスキーが本物であり、シンボルが地球のものではないことを全の人たちに証明することである。

私は、シンボルに言及せずに、私の発明として、簡単に請求できたが、こうすることによって、アダムスキー1人だけでなく地球上の多くの魂がより賢明になるだろう」

Waveney Girvan は次の社説を書いた：

「我々がバンデンバーグのコンタクトの話と疑惑を持たれている発見を公表したのは、このバンデンバーグの書いた方針に従ってのことである。。

読者のうちの 1 人が彼の設計で工場を設置すると申し出たので、我々は、遠くに住む彼をイングランドに招待した。

たとえどんな結果になっても、我々は謝罪しないし、傍観する準備はできている。

我々はもししたら真実にたどり着けるのだろうか？バンデンバーグは、イングランドを訪問した後にアダムスキーに会うためにアメリカ合衆国に行く予定だった。

両方の国で、科学者グループの立ち会いのもとにインタビューが予定されていたが、多分彼らはこなかっただろう。

再び誰もバンデンバーグから便りさえもらわなかった。ティモシーグッドは 1981 年 1 月 1 日に南アフリカを訪れ、静かな郊外までバンデンバーグを追跡した。そのとき彼は、ヨハネスバーグの地域で生きていたが、会うことはできなかった。

それは、1965 年 4 月に発行された、アダムスキーの最後の会報に掲載された記事であった。これが私にはバンデンバーグが死ぬまで秘密にされるような、この興味をそそる物語のエピローグだとわかった

それは講演とそれに続く議論の記録であった。そのとき、アダムスキーはバンデンバーグについての疑問に答えた：

「...毎日働いて 10 年後、彼はついにモーターを作りあげた..

それから、全てのリポーターは操作しモーターが動くのを見、そして、アフリカの新聞はこの話を発表した。

私はその時彼に、これは馬鹿なやり方だと言った。

成功したら、それを公表するな。

およそ 10 か 12 のよくできた青写真を作り、そうしたいなら、すべての特許権をとって、世界の 1 2 の違う場所に持っていきなさい。

これで、彼らがあなたを拘禁しても、他の人がそれを持つ。

彼らは全てを見つけ出せない、最後には、世界が中の人々がそれを持つようになる。

彼はそうしなかった。

彼は、『飛び出して失敗した。』

ロンドンの Flying Saucer Review と同じように、アフリカの新聞は他の書くべきことを拾って書いた。

最後に、メキシコの政府は、彼に財政的に必要な金額の全てと、研究所を与えようとした；非常に電気を必要としていたので、メキシコに来て開発することを願っていた。

Waveney Girvan は、私に手紙を書いてきた：

『ある政府がこの機械の開発を希望するので、彼はロンドンにくることをしり込みしている。バンデンバーグ氏がロンドンに来るよう、あなたは説得できないだろう。

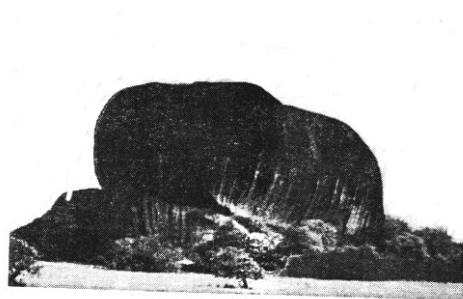
私はヨハネスバークと他の場所の人々に手紙を書いた、しかし、誰も何が彼に起こったか知らなかった。しかし彼は写真のモーターを作ったことは確かである。

「アダムスキーがブラジルに住んでいたフランスの考古学者 Marcel F. Homet オメ教授の本について知ったのは 1959 年であった。

アダムスキーが私のマンションの部屋に来たとき、フランスの原書がドイツ語に翻訳されて、ちょうど、本棚にあった。

そのタイトルは太陽の息子達 *Shne der Sonne*. 8 であった。そして、この本にはブラジルの古い岩に刻まれてあったものを採取した、何枚かの記号的な図面があった。その幾つかはアダムスキーのネガの中のものと全く同じだった。ジョージは驚いた。

彼の 3 番目の本 (*Flying Saucers Farewell*) で、彼は論評した：



ペドラ・ピントダの全景



「ほとんどの場合、何世紀か経過することで記録が消失するか、故意に破壊されてしまった地球で、これによって惑星間コミュニケーションがあった事実と古代の文明との関係というもう一つ別のリンクが付け加えられた。」

「これらは宇宙の友人が話した何百万年もさかのぼって我々の文明のシステムと彼らの惑星を取り囲むあらゆる惑星の歴史の記録を持っているという記事を私に思い出させた。

同じ本で、アダムスキーは類似したシンボルに関してもう一つの物語を持った。

1956 年に、スペインから手紙を受け取ったことを彼は書いた。その手紙で彼は宇宙人と個人的に会ったが、アダムスキーが砂漠で会ったのと同じ人でかどうか質問してきた。

訪問者は、スペイン人には見慣れないキャラクタの彫刻が施された美しい奇妙な石を与えた。

手紙にいらてあった石の写真は (写真 13)、シンボルがアダムスキーがもらったものに似ていた。

スペイン人の名前はアルベルト Sanmartin である。彼は今、ブラジルのサンパウロに住んでいる。

A Pedra, Espafa Sanmartin は 1978 年に出版された彼の書の中で

1954 年 11 月に彼に石を渡した男は金星から来たと話したと書いた。。

1963 年 5 月 10 日、アダムスキーと私が講演の間の、コーヒー・ブレイクの時ズボンのポケットから柔らかい絹布で包まれた石を取り出して、私に見せた。

「これは、金星の石だ」、と楽しげに微笑んで彼は言った。

私は、手にそれをとって見た。

それは鋭い角や穴のない表面が柔らかくに丸くなった、例えば透明な水晶のような結晶で、その表面は、何か溝のようなものが不規則にけずられ、ほられていた。長さおよそ 3—4 インチ、厚さ 2—3 インチの小石である。

私の手の上に載せたときの重さはちょうど、水晶の石のようであった。それは確かにプラスチックではなかった。

ジョージは、彼の友人からそれをもらったという以外何もいわなかった。

ティモシー Good、は 2 枚の手紙を見つけた。それは 1952 年 11 月の Orthon とアダムスキーのコンタクトとも関係する奇妙な二番目のエピソードを思い出させた。

1962 年 9 月 17 日 : Waveney Girvan から私への最初の手紙 :

House,Dogmersfield,basingstoke,nants. 17 ix 62

親愛なる Lou. ツインタグ

写真をありがとう。

あなたの質問に、雑誌は答えたでしょうか。

こちらの活動は、本当に非常に大きなものになっている — 特に the Sheffield に関して。

こちらの新聞の編集者は、このことに関して年頭に、2000 語書くよう、私に頼んできた —

私は、空飛ぶ円盤について、この分野に興味を持つ人たちと市民に真実を言うことが出来る —

目撃は、毎週続き、さらに続いている。

この記事の結果、私が働いているオフィスの同僚の女性編集者センセーショナルな話を伝えるために私に接近した。(我々の重要な新聞のうちの 1 つ)

私がこの問題に興味があることを彼女はこれまでしなかった。

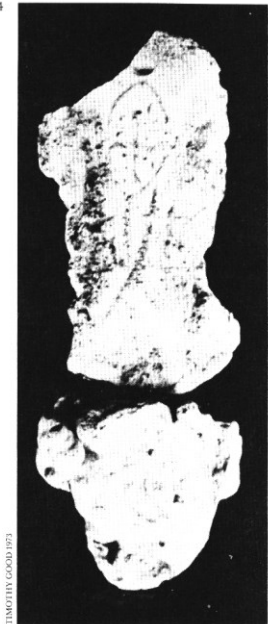
彼女は私に話した、彼女の兄弟は我国で有名な航空機会社の 1 つで重要な専門家であった！

5 年前、彼は産業界の同僚の何人かと着陸した UFO とその操縦士に会って調査するためにアメリカ合衆

13



14



Left: Stone given to contactee Alberto Sanmartin in 1954, depicting similar symbols. The upper horizontal line is a fracture. Large sections of the back were given to various authorities, including Dr Allen Hynek. The measurements are 12 x 4 x 2 cms. Right: One of the plaster casts of Orthon's footprints, in the possession of Desmond Leslie.

国に招待された。

彼は行った、そして、その操縦士は G.A.が述べた宇宙人と正確に同じであった。

彼はテレパシーによって情報交換し、集まった人々に宇宙からやって来たのだと話した。

言葉を換えると私は、G.A*が真実を言ったことを確認した。

そしてバンデンバーグが、このあとに続いた。バンデンバーグは真実を言っている、そして、彼の発明は人類の歴史のなかで最も重要なものである}

私は、当初、米国よりむしろ英国にこの人を連れてこようと数倍努力をした。

当面、私は名前を出せない — それをすると単に否定されるだけであり — これがリークされ、否定されると私のテーマが台無しにされる。

しかし、次号の FSR（フライングソーサーレビュー）を見てください。

、UFO目撃をタイムズさえ報道した』

現在我々の雑誌は、シェフィールド目撃を主要テーマにして特集記事を組もうとしている？

それはまるで火星と金星が接近して「英国へ挨拶するかのような

これが終わるのがいつか、どれほど長い時間がかかるか知らない、

しかし、突然この問題の関心は復活した。

また、ブラジルでの目撃事件が、ニュースになった。

しかし、ここで目撃された 2 回の誘拐事件は恐怖をひきおこす。 —

敬具 Waveney

アダムスキーのイギリスのコーワーカーのジョン Lade から第二の手紙がきた。

それはリチャードホール（National Investigations Aerial Phenomena 国際空中現象研究会—NICAP—の委員会の秘書）に出した彼の手紙のコピーである。（NICAP はワシントン D.C.が大元にありドナルド Keyhoe が、会長であった。）

我々は、ある男性を通して情報がリークされて知ったが、

数年前、ある特定のタイプに似た円盤を見るために、あなたの関係する国際的会議に誰が呼ばれたか話して欲しい。

操縦士（宇宙服を着た長い髪その人は、明かにアーリア民族の出身である）は科学者と航空の専門家の集まりでテレパシーで言った、そして、沈黙を通して聴衆が時々一緒に笑いブレイクし彼らがうまく受信したことをこれほど証明するのをみるのは並外れた経験であったと話した。

しかし — パイロットが起動力の技術を解説し始めたので、聴衆は力を失った

そして、存在する最も先進の科学者さえ、彼らに提供される概念にもはやついて行くことができなかった...

1963 年 3 月に私とジョン Lade はロンドンで Waveney Girvan と会った、

ジョンは、私に話した — エンジニアの姉が Waveney にこれを話したが 航空機会社のこ

のエンジニアを探しだしたいとおもっている。

彼女の兄は、米国で『正当理由による沈黙規定』に署名し再度話すことは厳禁されており明らかに、彼女も話せなくなった。4 ヶ月後、私はジョンから手紙を受け取った

彼は、私に言った

エンジニアを探し出すことに成功した

名前は、ロス・ホールであった。

7月1日彼は困難な状況でハットフィールドのデ・ハヴィランド航空機会社でインタビューをした。

ジョンは書いた：

「彼を探した理由と、この問題の真実への強い関心を彼に話し、最後に Waveney が聞いた物語が真実かどうかきいた。

最初は、彼は質問を避け、円盤に関する意見を話し始めた、彼が誠実に話していると思ったが、問題の核心に戻るために話をさえぎった。

彼は姉が嘘をいったとは言わないが、彼女が新聞社と関係があることは認めた、そして、姉が何か言ったかもしれないが、これまで地上に着陸した円盤を見たことはなく、講演も聞かないし、アメリカへの訪問はこの問題と関係がなかったといった。

分かれるとき、彼は姉に話すと言った、私は口止めするのだと思った。

「この時、ジョンは、ホール氏が実際にあったことを話したのだという印象を持ったが彼が本当のことをいうと姉を当惑させ失望させ、質問の嵐が沸き起こることに気が付いた。、ホール氏は単純な質問にはストレートに答えたが、いかがわしい何かが周囲にあるのを感じた —

そして、姉が、ホール氏について話したとき Waveney が感じた誠実さをすぐに思い出したホール氏の姉は、宇宙人のことを話した。

Waveney は、この知的女性の誠実で生き生きとした態度を私に伝えた。

その時、Waveney が知る限り、彼女は本当に困って、このテーマに非常に興味があるが、他の誰にも決して話さなかったと、言った。

もちろん報道などではしない。

もし彼女の兄が嘘をいったとすれば、たぶん彼女のオープンな心に困惑し、同様に彼女の真実への関心も知っていたからにちがいないが、たとえそうだとした場合非常にダーティなものであった。

1952年11月のコンタクトに関しては、2つのエピソード以外に、常に私を困惑させた側面があることを私は告白しなければならない

本当に、それは多くの著者がすでに書いたことである。

写真原版に見られる靴の底についた奇妙なサインによって、このコンタクトが前もってかなり準備されたものにちがいないという疑いが沸く。

多量の柔らかく十分に湿った石膏に砂漠の上で靴の印をつけることがどうやってできた

か？

そして、他の一隊がこれほどタイミングよくパリの石膏を持って来て、—— shoeprints 靴跡から型を作った事実をどのように説明できるのか？

ジェームズ・モーズリーその他に従うと、アダムスキーは正確な場所がどこにあるか知ったのは、彼に伝えられた『神秘的な伝達』によったことになっている。

もう一人の研究者レイ・スタンフォードは、George Hunt Williamson（コンタクトの 6 人の目撃者のうちの 1 人）はその日アダムスキーがどこに行くべきか、知らなかったと彼に誓ったと言う；

実際、Williamson が正確な場所を知っていた人だと彼は感じたという、そして、これはアダムスキーを有罪の判決を回避させるが、またはこのコンタクトの前に、とっくの昔に彼が宇宙人と交際があったがそうできず、後で話すことだけが許された証拠とも思える。

すべてを考慮しても、特にアダムスキーをあざ笑う研究者のファイルの中に、もっとよく証明されたコンタクトストーリーが見つけれられるか、私は本当に疑問に思う。

もしあるというなら、まだ私は読んだことがないのだ。

注

1 Not of This World. Peter Kolosimo (Souvenir Press Ltd, London1970)

2 Aliens From Space, Donald Keyhoe (Doubleday & Co. Inc, New York, 1973) ドナルド Keyhoe ダブルデイ社 Inc、ニューヨーク

3 FSR Vol 6 No 6, 1960

4 Flying Saucers Have Landed, pl96

5 Die Suid-Afrikaans Stem, 1962 年 4 月 29 日

6 FSR Vol 8 No 6, 1962

7 FSR Vol 9 No 1, 1963

8 Sdhne der Sonne, Marcel F.. Homet (Walter Verlag, Germany, ウォルターVerlag、ドイツ 1958, Neville Spearman Ltd, London, i963) ネヴィル Spearman 社、ロンドン

9 Flying Saucers Farewell, George Adamski (Abelard-Schuman Ltd アベラール・シューマン社.London, New York & Toronto, 1961)

10 A Pedra do Espaga, Alberto Sanmartin (Aquarius, Sao Paulo, 1978)

11 1 Saucer News, 'Special Adamski Expos~ Issue' (Nov. 1957)

12 UFO Report, August 1978

3 章

アダムスキーの最初のヨーロッパ訪問

アダムスキーが初めてヨーロッパに来たのは 1959 年 5 月であった。

彼はオランダからバーゼルに到着したが、オランダでは王立オランダ空軍将校と数人の大学教授のチーフと共に、彼はジュリアナ女王とベルンハルト皇太子によって迎えられた。会談の終わりにはアダムスキーは、握手したベルンハルト皇太子と女王への賞賛でいっぱいになった。

「それは、言葉よりももっと多くのことを意味する握手の 1 つであった」「私は、ベルンハルト殿下が私に同意するのを感じた。」と、彼が私に言ったのを覚えている。

そのあとのインタビューはおそらく必然的にオランダと、海外報道機関にひどく悪く受け取られた。

フランス、ベルギーとスイスで全段大見出しで『NOUVEAU SCANDALE A LA COUR D'HOLLANDE』(オランダ王室のスキヤンダル)と書いた、しかし、報道機関は招待されなかったので、レポートは純粋に推測に基づいていた。

Rey d'Aquila は(ミーティングの準備をしたオランダの我々の同僚)、1959 年 6 月 13 日の手紙で書いてきた。:

「女王との会談の利用可能な詳細な記録がないのでは、コメントは我々にとってさえ非常に難しい。

しかし、我々が確かに言えることが、1 つある: この会談について報道は、最初から最後まで嘘八百である。極めて少数の例外をのぞいて、全報道機関は、断固としてアダムスキーに反対であって、ひどくゆがめられた方向で彼のことばを報道した。彼らは、故意にそうした。GA は、後で理由を我々に説明した。

1959 年 5 月 20 日の Lokker 氏の家の公式の記者会見で、GA は世界中に存在する『反対勢力』について話した。TIME と L I F E の冷酷なジャーナリストは、彼に名前を言わせようとした。GA は、賢明に答えた:

『わたしに、なにを言ってもらいたいんだ? 商業的な名称を言うにはあまりに長すぎる。』ロイターは、非常にずるがしこくささやいた:

『それは、シェルでしょう...?。』

ジョージは単に彼を見つめるだけだった。」

オランダを去る前に、彼が声明を出し、私は、そのコピーを受け取った:

「皆様の女王の特別御丁寧な心からの会談と、私のレセプションへの出席の機会与えてくれたオランダの人々と皆様の女王に感謝したい(私は、それを決して忘れない)

そして、私は報道機関もまた同じように丁寧であってくればよいと思っている

私は普通の人間である、しかし、女王は世界を前にしてオランダの親切な人々を代表されるわけで、シンボル以上の方である。

そして、彼女の前で話したことに関して、声明をださなければならないならば、彼女の名誉が保持され私が無視されても当然である。「もちろん、女王は意見を述べられなかった、そして、アダムスキーは最初の機会であることの重要性和『会談で感じた言葉と沈黙の意味について話すことにそれほど気が進まなかった。

『その時から彼の一般的な答え方があることを私は知った、「ああ、それについては知らない」、あるいは、「ああ、私にはわからなかった」、純粋なごまかしは、あまりに言いすぎてしまう危険を避けるためであった。彼の漠然としたステイトメントが不明確だと言われることは、明かだった；

これは我々に多くの問題をおこした。

私は、ライン川に沿った美しい風景を見ながら、アダムスキーが Basle バーゼルまで行くのに、5時間ほどしか旅行しない贅沢電車ラインゴールドを選んで電車の切符を手配した。私は、彼が飛行機が好きなことを知らなかった。

私がバーゼルの鉄道駅で遠くから客席の彼を見たとき、不機嫌であることがすぐにわかった、そして、私は理由を推測した。

着いた後、彼から我々は感想を聞きだしたが（フランスのスーザン Saunier とオーストリアのドラ・バウアーは、我々と一緒にいた）、厄介な排水管のなかのような旅行だといった。

「誰が私のためにこれを手配したか、知らない…」チケットを送ったのは私であることをよく知っていたけれども、彼はブツブツ文句を言った。

しかし、我々がホテルにいて、一旦彼が居心地のいい部屋のバルコニーからなつかしい都市の印象的なスカイラインの見事な眺めを見たとき、すべてに満足するようだった。

バーで彼は初めてのスイスのビールを試飲すると、とてもそれが好きになった、そして、我々はリラックスして親しくなって夕方のひと時を過ごした。そして、ジュリアナ女王との会談についてはなした。

私がアダムスキーに会ったとき、私はカメラをもって幅の狭い市街の路とヨーロッパの古い建物と小さな店を見て楽しむような世慣れた人を待っていた。

私が見たのは、常に極めて用心深く、動作はむしろスロモーで、私がいなければホテルに残っていた。1人では、店には決して入らず、代わりに私がお金を払うのをよろこんでいた。

確かに、彼はお金に触ることさえ気が進まないようだった。

毎朝、朝食のテーブルで、私を待っていて毎日

スケジュールをたてた。（私はベーコンが十分サクサクしてないのでちょっと不満だった！）



最初の朝ライン川のフェリーボートに彼がすぐに夢中になった楽しい思い出がある。
このボートは水の流れ以外どんな燃料も使うことなく、数えきれない世紀の間、川を横断し、静かに仕事をしている。

これを理解したとき、彼は驚きで立ちあがって、目は喜びの火花を発した。

「ああ、これは本当のフリーエネルギーだ！」

「泣いて、彼は、少年のようにボートでステップを踏み、我々とボートにく乗ることになっていた船頭と鳥とともに写真を取った。——パンの柔らかなところを私が少し持っていたので鳥が追っかけてきた。

これは知らない人と自然に自発的に、言葉の問題を忘れて談話するのを見た唯一の時であった。

それほど喜ぶのがよく理解できなかったベテランの船頭（Stadeli 氏）、は何んで喜ぶのか聞いた。

川の渡し船の単純な装置を、船頭は、誇りで一杯になりながら説明した。

私はまだこの 8mm 映画をこれまで見てないことを残念に思う、しかし、今でもジョージの愉快的顔と暗くトパーズ色にきらめく目を覚えている。

これと比べて、川の向こう側の上のゴシックの・マンスターチーズは、ざっとフィルム 2、3 メートルだけ写っていただけだ。

ダウンタウンで、古いスタイルの市街電車を運転手と一緒に写す時はとても喜んだ。

「私は、この技術に唸ってしまう」と彼は説明した。

「ここに住むあなたのように古い建物や教会を喜べない。」そして、非難をこめて、彼は、イングランドの多くの古い城や大聖堂をどれほど憎んでいるか話した。しかし鉄道駅では世界で一番古い蒸気機関の写真は何枚か撮れた。と、彼が付け加えた。

一緒にスイスを旅行したとき、私はこれを覚えていたので、彼はスイスの古い機関車のすばらしい見本を見て満足だった。

チューリッヒに車でいったとき有名なハプスブルグ城を間違えて見せてしまった。古い王朝の家族席でー「ああ、好きにやってくれ、ルー」、と彼は言った；

「古い城はもう勘弁してくれ」

1959 年のこの最初の訪問で、我々の意思疎通は、ほとんど完璧だった。

我々は、同じようなユーモアのセンスを持っていて、冗談を言いあい、一緒に笑った。

多くの人々との会談と、訪問と紹介のスケジュールを準備する作業で、私が失敗するのではないかといった不安と心配はすぐに消えていった。

普段彼は非常にリラックスしていて、親しみやすく、ほとんど、誰とでも英語を話すことに気がついて喜んだ。我々は楽しい夕方をすごしたのを私は覚えている

スイスで最も有名なドラマー（フリッツ・ベルガー）によって我々は招かれた、(彼を『タンブール』と我々は、呼んでいた) 彼の素晴らしい古いゴシックの家の新しく出来た地下室でジョージのために彼は演奏した。

たとえその後頭痛で不満を言ったとしても、そのときの彼はそれをとても気にいった！
そして、夕方、ジョージが滞在している家庭的で手入れの行き届いた **Krafft** ホテルのバーに近くからそして遠方からも友人が集まった。

議論は、夜遅くまで遅く続いた。

常に自発的に経験の詳細に立ち入る準備ができており、通訳で彼を援助することは喜びであった。

物理学、工学、天文学、歴史の中にさえ彼の知識レベルは驚かすものがあった。わざと窮地に陥す、ずる賢い質問もあったが、ほとんど完璧に答えた。

特に、物理学の先生ムーンはアダムスキーの話を疑っていたので、鋭いいくつかの質問を投げかけた。

今ここにいるアダムスキーを完全に驚かすため関連を無視して不親切で予想外の月についての質問に答えて

「隕石の落下は多くの天文学者（特にアマチュア）によって観察され、それは月に激突した。どんな抵抗が、そこにあったか？何による抵抗があったのか？

隕石が地球に突入する時、流星は何によって燃え上がったか？

...月の重力は、地球の 6 分の 1 でこれは宇宙に大気が放散する原因にはならない。

結局：重力の源は、求心的な磁場と回転に起因する求心力から生じている。

月の遅い回転速度を考慮するならば—比較的小さな磁場だけで大気が保持されることは完全に明らかである。

地球の気象パターンの変化についてのもう一つの疑問に答えて、彼は言った：

「地軸が傾いているのは知っているだろうが、まだほとんど説明されていないがこの自然現象は多くの事例が関係する。

長年この地軸の傾きの影響を我々は、受けている。

気象状況の変化が、地球中で起こっている：

犠牲者がいないので、人々は忘れるが、海、地震、その他...島の隆起などの、特別なレポートがあった。

普通の人はいくつかの現象を地軸の傾きにそれらに関係させない。そして、少し前、太陽がその極性を変えたという科学的レポートがあった。

そうであるならば、我々の惑星は確かに影響を受けるだろう。

他方、現在は我々自身の極性が変化するほど、地球の傾きはひどくはないがまだ測定されていないが太陽で起こることで変化するかどうか自身で答えを出さなければならない？」

残念なことに、アダムスキー講義は決して出来がよくなかったが、その理由の 1 つは、通訳がついていけないことを心配しワンセンテンスで話すようにしたと言っていた。

単純化しすぎて時々、それは初級の聞き取り練習のように聞こえた。

彼には、それは外国語の聴衆に向かって話す最初の経験であった、そして、スイスでの最

初の講義を通訳した初老の紳士は上手に英語を話したが、あいにくアダムスキーのポーランドなまりの発音とアクセントを理解できなかった

また、彼の表現は決してクラシックでなはかったが、スラングまたは低俗な言葉を決して使わなかった。反対に、外国の言葉なのにとっても適切にことばを選ぶので驚かされた。適切な言葉を、見つけるのに2、3秒持った。

記憶力は、抜群だった。

ノートを決して読まなかった、そして、講義の間、資料を手にするのも見たことがなかった。

また、彼のすばらしいマナーについて言わなければならない。全くシンプルで、英国紳士のそれであった。

私の国では非常にまれである。

彼は、また、忍耐と親しみやすさを表すことが決して容易ではない状況でも、それを保持していた。

時々、側で聞いている私だけに、冗談を言ったが、しかしそのような冗談の大部分は無害なユーモアで決して不道德なものではなかった。

ある日曜日に、ウルフガング Vorster 氏（町の高いところにある、領主の美しい邸宅に住んでいた私のグループのメンバー）は、夕食のために我々を招待した。

ちょっとしたフォーマルな会合であったが、誰もがくつろいで、興味を示し、食事は素晴らしかった。

ディナーコースのために、とても貴重な銀の食卓用食器のコレクションが各々のお皿のそばに4から5個おいてあった。

ホストとホステス（美しいオランダ人の女性）のそばにアダムスキーはすわり、その隣に私は座った。

数週間後、ホストは目を輝かせて言った。彼と妻がアダムスキーを注意深く見ていたが、私達はアダムスキーの洗練されたテーブル・マナーに驚いたと私に話した。

「躊躇なしに、正しい方法で彼の食卓のナイフとフォークを使用し、本物の紳士として食べ、そして、飲んだ。

彼は、バッキンガム宮殿にの招待を受けることができる。

「私はまた、女性を扱う上で完璧な紳士であったことを付け加えよう、そして、特別周囲の人たちがそうだったなら、人々の気を楽しにする素晴らしい方法を知っていた。

こうした状況でなければ、静かであった。

通常彼は自信があって、むしろ人を信じようとしていた

私が彼のそばに座っていたとき、ドイツの超心理学の教授にきづかれないう、行儀よく必死に話すぎないよう彼に目で合図して警告したことを覚えている。

後に学会誌で、この教授はアダムスキーのことをからかった。

しかし、Vorster 氏の家の夕方は、完璧だった：

実際、私が誠実に真実を探求する信頼できる親しい人々によって囲まれた彼をみる唯一の機会であった。

食後に、我々が発見した映画の上映と重要な文書を見る準備のできた広い研究室に入った。ドイツの女性（ウィスラー夫人）は親切に彼女がこの時作ったノートのコピーを私に送ってくれた。それは、物語の私が知る限り、印刷物に決してならなかった詳細な説明を含んでいた：

「アダムスキーは、飛行機が空中で停止させ、接近した、巨大な葉巻き型の宇宙船の大きな格納庫のドアが開いて飛行機を『吸い込』んだ、その搭乗パイロットの話しをした。宇宙船の中の人間はまわりの人を指さして彼らが金星の出身であるとパイロットに言った一、そして、非常に親しみやすかった。彼らは、地球の住民の全ての行動は注意深く観察していると完全な英語で彼に話した。

彼らは我々の原子爆弾と彼らの関係を指摘し、そのような出来事が全部の太陽系の磁場をゆがめる、決して我々の惑星がこれによって破壊されるのを許さないと断った。それで彼ら自身の惑星が大混乱に至るかもしれない。

2時間以上を母船で過ごした後、飛行機のパイロットは、燃料を使わなかった時間の説明として、何か証拠となるものを書いてもらうよう男に頼んだ。彼らはその願いに応じただけでなく、彼に、手紙をペンタゴンの責任者に届けるよう頼んだ。（名前をアダムスキーは、控えた）長い手紙を慎重に一枚書いたので、パイロットは30分まった。

彼は、その一つの一つの記号が意味を持った完全な情報で、これらは単に一つの文字でなく完全な文章であると話した。

ドイツの1ペニヒの大きさの、（1ペニーの下単位。）これらの記号は、小さな円から成っている。

これらの円はヒエログリフのような線と点で、書かれていた。パイロットはエジプトかインドの文字を連想した。

Each small circle was close to the next."

小さな円の各々は、隣り合って並んでいた。」

私自身のノートをみると、アダムスキーは続けた：

「いわれたように、パイロットはこの手紙をペンタゴンに持っていったが、彼は2、3枚コピーしてほしいといって4枚もらってきた：

1枚は彼自身のため 1枚は大統領[アイゼンハワー]に、送り、1枚は法王[ピウス XII]へ送り、1枚は、私がもらった。彼は数ヶ月前パロマ山にやってきて私に手渡した。

彼は、私の本を読んで、そのことを信じた。

私は彼の名前を決して出さない約束をしなければならなかった」

（ウィスラー夫人のノートによると）アダムスキーの最も驚くべき事実は、ペンタゴンがメッセージを読める人を知っているようだったということであった。

それは、アメリカに来て、証人の前で翻訳をするよう言われたオーストラリア在住の女

性であった。

アダムスキーが話す間、手紙のコピー写真は聴衆の間で回された。

みんなは、これに釘付けになって座っていた。それは、技術的に驚くべきものがあった、多くは同じ円から成り、明らかに、非常に安定した手によって引かれたほとんど完全な円の中に 10 本の線が引かれていた。

中に、円は驚くべき多様な特徴をもって書かれていた、しかし、我々は私が覚えている限り、1 枚のなかに一つのローマ字も見つけることができなかった。

*注

彼が言うことによれば、これは、アダムスキーが Palomar に住んでいる間の唯一のアメリカの空軍パイロットの訪問ではなかった。

ルーシー McGinnis は、キャプテンハンス・ペーターゼン (後の少佐) (コペンハーゲンの我々の同僚) へこのような訪問について、に書いた。

手紙は、ニュージーランドの仲間 Henk Hinfelaari によって 1960 年 6 月に公表された：

「...事件は、7、8 年前頃より多分もっと前にあっただろう。

私はレポートが GA に与えられた時間をよく覚えているけれども、私は何年か忘れた。喫茶店にたびたび行ったことがあったが、若いパイロット A はある日昼食に入ってきて GA と話した。

GA が知ると興味を起こす何かを持ってきたので、急いでこの男性は GA に何か話していた彼は、アメリカの飛行機を操縦してオーストラリアの、広大な離着陸場に着いたことを話したが、その場所に関しての詳細な情報を伝えなかった。

巨大な宇宙船がすでにそこにあった **sald**。かれは、他の惑星からの一団の科学者を案内して、スコットランドの科学的な会議へ連れて行くことになっていると話した。

我々の飛行機で旅行しなければならない理由は、離着陸場が彼らの宇宙船に対応する十分大きいなものは世界になかったということであった。

若いパイロットは、これらの男性全てが非常にきれいで、親しみやすく知的であると GA に話した。

彼は、とても宇宙人たちが好きで、宇宙人の行動に感動していた。

訪問客が大会に出席する間、彼は飛行機と一緒にスコットランドに残った。

決してこの科学的な会議は報道されなかったが、世界の中のあらゆる国の科学者がいた。と、我々に話した。

会議が終わると、青年はオーストラリアの宇宙船に彼らを返した。そして、アメリカに返った。

彼は、GA に話すためにすぐに会いに来たが、同じ夜、もう一つ別の飛行のために再び去っていった。

当然、我々の記憶の多くは、年を通して弱まった。

We この手紙は、図 24 で図示したものではないだろう。

この青年の名前を言うことができない GA は識別のために多数の証明書を見たけれども、彼を情報与えてくれる人々の名前を決して聞かないことにした。

どんな形であれ決して彼らを危険にさらしたくなかったので、故意に彼らの名前を忘れた。

この喫茶店に毎月、簡単に世界のあらゆるところから何百人もの人々が出たり入ったりした。」

Vorster 氏の家で夕方になると、アダムスキーは、この後、言った — すでに、ペンタゴンにはアダムスキーの言ったことについての多くの証明が保存され、それは、2、3 人だけが入れる特別に分離された建物の一部であり、何百もの証拠が保存され隠されている。彼は、— ペンタゴンの誰もが UFO の存在を否定せず、また、それを証明するものもあるとも言った。

彼らは、さまざまな産業と同様に、一般大衆が抵抗無くなじむことができるように、真実を少しずつゆっくり出すことが賢明であると考えている。と、彼が言った。

アダムスキーは続けて、UFO をテーマにした本の出版に対する妨害を話し、1955 年初期、彼は贈賄されるところだったと言った。

男が家にやって来て、彼の *Flying Saucers Have Landed* の第二版を絶版にし、この本のアダムスキーの部分は S F であるという趣旨の声明に署名するならば 25,000 ドルを提供するというのである。

彼は、拒絶した。

すぐに、よくある、脅迫状が、パロマガーデンに届き始めた。

これらは最悪だった、もちろん、彼は、署名などしないと行った。

しかし、彼らは出版を止めないならば、殺すといった。

しかし、ジョージは我々に話した。そして、彼には正確に全ての背後に誰がいるのか理解している友人がいた（アダムスキーは彼らが、誰だか、言わなかった）。

手紙のコピーは 6 つの異なる場所に置かれた、これによって、何かが彼に起こるならば、この手紙が、公表できるようにした。1959 年 1 月 Basle バーゼルへの彼の訪問のほんの 1-2 月前、アダムスキーが『誰が、真実が出てくることを妨害するのか?』と題した記事を *Flying Saucer Review* で発表した、:

「私はこの分野の調査での贈収賄の現実には想像力の産物ではないことをあなたに保証する。1952 年 11 月 20 日の砂漠で金星人との私の会談の前に、市民から真実を隠そうとするこの邪悪な方法を最初から私は知っていた。

私はハリウッドのスカリーの家を訪問した。そのとき、フランクはまじめに、彼の本「*Behind Flying Saucers* 空飛ぶ円盤の背後に」がフィクションであると言う文書への署名契約のために 25,000 ドル渡されたと私に話した。

この後、1955 年に発表した私の「*Inside Space Ships* 宇宙船の内部」で、同じことが起こったとき、特に驚かなかった。

デトロイトへの訪問時にも、同じような古いパターンが、続いた;

しかし、今度の、交渉員は、2人の男だった。

この時の最初は、私が一人になるまで、彼らは待っていて、証人もいなかった...

価格は、値上がりした。

35,000 ドルで申し込んできた！

最初申し込んできたのと、同じように私は鋭く短く、決定的に答えた。

Inside SpaceShips 宇宙船の内部」は完全にノンフィクションだ。

、それを変える意志はない。私は短い話をする間に、この男性から名前と所属を聞きだそうと全力を尽くしたが明らかにせず、このことと無関係だと無愛想に抗議した

「アダムスキーが彼のヨーロッパの旅行で見せた映画は、新しい UFO の映像が豊富に見れると予想した私には期待外れだった。

プライベートな映写会で、アダムスキーはこの理由を説明した：

映画は、彼の仕事と経験の本質を 1 本にまとめるという実地的な考え方で編集された。

こうすれば、何百枚のスライドを持ち運んで絶えず気を配って数える心労を省けると考えた。

何枚かは、すでに他の旅行で盗まれたり、損害を受けたと、彼は、言った。

しかしこの実地的な処置は、ヨーロッパの講演旅行では不利なことがわかった。

映画を上映している間の彼は説明はリールの速度によって自然に短かなものに切られ、ほとんど翻訳不可能になる。私は、このことを彼に注意して、上映の前に詳細な説明をドイツ語で読んでもらおう、映画の導入を書くことにした。

私がこれをやることにした。

最初に書いたような、非常に面白い記号の書かれた手紙での連絡の後、

大きなバナナ農園の農民の遭遇事件が、メキシコのグアダハラであった、アダムスキーはその人と会った。

この農民の家族と多くの農場労働者の面前の、農場の広いオープンスペースが、巨大な宇宙船の着陸基地として使われた。

非武装の 2 人の男性は降り立って、家の中に彼らを招待した武装した農民の方へ歩いた。

彼らは 2 時間以上たって果物、花、種と鳥をプレゼントして立ち去った。4 日後、宇宙船に乗せて欲しいという彼の願いに答えた。

4 日後、農民は帰って来て、メキシコの政府のメンバーに話をするために直行した。

政府は、明らかに 3 年間のケースを調査する調査委員会をつくった。二百人の証人が、質問用紙に記入した

アダムスキーが言ったように

、農場とその環境と全ての関係者は一部の当局と警官も同様に、まさに映画に撮影されていた。

「地球上の政府の 1 つが宇宙からの来客の事実を認めたとき、これは歴史の転換である。

「言うまでもなく、アダムスキーは、1959 年に、他の政府が先例に従うという願いでいつ

ばいだった。

しかし、そうしたことはならず、人々はすぐに忘れた。

この後、グアダラハラで1農民と彼の家族は、転送先は不明のまま消えた。

いやがらせで、大変だったと、アダムスキーが言った。

アダムスキーが Basle バーゼルにいる間、命が輝いていた。到着した最初の朝、彼に会うと、とても機嫌がよかったことを思い出す。

「なんて幸せだろう。気がついた？」 幸せを放射させながらいった。

わたしは「はい」と、言った「でも、なぜ？」「よく休めました？」

「はい、本当に、ゆっくり休んだよ、でも今朝、9時に私の部屋に来る予定の2人の少年を待っていたんだ。

「これが何を意味しているかわかったので、全く仰天した。

彼は楽しげに、地球外の友人を『息子』と呼んだ。

彼が、Basle で何回か会ったと言った時は、瞬間、それを信じるのは私でさえ難しかった。

その週の朝、何回か、彼は同じ話しをしたので、私はそれを確かめることに決めた。

私は、アダムスキーに本当に朝の訪問客がいるかどうか、ホテル・マネージャに尋ねた。(私のよく知っているポーターにも同じように聞いた)

両方の男性が言った「はい」「一度、9時ぐらいに、決して2人以上ではなかったが数人の男性が、いた。」

私は彼らが不思議に思っているのを感じた、もちろん、これを教えることができなかった。

最初の日の夕方、しばらくの間アダムスキーと二人だけになったとき、ちょっとしたポケットマネーを彼に手渡した。

私は一 彼にお金を渡せてうれしいと思った。

彼はお金を見て、非常に驚いた。

それは、2枚の紙幣で、200フランあった。

「どうもありがとう」、彼は言った、「でも、これをどうやって使うかわからない。」そして、ズボン・ポケットに2枚の紙幣を入れた。

彼は、空ではない、財布を持っていた。

私は彼がそれを決して使わなかったと誓って言えるが、なぜか再び、このお金は決して見ることがなかった。

グループの誰かが彼に尋ねたある夕方までは、宇宙人がパスポートなしで我々の国に来ることが、不思議だった。

特徴として、アダムスキーは言い返した：

「誰が、パスポートなしで来ると話した？」

「どの国の？」

「アメリカ、スイス？」と、誰もが知りたかった。

そして、私は叫んだ：

「あなたは、パスポートなんか買えない！」

彼は私の方を向いた。そして、彼の目は輝いた。

「できない？」

彼は唐突に言った、そして、その時突然、私は 200 フランを思い出した。

アダムスキーがヨーロッパを去ったあと、私はエルンスト Suter に会った。彼から、私に
我国の警察庁の私服警官がついたことを知った。

私は、パスポートが買えるのは本当かどうか、そして、どのように買うことができるかス
トレートに 彼に尋ねた。

彼は、笑って、言った：

「もちろん。ここだけでなく至る所で買えるよ。彼らを買いたかったら新聞広告さえある
さ！」

「いくらぐらいで？」私は、尋ねた。

「ああ、今の相場では 2、300 フランと言われているね」と彼は返事をした。

ジョージと私と友人とで昼食を食べてホテルに戻ったとき、そのチャンスがあった。

それは非常に暑い午後でジョージは 3 時から 5 時まで昼寝すると言ったので、入口で彼と
分かれた。

暑い街を再び歩かなければならなかったので、残された時間で、自分のアパートに戻るの
を躊躇した。

それで、私は新聞を買って、少し、近くを流れる川の新鮮な外気で涼むため、歩道に面し
たホテルの小さな喫茶店で、飲物を飲むことに決めた。

全てのテーブルのなかで 1 つだけ、あいていた。

若い男がテーブルの前にコカ・コーラを置いて座っていた。

彼は、非常に優秀でぱりっとして、私が若い少女のころ流行した、濃いブロンドの髪を小
ざれいに切って、額の上に落すスタイルだった。

皮膚は強く日焼けし、目は大きなサングラスの後に隠れていた。

私は国籍を推測したが、(私の習慣) これは簡単ではなかった。

エレガントだが、非常に知的に見えた。

私がアメリカ人やスウェーデン人、またはスイス人の座るテーブルの間をぬって、ちょっ
と距離のはなれた、席につくまでちょっと躊躇していた。ウェイトレスが来たとき私自身
驚きながら『スクリュードライバー』を注文した。(ジョージと私が時々食後にとった飲物))

私とその名前を発音するとすぐに、この外国人が見上げたことに気がついた、そして、私
の方に鋭く顔をむけた。

私の目の端でとらえ、すぐに考えたことを言う：

「そう、アメリカ人だ；彼は、この飲物を知っているようだ。」

私は新聞を広げて読み始めた。

飲物はすぐに到着した、そして、私がホテル・ドアから出てきたアダムスキーが大きく笑

いかけ、彼が大声をあげたのは、ちょうど最初の一口を私が飲もうとしたときだった：

「速すぎるよ、ルー速すぎるよ！」

「私は彼がいつも簡単に決められた時間だけ眠ることができることを知っていたので、このとき会って全く驚いた。彼は昼寝をするといっていた。20 分前、別れたときは、非常に疲れているように見えた。

ところが私の前の彼は、今元気で鋭敏に聴く、喜びの火花が飛び散るのを見るのは簡単だったが、彼の笑顔は私の後に座っている男に向けられ、私でないのは明白だった。

私のテーブルにアダムスキーは椅子を持ってきて 2 人で会話を始めた、しかし、しばしば彼の注意がそれ、私の後ろのテーブルをちらちら見るのに気づかずにはいられなかった。

私は興奮を隠すために話をやめて、もう一口飲んだ。

ジョージも『スクリュードライバー』を注文して笑い続けた。そのあと、知らない人は立って、非常にゆっくりほとんど人通りのない通りを横断して、オープンカフェのジョージに挨拶した、そして！～：

とても友好的な、長いスマイルをおくった..

無言でなにか話した。彼が視界から消えたとき私は急いでジョージを向いて、朝、彼の部屋に来た『少年』のうちの 1 人なのかときいた。。

「そうだよ」、「私たちと別れるところだ。あなたにそれはいえるよ」と、彼が答えた。

彼は、非常によろこんでいるように見えた。

もちろん、私の背後と活発なテレパシーの『会話』があったと思うが、最も私に感銘を与えたことは、この知らない人が **George** を我々が座っていたところに呼んだという事であった。彼は、すでに眠っていたが、起こされたといった。「私はそれが誰であったか、あるいは、なぜそうをしたか、知らなかったが、私はよびだされて起きた。それは、予感の 1 種なのは、あなたはわかるはずだ。」

「運悪く私にはこれはなかった！」

このエピソードを言うことでたぶん読者は、私が慎重さに欠き、この点で多くの疑問を明らかにすべきだと考えるだろう。

私がジョージと過ごした数週間の日々に並外れた人に会っていると実感した理由を説明しなければならない。

この人にもう一つ別の側面があることを私はすでに知っていた、神秘的なまたはマジカルなものであり、おそらく彼の語る話とは別のなにかであった。

私は質問に彼が答えたくないとき役に立たない答えをわざとするのを知った。

彼は、ストレートな疑問に対してすぐに答えて切り抜けるのが得意だった。これは彼に対して畏敬の念をを起こさせ、非常にドキドキさせた。

前の晩、全く偶然に、彼の臍の普通ではないあざについて、私に話した。私は彼に見せてもらうよう頼むには遠慮があった、そして、どうしてそれが出来たか尋ねても、笑うだけだった。

しかし、この短い会話は、ミステリー・マンのいくぶん威圧的なイメージを増大させ、我々の友好の残り期間に彼との距離をつくった。

私はジョージの死後長い年月がたった後、GraY Barker の「アダムスキーの本」で Desmond レスリーの死亡記事について書いた一節を見つけた。:

私は彼がすばらしい古い体を投げ棄てた今、これ言う私を気にすると思わないが、彼はかつて私に最も並外れて大きな臍のあざを見せてくれた。彼の臍は、まったく人間の臍のようではなかった。ウエストから鼠径まで、円周およそ 6 インチに広がったそれは、ひどく切られた光線によるウエストから鼠径へ広がる巨大なソーラーディスクであった。

「それが本当に『太陽の子供たちの徴でない限り、私には全くわからなかった。』

アダムスキーはストレートな質問に対してまれに説明を省略して答えを避けようとする時があった。私は 1 度、彼にこうしなければいけない理由を尋ねた。

多くの厳しい守秘義務を守らないならば、もはや情報はもらえないだろうと説明した。

「あなたはこれを話してたちまち接点を失なうと同時に、故郷と命の源泉であるような情報源を裏切ることができますか？」

彼は、一回しつこい質問者にこらえかねて逆に尋ねた。

彼の守秘への厳しい方針は宇宙の友人から地球の彼の友人まで、限定されるものではなかった。時々、彼らに与えた情報のお返しに、アメリカの政府の一部の機関も彼に秘密の情報委任した。

彼が一つの名前または情報を渡すよりむしろ、自身が詐欺またはうそつきと呼ばれ、信頼の中で委任された事実を言わずに我慢し、このことで全く信頼を勝ち得たという唯一の理由によって、私はこのことの何よりの証明とする。

かつて小さくはないグループの前で、彼がニューヨークで会った有名なドイツの科学者について話した。ちょうどその時、この教授はアメリカ合衆国をリタイヤして、本国へ永久に帰ろうとしていた。

ジョージは、彼が個人的に非常によく知っていた秘密だとして、ある科学者が宇宙の人々が地球に大挙して来ていると話したと言った。

一部の聴衆は科学者の名前を尋ねた、しかし、George はもちろんその名前を言わなかった。もちろん私はそれを推測した、それは前日我々に内証に話したヘルマンオーベルト教授であった。私はジョージにドイツとスイスの 2、3 ヶ月前に印刷された短い新聞報道を見せた。それらはオーベルトの言ったことを引用していた。:

「私は、知的な宇宙人が地球を観察していて、次の千年紀ミレニアムのために彼らは円盤で我々を訪ねてきたと思っている。

「これは、なかなかのセンセーションを引き起こした」、そして、Adamski アダムスキーの『今日の夕方多くの特定の聴衆は、それを読んでいた。

しかし、ジョージはオーベルトに世界旅行で彼の名前を出さないという約束をしていた、この場合、偉人の名前を出すことは、彼の言うことを信頼できるものにしたし、またオ

ーベルトの名前は、人を驚かさなかつただろう。

新聞に書いたことに彼は言及できたが、しなかった。

他には（アメリカに住んでいるスイス生まれの有名な科学者）天文学者フリッツ Zwicky 博士がアダムスキーと同じ時にヨーロッパに来ていた。

そして、ジョージがきている間、フリッツ Zwicky はいくつかの大学で講義を行ったが — あとのセッションでは — アダムスキーの言い分を嘲笑し、お笑いの対象にした。

ジョージはこれを知らなかったが、— 偶然 — その Zwicky が彼を訪ねてパロマガーデンに 3 回きたと私に話した。

ジョージが言った、「彼の訪問」のとき、「非常に懐疑的であつたけれども常に礼儀正しく丁寧であつた。最後に来た時、彼は新しい妻を連れてきた。

「いうまでもなくアダムスキーは世界旅行で彼の名前は言わないことを誓つた、そして、それを守つた — そのことで、同じ国にいた、アダムスキーの信頼がどれくらいひどい攻撃にさらされたか、はかり知れない。

ジョージの性格には涙を誘うほど素朴で善意の側面を持っていた。そして、その純真さは必ずしも役に立たなかつた。

彼は、また、この世界旅行でアメリカ政府に非常に忠実だつた。

私は、彼が言ったことを覚えている：

「私は、我々の政府は自然界の全ての明確な真実の情報に当然通じているべきだし、それを伝達することも可能だと思う、我々は情報に通じているので起こるかもしれないどんなことに対しても覚悟ができています

「この文脈でまた、もう一つの面白い話がある、彼は手紙でそれを我々に伝えた：

「...カリフォルニアの誘導ミサイル調査センターの最高責任者のうちの 4 人は、私と会見し、次の質問をした：

『どのように、宇宙船は原子爆弾の爆発直後に影響を受けずに雲の中を行くことができるのか？—』

私は言った — 『どうして、私が知っているんですか？』

「あなたが知っていることは我々はよく知っている。』

『もしその宇宙船の 1 台の中にいれば、その人は正確に起こつたことを知っている。』

— 私が船の中にいて、知っていなければならないと、言うのですか？』

『— あなたが知っていることを我々は、知っている』、これは彼らが言った全てであつた。それで、私は彼らに知っていることを話した — 話すと彼らはそれでよいと言つた。「さらに、1959 年に会つていたとき、軍および政府関係者と彼の関係がどのように生まれたか喜んで我々に話した — 。

1949 年、何人かの軍人が Palomar ガーデンの喫茶店に来て、宇宙になにがいるか写真を撮ることを依頼した。彼らは、48 と 18 と 12-inch の

望遠鏡を持参して言つた、そして、彼らはアダムスキーが 6 インチ望遠鏡を持っているこ

とを知っていた。彼らは、有意の無給ボランティアとしてやることを依頼した。
空に写真を撮るべきものがあるのか尋ねた、
彼らは宇宙を旅行している物体について話した。そして、ケニス・アーノルドの観察に言及した。彼らは月の表面の地図で見える可能性のある場所に印をつけた。「何回かためしたあと、2枚の写真を撮った」と、彼が言った。

「私はそれらを教えられた研究所に送った — 、私はこれ以上は聞かなかった。

『ユニオン』と『トリビューン』新聞は、この話をよく知っていたが、研究所は、写真についてのどんな知識も否認した

それは、私をうんざりさせた。

アダムスキーは、この分野で活動する秘密機関サイレンスエイジェンシーの種類をかなり知っていた

しかし、世界旅行の間、彼はそれに言及することは非常に慎重だった。

まだ、私は Vorster 氏の家の個人的な会議で彼が次の表現を使ったのを覚えている「彼らは、ゆっくり私を中に取り囲んでいる」

Flying Saucer Review.にレオン・デーヴィッドソン博士が写真撮影の調査に加わるよう彼に依頼した2人の男の名前を書いた。彼らの名前は、次の通りであった

J. P. Maxfield (1887 年生まれ、ニューメキシコの Espanola Box 125) と G. L. Bloom (1929 年生まれ、ウイルコックス通り 3621、カリフォルニアサンディエゴ) である。両方とも、優秀な科学者であった。そして、デーヴィッドソンが彼らを「アメリカの科学者 American Men of Science 第9版 (標準の参考図書)」で見つけた。彼らのとても面白い自叙伝が全部紹介してあった。

以前、1957年に、疲れを知らない真実の探求者 Waveney Girvan (FSR エディタ) は手紙で言及された2人の男 (Maxfield と bloom) がアメリカの中の会社 company*に雇用されているか尋ねた。

労働本部長 G. B. フェルプスは、これを確かめて折り返し返事をくれた。:

「...我々の記録では、— J. P. Maxfield 氏は以前仕事で G. L Bloom 氏に雇われていた。Mr G. L. Bloom は、現在 **ここ** で働いている

注 **Loma ローマ海軍・エレクトロニクス研究所**

アダムスキーの物語をテストするために、

1957年1月22日に手紙は、Waveney によってブルーム氏に送られ、

— 1949年にUFO写真を撮ることに本当に興味があって援助したのか聞いた、
この手紙の返事は、決して貰わなかった。

アダムスキーの Baste, 訪問の時点と、それより後の、私が1963年にローマから帰った時、私のグループで問題に直面しなければならなかった。

私の親友の何人かは、—彼らが『アダムスキーが物的証拠と呼んだものをヨーロッパに持ってこず、彼に失望したと言った—。』

誰も、この旅で価値ある提案になる何か、または人に認めさせるようにできた何かを彼が、持ってくるようにできなかったと言った。

グループはばらばらになりはじめたが、私はそのままみていた。

私は、それをむしろ喜んでいた。

私の速報誌の長年の出版は仕事で山積みであった ― 今、私は『一匹狼』だが、非常にそれをよろこんでいる。私の歩く道に積極的な何人かがやって来た ― そして、私の友人の何人かは今でも一緒である。

アダムスキーが帰ってまもなく、エルンスト Suter（私服警官）との面白い話しが、あった

彼は、私に聞いた：

「私に教えてください。別の惑星の出身かどうかチェックできますか？」

私は、答えた：

「あることで確かめられるという点では、イエスです。それは特別な握手と、2つの特定の言葉（アダムスキーから学んだ）を言ってもらったことだった。それで全部だ。」

当局から私が決してそれでテストするように求められなかったのも、これは多分十分ではなかったのだろう。

しかし、この小さな話は、質問への答えよりも、質問されたこと自体が面白い。それに 1959 年にスイス警察の代表が、私に私服警官を配置したという事実自体が！

全く予想外であったが、Suter 氏は、ある夕方、私を誰かが困らせていないか尋ねた。

私は、否定した。

しかし、アダムスキーのヨーロッパ訪問の後、たいてい真夜中に、変な匿名の電話がかかってきたり、いわゆる『ユーモラスな』雑誌（口汚く非常に不道德な手紙と同様に）の愚劣な記事と戦わねばならなかった。

私はそれが奇妙に聞こえるのを知っている、しかし、長い間、私がローマ空港でジョージと短い会話をしたことを完全に忘れていた。冗談半分に私が その時ヨーロッパでちょうどニュースになり始めた『黒服の男』についてきいた。

彼が躊躇せず、彼らの存在を認めるのを聞いて驚愕した。そして、言った：

「彼らは常に黒服ではない、そして、彼らは確かに我々と同じ地球の人間だ。

彼らは、かなり訓練され、新しい種類のある知識に興味をもつ人々を脅して追い払うために出来るだけのことをする！当然、我々に対しても。当然、彼らは特性のない男でなければならない―1人として決して身元確定ができない。

「しばらくして、彼はつけ加わえた：「彼らを心配してはいけない。

何らかの方法であなたを怖がらせる以外は何にもできないからね。」

この会話はしばらくの間、考えさせ、刺激したが、やがて、完全にそれを忘れてしまった。

私はそれを 1、2 年意識しなかったが、私の家の下に奇妙な人がいるのを 1 週間に何度かいるのに気がついた。

しかし、朝 10 時ごろ、彼は黒いスーツに、白いシャツとダークタイをつけていた。これは普通ではなかったが、彼が大胆に厚かましく笑っているだけで、こちらにはやって来ないので、私は気にとめなかった。

彼は異国の人の風貌で、小太りで浅黒い顔色をしていて、トルコ人のようだった。

これは一度だけでなく何回も起った。

私はいつも違うほうを見ている彼の前を通り過ぎた。

しばらくして、私は完全に彼を忘れた。

およそ 6 ヶ月後、家の前で私を待っているもう一人の男性に気がついた。彼も黒いスーツに白いシャツを着て黒いネクタイを結して他の男と違って黒い帽子をかぶっていた。彼は笑っていなかった：

、彼の顔は鋭い怒りと激怒さえ示してこちらに歩いてきた。

私は本当におびえていた、そして、地球上で私がこの外国人に何ができるか、私自身に尋ねた。

彼は背が高く美しくすらりとして、地中海人種に属しているようだった。

彼も、3、4 時間の短い期間だけいて消えた。

私がいやだったので、速く彼を忘れた。そのあとこれは決して私の心には浮かばなかった。

これと出くわすことは私の UFO 仕事と関係がなければおこらなかったし、その時、プライベートな問題を私は回避しなければならなかった。

私が、17 才のころに買ったブラッド・スタイガーとジョーン Whritenour の古本で MIB についての記事と図をみつけた。その記事によって私はほとんど息が止まりそうになった。

それは、威嚇して私を見た二番目の男に非常によく似ていた。

彼は、図面と同じ表情をしていた。（これは私が見たのより、ちょっと穏やかな感じだった）多分、私の警察の友人はこの話を聞けば感謝したろう、しかし、私が雑誌を得る頃には、彼はすでに我々の警察署の特別な部所を去っていた。

あとに続く手紙は、アダムスキーが 1959 年に私に見せた彼への手紙の抜粋である。

オリジナルの所在は、わからない。

それは、アラン G. Tolman 氏（アメリカ空軍調査部）からであった：

「... Krohn 氏 [Tolman の上司] は、あなたがどんな仕事をしているか、そして、誰があなたに資金援助している調査していた。

私は、あなたが誰からも援助されず、誰からも資金をもらっていないと彼に話した。

これまでに、たくさんの人々が偶然空飛ぶ円盤を見て、レポートを提出したので、あなたの活動は増大した。

例えば私も、韓国の上空で宇宙船を目撃し、その自分自身の目撃があなたのものと同じだと彼に話した。

私の意見を、彼に話した。結局、あなたは常に正直に空飛ぶ円盤の経験を話し、それを崇拜しようとしなないこの国でただ一人の人である。

注 私は円盤に関する情報がすぐに社会に知らされるべきだという希望を彼に話した。すると彼は、これは、彼自身の希望でもあると答えた。

それから Krohn 氏は、私によりくわしい以前の活動の個人情報を求めた。

彼はあなたの科学的知識が並外れており、あなたがどこでそれを得たか説明できないと言った。私はこの理由が多分、宇宙人との個人的接触に由来すると答えた、

彼もまた他のどの説明も見つけることができないと言った。

あなたを通して私も、他の惑星の人々には我々に対する悪意がないことを確かに知っており、最終的に彼らの存在を認めさえすれば、全く我々はより豊かになるだろうと彼に話した。

注

1 FSR Vol 5 No 1 1959

2 FSR Vol 6 No 1, 1960

3 The Allende Letters, Brad Steiger & Joan Whritenour (Universal Publishing and Distributing Corporation, New York, 1968)

4 章

チューリッヒでの出来事

アダムスキーがスイスへ訪れた最初の週の、チューリッヒでの 3 日間のうちで 2 つの講演が用意されていた

チューリッヒのグループはちょっと大きかったので、最初の講演のために、町の郊外のかんりの大きなホールを借りた。

講演はメンバーと支持者だけに知らせてほとんど宣伝はしなかった、しかし、我々が到着したとき、ホールは込み合っていて、多くの人々は締め出さねばならなかった。

私の提案によって、事前にメンバーは自分の質問を紙に書いて出してもらった。

私はホテルに着くとすぐ、我々のフォルダが質問でいっぱいであるのがわかった、しかし、アダムスキーも私もすぐに出なければならず、それらすべてを見る時間はなかった。

講演は、熱心に聞かれ、その後、非常に活発な議論がおこった。

ほとんど、誰もがのこって、参加した、しかし、時々、私のフォルダから質問の書かれた紙の 1 枚を、翻訳者に与えた。

突然男性が進み出て、前もって話者に私がこれらの質問を見せたので『ショットガンのように答えを準備できた。』と抗議した。

これはそのように受け取られるのも無理はなかった、しかし、町から町、または国から国を移動しても、質問の多くは変わらないので、ジョージが舌先で答えるのも自然なことだった。男はこれを信じず、ここにいる人間が本物のアダムスキーのダミーではないかという可能性にほのめかした。彼は、言った。決してヨーロッパに公然と現れることはあえてしないだろう！

このちょっとした事件はむしろ愉快なもので、組織化された反対勢力からの更なる妨害への警告だったかもしれない。

私が男に名前を言うように頼んだとき、断って、大急ぎで、舞台を去った。

この男性のまわりにはうさくさい何かがあったと、アダムスキーは言った。

ADAMSKI'S FIRST EUROPEAN TOUR IN 1959

18



Adamski (left) with Lou Zinsstag (centre) at the Kongresshalle, Zurich, prior to the famous uproar on 29 May 1959. Below: A report that appeared in Britain's *Sunday Express* following the Zurich lecture.

18a

'Saucers' silence Adamski

Sunday Express Reporter

ZURICH

HUNDREDS of cardboard flying saucers shot through the air in one of Zurich's biggest conference halls as hundreds of students broke up a lecture on "the world in space."

The lecture was being given by 68-year-old Californian-born Mr. George Adamski, who claims to have travelled round the moon and spoken to beings from outer space.

Now he is "travelling round the world—preaching what he calls his message from space."

He had just started his

lecture in Zurich when 300 students from Zurich University entered the hall and started throwing cardboard saucers used as stands for beer glasses.

Several students jumped on to the rostrum and pulled Mr. Adamski from the microphone.

Then empty "beer" bottles started to whizz through the air.

One woman was struck on the back of the head and fainted.

Fighting broke out all over the

hall as saucers, beer bottles and chairs were thrown about.

One student pulled out a banner bearing in German "the Schuler quotation: 'With stupidity she gods themselves struggle in vain.'"

A large force of police was called in to restore order.

Mr. George Adamski says he is not giving any more talks on space in Zurich.

次の朝、我々が朝食を食べている時、警察の責任者が電話してきた。そして、アダムスキーの映画をプライベートに上映することを要求した。

彼の講演と、映画の上映が事前に許可されているのに、若干の時間を必要とするのは普通ではなかった。

アダムスキーが **Flying Saucers Farewell** で説明したように、本当の理由は映画の中の議論の余地のない証拠が『サイレンス Group』の邪魔になり始めたということである。警察の長官との会談は、楽しく、映画を見た彼の結論は、非常に驚くべきもので見て楽しんだと述べた。

「彼はこの映画に、空の漠然とした光などではなく、大きな金属的宇宙船が映っていることを知って仰天したと思う」と、後にアダムスキーが書いた。

「彼が車から降りる時、役員の何人かと次の講演会場にいたと言った。そして、これは全ての公開集会の慣例だと付け加えた。

「我々は重要な二回目の巨大な国会ホール **Congress Hall** での講演に特別、不安を感じていたので、これを事前に知ったことはむしろよかった。すでに 1 千枚のチケットが売れたことを知っていた；

ミュンヘンなど、遠くに住んでいる人たちもいた。

二日目の午後、有名なドイツの雑誌 **Der Spiegel** が、インタビューにきた。

それは 3 時間以上かかったが、アダムスキーは完全に楽しんでいるようだった。

2 人のリポーターに対する賞賛で彼はいっぱいだった、しかし、彼らのスマートな演出となめらかな方法によって（優れた英語と同様に）彼が知っていることをあまりに話しすぎたのではないかという不快な感覚を私は再び持った。

こうして出来た記事のタイトルは『**Auf der** ビーナス **gibt es Ktihe**』（金星の上に牛がいる）であったので、私の予感的中した。

長い記事の内容は、話したことを粉々にし、何から何まで、彼を嘲笑した。

そして私はアダムスキーにもほかの誰にも決してそれを送らなかった。

一面では、警察の長官は多分自分の言ったことを守ただろう、しかし、全ての警官が私服で国会ホールに到着した時から、我々にはそのことがわからなかった。

長官自身は決して現れなかった。

300 人の学生が、700 人の聴衆の間に戦略的に着席したことを、私はあとで知った。

観客の大多数は暖かく親しみやすい印象をアダムスキーに与えた、しかし、最初から一言いうたびに、拍手がおこり、叫んで、うたを歌って騒ぎ、足を踏み鳴らして、慎重に組織的にクレッシュエンドさせ、学生は妨害計画を実行した。

しばらくして、聴衆のなかの素敵な男性が、静粛にするよう訴えたが効果はなかった。

嵐は、よりひどくなった。

トラブルメーカーは最初聴衆にそして、舞台の上の我々に、ものを投げ始めた。

9 時前に、主催者は警察を呼ばなければならなかった、しかし、警察は現れなかった。

聴衆の二番目のメンバーが警察にたのんだ時だけ私服警官はゆっくり舞台に近付いて、言った：

「おおい、我々はこちらにいる。我々は、常時、監視している。

「それから静かな声で話した — マイクなしで学生に対して小さな声で話しかけた、一彼らの何人かは学生を静止しようとした。

呼びかけは失敗した。中で騒動を起こした人々は彼が警察の人であることを知らなかった：舞台の前に着席した人々だけが、このことを知った。

会場内の治安を回復することを、私服の男性に誰が期待するというのか？

このとき学生は、果物を投げ始めた。

我々は、講演をやめて、映画を上映することにした。

ホールが暗くなる前に、計画どおり、私はその内容を説明した、そして、明りが消されるまで、比較的静かだった。

そして、大混乱がやってきた。

妨害者は、子供用トランペットと他に花火やクラッカーのような雑音の多い器具を使った。すべてはよく、準備されていた！

最初から、彼らは強力な光線をスクリーンに投影したので、画像がかろうじて見えるだけで、映画は上映できなかった。

ビーム光線はとても強く懐中電灯であるはずはなく、ホールの電気系統に取付けられなくてはならない。

椅子がなく、使用できない小さなバルコニーの上に、車のヘッドライトが設置されていたのを我々は後で発見した。映画が半分ぐらい上映されたとき、ビール瓶が客席から舞台に向けて投げられ女性の肩にぶつかった。

一部の人々がヒステリックに叫び始めて、警察は会場内を明るくするよう命令をだした。

それが、ショーの終わりであった。

次の日、スイス（*Neue Ztircher Zeitung*）で最も重要な新聞は事実を完全にゆがめた記事を掲載した。今日の夕方、唯一機能したのはチューリッヒ警察であったと書いて終わっていた！

Flying Saucers Farewell で、**Adamski** は回想している：

「私はホールの後ろのドアから出ていくつか建物を通り抜けて別の通りの小さな喫茶店へいった。

数人の学生が、あとに続いた。

英語を話す1人の若い男は、喫茶店に入ることが許された。

彼は、残ったグループのスポークスマンの役をした。

『あなたに謝罪するためにここにきた。』、彼はいった。

『我々のなかにあなたの言ったことを聞いた者が数人いた。

あなたが **Zwicky** 博士（科学者）について素晴らしいことを言ったと聞いた。

我々は、あなたが **Zwicky** 博士と現代の天文学の信用を失墜させると言われていた。
今日のことは、それへの抗議で、両方を守るためのデモンストレーションであった。』
その翌日、レポートが我々のところに届き始めた。
我々は、**Eidgenössische Technische Hochschule** の男が講演の妨害の首謀者だと話された。
しかし、彼らは間違いなく、上の者から指示を受けていた。
私は前夜の出来事をチェックすると、図柄がますます明白になってきた。
警察署長の同席で映画をプライベートに上映させられ、私の講演への警察の非協力、私の映画を他の市民が見ることを妨害するために強力なライトがスクリーンに投影するなど、1つの目的に向けて全てが動員された。
圧倒的な真実への猛攻撃は、明らかに『サイレンス Group』の心配による。
たとえこの事件が深い影をアダムスキーの訪問に投げかけたとしても、我々はチューリッヒ・グループの『内輪』で、楽しい時間を過ごした。
Basle バーゼルの場合のように、グループは分けられたが、会話は続いた、そして、良い質問が投げかけられアダムスキーの答えは根拠がしっかりしていて非常に面白かった。
私はローマに行きの飛行機を待つ間、話した事をとりわけおぼえている。
時々秘密の情報を持ってきた国務省の人を彼は知っていると言った。そして、アダムスキーはしばしばそこに出入りできたことを知った。
彼は2、3年前に、この人から、イーストマン・コダック社の専門家が、金星人から秘密に、手渡された特別なタイプの映画カメラで惑星の生活についての映画を作るよう国務省から依頼されたことを知った。その専門家は、問題なく撮影して戻り、作業を委任した同じ当局者に、それを手渡した。
映画は、非常に小人数の **VIP** のグループのために確かに上映され、6時間経過した。
その後、アダムスキーによれば立ち入り禁止地域のこの区画の建物は火事によって破壊された、そして、多くの極秘の自然の写真資料が破壊されたことに言及した新聞報道さえあった。
しかし、私はこの驚くべき話を確認することはできなかった。
私がチューリッヒから持ち帰ったノートの中に、アダムスキーが以下のようにエクスプローラ・衛星探査シリーズについて我々に話したのを見つけた：
「地球の定められた軌道をまわり始めるまで、アメリカのエクスプローラは何度も失敗した。
これが起こる前に、私は建造された、宇宙カプセルの貴重な球を近くで観察するのを許されたが、その、貴重な器具が設置された場所の中に招き入れられた。
「私は、何で失敗するのか意見を聞かれた。
私は、すぐに理解して、球の全てのまわりに第二の壁を造るようにエンジニアに言った。
このように、球の外のフィールドを打ち消すためにプラスのフィールドをつくる。
このように、器具は内部への効力を打ち消すことによって爆発が抑止される。

この第二の壁は、おそらく金で造られなければならないと私は、彼らに言った。

アドバイスは守られ、エクспローラ 11 は成功した。

もちろん、私は宇宙のフラザーズからこの情報を受け取った。

「スイスに彼が到着して数日後、アダムスキーは私にローマ法王に緊急に会いたいと言った、私は努力したが、この短かな期間には手配できなかった、それは、彼を失望させ残念であった。

しかし、ローマでのレセプションは熱烈だった。我々は彼の健康がスイスでいくぶんそこなわれ、大きな講演はキャンセルするのが賢明だと考えたが、あまりに何回も話したので声が傷んでいる事も無視して、アダムスキーは寛大にも小さなグループでの何回もの講演をした。

明らかに彼は市民の積極的な態度を最初の瞬間から喜んだ、後に次のように書いた。「不愉快な拒絶的なチューリッヒの後、私はローマの親しみやすい歓迎に全く圧倒された。

私は、それを決して忘れない。」

ローマの旅行では、古いレストランで友人と共に食事をするすばらしい時間を過ごした。彼は全くそれが好きだった、そして、我々は深夜まで仲間と楽しくすごした。

スイスに戻ると、私はアリス Fahrni 夫人（チューリッヒ・グループの元気な友人）に会った。その人は私に話した — 5 月初旬、大学と工業高校の数人の先生が彼らの学生に議会ホールでアダムスキーの次の講演を混乱させるのを奨励したと — と彼女の娘が 5 月初旬、海外で彼女に話したと私にいった。

私に彼女は、まだファイルに閉じ込められている彼らの名前の一部を教えた。

入口のホールにプラカードを出して学生を勧誘し、ほぼ 200 人の若者たちが妨害に参加しようとした。— 学生だけでなく —。多くはアダムスキーと彼の言い分についてこれまで耳にしたことはなく、『教えられなければならなかった』。かれら全員ちょっとした報酬を貰うのを楽しみにしていた。

ある者はクラッカーを買い、他の者は騒音を出す似たような器具を自分で買った。Fahrni 夫人とその娘は、（新聞が言うように）自然発生的に妨害は決しておきず、すべては目に見えない指揮者の棒のもとに起きたと全く確信しているといった。

彼女も、異なる年齢層の人々が『この妨害のコンサートに参加していたことに気がついた。』彼のコワーカーへの手紙で、後にアダムスキーは書いた：

確かにチューリッヒで蜂の巣をつついたような反対がおこるのは、それは本部があるから



であると話した。

「そして、我々が並んで飛行機に座る間、彼は低い声で突然、言った：

「私は、世界の金がチューリッヒに集められていることに注意しなければいけない。」

アダムスキーがスイスで受けたショックは彼の対応に永続的な影響を及ぼした。実際、情報は前より不足するようになり、そして、彼の伝達スタイルはより用心深くなった。

すくなくとも彼のスイスに向けた手紙は。

以前の、50年代初期に、彼がそれを適切であると考えたときはいつでも、彼の信頼した友人に知らせ、警告することをためらわなかったがこれ以来、慎重にことばを選んだ。たとえば、1955年7月、彼はチューリッヒで Ragaz 氏に手紙を書いた。そして、その人は彼にスイスでの UFO 問題が停滞している状況を尋ねた：

「それは、たんに空飛ぶ円盤を恐れる人々でなく、世界の金庫番が全てを指示しているショーである。

我々が呼吸する空気と同じように無料のこれらの船の推進力が一旦誰にでも知られるならば、どうなるかちょっとこの影響について考えてみなさい！

世界の金融システムを制御する人々に何が起こるか？出版物は以前のように自由ではなく、まるでそれは真実に対する検閲であるように、思える。

メディア事業の中の全ての会社は、続けるためにお金を所持しなければならない。

実際に、[スイスで]の広告料金の不足が、円盤がもはや来ない理由となっている。

これらの着陸と同様にその目撃数も増加している、しかし、上に書いたことが公表されない理由の手掛かりとなる。

自分自身でこの情報を独占していなさい。

あなたは、トラブルに巻き込まれたくないはずだ。

あなたが、推測するのは自由だが、直説的にその原因はいわない。

ハトとのように、同時にヘビのように賢くおとなしくしていなさい...」

そして、同じ月に私の似たような質問に、彼は返事をかいた：

「...、それは全く理解できる、なぜならば、報道を制御する者と全ての情報の販売機関は真実を恐れるので、彼らは公衆からそれを隠す最高の方法を知っている。

かれらは世界の金融システムを制御する人々でもあるがゆえにあなたの国ではこの世界的なテーマに関して情報量が最少であるように操作されている。

それは、[宇宙人の活動は、そこでは他の所より少ないことを意味しない。

このグループは、あなたの組織の中や、この場所で人々とコミュニケーションしているかもしれない。

「今この一節を読むと、我々のここでの状況はほとんど変わらないのを見て、むしろがっかりさせる。

これらの一節は、まだ我々の現実の状況を書いている。

裂け目は、さらに下に広がっている。

5 章

ユングの態度

C. G.ユング博士ユング博士は、

— 空飛ぶ円盤に人間に

似たパイロットが乗っていると言った

A P 通信-----ALAMAGORDO.N.M

7 月 29 日

『スイスの心理学者カール・ユング博士は

未確認飛行物体が本物で、人間に準じたパイロットによって知的に操縦されているというレポートの中でこれらが単なるうわさでなく何か、目撃されたのだと確かに言える
とユング博士は、昨日無発表したレポートで言った。全く精神的説明は、除外している。
ユングは 1944 年から UFO の研究を始めた。

UFO 対空情報本部と空中現象の彼の調査レポートをここでリリースした。

1944 年以降未確認飛行物体のたくさんの観察資料を集め、ディスクが、物理的な法則に従って機能せず、重さがない、と考える他の無い動きをしていると言った。
これらの現象が地球の起源のものでないならば、惑星間の知的関係の可能性を確証させる。

このような事実は、もしそれが疑いなく我々白人の優れた文化と対立する最初のコミュニティとして我々を不安定な位置に置くとすれば、人間性にとって何を意味するか予測することができない。

ただ、これらのマシンの製造がただちに我々のものより優れている科学技術を証明するとは、いえない。

この 10 年にわたって報告された空飛ぶ円盤の調査でそのようなものが存在するという証拠はなかったとアメリカ空軍は、言った。

それは、不思議な物体があるという 5700 件の報告された観察記録の調査によっている。

Dr. Jung Says Flying 'Disks' Suggest 'Quasi-Human Pilots'

By the Associated Press
ALAMAGORDO, N.M., July 29.—Dr. Carl Jung, Swiss psychologist, says in a report that "unidentified flying objects" are real and "show signs of intelligent guidance by quasi-human pilots."
"I can only say for certain these things are not a mere matter—something has been seen," Dr. Jung said in the report released yesterday. "A purely psychological explanation is ruled out."
Dr. Jung, who started his research on UFOs in 1944, released his report through the UFO file center of the Aerial Phenomena Research Organization here.
"I have gathered a mass of observations of unidentified flying objects since 1944," he said. "The odds do not believe in accordance with physical laws, but as though without weight... if the extra-terrestrial origin of these things should be over-ruled, this would prove the existence of an intelligent, inter-planetary relationship. What such a fact might mean for humanity cannot be predicted."
"But it would put us without doubt in the extremely precarious position of primitive communities in conflict with the superior culture of the whites."
"That the construction of these machines proves a scientific technique immensely superior to ours cannot be argued."
The United States Air Force has said investigation of flying saucers reported over the last ten years has produced no evidence that such things exist. It said last November that investigation of 230 reported sightings showed the previous objects were balloons, aircraft, astronomical phenomena, birds, fireballs or hoaxes, among other things.

ニューヨークヘルドトリビューンにおいて 1958 年 7 月に発表されたこの記事は世界的関心を呼びおこし、各界の反応を引き出した。
スイスの週刊 Die Weltwoche は発表された中で、最も悪意ある小さな記事を発表した、その無署名の記事は単に翻訳されたもののひどい焼直しであった：
1954 年のユングとのインタビューの記事は、以下のように断定した。

「...、そして、この複雑な過程を通して C. G. ユングは、空飛ぶ円盤にだまされやすい信奉者のように見られた。」

「この悪質な、それとない皮肉に AP は残念なことだが反論しなかった。

私が知る限り、ユングも AP の報道を決して否認しなかった。

1959 年の彼の円盤についての本、「大空に現代の神話を見る」中でユングは UFOS の心理学的な長いコメントを書いた。もちろん、彼にとってこの関連は、最高に重要であった。

Die Tat は 1958 年 1 月に Swiss daily に書いた：

手短に言うと、すでに解釈されたものではなく「心理学者として、彼がこのうわさばなしの現象を心理学的な方面から彼自身で調査した」

UFO の様々な観察報告と評価の異なった事件に関して、彼らに起こったことを『虚構の物語』をつくる奇行と考えた。

彼にとって、世界的なスケールで空に何か絶えず観察されているその意味は、我々の眼によって神話が投影されたものと考えた。

このような世界的な次元で（大量の目撃を伴う）大量のうわさをつくるには、人類のルーツに関係する実在に、原因がなければならない。そして、これは深遠な緊張とものすごい恐怖を暗示している。

我々の世界は 2 つにひき裂かれ、差し迫った危険から誰も援助をどこに求めるべきか知らない。

この脅迫的な状況で、我々の想像力の投影は、現実の組織と世間の力を越えて大空のかなたと接触しようとする。

我々のこの時代に、ユング博士は、このように考える、

冷静に考えるのではなく、心の願望または幻影で悩んでそれ自体を適切に客観的に考えられない人間性のこのような部分を考えるならば、それはまったく奇跡でないだろう

（すなわち広い地域で神話は多数によって心から信じられたが、同時に他のものには嘲笑され、退けられた。）

ユングは彼の死まで（彼は解く事の出来ないような当惑を多く抱えて）、ものすごい熱意で UFO の彼の研究を続けた。そして、チューリッヒでアダムスキーの随員になることをあこがれたと、私は思う。

しかも、その調査は彼自身の心理学の特定の分野に限られておらず、物理学、工学、天文学を含んだという事実である。

カール Gustav ユングは、私の亡母へのいとこであった。（私は 1956 年以降関係した）

彼の家族は最初 Basle から移ってきて 23 年過ごした。

彼がチューリッヒに落ち着いて長い間住んだあと、残りの人生は家族の関係がほとんど存在しなくなっていた。

だが、それは、彼と会うのにとっても役立つことがわかった、そして、私が彼の家に最初の招待を受けたのは、1957 年の秋のことだった。これは私の UFO の写真コレクションの

何枚かを見せるすばらしい機会だった

私がこれらのユングとの忘れられない会話について **Flying Saucer Review2** のための記事を書くことを、**Waveney Girvan** の熱心に頼まれた。それは、我々のお茶の時のアップルケーキだった：ユングはコンタクトストーリーを認められないと私に話した、特に UFO に人間のパイロットがのっていたことは。

彼が私の持っている最高の写真を見る前は、議論をしたくなかった、私はジョージ・アダムスキーの UFO 写真を持っていった。

ユングの本当に客観的で公平な態度は、しばらくして私が宇宙人に会いたいと思うかどうか、彼に質問することを可能にした。わずかに躊躇したあと、同意したが本当の関心というより、私を喜ばせるためにそうしたのを感じた。(彼は **Keyhoe** の間違っただけに否定的にアダムスキーの背景とパーソナリティについて書いた本の 1 冊に何度か言及した。)

それで、私は彼の前に何も言わずに写真を広げた。

私は彼の顔から笑顔が消えたことに気がついた。アダムスキーの写真は 1952 年 7 月にイタリアの有名なエンジニア **Gianpietro Monguzzi** によって誠実に連続して調べられたが、同じように長い間凝視していた。

彼は写真のうちの 1 つの裏側に、アダムスキーが記入した名前、アドレスと全ての技術的な詳細 (時間と日付同様にその他のことを) (写真 7a)、を全てを見て本当に突然、驚いた。

「なるほど」、彼はしばらくして言った「これらの記録は、本物の、専門家のように見える…」その時、彼は私を凝視した。

私は、何も言わずに、しばらくしてレナードクランプの本「**Space**」の中に書かれたアダムスキーの写真とスティーブン **Darbshire** の写真の比較を彼に見せた。(重力と **Flying Saucer3**.)

ユングは彼の歯と舌を妙にたたいて音をたてた。

彼の秘書と私は、笑った。

後で、彼はアダムスキーの写真が本物でありうると述べた「しかし、彼の話は、創作である。」

彼が彼の本を読んだかという、私の質問に、ユングは答えた：

「部分的に読んだが、私が絹のような髪の毛の美しい青年のところへ行ったところで、読む気がしなくなった。

これは、おとぎ話のように私におかしく聞こえる」「あなたは、優れた生きものが我々自身と同じように美しいと思いませんか？

あなたは、本当に、我々が美しさの頂点であると思います？』私が尋ねた。

彼は、親切に笑った。

「そこをつつつくな」、彼は言った、「そのように、私は、決して考えなかった。」

ユングの中で彼の同僚 (教授と科学者) の理論を否認する準備はできていなかったことは、理解できた

天文学と物理学では地球だけが生存可能だという考えを、彼は変えなかった。

しかし、これは 1958 年であったことは、記憶されるべきだ。

私が帰るとき、急に私に新しい写真または他の面白い材料に出会ったらすぐに、彼に電話するよう頼んだ。

私は、喜んでこの約束を実行した。

数か月後に、私のバッグの中にアグネス・サンボーン夫人による見事なカラー写真を入れて、私はユング博士の家に行った。

彼は写真を見て、すぐに、アダムスキーと同じタイプの一緒の類似物であることに気がついて、本当に驚いた。

その午後、彼は次の本のテーマに関してについて、私と話した、

そして、私は、多分そのように考えないだろうと笑って言った。

彼は問題を精神科医の専門家が夢で解釈する方法を持っており、夢に関する特定の原型(円またはマンダラといった永遠のシンボル)について長い間材料を集めたと私に説明した。

人々からの最近の多くの観察報告が宗教的なビジョンの領域に属しており、「日昼または夜の夢は、空に永遠のシンボルを見る。という彼の意見を、結論としてつけ加えた

「「それでは、葉巻き型についてはどうなります？」

私は尋ねた、むしろ強情に。「あなたがフランクに話すので、私を悩ませる」と彼は答えた。

「私は、丸い物だけが私のカテゴリーに適合していると考えている。」

再び、私は彼の正直さを賞賛した。

後のユングは、このように UFOS について書くことは本当は彼の分野ではないと説明した：彼は、常に物理学と天文学の専門家に、これを任せる。

彼は、物理学と天文学の専門家が彼自身の分野に干渉することを望まなかった。

「私は、彼らに干渉されないように注意した。これが、私の本で個人的な調査と UFO の物理的な性質に対する関心を明らかにしなかった、理由である

私の記事について Waveney Girvan は、手紙で、コメントを書いた：

それは、まさに優秀な人間さえ偏見によって誤解することを示す。

天文学者と物理学者のような問題の専門家に任せられなければならないと、彼は言う。

しかし、なぜ？

前者は、そこで他の世界に関する円盤が目撃され、我々に写真を撮られているのを知っている。

(当面 (どのようにでも))

物理学者は、まさしくその性質によって物的証拠とそれを持たなければならない、提供するものが不可能だとしても。

あなたは答えなければならなかった：

少なくとも、『科学者』が逃げて彼らの頭を向けるまで、我々両方ともこの問題を研究し、

『専門家だ』と主張できる。

「Waveney と私がロンドンで次に会ったとき、我々は Menzel 教授（アダムスキーの初期の批評家）について話した、そして、私はユングがアダムスキーへの科学者の攻撃はよいことだと言ったと彼に話した。

Flying Saucers という彼の本で、以下のように論評したとわかったとき、それは、我々双方にとって良い驚きであった。そして、それはそれまでの、Menzel に関するユングの意見がわずかに変化したことを示していた：

私の知る限りでは UFO は視覚的に見られるだけでなく、レーダー網で捉えられ、写真の上に痕跡を残し、多数の観察に基づく確固とした事実である。

私は、ルッペルトと Keyhoe による包括的なレポートだけに基つかず、それ以外の天体物理学者のあげる事実に関しても、考えて、どちらが、この事については疑いの余地を残さず、説明しているか比較した。

全ての彼の努力にもかかわらず Menzel 教授は、本物の UFO 報告の 1 つのさえ満足に科学的に説明をすることに成功していない。

それは、何も結論をだしていない：

外見が本当の物体でも、サイキックな映像が後ろにレーダーにエコーを投げるとしても、神話の投影である可能性がある。

「同じ本の 151 ページに、ユングは書いた：

「反重力の問題は私が物理学者に任せなければならない。そして、その人は単独で、そのような仮説が成功する可能性があるか、我々に教えることができる。

他の UFOS が霊媒であるという仮説はよりありえない、なぜならば、視覚的に特定の物質的な状態を備えたそれはどこから来るというのか？

無重力状態を含む難しい仮説というならば、実体的な物理学の概念は我々の足の下で際限のない空所を開く。

超心理学は、もちろん、具体的事実に基づいている。

しかし、この現象は重さのある物質に浸透する一つ以上の中間的存在に依存し、それは彼らの一時的環境にだけ起こっている。

第 3 の可能性があるように私には思われる：（全つく十分に留保しての話だが）

UFO は未知の自然の本当の物質的現象である。そして、おそらく長く人類に観察され、さもなければ地球またはその住民に知られていない関係があった。

「1959 年 私の有名なところを、彼がスイスにいる間、ジョージ・アダムスキーに会わせようとした。しかし、彼の秘書を通して、彼が断ったとき、私は驚かなかった、そして、私はそれ以上何もいわなかった。

チューリッヒの議会ホールの事件の後では、私にはユングの拒絶がうれしくさえあった。

それは、彼をととても困惑させ、不快にさせただろう。

私はとてもユングに会ってもらいたかったが同時に会ってもらいたくなかった。

ユングをその時にはとても好きになっていたことは認めねばならない。

1958 年 10 月、アダムスキーは私に手紙を書いた：

「私は、あなたのいとこの所へいくことを非常に不思議に思った。

あなたは C. G.ユングの方法を理解していましたか？

私は、知名度にもかかわらず、この有名な医者が単に許可なしに発表された特定の情報を信用させないようにしているだけだという感覚を持った。

それゆえに、彼は、このテーマの信用をなくすためにあらゆる努力をした Ruppelt や他の者と同じような人間と考えているが、彼らがコンタクト報告を信じないという信念を疑う。私はほとんどの報告されたケースをよく調べたが、あなたも知っているように、単に想像のものであるか希望的観測だけである。

しかし、世界中至る所に本当の思想家のためのあまりに多くの現実的なレポートがあるが、全のこのテーマはどんなものでも軽く破棄される。」

彼への返事の中で私は C. G.ユングと私の、長い会話を報告をしたが、彼はむしろ楽観的に考えていた。

私は、ある程度は、ユングがむしろ奇怪ないくつかの経験を信用させないようにするかもしれないが、アダムスキーのようなコンタクトストーリーに関する彼の疑い深い態度は全く本物だったと書いた。

私の心の中のユングはもう 2、3 年、彼が生きていればいくらかのコンタクトの主張を受け入れたことを知っている

我々が次に人間自身の宇宙旅行を議論したとき、私は彼が、冗談で、言ったのを覚えている：

その場合は、あなたが正しいかもしれない：

いつか着陸して、私のような年をとった人の手と握手することはないとしても

我々自身がもう一つ別の人類が住んでいる、惑星の大気のまわりから 1 年中ダンスするのを私は見るができるだろうか、

「そして、これを言ったとき、彼の愛情をこめた微笑を私は感じた。

注

A Modern Myth of Things Seen in the Sky, C . G. Jung (Routledge & Kegan Paul Ltd, London, 1959) 2 FSR Vol 9 No 4 1963 3 Space.

Gravity and the Flying Saucer, Leonard G. Cramp (T. Werner Laurie Ltd, London, 1954)

11

重力と Flying Saucer (レナード G. Cramp (T.ワーナー・ローリー社、ロンドン、1954)

6 章

予想外の幕間の出来事

1959 年、アダムスキーに、なにげなく自然に、宇宙人に会う機会はある?と、私は聞いた。

「もちろん」、彼は答えた「でも、時間とか場所はわからない。

私自身でさえ、誰のためにもそのような経験を用意することできない。

「私はあなたに、特にその才能があるとはいわない。でもあなたはその才能をもつことができると思う。それでも「テレパシー」のメッセージは期待できないと「彼は、いった。

「どこにあなたがしようと、大切なことはいつも油断なく生きていることだ。」

これは私にはあまりに漠然としていた、そこで、彼にもっと詳しく話してほしいと言った。

彼の答えは、以下の通りであった

「私が言えることは、決して言葉では確認できないということである。

あなたがテレパシーで受けた感覚を持ったら — その人に向かって あなたの考えを返しなさい。

力をこめてあなたの考えを投げる、あたかもテニスボールのようにすぐにそれを返すのだ。

あなたの予感が正しいならば、それが彼にあなたの意志を伝えて、ジェスチャーまたは微笑で答えたり、あるいは、頭でうなずいてくれる。

あなたが知っているように、答えは、ことばで与えられることはない。

私がいつも言っているように、彼らは率直に言うにはあまりに非常に用心深い。」

その時は、私のように才能がないものにはこのアドバイスがあまり役だつと思わなかった

1961 年 6 月、わたしは、本当にコンタクトした、そして、アダムスキーが言ったように、ことばは複雑ではなかった。しばらくの間、それは独りだけの秘密にしていたが、起った状況をすぐにちょっとした長さに書きとめておいたほど、重要な出来ごとだった。

6 月 24 日土曜日はとても暑い日であった。前日の金曜日に私はサローヤン・コメディを楽しむために地元の劇場に行く予定にしていたがその日の朝、空調のない古い劇場に行くにはあまりに暑かったので私はいかない事に決めた。

私は、何時間もその豪華な椅子に座るのは拷問であることを経験から知っていた。

父と、早めの夕食をとっていたときはコメディについてはほとんど忘れていた。

しかし、突然、父が今年の劇場シーズンは、たくさんあったチケットのボーナスを利用しなかったのは残念だったと言った。なにも考えずに、私は 1 枚もらって、でかけていった：劇場に着くまでたっぷり時間があつた。

父はそのことを話さなかった。そして、私も再びそれを考えなかった。

しかし、通りを歩くうちに考えが変わるほど、依然としてとても暑く、ちょっと新鮮な外気を吸いたくなって川に向かった。突然、私は足を反対に向けた。この日、何が私を劇場の方へ突然振り向かせ、歩かせたかわからないが、劇場に向かった。

劇場のロビーに入ると私は、ほっとしたが、キャッシャーの机の上に掛かっている『売り切れ』の注意を見た、そして、ちょうど帰ろうとしたとき
チケットの販売員は、枚数を尋ねるサインを出した
『1枚』と言った、でもバルコニーの最前列だったら買うけど。」
「ありますよ！」
「「ちょうど今返されたところです。」と、彼が外に大声で言った。
もちろん、私はそれを買った。
後になって、その晩どのように劇場へ入ったかを思い出すと、この前の段階で起きたことは重要になった。
この暑さにもかかわらず、劇のチケットは売り切れだった。
幕間に、誰もがロビーに出てきて高い窓の1つから入ってくる新鮮な外気にあたって、バーで飲物を飲もうとした
3つの両開きのドアは大きく開かれていて、タバコを吸うために私は灰皿が載っている小さなテーブルを見つけた
タバコに火をつけてあたりを見まわすと、みんな疲れきっているように見えた。
この年最初の極端な熱波に苦しむのは私一人ではなかった。
突然、男性が、私が座ったところから最も離れたドアから入っていくのを見た。
彼はヒナギクと同じくらい元気で、幸せで非常に健康に見えたので、すぐに注意をひいた。
彼の顔は美しい褐色だった、そして、彼の足取りは速く弾力性があった。
彼は、濃い青い目と長い足のすねを持っていた。
彼は外国人のように見え彼がノルウェー人またはカナダ人であるかもしれないと思った。
彼の濃いブロンドの髪は、バックにブラシされていた。
彼は、白いシャツと開いたカラー（60年代初期の劇場に来るときの服装としては普通ではない）をつけていた。
ジャケットは、青で、ズボンは灰色であった、それは彼の足にはとても短いことに気がついた。
視界を邪魔する一群の人々を通して彼が時々見えたが、その足取りは私の心に妙にうったえるものがあつた。
しかし、最初の瞬間から変であつたのは、彼は私にはこれまで見たことのないような人であつた。そして、非常に親しみやすく、笑つた。
他の誰かと間違えたから目を避けなければと思つたが、私にはとてもできなかった：
私は、彼と目を合わせねばならなかつた。
その時彼は満面の微笑をあらわした。
顔の中のあらゆる筋肉は笑つて、彼の表情にはまるで勝利を得たと言いたいような、趣があつた：
『とうとう、あなたを追跡して会うことができた、私はここに、いるよ。』

それは私が微笑みを返さざるを得なかったほど、どぎまぎさせた。それは私には非常に普通のことではなかった。

突然、『警戒』という語が、私の心に浮かんだ、

おそらく彼がそれほど賢く幸せに見えたから。

そして、この伝達された言葉は、『ペニーを落とした』であった、

ところで、彼は、私のテーブルの全くそばにいた。

3メートル以上は離れていなかった、

私は、力強く彼に考えを投げつけた：

「あなたは宇宙人それとも違う？

「まさしくその瞬間、彼は満面の笑みをうかべ、何か言うかのように、彼の目が美しい火花を発した：

『とうとう、あなたはそれに会った！

『そして、何度か強調するように頭でうなずいた。しばらくして彼の笑顔は消えた。

頭でうなずいて手と腕で強調したジェスチャーをすると、バレエダンサーのようにゆっくりとくるっときびすを回転させた。

彼は、これを3回して、それからす速く去っていった。

知らない人が、なんと、私の考えに答えたので、しばらく魅せられて座っていた。

なんという質問！

2年前にジョージが私に話して以来、常にこのメンタルな方法を考えてきたので、無意識にやっていた。

テニスボールをすぐになげかえすように、考えを放り投げ、それは知らない人を打った、そして、答えがきた。

アダムスキーが言ったように、笑ってジェスチャーで答え、頭でうなずいた。

そのあとすぐに、私は彼の後について人々が上下に歩く通路に行った。

そこで、再び彼に会った。シンプルな洋服を着た若い女性をつれていた。

2人とも、彼女の足からすべり落ちたサンダルを見ていた、

私は彼らの非常にそばにいて、ドアの近くに立っていた。

その人がわたしをみつめ、その女性が振り返ったとき彼の考えは直接私に響いてきた。

それ以外の何も、そこになかった。握手もなく会話もなかった。

そして、私は全く動かず、彼らに行かせた。決して女性は私を見なかった。

劇が終わる前に、2人は建物を出るにちがいがなかった：幕が降りた時、私は劇場を出る人が見える通路にいて、ずっとみていた。彼らは群衆のなかにいなかった。

しかし、20年後の今でも再び彼に会うならば、その男はおぼえているだろう。

この経験は私の前向きな考えと力に対して決定的な衝撃をあたえ、精神的、感情的エネルギーと決してぐらつかない確固とした信念が私にプレゼントされたこの日のことを忘れることはできない。

これは非常に困難な年月を通して、UFO 調査をやり通すのを援助し、私がバランスを失うことから守ってくれた。

似たような経験を持つ人々に私が出会ったとき、人生の素敵な時間がうまれた。

たとえば、ケルヴィン Rowe がいる。その人に、1976 年カリフォルニアで最初はティモシー Good と一緒に会った。

彼のコンタクトは私より何回も多かったが、誰にも知られることなく宇宙人に会うことから始ったのは、典型的である。

彼は私と、同じぐらいコンタクトの準備はできていなかったが、彼の冒険を書いた本の最後に、つぎのように書いた：

「...他の人は人生の大きな取引を見のがすが、油断のない人は有益な体験をする。

注意深い男は、よりたくさんの認識と豊富な理解力を持つ人である。

「ケルヴィン Rowe、はちなみに、彼の本を我々の兄弟と姉妹つまり、惑星からの訪問客の本当の現実を実体験した『夜明けの軍人』としてジョージ・アダムスキー氏に捧げた。

「ところが 50 年代後半の世界のいたるところで、ルナティックな過激な霊媒を有頂天にするようなことが突然、流行になった。彼らがトランス状態で受信したメッセージは、地球を回っている宇宙船のなかに住んでいる実在から来たと宣言された。

トランス状態でスピリッチャルな存在から受信したメッセージは何世紀もの間報告されたが、アダムスキーのようなコンタクトストーリーが出た現在では、多くの霊媒は心を変え、送り主の起源を宇宙船にした。私は本能的に、始めからそのようなレポートを拒絶した：

全ては、あまりにご都合主義的に聞こえた。

英国のジョージ王の講演の記事は特に信じやすい群衆を魅了した。

王は、宗教的なアシュテリウスソサイティを創立した。Aetherius Society はまだ全盛で、少なくとも、こうしたグループの金をつくりだした。

1959 年のデズモンド・レスリーが設定したロンドンでのアダムスキーとの会話で、ジョージ王は、アダムスキーの宇宙の友人とコンタクトしたと言った

いやはや、彼らは心霊現象またはサイキックな発現とは関係がなかった。

その年の後、王は降霊術師会議をカリフォルニアで開き、それにふさわしい山の上に召喚されトランス状態に入って全てを見、『宇宙霊』から『罪』を『再聖化』しろという命をうけたと報告したー

1962 年、8 月、劇場の中の出来事の後、『ある 2 月の夕方、予想外の訪問客がきた。

ジョージ王がヨーロッパの神聖な山に彼を派遣したと話すイギリス人がきたーその 1 つは、ダボスの近くのグリソンにあると、彼は言った。山の名前を忘れてしまったが、彼は私が知っているはずだという。

訪問客はダボスまでの鉄道運賃を払ってくれる人を探しているのかなと思った。

そうした人間では私はなかった。男は登山装備を持たず、ダボスは雪に埋まっているので疑問があった。彼が怖くなり始めた。上の空で、夢の中で生きているのかもしれないと思っ

た。大きな手と赤いあごひげをもつ、巨大な男であった。

私は彼をリフトのある場所においており、『私』の警官に電話をかけた。（彼のポケットにホテルに宿泊するためのお金をいれて）（彼はその警官に世話になって次の朝を迎えたが、再び私の家にやってきたちょうどその時、偶然私は2、3日間一人であった。

警官は彼が非常におとなしく、親しみやすかったと後で話した。ドイツとの国境近くに行つて他の訪問地に向かうまで、警察署で熱いスープを飲んだ。

彼は感謝して、警察署に私のために神聖な山の前に立つキリストのような人物が描かれたポスターを渡した。

コンタクトを主張する多くの霊媒の中でチリからきた『Michalek』と呼ばれた人が彼の住むドイツの UFO の熱狂的グループを特に混乱させた。

彼は宇宙人々から伝達された怪しい予言を話した。次におこる天罰（地震と洪水の運命）を語った。

彼は保護され案内された惑星間会議で、自分自身を我々の惑星の選挙された統治者と自賛した。

2、3年後、突然、表面から消えるまで、彼の組織はかなり成功した。

ジョージがヨーロッパにいる間、このようなケースを話し合った。

常にアダムスキーは仲間に霊媒とのコンタクトの話に誘惑されないよう訴えた。

「霊媒のトランスメッセージの送り主を、あなたは、決してチェックできない」としばしば言った。

「あらゆる偽りの精神または悪魔的な偽者の名前は『Ashtar』アシュターまたは『Aetherius』アシュテリウスであり、宇宙船でやってきたとあなたに話す。私はこれらの実在がだまされやすい霊媒を使って市民を墮落させる最大の力を持っていると思う。

「ある時、ジョージは我々に、彼自身簡単にこうしたトランス状態にはいる方法を練習できたが、もし関係のある宇宙の友人がやらないように強く忠告しなければ、自身を催眠術にかけることもできたと話した。

彼らは、「こうしたことへの地球の人間達の理解は、非常に制限されていると説明した。

「アダムスキーはそのような危険なゲームが問題を混乱させると我々に警告したかった、そして、私が知る限り、コンタクトを確立するようにしたかった何人かがトランス状態を通し、または自動筆記をしていたことを知っていたが、アダムスキーの仲間の全てはこの原則を守った。

私にはこのような才能がないし決して誘惑されたことはなかった。

しかし、アダムスキーが『少数の過激派』と呼んだものが私の友人グループの中にあり、私自身の発達への障害になっていることを本当に心配していた。

金属的宇宙船から生身の人間が来たという考えをなかば受け入れて、仲間に入った、2人の青年がこうした本を読んで関心が完全に霊媒のグロリア・リーに移り、その時から、これ以外に UFOS 問題の考え方を受け入れなくなった。そして、他の者が影響されてグループ

から、去ったことがあった。

私は、もう一つのミステリー（心霊現象）で他のミステリー（UFO）を説明することは見込みがないという信念を常に持っていた。

宇宙からの訪問者がサイキックな分野でも、非常によく調査し、知っていて、こうした分野でも前進すると確信しているが、二つを混同することは破滅的だといつも思っている。まず第一に、身体的な存在としての宇宙人が認められ、受け入れ、信じられなければならないとおもう。

ジョージ・アダムスキーの態度は、明白で論理的だった。

彼は 1957 年、すでに『超自然対円盤』と題して **Flying Saucer Review** に記事を書いた。そこから引用すれば：

「...超自然的現象の多くの擁護者は、惑星間旅行のためにかなりのスピードが必要であることを議論の基礎をおく。

生身の人間の体がこれらの速度に耐えられないという事実を勝ちほこったように指摘する。惑星間の旅行者が現代の飛行機と同じ原則で、宇宙船を建造するならば、これは真実だろう！

従来のデザインでは、そのような素晴らしい速度に耐える『エーテル』の飛行機と『おぼけの』パイロットを要求する。

しかし、訪問客は、全ての惑星が最も巨大な宇宙船であるという自然の本性に着目した！地球を含む、全ての惑星は、巨大な宇宙船である。

地球は、毎分 18.5 マイル以上のスピードで毎日その軸を中心に自転する。

同時に 1 秒につき約 162 マイルで太陽の周辺軌道に乗って回っている！

我々は地球の大気圏の中の生活でこの運動を感じないが、地球は太陽の周辺軌道を、1 年で 6 億マイル以上旅行する。

宇宙船のまわりに惑星と似たような状態を人工的に作って包み込む。それはフォースフィールドと呼ばれている。

問題なく的確に、宇宙旅行をすることを望む前に、まず操縦システムの保護のためにこの状態を作り上げなければならない。

今、直線軌道に限定されない宇宙船の、フリーな空中飛行の可能性を考えよう。それは、我々の究極のゴールである。

この点ですでにゴールに達した宇宙人をミステリーのおおいに包み隠す理由はなぜか？再び、なぜ、『霊のおぼけ』が宇宙船を必要としなければならないか？

これらの熱狂的信者は、常に、自由に宇宙を通り、自由に宇宙船で飛んで行くことができたと話した！2

・ルーシーMcGinnis が 1959 年 3 月に我々にした。「どれぐらい多くの霊媒がアダムスキーのために『特別メッセージ』を出したかを知ると、驚くでしょうと述べた。

宗教と形而上学の全てのブランチは、彼を『教化し、封鎖しようとした。

霊媒を通して話す実在は何もなく、単なる物まねタレントであるとアダムスキーはしばしば繰り返した。

「どんな形であれ霊媒を過小評価しないことである」彼が、通信員にドイツで書いた「しかし、誰から、そして、どこで、受信したか自信がもてるまで彼らは事前に多くのことを学ばなければならないということは言える」

他のどんなことよりも 1950 年代後半、霊媒から伝播されるメッセージは、彼の仕事の拡大にブレーキをかけた。

彼が時々落ち着かず、冷笑的になるのを誰も不思議に思わなかった。

彼の信憑性が、降霊術師のサークルの報告で徐々にむしろまれるのを見ることは、手痛い出来事で、2、3 年後には、宇宙人との新しい宇宙的交流計画は断念されたようだった。宇宙人の『インド人のような指導者』は良い仕事をしたかもしれないが、結局、再び彼のところに戻っていった。

アダムスキーはその時英国のジョージ・王のような人々によって送りだれた成功した霊的メッセージの別の意味を知っており、降霊術師によって作りだされた混乱で利益を得る集団が存在することを知っていたので、より危険な副作用があるとわかっていたおそらくただ一人の人であった、そして、一団の人々はその豊作を喜んで収穫した。

1959 年に彼は匿名の危険な秘密機関の活動を、すでにほのめかしていた。そして、秘密機関自身はそのようなグループに関係せず秘密のチャンネルを通して彼らを増大させサイキックな理論をプロパガンダした。

科学と産業の中の人々の UFO 報告に対する人々の関心を抹殺し、理解が増大することを防ぐのがこの機関の仕事であった彼は言った。

さらに、我々の大気圏にいる宇宙船によって使われているエネルギーの新しい夜明けを妨害することは彼らのビジネスであった。そして、明らかに我々の新しく開発された航空宇宙のテクノロジーも新しいタイプの燃料も使用されなかった。

『彼らの不安には、根拠がある』、とつけ加えられた。

「彼らは、サイキックな説明を何よりも展開する正当な動機がある。」、無意識に、多くの霊媒達は、アダムスキーの最も厳粛な敵の手に握られた、優秀なトランプカードになっていた。

サイレンスグループはエーテルの宇宙船の乗員からのメッセージを、信者を救う準備ができていた天使のメッセージとして読まれることは全くの喜びであった。UFO 訪問をこのように解釈しないものは彼らの悩みの種であった—それはアダムスキーであった。

この状況は、20 年たっても少しも変わっていないと、私は信じている、そして、宇宙人々から来たというサイキックなメッセージが今日ではあまり公表されないかもしれないけれども、UFO 調査に対するこれらの破壊的な影響は一般的にはさらに強くなっている。

かつて、トランス状態で物語が話されたと聞いて、UFO 問題への人々の最初の関心がなくなり、その結果、平均的科学者の態度は変化した。

誰が、それを非難することができようか？

結果的に、宇宙船で使用される驚くべき推進力システムという最も重要な科学的テーマはテーブルの下に隠され、その問題はいまだに残っている。

それを忘れる去ることは、論理的必然であった。「なぜ地球上のおぼけは、宇宙船が必要なのか？」とアダムスキーは、書いた。

注

1 A Call at Dawn, Kelvin Rowe Monte, California, 1958) 2 FSR Vol 3 No 5 1957
Understanding Publishing Co, EI

カリフォルニアの Dawn、ケルヴィン ロウ モンテ を呼び出す 1958 で REFERENCES

1 A キャル) 2 FSR Vol 3 をすることを Understanding PublishingCo (EI) No 5 1957
年

第 7 章

ADAMSK と法王ヨハネス 23 世との会見

アダムスキーのヨーロッパの友人は、1959 年から 1963 年までの間、彼の計画と希望に多くの妨害がはいったことをよく知っていた。

彼と一緒に働いた人々との間で問題が予想外に複雑化し、遠くの我々さえ、彼が困難な状況にあることをよく知っていた。われわれのすべては、ルーシー McGinnis が秘書をやめたことが、彼にもグループにも災難であったことを知っていた。

アダムスキーは、彼の思想を伝えるのにルーシーの大きな才能に依存していたことを隠さなかった。

「彼女は、私よりよくやっている」と、かつて私に言った。

1961 年に、彼女はアダムスキーとの関係を断って、仕事をやめた。

私は、この損失をひどく気の毒に思っ、長年ルーシーは私の偉大なペンフレンドだったので、私信で彼のもとを去る隠された理由を知ろうとした。

彼女のこの決定は私自身のハートで感じた疑いと不安に関係すると思った。（この感覚が意味することはだいぶ後になって確かめられた）、しかし、その時は、彼女が本当の理由を決してあかさなかったもので、私は失望した。

グループまたは本の名前を教えることもなく漠然と一種の『古代の知恵の教え』（現在の彼女はそれに興味を持っているようだった）を研究することを暗示した手紙が全ての仲間に送られたことで納得しなければならなかった。

彼女は、次のように続けた：

「... この別離が、私が長い間、聞かされてきたことを実践したいという私の中の強い衝動によることを理解してください。

私は GA の経験を共にしてきた。

『Flying have Saucers Landed』『Space Ships の中に』、の報告、そして我々の数えきれない手紙、これらを私の人生と同じくらい長い期間支えてきた。そして私は最初のコンタクトの証人でもあった、これは覚えておいてください、私は真実であることを知っており、これを決して非難することはない。

無理もない話だが、GA は私の決定に非常に混乱した。

それは、我々の誰にとっても簡単なことではなかった。

しかし、私の中の強い衝動は、呼吸するのをやめれば、生き続けることが出来ないのと同じ様に押さえることは出来ない。」

これは感動的な手紙であった、しかし、ものごとを明確にするにはあまり助けにならなかった。

1963 年 5 月 23 日アントワープ経由で、アダムスキーは再び Basle バーゼルに到着した。

彼はつくとすぐに、仲間のドラ・バウアー、メイ Morlet と私にルーシーに緊急の手紙を書くよう頼んだ。そして、たとえ 2 年経っていたとしても、彼のもとに戻るように頼んだ。成功するとは思わず、我々は能力の及ぶ限りやった。

手紙は、無駄だった。

ルーシー McGinnis は後であきらかになるかもしれない Adamski 自身に大いに関係する理由のために決して帰らなかった。

何かが、ひどく狂っていた。

タクシーでホテルへ向かう間、私は『少年』についての私の疑問に、とても不穏な返事が返ってきた。

私は、彼らは前と同じように、彼のまわりで働いているのかと聞いた。

「それはない」、彼は言った。

「新しい少年のグループが、来ている。

彼らはすべて更新させるために来ている」と私に話し、「これまで私はこれを知らなかったが、遅かれ早かれ確かにそうなると思う」といった。

「この答えに突然寒々しいものを感じ、それは私の一番奥の不安を確かなものにした。

まるで刺激的で扱いにくい挑戦的な子供が来たという重要な変化を言ったので、彼の声は不自然に聞こえた。

私は、1959 年に、彼らがダムスキーのもとを決して去らず、決して失望させないと勝ちほこって話したことを忘れていた。

この後夕方には、彼はリラックスして親しみやすかった。そして、我々にコペンハーゲンでの彼の講演の顕著な成功と、これらを組織したハンス・ペーターゼンの才能を話した。

しかし、私は彼がとても変化したと思わずにはいられなかった。

彼が講師を演ずることに満足しているのを感じる一方で、内側に慎重さがなくなっていた。単純な自慢以外の、私の期待する、慎重さと注意が見られなかった。

新たに加わった友好的な新顔の一部の者の礼儀正しい質問に対してアダムスキーは軽薄に答えた、そして、彼らはすぐに我々のテーブルを去った。

ジョージは注意深く聞き、慎重に答える能力を、著しく無くしたようだった、そして、本当にこの最初の日の夕方は不快であると私は感じた。

しかし次の日に、我々は再び完全な理解と素晴らしい時間を楽しんだ。

時々、彼が 1959 年当時の親しみやすい昔の真実の彼に戻ったとき、彼は親切なウェイトレス・リディアと冗談をいいあった。

4 年後の今、彼は、しばしばちょっと幼稚に聞こえる際どい小話を気楽に語り始めたが、私はこうした時間がうれしく、そして好きだった。

しかし仲間の何人かは、紳士のひざに座るバラ色の天使の小話に、さほど満足を感じなかった。もちろん、彼はこれを知っていた。

彼らに話している間、私を見て、いたずらっ子のように、満足そうに微笑む時は、私

のいちばん好きな瞬間であった。

時々、偶然の訪問客がすぐに帰ると、1959 の場合のように我々の会話は面白く展開した。そのような時は、彼は誰も気遣うことなく内部情報を話した。

前のように、知っている事を正確に言ってすばらしいショーもやれたが、決してやらなかった。たとえば、再三再四、宇宙船の推進力システムについて質問されたときや、しつこい一部の質問者に宇宙の友人は、別の人が証人として宇宙船へ訪問させて、助けないのかと聞かれると、次のように答えた：

「とくべつ目新しい考えではない。彼らは、かつて宇宙船に私がとても認めてもらいたかった若い友人*を乗せる予定だったことを知ってほしい。(注 *デズモンド・レスリー)

だが、秘密に、この人をテストし、彼があまりに若く、秘密を守るにはあまりに野心的であると考えた。あなたは、この秘密というのが宇宙船の中心をまっすぐ通る棒は透明だが真空ではないことを知っているはずだ。科学的な知識をもつ者だったらその機能を研究して、推測できるだろう。とにかく、私はそれを理解した。しかし、あなたが知っているように、宇宙人は常に推進力の秘密を漏らさないように非常に注意している。」

その 1963 年の訪問で最も刺激的なニュースは、アダムスキーが法王（ヨハネス 2 3 世）とアポイントメントをとったという驚くべき事実であった。

「あなたは、再び私をローマへ連れて行かなければならない」と、彼が突然、言った。

そして、メイと Morlet（我々のベルギーの仲間）と私は共に、行動した。

アダムスキーはコペンハーゲンで宇宙人から受け取ったと言った、法王に届ける小さなパッケージと、自分の搭乗券を持った。

我々は、5 月 30 日にローマに向けて出発した。

彼は 5 月 31 日土曜日の午前 11 時に聖ピエトロ大寺院の前で待つと我々に話し、メイと私はその時間に彼と会った。回りを見回し、我々はゆっくり幅広い中心階段を降りて行った。

2、3 分たった時、ジョージは叫んだ：

「ここに、いたー私は会えた！ここで 1 時間後、私を待っていてください。

「彼は速足で階段を降り、左に曲がった。

彼がスイスの警備員が配置された有名な門を通ることを許可されたので、私は右に目を向けた。

躊躇せずに、彼は、ドームの左に歩いて行き、開いたドアの後の木で出来た高いエントランスゲイトに気がついた。そこには小さな木戸があった。

このドアが部分的に小さく開けられ、中にいる男が控えめにジョージを手ぶりで招いていた。彼は聖職者のローブを着ておらず黒いスーツだった。私は彼の胸の、白、緑と赤の、何か色のついた材料に気がついた。光る絹のベストの一部か、何か金属プレートのようなものだった。距離が離れていたために、彼の細部の特徴まで見ることはできなかった。

また、視界を立ちふさぐ集団が、あった。

ジョージがバチカン内部へ入場出来たことが、法王との会談が許可されたことを必ずし

も意味しないことを知っていたけれども、メイと私は興奮していた。

朝、新聞はジョン法王の健康悪化を報道していたので、むしろ疑問に思っていた。

アダムスキーが入った門は、スイスの衛兵があらゆる訪問客をチェックする普通のものとは違い、多分、毎日の訪問客のリストに彼を記載せず、バチカンの公式記録にこの訪問が残らないようにしたという推測を私の心のノートに書き入れた。

これは、我々が証明しなければならないとき、役立たないとしても、これだけで非常に関心をもたれると、私はおもった。

May と私は、1 時間後に、もどってきた。ジョージはすでにそこにもどっていた。そして、猿のように歯を見せて笑った。私は、これほど幸せな彼の顔を決して見たことはなかった：美しいトパーズ色に輝く目を、私は決して忘れない。

「やったぞ!」と、彼が言った。

「私は、法王に謁見した。法王は私に祝福を与え、私はメッセージを手渡した。」

この日の午後、ジョージと昼食を食べたとき、アダムスキーが謁見することを許された法王のベッドルームはバチカンで最も美しい庭園の一部に向いており、人々が言うように、聖ピエトロ広場の上の部屋ではなかったと我々に話した。そして、彼は内密の話をつけ加わえた：

「たぶん聞きたいだろうが、法王は瀕死の状態ではなかった。ガンで死にかけている人を見たことがあるが法王の皮膚はまだ子供のようすばらしい状態であった。

彼らはまだ手術をしていなかったが、私はすぐに手術をしたと確信している。

法王は、そのわりに年をとってはいない：

ハリー・トルーマンは、80 才で同じ手術を受けて成功している。

「ジョージは、法王のことを次のように付け加えた：

バラ色の頬だったので、病状がそれほど悪いとは感じなかったと言った。

確かに、私が読んだ夕刊にはローマ法王が非常に楽しい一日を過ごし頬の血色もすこしよくなった、と書かれていた

ジョージはこの日の訪問客は彼一人ではなく、彼が退去するとき、もう一人が、部屋に案内されていたと言ったことを思い出す。

それなのに、土曜日の朝のニュースは非常に悪いものであった、すべては泡と消え、ジョージの計算は誤っていた。

その日、昼食でジョージは、胸ポケットから小さなプラスチックのウォレット（ライラック色の）を取り出した。

それは私がこれまでに見たなかで、最も短い銘が書かれ、透明なカバーで保護されていた。

書かれた文字は、非常に特殊だった；

確かに全くローマ字でもなく、また、ゴシックでもない、また、これらはロシア語、中国語、日本語、アラビア語またはヘブライ語でもなかった。

しかし、テキストの下には法王に謁見した日付があった — 1963 年 5 月 31 日。ローマで

かかれた。

ジョージがその小銭入れを開けたとき、我々はくぎ付けになった。

そこにあったのは白い木綿で包まれた、法王の顔が彫られたとても美しい金のコインであった。(プレート 25)、

25



The Ecumenical Council medallion presented to Adamski by Pope John XXIII following the private audience at the Vatican on 31 May 1963, a few days before the Pope's death.
Below: Adamski after the Vatican visit. In the centre of the picture is Belgian co-worker May Morlet, who together with Lou Zinsstag accompanied Adamski to the Vatican.

26



LOU ZINSTAG 1963

後に分かったことだが、それは一般に使用できる新しいコインであった。(売りに出されたがまだ市場には出まわっていなかった)。そして、差し迫っていた、Ecumenical 会議は法王の病気で延期された。

私が手でコインを量ると少なくとも 18 カラット以下ではなく、一確かに 22 カラットはある金貨だと思った。私の父は、金細工の職人でもあった。

2 週後に、コインはヨーロッパの銀行で発売された。私はそれを見に行った。価格は 300 から 400 スイスフランの間であった。

ローマへの訪問の時に、たとえ彼に使わないお金があったとしても、アダムスキーはそれを買うことは出来なかった、そして、バーゼルの場合のように、これまで彼は我々と一緒にでなければホテルを出なかったし、これまで店に入ったこともなかった。

この昼食のとき、アダムスキーは我々にこの会談の詳細をもうすこし話した。

スーツの上に一種の法衣を着せてもらって、彼はベッドルームに入った。

法王は、素晴らしい笑顔で、言った：

「あなたを待っていた。」、ジョージがコペンハーゲンで託された密封されたメッセージを手渡したとき、彼は英語で言った：

「これを、待っていたんだ。」

それから 2、3 分間、非常に柔らかい、低い声で、訪問客と話した。

アダムスキーは、最後の言葉を聞くために法王に頭をさげて近づかなければならなかった：、

「私の息子よ、心配するな。我々はそうする。」

パパの祝福を受けた後に、アダムスキーは退室した。

2 日後、聖霊降臨祭の翌日に、法王は死んだが、その 2、3 時間前に、我々は帰るために飛行機に乗らねばならなかった。(アダムスキーはロンドンへ、メイはブリュッセルへ、私はチューリッヒへ向かった。)

ローマ空港で彼と別れたとき彼は幸せなムードでおり悪い知らせはまだ届いていなかった。しかし、ふたたび会えないと突然思っ、私は、めったに感じない悲哀と、消沈に襲われた。しかしアダムスキーの心からの願いを果たす助けをしたという事実は、別れをより簡潔にしてくれた。

これまで、私はアダムスキーが本当に任務を成し遂げる人であったことを完全に確信していたが、突然、彼の少年のような『プライベートの講義』を思い出した。

私は、法王ヨハネ 23 世に期待され、メッセージが受け取られることを確信していたが、それだけでなく、彼が我々に他の重要な建物（例えばホワイトハウス）の横のドアを通ることを許可され秘密の会談におもむいたことを話した時、私は彼を信じようと思った。

今でも私は、彼のホワイトハウスの話を覚えている。

彼は、カリフォルニアのデザートホットスプリングスの秘密の空軍基地で宇宙人の巨大な母船の 1 つを 2、3 日間訪問するように書かれた招待状をケネディ大統領に届けるよう委

任されたと私に話した

アダムスキーは完全に秘密に訪問をするために、ホワイトハウスの横のドアを通るよう直接指示された。

自動車の列のなかを走っていた彼のタクシーがどのように停止したか、まだ幸せな興奮で熱気を帯びて笑いながら説明した、特別のドアの前に赤い光を点灯させて、知っている宇宙人が立ち、中に招き入れた。

アダムスキーは、ケネディはニューヨークへの重要な旅行をキャンセルして、空軍基地で何時間か過ごした、そして、ケネディは宇宙船での飛行には招待されずに、宇宙船の乗員と長い話をしたことを後で知った。

法王ジョンの死は、ジョージにとって強い衝撃であった。

1963年6月18日、彼は私に手紙を書いた：

「宇宙人は彼ら医者が見えぬ体をポンプで送りこんでいるときは、多くはできなかった。医者は、生かしておくつもりはなかったし、医者は、手術するつもりだった。法王の年齢は死を意味しないし、言い訳である。

「私は彼がその時一人だったと思わない。数人の新聞記者は手術が行えなかったことを疑問に思い、驚きを表明した。

ローマにやってくる前、我々がバーゼルにいたとき、デズモンド・レスリーは電話をかけてきて、ローマの近くのテベレ川の近くの閑静な広場の第7世紀の宮殿の1つに住む彼の兄弟ジャック・レスリーを訪ねるようにいった。

彼に電話すると、ジャック・レスリーは喜んで、我々をお茶に招待した。

彼は非常に素敵なホストで、お客としてジョージ・アダムスキーを迎えることを喜んだ、しかし、ジャックは空飛ぶ円盤にデズモンドのように、はあまり夢中ではなかった、それで他の話題にするのがよいかもしれないと私に話した。

しばらくの間、我々の会話は政治に、そして、法王の病気にと移ったが、すぐに、2人は一般的な哲学的な話題に共通の関心を見つけた。

忠実なカトリックであるジャック・レスリーは、速く、瞬間的にアダムスキーの話題の優先度が宗教の中にないと分かって、むしろ人と自然の進化に話が移った。

私は、アダムスキーが次のように言ったとき、それは我々のホストが特別興味ある問題であることに気がついた：

「進化は、人類のためにあるが、偉大な可能性が植物にもある。

木を見れば：山で、伐られた木は流れをくだり

建物を建てるために使われ、紙のためにミルにされ、または燃すために使われる。

しかし、時々、これらのうちの1つは、美しいバイオリンになり、アーティストが美しく鳴らす道具となる、つまり木の特別の1部は、全くかけ離れた機会と運命をもつ。

木の1片は人の助けを借り、その木自体の内側からの進化を通して、人が前進するのを手伝う。これは、本当の進化である：人と自然は私達と共に展開している。」

サー、レスリー伯爵(SL)と話すことによって、この聖書のなかにあるような美しい寓話が聞けることができた、私は、言ってもよいと思っている。

ジャック・レスリーの宮殿には、2、3本の木と、絵のような古い広場と、前世紀に宮殿の貴族の使用人と家畜のいた小さな古い家があった。

小さくていくぶん荒廃したチャペルはまだ広場の中央に立っている。そして、所有権の一部はそのままである。

レスリー氏はその一階に住んでおり、チャペルは岩から切りとられた聖なる遺品があり、2人の年をとった修道女によって、建物は管理されていると我々に話した。そこに、初期のキリスト教の聖人は避難所を見つけたと伝えられていた。

彼にはこの価値がわかると考えて、みんなは入っていった。

私は、ジョージがカトリックであれプロテスタントであれ、(古くても新しくても)どんな教会でも入ることにたいして、特異体質の持ち主であることをこの時期知っていた。

彼は礼儀正しく、貴重なバーゼルの大聖堂に入ることを拒否し、聖ピエトロ大聖堂にも、入ろうとしなかった。彼は聖霊降臨祭(1963)にあわせ、ホストを喜ばせるために、この取るに足らない小さいチャペルに入らなければならなかった。私は、彼がとまどっているのを感じた。我々が中にいるとすぐに、全く顔色が悪くなった、そして！我々のホストは、寒いのか、と彼にきいた。

彼は、そうだと上品に答えて、我々とともに修道士の遺品の方へ歩いて、メイと、Morletとジャック・レスリーは、そうしたが、装飾された魅力的な祭壇をちらっとも見ず、十字のサインを作りさえしなかった。できるだけ早く、彼はチャペルを出た。

このエピソードは私に、1959年の特別の出来事を再び思い出させた。

私は、一種のミステリアスな人間と一緒にいるのを感じた。

彼は、たとえば、イングランドの古い城や歴史的に重要な建物で特殊な『振動』を感じる特別な能力を持つようだった、そこで、ものすごいことが起きた、それを、彼は説明しようとしたが、私はたんに比喩的表現だと思った。

彼の顔にその影響を見たとき、私はジョージ・アダムスキーが本物の霊媒であると理解したからだ。

前の晩、私はもう一つ別の発現を見た証人であった。

ジョージのイタリアの友人が約12名ほど、家の中で座っていた。Aの母が、ものすごい奇形に苦しむ1つの目の息子連れて来た。それは単に恐怖であった。アダムスキーは少年を非常に気の毒に思って、この奇形が起こった背景を尋ねて、親切に少年と彼の母と話した、そして、彼女は喜んでアダムスキーに答えた。

私は、彼女のことばをほとんど聞かなかった！

私は、アダムスキーの顔の色がゆっくりより深くなって、前方へ乗り出したので、一種の振動が強烈にアダムスキーの頭のまわりにあることに気がついて、少年を見た。

しばらくして、彼は少年から離れて、少年の母に特定の目の筋肉と靱帯が間違っているについて

いるのが問題だと詳細に説明し始めた、そしてちょうどの眼窩の後に明らかにくぼみを見てそれを押し戻すことができるといい、目を本当に大切にできる可能性は手術にあると付け加えた。

涙が彼女の顔を滴り落ちる間、彼の言ったことはすべて私は注意してきいていた。そこにいた A の医者は会話に参加して、ジョージが言ったことに感動するようだった。一番進めることは、彼女の息子を次の日優れた専門家へ連れて行くことで、それを女性に約束させた。

我々のホテルへ行く途中のタクシーでどのようなすべてを知っているように言ったかジョージに聞いた。「あなたは、解剖学者のように話した！」と私は、言った。

彼は、笑って、答えた：

「もし『ブライブレーション』を上げて 私を通して頭の状態を正しく見れたらと思ったが難しかった、

私は、彼によくこうしたことをするのかと聞いた「いいえまったく。

はっきりしたこのような映像を得たのは私にとって最初のことだ、と「彼は言った。

「通常、ちょっとぼやけるか、とっても暗い。

『だれも母の状態を知っていて助けられないのは、ものすごく哀しいことであつた：

誰も彼女の名前を知らなかった。私は手術が成功であつたかどうかまったく知らない。

ローマを去る前に、アダムスキーが到着できないよう妨害して、仕事をじゃまするいろいろな方法を話した。シカゴで講演を行った後に、一度、彼はミシガン湖からもう一つの別の町に双発専用飛行機で飛ぼうと誘われた。

突然湖の上空で完全にエンジンは停止し、最も近い場所にパイロットが飛行機を着陸させるまで『地獄の時間を体験した』。

他のエンジンも、故障の緊急サインを出していた。

パイロットはその場でエンジンを調べて、とても少量の液体を発見した—おそらく、燃料補給の際に水を入れられたのだ。

彼は、第二のエンジンが着陸までの長い時間、動いたのは奇跡であつた、そして、彼が所有者の所へ行く途中、液体が故意に入れられたと言った。

「私には、招待者を完全に信じる準備はできていた」、アダムスキーは言った、「しかし私を招待した人は違っていた。彼はパイロットに責任を負わせ、このことで大変な議論をしていた。」

それは、我々がした最後の会話であつた。

私の心は、再び会わないことを知っていた。

私の中で何かがぐらついていて、それは土星レポートとグランデール書簡に原因があることがわかっていていた。

8 章

分裂のあらわれ

1962 年 3 月 1 日 アダムスキーのコーワーカーは異常に厳粛なスタイルで書かれた手紙を受け取った（第 26 号でそれを発表した）

『兄弟』（彼は時々彼らのことをこう呼んだ）が太陽系のシステムで観察される変化に関する重要な会議に太陽系の惑星の 1 つとして、地球から彼をつれていくという。

その一節は、次のようである：

「..振り返ると、いままでは知られていなかった地球の情報を私は得ようとしている。そのいくつかは、人々に公開してもよいかもしれないが、これは高い地位の人々だけの、秘密である。」

またこの時、アダムスキーと働いている人々が関係する理由を過去生でチェックしてもよいと話した。実際、私は、地球の人々にこれまでに与えられたなかで最も高い教育を伝える特権を与えられたと話した。

「前の手紙の中で彼はそのようなことをほのめかした。私は、彼が達成した仕事を考えると、すでに私は彼を信じていたし、わざわざこのような特権を言う時期は終わっているのにと感じた。

彼の 3 月の手紙のこの正式な告知のトーンが私は嫌いだった。いままで、彼はそのような仰々しい言葉をこれまで使わなかったし、コーワーカーの過去生に対する関心を、これまでほのめかしたこともなかった。

それは最も私を狼狽させた声明であった；

まるでそれは降霊術師の会議から来たように、聞こえた。

以前の手紙で、彼は、土星の上でテレパシーで明確にことばを発信するので、コーワーカーはこの特別な機会に、その思念に合わせるようにたのまれた。

第 29 号と第 30 号で、3 月 27 日の 12 時として時間が知らされた、我々は言葉をテレパシーで受けて、すぐに書きとめることになっていた。3 月の手紙で、彼は我々に手続きに関してより詳細な多くのことを書いた：

「全てのリーダーは、3 日間、同じ時に、瞑想しなければならない地球での異なる地帯のために時間表がついていた（LZ）」。

すべてのリーダーは、気性の合ったパートナーを 1 人または 2 人だけ選ばなければならない：リーダーを含む 3 人より多くしてはいけない。

紙と鉛筆であなたのところへ行く印象を書きとめる準備をしてください。

後で、あなたが正しく受信したかどうか、話します...」

以前から、私自身をテレパシー能力の失格者と考えていたので、『気性の合ったパートナー』

を用意しなかった。

それに率直に言って、私のグループの中にはだれも私と実験を共有する人はいなかった。

問題の日の、その時間は、私は、完全に失望していて、結果についても懐疑的だった。

そのとき、我々のオランダの友人 **Rey d'Aquila** は才能ある若い友人と共に、ジョージのメッセージを正確にことば通りに受信することに成功した。

私が覚えている限りでは、**Rey** はコーワーカーでそうできた唯一の人であった。メッセージは特に私に感銘を与えなかったようで、ファイルに保存していない。しかし、それが土星に集まった彼の友人からの一種の平和な友好的な挨拶であったことは覚えている。

アダムスキーが『コーワーカーの過去生をチェックすると言ったが、私への個人的な申し出はなかった。輪廻の可能性をこれまで私は否定せず、いろいろな転生の理論にかなり精通していたが、その時は、妙に私の資料を提出することに気が進まなかった。

この理由は全く簡単で、話された結論を受け入れ信じないのではないかと私が心配したからだ。

実地的な証拠無しには、旧友を信じることは出来なかったろうが、もし彼自身、別の惑星で私の側で生活を一度したと私に話したならば、正しいと思うことを抑えきれなかったろう。

1962 年 6 月、第 30 号に 3 月 27 日の太陽系の会議に出席したアダムスキーから『12 のカウンセラーへの私の旅行報告』が載った。その最初の一節は、私を驚かせた：

「3 月 26 日に、私はこの旅行のために宇宙船で離陸した。

宇宙船は 24 時がくると、アメリカの空軍基地のうちの 1 つを飛び立った、そこには我国 U.S の高級官吏がいた。政府は、宇宙船乗組員と会議する機会を持った。会議の後、飛行船はその母国の惑星、土星に戻っていった。速度は時速 2 億 m. を超え、9 時間かかる旅行だった。

「アダムスキーが大統領にそれを手渡すために彼自身でホワイトハウスに招待状を持っていったと話したことを私は、思い出した。

それでもなお、この土星レポートは、私のアダムスキーへの踏絵だった。

9 時間の旅行が 2、3 秒で終わってもよかったと彼が書いたことには、特につまずいた。

これは、彼が今まで常に否定してきた、心霊現象とあざ笑っていた非物質化プロセスと全く同じように聞こえた。

私はこれで非常に混乱し、手紙で彼に質問した。彼の身体を使つての旅行について、しっかりした説明と理由を要求した。

私の手紙にすぐに返事はこなかった。しかし、クリスマスの全てのコーワーカーへの手紙で、彼はこの論争の的となる考えを説明しようとした：

「我々は新しい種類の宇宙船に乗っていたので土星への旅行はこれより長くかかった。

私が、リポートで述べたように、本当に瞬く間に到着することもできた

私が説明するものは、スピリッツでの旅行や、物質化、非物質化またはいかなる種類の霊

的方法ではない。

実際にこの方法は我々の知る限り新しい知識である、しかし、現在その方法は科学的サークルでしばらく論議されていた。

このこの名称はテレポテーションである。彼らの持つこの技術は一旦これが開発されるならば、タンクと機械装置を装備した 1 万人の軍隊が一瞬のうちに遠く離れた地点に輸送できると述べた。それはとても気分を爽快にさせ、この法則が極高周波を操作するので、心は鋭敏で非常に高い状態にある。

それは体の形は少しも分解せず、分子を分離させてしまうほどにはきわめて高くない。

私に『瞬きの 1 瞬について説明させてください。』

テレポテーションの法則が 100%使われれば我々は 1 瞬で目的地に着く。

地球から土星まで我々を輸送するのに宇宙船は必要でなく、特別な装置が必要なだけである。これを使用した乗客の形は完全に溶け、彼らの意識だけが、作動する。

しかし、この法則が 100%でなく、5%のみ、少量だけ使われた。このようにして全ての形をその速度に適合させて、彼らが無傷にした。

宇宙船は、その乗客だけでなく宇宙船自体の要因を制御し高速の飛行機または宇宙飛行士を入れたカプセルと同じようにした。

それで、これを 5%にしたために、旅行をするのに 9 時間かかった。

「私の時代遅れの現代物理学の教養では、この説明の意味を理解するのはちょっと困難だったが、一面では、もつれが正しく解かれるならば、意味をなすように聞こえた。

しかし、80 年代になった今、少なくともアダムスキーの『説明』の一部が、よりはっきりした光に照らされ、新しい経験と視点から見ることができるのを感じる。若い

作家ベルリッツとムーアの極めて慎重な調査の後書かれた本「フィラデルフィア実験」

で、アメリカ軍の秘密の専門的科学家グループがアインシュタインの統一場理論に基づいた研究実験によって、船の乗員の奇妙な物質化と非物質化の有名な話が起きたと書いた。

私はこの本を読んでアダムスキーの説明を実現可能なものとして再認識した。

正しくはまたは誤ってか、私はアダムスキーの経験とレポートに心霊主義がそっと入りこんでいるのを見ていた、このため友人のために土星 Report を翻訳する気にならなかった。

私は、それを隠し、忘れようとしさえした。

1959 年に書かれた反心霊主義の声明に私の心が絶えず戻ったことは、ただ論理的な必然に従ったからだ：

プライベートに、彼は他の人々だけでなく自分自身にも催眠術をかけられ、実際被験の専門家だったと私に話した。

私が驚嘆すると、彼は宇宙の友人達と連絡をとるのにトランス状態に入る方法を決して使用しないことは難しいことではないと付け加えた。

1962 年のその当時、私は疑い始めた。

彼にとって、何んで使わない方がより簡単だったのだろうか？

Henk Hinfelaar（ニュージーランドのコワーカー）は、勇気を奮って、アダムスキーにリポートの公開を許可するようお願い出た。

これは許可され、1962年7.8月号の会報で、Henkはその大部分を公表した。

もちろん、これは彼の読者に多くの問題を引き起こした。私が

同じ年の12月、アダムスキーは以下に引用する『国際的な Newsletter』を書いた：

「土星 Report を公開することには高いリスクがあるが、それはいつかは出さねばならないと単に言うだけだ。

その危険はすぐに明らかにならなかった、要望があふれるほど来て、我々のメーリングリストには決して存在しない人々がこの特別の会報を読んだ。

George アダムスキーを信用せず、状況を知らない一般の人々のために、アダムスキーの信頼を失脚させることに必死の D.氏は、我々の No.29 会報の土星記事を複製して、アメリカの新聞は関心を持つだろうと注意書きをつけて、ドナルド Keyhoe とリンドン・ジョンソンに送ったことは、とくに報告しなければならない。

D.氏が勝ちほこって出した、最後の会報をもらった時に、リンドン・ジョンソンからこの答えを受けたことを知った。

これは、次の通りである：

『1962年11月1日のあなたの手紙に感謝する。

あなたの土星の宇宙船の着陸の件に対する私の答え。US 空軍基地にはそのレポートの事実は単に存在しない。しかし、報告されたようなことの想像を禁止する法律はない。

一種の言論の自由に対する検閲か、多くの有害な言論表現かという選択肢しかない。』『私は土星旅行の素晴らしい物語がアダムスキーの個人的なスピリッチャルな経験から——（ちょっとした自己催眠によって誘導されたもの）——生まれたという疑いを消すことができない。

彼の最初の勇気ある申し出にもかかわらず Henk も、同じ疑問に悩まされたようだった。

1964年5月1日に彼の会報に書いた：

「土星リポートに対する悪意ある疑問に対して「我々は以前からの多数の信頼性ある彼の記録に照らしてそれを信用すると答えている。」

この直後、多くの事件が起こり始め疑いがわき起こった、そして、証拠は積み重なり、ジョージ・アダムスキーに大きな変化が起こったことを示し、彼だけがそれを解決できた。

これまでも彼はそうした、しかし、彼には情報源を隠す他、選択肢がない、...一彼は確かにそれを経験し、詐欺師ではなく真実を言ったが、彼があまりに誠意と決意をもって世界に言ったので、彼が防護服を着ても、弱点を見つける名人である破壊者の標的になった。」

今でも、私はこの Henk の最後の一行が敵のテクニックの性質をよく言い表していると思う。我々は、その時に、『鋭敏な破壊者』の武器がどれくらい多く、その方法がどれほど複雑なのか知ることができなかった。

1964年、Henk と私は、似たような結論に達した：

ジョージは、悪の手中に入った。

彼と『新しく用意された宇宙人なのどうか我々は論じた：

とても悪賢い組織的偽造品であった、一群のスパイ（nec.essarily 政府に必要な）（心理学的コントロールと催眠の訓練された専門家）、でなければ、ジョージは以前の、より親しみやすいグループによって確立された問題を混乱させるために故意に彼に間違った情報を流した宇宙人々の新しいグループと接触していた。

そうではないのか？

「彼らは、天使でない」と、ジョージが言った。

「トロイの馬——欺瞞の作戦」の著者ジョン Keel は、『Contactee Hoax』の章の中で被接触者の何人かが『UFOワイロ』によって嘘をついたかもしれないことを示唆したがこれはおそらく良い推測である。そして、これは「彼らの本当の起源、目的と動機づけをあきれるほどすっかり隠蔽するために作り上げた煙幕の部分である。」、本当に Keel の命題がもつ力は宇宙からの訪問者への固定した、否定的な意見を形成しそれらの研究者の説明として用いられた。この中で彼らは完全に多様な可能性を見ることができない。

しかし、彼らの疑いが正しいことが証明されるならば、アダムスキーによる土星レポートは本当に彼の友人の間で誤解をうみ、彼らに目立った破滅的な混乱を作り出し、信用を失脚させる彼らの目的にかなったろう。しかし、私は説明がそんなに簡単であると思わない。

そうしなければならぬ conveniently On がそうするように、

私は今ますます、便利に我々の訪問客の肩に非難を置くこの傾向を再考する。

これは、1978年1月にウォルターBowartによる重要な本を読んだからである

それはUFOのことを書いてはいないが、それがアダムスキーの最後の年、奇妙に変化した活動に、新しい光を投じる。この本は、現代の離れた距離からのマインドコントロールの、極めて驚くべき能率的な一種のパワフルな催眠術の方法を明らかにした。—アメリカの基地で訓練された高度の60人の専門家によるベトナム戦争の強力な軍事的催眠術作戦である。

Bowartの意外な事実は、ジョージ・アダムスキーに関する私の考えに多くの材料を与えた。

1962年10月のグランデールレターに、アダムスキーのコーワーカーは、もう一度驚いた。

Glendale（カリフォルニア）から短い手紙が来た。そして、変なシンボルまたは絵が書かれていた、それは英語に翻訳されそのメッセージは、次のように書かれていた：

「あなたは、良い仕事をしている。

アダムスキーは、我々が支持する地球上で唯一の人である。

我々レシーバーはすぐに変なメッセージをどう考えるか、どんな方針とるべきか互いに『電話や手紙で相談しあった。

みんなは、まずアダムスキーにその確実性を確認することについて同意した。

大多数は、すぐにメッセージに対して答えるべきだとおもっていた —

それは友好的に聞こえたけれども、完全に満足はしなかった、我々の何人かは、むしろ疑問におもっていた。

我々は、このような混乱に影響を受けないよう慎重なジョージによって、警告されていなかったか

それにもかかわらず、私は匿名の手紙に返事を書くことに決めて、友好的なご挨拶をかいで送った、手紙の面白い記号に触れ、外国語に対する私の熱心な関心に触れ、書いた人に対するちょっとした疑問を書いた——たとえば——なぜ、彼らは単純な内容のメッセージのために複雑な図柄を書かねばならないのか？

また、私はスク립ト絵文字が翻訳されたものより意味が非常に豊富かもしれないと考えた。私の中の考えではこの手紙の受取人がしばらくの間、彼の姿とアイデンティティを現したくないとしても、これを書くことで、彼は悪意のないナチュラルな言語で少しは疑問に答えようと思うかもしれない。

これは、誤算であった、返事は決して来なかった。私は、これがとてもうるさがらせたことがわかった。もちろん、ジョージに私の手紙のコピーを送った、しかし、彼はそれにも決してコメントしなかった。

また、2、3日前に、私は彼から手紙を受けたが、彼はどう言ったか：

「他の人のように、あなたはヒエログリフを受けたかもしれない。私は彼らに驚いたり、何か悪く思わない、なぜならば、彼らは我々を助けようと思っているのだから。

長い間ここにいた宇宙人から新しいグループに、取り替わって

おそらく次のステップを確実にする仕事にとりかかりその仕事に満足している。

[私書箱 885]の アドレスに関する限り、彼らが他の誰かとそれを使った痕跡があるかもしれない。後でそれについてはもっとわかるだろう。

たとえ何を見つけたとしても、その理由が、わかったら、あなたに知らせる。」

同時に、5月アントワープの **Morlet** は、ジョージから、より長い説明（私が引用した部分）を受け取った：

「新しい何人かのボーイズは何か考えがある、彼らはそれをやっていく。そして、私は知らされていなかった、しかし、遅かれ早かれ、私はそれをやる。

新しいグループが我々を助けるために入ってきて、前のグループと違った形で進行しても、何もこまることはない。

彼らは、特定の地域に対する検査としてそれを使っている。

警戒しなければならない唯一のことは我々がすでにやり遂げた仕事を崩壊させる目的で混乱を起こさせる何かである、しかし、これは私が見て分かるから、このケースではない、時間がその原因を明らかにする。」

それはむしろ無意味に聞こえた、しかし、根気よく約束された説明を待つために、せめてヨーロッパの、我々自身の間では同意した。

我々は、この不思議な手紙について多くのことは何も知らされず忍耐強く月日を待った。1年後の 1963 年 10 月に —— 私は情報への渴望をもはや抑えることができず、ジョージに約束の手紙を思い出させようとした。第一、私が象形文字の手紙に返事を書いた唯一の

人だったのだから、知る権利があると言った。

「あなたは、私が長い月日..彼らの存在の確実性を支持してきたのは知っているはずだ」と、書いた。

「私の個人的不安にもかかわらず、多くの疑惑を抱えた人に対して私はたびたび彼らの存在を弁護してきた。」 **Glendale** 事件は、その時、たいへん私を悩ませた。

この私のメッセージは愚かに聞こえたーまたアダムスキーのような人によって非常に愚かなことが行われた。

このメッセージを書いた人々は、とても単純であるか、混乱に対して無神経だった。

アダムスキーがこの背景の説明のヒントを与えた時はすでに遅かった。

それまでにたくさんの信頼の陶器は壊れていた、そして、1963年11月6日の彼の手紙は決して親切なものではなく、現在のアダムスキーが、**Glendale** レターが反対者によってつくられ、問題を混乱させるために書かれたことをまるですべて知っていたように聞こえた、それは、確かにそうだった。

彼は、書いた：

「すべてが知られ、彼らが出現できる前は、ことを秘密にしておかなくてはならない。それが **Glendale** の住所と他の事のすべてだ。

あなたに忍耐強くこの時の全ての理由を話した。もしこれがそういうことではなかったとしても誰が何をしていたか、我々は知らなかった。

X 氏の場合をとりあげよう。このとき想像ではなく宇宙人が **X** 氏に火星人は地球人についてあまりよい感情をもっていなかったと話した。

彼らは好戦的な性質の宇宙船の艦隊を持つとさえいった？そう、彼らがコンタクティが欲しかった時、ちょうど **X** 氏がおり、私の情報によれば、その広告を通して多くの人を獲得しようとした。彼らは、宇宙問題の真実を完全に混乱させるために複数の人間の妨害活動が必要であった。」

私は今度は彼を信じたいと思った、しかし、私がそう決心する前に、もう一つの驚くべき出来事があった。

それは、キャロル・ハニー（カリフォルニアで最も役に立っていたアダムスキーのコーワーカー）であった。そして、その人は **Glendale** 私書箱 885 が別の人からアダムスキーのために賃借されたことを秘密の手紙で我々に明らかにした！私はすぐにジョージに解答を求める手紙を書いた*。

彼の答えは、非常に回避的に聞こえる、文章で終わっていた：

「あなたは、常にあまりに深くものを疑う*

マーサ **Ulrich** はこのケースについての完全な情報を持っていない

この返事に対して、私は次の手紙でもう一度質問した：

「これが、疑問を抱く人々のまさしく核心ではないか？」

それから私は続けた：

「あなたは、間違って私書箱を所有した人を知って、それを告発し、自分に無関係であることを証明することを決してしなかった。

あなたは絶対これをしなければならず、コーワーカーの信頼を保持するためには、これがどれくらい重要かは知っていてください。

Carol Honey の告発が真実であるならば、庭園の順路を歩くのに必然的に方向づけられたこの私の疑いは、真実である。「言うまでもなく、私は激怒していた。

そして、より一層アダムスキー問題を複雑にする-

「スペースピープルはコンタクトを求めている」

あなたは、資格があるか？

無料の詳細パンフを手紙で(P Oボックス 885) に注文しなさい。

Glendale、カリフォルニア。」

というカリフォルニアの新聞に掲載された一連の広告をコーワーカーが知らせてきた。

「現在私が振り返ってみると、**Glendale** ビジネスの全ては、助ける者のない傷つけられた人が悪意を持って助言されて、新しい活気を彼の仕事に与えようとした感傷的なジェスチャーと思う。

彼が『少年の新しいグループ』からの新しい考えを受け入れたことを明らかにして何名かの失望したコーワーカーの新しい運動をつくろうとしたが、おそらく彼らのトリックにはまったのだろう。

彼は、なぜその理由を言わないのか？

アダムスキーは、それを扱う方法によって面目を失った。

オーストラリアのブリズベーンのコーワーカー、ロイ・ラッセルは、書いた：

『「...アダムスキーは、彼の原作のイメージを傷つけている。

初期の、彼の世界に発信されたコンタクトレポートは現在でも賞賛に値し価値があるが彼の頑固さは、悪く作用している。

今でも、彼らによって出された **Glendale** レターを承認することで『悪い』訪問者の何人かの後に、ついていくのを彼自身が無意識に許しているのだろうか。

彼らを明確に非難することによって、良い光が出てくるだろうに。

「**Glendale** の事は、彼のコーワーカーと同様、ジョージにとっても災難であることがわかった。

今日まで、アダムスキーの善良なコンタクト計画に非常に反対した人々とプライベートボックスを共有することに彼が同意した理由を知らない。

注

1 Philedelphia Experiment.

Charles Berlitz & William Moore (Souvenir Press Ltd, London, 1979) チャールズ・ベルリッツと William Moore (スーヴェニア・プレス社、ロンドン、1979)

2 Operation Trojan Horse, John Keel (G. P. Putnam's Sons, New York, 1970)

3 Operation Mind Control.

Walter Bowart (Dell Publishing Company Inc, 1978)

9 章

否定の声があがる

1961 年 9 月アダムスキーは彼の知らせるプログラム活動を彼の友人と、カリフォルニアアナハイムの共同編集者キャロル A. ハニーへ委譲する。

これは、彼の公式の声明であった：

「George Adamski はもう一つ別の分野である宇宙哲学と科学理論を教える活動に入って、私の前の仕事を C. A. Honey に委譲した。

Mr Honey は、アメリカ合衆国での私の代理人である。私は世界のいろいろな地域に連絡しなければならない。私は時々彼に情報を与えるので、彼は興味を持つ人々に出来事を知らせることができる。

私は、『ブラザーズ』から、C. A. Honey が最初の私の仕事を引き継ぐことと、新しい役割変更の承認をえた。

これで、私が宇宙原理により密接にコンタクトして働くのに必要な自由を与え、研究のためにその情報が必要な人々へ伝えることができる。

宇宙的運命を成し遂げて欲しい人々を将来指導するためには多くの人々が必要である。

私は、Mr Honey とともにこの仕事が発展するために、能力の及ぶ限り協力したいと思っている。

彼は頼りになり、私と同じように出来ると確信している。

あなたは、常に彼を通して私と連絡できる。」

アダムスキーのコーワーカーは、外で相当の時間やらねばならなかった仕事と背負った責任の重みで、彼の健康はあまりよい状態でないことを知っていた。

オフィス作業の優秀な担当者を見つけるには、彼はたくさん問題を抱えていた、そして、ルーシー McGinnis はこれまで交代なしでやってきた。

彼の手紙は、段々短くなっていった、

彼の声明はしばしば不明瞭になり、誰もが絶えざるプレッシャーの中に彼がいるのを感じた。

私がハニーに歓迎の手紙を書いたように、我々すべてはこれを喜んでいた、そして、その量の少なくなった手紙に、どれだけ心配していたか書いた。

彼が 1962 年 1 月から会報を出すことを喜んだ。

これらのニュースレターを受け取り始めたとき、全ての状況はこうした具合であった。

目新しいものではない、一般的な UFO 目撃が時折発表されるだけだったので、ハニーは常時アメリカ合衆国のその時の最新の宇宙科学と調査でこの事情をカバーした。我々はハニーが特別な任務の専門家としてヒューズ・エアクラフトに勤務しているということを知った。

そして、当然の事として、どのニュースレターも、ジョージによって書かれた哲学のページを載せた。(質疑応答形式で書かれたこれは、特別記事と同様に長年にわたって小冊子にされた)

Carol Honey と私は、すぐに仲よくなった。

彼は、出版物を売ることは考えず、その代わりに我々の協力を求めた。

もちろん、私は協力するつもりでいたしが、交換に、その時世界中から報告された多数の混乱する異なるタイプのコンタクトストーリーを仕分けするのに、彼から非常に価値あるアドバイスをうけた。

この他、ハニーは UFO の本の最低コストの信頼できる供給元であった、そして、我々がヨーロッパで出版物を遅れないで受け取るには、他のところでは不可能だった。

また、彼は 3 番目のアダムスキーの本 (Flying Saucers Farewell) のための共同編集者となったと話した。

Honey は、宇宙計画のためには優れた選択のようだった。

1961 からジョージは、倫理的な基本的問題とキリストの教えに関係する、宇宙哲学と宇宙科学に関する論文を書いた。

彼のコーワーカーの多くにかなり興味はもたれたが、私は彼の入念さがあまりに反復的で時々あまりに理論的でありすぎると思った。

しかし、1962 年 9 月ハニーのニュースレターに、ジョージは私に興味を抱かせる記事を載せた。

そのタイトルは、『いつどのように宇宙人とあったのを知るのか』であった

その 1 節は、次のようだ：

「人々は真実の知識に対する欲求よりむしろ好奇心から宇宙船に乗りたがる。

我々が必要とすることにとって、これは価値がない。

極めて少数の者しか、彼らの意識と全宇宙意識が融合できないのと、他の多くの理由から時折ある人が資格を得る。

多くの地球の人体は宇宙旅行での拡張に耐えられない。

あなたはこれが楽しい旅行のために必要であることを知っている、それでも、あなたはどれくらい意識と宇宙意識とを一体化できるだろうか？

多くの者はできない、なぜならその人のパーソナリティまたは自我 (感覚・心) を犠牲にし意識の命令に従わねばならないからだ

なぜなら、そこではマインドは主人である創造主の意識の使用人だからだ。」

これらの短い文に私はむしろ苛立たった。

私は、もう一度コンタクトするというわずかに残っていた希望の全てが、なくなった。

これまで私は宇宙船にあまりに興味を持たず、乗船することを夢見たことはなかった。私が宇宙からの男か女に会って、話すことを望んだだけであった。私は資格をもたないと思った。

アダムスキーの方法と、その経験を繰り返したくなかった。

他方、ハニーは魔法に関するアダムスキーの記事に関して私と意見が同じようだった、そして、彼らの関係はこのことで苦しむにちがいがなかった。

1963 年 10 月に、ハニーは「ジョージの最近の記事は、これらを私が発表できないほど、隠された秘密を書いた。」

彼の言うことを明らかに証明する 2、3 の photocopy が手紙に添付されていた。

ニュースレターの中のアダムスキーの記事に関して彼は「宇宙計画が生き残る唯一の道は、宇宙人を排除することだろうとつい言いたくなるほど、否定的になっているとハニーは書いた。」今では、前の 2 人の友人の間で始まった手紙での論戦はぎょっとするような状態になってきた。

このカリフォルニアでの論争によって、ヨーロッパの同僚はいろいろな点で分裂することは、必然的だった。

この過程で私は最高のペンフレンドの何人かをうしなった。

我々は、言われたより、裂け目が非常に深いことをすぐ知った。

2 人が関係する宇宙人に対立する 2 つのグループがあるように見えた。

そして、アダムスキーとハニーの間で著作権の『盗作』問題の抗争がうまれた。

ハニーはいたずらに人を驚かす手紙を公表しないようにした

アダムスキーのしたことが原因でどれくらい周囲に害を与えたか知るべきだ。

私は、ハニーの懸念を支持せざるを得ず、1963 年 10 月に彼に書いた、

「人より原因は重要である、しかし、それは私自身を傷つけ、ジョージも傷つける。」、同じ時、Henk Hinfelaar はジョージに手紙を書いた：

「あなたの手紙は無愛想にキャロルハニーは方針に沿って動かず『不正グループ』の犠牲者であると訴える...私はこの告発を立証するものが何もないのではないかと思う...ハニーの親書と同様にハニーの会報はかなりの洞察と常識を示すと思っている。」

10 月 29 日の私の手紙も、同じ文脈で書かれた：

現在ハニーを通してたくさんのことを我々は学んだが、それは正しく、あなたが慎重に彼を選択したことは正解だった。もし彼が真実でないというなら、神の名に於いて彼に反論してください。？

私は、あなたを勇敢な人と考えている。

状況がこうならば、あなたの勇敢な精神は間違いをいさぎよく認めなければならず、この手紙をあなたがどう読もうと、私の好意と祈りが伝わると確信している。」

ジョージの返事は、完全に私はキャロル、ハニーの『宣伝プロパガンダ』に陥しいれられたと非難した。確かに、彼の手紙のあらゆる部分には、離反したルーシーの幽霊が、忍び寄っていた。彼の返事のほとんどは私の議論と少しもかみ合わなかった。しかし、私は最後の一節を引用する

「Mr Honey と彼のグループだけが、真実についての勝者になり、私は苛立たしい犠牲者

となる。あなたは私との個人的関係と文通では、よい事は何も証明してくれなかった。

あなたが彼の宣伝を受け入れたことは、時間の浪費であったと思う。」

その後まもなく、アダムスキーのコーワーカーは、ハニーから長い説明の手紙を受け取った。彼が共同作業をやめるという突然の決定は、適当で論理的だというのである。

彼は、書いた：

「土星旅行に関するアダムスキー氏の主張は、心霊主義者の同じ種類の経験報告と、完全に一致する。それは『ブラザーズ』によって誘導されたアストラル経験の完全な描写である。そして、あなたは覚えているだろうが、アダムスキー氏が書いた『UFO 分野の中の詐欺』は、私の前の記事に書いた方法を使用している。

私がアダムスキー氏が心霊的な旅行をしたと思い込んだもう一つの理由は、彼がおおよそ 2 年前トランスで霊媒能力をえたという事実である。

他の数人の証人と一緒に、私はいた。そのとき、アダムスキー氏はトランス状態になって、オーソンが彼の声を使用して徹底的に話し始めるた言い出した。彼が長年非常に強くこれを教えられおり、彼はいまそれをしている。彼は、この場合は異なると言う；

彼以外の他の全ては、詐欺だというわけではない。彼は、ブラザーズが情報を伝える時は、普通のトランス状態でなくて、『催眠状態』であることを私に保証した。ナンセンス。

彼が他の霊媒とは異なっているという考えはナンセンスであり、同時に彼は、『ブラザーズ』に催眠をかけられたことに同意する。私は、彼の土星旅行がこの様に生じたと思う。

アダムスキーの砂漠での最初にコンタクトと、彼が宇宙航空機に少なくとも 2 回乗ったことは全て絶対に事実である。どれもアダムスキーに関連しない、いろいろな情報ソースから私は証明できる。

また、これら 2 台の宇宙船が多くの政府情報機関に知られているという事実である。

それはまた、彼の最初の 3 冊が少なくとも 95%は正しいという事実である...私は、アダムスキー氏自身が宇宙人々に扮した人とサイキックな道具とになることを許したことを確信している。私の報告したような本物の宇宙人々がこのようにするとは思わない。」

こうしたことにもかかわらず、ジョージと私は、2、3 月間全く一致していた。

全て正直に、友情を維持しようとしていた。しかし、彼は、単に私が宇宙の変化に一致するために意識をどのように使うか知らなかったからだなどと、くどくどと、ますます弁解するようになった。彼が何度か認めたように、それぞれの国で彼らが非常によい仕事をしたことを考えれば、アダムスキーの全ての仲間に出された声明は不公平だった。

どうして彼に、この中の一人が資格がないと、いえるのか？

そして、我々の中で、『興味本位の見方』が多くなったのか？

私が知る限り、誰もこれまでにテストされたことはない。

我々は、多分 1962 年にはあまりに素朴だったのだろう。

我々は、まだ、本と記事に、最初の場所にいた人たちのことを書く際に、勇気と忍耐を同じぐらい持ち、ジョージのように完全性と知性をもつ人々であったと書く事が必要だと

考えていた。

『いかに宇宙人を知るか』という記事をニュースレターで見る前に、私はデズモンド・レスリーに会うためにロンドンに行ったが、彼がこの主題に関してもう一つの本を書くかどうか尋ねた：

私は、彼が強くいったことを思い出す：

「そう、私は最初の一人だけで物語を書いて、その中に私の個人的経験を書くならば、喜んでもう一つ書くだらう。私は、他の人達の冒険を書きたくない。」

確かに、レスリーはいくつかSFを出版した、その一つ// (The Amazing Mr Lutterworth) は75パーセントがノンフィクションであった、もちろん、主人公はジョージ・アダムスキーで構想したと、彼は言った。

デズモンドは宇宙人によって次の機会を与えられることを熱烈に望んだ、しかし、彼さえ資格があるとみなされなかった。

一方、私は宇宙哲学に関するアダムスキーの作品にあきたと、認めなければならない。これらは大甘の道徳を説き、たびたび不思議に的外れだとわたしは考えた。

1963年1月、宇宙人の存在さえ私の国では拒否されているのだから、スイスで宇宙哲学に関する彼の作品を私が翻訳することは無理だとジョージに話したと Carol Honey に書いた Flying Saucer Review は全てのコンタクトに対して慎重な疑いを採用したことは否定的態度を意味するわけではない、むしろ彼らを抑制しないという宣言でもあった。

キャロルハニーの投書は編集者 Waveney Glrvan による用心深い前置きで掲載された我々の「全ての考え方を許す方針のもとで、

その中に含まれる考えが正確かどうか知らないし、どんな責任も負わずに以下の記事をそのまま発表する。本稿の中で、ハニーは、スペース人々との彼自身の接触の正式な声明をし、そして、彼のコーワーカーへの次の手紙の中で——このコピーが Waveney に送られた—FSR の疑いに対して礼儀正しく答えた：

「どうか、FSR 誌をアダムスキー氏と私と一緒に考えないでください。

編集者は、私から情報を受け取るだろうが、アダムスキー氏と私のどちらも、人々によっては詐欺的に受け取ることを考えると、わたしはすばらしい出版物の評判を壊したくない。編集長が信じ、公表したいと思うような声明だけが、公表すればよい。」

私もこう考えていたが、Waveney も又こう思っていたと確信する。

ハニーの最初の会報を掲載するにあたって、我々はこれが「ジョージ・アダムスキーと彼のコーワーカーから認可された唯一の USA 情報源であると話した。」

同じ号で、ハニーは、彼もジョージも決して「宇宙人とのいわゆるサイキックなあるいはアストラルなコンタクトを支持しないことを明らかにした。」

この後の会報で、ハニーはより簡潔にこれを書いた：

「円盤にのって来る宇宙人は、——私は正式な権威者ともに言う——地球の人々と情報交換するために ouija ボード、自動筆記またはトランスを使うことはない。

そうすると主張するどんな人も、計画的な詐欺を完全に誤解したか信用した人であり、欺かれたのだ。

テレパシーはトランス状態を決して含まない、そして、トランス状態の方法によって送られたものではないメッセージは受信された。

「これは「あなたは、送り主をチェックすることができない」というジョージの繰り返された警告と一致した。そして、しばらくの間少なくとも両方の著者は一緒に硬く信頼しているように見えた。

しばらくして、ものごとはより複雑に見え始めた。

アダムスキーは、突然、魔法（特にブードゥー教崇拜練習）に関する一連の記事を出した。私は彼に針で胸を刺したブードゥー教の人形が送られたことを知ったとき、私はジョージの個人的懸念を理解した、だが、市民に広くそのような情報を公表する必要性はなかった。たとえそうでも、私は彼が公表するよりむしろなぜそれを無視しないのか疑問に思った。驚いたことに、たとえみんながアダムスキーのこれを主題にした小冊子を持っていたとしても、**Carol Honey** は突然、彼自身でテレパシーの習得のための完全コースを発表した。私は、ハニーのコースに署名することに同意し、しばらくの間彼の指示に従おうとした。アダムスキーの様に、ハニーは少なくとも 1 人の適当なパートナーが実験に必要であると主張した。一番望ましいのは近所に住んでいる人であった。

私はそのようなパートナーを見つけることができなかったのも、私はコースを習得するのは出来ないと考えて、止めた。

私は、まだ前の失敗と挫折を思い出して、受け入れるのは難しかった。

また、アダムスキーは悪名高い **Glendale** 私書箱の彼の共同所有のことを否認しこれまでに手紙でも、印刷物でも『スペース人々は、コンタクトを必要とする』という広告に関する私の質問に答えなかった。

．他方、キャロルハニーは、アダムスキーが会報で発表することを拒否した文書の写真コピーを送ることで証明した、

これらは昔のアダムスキーによっては書かれず「嘘の情報を渡すにせ宇宙人を信じた新しいアダムスキーによって生じた。

「ロンドンに私が次に訪問したとき

Waveney Girvan と **John Lade** の両方が、**FSR** は再びジョージ・アダムスキーの名前に言及しないと決定したことについて私に話した

彼らはまた、いやはや、同様にキャロルハニーも取り上げないと考えていた。

私は、彼らを非難できなかった。

長年にわたってアダムスキーのグループが協力し、刺激的な実り多いテーマを取り上げてきた最高の雑誌の悲しい終幕であった。

ハニーに失職を知らせることは、私の仕事であった。

1963 年 9 月に、ハニーの通信は「...宇宙人は、彼らの計画を正常化するために、ついに『大

掃除』を始めた」という情報をもらった。そして、続けて：

・「現在の 日付— 9 月 17 日 — で GA が名づけた『ブラザーズ』は避けられ、スペースピープルの計画はもはやない。

その『ブラザーズ』は、GA の本でコンタクトしたスペースピープルではない：

それはオーソン、ラミューその他ではない。かれらは長い間、我々の間に住んでいたが『戻って』交代した。彼らは今までのやり方を修正するあらゆる機会を与えられ、催眠によって GA の心に植え付けた間違った考えを修正しようとしたができなかった。」

私がこれらの文章を読んだとき、あまり気分のよいものではなかったが、私にはこの情報をチェックする方法はなかった。

私は、ハニーの会報を受けとって、2、3 年の間彼と手紙をやり取りした。私はしばらくして、宇宙調査と宇宙からの訪問者に関する有益な記事の数が著しく減少したことに気がついて驚いた。彼は前のアダムスキーをちょっと真似て、ハニーは、宗教のテーマに集中し始め、私も他の仲間もほとんど興味がない分野で何回も続けて連載を発表し始めた。

私は、したがって、彼が今もスペースピープルと接触しているならば、彼らからの情報を少しでも公表しなければならない、時々、明白にしなければならないことをハニーに手紙で示唆した。

ハニーは、これに似たような提案に目をむけなかった。

読者の意見と希望によっても彼は計画を変えず、『世界の宗教に関する記事の連載を続けた。『私は、アダムスキーがちょうどこうしたことをした時、常に我々に意見と協力を求めた男が我々を無視しなければならないのは奇妙だと考えた。

しかし、Carol Honey の情報が鋭さをなくしていくという方針転換には正当な理由があったのかもしれない。アナハイムへ出したレポートのコピーの入った私の大きな封筒が、迷子になったとき、彼は緊急に調査しこの指示を出した。

後になって、私は他の通信員も同じ問題を抱えていることを知った、そして、我々はカリフォルニアの郵便を疑うようになった。

1966 年 2 月 3 日に彼がいろいろな国で彼が出版するのに苦勞していると説明し、二つの問題があるとハニーは、我々に話した「アメリカ政府は国外に資料を送る私に対して、誰よりも用心深い。」もう一つはコーワーカーから私(ハニー)は以下の補足的なニュースを受けた：

「宇宙探査機 Surveyor Spacecraft を、来年の何月かにソフトランディング softlanded させるために彼(ハニー)は現在働いている。

ヒューズ・エアクラフトは、たしかに宇宙人とアメリカ政府とに関係している。ハニーが宇宙センターで働いているので、彼は秘密の許可証を持つ。」

彼(アダムスキー)は、ハニーが特別な監視下にいるとよく付け加えた。

これらの状況の下では詳細な情報を求めるのを止め、我々自身のメールが盗み見されていると確に感じ、確認することをやめた。

しかし、これは先になってからの情報である。

我々は 1963 年にハニーの手紙を受け取った時点に戻らなければならない。

他のものも混乱させたが、これはとりわけ、わからないものだった。

彼は、書いた：

「アダムスキーは彼らが徐々にそれを使って、慣れた時から催眠の目的を達成するという、『兄弟』が彼に対して使った偽装工作を、本当に知らない。GA の土星 Report で言及したヘルメットは永久に使える催眠タイプの装置であり、それを操作する者の動機は、悪い目的である。

これは、土星旅行を完成する方法であった。

GA が明らかに、フィジカルな旅行であったと信じているがそれは、精神的なものであった。彼らが夢見た計画は正しくないと GA は知っていなければならなかった。私はスペースピープルが理解できないと GA に言ったが、彼は理解できなくても、彼らを信用した。

これは、あまりに信用しすぎだった。

これらの計画のうちの 1 つは、人々から生年月日と写真と 5.00 ドルを提供してもらうことだった。GA は、彼らをリーディングし、彼らが、どの惑星の生まれか話す、等々 etc .. などを GA はした。

「1964 年 2 月に、アダムスキーは公然とハニーとの関係を否定した：

「彼の活動の最中に、ハニーは情報部の中にいた。

彼は、他の人を窮地に陥らせない巧みな言い回しを学んだ。

私の困った点は誰でもあまりに信用することで、安易に考え、彼ら自身で処理できないのに、責任を与えたことである。

私と連絡をとっているハニーに関しては、彼がそうしたことをしなかったことは確かに知っている。

そして、彼は、私のコンタクトの証人であり、その人自身コンタクトしているからそれは、全く異なるとあなたは、言うかもしれない。

.. 「全のビジネスは、全く混乱した。

私は、ハニーが 2、3 年前、アダムスキーに紹介された時、威厳があって親しみやすかったことをまだ忘れてはいない。

彼はいま自分の発表した思想と資料を盗作したとして若い同僚を著作権違反で訴えた。

アダムスキーは、「生命の科学」と同様に「Telepathy Course」の出版が進行することを必ずしも望まなかったのか？

ヨーロッパのコーワーカーのうちの少なくとも 1 人は、すでに出版した。

やがて、ハニーのように我々も著作権違反な窃盗で訴えられるのか、？

1964 年の春、ついに突然中断することは最高であるという結論に達した。

私は、コーワーカーに長い手紙を書き、widra はアダムスキーのためにこれをコピーした。書かれた最後の文の一節で：

「…私はそれを清算しようと考えた

私は、ジョージ・アダムスキーの『支持者』であるという彼が現在求めているような種類の誓約を決してなかったし、これまで依頼されたこともない。

前の年、彼自身が私に言った『常にあなた自身の判断力を使いなさい』『意識的でありなさい』『あなた自身のフィリーングに従って』

私は、彼がそう私に言ったからというわけではなく、これが私の自然であるから常にこうしてきた。

私はこれまでジョージ・アダムスキーを全て信じてはいない。そして、私が信じるのはかなりの時間をかけて彼が私に話したことだけだった。

私は彼の本に書かれたことを信じる。

しかし、現在暗黙のうちに彼を信頼しているコーワーカーを神の好みにしてもらいたい。これは、私の意志ではどうしようもないことである。「この手紙は、多くの友人から私を分離させ、そのうえしばらくの間完全に私を孤立させた。

私は、現在 2 つの椅子の間に座っており、片方では私を異教徒とみなす私の古い仲間と友人のそばにおり、片側でははじめからアダムスキーを否定する多数の UFO 研究者に関係しており、現在の私の独立した位置とジョージの弟子の立場とを区別できない。

私は、この不快な位置をそれほど気にしなかった：

時の流れるまま私に忍耐力が生まれるのを待った。

そしてすぐに、私は他岸の新しい友人から新鮮な風が吹くのを感じた。

1965 年 11 月、私のアダムスキー資料に大きな関心をもつティモシー Good を知り、集中的に調査した。

しかし、私の旧友の全てが、道に迷ったというわけではなかった。

Henk Hinfelaar は 1965 年 4 月の手紙の中で、アダムスキーに関して、ルーシー McGinnis がジョージのサイキックな能力を見て私と同じ立場をとり、ハニーも、また目撃したと Henk Hinfelaar に打ち明けたと私に話した。

ルーシーは、ジョージ自身、事務所の、若くて、熱心で忠実なヘルパー Sonja に委託すると理解した、その人はアダムスキーがなにかを放射するのを最初に発見した。

私がジョージのもとを去るとき、その能力を知っていた、そして、ハニーは誤っていなかった。

ルーシーは一番アダムスキーを知っていた人だった。そして、長い年月の間、彼の忠実で有能な秘書であった。

彼女が彼のもとを去るとすぐに、彼の手紙はかなり明快さとその量を失った：

彼女は、英語の専門家であって、彼の明確な公式の考えに対して責任があった。

1967 年 5 月に、ちょうどアダムスキーの死後 2 年目に、私は突然、Carol Honey から、興味あることを書いた手紙を受け取った：

「GA と私の別離に関してあなたは意見をお持ちでしょう。あなたは、その時からの全ての

展開を考えると私が間違っていたと考えますか？

私が彼のもとを去って以来、確かに多くのことが達成できなかった。

。「もちろんこのことは非常に再三再四自問自答して来た。

ハニー自身の調査に付随した莫大な仕事量にもかかわらず、少なくともヨーロッパの我々にとっての調光器になった。

ジョージ・アダムスキーの欠席で、大きな穴があいた。

私は、アダムスキーの主張を常に拒絶した。

そして、彼の『相続人』;キャロル・ハニーは意識的に反対勢力の術中に陥っていた。

実際、彼は裏切り者であった。このとき私はこれを決して信じなかったが、彼が無意識にしたとしても、私の短い距離からでは判断できなかった。

しかし、知的で鋭い抜け目のない男に見えるハニーが無意識にすることは私には非常にありえないように思える。ヒューズ・エアクラフト（作家ジム Hougan に従えば「先端技術専門知識の要塞 3」でエンジニアとして働く彼は、回りに複雑なスパイ活動ネットワークの可能性に対して警戒するにちがいがなかった。アダムスキーもこれを知っているにちがいがなかった、なぜならば、彼は彼の指名された後継者が生計を立てていたまさしくその始めから知っていたのだから。それで、私は両方の男性がモニターのために彼ら自身の属するグループのひもつきの物まねタレントにされた犠牲者であった可能性がでてくる。

結局、両方ともあまりにたくさん知りすぎており、あまりにたくさん話しすぎた。

彼らは、沈黙しなければならなかった。

1979 年 11 月に Carol Honey、と彼の妻にカリフォルニアの家でティモシー Good の援助と同伴で会うことができた。私は、非常にうれしかった

彼が蒸発したので（第 18 章を見る）、アダムスキーの文章の中の特定の矛盾と同様、長年にわたる彼の活動への疑念は晴れないままである。

アダムスキーは、たとえばフランク Scully の本によって明らかにされた一別の、表面上はよく組織化され隠された反対勢力の機関の存在を 50 年代にすでに完全にわかっていたアダムスキーは何度かスカリーに会った、そして、彼からとても価値のある情報を得たことは疑いない。

驚くべきことに、スカリーの敵がいるのは、アメリカ合衆国だけではなかった。

1961 年、1 月にノルマンディーに住んでいた私の友人スーザン Saunier を訪問した。

彼女は私を連れて友人と翻訳者ルイス Murco に会うためにパリにいき、我々は長い興味深い会話をした。そして、私はそれを書き留めた。

彼は、フランスで私にスカリーの本についての以下の話を話した：

「昔のことだが 1955 年と 1956 年に、私はフランク・スカリーの本 Behind Flying Saucers に非常に感動した。

フランスでその広告も無く、その翻訳が出版されたことを知る極めてまれな機会を得た。

友人は、私におそらくその本のコピーができる書店の名前を教えた。

私は、この店に急いだが、本がまったく売れなかったので、絶版にする 1 週前に集められて、本の裁断製紙工場へ運ばれた、こんなナンセンスな本を印刷するのは愚かな間違いだと話した。

私は、すぐに裁断製紙工場の名前をしらべ、見つけるためにパリに旅行した。

それは多くの倉庫がある大きな工場であった、私は入る許可を得られなかった。

それで私は、周辺を歩いて、ついに小さく開いたドアを見つけた。それはメイン倉庫に通じていた。

私は、とても幸運なことに一スカリーの本の梱包を見つけてるのを助けてくれる素晴らしい青年がいた。

最善をつくして、私のコートと書類カバンの中に合計 13 冊隠し、これらを私の車へ運んだ。

私は、この出版物を消去するのに誰が大急ぎにならねばならないのか非常に奇妙なことだと考えた：

それは、ほとんど市場に出ず、決して広告されなかった。

翻訳者を、決して見つけることもできなかった。

すでに 50 年代のフランスに影の機関が存在していたという私の意見を裏付ける証拠である。

アダムスキーは、正しいようだった。

1959 年に Flying Saucer Review に発表した『誰が、真実を隠蔽するのか?』の中で、アダムスキーは書いた：

「...この反対の背後にある多くの理由は、疑う余地がない。

注意深く分析すれば疑いなく一旦当局が訪問客と友情が生じたことを認めるならば、世界に先進的変革がうまれることを一番警戒している。

これら宇宙人は、宇宙の無料の力を利用する研究において適切な過程に沿って案内する；

宇宙船の推進力のためだけでなく、より重要な、平均的な市民の国内での使用のために。

これが人間性にとって意味することを考えてみよ。

しかし、この理想的な状態を熟考すると電力会社の荒廃と世界的な石油ビッグビジネスの血縁者の利益が時代遅れになり、荒廃することを見逃すことは出来ない」

この明確な声明が 1959 年に出されたことを繰り返し言いたい。

これは、アダムスキーが立ち向かう保証づきの危険を、最初から非常に鮮明に認識していたことの証明である。

彼は、常に差し迫った危険を意識しておりしたがって、彼の動きは用心深かった。

最初は、私は彼が誇張していると思ったが、すぐに私はこの場合は違うとすぐに理解した：逆に、彼は危険を控えめに述べていた。

1961 年 11 月に、アダムスキーは手紙で以下のことを話した：

「...私は、ちょうど今ロサンゼルスへ旅行をしたところだ。

もう一つ別のシステムの星から来た宇宙人であると主張する 2 人の男性が私に接近し、我々

の仕事に賞賛して、私に彼らの本部と一緒に来るよう頼んだ、しかし、何かがそうしないように私にささやいた。

その晩、私は我々のシステムの中のブラザーズと会談を持った。

これは、私が学んだことである；

彼らは全ての宇宙人の活動を熟知していたけれども、これらの男は宇宙人ではなかった。

私は彼らと一緒にいった。彼らは私が欲しかった、私だけでなく全ての UFO 計画を信用できないものだと言われた紙に署名しろと行って、私を拷問した。

私が主な標的のように思われた、全部のプログラムに影響させる前に、彼らは最初に私の信用を失墜させようとした。

「彼は、これは間一髪であったと強く思った。

(ジョージの死後、発表された「アダムスキーの本」と題されたグレイ・バーカーの本の中で、「My Fight with the Silence Group、—— Silence Group との私の戦い」と題された日付のないアダムスキーの書いた記事が、発表された)

この記事の中の何行かについては話す価値が十分ある。

「Flying Saucers Have Landed を公表した直後に、私は訪問を受けた！

3 人の男性のうち、2 人は私が以前会ったしかし、3 人目は知らない人であった。

それは、権限を持つ者であった。そして、私は直接脅かされた。

私が持っている書類の一つを出すように言った。これらの書類は、彼が私に預けたものだった。そして、彼らは返却することを約束したが、この約束は、決して守られなかった。

私は正確に彼の照会先を知らなかった。私は、彼に私の重要な書類の一部を渡さなかった。

私がおびえていたことは否定できない。

彼らが去る前に、このことを話すのをやめろ、あるいは、後で来て監禁して、キーを投げ捨てるぞと私は言われた。

これらの個人的経験は状況理解の基礎になった。

私は、惑星間の訪問の現象をオカルトの分野に閉じ込めようとする全ての戦いの背後にウォール街の中心派閥があるのではないかと疑問に思うのである。

そして、宇宙人々が、メカニカルな宇宙船に乗って旅行する、身体をもつ存在であることを知り、そして発表する我々を敵視する。

彼らはこれら全部を心霊研究の分野に投げ入れて、よいことは何もさせたくない。そして、世界中至る所でそれをカルトと呼ばれるようにし、真実の心をもつ人々に信用されないようにする。」

「アダムスキーは、反対勢力の由来を正確に知っていた。；

彼らのシナリオから彼は逃げ、彼らからの賄賂を拒否した。

しかし、より微妙な彼の信用を失墜するのに効果的だった高度な方法への対抗手段を結局は準備できなかったようにみえる。

少なくとも特定の期間はそれを疑う理由がある ——

アダムスキーは、一部の悪賢い、宇宙人を装った者によってにせ情報を流された
誰が、一団の CIA の訓練されたエージェントのメンバーであったか

（ウォルター Bowart がクリプトクラシィと呼ぶマインドコントロール作戦。または
もう一つの選択肢がある：否定的な態度の宇宙人の一部の人々は、ジョージ・アダムスキ
ーの回りに混乱をつくるための争いに没頭していた —。

私は、依然としてスペース訪問客の無謬性と信頼性を確信している特別な熱狂者に、どれ
ほどこの考えが法外なものに聞こえるかを知っているが、我々には本当に知ることができるか？

アダムスキーが死んでから、多くの異なる動機と異なる起源の訪問客がいることは、全く
明白である、。

アダムスキーさえこれを 1963 年 7 月に認めた — 彼はこう書いた、「..我々のシステムには
親しみにくい 3 つの惑星がある。」

彼も他の太陽系からの人々の、確められない動機について話した。

1979 年にウォルター Bowart は C I A が関与した秘密作戦を破壊的に暴露したが、
今我々は 60 年代初期にアダムスキーがこのトリックにひっかかたと仮定することもでき
る。 —

— 彼のイメージの破壊が主な標的であると彼が書いたのは正しかった
しかし、それが起こったとき彼は瞬間的に知覚することができなかった —。

彼は、認識する能力だけでなくそのような陰謀を避ける自分の能力を過大評価したようだ
った。

私はすでに彼のプライベートな話に言及した — アダムスキーが私に自分の著しいサイ
キックな才能について話したとき、例えば彼自身と他者を催眠術でトランス状態に入れる
ことが出来るといった。それにつけ加えて

だれも、決して本人の同意なしにはできない、と 1963 年 11 月に書いた：

「私は、催眠術と催眠を熟知している男性と話していた。

彼は、中西部からここを訪れた、そして、彼は政府の仕事でこの両方を使った...

私の知識が正しいかどうか、知りたかった —。

そして、これは彼が私に話したことである：

直接的暗示による催眠術にもメスマリズムのどちらの催眠術にもかけられない人々がいる
彼は、言った — 私は前にやったことを完全に分析していない。

偽りの防御感覚に落としいれるためにアダムスキーの警戒心をなくさせる指令を CIA エー
ジェントが賢くやりとげられるか、私は、しばしば疑問に思った。

その時、彼でさえウォルター Bowart が書いたような遠隔催眠を知っていたとは、思えない。
しかし、彼が知っていたことが、1 つあった：

長年にわたって、反対勢力は力を強めており、ゆっくり彼の上を閉鎖していった。

彼は、最初の本の出版で、すでに首を差し出し、今回限りだと理解していた。

「彼らが私をつかまえるまで、この国では私は言論の自由と出版の自由を最高に享受できる、と、私に話した。

彼は、言った —どんな形であれ、彼らからの恩恵を受けないために、時々交通費以外は政府機関への講演費用を彼は決して受け取らなかった。

彼の手紙がより短くなった、そして、彼の印刷された速報が客観的な関連情報に欠けるようになったまさにその時、コーワーカーは彼の受けたいやがらせの程度と絶えざる監視を知ることができなかった。

彼の死後、——『彼の全ての活動は監視され、メールが検閲され紛失したとき彼がどのように思ったか知った。

1965 年 4 月にもう一度ワシントン D.C のまわりで.彼が最後の講演をし始めたとき、骨身にしみて神の恐れを感じたにちがいがなかった。

背後に C I A だけでなくより恐るべき敵がいるのを彼は知っていた。

私が 4 月 23 日にアダムスキーの死を知ったとき、私は罪の意識と喪失感と、個人的信頼感と議論の余地のある証拠との、矛盾した感情の累積の中に私自身がいた。

長年の研究と仕事は、霧の層におおい隠されたようだった。

私は、完全に調子外れになったと思い、しばらくの間アダムスキーと仲間のネットワークを忘れようとした。

もちろん、私は成功しなかった。

このような思い出に取りつかれた潜在的な心が、どのように忘れることができたろうかか？

注

1 The Amazing Mr Lutterworth, Desmond Leslie (Allan Wingate Ltd, London, 1958)
デズモンド・レスリー

2 FSR Vol 6 No 4, 1960

3 Spooks, Jim Houghan (W. H. Allen, London, 1979)

4 Behind The Flying Saucers, Frank Scully (Henry Holt & Company New York, 1950)

5 FSR Vol 5 No 1, 1959 i f

10 章

隠れるスペースピープル

1967 年の秋、Henk Hinfelaar は匿名の協力者（彼の友人）によって書かれた『Elusive Space People 隠れるスペースピープル』という記事を発表した。

私は、ここに、それを引用しなければならないと考えている：

「ジョージ・アダムスキーが生きていた時は、数千のインスピレーションが流れ出る源であった賢い慈悲深い存在としての、スペースピープルに何が起こったのだろうか、？」

「アダムスキーが彼の最後の本で真実を言って、その時点から、あえて宇宙人は効果的に知らせようとはしなくなった。

別の方法をとるために、彼らは地下に行ったようである。

それは、世界的におこっている着陸とコンタクトの報告の総計が低下したと言うのではない。それらの報告が、アダムスキーが書いた我々の太陽系の居住者であるスピリッチャルな動機をもつスペース兄弟と似てないのは、当然である。

"「スペースピープルの哲学がアダムスキーによって正確に伝えられたとすれば、宇宙人は民主主義の原則に基づいた明確な意図を持つ。

これを信じたとして、それでも生まれてくる疑問の 1 つに答えよう。：

なぜ、スペースピープルは、去っていったか？

「彼らが『Get Acquainted Program 知らせる運動計画』を故意に中止したと考えなければ、スペースピープルが膨大な数の宇宙船を帰国させたことを納得できない。

『最初に UFO が飛来し始めたとき、かなりの当惑と議論を引き起こしたのを知っていたのは、明らかである。戦後の再建時、この問題を認識する時期が来ていた事と、一地球人がネガティブな思考からより現実的に変化したことの 2 つが、この惑星で、こうしたアプローチを受け入れる、多くの人々が出現した主な理由であった。

明らかに彼らの巨大な存在感をデモンストレーションすることもできたが、受け入れられるか、拒絶されるかという二者択一的方法ではなく、より微妙な方法によってそれは、不干渉（掛かり合って混乱しない）という神の法律を犯さない限定されたコミュニケーション行為をしようとした。

「この側面を考えると、一地球の住民を通してのコミュニケーションが確立されねばならないと考えることは論理的である。

アダムスキーは、スペースピープルの 1 人にある時言われた：

『あなたが学んだことは、あなたの惑星の人々に大きな価値がある。人々に、話して、書いて伝えてください。

『このアダムスキーのしたことは、相当の熱意が必要であり、同時に効果的でした。

彼を信じない人々でさえ、信じられないほどたくさんの人々に彼のメッセージが届いたこ

とは認めている。

「この地球に飛来してきたスペースピープルの意図は、彼らの生きる法則と単純なアドバイス伝えることにあったように思える。

アダムスキーの3冊の本を読んだ誰にとっても、それは明らかである

だが、我々は、これにしたがって行動することはできなかった。

アダムスキーへの後継者が出てこなかった理由の1つはここにあると私はおもう。

スペースピープルの1人がアダムスキーに言ったように：

『理解し、吸収できるより多くの知識を伝えることは役に立たないだけでなく、しばしば危険である。』

「スペースピープルが内気になるもう一つの理由は、

アダムスキー・タイプのUFOとのコンタクトはかえって理解を遅らせることを知った。

数あるUFO伝説の中でアダムスキーほど多くの軋轢が生じたものはないことは、疑いようもない事実だ。

「私は、もう一つの要因が、あったと思う

明らかにもう一人の『大好きな息子』、つまり惑星間の連絡員としてのコンタクティを育てることをしなかった。

スペースピープルはまた、ジョージ・アダムスキーの人生の最後の2、3年間の観念的な方向転換に憤慨しているのかもしれない。

以前サイキックないかがわしさを全く軽蔑をこめて見ていた人が、こうしたトリックのいくつかを採用した。

彼の教えのなかに催眠術が入り、前の基本的な考え方を否定した、

彼の展開した話の一部には疑問を持たれるだけの理由が、あった。例えば、疑問視されている土星旅行の報告である。人は、彼の考えがいかかわしさを示すように、この男は、最初から最後までくわせ者であったと言うだろう。

しかし、そういう人たちは、1962年以前にジョージが書いた全ての本を研究したことがあるのだろうか、

宇宙ホテルの最近の科学的発見を考えると、そんなに簡単に彼をお払い箱にはできない。

厳しく10年間、賞賛に値する明確な教義に固執した後、アダムスキーは明らかに変化した、この遠く離れた地点からは、明白ではない。

「確かなことは、彼がその10年間(1952-1962)、真実を言ったとするならば、彼の人生の最後の年はスペースピープルがひどく失望したにちがいないということである。

アダムスキーに関する限り、この未知の作家の視点は、私と共同執筆者テモシーグッドとほぼ同じである。

ティモシーグッドには、最後の一節を信じる特別な理由がある。

これを理解するために、18章を読んでいただきたい。

しかし、この記事は、我々のスペースピープルの抵抗の全容をあきらかにしていない。

もう一度昔出版された UFO 問題に関する本、例えば、エドワード Ruppelt の、未確認飛行物体についての報告の一部を見てみよう。

私は、50年代前半は公式に着陸し、周辺からの危険もあえて冒す親しみやすい大胆なスペースピープルのグループが、あったのは確かだと考えている。

しかし、アメリカ政府はあまりにためらい、非協力的になり、人類の大きな特別の機会を失った。

たとえば1952年7月の終わりの3日間、ワシントン D.C.の上に UFO が何時間も出現した有名な夜について、我々の訪問客は、政府職員とコンタクトしようとしたと？なんで誰も言わないのだろう。

ドナルド Keyhoe さえそれを疑っていた—1954年の彼の本 「宇宙からの空飛ぶ円盤」で彼は書いた：

「..円盤はほぼ2時間ワシントン上空を飛び回った、そして、操縦士の神経は正常であった。今夜の事件について他の惑星から飛来したという考えを何人かはあざ笑った。

ところが、この嘲笑もひどくあやういものであった。

視覚で確認されたことと、レーダーの軌跡が全く一致するために一つの回答だけが可能だった。

あの夜、何らかのスーパーマシンが、首都を偵察していた。

コントロールされた飛行から、これらの宇宙船が有人でないとしても非常に知的な存在によって操作されたことは確かであった。

論理的考えるとこれらの宇宙船は着陸しようとしていたのかもしれない。首都はコンタクトのための最適地点である。または、攻撃しようとしていたのかもしれない —」

エドワード Ruppelt 大佐のこの本の12章には、この点についてよりスキャンダラスで大きな関心の的となる話がある。

その時の空軍の混乱と、丸腰の状態を彼は明らかにした。

これをみると、宇宙からの訪問客は公式の開かれたコミュニケーションを確立するどんな方針もその場で取り消すにちがいがなかった。

おそらく親しみやすいグループのパイオニア精神は、かなりクールダウンするにちがいがなかった。これが単なる推測であるとは思えない —

1952年、少なくともしばらくの間、スペースピープルは地球上の存在は本当に危険だと思っていたかもしれない。そして、我々を混乱させることが最も問題を混乱させることだと考えた。

— 彼らが成功しなかったとは誰も、言えない！

1976年のハンス Holzer 教授の「Ufonauts」：を読むとこの考えは大方の予想に反して正しいと思える。「...、彼らがどこから来たかを確認しようとする、少なくとも何種類かの宇宙人は、非常に用心深く彼ら自身のやって来た本当の場所を隠し、多分情報を誤解したナイーブな目撃者がいたのだろう。

評判のよい目撃者が火星人と金星人について話すならば、遭遇事件の全ての報告が否定されなければならないというわけではない。

それは、宇宙船の所有者がやって来た場所の情報以外は、報告された事件が正確にそのとおりであったということだろう。

「Holzer の本を読むと、・50 年代初期にアダムスキーが最も友好的なグループに会ったのはとても幸運だったことがわかる。

宇宙からの訪問客は彼らの住む惑星に、地球の我々が訪れることが絶対に嫌であり、きて欲しくないのだ（または、非常に反対している）という私の信念がここで確認された。

長い間ひそかに、また公然と我々を観察して、彼らは人間性をたもつための、健康な距離をとると堅く決心したのかもしれない。

それほどかけ離れた将来でなく我々自身が宇宙船を所有して彼らの惑星に着陸するかもしれないことを本当に恐れ、回避するためにまぎらわしい声明に訴えた。（うそを言っても）我々は、非常に現実的な戦略から、歓迎を延期したことを非難できるか？

信頼できる目撃の中で、核兵器の貯蔵庫と軍の原子力研究のための実験場に配属された警備員とその他の人員から来るものが高パーセンテージを占めることは、UFO 研究家の常識である。

これらのレポートの多くは、『第 3 種遭遇』のカテゴリーに属している

ダニエルフライは 1949 年から 1978 年 1 月までのたびかさなる核実験についての警告の証人である

宇宙からの訪問客は、特に増加した超大国双方の軍事衛星の利用と軍事の実験場として宇宙を使用することは認めないという警告がある。（どうやら新しい種類の兵器を警告したように思われる）。

1978 年 1 月 24 日 Cosmos 954 と呼ばれるロシアの宇宙衛星は、予想に反してカナダ北部の無人地帯に細やかなる配慮のもとに墜落した。

ロシアの科学者によると、それはより高い軌道に到達しなければならず、少なくとも 2、3 百年間とどまる予定であった。ロンドン・デーリー・ミラー』、の科学通信員アーサー・スミスによると、この衛星はロシア人によって開発された 15 番目のタイプであると指摘した。より高い軌道に到達するのに性能に問題はなかった

彼は、「将来危険があるなら、ロシア人のコスモス 954 の軌道への打ち上げに対する妨害による故障だけである」と書いた。このレポートの言葉遣いは、とてもおとなしい。

ニューヨーク・ヘラルド・トリビューンが 1 ヶ月後にそれを報告したことを、スミス氏は知っているにちがいがなかった

その船上に 45 キログラムの濃縮ウランだけでなく原子炉と『軍事兵器』の一つに数えられるレーザー装置があった。5 たぶんスミスは、地球の軌道を回るアメリカ合衆国の多くの衛星にも似たようなものが搭載されている事を考慮に入れなければならなかった？

誰もが知っているように 1979 年 7 月オーストラリアの上空から人家のまばらな地域に再び

細やかなる配慮のもとに落とされた。

私の推測では、どんな新聞も公認の通信員であり、誰かが Cosmos 954 が高い軌道に到達させず、高度が低くなるよう妨害した可能性をほのめかすことのみが許された。そして、たとえ衛星に使用可能な軍事兵器がなくても、同じことがアメリカのスカイラブにもおきた。両方とも誰かに妨害された、これはなんらかの警告であったかもしれない。

我々は、両国の高官がそれを額面通りに受け取ることを望むだけである。

多くの読者は、私のこのような考えを、想像力の暴走であると言うかも知れない

だが、1963 年にジョージ・アダムスキーが私に言ったことをどうしてもおもいだしてしまう。

彼は、1960 年にアメリカ空軍が実験のために、地球の成層圏の上の、高くに原子爆弾を運び、爆発させたと私に話した。ロシア人も似たことを考えたが、アメリカ人は最初に実験しようとした。しかし最初のテストの後、両国のプロジェクトの全てが、突然、廃棄処分にされ、決して再開されなかった ー。

「非常に明確な警告だった」（アダムスキーは言う）「大きな声で『ダメ！ダメ！ダメ！』といわれた。

『それは、単なる爆弾ではない、連続的爆発の実験計画であった！』

（すでに 1957 年 11 月アダムスキーはコーワーカーに書き送った）：

ミサイルを競って宇宙に打ち上げ自然を破壊するどの国も、警告され、その目的が達成することは許されない。一部の心ある新聞社が報道したが人工衛星のある特定量はきまって宇宙でゆくえ不明となる。

1959 年世界旅行から戻って、アダムスキーは書いた：

「母船の宇宙実験室のうちの 1 つから、緑のボールは、放出される（これは、世界中で、観察された）。

これは、我々の原爆実験で作り出された放射能の集中を打ち消し、効力を消し、吸収する。

彼らがこうしなければ、今より、放射能問題は非常に大きなものになったろう。

世界を支配する者の研究所では、すでに秘密のうちに、特定のエネルギー源を全く自由に健康に利用する方法が明らかになっている（たとえば重力をキャンセルし、静電的な磁気をつくる装置その他）

彼らは、すでに反重力自動車（ディスク型の反重力で推進する空飛ぶ物体）のモデルを完成させた。

しかし、これら先進的方法を所持する社会がすぐに経済コントロールを逸脱するので、こうした無料のエネルギー装置の方法のどれも、市民に知らせない。

石油会社や原子力発電の建築業者のようなエネルギー経済に依存する現在の強力な権力と、その他多くの関心を持たれもしないものから、最も小さなガソリンスタンドにいたるまですべて絶滅する。

「今日このことは知られていないし、最新のものに聞こえるという事実は、私には気味が

悪くおもえる。

アダムスキーは、進歩について話す勇気があった。

1960 前半から時折アダムスキーは新しいことを我々に言い始めた、『宇宙の訪問客』のグループの目的を推測し、その数を推定することは簡単ではないと言った。

1960 年 12 月に、彼は書いた：

「誰が、防衛が必要でないと言ったのか？

我々は発展過程におり、宇宙のなかの他の惑星の人々も同様に発展している。

我々は、宇宙で最も低次元の存在ではない！

地球上の我々ほど社会的に発展していない人々が、我々の太陽系を越えた全宇宙の中にはある；

また、彼らの中には科学的に我々より格段に進歩し、宇宙船を持つものもいる。まだ宇宙に生命はいないと考え、我々の惑星の中に閉じこもっている間は、大部分の部外者にとっては当然、ちょっとした興味ある対象でしかない。

しかし、我々がロケットを発射し人工衛星を飛ばす現在、彼らの注意と自然な好奇心は呼び起こされ、調査が始まる。

地球上に住むは人間は好戦的で何世紀もの間、戦争の歴史ばかりだが、進化の程度がより低い人々の社会は我々と同じかもしれず、またはもっと好戦的かもしれない？

彼らが別の惑星空間に住み、旅行し、我々もまた同じようにやり始めれば、彼らは単に親切な天使ではいられない！

この時すぐにわれわれの世界を攻撃しないだろうが、ある日、我々の宇宙船は軍事的に訓練された人員による保護が必要になるかもしれない。

これは、彼の支持者の多くにとって、予想外であった、

しかし、それは新しい考えではなかった。

平和グループは非常に驚くだろうが、アダムスキーはスイス旅行の間、反軍国主義者では決してなかった。(Gotthard が通過する g roug)

彼は、スイスの防衛システムに、非常に興味をもち、最も秘匿され、カモフラージュされた re'duit 基地を発見しようとした。

彼は広い分野への関心と軍事的知識をもっていた。

彼の視点は、全く現実的で、少なくともスイスの防衛問題と同じように遠くまで、問題を考えていた。

多くの人が予想するように、彼が生きていれば、うたがいなく平和と非武装の運動の使徒として、お金と大群衆を集めることができたはずだ。

彼は、夢想家ではなく、軍備縮小の時はまだ来ていなかった、そして、いっそう悪いことにスペースピープルと高官とのコンタクトの進行に世界的な戦争の準備が、最も深刻な障害であった。彼はこれを否定することはできなかった、彼は元々、スペースピープルによって計画されたことの、仲裁者または仲介者としてしか動けなかったものであり、それは彼

の悲しみでもあった。

1957年に彼はまだ希望を持っていた。そのとき、彼は書いた：

「我々が同胞を尊敬して、調和と友情の中でお互い、それに耐えることを学ぶという方向に地球の我々の態度が変化した時、そして、それが保証された時だけ、公然とここに着陸し、彼らが友情で受容されることは間違いない。

私は、地球の民族がこの方向で努力するまでどんな事も期待できない。

「アメリカの原子物理学者でUFO研究家スタントン・フリードマンは、より明確に言った：

「この惑星の唯一の希望は、我々自身を国籍で分離し、一部のばか者が指をボタンに置こうとする前に、地球市民とみなすことにある。

私は、スペースピープルが我々と連絡をとらないことに驚かない。

我々の大きな世界が種族で戦争する原始的な社会であることは、完全にどんな知的訪問客にも明らかである。これは、我々のスペースピープルが隠れるひとつの理由である。

私が、最も憤慨することがある。ジョージ・アダムスキーの周辺だけでなく宇宙人とコンタクトしたと主張するどんな男性と女性の回りにも自然に嘲笑する雰囲気生まれ、そして長年にわたってシステムティックに巧妙につくられた嘲笑の雰囲気は、敵だけによって作られたものではない。人は自分自身の『正当な』理由からそれをしている。最も先端的な研究者とその支持者は財政的、宗教的、政治的、または経済的援助を受けて、いわゆる『科学的な』態度によって偽装し、詐欺師でさえあって、我々自身のような宇宙人とのコンタクトはSF（いたずら）のレベルに落とされる。

これらの科学的指向の研究者の多くは、奇妙なことに、アレン Hynek 博士によって認可された有名な映画の上映に際して、大きな頭の小人との『第3種遭遇』を認める準備ができている。

しかし、この理由はなにか？

私は、そのような遭遇の物語が真実ではないとはいわない。：ただなぜ友好的な人間の姿の宇宙旅行者とのコンタクトの報告は驚いて放棄するのか？

1966年、に戻ると Flying Saucer Review の現在の編集者チャールズ・ボーエン、は特別号で「(Humanoids)」を発表した。それはのちにペーパーバックになり、非常に売れ、よく引用される良い仕事であった。

ボーエン氏が前書きで説明するように、『ヒューマノイドロボット』は人間の外見を持っている。それと同様に最近の奇妙なタイプも全てそうだと考えられている。

この本で、ゴードン Creighton (FSR の疲れを知らない翻訳者) はラテンアメリカで起きた一連の人間型ロボットの事件を 65 リストアップした。そして、彼らを分類した。

これらの中で、本当に人間と会談した 5 つのケースを拾い上げた一全ての長い髪であった。

彼は、次のようにコメントする：

「...アダムスキーは『長髪の金星人』のために多くの人から嘲笑された、そして、人は正確

な理由を不思議に思い始める...

ラテンアメリカや、他の場所からの『長髪の男性』の報告は、とても重要である。

普通は、これらが一番慎重に調査されるはずだ。

これはアダムスキーが正しいとわかってしまう恐れからしなかったのではないか。？」

これは本当に鋭い。調査しなかったという事に、特別の重要性があると私は考える。

嘲笑し排除する典型的なこの事例を考えると、我々の友好的な宇宙からの訪問客のカムフラージュの戦術の理由を知るのは、簡単である。現在我々は主に例えばバーニーとベティ・ヒルまたはトラヴィス・ウォールトンのような人々が経験した生物学的で生理的検査に興味がある人型ロボットのような全く異なるグループの訪問を受けている ー。

少なくとも我々が誰かにとってちょっとした興味を持たれているのを知ってうれしい、しかし、次はどうなるか。

我々は、すでに宇宙の笑い者なのか？

私の意見では、全てのコンタクティの中で、アダムスキーははるかに勇敢で最も面白い。

彼は、本物のパイオニアであった。

最後の年、彼が失敗してもしなくても宇宙の友人の著しい撤退と撤回の理由を、考えねばならない。

Waveney Girvan が、1960 年に書いたことは今でも正しい。：

他のコンタクティはそのままにしても、この問題からアダムスキーを排除すれば、長い時間かけても真実が、出てくるか疑わしい

本当に、それは疑いようもない事実である。

UFO 調査は一種の行き詰まりにある。そして、待つばかりで、多くの人が論理的に次に来る処置をとることをあえてしない：

我々の世界リーダーに、地球外の優れた知的存在を認めさせる過程のことである。

宇宙人がとらえどころがないことは、コンタクトすることから人々を脅かし追い払いたいと思う人たちにとても役に立つ

この目標を遂行するのに、人間の外見を持たず、友好的では全くないと宣伝する以上にどんなよい方法があるか？

証人の気力を失わせるこうしたコンタクトストーリーを増幅することより、効果的な何があるか、？

幼児期は不当なことや不当な処置を単に不正であると考えるー、そして、『こうした不正が結局正義だという認識は、心に莫大な傷を与える。

私自身にこうしたことが起き、不正な感情的傷を受けた場合、決してがまんできなかった。

私は、真実の熱狂的追求者であることを認める。

したがって、私は彼が主張したことで、ジョージ・アダムスキーが耐えなければならなかった多くの不当な、猛烈な攻撃を知るといらいらし苦しんだ。

しかし、私自身も彼の人生の最後の年に彼の活動に対する判断が間違っていたかもしれな

いと考えて苦しんだ。

この本を出版するにあたって、たとえ他に何も価値がないとしても、私の良心だけは自己弁護しないよう努力した。

アダムスキーの場合は、目隠しして、私の最愛のアイドルに不正にすることも出来、個性を隠し、友を歪め偉そうな、そして愛らしいイメージに造りあげることもできた。

アダムスキーの仕事を年月が経過した今熟考すると、客観的に見ると、彼の努力と献身の痕跡はほとんど失われてしまった：

彼の業績は、ほとんど無いようである。

宇宙の中の人間との接触の人類の喜ばしい承認という彼の夢は、彼の生涯で実現しなかった。

地球の外部からの一団のパイオニアである彼の友人の心の中に疑いが生まれるまでは、彼は派遣団が本当に考えた計画を実行するよう命じられた。

長年、アダムスキーの宇宙の友人は、秘密のベール（隠すことを願う人以外には全く無駄な）をとり除くことを願っていたにちがいがなかった。

公式には、彼のメッセージは信用が失墜し、文明の新しい地平線と新しいエネルギー源が知られることを今だに恐れている多くの人々が闇に葬ってしまった。

そして、

多くの公的機関がこの人を否定し、嘲笑する雰囲気をつくりだし、その結果、エスタブリッシュメントたちは大きな声で嘲笑する集団をつくりだした。

そして、前にのべたように、嘲笑によって否認する方法にはもう1つの方法が付随する。：つまりあらゆるコンタクトストーリーのまわりに恐怖を増幅させるキャンペーンだ。この傾向は、映画業界によって最大に増幅される。

この意図的につくられた感情と、この地球上に悪意を育てる方針は、確かに、我々の宇宙の友人達によって鎮静化することは出来なかった。

そして、我々との宇宙戦争に勝利すると警告した際、おそらく我々と情報交換の姿勢を示したことは明白であり、したがって、彼らはますます活動するだろう。

たとえコンタクトストーリーの流れが40年代から今に至るまで停止しないとしても、アダムスキーが死んだ時から、彼らのトーンが大いに変わったのは否定できない。

友好的に情報交換する代わりに、我々の多くが簡単に催眠術をかけられるのを知った時から、調査作業のための便利なモルモットの一種として奇妙な宇宙人を利用したことを知らなければならない。

アダムスキーだけに限定するものではなく我々の地平線に新しい夜明けの予兆は、ほとんど消えた。

もはやこれらの親しみやすいグループを忍耐し果てしなく待つ理由は少しもなく、ステージの上に歓迎の旗もない。

そして、スペースピープルは我々を必要としていないことは、確かだ。私はまだ彼ら全員

が離れたとは思わない。；

知られていない何人かがまだまわりにいるかもしれない、それは、憂鬱な無声映画のようだ。

ジョージ・アダムスキーとおおよそ生涯の半分、一緒に仕事をしたが、その難解さ、その珍しさ、その革新性を考えると、その人を書いた後、彼の記事と写真を捨てることがどれくらい愚かであるか指摘しておきたい。

人は、本来、探求者である。

アダムスキーが残した謎にみちた資料は、最大限、適切に利用できるようになっているだろうか？

多分、我々は推進力の新しい源を発見する、なぜならば、他の者はそうでも我々の脳は監獄の独房には入れられてはいない！若い世代にとって、なんという挑戦！

そして、私たちの世代も最後には……？

私は、UFO 調査でとても素晴らしい時間を過ごすことができ、アダムスキーのような人々のおかげで目一杯の人生を送れたとおもっている。

彼の友人は私の友人であった、そして、彼らとの通信は本当に喜びであった。

意見の相違がはっきりしてきたので、何人かが途中で抜け、そして、新しい人がまたやって来ている。その理由は私の記憶の中に生きているジョージ・アダムスキーの迫真の映像がまだあるからだ。

注

REFERENCES

1 The Report On Unidenlified Flying Objects.

Edward J . Ruppelt (Doubleday & Co. Inc, N.Y. 1956) エドワード J。Ruppelt (ダブルデイ社 Inc (N.Y. 1956)

2 The Ufonauts, Hans Holzer (Fawcett Publications Inc.

Greenwich, Connecticut, 1976)

3 The White Sands Incident. Daniel Fry (New Age Publishing Co, Los Angeles, 1954)

ホワイト・サンズ Incident.

ダニエル・フライ

4 Daily Mirror, London, 26 January 1978 デーリー・ミラー、ロンドン、1978 年

5 New York Herald Tribune, 27 February 1978 1978 年 2 月 27 日 ニューヨーク・ヘラルド・トリビューン

6 Chicago Free Weekly, 9 July 1977 シカゴ Free Weekly) 1977 年 7 月 9 日

7 The Humanoids, edited Charles Bowen (Neville Spearman Ltd. Humanoids はチャールズ・ボーエンを編集した (ネヴィル Spearman 社

1 月 26 日 5 (6 つの 7、

London, 1969, and Futura Publications Ltd. 1974) ロンドン、1969、そして、サンセリフ
書体 Publications 社 1974)

The Investigation An examination of the evidence by Timothy Good I i
ティモシーGood I i による証拠の Investigation An 検査

PART TWO

THE INVESTIGATION

An examination of the evidence

TIMOTHY GOOD

11 章

序文

UFO について話しているとき、ジョージ・アダムスキーの名前を出すと、きまっただけに似た反応が返ってくるが、こうしたことは他には無い。

彼の論争の的となった主張に関する、全ての事を考えないなら、これは当然である。

このケースでの不利な証拠をあげつらう前に、これらを調査することがこのパートのねらいである。

アダムスキータイプのほとんどのコンタクトは、UFO 研究の権威と一般大衆からまじめに受けとられなかった。

これは、『スペースブラザーズ』からの陳腐な福音書的メッセージに由来するだけでなく、不快な宇宙人の外観と行動への先入観によっていると思う。

アダムスキーの『アーリア民族』の宇宙人は人によくおもわれなかった。

、ヒトラーが元気で生きていて、パタゴニアに住んでいるといううわさが内部情報から流れ、ナチスの生き残った集団と共に将来の世界支配に備え、空飛ぶ円盤の艦隊を建造を図っているといわれた！

それと、アダムスキーの主張がますます冷笑的に迎えらるようになったもう一つの理由は、この世のものとは思えない UFO に乗った宇宙人のいろいろな報告がアダムスキーの時代からあったことによる。

私は、膨大な事例の大半は人間型ロボットのことが書かれており、これらによって自動的に彼の話が否定されるとは考えられない。

そして、多くの場合、アダムスキーの宇宙人々と著しい類似点のあるものが書かれていることを、ルー、Zinsstag はすでに指摘した。

そして、アダムスキーの『ブラザーズ』は全く同じ皮膚の色ではなかった —1963 年デンマークでのプライベートな会合で、彼自身が言った：

「他の惑星の上の人々は有色である — 我々が地球で会った、オーソンの皮膚の色は褐色である。：

黒人ほど黒くないがあなたや私よりは褐色である。」「1

実際は『Orthon』『Firkon』『Imuth』『Kalna』、その他、の名前はアダムスキーが会った人達の名前でなかった

——原著者注*これらの名前はシャーロット Blodget (「宇宙船の内部」のゴーストライター) によって、考え出された。——

「宇宙船の内部」を書くとき、宇宙人を区別するために、仮名を使って書き、彼らが個人的な身元を明かす時まで名前をいわないことにした。

こうしたことを、アダムスキーの批評家はしらず、おそらくその資格もなしに彼の話を滑稽なものにした。

アダムスキーは、また我々のところにはこれらと違うタイプの人間型ロボットが来たと、彼のコンタクトについて話した。

宇宙船の内部」の 157 ページで、彼のホストに **Brush Creek**, (カリフォルニア) の有名な事件について聞いている。そのとき、2 人のチタン鉱夫 (ジョン・ブラックとジョン・バン・アレン) は広い肩幅の小人が乗った UFO の着陸に遭遇した。

アダムスキーは、次のようにいわれた：

「...その目撃は実際にあった、しかし、宇宙船とその乗員は我々のグループではない。あなたのは別として、似たような目撃とコンタクトが一人だけでなく多数の人間とあった。

あなたとの最初のコンタクト以前から何回かあった。」

アダムスキーは、比較的身長の高いタイプに会ったことは一般に知られていない。

これらのうちの 1 つはキャロルハニーによって目撃された。彼はアダムスキーと一緒に北西太平洋沿岸での講演旅行の途中だった。

1958 年 8 月 16 日の朝、オレゴン州 **Grants Pass**, の方に自動車が向かっていたが、アダムスキーは突然の『テレパシーの予感』を感じ、ハニーにちょっと前に通過した小さな喫茶店に引き返すように頼んだ。(アダムスキーは、決して運転しなかった) }

— 彼らは朝食をすでに済ましていたので、ハニーは理解に苦しんだが、それでも、なおアダムスキーは頼んだ。

ハニーは書いた：

「我々がドアを開けて入ると、非常に小さなブロンドの少女が近づいてきた、そして、ジョージはまるで誰かにハンマーで頭を殴られたような動きをした。

実際、ジョージは彼女に奇妙で不可解な動作をした。

彼女が私のすべての考えが読めることが、わかったので、私は彼女は多分宇宙人だろうとおもいはじめた。

遠目では彼女はまるでおよそ 12 才のように見えた —。

しかし、近づくと彼女は非常に年をとっていると私は思った — 彼女はおよそ 45 才ぐらいではないかとアダムスキーにいった — どんな形であれ彼女自身の身元は明らかにしなかった。そして、我々は旅行を続けた。次の日シアトルのモーテルの電話が鳴って、アダムスキーは呼び出された。

「おはよう」と、男性が言った。

「私は、あなたと青年の両方がまちがっていると言うために電話した。

喫茶店で会った少女は、あなたたちが考えていた 45 才ではない。彼女は、例の彼女の姉妹だ。」

— アダムスキーは少女を見て「宇宙船の内部」に書いてある『**Kalna**』と同じだと思った—。

男はそれから話しを続けた —、そのハイウェイ沿いの喫茶店で彼にテレパシーで強く思

いを送ったことを知らせ、ジョージの心を安心させるために電話したと。

PP「これは、私にとって絶対的証明であった」、とハニーは書いた。「我々がこのモーテルにいたことをだれも知らなかった。

だれも我々がやって来たルートを知らないし、おそらくだれも少女の年齢についての私の考えは知らなかった。

2 階の少年

21 年間の遭遇事件の研究で、私は地球上で生活している宇宙人に会った経験を含む、多くの出来事を知った。

これらの遭遇事件は少数の研究者には知られているが、そのうちの 2 つは特にここに引用する価値がある。

最初は、アダムスキーのデンマークの中心的コーワーカー、ハンス・ペーターゼンを通して、私は知った。彼は 1949-76 年まで王立デンマーク空軍の航空交通管制を担当し、デンマークの歴史の中で、航空管制の最初の軍事的コントローラーである。

ペーターゼン少佐は私に古典的なアダムスキー・タイプの UFO s を何回も観察したことを話した。その中の 1 つは 1960 年に経験したことだが— 彼がレーダーで UFO を発見し、4 台のジェット機で追跡しスクランブルをかけろと個人的に命令した。

彼はこの重大問題に関して、米軍の准将から手紙をもらったという

『二階の少年』（宇宙人を彼は、私の仲間と同じようにそう呼んだ）とのコンタクトを次のように書いた

『「私はあなたを信頼しているが、ベテランの仲間としてこの情報源を明かさないうお願いする。

情報ソース以外のことなら、あなたがそれを繰り返し書いても結構だ

私は、11 年前のある晩遅く、コンタクトした。

私の働いていた店で印刷の仕事を終えたとき、.

彼らは、私の店ドアのところに来て、それを開けてくれと言った、

入ってきたのをちょっと見たが、言葉は話さず、私に外に出るように合図した。

外に出ると 2、3 フィート頭上に大きな飛行物体があった。

私がそれに乗りこむと、数分間、非常に有益なポジティブなテレパシーの初めての経験をした。

sa という、すぐに『y y g と返ってきた。

彼らは自分たちのことばで話していた、私は、これ以後 11 年間、こうしたことを約百回経験したと正直に言ってもよい。

彼らは、地球にやってきて住んでいる仲間と同じように、多くの国家と宗教界の指導者と

のコンタクトの中継ぎをすることを私に依頼した。そして、私の身許はあなたの場合のように彼らが許可する以外は厳しく秘密を守らなければならなかった —。

あなたは、わかるだろうが私の身許と仕事を知られたならば、1人でいても安心できない。

そして、宇宙人と私が取り組む問題が両方にとっての価値が崩壊する。

彼らのうちの 1 人が完全に我々の言葉を学び上達し、あなたと話すようになるならば、誰も宇宙人と考えないだろう、

あなたは関心があるだろうが、身体的外見での、最大の違いはおそらく、ハンサムな特徴と完全なプロポーションである...」

准将は、『二階の少年』は 2,000 年間続けられた地球への接近と連絡によってこれらの言語を習得したといった。

しかし、困難が起きた場合には、彼らは翻訳装置を使用した：

「...宇宙船のそばに彼らがいれば、この方法で完全な英語で我々と簡単に話すことができ、彼らが機械へ考えを伝え、その機械が声で話すという違いがあるだけである。

私もこれを使ったので私はこの機械を知っている —

「これは宇宙人が口で話さず、機械的に話すようにコンタクティに聞こえた不思議な事件の説明となると思っている。

私はこの手紙の真実性を疑問におもう理由がわからない — 私は人格者のメジャー・ペーターゼンを知っており、私にこれを発表することを許したことに感謝している。

この准将は、アダムスキーが会ったのと同じ宇宙人グループとコンタクトしたと言われている多くの軍人、政治家、科学者、のうちの 1 人である、

こうしたケースを研究したカナダの政府科学者ウィルバート・スミスは、1959 年 2 月 23 日付けの手紙でアダムスキーの前からのコーワーカー、ロナルド Caswell に説明した：

「御参考までに、この惑星の上のあらゆる国は公式に宇宙船の存在とどこか他の惑星に居住者がいることが知らされている、そして、国と公式の責任者は何もせず、責任がある。」

「しかし、宇宙人が我々の間で生きている証拠があるのか？

後で見るように、証明となると問題は別である、しかし、全く知られていないが、実際に地球外生命を調べた、医者の場合は現在の公的記録である。

レオポルド ディアシュ博士 Leopoldo Diaz, (小児科と麻酔の専門家) は、グアダハラ (メキシコ) の病院、del Ferrocarril del Pacifico の専務取締役である。

彼の驚くべき経験についての記事は最初、1978 年 4 月 7 日のサンアントニオエクスプレスニュースに載った、その後、ディアシュ博士はサンアントニオの WOAI ラジオ (テキサス) のマイケルパッカーによつてのインタビューされた — 私は情報のこの報告に基づいている。

1976 年 10 月 28 日、ディアシュ博士は、彼のオフィスで待つ、普通ではない男性に気がついた。

彼の身長は 5 フィート 2 インチで、低かった。そして、皮膚は「ほとんどミルク色」で、とても白かった。

「見知らぬ人は、たいへん長い旅行をしたので正規の健康診断が必要なんで身体の血圧、心臓、肺その他を検査してくれと言った（！）

ディアシュ博士は服を脱ぐよう男にいった。そこで、もう一つ変なことが明らかになった。 — 彼の頭だけは唯一例外だったが見知らぬ人は完全に無毛だった — あたまには黒い髪が短くはえ、頭上を囲んでいた。

ディアシュ博士が近くで見ると、男の目の色は表現不可能な「すみれ色」で瞳は普通より広いのに気がついた。

血圧を年齢と関係させてみる必要があるので、ディアシュ博士は何歳なのか尋ねると、85才だと答えた。

しわのない顔の表情から判断して彼は40代または50代のように見えたので医者は信じられなかった。

「非常に美しく創られた人」であったと、ディアシュ博士は言った。

「心臓と血圧は普通であった。肺やその他の不可欠な器官も異常はなかった。

突然、男はいった — 訪れた本当の目的は、重要な情報を伝えたかったのだと、言った：「私はこの惑星に住んでいない、しかし、神経質になるな。

我々の多くは、ここであなたたちに混ざって、住んでいることをみんなが知ることは必要である

惑星が相当な問題を抱えていることに、非常にあなたが詳しいので、助けようとした、エネルギー源を誤用しているので、別のエネルギー源を発見するために、研究することが必要である。

我々はあなた達が空気を汚染しているのでこの情報を伝えようと思った —：

あなた達の惑星だけでなく宇宙も汚染し、破壊されることが非常に間近に迫っている…」

ディアシュ博士は、官僚と科学者ではなく、自分にこの情報が与えられた理由を質問した：「我々はあなたの政府人々とあなたの科学者に接近した、しかし、多くは非常に尊大である。

彼らは、聞こうとしない；

彼らは、変化したくない。

我々は助けたいがこの方法でしか援助を伝えることができない。

我々は、受け入れることを強制できない —。

宇宙論、神学と物理学についての長い説明を続けた。

エネルギー危機についての宇宙人のコメントは、特に適切だった：

「あなたがもう一つのエネルギー源を見つけることは、必要である

そして、それは非常に簡単である：

そのための、{あなたがたがこれをそう名づけているところの}電気は永遠のエネルギーである…それは、無料である。

あなたが電子を解離する方法を知っているならば、 相当なエネルギーを得ることが可能で

ある

この方法であなたが必要とする自由エネルギーを汚染または汚染なしで、持つことができる、これは我々が宇宙旅行に使用するものである...」

この見知らぬ人は、それを次第に明らかにしていった。

彼の社会では、原子を構成している粒子を我々より詳しく明らかにし、このエネルギー源を軽くたたくのだといった。

男がオフィスを出る前に、：我々の太陽系には 12 の惑星があると言ったが、— アダムスキーが宇宙人から聞いたように— ディアシュ博士は彼のやって来た星について聞いた

「私が言えることは、私が太陽を越えてやって来たということだけだ。」

おそらく、アダムスキーの『スペースピープル』を受け入れるのに最も躓く点は、彼らがどこから来たかという問題である；

後の章で私はこの論議のある問題に戻る。

この驚くべき会話のあと、(それは、スペイン語で行われた) 見知らぬ人はオフィスを出た。

Dr Diaz ディアズ博士は彼の後を追おうとした、しかし、彼が塀の角に着く頃には、彼は消えていた。

最初は、医者はこの経験を 2、3 の親友と親戚に話しただけだった、しかし、その後、彼はカリフォルニアの UFO 教育センターに招かれた、そこで、彼はジョージ・アダムスキーの経験について知った。

彼が一人ではないことを知って、物語を公表する十分な理由があると思った、そして、ニューヨークに旅立って詳細を国連代表に特別に報告した。

更に調査されることもなく、自動的にこのスキャンダルな出来事は否定された。

他の者は医者完全性を非難する。自己満足のために物語を作り上げた、と訴える — しかし、なぜ？

— 25 年以上業務に従事し、とても尊敬されていた医者がこのような話しで彼の職業的評判を危険にさらすことは — それが実際に起こらなかった限り、ほとんどありそうにない。

1980 年 5 月 5 日、私はディアシュ博士と電話で話した。

彼は、完全に真実に思える物語で私を感激させただけでなく、これを話した国連代表の一人の名前を、私に伝えた。

そして私は 5 月 6 日、ニューヨークの国連の彼に電話をかけ、ロバート・ミューラー氏（社会経済開発局の事務次官）のオフィスで会った。

mr Mullet ミューラー氏はディアズ博士と会ったことを認めたが、私が国連で何か提案できないかと、頼んだ。彼は答えた：

「全ったく何もできない。何かできるかもしれない一部の人々に、それを見せて回ったが反応は全くなかった。」

ジョージ・アダムスキーに対する公式の態度を考察する前に、彼はなにを言ったのか、現代科学の評価に耐えうるのか？調べなければならない。

注

1、ヨーロッパからの報告 FSR Vol 5 No 2, 1964)

2 1959 Hans C.Petersen (SUFOI, Denmark, ペーターゼン (SUFOI (デンマーク))

12 章

矛盾点と確証

アダムスキーに対する多くの批判は、彼の会った宇宙人が我々の太陽系の惑星からきたということに集中する。

彼は、実際、宇宙人が太陽系の外から来たと何回か言ったこともあって、彼自身の言っていることもかなりいい加減なところもあったので、これ以後、現代の天体物理学者が言ったことを正確にチェックすることは、不可能となった。

言うまでもなく太陽系の外の惑星の状況は仮説としては考えられるが論争のさ中である、しかし、アダムスキーは頑固だった：

彼の『兄弟』は主に金星、火星と土星の出身であった、そしていちど、1958 年 2 月ごろのことだが、彼は木星、海王星と天王星の人々と会ったといった。

彼は、我々の太陽系の中の他の全ての惑星に程度の差はあるが人が住んでいると主張した、1960 年 2 月に、カザフスタンでの天体物理学学会で天文学者が冥王星の軌道の先にさらに 3 つの惑星があるという発見を発表した — 彼らは冥王星の軌道のゆらぎが第 10 惑星の証拠であると発表した。そして、この発見はスミソニアン研究所のギュスタブ、ペイカー博士によって、後に確かめられた。

1972 年にジョセフ L. Bracy は、ハレー彗星の不規則な軌道を分析することによってその証拠を見つけたと述べた

まだアダムスキーの 12 の惑星が存在するという仮説は潔白が証明されていないのだろうか。最近少なくとも土星に加えて他の 2 つの惑星のまわりにもかすかにリング・システムがあることが確認されて彼の言ったことが部分的に確認された。

1977 年には、天王星にもそのようなリングがあると報告され、そして、1979 年には、ボイジャー宇宙船が木星の周囲で実際にリングの写真を撮った。

1982 年 6 月のアメリカの天文学協会の会議で、Villanova 大学の天文学者エドワード・ガイナンは海王星を取り囲むリング・システムの存在の証拠をみつけたと発表した — 残念なことに、アダムスキーはリングシステムのある 2 つの惑星のうちの 1 つが地球であるといったが、もう 1 つの名前は言わなかった。

アダムスキーは「空飛ぶ円盤のかなたで」のなかで、外側に位置する惑星には、光と熱が少ないことはなく、同じような温度と空気が存在していると説明した。

これは、正しいと思われる。

太陽系の中に存在する、2 つのアステロイド帯は引力で太陽からの放射線を引きつけるが、この過程は TV 陰極線管に例えられると彼は、書いた。

太陽からのプラスに充電された粒子は、ネガティブに充電されたアステロイド帯のそばで速度を速めると、彼は言った。

火星と木星の間にある有名なアステロイド帯に加えて、アダムスキーは別に 2 つあるといった。

海王星と冥王星の間に 1 つと、まだ発見されていない惑星の手前にもう 1 つあるということである。なんらかの真実が、これにはあるのだろう。

チャールズ Kowal (非常に尊敬されている Hale 天文台の天文学者) は、土星と天王星の軌道の間に独特な物体が存在することを発見した。

Kowal は、これが、天王星の軌道とクロスして、海王星に接近し、そしてさらに遠くを旋回しているのかもしれない、土星と天王星の間の発見されていないアステロイド帯の 1 部である可能性があると感じている。ここに、再び、アダムスキーを裏付ける証拠が出てきて、論議を呼んでいる、

まだ、彼が正しいかどうかは、わからないままである。

おそらく、最近の 1980 年のボイジャー宇宙船が太陽系を通り抜けて、3 つの未発見の惑星と、疑問視されているアステロイド帯の痕跡を同じ様に発見するならば、問題に若干の光を投じる。

Neptune. 元々アダムスキーの主張は、多くの支持を受けた

我々の太陽系の他の全ての惑星の表面温度は、温暖だった、

1966 年 12 月天文学者のケニス Kellernrann 博士は、ニューヨークタイムズのインタビューで木星、土星、天王星と海王星には大気内に高温の部分があると述べた。

木星と土星で 21.3cms 波長を使った時、観察結果を整合的に解釈できることを彼は発見した。

大量の惑星の大気は、太陽光線の中の可視光の浸透を許すが、可視光より長い波長の光は大気を通すことを妨げられ再び放射されると結論した。

ケレルマンは、さらにこれらの惑星で人間的文明が発達可能であり、彼らは現在我々を訪ねることも可能だと述べた。

1959 年 4 月に BBC テレビのパノラマという番組で有名なアマチュア天文学者パトリック・ムーアがアダムスキーにインタビューした

「、私はあなたが土星の人間に会ったと言ったことに特に興味がある ー。

あなたも知っているように土星はとても独特な世界である ー。

それは太陽から遠く、常にとっても温度は低く、それは固まってもいない。」それに対して、アダムスキーは、人類はまだそこにいないのだから、問題は未解決だと反論した。

ああ、しかし、パイオニアとボイジャーの探査では、土星の大気的主要な構成要素は水素とヘリウムであり、赤道には、時速ほぼ 900 マイルの風が吹いていることを確認した。

この二つの惑星は若干相違しているが、このパターンは木星でも同様である。

そして、両方の惑星はそれ自身が、高温のように考えられた。

木星の円周は、地球の 300 倍もあるほど巨大であり、大気の密度は地球の 4 分の 1 である。

したがって、これらの惑星で人間の生存の可能性はない。

私の意見では、スペースピープルはサテライト衛星を地球外に停泊させ、基地にしたと考えたほうが、はるかにありそうである、しかし、それは完全に異なる問題である。

ヴァン・アレン帯の放射能

アダムスキーは、「宇宙船の中に」で現在地球の有名なヴァン・アレン帯が核実験でその放射帯の危険性が強化されると書いていたが、それは確認された。

ジェームズ A.ヴァン・アレン（この発見者）は、しかし、これを全く異なる原因に帰した：「1958 年に最初に成功したアメリカの人工衛星エクスポローラーは、私の考えた実験をおこない、地球の磁場で閉じ込められた大量の荷電した電子と陽子のペアでつくられた放射帯の存在を明らかにした。

私は、太陽のプラズマ流によってこれらの粒子が生まれ、それに未知の自然の加速過程があとで加わったと考えた。

その後これらの放射帯は、太陽から発している粒子の流れ（『太陽風』）に起因するとわかった。それは、全く核爆発では何も影響をうけない。

しかし 私は、アダムスキーの主張の証明を発見することに成功した。

1962 年 10 月 NASA が発表したヴァン・アレン帯を人工の放射能と比較した記事では：「エクスポローラー XV の任務は、アメリカとロシアによる高層での核実験によってつくられた放射帯を調査することである。[イタリックは著者の私による (TG)]

この人工の放射能は、厳密に言って、『宇宙の気象現象』と言ったものではない、この放射帯が人間の核実験の結果であり、もし気象的なものであれば、他の宇宙気象衛星で調査されるはずだ。

ホタル効果

1953 年 2 月 18 日アダムスキーは、宇宙への最初の飛行で観察した有名な『ホタル効果』について書いたが、後に我々の宇宙飛行士によってこれが確認されたことは本当に驚くべきことである。

「宇宙船の内部で」67 ページで、彼は 宇宙船の窓から宇宙を見るように言われて次のように書いた：

「私は、宇宙の背景が全く暗黒であることに驚かされた。

我々を取り囲んで何億もの小さな火花が、至る所でゆらめいていて、あたかも、ホタルのようであった。

これらは多くの色彩を発し、巨大な天空の花火のディスプレイであり畏怖させる美しさであった。

1962 年 2 月 20 日、マーキュリースペースカプセルに乗って地球軌道を回った、宇宙飛行士ジョン・グレンは、似たような場면을解説した：

「太陽の最初の日の出の光がカプセルに來たちょうどその時、(私が宇宙で向かえた最初の

日の出であった) 私は、通常の軌道方向で後ろの方向をむいていたが後ろにある、内部の器具をチェックするために下をちらと見た —

そして後ろをもう一度見たとき、完全な星の氾濫であった。カプセルが、移動する間、窓の外には探しても何も見えなかったが、みたこともない星の瞬きをのぞいていた。

だがこの場合は、これは星ではなく、この大量の小さな明るい黄色がかった緑の瞬きの大きさと強度は実際漆黒の闇に瞬く、ホタルを見ているようであった... これらは文字通り数千、あった。

更に 1964 年 10 月 12 日のボスホード 1 号のソビエト宇宙飛行士ウラジミール コマロフ (Komarov)、Konstantin Feoktistov とボリス Yegorov によって確認された：

「...我々は、光って揺れ動く粒子に眼を奪われた

我々は、ジョングレンと我々の宇宙飛行士からこれらの不思議な粒子について聞かされていた。もちろん我々はこの現象を理解しようと思っていた。

.. 黒い空に対して側面から太陽が輝くときにだけ分子の発光が見えた。

彼らの動きは、奇妙である。

互いに近づく 2 つの粒子を時々、我々は見た。

一般的に、これらの小さい粒子は我々の宇宙船から来たと考えられるている。

明らかに、これらは宇宙の至る所で見つかる単なる塵である。

1962 年 5 月 24 日のスコット、カーペンターがオーロラ 7 での飛行中に、彼もまたこの粒子を見たといったが、彼が見たものは輝いていなかったのものでグレンとはかなり違う考えを持った。

カーペンターは、それを証明することができた —

この粒子は、カプセルの外部の上にできた霜に原因があった。

彼は、ハッチをドンドンたたくことでそれを取り除くことができた』 —。

しかし彼の書いたことから、カーペンターが本当の『ホタル効果』を観察していなかったことは明白である。

しかし、彼は同じ飛行でもっと面白い何かを見たはずだ —よく知られた UFO (写真) のことである。

秘密の情報に関与する 匿名の関係者は、そういつている。

カーペンターは、彼にそれを話した

宇宙飛行士が宇宙にいた時は 決して、彼らだけでなかった：

彼らは、不変の監視の下に UFO のそばにいた。

これは、アダムスキーが述べたことと正確に同じである。

スコット、カーペンター (私は、1972 と 1973 年に英国とアメリカ合衆国でついにその人に会った)

— 彼も宇宙飛行士の誰もこれまでに宇宙人の乗物として解釈できるような何も発見しなかったと私にいった。

それにもかかわらず、彼は宇宙飛行士の中の 1 人 James McDivitt は、1965 年 6 月に飛んだジェミニ 4 号のに乗って、UFO を実際見たといえるかもしれないとその詳細を私に話し公表された有名な写真が{彼が見た} UFO でなかったと思っているといった。

彼は、「...奇妙な何かが、この特定の物体にあったとは思わない」と言って終えた —：むしろ — 私はそれを確認できない。」

前の宇宙飛行士ゴードンクーパーは McDivitt が UFO を見たことを認めたただ一人の宇宙飛行士であることに、同意した。

しかし彼はオムニ・マガジンとのインタビューで 1951 年にアメリカの空軍ジェットパイロットとして勤務していたときの彼自身の目撃体験を述べた —：

「米軍の基地の上の高層でメタリックなソーサーの形体の物体を何日か続けて我々は見た。そして、我々は彼らを追跡したが、戦闘機よりすばやく方向を変えることができた。私は、UFO が存在することを信じている、そして、本当に技術的に進歩した文明に住む不可解な人間がいると思った。」

宇宙飛行士が地球軌道と、月で実際に UFO を見たと、一部のライターがいったとすれば、それは、Adamski's が全て我々の宇宙飛行は、監視されると断言したことの確認となる。

しかしゼネラル・ダイナミックスの指導的研究者、Garry ヘンダーソン博士によれば、宇宙飛行士には、目撃したことを誰も話すなという厳命が下っているという。

ヘンダーソン博士は、— NASA は「実際は映画カメラで至近距離で撮られたこれらの宇宙船の多くの映像を持っていると言った。

1979 年 11 月に、ルーZinsstag と私は、ヒューストンのNASAのリンドン・ジョンソン宇宙センターにプライベートで招待された。

私は、伝えられている宇宙飛行士によって撮影された UFO の映画と写真について尋ねた。そして、—NASA で公表する前に宇宙飛行の間撮影された全ての映画は、国家安全保障局が映写した。—と話した。

これは、秘密保持のために非難をNASAよりむしろNSA へむけるために効果的である。

本当に、NSA の情報情勢部門の部長、チャールズ・サリヴァンの 1981 年 10 月 16 日の私への手紙の中で、1980 年 11 月にワシントンの米連邦地裁が資料の分散が機関を危険にさらすという理由で UFO の情報文書 135 はNSA によって留保されなければならないことを決定したと説明した。1982 年 3 月、アメリカ最高裁判所は、この判決を支持した。

月

1953 年 4 月 21 日、アダムスキーの宇宙への二回目の旅行で、月に関して 40,000 マイル上空からスクリーンで月の表面を見せられたと言った。

「...私は、これを見て、我々が考えてきた最も近い隣の星のことがどれくらい完全に誤って

いるかに驚いた。

クレーターが多くは、実際、過去の月の中のめざましい造山活動によってつくられたゴツゴツした山に囲まれた広い谷である

そのような全てのケース以外はクレーターの一部は、月の表面に落ちた隕石によって作られたというのは正しいく、こうしたクレーターは、確かにじょうご型の底を見せている。

そして、月の表面が私の前のスクリーンに拡大されて写されるのを見た。

私は、地面を通り、岩の一部を貫通する深い溝に気がついた、どちらも過去に水が流れた痕跡であると考えざるを得なかった。

これらの場所の一部で、非常に小さな植物の成長しているのが、見られた。

一部の表面はパウダー状に見えた — 他の部分は粗い砂、または砂利に似た大きな破片から成るように見えた。【イタリックは著者 (TG) 】

非常に小さな植物の成長を除いて、これらの全ては、アポロ宇宙飛行士によって確かめられた。

最初の月面の無人着陸の前に、天文学者はその表層構造を熱く討議した。トーマス・ゴールド（たとえば王立グリニッジ天文台の天文学者）は、— 6,000 フィートの厚いちりの層が月を覆っていると 1955 年に述べた。

「その上を旅行者が歩くことができないほど、月のはちりでやわらかく包まれている —」と、彼は自信をもって予測した。

もう一人の科学者は、月の上の材質は宇宙飛行士のブーツがそれに触れた瞬間爆発すると、予測した。

その忘れられない 1969 年 7 月 20 日：

ニール・アームストロングは月着陸船から降り歩いてすぐに、おそらく最初の歩行体験を直接話してこれらの神話を追い払った。

「この小さな人間の 1 歩は、人類にとって 1 つの偉大な達成である..

表面はすばらしいパウダー状であった。」「私のイタリック (TG) 】

。アダムスキーを最も強力に非難中傷する者も、この場合は書かれていたことと同じであると、認めなければならない。

しかし、アダムスキーは他の地域では同じではなかった。

「アダムスキーは月の表面をスクリーンで見、必ずしも言う必要の無い 4 つ足の柔らかな小動物について書き、そして、いないことが確認されて、多くの嘲笑を引き起こした。

1954 年 8 月 23 日の彼の二回目の訪問で月に接近したとき最も論議が生まれることを言った。(アダムスキーは決して実際に月に着陸したと一般的に言っていない)。

このとき、彼は再び上空 40,000 マイルからスクリーンで裏側を見せられ—

月の赤道のまわりには、雪を頂いた山、湖、川と温暖な地域にはコミュニティさえあり、その人間たちはストレスもなく気持ちよく生きることができた。と話された、

確かに、月の裏側は、かなり違っていると考えられる。

我々の見ている表側にたとえば、大きな暗い平野または『海』は何も、ない。

裏側は実質的に全て丘陵地帯であり、我々が見る側面より起伏にとんでいる。

・人が住んでいるコミュニティまたは宇宙基地の存在は確かめることは出来なかった、しかし、これは必ずしも、アダムスキーが嘘をついたことを証明することにはならない

・UFO に関する情報をコントロールする権限をもつ機関はおそらくどんな証拠も検閲するだろう。

1968 年 12 月にアポロ 8 号が月の最初の軌道を完了し、ラジオ通信が戻った後、月の隠された側を直接見て、最初のコメントを言った

「サンタクロースがいることをわかってください。

これは、宇宙人の基地の存在の確認の暗号と理解された。

何百枚も写された月の向こう側の写真は比較的少ない数の写真だけが発表されたが、それに注目すべきものがなければ、それは、単にホッとしたため息と同じだった、

「Flying Saucers Have Landed」の修正版で、デズモンド・レスリーはパリ Matohlo の、アポロ 8 号の写真（私もコピーを持っている）にはっきりと緑がかった色が確かに写っていると指摘する。それは、森を高層から撮影した写真を見ているという印象を人に与える。

1 枚の写真は、美しい湖が写っているように見えさえする。

とても素晴らしいものなのでレスリーは次のようにかいた。

一、パリ・マッチが書いたように地球の最高のカメラとレンズが月をこのように撮影したというならば、アダムスキーは『光学的錯誤』の犠牲になって否定されたと言うことができる ——。

アダムスキーにとっては、残念なことに、事はそんなに単純ではない。

彼は、森、湖と川を単に見たと言うだけでなく、スクリーンを通してこれらを確認しながらホストの 1 人がつぎのように話したと言った：

「現在、我々は地球から決して見れない月の裏側にいる。下を見なさい。

この地域には山がある。あなたは、雪をかぶった高い山の頂上となだらかな傾斜に大きな木が成長しているのを見ることができる。月の裏側には多くの山と湖と川がある。

下に湖の 1 つを見ることができる。

レスリーもまた、アダムスキーが見た『小動物』は多分月の表面の宇宙船の影だろうと、思っている。

アダムスキーは月の特定の地域に動物が存在すると言ったが、単なる嘘だったのかまたはホストがうそをついたのだろうか。

一 アポロによって撮られた写真には、茶色と青と緑色の何かがあっただろうか？

アポロ 10 号で撮影された大きなシュミット・クレーターの Hasselblad プリントには、クレーターを取り囲む地域に、著しいダークグリーンがみられ、同時にそのなかには白と淡黄褐色とピンクの色の地域がまざっている。これらの色彩は、かなりいろいろな憶測を呼んだ。

たとえば、飛行通信員モーリス Allward は、一月の表面は本質的に灰色であったが、アポロ 8 号の写真は全く違い、緑の影を示すと解説した。

1970 年 5 月 20 日の NASA のヒューストンの有人宇宙飛行センターの主任広報役員、ジョン McLeaish 氏の手紙は次のように書いた：

「これはキャビンの窓とカメラのレンズ、またはフィルムの相互作用によると、考えられる」

「アポロの月の写真で、あなたが注目した緑がかった色合いは Ektachrome (So-s68) フィルムのわずかな露出不足が原因である。

中間的な色調の物体をわずかに露出不足で撮影すると、カラーフィルムは色を生じる傾向がある。

アポロ 8 号では、それは緑として出現した。

アポロ 10 号 11 号では、それはわずかにマゼンタであった。

アポロ 12 号と 13 号では再び緑だった。

わずかな露出不足による色調の変化は、それぞれの飛行で使われたフィルムの製造状態の違いによる。

月に近くても遠くてもどちらでも、この特別な現象が起こる。

一般に、我々が地球から見る表側より、月の裏側の地形は高度がある。

例外は、主に Tsiolkovsky クレーターと海である。

そこは、月で最も暗い場所である（濃度の高い地域である）

（数枚の写真は緑がかって写っている）

そこは、多くの科学者は月の上で地形学的に最も高度が低い地点であると考えている —

「数週間後に私は、NASA Goddard 宇宙飛行センターの惑星部門のポール D. Lawman 氏から頼んでもいない手紙を受け取った — :

「月の表面写真にある、明かな緑色の件に関しての、あなたの面白い手紙は、解答を求めて私に転送された。

原版のフィルムを見ていないので、一般的なことを言えるだけだが、この緑色が本物かどうかは疑問である—。

私は、主に、目撃した宇宙飛行士の言葉に基づいてこれを書いている。

たとえば、アポロ 8 号のビル・アンダーズは、月の表面に強調されて写っているその色は全くなかったといていた。

他の乗組員はこれを修正し、ちょっとした太陽の角度で褐色がかった色のように見えたと言った —。

しかし、確かにあなたがプリントされた写真に気がついたような突出した緑色の部分はなかったと言った。

私にはこれらのプリントを説明できないが、おそらく、各々の雑誌の中のフィルムリーダーの色彩検査はこれを理解するのに手がかりとなるだろう。

それが本当に、植物であったとしても、私は月に行ったことがないので何も言うことはできない ——。

アダムスキーも宇宙飛行士も、月の表面の色を緑といわなかった、アダムスキーは、裏側でスクリーンを通して植物の畑と、森、湖と川を見たと言い、これを裏付ける緑が、写真の着色剤の影響であるという説明は、決して決定的なものではない。少なくとも一般には宇宙飛行士がこのような月固有の生命の証拠をまったく報告しなかったことは確かに本当である。

おそらくアダムスキーの月に植物と動物がいるという信念を傍証するのに有名なアメリカの天文学者 **W. H. Pickering** ピッカリング以上の権威者はいないであろう。1914 年から 1924 年の間、特に、独特な暗い地域、**Eratosthenes** クレーターで彼はほぼ定期的な変化を観察し、これに基づいて、断固として主張した。

彼は、書いた：

「地球の植物が月に存在できないことは完全に明らかである —しかし、それでも何かが存在する。

それは英語の『植物』という単語で知られているものとは異なる何かである、

「後に **Pickering** は、まじめに言った。月で『暗い物が移動するのに』気がついた —移動する動物の群れかもしれない！

ピカリングの同僚は、あいまいな態度で終始し、彼を嘲笑した、

それでも、1938 年に死ぬまで、彼は信念を変えなかった。そして、書いた：

「最近著名な一部の天文学者でさえ、これは、なにかの影だと言ったので、私は太陽がクレーターの真上を横切るときや、満月の時間は、不可能だと、繰り返し言った。それは、幾何学的に不可能である。

。「13（宇宙飛行の空想的 SF 的小説に関心など少しもないパトリック・ムーアでさえ、植物が存在するという理論に確証を与えることを述べた：

「概して、地衣類のはえた点在する小さな地面、またはクレーターの一部の地面にあるコケ類の植物を別として、月に、生物はいない、

地球の植物が月の土によって成育する点に、ここで注意する必要がある、そして、トマト、キュウリとライム小麦のような一般の食用植物は地球の土地で育つものより肉厚でより緑が濃厚である。

ヒューストンの研究所は宇宙飛行士によって月から持ち帰った土が栄養素を含み、発芽、発生を促進させると述べた

ジュリアナ女王への訪問の後、1959 年 5 月 19 日、アダムスキーは早朝、彼のホテルのラジオを BBC のヨーロッパニュースに合わせると、ロシアの科学者が月の裏側に植物のように見える多くの緑の点が観察されたといったのを聞いた。だが 1959 年 10 月のルーニック 3 は白黒でしか写真を送れなかったので、科学者が隠された月の裏側の写真でこの情報を得るのは難しい。

地球の望遠鏡で特定の時間、月の裏側の限られた部分を、観察できるので、以前に得られた『緑の斑点』のデーターによる研究成果とも考えられたが、それにもかかわらずアダムスキーは 1959 年 1 月、ルーニック I 号が秘密の写真を撮ったことを確信していた。

アダムスキーは、月の温度に関して論争の的となることを書いた。

宇宙への二番目の旅行のとき — ホストにスクリーンによって月を見せられて、言われた：「地球から見る月の表側は、全く地球の砂漠地帯に相当する。

一たしかに 地球の科学者が言うように暑いが、彼らが考えるほどその温度は極端に暑くはない —

そして、裏側はもっと低温であることは知られてないが、彼らが信じるほどは寒くない。 . 再び、アダムスキーの潔白を証明するのに役立つ正確で詳細な情報が伝えられていないことは、残念である。

そして、月の日中と夜間温度の差に対しては何も言及されていないが、赤道の正午は 230°F の猛暑で夜はマイナス 290°F であると言われている。

しかし、アダムスキーは月面上の気圧はそんなに低いものではないという一見おかしい主張は 信じられるのだろうか？

月面上のアポロ II の月着陸船の中の乗組員室は 1 平方インチにつき 4.86 ポンドの圧力がかかっているが、宇宙飛行士がハッチを開けるときの外気に完全にあわせて 0.04 p. s.i. に減圧される。

— NASA は気圧が低いと本当に考えていない限りこうしたことはありえない —

宇宙服は 1 つ 100,000 ドルかかっている！

その後アダムスキーは、月の重力（第 3 章）についてとても面白いコメントをしたが、「宇宙船の中で」それを参照しない：

彼のホストも、何も言わないが月の表面で最初の一步を踏み出したアームストロングのコメントは注目する価値する。：

「周辺での移動はそれほど困難ではなかったように思う — おそらく我々が地上で 1/6G で実行したいろいろなシミュレーションよりは簡単だった。*7 正確な詳細は伝えられていないが、アダムスキーは—スペースピープルは月の表側の気圧に慣れるために 24 時間の減圧が必要だと言ったと書いており、このことからしても、彼は月の気圧についても、知っていた：

".地球より月は、はるかに小さな星なので— 地球や金星ほど、多くの空気が存在しない。それでもなお、空気が存在する。

.18「最新の計算では月の大気は、地球の 1/100,000th であると言われているが、これは、決して真実でない。

宇宙飛行士ジェームズ・ラヴェルは、以下のように述べた — アポロ 8 号が軌道をとぶ間：「太陽が昇って来る前に、確かに光線がやって来るのを見た。

太陽が昇るところに均一に明らかにかすみがあった。

「フレッドステックリングは、私にアダムスキーに関連して言った 一月面上の居住地域に『磁気光線』によって巨大な見えないドームがつくれ、1 インチ平方につき 7~ポンドで気圧を維持し、月の居住者を環境の変化から効果的に保護すると。

本当ならば、これはアダムスキーの主張に新しい光を投じるが、彼の情報提供者がこの情報で不可欠な部分を明らかにしなかった理由を説明できない。

残念なことに、見えないドームの考えは、新しくない。

「**Rene Fouere**」は *Flying Saucer Reviewe* の『アダムスキーの最後のチャンスー月は、彼の潔白を証明するか?』と題された彼の記事の中で似たような仮説を提案したアダムスキーが川、湖と森について書いたことを議論する。

Fouere は、以下のように述べる：(**Fouere** はフランス語表記のため表記できず訳者)

「...そのような記述は、全く擁護できず不合理である。

アダムスキーが本当に宇宙人に会ったならば、宇宙人は、故意にこれほど不合理な偽の写真を我々科学者に見せたと人は考えるかもしれない。

アダムスキーの本を読んだ後で、

著者の知的能力の無さと虚言癖を確信するかもしれない、同時に、

結局地球外の宇宙船は存在しないこと、宇宙人が存在するならば、

我々がいやおうなく彼らの存在を信じるようにするまでの、熱意がないのかもしれない。

彼らが人類の注意を自分自身の方へ引き寄せないことはあり得る。

本当にアダムスキーと関係があったならば、彼の思いをコントロールできたかもしれない。

そのような方法で信じられない寓話を世界中に一度広げ、その後いっきょに、嫌いにならせる。」

私は、アダムスキーが見たイメージがスクリーンに投映されたと考える。

しかし、これは偽造されたものかもしれないと考えている。

彼は、別の仮説を提供する — ジャック **Bergier** の「見えない壁」という本を引用し、科学の進歩によって、ロケットなどの発射体を跳ね返す『エネルギー・ドーム』をつくるのが将来できると推測した。

我々より進歩した彼らが、窮屈なバブルハウスをもっと良い物に取り替えられない理由はない

例えば、我々月の裏側のほとんど全て、または少なくとも広い地域をカバーし、空気は化学的につくれ、管理されたエネルギーの巨大なドームを想像する。

地球から見えない月の裏側で、優れたテクノロジーの魔法によって巨大な大気のパブルがつくれ、一湖がつくれ、川が流され、雪を降らすことができる。

これは、私の興味をそそる、もっともらしい仮説である、

しかしそれでも、依然として『兄弟』が月の大気の状態を解説した言葉を説明することはできない。

フレッド **Steckling** スティックリングはもう一つの仮説を提案する。それは 19 世紀のデンマ

ークの数学者ハンセンの理論の拡張である。

地球の引力のために-地球に近い側の空気は非常に薄く、月の裏側は表側より、重力は強いと Steckling はいう。

この理由によって、地球に近い側の空気は非常に薄くなり、地球の重力から遠い側と、月の中心の重力は結合し、この点で、両方の重力は、平行になっている。

これは裏側では質量はより高密度になり、アダムスキーが述べたように、空気と同様に湖や川（植物）や、小動物さえ存在できると彼は、信じた。 —

裏側の上の空気は遠心力によって谷に保持され、空気は 35,000 フィート高度に及ぶと、Steckling は主張する。

裏側の不鮮明な写真では平坦な様子がアポロ宇宙飛行士によって確かめられている。

こうした矛盾にもかかわらず、まだ我々が知らないことがたくさん月の周辺にはある。（特に裏側）

そして、私の意見では、裏側いくつかの地域に、人工的な痕跡を示す造られた溝または『小川』のようなものがある

これらは、地質学上、古代の川床、過去の地震活動、または崩れた『溶岩』と通常説明される。』

しかし、私には例えばガセンディの小川（写真 27）は少くとも人工のものに見える。

また、いわゆる『月の一時的現象』は、かなり興味深いものである。

天文学者パトリック・ムーアは TLP『月震』（その人はこの言葉を造り出した）に起因するガス状の放射物の現象は決して説明できないといった。

この現象は事実である

「月の表面の亀裂を通して間欠泉のようにその水蒸気は噴火するのが発見された、アポロ 11 号によって置かれた器具によって 10 平方マイル以上の水蒸気雲は、明らかに発見された

そして、以前の旅行アポロ 8 号の宇宙飛行士フランクボーマンが月の軌道を回る間、「下の方に雲がある」と報告したように：

12、

薄い雲が、時折できるというアダムスキーの主張を確証することができる。、

多くの天文学者が月で観察した『ドーム』は、もっと奇妙である。

今までに何百もそれは観測された。

ドームは、通常月の平坦な地域の 1 つに現れ、そして、消える。

もちろん、これらは、光の錯覚であると説明された、しかし、ドームが消えると、どこかほかの場所に現れるので、この説明は、ほとんど十分でない。

プロの天文学者は、幾度も何が月の上の人工の建設物であるように見えるか実際にわかったと主張する —。

ミネソタの Duluth のダーリング天文台の管理者フランク Halstead 博士は、彼とアシスタ

ントが望遠鏡によって 1954 年 7 月 6 日に観察した物を書いた。

それは、ビッコローミニクレーターの地表 125 の上に『まっすぐな黒々とした直線』のようなものが見えた。そのような線は以前に注意を引いたことはなく、観測されたことも無かった。

また、この物体は、近くの Tulane 天文台で確かめられた。

それは、アダムスキーが乗って旅行した葉巻型の母船のうちの 1 つであったか？

面白い偶然の一致なのだが、この Halstead 博士は 1955 年 11 月 1 日

ラスベガスのおよそ 100 マイル西にあるモハーヴェ砂漠を彼の妻と電車で通っている時、反論できないような目撃体験をもった。

およそ 800 フィートの長さの葉巻き型の物体は、4、5 分後にディスクタイプの宇宙船と結合した。Halstead は直径で 100 フィートと見積もった。²² それはアダムスキーの書いたものと似ており、実際アダムスキーの経験が起こった場所からこの地域は遠くなかった、それは、また、核実験が行われたネヴァダ砂漠の有名なエドワーズ空軍基地と同様、重要な軍事基地の近である。

月面上での人工建造物の更なる証拠は、H P. ウィルキンズ博士からもたらされた。

— (この人は、また、1954 と 1957 年に UFO を目撃している) 彼は少なくとも 2 マイルの巨大な、人工の『橋』に見えるものを Mare Crisium で観察し、その後 1953 年にジョン・オニールも発見した。

翌月、パトリック・ムーアは、ウィルキンズの観察を確かめた — そして、1953 年 12 月にウィルキンズは書いた。:

「それは、人工のものに見える。

月が存在するようになって、このかた、このような物質が自然に形成されたり、あるいは、自然が作り出したことは全く信じられない。

23 一般的には月の『橋』は、2 つの岩の隙間を通して輝く太陽の斜めの光線に起因する幻想として、説明されるが、アダムスキーはもう一つ別の説明をした:

実際は、この橋は修理またはメンテナンスのために着陸した約 1 マイルの長さの母船である。これらの巨大な飛行船のうちの 1 台に何かの問題がおきたとき、2 つの山の頂上の間に着陸すると、アダムスキーは説明した。

大きな機械を動かす必要があれば、もう一つ別の母船が 2 つの山の上にまたがって停泊して、重い機械を持ち上げるクレーンとして使われる。

これは『橋』のように見え、この『ブリッジ』は修理が終わると、他の母船と同じように、すぐに消える。

1966 年 11 月、アメリカ・オービター 2 号は、29 マイル上空から一月面で、8 個所のとがった『オペリスク』のように見える影の写った奇妙な写真をとった。

NASA は、一基礎から最先端までが 40 フィートの高さと考えた、しかし、ロシアの一部の科学者はこの高さの 3 倍であると主張した

アレキサンダーAbranov は —— 正確な幾何学的図形配置に従っており、たとえばギザの大ピラミッドに似た物だと主張した。

しかし、本当に、アダムスキーが言ったように地球外文明の基地が、月に存在するのだろうか。特に月の裏側に？

1962 年 12 月に、有名なカール・セーガン博士は、アメリカのロケット会社の手紙を書いて、おそらく地球が宇宙の先進的文明の知的存在によって訪問され、月の隠れた裏側にこのような知的生命体の基地があると考えるのが合理的であると彼の意見を述べた。

最近、アポロ宇宙飛行士を訓練したNASA地質学科学者 Farouk El Baz は、次のように言ったと伝えられた ——

「我々が統治不可能な地球外文明の物体が月面または地下にあるかもしれない。

未確認のレポートによると、

ニール・アームストロングと'Buzz'オールドリンは月の上の最初の歴史的 1 歩の後まもなく、2 つの UFO を見た。

元NASA職員、オットー・バインダーはNASAの通信施設を迂回して、飛行管制センターと宇宙飛行士の間で VHF の通信回線を確保したという。(伝えられるところではコピーは、ラジオ無線で傍受した人の手にあるといった。以下の会話を引用する：

「飛行管制センター：何が、そこにあるか？

飛行管制センターから、アポロ 11 への電話。

アポロ 11：これらのベイベーは巨大だ、本当に。膨大なものだ。(おおガッド)、それを信じないだろう！私は、向こうに別の宇宙船がいるとあなたに話している。

クレーターの端の向こう側にまっすぐ向いている。彼らは、月の上の我々を見ている。

「私は、月面歩行のテレビ放送の間、明確に宇宙飛行士のうちの 1 人がクレーターの光を報告するのを聞いたのを憶えている（私は、シカゴでそれを見た）

飛行管制センターからその詳細な情報を求められて、その後が続いておそらく雑音だけが、聞こえるようにしている間、プライベートな周波数を通して上記のメッセージが中継されたのだろう。私はNASAの記録にこの会話が掲載されたのを見たことがない。

このことは、数年後偶然サンディミラーの記事で確認した。

そのリポーターの一人が、元NASAコンサルタントモーリスシャトランの言ったことを書いた。

アームストロングはクレーターの端に着陸している 2 つの UFO を見たと報告した。

「放送では彼の報告は世界の安全のためにカットされた」と、シャトランはジャーナリストに言った。その後、このことに答えてNASAのスポークスマン ジョン McLeaish 長官は「こんなことは全くない」、と書いた、しかし、モスクワ大学教授ウラジミール Ashazha アザザ博士は言った

「— これが起きたことを、私は確信している。それはNASAによって検閲された。」

セルゲイ Bozhich 博士（もう一人のソビエトの宇宙の専門家）は、同時にいった：

もう一つ別の文明が存在し、地球からの無線信号を傍受し、我々の認識程度を知るためにアポロ着陸を観察していたというのが私の意見である。

彼らはその後、われわれと連絡をとることなく飛び立った 一。

フレッドスティッキングの最近の本、「月で宇宙人の基地を発見した」で月面での興味深い多数の写真を発表した、彼はアダムスキーの潔白が証明されたと考えている。

写真の大部分は宇宙人が造ったものが写っていると単純には言えないが、

いくつかは、疑う余地もなく奇妙であり、人工的建造物に見える。

結局は、客観的に見て、宇宙人の基地が月に存在するというアダムスキーの主張を支持する証拠と考えられる。

我々との文明の落差はあまりに大きく、手に負えるようなものではなく、他のケースと同じように、最初はどんなに奇妙に思われても、退去要求に同意せざるを得なかったのではないだろうか。

注

1 Tim4 11 April 1977 Tim41977 年 4 月 11 日

2 Newsweek, 21 November 1977 ニューズウィーク、1977 年 11 月 21 日

3 BBC rv panorama, 20 April 1959 BBC rv パノラマ、1959 年 4 月 20 日

4 Scientific American, September 1975 科学的なアメリカの、1975 年 9 月

5 NASA Facts, E-io-62, October 1962 1962 年 10 月 N A S A 事実 (E-io-62)

6 The Astronauts Book (Panther Books Ltd, in association with Souvenir Press Ltd, London, 1966) 宇宙飛行士 (パンサー本社 — スーヴェニア・プレス社、ロンドン、1966

7 Omni, Vol 2 No 6, 1980 オムニを予約する、vol 2 特別な 6、1980

8 Saga UFO Special No 3 サガ UFO {スペースが送る} 3

9 Inside The Space Ships pl4s 内部 pl4s

10 Paris Match, 7 January 1969 パリ・マッチ、1969 年 1 月 7 日

11 ITSS p2o4 ITSS p2o4

12 Aircraft 'Seventy~ John W. R. Taylor (Ian Allen Ltd, Shepperton, Middlesex, 1970)

13 Popular Astronomy, 45; 航空機『Seventy~ジョン W. R.テイラー(イアン・アレン社、Shepperton、ミドルセックス、1970)

の人気がある天文学 (45) ;

317, 1939

14 We Reach The Moon, J. N. Wilford (New York Times Book, 1969

我々は月に着く、J. N に。ウィルフォード (ニューヨークタイムズ本 (1969

15 Flying Saucers Farewell p42 空飛ぶ円盤さよなら p42)

16

17

18

19

20

21

ITSS pl41 First On The Moon, pso2 (Michael Joseph Ltd, London, 1970) ITSS pl42 FSR
Vol 10 No 5, 1964 UPI, Houston,

16 October 1971 Flying Saucers - Serious Business.

月で最初の ITSS pl41 pso2 (マイケル・ジョセフ社、ロンドン、1970) ITSS pl42 FSR vol
10 5、1964 1971 年 10 月 16 日 UPI (ヒューストン) 空飛ぶ円盤 (深刻な取引)。

Frank Edwards (Lyle Stuart, N_Y.

フランク・エドワーズ (ライル・スチュアート (N_Y.)

1966)

::!(tr

128

22

23

24

25

26

27

BBC Radio, December 1953 Saga UFO Special No 3 Ibid.

BBC ラジオ、サガ UFO 特別ないいえ 3 つの 1953 年 12 月同上

Sunday Mirror.

サンデー・ミラー。London,

9 September 1979 We Discovered Alien Bases on the Moon, Fred Steckling (GAF
International Publishers, 1981).

Available from the author at PO Box 1722, Vista, California 92083

著者から入手可能な私書箱 1722、展望、カリフォルニア 92083 で 13

13 章

火星

大多数の人が特に疑問視したジョージ・アダムスキーの金星と火星との会談以来、執筆と講義で奇妙で、示唆に富んだ火星の物理的状況を明らかにしている。

我々がいつも見ている太陽系の中の全ての惑星は、他のものより、たぶん最も土着的生命が存在する可能性を秘している。

何世紀もの間、火星は知的存在が住んでいると、多くの人に思われていた。

1877 年、イタリアの天文学者スキヤパレリが『運河』を観察した

この後、1894 年、アメリカの天文学者博士パーシバル・ローウェルによって、水路が確かめられた。

極地の氷冠の季節に給水が減少したとき、他の天文学者が、明らかに植物の畑を発見したが、この発見は、繁栄する火星の文明の証拠として挙げられた。

しかし、アメリカの最初の探査衛星マリナーは火星を調査したが

単に目の光学的錯覚でバラバラな模様（この場合はクレーター）がつながって『運河』にみえたということがわかった。

極地は凍った二酸化炭素で覆われ、そして、火星の上の『植物』の畑に見えたものは大きな風と砂塵の嵐で砂とちりが積み重なって造りだされたものであった。

このように、『赤い惑星』への生命の希望と全ての期待は、崩壊したようにみえた。

だがそうでないとすれば？

ローウェルや他の多くの天文学者は、有名な『水路』を観察したが、同時に同じぐらいの数の人が否定した。

論争は、長い間荒れ狂った、

しかし、1965 年に、状態を正確に観測するために『イメージ・オルシコン天文学'Image Orthicon Astronomy',』として知られている特別なテクニックを使用して一連の写真が、アメリカで撮られた。

そして、これらの写真はローウェルによって描かれた地図と著しく似ていた。

(図 28).

このような写真が明らかにローウェル天文台とウィルソン天文台山のそばで 50 年代中ごろから多く撮られ、これらはまだ発表されていない。

なぜか

想像力を広範囲に働かすことによつてのみ、クレーターの連続に起因すると言われる（もっとも優れた説明と言われている）写真の中の線を相互に接続することが可能となる。

さらに、アメリカによつて地図が作られた。

その時、空軍と NASA はマリナーのコースを飛行を表すのに、火星で目立つ『水路』（ま

たは『運河』と、しばしば間違っって呼んだ)の多くを示し、飛行の標識として使った。

1972年3月パサデナ(カリフォルニア)のジェット推進研究所でマリナー9号が、「古代の都市の廃墟」のように見えるものを写真で撮ったことを科学者が明らかにした。

この火星の南極付近の著しい幾何学的パターンは、「2—5キロメートル離れた尾根の複合体」として説明された。

おそらく、硬い材質で出来た岩が割れて切断され、破碎された後、浸食によって周囲のより弱い材料が除去された。

融解したマグマが押し寄せ、断層を埋め尽くしたか、
古代の氷または風に吹かれた大量の粉塵がクレバスを充填したか、
この2つが考えられる可能なメカニズムである。

「— 1976年夏まで火星環境のもっと正確な写真は出てこなかったが、アメリカのバイキング1号は7月20日に火星の地表に着いて、地球へ素晴らしいカラー写真を送り始めた。バイキング2号は、9月3日に着陸した。

報告されたデータの一部は予想されたものであったが、驚べきことも多くあった。

火星のはじめの着陸地点での夏の温度は、夜あけの直後は-123度Fであり、午後の中ばで-24度Fに変化する。

火星の地表の気圧は、地球の1000ミリバールと比較すると、7.70ミリバールであることがわかった。我々の上空21マイルの大気と等しい数値である。それは人間の血が煮えくり返るほど薄い。

空気の主な構成要素は、二酸化炭素(95%)であることがわかった。

予想外であったが大量の窒素が見つかった。(ほぼ3%)これは、全く予想出来なかった。

アルゴンの計測数値は予測されたものあった(約30%ではなく約2%)。

私は1976年にカリフォルニアのジョージ・アダムスキー財団でフレッドステックリングと、これらの調査結果の一部を議論したが、多くの明らかな矛盾を彼は指摘した。

「これら探査衛星は、火星で砂丘の写真を撮ったが、コロラドのグレートサンド デューンズ国立記念公園の砂丘地域は、同じ広さで同じ高さであるとフレッドは、いった。

「火星の薄い空気ではこれらの砂丘は決して生まれないはずなので科学者は困惑する。風が十分に強くないのにどうして、こうした砂丘がうまれるのだ。

火星の地表の風は、毎時250マイル以上の速度に達すると、言われているが、空気がとても薄いのでこの風は、25mphとして記録するだけである。

火星には地球のような海または大きな雲で覆われていないから、火星の風は明らかに、主に空中の熱せられたちりの小片に影響するだけだ。

例えばクレーター・ヘラスの底の地面と、そのふちとの間の深さはおよそ8キロメートルであるがもちろん温度差がある。

マリナー9号さえ、70度Fの赤道温度を観測した

ジョージ・サンズ博士が述べたようにバイキングも火星の地表で霧を劇的に発見した：

「そこには明らかに、予想したよりもっと湿度があった。

日昼のある時間、着陸サイトの地表に霧がある。

大気圏で見つけられた 30 ミクロンの水は、地面の霧だけでなくために霜も雪も十分
つくることができる。

「ステックリングは続けた「私のパイロットの標準教本の中では書かれている ——霧は、
温度と湿気の露点と呼ばれている一致点でつくられる。[イタリックは著者 (TG)]、
言い換えると 一凍るような温度ならば、霧はない。

それは、凍る温度より上で温度と湿気が同じでなければ、霧はうまれない —

そのため、もしも温度が 40 度 F であれば、湿気も 40 % であれば霧がそこにうまれる。

温度が 50 度で 50% の湿気であっても、霧がうまれる。

今、氷点の温度で湿気が高くても、氷点下になっているので霧はうまれない。

従って、霧の大きい斑点が火星にあるならば、

それが生じるのに、この地域に、十分に温度がなければならぬ

そして、バイキングからたった今我々に送ってきた数値は常に 20 度—30 度という 40 度 F
から氷点までのあいだの温度でなければいけない。」

また、火星の上の雲の発見はもう一つ別の矛盾がうまれるとステックリングは指摘した。

雲は、地面の中、または地上の湿気の蒸発に起因し、それが特定の温度で凝縮したものであ
る。氷点よりマイナスであるならば、雲はできない。

地球上では、北極と南極の上では雲はうまれず、赤道と亜熱帯の地域から吹きつけられて、
そこに滞留すると、ステックリングは主張する。

火星の上の雲は、推定 1500 フィートの上空で写真を撮られた。

そのような雲は、7.7 ミリバールの気圧では、存在できないのではないかと、ステックリン
グはいう。

地球上の雲は最高 40,000 フィートに達するかもしれないが、その高度の雲でさえ、それを
支えるにたる気圧はまだ 200 ミリバールでしかない。

我々は、火星の上空 15,000 フィートに雲が存在すると言われている。したがって、これは
氷点より上になければならぬ。

私は、これらの質問をハーヴァードのマイケル McElroy 博士に出した

大学の大気の物理学者はバイキング・データを分析した。

しかし、引き続き手紙を出したにもにもかかわらず、答えはこなかった。

ジェット推進研究所の科学者はバイキングが得たデーターを分析したが

火星の空気は地球の 100 倍薄くこの気圧では、液体の水が長く存在するにはあまりに低く、
同時にあまりに寒い。

バイキングの水蒸気マッピング・チームを指導した、Crofton Farmer 博士によると、

火星の氷は太陽が氷の表面を暖めて出る蒸気が直接氷に変化したもので、夕方、峡谷の地
面で凍る。

しかしそれにもかかわらず、水は火星に存在する 一。

Farmer 博士とヒュー・キーファー博士によると、

水-蒸気マッピングと赤外線での温度調査の記録は、それを証明する

火星の北極近辺の永久氷冠は、科学者が予想した凍った二酸化炭素からは作られたものではなく、水の氷である。

夏の間の火星の北の極地の氷冠の最低温度は、 -163 度 F.である。

二酸化炭素は、その温度で蒸発してしまう。

冬場にはドライアイスの氷冠が両方の局地で確かに存在するが、夏の北極の大きな永久氷冠は全て水である。

地球の北極地域の永久凍結層の様に、水は、地面に閉じ込められているように見える

そして、また、火星の岩の中の鉱物や純粋な土分子の中に結合したりする。

「火星のいたるところで、水が存在している証拠を見つける。

現在のすべての疑問のなかで、ほとんどが、水に関係している」、と McElroy 博士は言った
私は、すでにマリナー 9 号によって写真を撮られた幾何学的地形が存在する地域について
のべた。

しかし、更なる異常地帯が、バイキングによって報告された。

マイケル・カー博士（バイキング 2 号の写真を解釈しているチームのメンバー）は、火星
の北の地域が土地を耕作した形状のように見え、ミステリアスなパターンを見せていると
言った

「...我々は、何か変なものを撮った。

縞模様は、自然の原因であるにはあまりに規則的である。これには、非常に困惑している、
その多くが可能性として、人工のものだとは私には断言できないが。

火星の 2 つの衛星の 1 つであるフォボスの近接写真がバイキング 2 号によってとられた。

「一連の突出した平行の溝があり、これらの奇妙に規則的な地形の原因は、現在不明である。」

と、もう一つ別の火星の変則的地形についてフリーの科学ライター・エリック Burgess は、
のべた。

「変則的な特徴が写っている写真は、マリナーのものに多いがほとんどは、まだ未解明で
ある。

たとえば、大きなクレーターの地表にやけに明るいところがある、そしてその、
ぎりぎりの角度で、写真撮影した画像でみるとミニチュア極地の氷冠に似ている。

それはほとんど赤道に位置している。

ほとんど直角の十字形の溝で平らな表面がえぐられていることは、
周囲の地形やその形態と関係がないように思える。

赤道上の二酸化炭素の模様だとすると、多くの説明が必要になる。

そして、もしこの地点に氷がないとしても、なぜ水であってはいけないのか？

これらの明るい地域は、氷か、または水であるか、あるいは、両方であってはいけないの

か？

この謎の筋の通った解答は 1979 年 8 月の Die Weltwoche 誌に現れた。

それは、結局、火星は不毛な砂漠で全てがおおわれていると、今まで信じられていたが、実はそうではなかったという報告であった。

マサチューセッツ大学の物理学と天文学の準教授ロバート Huguenin、と彼の同僚の 3 人は、火星で水が比較的豊富に存在している、2 つの『オアシス』を発見したと伝えた。

これに関係する地域は、ソロ Lacus と Noachis Hellespontes である（火星が太陽に最も接近した時、これらが反射するのを見て、そう名づけられた）。

惑星の赤道からすこし南方に『オアシス』がよこたわり

そして、バイキングはこの両方の地点で、火星の他のどこよりも多く、水霧を 10 から 15 回観測した

その後更なる詳細が、発表された。

『オアシス』は、直径 720 マイルから 400 マイルあり、ソロ Lacus は地球上の微生物が適応出来るとされている酷薄な環境よりも、良い環境であると研究者は、報告した
遠隔探査装置の測定は、ソロ Lacus に水が存在していることを示しており、「それは、表面から 2、3 センチメートルの深さである。」

軌道からとられた写真は、多分大量の水によってえぐられ、削り取られた形成過程を明らかにした。

この他の地域は霜と霧あることを示している。

2 つの地域の温度は、日中 70 度 F から、夜、氷点下 107 度 F まで変動すると、研究者が言った。

1 日につきおよそ 7 時間は、土の中の氷が溶けるぐらいの十分な暖かさがある。

そして、Die Weltwoche のレポートによると、常時太陽に最も接近している火星は水は、一日中液体かもしれない。

しかし NASA のジェット推進研究所はこれらのセンセーショナルな発見と、こうした意見をもつものに冷水を浴びせた：

「我々の仲間は、Huguenin 仮説に 100 パーセント反対する。

しかしこの理論を支える、Solis Lacus 地域の写真、または他の地域の写真が、ない。

1980 年の初め、宇宙研究の Goddard 学会の創設者、

ロバート Jastrow 博士は、科学ダイジェストを書いて

嘲笑が怖いので火星での生命の証拠を削除する他の科学者を訴えた

Jastrow（その人は任務でバイキングのデータを調査した）は、少なくとも火星で生命の最初の形態が存在する明白な証拠が提出されたと思っている。

「現在の公式見解では、生命が火星にいるとは思えないということにつきる。

納税者が思う以上に、火星につぎ込んだお金ですばらしい成果を得た — しかし、その成果を誰も報告しなかった。

「Jastrow 博士は、N A S A が火星の概略をそのクロゼットにしまっておくことを非難し続ける：

「科学者は、間違ったことに非常に敏感である。

私の唯一のコメントは、自分の 30 ドルを使って研究するならば科学的発見と警告はもっとよいものになる。

しかし、あなたが誰か他人の何百万ドルも使うならば、熱にうかされてしまう。

「火星の土のサンプルでの微生物検査は、陽性だったと、彼は主張した。

バイキング・からの標本サンプルに放射線炭素をまぜてこの『食物』を食べる微生物が存在するか確認しようとした。

もしも生物があれば、放射性の二酸化炭素を吐き出す。

「ガイガーカウンターが音をたてるならば「それは、微生物が食べたことを意味する」、と、Jastrow 博士が言った、一。

ガイガー・カウンターは、何千時間も音をたてた。

「火星上の生物学的活動の更なる証拠は、バイキングから中継される写真を精細に調べていた一連の科学者から来た。

ギルバート・レヴィンがいうのに

Biospherics 社長と同僚パトリシア Straat およびウィリアム・ベントンは、火星の岩の上を観察して色が変わるように見えたことを報告した。

バイキングによって送られる色イメージを検討すると、地面の緑がかった岩のある場所で模様のパターンが変化するのが、観察されたと、このチームは報告した。

この仮説を支持する科学者は、酷薄な環境下で生きる地衣類、苔、藻類そして他の有機体などが地球のサンプル標本で生存する仕方に注意した。

例えば南極大陸では これらが成長するか、死ぬかで色の変化が生まれる。

土着の生命はいないと、一度は考えられた南極の岩の上で 1976 年に、endolithic な藍藻植物が見つかった。バイキング・カメラの限られた分解能力のため、人間の目の検知力よりも少ししか色の違いが認知出来ないで、この現象に対する回答は、更なる分析が必要である。

しかし、バイキングの生物学チームに所属する主任研究員のうちの 1 人、レヴィンは論ずる：

「私は、科学的なコミュニティが火星の命に対して疑問をオープンにもつことは正しいことだと思う

注

MARS FSR Vol 12 No 4 1966 National Geographic Magazine.

火星 FSR vol 12 冊のいいえ 4 冊の 1966 冊のナショナル・ジオグラフィック誌。

Vol 151 No 1, 1977 AP (Article by Peter J. Boyer - date not known) Scientific American,
February 1977 New Scientist, 24 February 1972 Die Weltwoche, Zurich, 29 August 1979
Spaceflight, Vol 21 No 12, 1979 Omni, Vol 2 No 9, 1980

vol 151 1、1977 AP 科学的な（ピーターJ.ボアイェ（知られていない日付）による記事）
アメリカ人、1977年2月、ニュー・サイエンティストは1972年2月24日、Weltwoche、
チャーリッヒ、1979年8月29日 Spaceflight になって死ぬ、vol 21 12、1979 オムニ、vol
2 9、1980 //

135

14 章

金星

私は、地球とほとんど変わらない、雪を頂く不毛で岩の多い素晴らしい山を見た。

木が厚く生え、山腹から滝の水が滔々と流れているのを見た。

そして、彼らは、私に金星の少し大きめのと、少し小さめの都市を見せてくれた、これらの人が集中して住むコミュニティの間に、まだ無人の領域がたくさん、あった。

1953 年 4 月 21 日の二回目の宇宙旅行の間に見せられた、金星の計画された都市の立体的イメージを George Adamski はこのように書いた。

彼が見た宇宙人の身長は 31/2 から 61/2 フィートまで変化にとんでいたと書いたあと後、彼は輸送船のことを説明した、

金星の熱帯にある湖の浜辺では、水泳する人がいた。

葉の色と細部はかなり違っているが、地球の風にそよぐヤナギに似ている木があった。

動物は牛や馬を含めて地球のよりちょっと小さめで、同様に多くの種類の花と鳥を見た。

金星の動植物の生活を地球と比較したとき、大きな違いは金星の上に常時存在する湿度が原因して着色と肉質が違うと、言った。

アダムスキーは大気圏にある安定して存在している雲が金星の人々に対する影響について尋ねた。それは地球の表面での隠れた効果の詳細な調査にもとづいて言われた：

宇宙的法則に従って生きることに加えて、金星の空気は、1000 年の平均寿命をつくる要因である。

我々の惑星を取り囲む曇が大気圏に入ってくる破壊的な光線を弱めるフィルター.の働きをする」

疑われているが、約 12 時間かかったアダムスキーの 1 度だけの金星旅行について、1961 年 3 月、公表されていないおよそ 2,000 語のレポートをだした。

金星の大気に関して書かれた 1 行は

現在の天体物理学の調査結果と比較するために引用する価値がある：

明るく照り輝く太陽は、散り散りになった『サバ曇』をとおして輝き、日中は暑いくらいだ。空気は、新鮮で、清らかに香っていた。前日に雨が降ったと言われた —

金星におよそ 5 時間だけ私は滞在した。

その間私はほとんど歩かなかったが疲れていることに気がついた。

私は、メキシコシティで体が同じように反応したのを経験している。

私は金星で、地球のメキシコシティのような高度と気圧の中にいたのだから、それを出しても無理は無かった。

私には、この場所では、他であったようなどんな困難呼吸もなかった。

「アダムスキーのニュースレターの速報 3 は、更なる詳細を書いた。」

「金星の上で — 地球上の、惑星の 80%は水でおおわれている。
金星の表面を見ることを許さない雲の量は、安定して蒸発する湿度に起因する。
これは、果物と野菜が豊富な大きな熱帯地域をうむ。
非常に雨量の多い季節があり、若干の地域では、小雨が毎日降る。
地球の計測器からの初期の金星の分光器分析では、酸素と水蒸気は完全に不足し、それに対して、二酸化炭素は相当な量を示していた。
表面温度は大変高いと考えられたが、地球から使われる分光器は地球の大気を読み取ってしまうことを考えると、信頼できるものではない
そこで新しい方法が、ためされた。
アダムスキーの奇妙に思われた主張は少なくとも 1958 年、マサチューセッツのスプリングフィールドの天文学者 Korkosz、が率直に支持した。
この科学博物館の科学者は次のようにいった。
「金星の生命は、観測目的のために、地球へいける宇宙船を開発したかもしれない。」
1959 年 11 月、ジョンホプキンス大学が、金星の大気の性質をより正確に測定する実験を行った。
アメリカ海軍の気球乗り、マルコム・ロスと気象学者（チャールズ・ムーア）は、地球より 15 マイル上空に観測器具を運んだ。
その結果、金星の上空の雲の層では地球の成層圏の中より多くの水蒸気が発見された。
地球で 4 ミクロンだったものが、金星では 15 から 30 ミクロンであった。
風船実験は、1964 年に繰り返された、
そして、金星の上の水蒸気は再確認された
同時に、1962 年 12 月、金星まで飛んだマリナー 2 号は最高 800 度 F の温度を観測した。
キャロルハニーは密接にアダムスキーと働くだけでなく 1978 年の金星探測機の部品製造会社ヒューズ・エアクラフト会社の社員でもあるが、彼の会報の 1 つで我々がすでにその意味を理解していたように、金星は 800F の高温ではなかったと書いた。
それは『電子的な運動温度』であり、電子の運動エネルギーの観測値である。
金星の上で 800F を計った同じ種類の器具を使って地球の上空で運動温度を計測すると 120 マイルの高度で、温度は 1,200F、180 マイルで 1,700F、240 マイル 725F という数値が測定され、変則的には最高 1327F が測定された、とハニーは、指摘した
300 マイルで、1100F から 2,400F の間に届くときもあり、それより上の層でも、4,000F から、6000F の数値を測定したことさえあった。
全てのこれらの温度は、地球の周囲の電子の運動温度なのである。
ハニーは、これだけでなく、マリナー 2 号の調査結果に反論した。
英国の著名な金星の権威者、V. A. Frrsoff はマイクロ波の特定の波長を水蒸気が吸収し、他の電磁波を送るので大気温度と地表の温度の調査とは区別すべきだと述べた。
送られた情報は、地表に関係したものであると、彼は、述べた、しかし、水霧がなければ、

この方法は機能しない。

マリナーの観測装置が、水蒸気、または二酸化炭素、または他の何らかの定義可能な物質が存在することを示していないので、この場合、金星の大気と、地表で発見された 800 度 F の温度は疑問である。

ソ連でクリミア天体物理学の研究所の V K. Prokoviev 教授と、Jilkovo 研究所の N. コズイレフ博士がおこなった金星の研究では暗闇と『夜』部分の大気に窒素または水蒸気が存在が見られた

Prokoviev は、言った。

それは、地球上の、植物の生命機能の結果と同じように「金星の空気に酸素が作られた、可能性を示している。

「Firsoff はこれらの発見について——地球より 金星の平均の表面温度がおおよそ 60F より高いだけであるとコメントした——。

これらの調査結果は無視されたけれども、最新のアメリカのパイオニア探査機は、金星の暗い側で窒素と酸素を発見したことは重要である。

議会の宇宙委員会でカリフォルニア大学の惑星物理学者ゴードン・マクドナルド博士は、マリナーによって測定された高温が惑星の大気圏で発生する電子運動 **emissions** の間違っただけであると発見したと話した。

ダラスの南西先進研究センターのロイド i Berkner 博士とプリンストン大学のハリー・ヘス博士は委員会で金星は、何らかの生命を宿すだろうと証言することに同意した。

その年、海軍調査研究所のハーバート・フリードマン博士も、また同じように述べた金星の、温度は穏やかで高い山脈がある。

もちろんマリナー 2 号は着陸したが、アメリカとソビエトの両国は調査のために金星の表面に、何度か他の探査機を着陸させている。

1966 年 5 月にロシアの Venera 2 号と Venera 3 号の両方とも着陸する前に通信トラブルを経験した。

ソビエト・アカデミー会員 Anatoli Blagonravov によれば、このトラブルは外部からの干渉による：探査機が地表に接近したので、温度が上昇し無線信号は完全に届く前にゆがめられた。

1967 年 10 月に、Venera 4 号はうまく金星の表面の詳細な状況を送った。

温度は、104F から 504F まで変動し、これまで、金星の大気を中心は二酸化炭素（98.5%）であり、気圧は地球よりおよそ 15 倍おおいと言われていた。

予測では、これよりすこし多いかちょっと少ないだけであつた。

1975 年 10 月のソビエトの探査機 Venera 9 号と Venera 10 号によって送られた、金星の表面の最初の写真は、驚きをよんだ。

シャープな写真（図 30）には、火星と同じような岩の地域が写っていた—

このように、少なくとも一つの基本的理論への反証があがり、ロシアの宇宙科学者ボリス

Nepoklonov によって、絶えざる風と温度による浸食で表面は、砂丘の砂漠のように見えると、指摘した。

Venera の科学的な責任者、ミハイル Marov は写真の画像が大気圏の高い濃度で拡散するとおもったが、岩は比較的新しいものと考えられるほど、シャープだったとコメントした。両方の着陸した探査機はその地点を照らすために強力な照明装置を運んだけれども、これらの影響は、目立たない。

実際、金星は暗いという予想の代わりに、アーノルド Selivanov によれば、光のレベルはモスクワの 6 月の曇った日の正午と同じだった。

これは、アダムスキーの説を補強する：

金星では太陽は、輝いていないというのは真実ではないというべきだ。

太陽の輝きと暖かさが曇った空を通過するのだ。

地球の日光とはいくぶん異なり、激しく目を刺激しない。

そして、時々、光り輝く日光が、何時間も雲間からもれる。

ソビエトの写真は、スタンフォード大学物理学者 R von.Eshleman 博士の理論への反証となる。Eshleman 博士はマリナー 5 号と Venera 4 号の測定報告によって地表の気圧は公式報告では 7X から 8X、後では 15X から 22X で、そのような密度では、金星の地平線は、凹んだように見えると言った。

惑星の完全に円形のイメージが、前に現れるので地表の上に立つ人は頭の後ろまで見ているような気がする！

Eshleman の理論が無効ならば、金星の気圧は、言われている 90X より、かなり低いことを意味する。

ソビエト調査 Venera 9 号と 10 号は両方とも、地表で機能が停止する前に、905F の温度を測定した。

だが、我々が信じさせられているように、温度と気圧がこのように高いのならなぜ、ロシア人は金星に有人飛行船を送るつもりなのか？

アレキサンダー Vasilevsky (モスクワ・スペース・センターの鉱物学者) は述べた —— 考えれば現在有人の、金星旅行は困難である

金星で次の問題をテクノロジーで克服しなければ可能でない、

彼は、言った、

十分なエネルギー源を惑星へ運ぶことと、着陸し、ふたたび飛び立つのは大変な困難である、

そして、ソビエトの宇宙飛行士が宇宙船からハンマーと鎌をもって出て、この疑わしい 900F 温度と 90X 気圧にどう対処するのか、見ものである。

空気に混合していると言われている硫黄の酸性雨は言うまでもないことである。

アメリカの科学者アンドリューと若いルイズが説明するように：

「.集中して降る熱い硫酸の雨はそれだけで宇宙船の設計者への恐ろしい挑戦である、しか

し、もっと悪いことがある。

金星の大気圏の中の少量のフッ化水素は、硫酸と化学反応をおこして、単純な鉱物の酸の中で最も強いフッ化硫黄酸（ HSO_3F ）となるのだ。

それは、大部分の一般的な材質を破壊し、硫黄、水銀、リード、スズの大部分を溶かす。

金星の空気の最新の研究は硫黄の酸性雨が地表に届かないことを示す。――

しかしロシア人が本当に人間を金星に行かせるつもりかどうか知るために、私はモスクワ・スペース・センターの Vasilevsky 氏に手紙を書いた。すると、その人は私が Venera 探査機の写真が明快に示していることを理解しているので困惑しているようだった ―。

私には、いっさい返事はきていない。

英国人の専門家 V. A. Firsoff に、他のことと、これとの明かな矛盾について問い合わせると、次のように答えた：「現在の情報でまじめに考えたなら、宇宙飛行士を金星に行かせるというソビエトのプロジェクトは宇宙船の外に出ないようにしない限りは馬鹿げたものに見える。」

「または、我々に言われているほど金星の上の状況は極端なものではないのかもしれない」と彼は付け加えた。

ロシア人は、将来の宇宙コロニーとして金星を使うという可能性を考えて、近隣の惑星に関する情報の発見をゆがめ誇張して伝えて、既得権を先に得ようとしているのだろうか。

1978 年 12 月に、ロシア人とアメリカ人は、金星の上を新たに調査した。

軌道を回っていたアメリカのパイオニア 2 号は 12 月 9 日、最初に、到着した。それは、確かに 4 台の探測機を 49 キロメートル下の表面に着陸させた ―、カリフォルニアの NASA の宇宙リサーチセンターのボリス Ragent 博士によると、「地表の空気は、とても透明であった」という。

地表より上空 15kms で、4 台の探測機は全て 710F の温度を記録し、同時に温度の測定結果を伝送する際、トラブルが起きた。それはイレギュラーなものであった。

着陸すると同時に、探査機は水蒸気と同じ様に、酸素（カーボン）と、窒素（ヘリウムとネオン）の予期していた量を見つけた、しかし、若干のデータは全く予想外だった：

大量のアルゴン 36（原始のガス）が、発見され、例えば地球や火星より大量のアルゴン 36 は、データを見た NASA のチームを困惑させた。

着陸したパイオニア探測機のうちの 1 台は、なんとか 900F の高温に 67 分間耐えることができた。

金星の激烈な高温は、太陽の熱を閉じ込める大気圏の、二酸化炭素と水蒸気に起因すると推理される。これは、熱の宇宙への放散を防ぎ、有名な『温室効果』をうむ。オックスフォードのクラレンドン研究所の F. W. テイラーによると、金星は吸収したより 15% 多く、エネルギーを放射する。

彼が考えるのには、表面の温度をこの数値で保つためには、金星は内部からこの余分の熱が補充されなければならない（この熱は地球より 10,000 倍以上多い） ―、それは現在の惑

星形成理論によっては考えられない。

金星は、この影響が生じるのには現在の数千倍も放射性成分が必要である。6 回目のアメリカの探査は、任務を完了し地球へ金星のレーダー地図を送るのに成功した。

それは、オービター探査機と呼ばれ、惑星の暗い側に、酸素と窒素を発見した。それは再び、地球の天文台の望遠鏡から金星の暗い側に、明らかに観測されるいわゆる『灰色の白熱』の問題を注目させた。

19 世紀ドイツの天文学者フランツ von Gruithuisen は、金星人の新しい統治者の継承を祝って、点火された山火事の光としたが、それは現在のオーロラまたはおそらく『化学的炎による『白熱』と考えるよりは、賢明な答えのように思えてしまう。

『Venera 11 号と Venera 12 号は、アメリカの 2 週間後に金星に到着した

Venera 12 号は、1978 年 12 月 21 日に大気圏に突入した。

．軌道からの降下は 1 時間半後、最初航空力学的ブレーキによって成され、それから、40kms の高度に達してパラシュートが開いた。

そして、860F の温度と 88X の気圧を記録し、着地の前、最後の数フィートの間、濃密になった空気の中で、制動ディスクの助けを借りて降下した。

地表で宇宙船の中の装置が 110 分間、ソビエトのモスクワ、タス通信に報告するために内部の室温が維持された。

『高速の』放電現象が、観察された；

母船から空気を振動させて分離した探査機はおよそ 15 分後着陸した。

Venera 11 号は 1978 年の、クリスマスに着陸して、834F の温度と 88X の圧力を記録して、95 分間、操作を続けた

両方の調査は、金星の空気の基本的構成要素が二酸化炭素（98%）と窒素(1-3%)であるという以前のデータを確認した。

測定された水蒸気は 0.1-0.4%である。

今までより大量のアルゴンと一酸化炭素が見つかり、ロシアによってもアメリカのデータが確認された。

このデータは事実なのか、あるいは、アメリカ人とロシア人が金星の状況に関する情報操作に同意したのか？

こう考えようとする人々にとっては、残念なことにほとんど証拠はない。

アメリカ人とロシア人は、本当に高温と高圧という事実を受け入れたようである。

ヒューズ・エアクラフト社は — たとえばビーナス 2 号探査機のために — 金星の地獄の環境から保護するためにチタンでできた圧力容器の部品を含む、不可欠な部品とデリケートな器具を製造した。

ヒューズ・エアクラフト社は、赤外線放射計で光を測定するためにサファイヤと 13.5 のカラットのダイヤモンドの 3 つの窓にインストールした、それは、アメリカの税関で問題になった。

国際的な科学者のチームは、ビーナス 1 号探査機のレーダー高度計から伝送されるデータを分析して、金星の表面の約 93%を地図にしている。

ハロルド Masursky 博士と同僚のゴードン Pettengill 博士とNASAのエームズ・リサーチセンターのドナルド・キャンベル博士によれば、金星の表面は、穏やかに回転しており、北アメリカ大陸のように、局所的に劇的に高いところがある。

しかし、地球の海を計算に入れなければ、地球より金星の立体図の範囲はいくぶん大きい。そして、金星の球面の平均の半径は下が 9,500 フィート、上が 35,400 フィートまでその数値は変動する。

金星の表面の約 60%は比較的平らな、ちょっと起伏がある平野から成る。高さ 300 フィートだけ上下している。

惑星の 8%は本当の高地である、最も大きいアフロディテ大陸はアフリカの半分ぐらいの大きさである。

もっと小さな地域（イシュタル大陸）は、アメリカ合衆国の大きさである。

他の2つの顕著に高い地域は、ベータ Regia で、この地域には 2つの巨大な火山である Rhea と Theia（両方とも活発な）がある、そして、大雑把に言えばアルファ Regia 地域はおそらく地質学上最も古い地形である、。

金星では、エベレストより、高い山並みと最も高い地点が見つかる

『海水』レベルの 35 フィートより、300 フィート上に高くそびえているが、マクスウェル山という名前がつけられている。惑星の歴史の最初の 1-20 億年の間に大気の熱で水が蒸発し、地殻形成が起こった。

アダムスキーの言った海は言うまでも無いが、水の流れている証拠はない—最新の研究が示すところによれば、金星には何百万年前に海が存在し太陽の熱によって加熱され沸騰したことを示している。

この惑星は、独特で逆に回転しながら、1 年間は 243 日であることが確かめられた。

（Adamnski の 26 時間の主張と比較することができる！）

そして、正確なレーダー情報は基礎的データを提供した。

空気は、赤道では 4 日間であらうじて 1 回転し、極地では 2 日で 1 回転するが、それも変動するようである。特にベータ Regia.では雷鳴と稲妻が必ず観測される。

最新のソビエト Venera 13 号と 14 号の探査船は、1982 年 3 月 5 日に 金星に着陸した。

これらの降下の間、両方の調査船は、異なる波長で空気の成分の構成と、稲妻の強度と日光の明るさを測った。

調査は、岩の表面の詳細な分析を提供した、

そして、白黒のテレビ・カメラを使って撮影し、色のイメージを記録するために赤と青と緑のフィルタを使い、地球で再び結合し最初の『カラー』TVの画像を撮った。

探査船の両方は、ネジ・ドリルを運びいれて土の表層と岩のサンプルを抽出した。

ソビエト調査船は、ベータ Regia の南東部のフェーベ Regia と呼ばれている小さな高地の

東方 2、3 千キロメートルに上陸した ー。

Venera 13 は大きな大気圧力 (89X) と高温 (457C) で壊れる前に 127 分連続して 8 つのパノラマ写真を送った。

これらの写真はカラーで『褐色がかった岩』を映し出し、時折小さな石が散らばっている大きな平らな地面が見えた。

ロシアの科学者は、岩が化学的浸食の徴しを示しているという。

Venera 14 号は、隣接した盆地に着き、465C の温度と 94X の気圧を記録した。

この調査で、上空の雲を観測したとき、金星の上空が明るいオレンジであることがわかった。

この位置から、小さな山麓の丘と風雨にさらされた地形が、見られた。

ソビエト化学研究所の責任者バレリーBarsukovの化学分析によると、金星の地表の非常に多い構成要素は、アルカリ・カリウム玄武岩である。

月の土のサンプルの場合と同様にどちらも、地球の大洋の深いところにある海溝でみつられるものである。

パイオニア・オービターが電離層で、ユニークな磁場構造を見つけたが、地球と違って金星の回りに磁場は発見されなかった。

ーフレッド ステックリングは、我々が金星について与えられた事実の多くが非常に疑わしいという。

ーたとえば報告された大気の状態が事実ならば 90X の気圧の大気圏では、その密度のために内部『アース』システムがあるので稲妻放電は起きないと主張する。

また、Steckling は報告されたほぼ 900F の温度では着陸探査機に配備されたパラシュートは、この熱の中では風船より効果的にことを行うことを信じている。しかし、それは

Venera の降下した小型探査船は、64km の高度から 46km までパラシュートを装着しただけで、空気が十分に涼しくなったところで、パラシュートが放棄されたことは知られている。そしてこの後、小型探査機は、20kph の速度の制動ディスクを用いて、加熱する厚い大気圏を降下し続けて着陸した。(表面の 1/14 は明らかに水で満ちている)

我々の近くにある惑星の一つ、金星の可能な限りの真実と、正確な事実を明らかにするためにロシアとアメリカは、莫大なお金を費やす準備をしている。

確かに我々が知っている人間かどうかは問題外だが、そこに生命がいるか明らかにするためである。

『金星人』についてアダムスキーは、うそをついたのだろうか、または、宇宙人が嘘をついたのだろうか？

注

1 Inside The Space Ships p212 2 Ibid.

宇宙船 p212 2 つの同上の内側の VENUS リファレンス 1

3 Letter from GA to the co-workers, 31 March

4 Space.

GA から同僚（{ 4 が間隔をあける} 3 月 31 日）への 3 枚の手紙。

Science el Astronautics April 1960

5 UPI 18 December 1965 6 Astronautl~s ~?

1960 年 4 月科学エル宇宙航行学

5 1965 年 12 月 18 日 UPI 6 Astronautl~s ~?

Aeronautics, November 1965

航空学 — 1965 年 11 月 —

The Times.

タイムズ。

London, 22 October 1975 Ibid.

ロンドン、1975 年 10 月 22 日同上

Scientific American.

科学的なアメリカ人。

September 1975 Spacoflighi, Vol 21 No 3, 1979 New Scientist, 13 November 1980

Spacefl~ht.

1975 年 9 月 Spacoflighi、vol 21 のいいえ 3、1979 冊のニュー・サイエンティスト、1980

年 11 月 13 日 Spacefl~ht.

Vol 21 No 5, 1979 NASA Release, Ames Research Center, New Scientist, 11 March 1982

Cosmic Bulletin, December 1980

vol 21 のいいえ 5、1979 の NASA リリース、{宇宙的な 1 つの 1982 年 3 月 1 日が — 1980

年 12 月 — 告示する} エームズ・リサーチセンター（ニュー・サイエンティスト）

1961

California,

カリフォルニア、

28 May

5 月 28 日

1 45

1 1980

Above' Enlarged section of image orthicon photograph of Mars ~eft) shows a marked resemblance to part of a Lowell Observatory map of the planet (right) The right-hand arrow (in white on the photograph and black on the map) indicates Syrtis Major.』火星 ~eft のイメージ・オルシコン写真の拡大断面図) 惑星(右)のローウェル天文台地図の一部との著しい類似点に明らかにする — 右の矢（写真の白と地図の黒で）が大シルティスを示すことを。

Thes': oddly regular 'furrows' on Mars were photographed by Viking I in 1976 at longitude sso', latitude 46' north.

Thes のもの：火星の上の奇妙に規則的な『溝』は、バイキング I によって 1976 年に経度 sso で写真を撮られた』（緯度 46）北の。

The parallel vaney and ridges are about one kilometre apart.

平行 vaney と峰弧およそ 1 キロメートル間隔で。

29 .

An early telescopic photo of the Gassendi crater on the Moon, with a contrast-heightened picture shown below.

月の上の — below.を示される対照-高められた絵で — ガセンディ・クレーターの初期の望遠鏡の写真

Are these grooves merely caused by bygone seismic activity, or could they be artificial?

これらの溝はたんに過去に地震活動に起因するか、あるいは、彼らは人工的なものでありえたか？

27

15 章

立証責任

一般にはアダムスキーは、信用されていないし、彼の言った事は公式に承認されていないが、存在する証拠の一部を提示すれば、いまでもセンセーショナルな論議が生まれるだろう。

たとえば、1952 年 11 月 20 日のデザートセンターでのコンタクトに関して、1956 年 8 月 3 日、アメリカの空軍のインテリジェンステクニカルセンターは研究者リチャード・オグデンの問い合わせに「アダムスキーと他の 6 人の証人が言ったように空軍機は、その時この地域を飛んだ」と答えた：

「1956 年 7 月 18 日のあなたの問い合わせに答える、プロジェクト Bluebook 特別レポート No.14 は非公開にされていたが、1955 年 10 月に公開された。これらのレポートのなかには 11 月 20 日の日付の空軍パイロットのレポートも含み、こういった全てのレポートが含まれている。

1952 年 カリフォルニア、デザートセンターでの空軍機の接近に関して、後にオグデンは、更に情報を求めてもう一回手紙を書くが、空軍にはその UFO 調査の詳細を公表する方針はないと Major T. J. Connair , Jr. (アメリカ空軍の副官) は答えた。[イタリック著者 (TG)]。

リチャード・オグデンの問い合わせは、F B I の訪問で答えられた。

オグデンは、返答をもらえなかったが、私は C I A に情報開示を要請した。その回答は、以下にコピーされたものである。

1979 年 9 月 27 日、私は、オハイオのデイトンのライト・パターソン空軍基地の、米空軍対外技術部に手紙を書いた。(以前の空軍技術情報センター)

ひと月後、1979 年 9 月 27 日付けの普通郵便で返事もらった。：

「1979 年 9 月 13 日のあなたの UFO 目撃に関する情報開示請求は、記録がないとのことで返送されてきた。」

しかし、全てが迷宮入りというわけではなかった、私の捜していた情報は最終的にリチャード W.オグデン氏 (アメリカの研究者) によって、得ることが出来た。

CENTRAL INTELLIGENCE AGENCY

情報本部より

ティモシーグッド様へ

1973 年 8 月 27 日

ミスター グッド様

これは、1979 年 8 月 17 日のあなたの手紙への回答である、
情報公開法によって情報請求されましたが、指示した UFO 事件の記録は、告訴している
「UFO グランドウォッチ社」 the Ground Saucer Watch, Inc に資料（879 ページ）を渡し
てあります。

私の手もとには、この資料のインデックスがないので、あなたが興味をもっている特定の
事件がそれらの文書の中に含まれているかどうか確かめることができない。

The incident seems to have involved only the U.S. Air Force.

事件は、アメリカ空軍のみが関係している。

あなたが U S A F に UFO 記録のすべてが、機密扱いを解除して、公開するように手紙を書
くことをアドバイスします。

空軍に記録がないならば、国立公文書館を通して手に入れることが出来るでしょう。

敬具

ジョージ W オウエンズ

情報とプライバシー調整官

そして、アメリカ空軍のプロジェクト Bluebook ファイルのマイクロフィルムから見つけ出
しコピーした。

1952 年 11 月 20 日、カリフォルニア Salton 海での UFO 目撃に関するテレタイプ書類が
明らかにこれと関係している。

捜しだした情報は、特にデザートセンターでの目撃には言及していない

それは、この日おきた遭遇事件の前に起こった。

それは、次の通りである。:

UFO がロッキード空軍機 B50 5626, によって DAVIS MONTHAN から ROBIN のあたりで
目撃された。

物体は 2CO5 MOUNTAIN で目撃された。時間は 10 時

SALTON SEA, の東 10 マイル、高度 16000 フィート

飛行機は 275 度で機首を向けており、物体はパイロットから 11 時の方角に目撃された

物体は動かず、ただ色調は白から赤へそして緑に変化した。

山の北西に機首を向けると光を消すようになくなった
機動力または推進力はないもようで、パイロットは形態とサイズを確認できなかった。
1952 年 11 月 22 日」、

1959 年 10 月 30 日付けの手紙で

ローレンス J. Tacker 大佐は、このケースへの問い合わせを次のように否定した：

「1952 年 11 月 20 日のアダムスキー氏の目撃と、空軍のパイロットの目撃は全く関係ない。
アダムスキー氏は、人気のある S F ライターだが、アメリカ空軍に対して、今までそれを
証明したことはない。」

「悪名高い」ストレイス書簡は、もう一つの別の問題であり、肯定と否定がもつれ合った
織物になっている。

ストレイス書簡は 1957 年 12 月 6 日にアダムスキーに送られたもので、
それは、アメリカのワシの紋章が青く浮彫りにされた白い紙の上にタイプされ公式の、国
璽が押してあった。(次のコピーを参照)。

アダムスキーは 1 ヶ月以上遅れて、コーワーカーにコピーを公開した。そして、コーワー
カーに、アダムスキーが許可するまでは、ストレイスまたは文化交流委員会の名前のどち
らも出さないと警告した。

彼は国務省は大統領が全責任をもっている政府執行機関であると指摘した。つまりこの手
紙は大統領によって許可されたものと考えてもよい。

英国の *Flying Saucer Review* の 1958 年 5 月・6 月号は最初にこの手紙を発表したが
国務省のストレイス氏に手紙を書いて、1958 年 6 月 10 日付けの返事をもらった。
返事は以下のとおりである。

私は、1958 年 5 月 28 日のあなたの手紙にある、『R. E. Straith について、文化交流委員会
(国務省) に問い合わせた。

国務省に関係して R.E.Straith という名の人はいないし、この部署の勤務者名簿にも全く記
録もない。

さらに、文化交流委員会の名前の支部、部署もない。

アダムスキー教授が引用した手紙は、誰か公式レターヘッドを無断で使用し、自分で署名
した可能性があるので、現在我々は、調査中である

「アダムスキーは、FSR の 7 月・8 月号の記事でこれにかみついた。

ストレイス書簡をおおやけにする前に、この手紙の 3 行目について彼が理解する限りの情
報を総動員して、その真贋を完全に調査したと、彼は書いた。

ストレイスは、国務省に完全に雇用されている公務員であり、
この部署の発表されたリストのどこにも、彼の名前が現れないのは当然であるような仕事
を担当していたからだ。

明らかに、手紙を公開した時から、この情報提供者への圧力のため、何も言えなくなった。
と、アダムスキーは書いた。

アダムスキーは、さらに国際的に知られている文化交流委員会のサービス業務とその存在
まで否定したことは、まさしく困惑したからだと指摘した。

親善旅行のためにアメリカ合衆国代表が海外のビザを得るのは、この部署を通してであっ
た。

ワシントンの国務省より

ジョージ・アダムスキー教授へ

特別配達便

カリフォルニア バリーセンター

親愛なる教授：

この部門の公式の通知として解釈しては困りますが、しばらくの
間、これを我々の親書と考えてください。

私は、論争的となる UFO の問題に関して、我々の仲間の一部
に代わって、ここで話すが、私の仲間が、公式の方針をあまりに率直に批判したことは
誤りでした。

我々は、また、UFO の調査機関の責任者の案内役をする際に我々の空軍の独断的姿勢
を批判した。

あなた自身の経験は、調査部自身で調査して、多くの堅実な結論に達したことをすでに
知っている。

それを知れば、間違いなく、あなたは喜ぶでしょう

調査部には、あなたが言ったことを確証する大量の証拠が閉じ込んである、
それを公表するまでには、我々双方にとって、議論の余地がまだあるが、将来は一般の
人によってこれらは論じられるべきだ。

確かに、この部門で公的にあなたの経験を認めることはできない。

あなたは、我々アメリカの市民に話されなければならないと心から思うし、あなたの仕
事と講演を励ますことは正しいと私は信じている。

あなたがワシントンにいるとき、非公式に話すために立ち寄ることを望む。

私は、2月、ワシントンからかなり長い間、出かけているとおもうが、この月の最後
の週には帰らなければならない

心から

R.R.Straith

文化交流委員会』

DEPARTMENT OF STATE
WASHINGTON

Prof. George Adamski
Barry Center
California

My Dear Professor:

For the time being, let us consider this a personal letter and not to be construed as an official communication of the Department. I speak on behalf of only a part of our people here in regard to the controversial matter of the UFO, but I sincerely hope that my group has been outspoken in its criticism of official policy.

We have also criticized the self-assumed role of our Air Force in securing the role of chief investigating agency on the UFO. Your own experience will tell you to know already that the Department has done its own research and has been able to arrive at a number of sound conclusions. It will be doubly please you to know that the Department has on file a great deal of circumstantial evidence bearing out your own claims, which, as both of us must realize, are controversial, and have been disputed generally.

While certainly the Department cannot publicly confirm your experiences, it can, I believe, with propriety, encourage your work and your communication of what you sincerely believe should be told to our American public.

In the event you are in Washington, I do hope that you will stop by for an informal talk. I expect to be away from Washington during the week of February, but should return by the last week in that month.

Sincerely,
R.R.Straith
R.R. Straith
Cultural Exchange Committee
R/S

委員会は、全ての人間の移動と市民代表の親善交流を助けることによって、世界の民族間のより良い理解を促進することが主活動であった。

ある批評家は、ストレイスが書いたレターヘッドは、ただの白い紙に国璽を押して『数万』枚作ることが出来るとアダムスキーに話した。

アダムスキーは、そんな事はないといった。

つづけて彼は言った。

レターヘッドを印刷する時、レターヘッドと同じ色のインクで印璽が押され、つまり印刷と同じ一連の操作としてこれはおこなわれた。このためアダムスキーがもらった全ての手紙の印璽の印刷部分は、青かった。

しかし、ストレイス書簡の印璽は紙に押されており、その紙に色はついていなかった。

さらに、アダムスキーを訪ねた国務省代表は、印璽を白紙には決して押さないといった。

アダムスキーは、FSR での彼の記事の結論で手紙の信謬性に関して、次のように信念を要約した：

「我々は、それが、当局が公式に国璽を押した文書であることを思い出さなければならない；

そして、この当局の権威は、我々の国だけで認められるものではなく、地球上のすべての国で認められているものである。

それで、我々の政府がこの国璽を『数万』の白紙に押すならば、これらのレターヘッドの無差別の使用を許し、もはや我が国の神聖な国璽の公式の権威と重みはない。

諸外国と我が国との外交に影響し、そして、我が国の最高の政府権限に影響するほどこれは、重要な問題である。

誰かが故意に我が国の国璽を誤用するならば、彼は何者なのか問題にしなければならない。

「グレイ Barker は、ストレイス問題をかなり研究して「Book of Adamski」を発表し、そのなかで、この手紙に関して書いた章で、それが国際報道機関でどのように反響を生んだかについて書いた。

ロンドンタイムズさえ、12 インチのコラムを掲載した。

いろいろな報道機関の代表は、ロンドンのアメリカ大使館を悩ました。

誰が、ストレイスと文化交流委員会の存在を否定し、結果的に手紙がいたずらであるという公式声明を出す特典を与えたのか。

だがそうだろうか？

我々は文化交流委員会が実際あったことをすでに示した、しかし、ストレイスとは何者だろうか？

リチャード・オグデン（彼は他の誰よりも多くの事を研究した）は国務省のストレイス氏に 1958 年 8 月 31 日の日付入りで配達証明付きの手紙を送った。

9 月 5 日、ワシントン 3、D.C.の消印が押され、誰かによって Straith の名前が署名され、建物コードは Straith (SA20) となっているレシートは、その後、彼に戻ってきた。

それに署名した男は、M N.ハート氏であった。

Straith が存在しないならば、なぜ、国務省は彼に送られた配達証明の手紙にサインしたのか？

ロンドン、サイキックニュースの記事で、ジャーナリスト・ジョン・ピットは、ストレイスのサインはなにかうさんくさいものであると指摘した。

彼はサインを、非常に研究した後、サインの斜線に特別に力がかかっており、誰かが意識的に注意して書いたもので、その人は、このサインをこれまで書いたことがなかったと言った。

これについてコメントすると、グレイバーカーは、ストレイス書簡は、アダムスキーを信用を失墜させるための工作ではないかと疑っていると書いた記事を彼の **Saucerian** ソーサリアン速報の中で公表し、2、3日後、彼の所に、国務省のピッツバーグ事務所の調査官と名乗る男が訪ねてきた。

調査者は、バーカーが手紙を発表した事実に対してほとんど関心をもたなかった、FSR の3月・4月号にすでに抜粋を発表し次号では、完全な手紙を掲載したので、もはや驚くべきことではなく、むしろ男が調べていたのは、UFO 誌を出版する人達の名前であった。ここにきて、いくつかのグループが似たような Straith のサインが書かれた公式の手紙を受け取ったことが、分かってきた。

Straith 書簡のように『国務省』からであるとは書いてはいなかったが、『米国文化情報局』とあった。

最も問題がありそうな2枚の手紙のどちらも、グループまたは個人の調査によってストレイス書簡と同じようにその潔白は証明されなかった。

これに反して、彼らは、会員に関する情報とニュースレターの見本を提出するように、要請した。

そして、UFO のグループが『政治的に関連』したことを研究しているのかと尋ね、思想がいわゆる『平和グループ』なのかと尋ねた。

これらの手紙の書式と書体が似ていた時から、バーカーは自分がはめられたかもしれないことを心配したが、F B I は、『Straith を偽装』している者を調査した後、彼は無関係であることは立証された。

もしかすると、バーカーは起訴され、「不正にどんな部門においても国璽に添付したり、捺印する者は最高 5,000 ドルまたは5年の刑に処する」という合衆国の法律にもとづいて、(タイトル 18 (セクション 1 の O 17)) 両方の処罰を受けたかもしれない。

「前に言ったように、サインが似ていたにもかかわらず、他の手紙はどれも、我々がこの男性が確かに存在したと言った『R. E Straith』のものではなかった。

ストレイス書簡だけは、国務省によって使われる、白い紙に（青く模様が浮彫りにされた用紙）の上に国璽が押されたもので、大統領、外交問題の大臣が、管理命令のメモと手紙に使うものであった。

リチャード・オグデンはこの種の用紙は国務長官の鍵がかった秘書のオフィスにだけあり、国務長官とその第一秘書の 2 人だけがそれに手を触れることができるだけだと指摘した：ベーカーはストレイス書簡が偽物であると結論したが、その他の人（特にリチャード・オグデン）はその本物であることを確信しているとも書いた。

ベーカーの彼の「アダムスキーの本」の追伸として、先端的研究者レイ Palmer に 1959 年に送られた匿名の手紙を発表した。それには次のように書かれていた。：

「今度という今度は、私は **Straith** 問題を解き明かそう。

私は、以前、文化交流委員会の秘書の 1 人であった。

Straith 氏の主な仕事は、U.F.O（外国からの全てのデータ）を集めている。

ほんの少しの人々だけが、これを知っている。

彼は、国との間で、アーティスト、音楽家、その他のマネージメントを速やかにする働きをしていた。

Straith 氏の存在は、秘密になっている。

偶然に、彼が知られたなら、彼は引退したと話すようになっており、我が国や、外国で生活している。どんな有名な大歌手でもヨーロッパを訪問するときなどは、（委員会）に頼みにくる。

彼らは*こうしたことで必然的に「手紙は、全く違う人が書き、署名したと答えるだろうし、またそう答えないかもしれない。 草々」

ちなみに、レイ・パーマーはアダムスキーの支持者ではまったくなかった。（否定してはいないが）それは彼の証言をより有効にする。

Straith 書簡は、完全に本物だというのが、アダムスキーの考えであった

さらに、それは、**R. E.Straith** の名前を偽装した宇宙人によって書かれた。

もちろんもしこれが本当ならば、国務省が手紙の確認を拒否するもう一つの理由になる。

1979 年 11 月に、ルーZinsstag と私は、**Straith** 書簡についてキャロル・ハニーと話し合った。

ある時、彼は、我々に言った、

彼は、国務省からの 5 通の手紙を持っておりそれらは、**Straith** が、存在したことを決定的に証明する。これらの手紙が書かれたあと、有名な手紙は発表された。

残念なことに、彼の多くの資料が盗まれ、我々はこれらをもはや見ることはできなかった。

ある時、ロサンゼルスでハニーはアダムスキーと一緒にチャンネル 11 のテレビに現れて、カメラの前にオリジナルを見せた。

次の日、ロサンゼルス（CIA と F B I 捜査官と同じ様に）の国務省代表は、手紙を取り戻すために **Palomar** のアダムスキーを訪ねた。

アダムスキーはとても用心深かったのでそれをビバリーヒルズの彼の弁護士のもとで安全に保管してもらっていた、エージェントが行って、それを見せろと言ってもゆずらないかった。

注

指揮者のアンドレ プレヴィンが個人的に雇っているエージェントは私にその存在を確認してくれた。

次の日、彼らはもどってきて弁護士はなぜ見せないと非難した、弁護士に調査のためにそれを渡すよう手紙を書けと、アダムスキーにせまった。

「弁護士は私をアドバイスするために雇っている」アダムスキーはすばやく答えた、「私が、弁護士に指示などしない。

エージェントが弁護士のところにもどって、手紙の調査命令によってついに研究所まで一緒に行くことに同意したとしても、残された時間、彼がこの手紙を保持できたならば、とおもった。

エージェントは国璽がおされた本物の手紙であることを確認していた。

アダムスキーの言ったことが公式に承認され、あるいは、どんな形であれ彼が当局によって真剣に取り扱われたという証拠ではないか？

「ティモシー グッドによる注—— ストレイス書簡は国務省用紙を使用してグレイバーカー（死亡者）とジェームズ・モーズリーによって偽造された。」

1960 年 3 月 6 日、電報でアダムスキーは公式の会議のためにニューヨークとワシントンに呼び出された。

1960 年 4 月 5 日、コーワーカーへの手紙に書いた：

「.ニューヨークで国連のダグハマーショルド事務総長の片腕と 1 時間 30 分食事する、とても名誉ある機会を持った。

これはハマーショルド氏に会うための最初の準備であったが、たまたま、アフリカの紛争のために、ちょうどその時間、彼は行かなければならなくなった。

しかし、私は我々にとって興味ある多くのことを学んだ。私はまた、国連で一番有名なニュース・レポーターの 1 人に会った。

私が宇宙の惑星間の状況について話した情報はとても興味深いと彼は終わりに感謝した。

そして、彼はそれを 32 の言語で記事に書いて世界中至る所で公表するつもりだ。

あなたが資料を国連ニュースに持ってくるなら、レポートを出すので、この記事があなたの活動の助けになるかもしれない。

「同じ手紙で、アダムスキーはメイン州の上院議員マーガレット チェイス スミスとの 15 分の会談に言及した。彼女はその時、上院財政委員会の宇宙調査委員長であった。

「その時」、「私は彼女に、できるだけ多くの情報を伝えた。彼女は私にとっても感謝した。」と、彼は書いた、

これは、この感謝は、まったく私が予期していない成果であった。」

3 月 26 日、アダムスキーはワシントン D.C.で講演をした、そこでは、彼は 65 パートのフ

ルバンドに付き添われて、ウィラード・ホテルの広大なダンス会場に入場した！

6 人の VIP が出席する予定だった：、Oxnam 司教、ロバート・テイラー将軍、イリノイ州の国會議員プライスとグレイ フランシス・ヘイデン教授（ジョージタウン大学天文学者）、そして連邦航空局長官。

どたんばになって、彼ら全ては辞退した。そして、いろいろと弁解した。

たとえばヘイデン教授は、1959 年のアダムスキーとジュリアナ女王の会談の時のように、報道機関に再び攻撃されるかもしれないので王立オランダ領空軍から出席しないように助言されたといった。

ハニーはルー Zinsstag と私に、Palomar 山の、アダムスキーの家に二つ星の将軍を含む軍当局者と政府高官が訪ねてきて、アメリカ空軍の驚くべき事件に関して、この航空機の乗員は、死んでいるか意見を聞かれたが、ヘイデン教授は、そのとき立ち会った証人であると言った。

結局、その飛行機はパイロットと副操縦士がいないまま、着陸した。

ハニーは、米空軍が 2 人のパイロットに起きたことに関して、アダムスキーの意見を尋ねる手紙を見た。

アダムスキーは『少年』に確かめてみると答えた、そして、2 週間後、宇宙船にパイロットを乗せて、地球に戻すか、宇宙人の乗組員と一緒に他の星に行くか選択させることを空軍に伝えた。

彼らは後者を選んだ、そして、彼らは悪意が無いことを見せるために、スペースビープルはリモートコントロールで基地に飛行機を返した。

USAF は、返事をよこしたが、彼らも同じような結論に達したと述べていた。

残念なことに、証拠としてのこれらの手紙は、これまで見たことがない。

おそらく、何年も前に起きたアダムスキーの家の火事で焼けたのだろう。

私が、確認できるのはハニーには、この問題を確認する手段がないということだけである。

彼が見た資料が間違っているならば、我々に言っただろう。

Aerojet-General Corporation エアロジェットジェネラルコーポレーションの代表者が Palomar のアダムスキーを訪ねて、彼のコンタクトを通して 宇宙での熱の遮蔽問題を解決できるかどうか、尋ねた時に、キャロル・ハニーは立ち会ったと主張した：

彼らには大気への再突入の際、スペースカプセルのノーズコーンを保護する方法を知る必要があった。アダムスキーは解答を見つけ出した：

現在では有名な『ハチの巣形の』システムである。

私の知る限り、これまでこれは検証されたことはなかった。

マドレーヌ Rodeffer によれば、アダムスキーはケネディ大統領と少なくとも 1 回は密かに会っている。

彼女が、私と会っていたとき

1963 年 5 月のある夜、遅く、どうやって、ケネディは、アダムスキーをホワイトハウスに

近いワシントンウィラード・ホテルに訪問したか話した。

このような話は確認する方法もないが、マドレーンは、アダムスキーに与えられた進入禁止地域への（ホワイトハウスもおそらく含む）通行許可書としての政府軍用カードを見た。

これは科学者ジャック vallee 博士と同じものである*

オーストラリアのツアーの間、アダムスキーを接待した人は、アダムスキーが特別パスポートを所持して旅行しているのを確認した。

これは、アダムスキーがルーZinsstag に一度話した、ホワイトハウスの横のドアを通して訪問したという彼自身の話を裏付ける。

アダムスキーが、バチカンの建物の勝手口に入るのをルーZinsstag と May Morlet が、証言したいいわゆる、バチカンの訪問（第7章）は、これと違う出来事である
その時にルーは、この訪問は、おそらく、公式に記録されないことに気づき、バチカンに、確かめることもできなかったのでもとても驚いた。

1963年9月20日のコーワーカーのロナルド Caswell へのバチカンからの手紙は、再び同じ情報を教えてもらいたいと書きたいぐらい、バチカンの言葉遣いは、きわめてあいまいだった。

『1977年5月14日のバチカンの返事は、もっとはっきりしている：

国家秘書室 No.326—770 バチカンより 1977年5月14日

親愛なるグッド氏へ、

私は同封のあなたの前の手紙のコピーと、あなたの5月4日と2月10日の手紙にお答えする。

1963年5月31日のヨハネス23世の疑惑がもたれている民間人との謁見に関して。

私はこのような民間人との謁見は決してなかったことを保証する。

どうぞよろしく。

心をこめて

親愛なるティモシーグッド様

査定官 Mgr.G. C

アダムスキーは、どのようにエキュメニカル会議のコインを所有したか、それは謁見を証明するものだという私の質問に関して端的に否定された。

当面、問題は休止する。

ルーZinsstag と私はともに、地球でのアダムスキーのコンタクトには証人がいたことを書いた。

しかし、彼の疑惑のもたれている宇宙飛行についてはどうか？

アダムスキーは少なくとも1回は、この宇宙旅行が証人によって確認できるよう、配慮し

た。

だが「宇宙船の内側で」に書かれた 2 人の匿名の科学者を除いて、これはできなかった。

1958 年 12 月、アダムスキーはそれについて書いた。

スペースピープルは、カンザスシティー（ミズーリ州）の近くで彼の乗っていた遅れた電車から自動車に乗りかえた。

そして、短い距離を走ったあと、宇宙船は、林の木の上に、浮かんでいた。

この物語に付随したことだが、アダムスキーが書いた宇宙船への搭乗方法は、何か今までと劇的に違っていた、

その後これは他のコンタクティによって裏付けられた：

「宇宙船が浮いている間、私は宇宙船に引き上げられる経験をした。

それはさわることができず、見ることもできず、まるで何か透明なプラスチック・カーテンのようなものが自分をとり囲んでいる感じで、その、磁気の力は船へのエレベーターの様に持ち上げた、

そして、彼らが望めば、高さ 1000 マイル持ち上げることもできるが、通常、それは 2---300 フィートだけである。

あなたは、手荷物と他のなんでも持って、一緒にあがって行くことができる、

まるであなたはプラットフォームの上に立っているようだが、そうは思えないだろう。

これは透明でオープンな状態で働き、引き上げられる人はいつも外から見えている。

『一度乗ったとき、

アダムスキーは友人に、宇宙船を降ろして、何百人もの人々がイベントを目撃できるように、日光が照っている昼間、着陸できるか尋ねた。

宇宙人は我々の軍隊からの攻撃を逃ることはできたが、もし宇宙人が彼にそれを話していなければ、彼は、逮捕されて、通信を絶たれ外部から隔離された状態にされると彼に答えた。

たとえ何百人もの人々が着陸するのを見て、彼が船から急に出て行ったとしても、彼らは速くおし黙る。

宇宙船はアイオワ州のダベンポートで着陸し、アダムスキーの電車もそこに向かっていたが夕暮れまでに到着するには遅れていた。

私の調査ではアダムスキーが宇宙船に乗り込むか、着陸したことの証人は誰も見つけられなかったが、実際に巨大な『母船の中で、アダムスキーに会ったと主張する.1 人を見つかるのに成功した。

注

リサーチャーのリチャードオグデンが「円盤の汚点」（1982 年 12 月 10 日）で書いた科学者の一人は、アダムスキーの友人デイビッドターナー博士であった。

デンマークの新聞で発表されたインタビューによると』

アダムスキーは、かつてカリフォルニアのハリウッドの近くで宇宙船に乗り込む彼を、あるリポーターが目撃したといった！

これは、重要でないちょっとしたその『すじ』から聞いた、『高級将校』の話だと彼は言った。

ケルヴィン ロー（南カリフォルニアのコンタクトマン）は何回も宇宙船に乗ったと言う；私は彼の信念と言ったことを信じてはいなかったが、1976-79 の間のルーZinsstag と私との一連のインタビューで、彼の経験のディティールがどのような関係になっているかを問いただした。

宇宙人と Rowe の最初の遭遇は、1954 年に行われ、今日まで続いていると言った。

彼は、我々に母船の中で体験したことを話した

そこで彼は、地球から来た人々に会った

しかし、これまで彼らと情報交換することは許されなかった —

「私が、宇宙船に乗ったある夜、ジョージに会えたことは今でも、とてもうれしい出来事だった」、

彼らはそうしてほしくないようなので、近寄って、やあとか、何とか言うこともできなかった。

「アダムスキーについての任意の証言(訳者注 不利になることは必ずしも言わなくてもよい)は、注目に値する。

「宇宙船の中で」の序文で、たとえば、別の惑星について書かれたことの証拠を提出することがどれくらい無駄か説明する。

すべての人にスペースピープルを見せることが不可能であることは論外として — 同様な嘲笑は、写真と本人に向けられる。

これらは『全く地球でつくられた模造品または人工のものだといわれる。

アダムスキーは、『少年』が渡したという金属の見本を含む、いくつかの物を所有していたが、彼の本の序文で、その物質を分析しようとした時のことを書いている。

最初、分析の結果に非常に興奮した科学者に、アダムスキーはサンプルを渡したという、しかし、後にアダムスキーが研究所に彼を訪ねると、前に言ったことは無視し、サンプルは古い廃品置き場で拾えるようなものだといった。

彼の調査結果についての明確な回答はなくて困っている

科学者は、これらが熱または若干の『わずかな偶然的事故でおきた変化によっているとし、普通の合金の構成に『わずかな違い』があることをいよいよ認めた、合金の複製品を作る時、こうしたことに気づかないことはありそうもないのだが

1953 年 2 月 18 日のスペースへの彼の最初の旅行の間、アダムスキーは、記念品として、金属の破片をもらう許可を得た。(Orthon のしたちょっとした修理仕事の残り)それが彼の経験の具体的な証拠となることを考えていた。

微笑んで、オーソンは言った：

「あなたは記念品の収集家ではないですか！

しかし、この合金が地球で見つかるのと同じ金属を含んでいることがわかり、全ての惑星はほぼ同じであることがわかるでしょう、」

デズモンド・レスリーは、航空担当英国の大臣ジョージ スラグ伯爵にこの部品を与え、彼は、それを専門的に分析してもらうよう指示した。

サンプルの分析結果は、主に非常に純度の高いアルミニウムから成っていた。（その他は、地球上で知られている他の多くの鉱物が、合金として結合していた）

2つの未知の元素が存在していることが、見つかったが、アダムスキーは賢明にもこれらの元素は、我々がまだこれらを発見していないだけで必ずしも地球上に存在しないことを意味しないと指摘した。

科学は、公式の実験で絶えず新しい合金を発見をしていると彼は言った。

我々が地球上の特定の地域である元素が集中しているのを発見するように、量と質は、惑星それぞれで異なるのは、正しいのだろうが、基本的に、物質の構成は宇宙を通して同じものである。

「宇宙船の中に」の序文の中で「アダムスキーは、証明の任意性を完全にシンプルに要約した。

真実をどれほど見たとしても、認めるのに必要な何かがない限り、人は、証拠として示された物があっても、何も違いを認識しないし問題も感じない、世界の全ての他者の意見を無視し、まだ具体的な証明でさえも彼自身の理解の眼鏡に合うことだけを望む

注

1 FSR Vol 4 No 4, 1958

2 The Times, London, 10 April 1958 1958年4月10日

3 Saucerian Bulletin, 15 June 1958 (Clarksburg, W. Virginia) Saucerian 速報、

4 Messengers of Deception, Jacques Vallee, p203 (Andlor Press, Berkeley, California) メッセンジャー、ジャック Vallee、

5 Report From Europe (SUFOI, Denmark) . (デンマーク)

6 Letter from Lucy McGinnis to Major Donald Keyhoe, 20 July 1959

ルーシーMcGinnis からドナルド少佐への手紙 1959年7月20日

6 は、Keyhoe にまでに文字をしるす 7 Jyllands-

7 Jyllands-Posten, 1963年5月6日、



SECRETARIAT OF STATE

No. 326.770

FROM THE VATICAN, 14 May 1977

Dear Mr Good,

I write to acknowledge your letter of 4 May 1977 and the enclosed copy of your previous letter of 10 February.

With regard to the alleged private audience granted by Pope John XXIII on 31 May 1963, I would assure you that no such private audience ever took place.

With all good wishes, I remain

Yours sincerely,

G. Coppa
Mgr. G. Coppa
Assessor

Mr Timothy Good

16 章

シルバースプリングス

究極の証拠？

私がこれまでに見た中で、最も印象的な UFO のクローズアップのカラー映画は、メリーランドシルバースプリングスで 1965 年 2 月 26 日金曜日の午後マドレーヌ ロドファーとジョージ・アダムスキー（死の 2、3 ヶ月前）によって、撮影された。

この事件の詳細は、ここに初めて発表される。

この映画を私が最初に見たのは 1965 年 12 月であった。そのとき、私はロナルド Caswell（アダムスキーの英国の中心的なコーワーカー）とともに、ブリュッセルに行った。

その時、ベルギーのコーワーカーのメイ Morlet と彼女の息子パトリックと共に、この映画と他のアダムスキーの映画をあわせて大学で上映したが、それを見たのだった。

初めて、スクリーンに試写したのを見た時、私は失望した：

暗くほとんど平面的なアダムスキータイプの『宇宙船』が一連の動きを、うさんくさく繰り返していた：そして形態が変化するのが見て取れた。

それは、私が予想したほどには、説得力があるとは思えなかった。

あとでわかったことだが、この映画は後でコピーされたものであった、その繰り返して、コントラストの度合いが増加したという。

連続して撮影された、最初のフィルムは、盗まれ、多くの重要なフレームが失われ、未知の人によって加えられた場面がでっち上げられ、コピーと取り替えられた。

映画の残された部分が短くなったので、別のコピーされた部分を継いで長くすることが必要だった。

こうしたことは自然にその信頼性に関してかなりの憶測を呼んだ、そして、私がこれに重大な不安を持つぐらいならば、市民の反応はどうだったか？

ブリュッセル大学の観客は概して嘲笑的だったが、それを公開する前に英国で何ヶ月か前に試写したがそのとき、 ロンドンの Brinsley Le Poer Trench's でロナルド Caswell は、Flying Saucer Review の編集者にこれを見せた。

この試写に言及した手紙で、ゴードン Creighton は、私にいった：

「チャールズ・ボーエンや私は決して映像が彼女の偽造であるとは思わなかった。

ボーエンと私が普通の『変化』. のように見えるとおもったことをブライアンウインダーとチャールズ・ギブズ-スミスは、確かにこれらが—— 人間以外の『彼ら』によってつくられた. 偽造品であると一簡単に思った」

しかし大多数の UFO 研究者は、より単純な解釈を選んだ、

そして、概して、この映画は粗製の偽造品として断固否定された。

私の知っている限り、映画のいかなる調査も分析も、どの研究者も実行しなかった。

最初は研究のために誰も見る事が出来なかったが、その時に、

大部分のコピーは盗まれて、およそ 6 フレームだけを選んで、公表された。

可能な限りの判断では、この映画が本物であることを確信している専門的な資格のある研究者は、T ウィリアム シャーウッドただ 1 人である。(ニューヨーク州ロチェスターのイーストマン・コダック社の光学の物理学者で最年長のプロジェクト開発技術者)。シャーウッドは、それが現像されると、すぐに、フレームごとに 8mm の映画を分析し、それについて私は彼と多く事柄について議論した。

彼は私にこの章を書き上げるために技術的なデータと彼の評価を提供してくれた。

長い熟考の後、私もこの映画が多くの理由によって本物であることは確かであると思った。

少なくとも宇宙船のあきらかな歪曲は 8mm 映写機ででっち上げるのはとても困難であった。

私は 1967 年 2 月にアメリカ合衆国へ旅行した時、マドレーン・ロドファーに会って、この映画と証人の正当性を評価することにした。

私はロンドン **Symphony Orchestra** と一緒にニューヨークに向かった、そして、私のスケジュールがあくとすぐに、ワシントンへ飛んで行った。

空港で我々が会った瞬間から、マドレーンの輝くような誠実さを疑うことはなかった、そして、我々は親密な関係を確立した。

シルバースプリングスの彼女の家へ到着すると私はマドレーンに、この問題に関心のある『夫ネルソンとフレッド・ステックリングを含む多くの友人を紹介された。

両方ともにアダムスキーと親密な関係であった。フレッドは私にドイツの電車で彼自身が撮映した印象的な 8mm 映画を見せてくれた 1966 (プレート 48)、私は、マドレーンの映画と共にスローモーションでフレームを選択し、研究し、調査することができた。

議論は夜遅くまで続いた、そして、私は英国の家に帰る前に、シルバースプリングスへの再度の訪問が必要であるとおもった。

私が UFO を見たのは、シルバースプリングスへの第二の訪問の時であった。

マドレーンと私が午前 2 時 50 分、この問題を議論していた。その夜、彼女は突然それが見えるという予感を持った、食堂のカーテンを開けると、光が流れ込みそれが見えた。

およそ 1 分後に、我々両方とも、およそ地平線から 100 ぐらいの高度で、火花のシャワーを引きずって、金星ぐらいの大きさの物体が通り過ぎていくのを見た。

観察されたのは、およそ 2.5 秒であった。

これはよくロケットの再突入または衛星破片や隕石であったりするが、私は、隕石はブゲールの法則によって、このような低い位置では観察されないことを知っていた。(これは、人が上空を見るときの大気の透明度の増加指数を表す)。

もう一つは、このスパークの移動コースが、普通では隕石と考えられなかった。:

この物体とスパークは、知性を持つものに操縦されているように見え、およそ 5 マイル観

察された。

最後に、マドレーンの『予感』を考えなければならなかった。

この予感が起きたのは1度ではなかった。

それから1年か、または2年後、私がシルバースプリングスにいた明るい陽気な夏の日、マドレーンは突然、UFOが近所に来たと言った。

すると1、2分以内に、私のUFO感知機（それは地球の磁場の変化を感知して作動する）は、ガヤガヤ音を出し始めた。

マドレーヌは空の雲を指さして、飛行船がその中に隠れるか、それ自身で雲を巻き起こしていると言った。

私はリセット・ボタンを押したがそれはブンブン鳴り続けた。

雲が家に接近すると、警報は鳴り出し、リセットする間隔は短くなり、鳴り続けた。

雲が家から立ち去ると、それに対応して、そのリセットする時間間隔は長くなった。

何かが、雲の中にあった。

ネルソンロドファーと私は、この効果を引き起こす可能性のある、あらゆる家庭用器具を調べたがなにもなかった。。

マドレーヌは、探知機のブザーが鳴り出すと、UFOがこの地域にいるといったが私は、ちょっと懐疑的だった。:

似たような状況でも同じような結果はでなかった。

1978年10月、私はルーZinsstagと世界的な調査旅行の途中で、マドレーヌとのインタビューをテープ録音した。

アダムスキーがシルバースプリングスのロドファーの家で最後の月日のほとんどを過ごしたので、私は彼女が最初どのように会ったか、尋ねた。

彼女は最初の出会いがセドリック・アリングムの「火星からの空飛ぶ円盤」読んでからだ」と説明した。この著者は彼のコンタクトをアダムスキーのものと比較していた。

そこで、彼女は地元の図書館にいてアダムスキーの書いた本、全3冊を読んだ。

結局、マドレーヌはアダムスキーが東海岸に来たとき、1964年3月、(メリーランド) Rockville のシビック・センターでの講演会を準備した。

マドレーヌは、『自分の家に泊まるように誘った。

しかし彼は、旅行のとき、よく休息するために、コリン・マッカーシーによって設計されたようなモーテルやホテルに泊まるのが好きだと言った。

こうした場所は『boys']は必要に応じて彼を訪ねることができた。

しかしシルバースプリングスに到着したとき、彼はロドファーのもてなしを受けることに決めた。

この時期、アダムスキーは原子力委員会の人からNASAを含むさまざまな政府当局との非公式の会合が用意されていた。

空軍の現役高級将校との彼女の家での面白い会談は、マドレーヌによって録音された。

空軍はテープレコーダを隠し、後で、テープを再生したとき、完全に何も録音されていないことがわかり、電話で、マドレーンの『テープのコピーをもらえるかどうか尋ねた！この時、彼らのテープレコーダーが正常かテストし、テープのコピーをもらって帰っていた。

前に録音されなかったことが嘘のように、完全に動いて、きつねにだまされたようだった。

1964 の後半、ロドファーはビスタでアダムスキーと休暇を過ごした。

最初にマドレーンが UFO を見たのは、ここであった、

ある日、彼女は庭の外で、銀白の、つばさのない、いくつかの物体が、空で四方八方に疾走するのに気がついた。

「隊形を組んだ彼らをジェット機が追っかけた」とマドレーンは言った。

「ジェット機が 1 方向に直進して飛んでいるとき、突然、円盤は飛行機の前頭に行って、後ろ向きに向きを変えて、飛行機の下側に、旋回し、輪を描く。

「1964 年 10 月の最初の週にマドレーヌは、もっと印象的な目撃のチャンスを持った、その翌日、アダムスキーはシルバースプリングスにとどまるために帰った。

「それは、ほとんど、まよえる子羊のための啓示であった」

「この小さな灰色がかかった茶色の物体が、距離が離れて立っている木を越えて飛んできたとき、それは始った、そして、それは本当にありとあらゆる動きを見せた。

木の上で前後に動いたかと思うと、一見停止し、回転し、道を横切って行ったり来たりし、そのあと木を上下に飛び越えたりしたと彼女はいった。

その時、私は映画カメラを持っていなかったが、ジョージがその夏買ったものがちょうどあった。

*注

アダムスキーは、スペースピープルは、彼にアメリカ合衆国のいろいろなところで撮った映画ショットのコピーをマドレーヌに送るように指導したと言った。

ビスタの UFO フィルムの中には、マサチューセッツのハイウェイの上と一緒に進む 2 台の宇宙船、そして、アップルトン（ウィスコンシン州）のホリデイ・インの背後からとられたものがある。これらの全ての場面は、結局ジョージがマドレーヌに送った 16mm 映画のクリップであった。そして、それを受け取ると、続けて彼女は議員に電話をかけ始めた、そして、彼女は、その時連邦議会議事堂の政治的サークルでニュースになっているフィルムを見ることに興味がある議員、上院議員の誰にでも可能な限り電話をかけ始めた。

しかし反応は、期待外れだった：ほとんど、無反応かあまりに忙しかった。

* 注

この映画は、物体の大きさが小さいために期待外れである。

しかしマドレーンは、あきらめず、側近が穏やかな関心を示した下院議長（マコーマック）に電話をした。マドレーンは、地元のテレビ局（WTOP 海峡 9）が映画を放映したいと思っていると言ったと彼に説明して、彼女は最初に何をしなければならないか尋ねた。

マコーマックの側近は、TV 放映を進行することを助言し、後日興味をもつかもしいないどんな議員にでも映画を見せるように提案した。

そのまさしくその週に、無関心な連邦議会の議事堂を揺るがすかのように、モールと記念碑地域の上を 12 から 15 の UFO が、飛ぶのが見られた。

ちょうどで、1965 年 1 月 11 日午後 4.20 分、一部の公務員がオフィスを出て帰る時だった。ワードは、何人かの証人と会うために、WTOP に戻って映画（10 月にマドレーンの家の上空を撮影したの一部部分）を上映した

マドレーンがクリントン P.アンダーソン上院議員のオフィス（アンダーソンは、その時サイエンスと宇宙開発の上院委員会のトップであった）と次の日と呼んだ 1964 年 1 月 13 日に、彼女は興味を持った一団の委員に映画を上映しなさいという招待を受けた。

1 月 14 日に、彼女は 16mm のプロジェクターをレンタルし、イングリッドスティックリングと彼女の 5 才の息子グレンを連れて、上院のビルに行った。

上院委員会は、多くの質問をした；

あるものは鋭いものであったが、他は滑稽な質問もあった。

「アダムスキーが来て、ここで話すかどうか、そして、宇宙人を連れてくるか私にきいた！

「マドレーンは次のように言った。

「これにたいして、私は『はい、あなたが本当に彼らの一人と話したいならば』と答えた。

しかし、宇宙船が我々の軍事基地の一部に着陸し軍人によってガードされているとジョージが話したことを考えると、これはちょっと不可能であった。

私は、委員会のこれら著名なメンバーがこのような質問をする理由が理解できなかった、彼らは宇宙人と他で連絡をとりあい、たぶん必要などんな時でも情報交換ができるとすれば、本当に彼らと話したいのか疑問におもった。

これらに関してダイレクトな知識を持つ上院の委員会のどの議員も、

宇宙人との情報交換のアクセスを知らないということは非常にありえないと個人的には考える。

『知らせる』必要のある政府の少数の人々、例えば大統領と彼の管理下にある高度に管理された 2、3 のメンバー、そして、いろいろな情報部門（およそ 8 つの部門が、合衆国の中にある）そして、最高機密の宇宙人との協同に関わるために選ばれた 2、3 の科学者のみが、同様に、これを認識している。

私は、多くの情報源からこれが事実であることを確認した。

アダムスキーによれば、ヘルマン・オーベルト教授（宇宙科学者のパイオニア）は、アメリカのスペース・プログラムが宇宙人から直接の援助されたと認めた。

1972 年 10 月、彼に会ったとき、残念なことに、私はオーベルトにこの質問をすることをわすれてしまった

しかし、トップシークレットである、U S ./German 宇宙リサーチセンターで働いていたドイツの科学者はセンターの責任者が宇宙人であったと言った。—私は、名前を明らかにす

ることができない、特に『金星』生まれのこの人については。

この知識はセンターの科学者の中でも、限られた人だけが知っており、私の情報提供者はこのリサーチセンターの責任者がかけがえのない情報を提供していると述べた。

*上院委員会での彼女の報告を、マドレーンは続けた：

「私がちょうどそれにあきたとき、委員の 1 人は、我々にスペース訪問客がいたという事実.をからかった。

およそ 1 時間、そこにいたが、プロジェクターを組み立て、映画を上映し、私の能力の及ぶ限り質問に答え、

そして、本当にアダムスキー氏と宇宙人に会うことに真剣であるならば、私が可能な限りのことを何でもやって準備し、ここに戻って来ると、話した。

この後、私は各委員に楽しい午後でしたと述べて、ここを去った。

「マドレーンは、ジョージをその夜呼んで、会議の出来事を話した。

彼は、宇宙人を紹介するという上院委員会の要請には、等しく困惑するが、更なるどんな発展でも彼に知らせるよう頼んだ。

一方、彼は、新しい映画をみせるための記者会見を開くことに決め、マドレーンにワシントンでそれを組織するよう頼み、これは **Mayflower Hotel** で 3 月 9 日に準備された。

マドレーンは上院にこの記者会見について知らせ、一部の国会議員が、アダムスキーが会う理想的な機会であることをもう一度書いておくれた、しかし、明確な返事はこなかった。

2 月 24 日にワシントンに着いたジョージは、マドレーンの足がギブスと包帯で包まれていることに驚いた。

最近足を骨折したことを彼に話すと記者会見を中止することになると考えて言わなかった。彼女はギブスをつけてよろよろ歩き、車を運転することができた。

注

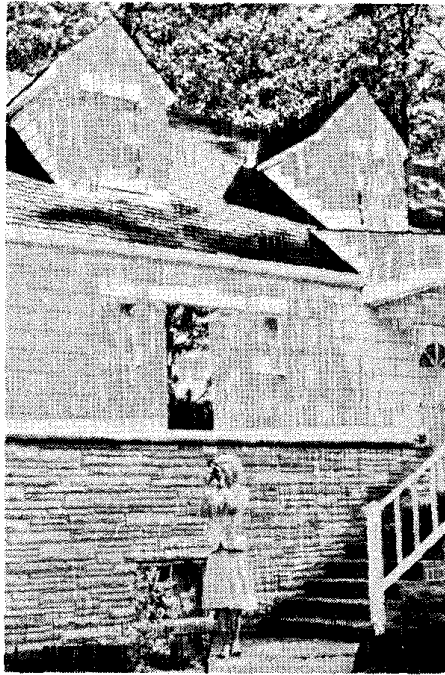
オーベルトの弟子でフォン・ブラウンが出した興味深い声明が、(1959) 1 月のヨーロッパニュースに掲載された。

アメリカのロケットが 6 月 2 日軌道からそれたことについて、彼は述べた：

「我々が、今まで仮定したよりも、はるかに強く、そして、現在は知られていない大国の基地に直面したことに気づく。現在の私はそれ以上言うことができない。

現在我々はその力とより密接にコンタクトしようとしている、そして、6 月か 9 月ごろには、この問題に関してより詳しく話すことが可能かもしれない。

34



TIMOTHY GOOD 1978

35



TIMOTHY GOOD 1978

Madeleine Rodeffer showing (*above*) where she tried to film the craft before handing the camera over to Adamski at her house in Silver Spring, Maryland, (*below*) where the sensational 8mm movie film was taken on 26 February 1965. The craft manoeuvred about 70 feet above the front yard.

36



TIMOTHY GOOD 1976

2月25日、次の日が彼女の人生で最も重大な日だとすこしも考えずに、彼女はジョージ、ステックリングと他の2、3の友人と誕生日を祝った。

1965年2月26日金曜日がシルバースプリングスではじまったとき、ネルソン Rodeffer はいつもどおり朝早く6時に起きて、Walter Reed 病院 に出かけた。

マドレーヌは8時30分から9時の間に起きた。そして、そして、彼女が階下に行ったときアダムスキーのちょっとした素晴らしいニュースで歓迎された。

ネルソンが去った直後に、『少年』のうちの1人は、副大統領ヒューバート・ハンフリーと同じ様に、町の人に見られないようにして、私に会うために家にやってきた。と、彼が言った。

スペースピープルの訪問客は、マドレーヌが、いろいろな上院議員と議員に手紙を書き、彼らの一部から正式な承認を受け取りたいことを知っており、そのことを説明した。

スペースピープルの彼は『彼ら』が、いつか飛んでくるからマドレーヌとアダムスキーがカメラを持って準備しなければならないとアダムスキーに話した、。

日も時間も、指定されなかった。

前に一度マドレーヌは、どのようにフィルムを装着するか全くわからなかった時以来、ジョージに、彼女の新しい8mm カメラの操作を手伝うことを頼んでいた。

カメラはネルソンからの彼女へのクリスマス・プレゼントであった、そして、彼が買った2本のうち1本のロールだけが使用されていた。

朝食を食べながらスペースピープルの指示を研究し、新しいフィルムを装着した。

(50フィートの Standard 8mm フィルム)。興味深いことに、興奮の感覚が、この段階ではなかった。(このようにマドレーヌは私に話した)

「我々には、本当に指示されたそれが、その日におこる、あるいは、それが終わりにするという考えが全くなかった」、と彼女は説明した、『それで、まるで次のドアから、誰かがコーヒーを飲むためにやって来ると言ったような、当然のことのよう思っていて、無頓着であった。

『午後3時と4時の間に、マドレーヌとジョージは、食堂の窓を通して、木の上で前後にホバリングしている小型ボートのように見えるものに気がついた。

同時に、灰色の車がドライブを終えて、路上で止まった、そして、3人の男性が前のドアから出て来た。

『かれらがここにくるからカメラをもってきなさい。

『「マドレーヌはここにくると、訪問客がいったと主張する。

明らかに1つのやり方だけでなく違うやりかたで『少年』は、到着した！

「私は足を引きずって、カメラをもって、ポーチの上をまたいで外へ clonked 飛びだした」マドレーヌはなおもやろうとしたが「私は撮影することができなかった！

私はガタガタして、なんとしてもできなかった。

ジョージへカメラを渡して彼が撮影することにした。

彼のカメラは、わきにおいた：

こうしてアダムスキーの 16mm コダックの代わりに私の安い小さなベル・ハウエルを使った、これが 1 台のカメラで撮影した理由である。

彼らは、『自分のカメラをもちなさい。』言ったが、我々は本当に失敗した。」

そして、3 人のいわゆる宇宙人がこの間に何をしていたのか、そしてなぜいかなる援助もしなかったのか全く自然に聞かれる。

私の仮定では、彼らは宇宙船の同僚との連絡係として動いていたとおもう。

彼らの作業の 1 つはおそらく、精神的な意味で、近所の他の人に今何がおこっているか知られないようにすることであった。そして、宇宙船が撮影される間、プライバシーを保証した。

かれらは、この物体の危険状態での飛行を援助しようとした。

宇宙艇は最初は遠くから現れて、それから前庭の上の点に直接入ってきて、右の『下部構造』が交替に降ろされて、格納される、一連の操作をおこなった。

「フォースフィールドは、時々、強められた」と、マドレーンが説明した。「そして、それはある距離をおいて必ずしもドーム形の宇宙船のように見えなかった。それは、時々黒っぽい茶色か灰色がかった茶色ように見えた。

しかし、それが近くに入ったとき、それは緑がかったように見えた、そして、青みがかったアルミニウムに見えた：

それは、どれくらい傾けるか次第だった。」

「まだ実際に完全に空中に停止していた」マドレーンを続ける、「ステップの底と車道の間の距離は — 最高でも 50 フィート だったろうか？

それは、着陸はしないで空中に停止した — 目線がほとんど見上げないで見るような場所に — それは巨大なオークの木の側にかかっていた。

そして、雑音はほとんどなかったが、低いハミングする音をたてていた。

「この後、宇宙船は、視界から消えた。温度が 300sF あったので、家に戻ろうとしたが、興奮したマドレーヌは、キーを中に入れたままドアをロックし、家のまわりから中庭へのドアを探して歩き回らなければならなかった

「我々が中庭に着いたとき、円盤は再び戻ってきた」、彼女は思い出した、「宇宙船のルーフを下に傾け、もう一度操作して傾けて、下側を示した。

それから、舞上がって、去っていった。

「映画はすべて中庭でとられたことを知っていました？

「はい！

「彼女は叫んだ。「しかし、それが現像されたとき、映画からすっかりなくなっていた。

「マドレーヌは舷窓を通して実際に人影を見たと話したので、私は彼女に詳細を話すよう頼んだ。

「舷窓は、人を観察できるほど十分大きくなかった；

一見」と、彼女が言った。

「数分だけ見えた、まわりでよろよろ歩く際、映画撮影で見上げる際に、一私は誰か船にいたことを知っている。

人間の若干の顔があった、しかし、それは私が見た全てである。

私は、彼らが男性か女性であったかは言うことができない。

宇宙船が上に浮かんだ木のうちの1本の太枝を除いて物質的な痕跡が、なかった、私が1967年に最初にその木を見た時は、もう枯れたように見えた。

私は、サンプルがないことを残念に思うが、非常に高い木を測定するのに命と体の両方を危険にさらすのは嫌だった。

また、それはその時重要なことではなかった：

ひるませたのはより散文的な原因だった。

ドナルド Keyhoe の本「(Aliens from Space)」で決して宇宙機は着陸しなかった。』と不正確に述べられたが、

「シルバースプリングス（メリーランド）の女性は、しばしば彼女の家の近くに着陸し、朝食に立ち寄った宇宙人についての話を放送で話した。

「宇宙船の消えた後、なにが起こったか、私は尋ねた？

「宇宙人々は—『これで全部だ。』と言った

とても危険なので、もう一度やる気にはならない。』

彼らは、我々の軍隊のために、とても危険だと言った。

それは私が覚えている全てである。

ほとんど何も、なかった『彼らは、ここにほんの1瞬いて、立ち去った』、とマドレーヌは話した。

「もちろん、控え目に言っても、非常にうれしかった！」

彼女が、続けた。

「ジョージは、とても興奮していたと思う。

まるで彼は、待ちわびていた全てのおもちゃをもらったクリスマスの子供のようだった。

だれも、これ以上の証明を求めてはならないと彼は、言った。

「なぜ、我々よりはるかに進歩している、宇宙人が明らかに我々の地球の軍隊を恐れる必要があるのか？

確かに、彼らは我々の武器を無効にすることができるのではないか？

その答えは、最大の可視性を許し映画の明快さのために宇宙船のまわりの『forcefield』を最低限減少させることが必要な特定の場合以外には、これまで多くの例があったように、銃とミサイルが『つめられ』、攻撃された時に備えて『forcefield』で取り囲まれていなければならないと彼らは思っていたと私は、信じる。

この forcefield は推進力システムの副産物であることに加えて

偏向した保護膜として作動し、宇宙船の減少した forcefield によって確かに無防備になる。

ジョージとマドレーンが、できるだけ速く問題なく、記者会見に間に合うように行われることを望んだフィルムの現像で問題は、起こった。

週末であったので、見通しは厳しく見えた、

ジョージが友人のビル・シャーウッドに電話で知らせよう提案し、

そしてその人は、フィルムが彼の会社（コダック）の製品でなかったので、助けることができないと話した：

そのフィルムは **Dynacolor** であった。この地域のシアーズ・ローバック店で購入された。彼らがカメラを取り扱うことに未熟で、より高価なフィルムにお金を浪費したくなかったので、ネルソンはこの製品を買った。

マドレーヌは使われるフィルムが屋内の投光照明灯で利用されるために作られ屋外のオレンジの光は濾過されることさえ知らなかった。

ビル **Sherwood** は後で電話して **Dynacolor** ディナカラーのために働いていた隣人と後で話し、アレキサンドリア（ヴァージニア）の会社を推薦された、そこでフィルムは現像してもらうことができた。

こうした理由で、次の週まで手元を離れ、後でもどってきた。

しかし、出来あがったものは何か非常に違っていた。

「我々は、その夜、それを家へ持ってきて見た」。マドレーンは言った「その一部は、（奇妙）に見えた。それは、明らかに、原作の映画でなかった、

ジョージは言った — 『それは、とても奇妙に見える。私は、絶対宇宙船の影を撮影している。

『彼のカメラの代わりに私のカメラを使ったので、我々はちょっと気の毒に思った。』

フィルムは記者会見に間に合わず準備ができなかった、しかし、これは形を変えた天の恵みであったことがわかった：

彼らは欺瞞で告発されるかもしれないので、撮影されたフレームの多くを疑問の余地なく偽造した。

だれが偽造したのだろうか？

確かにマドレーンでもないしジョージでもない。

アダムスキーが **Silver** スプリングスで 3 月の最後の週を残して、コピーを作るためにロチェスターに行って、フィルムをビルシャーウッドへ持っていった。

フレッド **Steckling** とアダムスキーは出発する前、明らかに偽造されコピーされた部分を編集した

わたしはこれらの偽造されたフレームはどれくらいひどく見えたか、マドレーンに聞いた。？

「それは、部分的に古い灰色の帽子のように見えた」と、ジョージが言った。

それは、彼らが全て偽造したものであった」と、彼女が説明した。

彼らは、我々から原作の映画を盗み出し、スクリーン上のオリジナルの部分を撮り直しカ

メラ装置で偽造部分をつくりだしたと、私は思う。

おそらく、彼らは実際ここにきて自分で何場面か映画撮影した。

それから、良い部分を取り出して、偽の部分を挿入し、全部のロールを再編集した。

私がとり戻したフィルムは、全く原作の映画でない。それは、コピーである。」

しかし、彼らが戻したよい部分のうちの 1 つは中庭の上に静止した航空機がしばらくの間空中に停止した。そして、明らかにその下側のデテールを見せていた。

しかし、再び、奇妙なことが、起こった。

アダムスキーがコピーとともにロチェスターから帰ったとき、この部分が失われていることがわかった。ビル・シャーウッドは特別な視聴装置で一フレームごと数えながら、検査した。そして、彼はこの部分を見た記憶がない

それでは、何が起こったか？

アダムスキーがフレッド Steckling に話したことよると宇宙人々は、このセクションを取り戻した。

それらが宇宙船の機能のより多くの詳細を示し、公開のために準備されたものだからだ。

それは、良い援助であり、そして、それを得た人々は、それを持つ権利を持つ、

ジョージが、言ったと 1976 年にフレッドステックリングは私に伝えた。

これは、最初の場所で撮られたこの部分の映画公開を許した宇宙人々の無能力を意味し、むしろ不自然である。

マドレーンは彼らは、そのようなすべてのトラブルに巻き込まれないよう映画を検閲したと信じている。そして、彼女は、彼らの判断は必ずしも完璧ではないが、彼らの行動が正当だったと思うと注意した。

アダムスキーが正しいならば、人は、映画の全が宇宙人によって『再配置』されたと思うことが許される。

とにかく、マドレーンは偽造された部分は地球のエージェントに責任があったと思っている。

1967 年に Bill シャーウッドが私に彼の意見を伝えた。

映画の最初の部分は、より大きな宇宙船が入ってくる前に地域の状況を歩測し、計算しているような小さな『観測モニター宇宙船』（プレート 32）がいたことを示す。

私は、マドレーンに、これをそう思うか、あるいは、両方とも明らかに全く同一の宇宙船であると思うか尋ねた

彼女の言い方では— ちょうど forcefield による歪曲のため、異なる種類の宇宙船のように現れる — ことも考えられる？

「私は、本当にそれに対して答えられない」、彼女は言った、「それが同じものであったかどうか関係なく、木とすべての間の距離を計った宇宙船が来て、中庭に浮かんた、あるいは、それがそうであるならば、より大きな異なる宇宙船はちょうど突然、中に現れた。

私には、本当にわからない。」

マドレーヌは、宇宙船をあまり撮影しなかったと私に言ったのは実にほんの少し前だった
広く『彼女』の映画として知られていたのが彼女が実際にジョージにカメラを手渡す前に 2、
3 のフレームを撮ることができたか私は尋ねた？

彼女がポーチの上に、最初に出たとき、どれぐらい撮影したか、覚えていないと、答えた。
確かに、アダムスキーはその大部分を撮ったが、彼女にその後言った：

「彼らがあなたに注目するので、私が助けたことを誰にも話すな。

私がここで、「シルバースプリングスの映画についての技術的な分析をビル・シャーウッド
と話し合うために多くの時間を
費やしたことを人々に話してい
ない。そして、その人はすでに、
言及されたように、ロチェスター
のイーストマン・コダック社の技
術開発者で、年になってプロジェ
クトを引退した光学の物理学者
であった。

1968 年に、彼は短い技術的な
評価の概要を提供した。これらは
プリントに関連があったので、彼は、『オリジナルプリント』から作ったものを私に送った
(プレート 37-40)

「原作の映画のニュアンスを捕らえるのは難しい。これらは、これまで試みた中で最高の
ものである。映画のコピーはどれも、よくない：

あまりにたくさんのコントラストと密着焼付け法が、使われている。

ンの様子には forcefield フォースフィールドに起因する『特有な』歪曲があると私は、信
じる、フランジの下に私は重要と考える白熱がある。

ついでに、木は非常に高い (90 フィート？)

大雑把な、幾何学的イメージは、下記のようなものである：

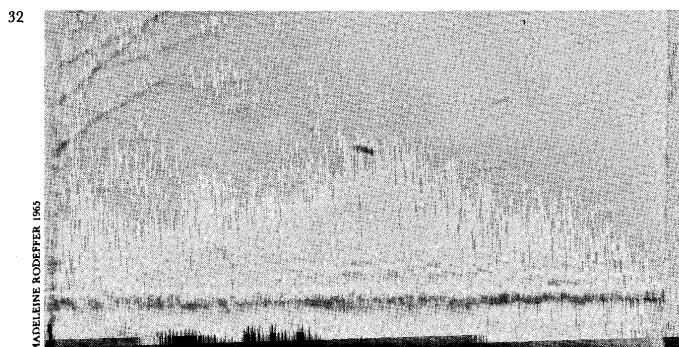
<u>Object size</u>	$\cap$	<u>distance</u>	or ~	<u>27 ft</u>	$\cap$	<u>90 ft</u>
Image size		focal length		2.7 mm		9 mm

ジャック Li、は、アダムスキーの最後のほうの写真をコピーし、1976 年大部分の歪曲は、
宇宙船のフランジの回転がカメラのシャッターの回転と組合さったことに起因するという
彼の意見を私に伝えた。

私は彼女がそのような回転に気がついたかどうか、マドレーヌに尋ねた、そして、何かが
回っていると思ったけれども、それがフランジであると確信することはなかったと言った。
27feet の直径は、シャーウッドとNASA (次の章を見る) によってそれぞれ独立に計算
された。

1977 年 3 月にビル・シャーウッドが親切に彼の評価の詳細を私に送って、明白に映画を認

THE SILVER SPRING FILM — 26 FEBRUARY 1965



A frame from the first part of the Silver Spring 8mm movie film, showing what appears to be a small 'monitoring craft'. The horizontal line is a splice.

証することが可能かどうかの質問に答えた。彼は、写真を評価する絶対確実な完全な方法はないことは『本当である』と言った。

おそらく関係する人間について可能な限り全て調べ、それから、すべてを考慮に入れて情報と専門知識による推測をしなければならない。

それでやっとその問題の最終的な分析にたどりつく：
全てのトラブルとシミュレーションする費用を想像すると安定した豊かな年間収益を通して、それを保持できる大きな予算をもつかなり完備したスタジオだけがやることができ、これは、そういった、たぐいの人がやったことである？

シミュレーションの不都合とコストを考慮して人は、この映画を評価しなければならない。貧弱にされたショットが1枚だけでなく複数のスチールがあれば非常に高くなるとシャーウッドは指摘する。

映画についての彼の次に続くコメントは、ここにある：

「カメラは、ベル・ハウエル・アニメーション Autoload 標準 8, モデル 315、であり、
f1.8 ズーム・レンズ (9-29mm) の 9mm の位置で使われた。

(明らかに、マドレーンは望遠の位置でそれを使うには十分にカメラに精通していなかった。)

オリジナルの映画の画像を測定すると、およそ 2.7mm が最大である。

それで、90 フィートの遠くの物は、およそ 27 フィートである。

「それは、円盤が大きな木と枝に『触れる』ぐらいの距離にいたことが、カメラからわかる地点に Madeleine はいたと言う、あいにく、もし私が一つのフレームも見つけることができなければ、円盤は明らかに枝の後にあったと言うことができた。

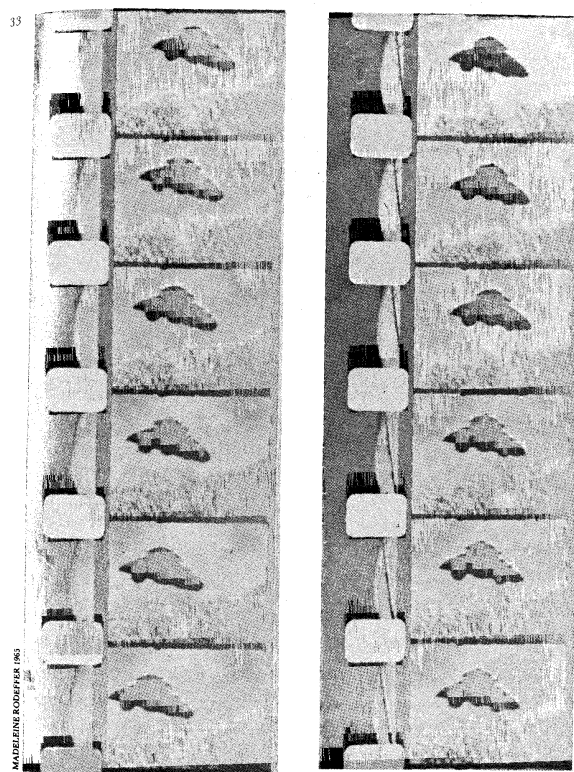
その距離に関して決定的でないので、そのサイズもしたがって決定できない

「オリジナルのフレームの一部の中に、舷窓は、見られる...

意図的にオレンジ・フィルタなしで屋外で使用されたカメラでのオリジナルの青い光は人工の光によることはまちがいがなかった。

「ジャック Li の理論であるシャッターに引き起こされる歪曲についてコメントすると、シャーウッドは、動きの速い物に焦点をあてたシャッター歪曲に精通していると言った、

(例えばレーシングカーの車輪が楕円になるような時)、この場合は垂直軸についての回転があり、横運動むしろゆっくりしている、



Two sequences from the Silver Spring film. Note the peculiar distortion effect at the right side of the craft, possibly caused by a powerful gravitational field. The right 'pod' was alternately lowered and retracted during filming.

シャッターはこのフィールドの動きを止めるより、開口中止状態に近くなるようなこの状態にあてはまることができたか。

しかし、シャーウッドは彼の理論 (i.e.すなわち forcefield に起因する歪曲) が全ての事実をカバーすると主張しない。

1954 年 MSIA、ARAEs の航空デザイナーとエンジニアのレナードクランプは、

「宇宙、重力と空飛ぶ円盤」と題される彼の最初の本を書いた、

彼は、14 才のスティーブン Darbishire の写真と (Coniston ランカシア) で 1954 年 2 月、撮影された)、と、ジョージ・アダムスキーの写真をうまく相関させ、両方の宇宙船が『正射投影法図』として知られているテクニックによって釣り合い、同一なことを示した。

クランプは、De Havilland、ネイピア、ソーンドース - ローとウェストランド航空機会社で働いた、そして、ネイピアで誘導混合流体ラムジェットを発明し特許権をとった。その後、ロールスロイスによってこのデザインが取り入れられバイパスジェットエンジンとして有名である。

レオナルドクランプの最初の本で、
UFO 推進力を多くの先進的な仮説で説明し、次を書いた本でこれをさらに広げた。

「ジグソー (1966) のための部分」
には UFO 観察例と写真にみられる明瞭な歪曲効果を説明する理論を含むが、p339-p342 で次のように彼は、まとめた。:

以前に、G [重力]場の理論に関係して光を議論し

我々はどのようにそのようなフィールドが大気のレンズを作ることが予想できることがわかった。そして、光を重力が曲げるのと同様に他のフィールド効果によって、さらに光学的影響が増加がされるかもしれない。現在、強力な G フィールド重力場のために気圧のローカルな増加があるならば、それに続いて、同じように、強力な R フィールド反重力場[反発]が気圧の減少を伴うのを期待できた、そして、そこに光学的影響を見つけても驚かない。



Enlargements from the Silver Spring film. The craft manoeuvred about 70-90 feet from the witnesses, and was approximately 27 feet in diameter, according to optical physicist William Sherwood who analysed the film. The diameter was unofficially confirmed by a NASA engineer when the film was shown to over twenty officials at the Goddard Space Flight Center, Maryland, two years later.



今一言で言えば、G フィールドが光学の拡大する性質を生みだし、R フィールド(反重力場[反発])は光学の縮小する性質を生み出すとすることができる。

アインシュタインの一般相対性理論 (1916) によると、

大きい物の重力場は、物質の方向に電磁放射の光線を曲げることができ、『重力レンズ』の働きをすること。

この影響は、星の強力な重力場を研究している天体物理学者によって確かめられた、しかし、それは本当にアダムスキー/Rodeffer 宇宙船のような非常により小さい物に適用されることができるか？

大部分の物理学者は、比較的限られたそのようなスペースにおいて強力な十分なフィールドを生み出すことは不可能であると考え、これは問題外であると言う。

しかし、我々にはそれが本当に不可能であると、わかっているのだろうか？

相対性理論のクランプの推定は、私には完全に論理的である。

この歪曲効果を表している以前の写真のうちの 1 つは、スティーブン Darbishire によって撮られた第二のショットであった、

そしてそれは(私の知っている限りでは) 空飛ぶ円盤 News,5 号と今は消滅した英国空飛ぶ円盤事務局ジャーナルそして、空飛ぶ円盤クラブに、それぞれ一度発表されただけである。宇宙船が立ち去るちょうどその時、写真は左側に歪曲効果を見せている。

写真は、より広く公表されなかった 1 つの理由はそれがひどくぼやけていただけではなく、むしろ暗く写っているからだ。

それは最初の写真の非常に小さい範囲で起こった運命的なものである。。。

両方の写真の質の悪さは彼の興奮でスティーブンが不注意にシャッターを B (球) にセットしたという事による。我々が現在見るように、それがシルバースプリングスの映画を更に確証をするので、私は第二の写真だけを使用した。

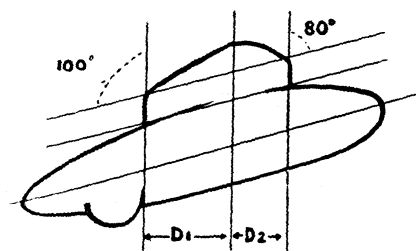
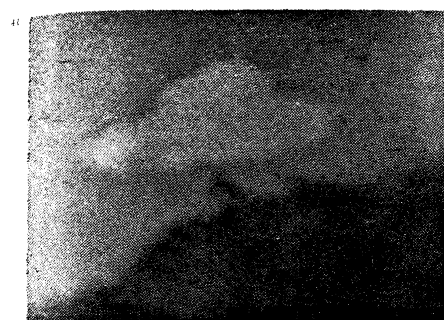
レナードクランプは、Piecfor a jig-Saw の原稿が、彼の出版社のもとにいったときまでシルバースプリングスの映画を、彼が見なかったことを大変残念に思った。

彼が 1972 年に nic に言ったように：

私は、ジョージ・アダムスキー『の宇宙船の技術的な分析を裏付ける確証として、それを使うことができた。それは、/ フィールド大気の歪曲効果に、重みを添えることができた。』

しかし、レナードは私のためにとても親切に彼に渡した 3 つのプリントに基づいて分析してくれた、

そして、次に 1979 年 7 月 23 日の彼の私への手紙からの抜粋を引用する：



Little-known second photo taken by Stephen Darbishire in February 1954, showing a similar distortion effect to the Silver Spring craft.

カメラのシャッター速度と組み合わさった連続したフランジの回転が似たような歪曲を伴って、フランジの非常に明確な画像を生じることを私は、とても疑う。

本当の手掛かりは私の慎重な意見では、平面図でディスクの一方が、他のところよりも増加して見られることである。！

モデルでもフルサイズの物体でも、左か右に傾いていようとも

カメラがこの突然の場面だけを撮影しようとも、

モデル/物体の頂点の部分は（キャビンも）、下側と同じように傾くはずで、

上記の写真の両者の関係は、その影響に比例していない、

フランジの一部を下から見上げた時に、瞬間的にカメラに達する光線が本当に光学的に歪曲され、キャビンから出ている光線が、均一でなく宇宙船の反対側が片側よりふくらんで見えるのである。

しかし、その非常にゆがんだ直線的な輪郭のなかに、円形のプロフィールが見られる

「私が映画を点検して確実に判決をくだせなでいる間に、シャッター・タイミング/フランジ回転速度のコンピュータ分析から私が間違っていることを証明するかもしれない、しかし、私はそう考えない。

アダムスキーの宇宙船の望遠写真を見ると宇宙船の下腹部が対称的になっているが、アダムスキー/Rodeffer 映画と二番目の Darbishire が撮った写真との間に精密な同一性があり、明らかに、下部が垂直に変化し一方に垂れ下がっているという注目すべき点がある。

「つまり、私は、大気の/フィールド効果の説明³⁹を支持し、私はそれに賭ける、

上記の説明（カメラ、その他による効果であるという説明）が有効ならば、自動車の車や機械を回転させた時に似たような影響をうけた写真があるだろうし、それを意識するだろうーしかし、こうした写真を見たのを憶えているだろうか？

確かに、私は、この種類のことにに関して、言及するだけの、訓練を受けた事も無いことをあなたに保証するが「映画（プレート 37-40）で、4つのフレームを比較すると、平面の角度でどのように変化しているか気づく。

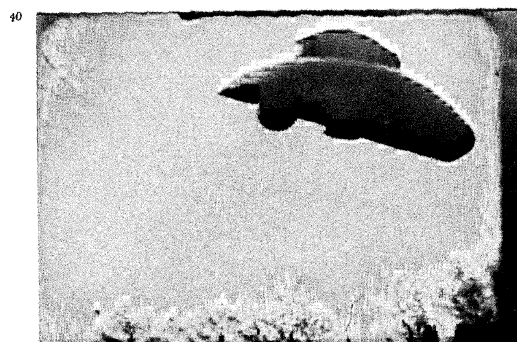
たとえば（40）、ではドームに少しの突出部も、ない。

上部構造の垂直な壁に付属するフランジの下の方の位置を観察すると宇宙船の軸の旋回によっ



The outlines of the craft are distorted by its gravitational 'forcefield', according to Sherwood. Based on his estimate of the tree (above left) being 90 feet high, he believes the geometry of the imagery to be as follows:

$$\frac{\text{object size}}{\text{image size}} \approx \frac{\text{distance}}{\text{focal length}} \quad \text{or} \quad \frac{27 \text{ ft}}{2.7 \text{ mm}} \approx \frac{90 \text{ ft}}{9 \text{ mm}}$$



てその位置が変化することは、明白である。

球が低い位置に出ていると (37)、歪曲は最低限であり、もし 1 つの球が徐々に宇宙船に引っ込められ一体となると (38)、歪曲は宇宙船の右側で増加する、それはこの (39) と (40) で最も明瞭である。

アダムスキーの望遠鏡の『スカウトクラフト』の写真において、球は明らかに 3 つあるのに、映画では、2 つだけ見える。

私は、3 の番目の球は、いつまでも引っ込められていたと仮定するのが正しいと考えられるアダムスキーが「空飛ぶ円盤さよなら」で説明したように球の動作も、推進力システムに関係する、

大部分の円盤の上に見られる 3 個のボールの下部構造は、『三点の静電氣的推進力コントロールシステム』であり格納式ランディングギアである。我々がロケット機を操縦する時の逆推進ロケットのように、計画的に電荷を管理し可変の三点システムとして使用する。

惑星の電離層の範囲内の水平飛行では、

円盤は、惑星の地磁気の力線に沿って飛行し、ボール荷電を反転させることによって急回転する。

「宇宙船の中で」で、アダムスキーのホストは、球の機能とこれらがケーブルによって中心柱へ接続されていることを説明した：

「それらのケーブルの 3 つは、磁極から宇宙船の下 の 3 つのボールまでパワーを伝達しそれは時々ランディングギアとして使われる。

これらのボールは中が空洞であり、飛行中は引き上げるが緊急着陸のために降ろすことができ、最も重要な目的は磁極から送られる静電気の、コンデンサとしてある。

がほとんど知られていないアン Grevler のコンタクトストーリーを再読して、(この人は、アダムスキータイプ航空機で何回か飛行経験を持ったと主張する) 私は推進力に関する更に魅力的な情報に出会った：

彼らの推進力の概略は、周囲の空気から引き出され中心領域のトップを通った、コスミックパワーである (電気?) ...この力は、中心柱の底でポンプから照射を受け、一種の粉末状の結晶として、船のフィールドに可能な限り最大限、広げられる。

結果は、イオン化された空気である...

これは、キャビンの基部のまわりの外側の、3 つのリングの空洞を通してポンプで揚げられ同時に 3 つのボールを循環する

(主に後者はランディングギアとして使われるだけでなくと起動力と方向指示機能として使われる)

シルバースプリングスでとられたこの特別な映画は、8mm 装置で模造する方法がない複数のスチールは、小さいモデルを使用した可能性をフレームの精査から除外することができるが、しかし、円盤を見た根拠を査定する UFO 写真のコンピュータ評価を専門とするグループは、同意しない。

ウィリアム・Spaulding ディレクターは、1982 年 9 月 10 日私に手紙で彼の意見を書いた宇宙船は、カメラの近くの単なる小さな模型である。

彼は、映画を更なる評価に値するとは思わない。

Spaulding は、「焦点がずれた」背景と比較すると「対象物の端の鋭さ」にこの意見の基礎をおく。

私は、彼に写真のフレーム（38）を送るだけだった、背景の木は、どれも適当にぼやけており物体と一緒にカメラが移動したことを仮定できた。

とおくの木と共に焦点が合っていることは明らかである。そして、それはカメラから 70-90 フィートの間にあった。

マドレーヌは、確かに映画を作る十分な技術的な専門知識を持っていない

いかに想像をたくましくしても、機械的に関心があるように思えない、

そして、— 8mm の映画は言うまでもなく単純な写真を撮ることでも十分問題がある。

この点で、アダムスキーが彼のより大きい知識とマドレーヌの教唆の協力を得て映画を偽造したことは考えられる。

もしそうならば、なぜ彼の使い慣れた 16mm カメラを、使用しないのか？

さらに、宇宙船は（プレート 718）1952 年に Palomar Gardens で彼の 6 インチの望遠鏡によって写真を撮られた有名な『スカウトクラフト』と同一のものである。

1952 の写真と比較して

大部分の研究者は、アダムスキーの有名な『スカウトクラフト』を全くの偽造品と非難した、

そして、この『モデル』を広範囲にわたる日用品の中から探し出した。

『ランプの笠』、『手術階段教室のランプ』、『シチューの鍋ふたのボール』、『タバコ入れ』、『鶏フィーダー』、『1937 年の小さなカン型の掃除機の上部』、最近、『ウィガン（ランカシア）で作られたビン・クーラー』。

この場合は、アダムスキーの写真が発表されたあとデザイナーが出てきて、彼がビン・クーラーを作ってかなりたってからモデル化したと説明した。

他の場合にはだれも実際に写真を撮られた本当の宇宙船にプロポーションが釣り合った用具またはモデル、を生産しなかった。

ちなみに、アダムスキーは彼の写真が偽造品であることを証明できた誰にでも、2,000 ドルを提供した。

デズモンド・レスリーは、Flying Saucer Review: でこれらが本物であることを強調した。

望遠写真撮影の経験のある誰もが、本来のアダムスキーのネガからオリジナルプリントされたものには、『柔らかい雰囲気がある』ことにすぐに気が付くが、モデルを使ってフルサイズの物にする全ての映画監督には、このことは考慮に入れられなければならないことがよく知られている。

この現象は、空気の湿気とちりによってうまれ、人工的に遠くの背景に前景のモデルを組み合わせることは不可能である、(鋭い焦点深度が必要)

望遠レンズが生み出す特定の灰色と平面化する効果は、実際に人工的に複写するのが不可能である。

望遠写真は、また、わずかに視野を変えそれゆえにアダムスキーの写真の中に、明らかに目立つ平面的な灰色の影響をあらわす。

レスリーは、ハリウッドの有名な監督のうちの 1 人であるジョン・フォード、にアダムスキーの拡大写真を見せた、彼は、

円盤は、およそ 6 インチの焦点距離の望遠レンズによって写された大きな物体だと言った。これらの調査結果はまた、ジョセフ Mansour によって確かめられた。彼は、航空機モデルの写真を本物に見えるように作るプロの仕事士であった。

セシル B.デ Mille の最高のトリック・カメラマン (Pev マーリー) は、アダムスキーの絵が模造品であるならば、これらがこれまでに見た最高であったと断言した。

そして、イングランドの、J.アーサー Rank カンパニーの 14 人の専門家は写真が撮られた物が本物であるか実物大の model であると結論した、あるいは、レスリーは『スカウトクラフト』の写真が (パララックス) 視差の欠如を表示するという事実を挙げる：

宇宙船の下 の 3 つの球は、全て同じサイズであるが、遠く離れたカメラの望遠レンズによってだけ (パララックス) 視差の欠如を作ることができる。

しばしば見逃されるもう一つの点は、アダムスキーの古いプレート・カメラ (ドレスデン (ドイツ) で作られた製品) は彼の 6 インチの望遠鏡に付けて使えただけだったという事実である：

他のいかなるレンズも使用されなかった、そして、モデルを使って写真を偽造するためには、非常に低い焦点距離で撮影されなければならなかった。

1955 年に、有名な TV で天文学者パトリック・ムーアは、デズモンド・レスリーに言った彼も『scoutship』の一組の写真を見た、

アダムスキーと Darbishire のものより優れており真正面から近くで撮られたもので Lossiemouth (スコットランド) でセドリック・アリングガムによって連続して撮られたものである

1954 年 2 月 18 日 (Darbishire の写真が撮られた 3 日後に撮られた)。

これらは、伝えられたところによれば、有名なアメリカの天文学者によって撮られたが、彼は匿名を希望し、ムーアはこの男のアイデンティティに関して秘密の誓約を守った。

私も、それを明らかにするようにムーア氏を説得できなかった。

写真の一部は、明らかに、望遠鏡によってとられた、

だが、『空飛ぶ円盤』が存在しない時から、これらの物は、明らかに、『地球製の秘密航空機を表している、とムーアは確信していた、

アダムスキーはパロマ山の天文台は、彼のものに類似した写真を撮ったと言っていること

は興味深いことだ。

Palomar の匿名の天文学者がいたと仮定すると、著作権を彼自身にしなければならなかった理由にうなずけるものがある。？

アダムスキー・スカウト活動の古典的なプロポーションにもかかわらず、多くの人々は、そのデザインに関して彼らの疑いを私に表現した、* According to Leonard Cramp.

177. レオナルド クランプによればそれが不格好で『時代遅れに』見えると不平を言ったという

宇宙船がとても機能的に見えるという事実を除いて、このデザインに仕上げた理由がない（この場合前世紀であったかもしれない）宇宙人は、のろまではない。

あるいは、離れて想像すればそれほど我々を当惑させないという意図で、少なくとも彼らのテクノロジーに関連できるように初期の普通の『価値のある』宇宙船を見せてくれたのかもしれない。

アダムスキーは、ほとんど知られていない記事の中で古典的なスカウトクラフトに取って代わって新しいモデルを作ったが、完全に取り替えられたというわけではないとコメントした。

『彼らは何世紀もの間、宇宙を旅行している事実にもかかわらず、訪問客は絶えず彼らの宇宙船を向上させている。

1957 年の 5 月で彼らの最新の船に試乗する特権を持つ。この船の直径は、私が Space Ships.Inside で記述した最初の金星人スカウトの半分であった。

センターを通り抜ける磁極はなく、床レンズもなかった。

これらはより先進の装置と取り替えられた..母船で輸送される一般的な小型スカウトシップと同じ形で造られるけれども、この宇宙船は母船なしで惑星間空間を旅行することができる。

この新しいタイプで大部分が生産されるまでの間、私は母船に載せられたスカウトシップが広範囲に使われると話された。

しかし、乗員メンバーがちょうどどんな地球人でも新型の飛行機のテストに成功したのと、同じくらい新しい船に喜んでいたことは、明らかだった。

人間性は宇宙の中の至る所でほぼ同じようである。

1965 年シルバースプリングスの寒い 2 月の午後にやったスカウト活動がジョージ・アダムスキーの潔白を証明する最後の事件ではなかった。

1973 年 10 月 19 日に、ユゴー Luyo ヴェガ（建築家）とそのクライアントは、リマから Matucana（ペルー）の間の道、リマからおよそ 31 マイルの地点で、UFO の写真を撮った。クライアントの報告では最初、谷の底の近くで輝く物体を見た。そして、それは地面からおおよそ 60 フィートの高さにおいて、ゆっくり 2 人の男に向かって進んできた。

ヴェガがいうことでは、宇宙船の色は磨かれた銀であったと言った：

私は、それがドームのようであり、柔らかい青い光りを発しているボールの 1 種であった

舷窓に似ている小さなウインドウがに列になっているのが見えた。

ヴェガは、言った「宇宙艇の底の上にあった脈動する暗く赤い光は推進力であろう

それは、一種のタービンの中央から地面の方へ向いていた。

この部分の近くで、卵が半分に切られた突出部を見ることができた

UFO が高圧送電線を避ける指示を出し、その速度を増やして、結局消えたがその前に、ヴェガは、ポラロイド・カメラで1枚の写真を撮った。

写真は、距離のためにすこしばやけているが、ヴェガによるスケッチと共に拡大した部分をみると、それは明らかに耐空性十分な古いタイプのアダムスキー・スカウトクラフトである事を証明する

(プレート 44)、

注

1 Flylgh Saucerfrom Mars. Cedric Allingham (Frederick Muller Ltd, London 1954)

i REI**.RENCES 1 匹の lylgh Saucerfrom マーズ。

2 Aliens fro??e Space. Donald Keyhoe (Doubleday & Co. Inc, 1973)

向こうにセドリッ・アリンガム 2 (フレデリック Muller 社 (ロンドン 1954)) Aliens ??
e Space.

3 Space. Gravity and the Flying Saucer.

(ダブルデイ社 Inc (1973))

ドナルド Keyhoe 3 つの Space.

重力と Flying Saucer.

Leonard G. Cramp (T. Werner Laurie Ltd, 1954)

4 Piecefor afi~Saw.

レナード G. Cramp 4 つの (T.ワーナー・ローリー社 (1954)) Piecefor afi~Saw.

Leonard G. Cramp (Sornerton Publishing Co.

レナード G. Cramp (Sornerton Publishing 社
Ltd, Cowes, Isle of Wight, 1966)

5 Flying Saucer News.

会社、Cowes、ワイト島、1966)

5 Flying Saucer News. Summer 1 955

6 F[ying Saucers Farewell p39

7 hside 7'he Space Ships p47 8 Transvaal Episode.

夏の 1955 の 6 つの F[ying Saucers Farewell p39 7 つの hside 7'he Space Ships p47 8 つ
の Transvaal Episode.

'Anchor' (The Essene Press, Corpus Christi, Texas, 1958)

9 FSR Vol 6 No 5, 1960 10 Flying Saucers Have Landed, Desmond Leslie & George Adamski (Revised version, Neville Spearman Ltd, London, 1970)

1 1 Cosmic Bulletin, 2.

9つの FSR Vol 6 つの (エッセネ派の信徒プレス、コーパスクリスティ、テキサス、1958)
No 5、Landed される 1960 の 10 の Flying している Saucers Have、デズモンド・レスリーとジョージ・アダムスキー1 つの 1 つの Cosmic な (バージョン、ネヴィル Spearman 社、ロンドン、1970 を修正された) Bulletin, 2 を『錨で固定しなさい』。

Series I Part 3 (George Adamski Foundation)

シリーズ I パート 3 (ジョージ・アダムスキー財団)

17

16

17 章

アダムスキーの死

1965 年 3 月 17 日のロチェスター（ニューヨーク）への到着したとき、アダムスキーは、吹雪で迎えられた、

そして、第一トユニテリアン教会の彼の講義の 30 分前には多くの人々によって光り輝く青い白い閃光が目撃され全て雪に包まれた都市の上空を照らした。だれからも、それがおそらく雷による幕電（光） 《雲に反射して幕状に光る稲光》であったという報告はなかった？

同時に、ダウンタウンの地域の 8 つのネオンサインは、壊れてしまった。

これは、この年の後半におきた UFO 活動による大きな **Northeastern** アメリカ北東地区の停電の序幕であったのか、または単に異常な天候がもたらしたものであったのか？

偶然の一致なのだろうが、次の日、変な電氣的な故障があった。

3 月 18 日に、アダムスキーは『トムデッカー サンディ ナイトショーNight Show』のためのインタビューの録画のためにビルシャーウッドと一緒に **WROC TV** スタジオに行った。**Decker** が他の人々がアダムスキーの最初の遭遇と似た経験を報告したかどうか尋ねたとき、シャーウッドは、デザートセンターでの遭遇を立証するために、南アフリカの女性からの手紙を読むと申し出、彼女の名前を言おうとした。。

ちょうどその瞬間に、ビデオテープの機械は、故障した。

二回目も同じ結果になった。アダムスキーはこのケースの宣伝が関係する女性への迷惑につながることを『意味するかもしれない』とシャーウッドに話した。

その後、**WROC** 技術者は、それが再び動く前に、ビデオテープのいくつかの部分から磁気を取り除かねばならなかったとビルに話した。

プログラムは、後日完成しなければならなかった。

ロチェスターでの彼の滞在の間に、アダムスキーはまた、イーストマン・コダック社を訪問した、そして、副社長に会った。副社長は、シルバースプリングスの映画に特別興味をもった。

ロチェスターで次の講演とインタビューの後。

シラキュース（バッファロー）ウスター、ローウェルとロードアイランドに向かった。

アダムスキーは 4 月に **Silver** スプリングに戻った。アダムスキーは疲れ果てたように見えた。

彼は、ステックリングを除いては、だれも彼が滞在していることを知らないと言った。彼は、ひどく疲れており、休養が必要で、多くの人々には会いたくなかった。

4 月 22 日木曜日 — 彼の 74 才の誕生日の 5 日後—

アダムスキーは首と肩の痛みで目がさめた。そして、彼の呼吸が困難なことを訴えた。

「また肺炎にかかっているように、おもう」と、彼のホステスに話した。

マドレーヌは、この地域の多くの医者のために医学秘書として働いた

その、身体検査をしたほうがよいと彼に言って、ジョーンズ博士に連絡し翌日午後 2 時に予約を取り付けた。

主治医のジョーンズ博士は、心電図を取るためにその場でタコマパークのワシントン・サナトリウムにアダムスキーを運ぶように彼女に言った。

病院は、結果が悪いと言って、観察のために一泊入院するよういった。

しかし、彼はマドレーヌの家がとても快適だと言って拒絶した。

それで、彼らは帰った。

月 23 日 の正午ごろジョーンズ博士の検査の準備のためにアダムスキーが二階の洗面所でひげを剃っていたとき、家事手伝いの女性が、切迫した声をあげて階下に駆け下りて来た。

「あなたを呼んでいる」と、彼女は言った。

マドレーヌが二階にいくと頃には、アダムスキーはベッドルームに戻って、床の上に座りこんでいた。

「あのね」と、彼は言った、「ちょっと前、本当に、死ぬかとおもった。胸にとっても痛みがあった、しかし、今はなくなった、問題ないと思う。

私は、医者連れていった方がよいと思った。

アダムスキーがひどく震えているように見えた

マドレーヌはジョーンズ博士に電話をし、電話で状態を聞くともう一度 ECG と X 線のためにワシントン・サナトリウムの緊急治療室へ連れて行くよう言った。

病院で、医者は彼の心臓がとても悪いと言って、もう一度アダムスキーに入院するよう言った、しかし、再び、彼は拒絶し、とても気分はよくなったと言った。

アダムスキーはできることなら、アメリカの病院には決して入りたくないと何度もルー Zinsstag に話していた。

「あなたは知らないだろうが、彼らがどんなたぐいの注射をするか、食物にどんな薬を入れるかわかったものではない」と、彼女に言った。

「私は、病院に入るよりむしろ道端で死んだほうがよい。」ジョーンズ博士は、電話で 2 つの違う薬を処方した。そして、マドレーヌはジョージを家に連れて帰る前にそれを買った。

家に帰る前に彼は、弱ってきた、しかし、なんとか少し果物を食べることができた。

、午後 4 時 15 分彼はベッドルームから出てきて、前後にうろうろしはじめた。そして、呼吸が苦しいことを訴えた。

ジョーンズ博士はもう一度アダムスキーを呼び診察のために病院に入院しなければならぬと繰り返し意見した、彼が拒否するので、マドレーヌに薬を与えて、暖かく快適にしているよう勧める以外、なにも出来なかった。

しかし、彼の呼吸はなお悪くなった、そして、彼は彼女にポータブル酸素ボンベ（彼が第

二次世界大戦で空襲監視員として応急手当で使ったような）を用意できるか、マドレーンにきいた。

これは到着した、しかし、これはほとんど効果はなく、眠れなかった。

午後7時、あえぐように呼吸していた。

ジョーンズ博士は彼に病院へ連れて行くよう命令した、そして、今度は、救急車が呼ばれた。

付き添いの人は、担架で1階に降ろした。

マドレーヌはアダムスキーと救急車に乗り、ネルソン Rodeffer は彼の車の後に続いた。

救急車が Rodeffer の家の近くの角に着いたとき、マドレーンは車の全てのスイッチを切る前に何度かライトを明滅させる車に気がついた。

「私は、それが宇宙人であったかどうか、知らない

マドレーンは後で言った。「それはなにかのサインのようだった。

私は、その車に変な印象をもった。

。「ワシントンサナトリウムに到着して、 アダムスキーは、緊急治療室で数人の医者と看護婦に付き添われてポータブル酸素吸入テントに入れられた。

Rodeffers は外にいたが、マドレーンは何分か入って、アダムスキーのそばに座った。そして、彼女は死ぬまで、彼の手を握っていた。

地球上のジョージ・アダムスキーの最後の瞬間は、マドレーン Rodeffer によって詳しく記録された。:

「最後に、ジョージは言った — 『マドレーンは、どこにいるんだ?』

彼の呼吸が落ち着いた時、私が言った。『ジョージ、医者は私があなたと一緒にここにいなくて、離れてくれと言われたんだ。』

『すると、彼は医者と看護婦を見上げて言った、彼女をここにおいてくれ。』

『私は、死ぬのを知っている。』と、彼が言った。

私は何もいえなかった、明らかに、もう彼が耐えられないのを知っていたが、私はちょっとした奇跡が起こると思っていた—彼が死なないと。

私は、彼がまだ死なないという考えにしがみついていた。

それは、そうであった。

それから、『お亡くなりになりました』と、彼らが言った。

彼は 1965 年 4 月 30 日、午後 9.30 から 10 時の間に、他界した。「UFO のエキスパートがワシントンで亡くなった」、と UPI は報じた。他の惑星を訪問したと言った人は死んだ
死の直前まで彼は未確認の空飛ぶ円盤を研究した。

カリフォルニアのビスタに住む 74 才、のジョージ・アダムスキーはメリーランド タコマパーク近くのワシントン・サナトリウムで金曜日の夜死んだ、

先月、彼はワシントンの報道関係者に宇宙船に乗って何回か惑星間旅行をしたと話した。

注

*1958年4月7日、メリーランド、モンゴメリー区の代理検屍官、Beldon Reap 博士は今朝、だびに付するすこし前にアダムスキーの死を確認した

*フレッド Steckling は Madeleine と同じようにアダムスキーとの親密な交際の結果、宇宙人との多くのコンタクトを主張した。

病院は、彼の死因を明らかにしたがすぐには報告せず、だが、アダムスキーは、明らかに心臓発作で死んだと彼は言った。

そこでの記録は、アダムスキーのことをアダムズと発表した

私は、マドレーンに『アダムズと発表された}理由を説明するよう頼んだ。

彼女は、言った、『我々が病院に着いたとき』『彼らは、— ちょっとした書類に記入するよう、ネルソンと私に依頼した。我々が彼の名前を書いたていた時、カリフォルニアの代わりにここのアドレスをいった。少女は、それをタイプし始めた、そして、名字のつづりをいうよう私に頼んだ。'A-D-A-M-S-', といった。

そして、私に確認した。『アダムズ』、そして、そのとき我々に何かを聞くために誰かがやって来た —、それで、私は、最後まで'Ki を言い終らなかった。

そうすれば間違って謀略の手中に落ちることから彼を保護できると、私は思った。

*注

アダムスキーの死後 — 4月24日 — アリス・ウェルズは、葬式に出席するためにカリフォルニアから飛行機で行って、灰がアーリントン国立墓地に納骨されなければならないことを示唆した。

Much has been made of this, as if it was a final official acknowledgement of Adamski's claims.

まるでこれによってほとんどアダムスキーの主張が最終的に公式に承認されたようにされた。。

しかし、実際そのまわりにミステリーな要素はまったくない。

第一次世界大戦のとき、カリフォルニアでメキシコの境界をパトロールする任務で従軍し復員軍人となった。(アメリカ) 第23大隊

兵士アダムスキーは、両世界大戦から韓国とヴェトナムのアメリカの他の数千の従軍兵士と同様にそこに一緒に埋葬される権利があった。

— アダムスキーの死後のほぼ1週間、4月29日前には埋葬の手配は可能でなかった — —
— アーリントン墓地はヴェトナム戦争のために完全に契約で一杯になったので。

Pumphrey の斎場は、4月24日土曜日にマドレーンに電話をして、北東ワシントンにある Lee Funeral Home で火葬するために動かす前に、誰かが遺体を確認しなければならない

と彼女に話した。

その翌日 — 4月25日 — マドレーンは、遺体を確認するために Pumphrey の人と車で行った —。

「それは、間違いなくジョージであった」、彼女は私に言った、「彼の最も目立った特徴は、額から後ろにまっすぐ、ちょっとカールした髪をすいたということであった。

私は、およそ2分そこにいて、書類に署名した。

「ハンス Holzer、は彼の本「Ufonauts」で「アダムスキーの遺体は、政府機関によって検死された」と匿名の天体物理学者が、彼に話したことを書いた。

そして、大脳の正面部分が奇妙に成長していることを発見したという。

アダムスキーの友人のマドレーヌ Rodeffer も他の人も

彼が死んで灰になって4月29日アーリントンに埋葬されてからは、再び彼の体を見なかった。

*注

アダムスキーは、ルーZinsstag にもそれを話したが、彼が危険を感じる時はホテルに泊まる時『アダムズ』という偽名を使用した。

多分これらの3日間に起こったことは、みんなの推測だろう。『匿名の天体物理学者』が彼の証言として進み出ない限り、何もほとんど証拠はない。

アーリントン国立墓地で4月29日木曜日デイビッド F.テート・キャプテン（従軍牧師）の立会いのもとに納骨された。墓地の番号はセクション43の295である。

アダムスキーの死後のある日、英国の庭師アーサー・ブライアントは、Scoriton（デボン）の彼の家の近くの野原でUFOの着陸を目撃したと主張した。

降りてきた3人の宇宙人の1人は新たに転生したアダムスキー以外の何でもないと思った。！

私はブライアントと何回か会った、そして、彼に誠実な印象と優しい魂を感じたが、— 彼の要求の多くを論駁する正当な理由もあった。

この不確定な事件を取り上げた、優れた本を書いたアイリーン・バックルと共に病院でブライアントにインタビューをした。彼は一週間後の、1967年6月24日に脳腫瘍で死んだ。

貧しいブライアントは首尾一貫しないけれどもほとんど、自分では物語を作り上げなかったと言っているかのようにだった —。このケースは初めからうさんくささに満ちていた：

たとえば、ブライアントの会った『宇宙人飛行士』に『マンテルの証拠品』として後で預けられた飛行機の部品は、伝えられるところでは— 1948年にUFOを追いかけて爆発したマンテル大佐のP-51 ムスタングの残骸から取られたものといわれたが、これはそのマンテルの航空機と関係がないことがわかった。それではその宇宙人はヨーロッパでその時唯一飛んでいたムスタングの部品をいつチャールズ・メースフィールドへ持っていったのだろうか。

アダムスキーの死後、フレッド Steckling とマドレーヌ Rodeffer とはアダムスキーの死の直前の一般市民と政府公式の承認を得させるための活動を再開した。

5 月、WTOP TV のビービ氏は、マドレーヌに電話をして、彼女が科学と宇宙航行学下院委員会で、連邦議会議員ミラーと彼の側近にシルバースプリングスの映画を見せるように準備すると申し出た。

二人は、レイバーン下院オフィスビルまで車で行って、映画を上映した。

マドレーヌは、見た人の反応を記録した：

「映画が終わったとき、彼らは言った（『Rodeffer 夫人、これはあなたの前庭でテストしている空軍の特殊な空挺だ！

『それは良いコメントであったが、新聞は記事を掲載せずそして、奇妙なことに下院委員会に私をつれていったビービ氏はいつの日か首になった。

フレッド Steckling は(マドレーヌのように)、アダムスキーとの密接な関係の結果として、宇宙人との多くのコンタクトを主張した。

*注

たとえば 1966 年 8 月に ワシントンでコンタクトは起こったそして、多くの情報が、伝えられたと、Steckling は主張する。

— 数年間地球上で多くの異なる環境で働いていたと宇宙人の男は彼に話した、そして、会話は多種多様な話題にわたった。

この 1 週間後、スティックリングの家族は、幸運なことに ヨーロッパでの講演旅行の間の 1966 年 9 月 7 日にマンハイムへ向かうフランクフルト発の急行列車の中で葉巻き型の UFO の大編隊を見た — スティックリングは次のように書いている：

「我々が緑の田園地方の木々が飛び去る風景を見ていると、私は、突然、葉巻き型の宇宙船が編隊を組んで 12 機飛んでいることに気が付いた。それは淡く白っぽく見える物体で、約 4 万フィート以上の高度で飛んでいると私は、見積もった...それから突然、これ以外の編隊が、これより前に出現しこの物体は合計 24 機になった。私は、カメラを持ってキャビンへ飛んでいった（Revere のパワズーム付きの 8mm 撮影機）、そして、撮影を始めた。

この時間に、もう 2 つの編隊があらわれ、この今まで、誰も見た人の無い、白い、イオン化された空気のフォースフィールドに囲まれている。葉巻き型の宇宙船は合計 48 台の宇宙船が出現した。

私の妻も、これを見、電車に乗っていた多数の人も見ていたが、だれも、怖がらなかった。

— つけ加えるとこの映画と（プレート 48）アダムスキーの映画は、グリーンベルト（メリーランド）の（NASA）の Goddard 宇宙飛行センターの（建物 A-1）の彼らの本部で 1967 年 2 月 27 日に内閣当局の宇宙委員と国家の航空学の関係者の 22 人に見せた。

マドレーヌ Rodeffer.と全てに付き添ったフレッドとイングリッド Steckling は会議室に入った、そして、フレッドは映画を上映した。議論は、その後 1 時間半続いた。

反射と自然な雲の形成構造は、Steckling の映画の場合除外され、シルバースプリングの宇宙船（私を話されるマドレーヌ）の直径に関して重要な発言がなされたとマドレーヌは、私に言った。

「ちょうど我々が去る前に、男のうちの 1 人は、イングリッドステックリングに「それは私が言った直径 32 フィートでなくそれは、 27 フィートであったと言った。

それは私が持っていった映画で、非常に重要な部分であった。

*注

フレッド Steckling はベルリンで生まれて教育を受けて、16 才で航空機とグライダーを飛ばし始めた。

彼は独占的なカントリー・クラブの中の専門的な『料理長』として働いて、このホテル・チェーンの内部でカナダとアメリカで働いた、そこで、彼は現在一般的な市民である。

1980 年のアリス・ウェルズの死後で、Steckling はジョージ・アダムスキー財団の運営を引き継いだ。そして、ビスタ（カリフォルニア）に拠点を置いた。

1967 年 3 月 17 日、米国空軍に関係する団体役員、ジョージ P.フリーマン Jr. 大佐はステックリングにペンタゴンで彼の映画の上映を要望する手紙を書いた。

会合は、3 月 20 日の午後 2 時に準備をされた。

マドレーヌ Rodeffer が出席したけれども、彼女の映画は上映されなかった（すでにそれを見た」と彼らは、言った）。

ステックリングの映画は 3 回上映された — そして、フリーマン大佐は叫んだ：

「これは、私が見た最高の映画である。

私は、このようなものをこれまで見たことがない？

マドレーヌはペンタゴンにいるこの機会を利用して空軍当局に言った

彼女は、『家の中と電話は盗聴されている』、と言った。そして：

「あなたが私に聞きたいならば、いつでも私のところへきて何でも聞いてください。歓迎いたします。

私はできるかぎり正直に何にでも答える —。

私の電話と家に盗聴器を仕掛け車で尾行する理由はないし、映画またはどんな情報でもあなたと共有することはうれしいということを知ってもらいたいし、何回も疑問に思ったことに答えてほしいのです。。

こうして安心させて、なお他のコンタクティとつきあっていた。

マドレーヌは、彼女の電話と手紙に継続的な問題を抱えていた。

彼女と電話で連絡をとるには一何週間または 1 ヶ月もかかったと多くの人々が、彼女に話し

た ー。

彼らは、彼女の番号にダイヤルし、話そうとすると 切れ、または、違うところにかかってしまった。

彼女の手紙は開けられるか、遅れ、一部はまったく到着しなかった。

マドレーヌは、また、何回もラジオと TV 製作者が電話をかけてきて、特別番組のために準備するよう私に言って、その後で番組が中止されたと言ってきた。 ー。

そして、もっと微妙ないやがらせがあった。

「私に起こったことをまわりに話す気にならないようなとてもプライベートなやがらせだったと彼女は言った。彼らは、ものすごい連中だった。

注

REFERENC ES

1 The Ufonauts, Hans Hoizer (Fawcett Publications Inc, 1976)

2 The Scoriton Mysiev', Eileen Buckle (Neville SPearnnan Ltd' London 1967)

18 章

判決

——知らない旅人をお迎えするときは、気をつけていなさい。人は気づかずに天使をお迎えしているときがあるのだから。——ヘブライ人へ手紙　パウロの使徒書簡、13：

1963 年 11 月ロイヤル・フィルハーモニーオーケストラの一員としてアメリカ合衆国への最初の演奏旅行が、私が、ジョージアダムスキーに会うのに最も近づいたときだった。ロサンゼルスはツアーで通る予定だったので、自由時間が十分にあったらすぐに、私はビスタの彼の家にバスでいくつもりだった。

結局、バスの運行時間は私のスケジュールにあわなかった、そして、悲しいことに、私はこの考えをあきらめねばならなかった。

今日まで、私はアダムスキーとの出会いを逃がしこの失われた機会を残念に思うが、ロサンゼルスへの途中でそれをある程度補う、深く長続きする印象を与えた珍しい事件が起きた。

ロサンゼルスに向かう 500 マイルのドライブのために、我々は 11 月 13 日、トゥーソン（アリゾナ）を出発した。

途中で、バスはアリゾナ/カリフォルニア境界の近くの道路に面したレストランに止まった。一部の同僚とテーブルにつくと、一列で待っている客を偶然見ると、

私の注意は、非常に小柄なブロンドの髪が上下に動いて繊細な青白い特徴の並外れた様子の少女の方へ引き寄せられた、

彼女の何かが、私の好奇心を刺激した。

アダムスキーは、他の惑星からの人々が実際にいて、我々の間で働いていると公的に宣言した初めての人だが、彼はコンタクトがレストランとかホテル・ロビーの匿名の環境で、しばしば起こったと述べた。

他の多くの証人と類似した遭遇について話したことがあるので、私はこの無名の少女とテレパシーでコミュニケーションを試みようとして決めて、質問を送った：

「あなたは、別の惑星の出身？」すぐに応答は、こなかったが、彼女が列を離れてレストランの別の所に歩いて進む前に、わざわざ私のテーブルの前を通り過ぎ、顔は乾いたパンのようであったが止って私に丁寧な微笑をして承認の挨拶を送った。

私はもうこのレストランの正確な場所を忘れてしまったが、変な偶然の一致によってハイウェイの標識うちの 1 つがデザートセンターの近く、つまりアダムスキーの最初のコンタクトのあった地域から遠くないことを示していたのを思い出す。

私は最初の遭遇から 4 年後、長く続いた疑いが消えてゆくのに役立つ経験をアメリカ合衆国でした。

1967年2月、私はロンドン・シンフォニー・オーケストラとともにニューヨーク市にいた、そして、ある午後遅く、パークシェラトンホテルのロビーでコンタクトを試みることに決めた。

私は、ちょうどそのときマドレーヌロドファーと最初に出会って帰ってきたところであった。そして、多くの疑問が、心の中で渦巻いていた。

マドレーヌは私に彼女自身がアダムスキーのように、公共の場所でたびたび宇宙人達とのコンタクトした体験を話した。

私は、今度は私自身でこの問題に納得する解答を得ようと決めた。

私はロビーのソファにもたれて、テレパシーである願いを送った。そしてそれは、すばらしい結果となった：

「もしどこか他の星から来た人がニューヨークの近所にいれば、私の隣に座って、それを証明してください。」

ニューヨークは、もちろん忙しい都市である、

そして、ホテル・ロビーは、そのような実験のために最も不似合いな場所である。

多くの人々は、来たと思うと、30分で去っていったが、突然、男性がロビーに入ってきた。

その現れ方と態度に私は驚いた。

彼は白いシャツとチャコールグレーのスーツを着、身長10フィート5インチ、およそ35才ぐらいに見え縮れた金髪で、完全に均斉がとれ、日に焼けた顔であった。

彼は、来て、私のそばに座った。

アタッシュケースから、ニューヨークタイムズを取り出した。

彼は慎重だが、そっけないやり方で新聞をひろげてページをめくり始めた。

彼が新聞を再びたたんだ時、私は、彼が本当に別の惑星の出身であるかどうか、テレパシーで尋ねる時がきたのを感じた、そして、もしそうならば、右の人さし指を鼻の右側に置くことによって身元を確認したいと伝えた。

反応は劇的で即時だった、考えを送るとすぐに正確にそのようにした！

呆然と座って、私は地球上で次に何をするつもりか疑問に思った。

私はもう少しテレパシーで話そうとした、しかし、何も起こらなかった。おそらく、私の予想が正しく、彼が宇宙人であれば、会話のなかで、まず私は彼にそのようないかなる話もしないとを約束しなければならなかったのだろう。

我々両方は、2、3分の間黙って座っていた、

それから、彼は立ち上がって、私の右手の後方、およそ15フィート離れたところにあったちょっとしたディスプレイウィンドウまで歩いた。

こっそり彼を観察すると、そこで展示されている商品にほとんど関心はないように見えることに気がついた。

そして、彼は私の様子を見て数分後、1回りして、七番街に向かった。

再び彼に全く、会うことはなかった。

1963 年のそれと、この経験は、完全に同じであり、したがって論理的にこの原因を特定できる。

大多数の科学者は認めないが、それにもかかわらずテレパシーは公認されたより、はるかに多く頻発しており、気の合った仲間では話さないで考えをつたえあえることは誰でも確かめることができる。私はかつてアイオワ州立大学の、優秀な物理学博士デニス・ロスと話した。そして、その人は兄が 12 才までテレパシーでお互い分かり合えたと私に言った。したがって、たぶん、このニューヨークで出現した男性は偶然私の考えがテレパシーで伝わり、応答しようとしたのだ？

この仮説を現実の可能性として認めたのは、何か奇妙に特徴的な彼が最初であり、1963 年に見た少女とよく似ていて、忘れることができない。

私に関する限り、たとえ裏付けとなる事実確認が欠如していたとしても、実験は成功であった。

それは電波天文学者の承認を受けたような種類の実験でない、そして、他の人には価値がないが、私にはテレパシーの個人的証明であり、激励を意味していた。

この経験によってこの問題に対する私の信念の基礎が確立し私の態度は急進的に変わった、そして、すくなくともジョージは絶対的な尊敬の対象となった。

だが、アダムスキーの主張は本物だとしても、何かまだ腑に落ちないものが残っている。？ 1949 年 8 月『ジョージ・アダムスキー教授』によって、「宇宙のパイオニア-----月、火星と金星への旅行』と名付けられた S F 小説が発表された

ルーシー McGinnis によって代筆され、限定版で印刷されて、現在は稀覯本である。

これを読んだアダムスキーの批評家はこの本と、後に出された「宇宙船の中に」との間で興味深い類似点があることを指摘する。

特に『彼が書いた Venetians, Martonians そして、Saturnians (原文のまま)、のところに類似性を指摘する。

ほとんど、宇宙のパイオニアは後に書かれた本の下書きであることの動かぬ証拠である。この論争は、1979 年 1 月 Fate 誌のデイビッド Stupple の記事で明るみにもう一度出された。

しかし、「宇宙のパイオニア」は本質的に S F 小説である。・

アダムスキーは、意味深長に前書きで指摘した

これは現在フィクションであるが、科学の進歩は、急速であるのでこういうことが起こるのは、本当にそれほど先のことではない。

アダムスキーは読者に後の意外な展開を準備をしている、

あるいは、彼は単にくわせ者であったのか

誰が、古い本からもう一つ別の『S F 小説』を書く仕事をさせたのか？

本当に非常に多くの類似点が両方の本の中にあり、それはまったく、そのとおりである。

だが、アダムスキーの後年の主張と、フィクションとを注意して比較してみると、ひどく

違っているのもまた事実である。

これらの類似点は どうして うまれたのか、どのように説明できるのか？

たとえば「宇宙のパイオニア」の 14 ページには、1955 年に彼が月について書いた事と著しい類似点がある：

「我々は月に、木が自然に成長し まわりに植物が生え広がっている 帯状の地域が見ることができ、そして小さな湖を見ることが出来る。

アダムスキーが 1953 年に月に行く前に植物の存在を確実に信じていたというのは本当である。そして、それ自体は、深刻な否定にはならない。

だが 70 ページにある、1949 年に書かれた宇宙人のもつ宇宙船の記述はどのように理解したらいいのか。？

「船は、非常に軽く、鋼よりもっと、強度のある材料で出来ている。この材料は『強さと持久力』のために他の材料を合金してつくられる。

地球の我々が知っているアルミニウムに似ている。」

私が以前に言及した金属サンプルは、実際このアダムスキーの記述と同一である。

同様に、宇宙人の寿命の比較は、正確に「宇宙船の内部」に書かれたこととおなじである。

「宇宙のパイオニア」の 31 ページを読むと「…この男性は、みかけはおよそ 70 才であったが後で彼が 190 才であるということを知った。」

そして、81 ページには：

「火星での、人生の長さは、500 から 1000 年までである。「土星の人々も『非常によく似て』書かれ『土星会議』を参照したような個所さえある、そして、その全ては後に書かれたものに現れた。

宇宙のパイオニアの 115 ページで書かれた『ベニス人 Venetians']（原文のまま）も、「宇宙船の中に」に生き生きと描かれた金星人にとっても近いものである。これらは、かなり最近まで論争がおき、彼の支持者の間でも混乱を防げなかったことは

疑う余地はなく、アダムスキーは、これについて非を認めなければならない。

「外観は、我々に似ているよりは、彼らは夢のなかの男性のように見える —...

彼らの手は、長くて細長い、むしろ繊細な構造であり、ほとんど天使のようである。女性的美しさはこれまでのどんなアーティストも肖像画で描写した表現よりはるかに美しい。

「それから、203 ページをみると：

「まるで彼らは我々の心の中を透視しているかのようで、実際に我々の心が読めるように感じる。

彼らがテレパシーにたけていると我々は、話された。

「金星の大気の状態は、また、同じページに書かれている：

「.. 空気がとても薄いので最初は呼吸することはいくぶん難しかったが、我々はすぐに適応できようだ。

「これを、アダムスキーの金星報告（第 14 章）と「ITSS 宇宙船の内部」の金星の地形に

ついて書かれた 221 ページ と比較することは興味深い。

彼らは、我々に言った、9 つの海と多くの湖と川、そびえ立つ威厳にみちた山と非常に美しい森林地帯がここにはある...

そして『車のために道路やレールは必要なく、地面の上を車は滑らかに進んでいる。

224 ページにはもう一つ「ITS S 宇宙船の内部」.と似た点が、ある』

「一地面の下から見上げている場合を除いて、動いていることが全くわからなかったほどこの宇宙船の離陸はスムーズだった一、全てこうした宇宙船は同じ様に、雑音が全然なかった。

「空飛ぶ円盤さようなら」の最初の章において、アダムスキーは、UFO 目撃例の戦後の増加理由を説明する：

「スペースピープルと私は、一この問題を議論することができた、アメリカによって出されたレーダー信号が一[1946 年 10 月一TG の注]月の表面にあたり、宇宙に反射した、このことで火星と金星の彼らの装置は監視員に警戒を促した。

「一 それに、関係して「宇宙のパイオニア」の (140 ページ) を引用する：

一 メッセージの送信について、話した、あなたはレーダーでいつ月に電波を送ったか覚えていますか？

それは月と同様、我々太陽系すべての惑星の住民にあなたたちが警戒警報を出したことになった。

現段階では、ジョージ・アダムスキーが「宇宙のパイオニア」から引き出した虚構の材料で、後に自分の自家製哲学を売り出すために有名な本を脚色した、想像力にめぐまれたくわせ者であったという結論に達することを読者は許される。

表面的には、これは非常に魅力的な結論である。

しかしより複雑な選択肢があることを私は確信している。

私は、アダムスキーがプライベートに子供の頃から、宇宙人と連絡を取っていたと言った事を知っていた、

そして、後年の任務の準備としてチベットにいる彼らの指示を受けた。

*ルーZinsstag は、すでにアダムスキーの人生の初めの頃の『個人的な授業』に言及した。

そして、フレッド Steckling が言ったことを引用すれば、おそらくアダムスキーは、

「宇宙法則を教えるチベットの修道院の最高学府を 6 年間出席した後卒業した。」

スティクリングによればこれによってアダムスキーは、『プロフェサー』の称号を得た。

このもったいぶった肩書きを支持する証拠があるものか私は、疑問に思う。

私は、彼が 1930 年代に教えたカリフォルニアのラグーナビーチ修道院の学生から授けられたとアリス・ウェルズから聞いていた。

アダムスキー神話の中の矛盾を解決するために

ルーZinsstag と私は、1976-1979 の間にアメリカ合衆国へ 3 回旅行をした。

1979 年 11 月に、我々はキャロルハニーと（アダムスキーの片腕として 7 年間活動）ルー

シーMcGinnis と話した。(14 年間ボランティアでアダムスキーの秘書をした)
最初に、私はハニーにアダムスキーが最初 1936 年に、「極東のマスターの知恵」から出版した『ロイヤルオーダーチベット』が、後に「生命の科学」として、1964 年に再発行されたが、その中で含まれる情報と哲学が『スペースブラザーズ』によってアダムスキーに教えられたと言ったことについて聞いた。

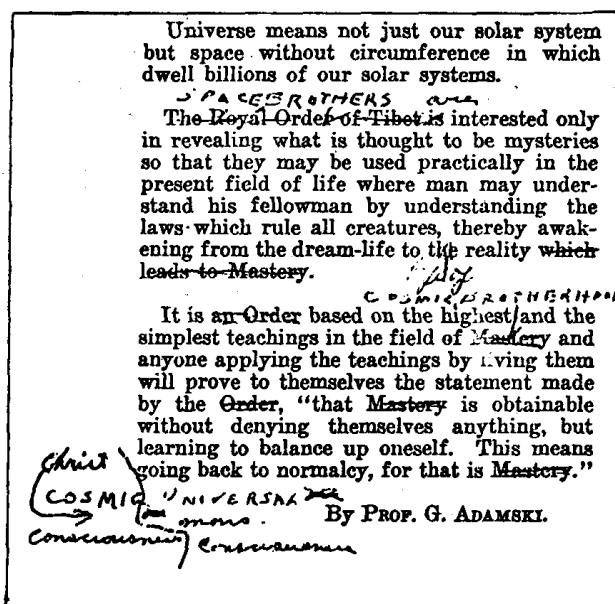
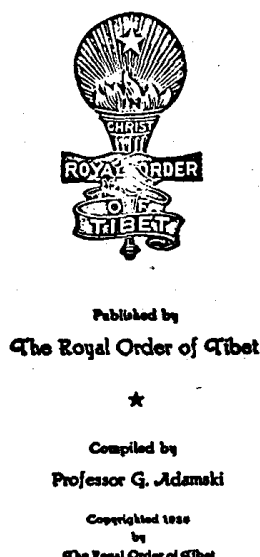
ハニーは悲しいことだが、その時彼のアダムスキーへの不安を率直に認めた。

彼は、1936 年の『ロイヤルオーダーオブチベット』の一部分をアダムスキーが削除し、多くの部分を彼自身の筆跡で『スペースブラザーズ』と書き代えたこの本のコピーを見せてくれた。(図 49 を参照)。

これは、1963 年のハニーとアダムスキーの間でおきた、亀裂の要因であった。

私は、これが、必ずしもアダムスキーの不正な部分的操作というわけではない、すでに彼はコンタクトしていたのではないかと疑っている人の目からみれば、むしろ、好都合なものだというと、ハニーは同意した。

49



Extract from Adamski's first book, *Wisdom of the Masters of the Far East* (1936), showing one of many places where he substituted 'The Space Brothers' for 'The Royal Order of Tibet'. Much of this book was republished as *The Science of Life Study Course* in 1964.

注

1930 年代かそのあたりでバラ十字会員の出版社から出版された本。

私はそれを読んだが、跡づけることはできなかったー

Shasta 山に住んでいた背が高く、長く礼服などを着る変な人々のグループの

今世紀の初頭カリフォルニアの一部にあった伝統的な神の家について書かれている。

地元の居住者は、近接で独特な『飛行船』を観察した、

そして、ループの隠れ家に何度か連絡しようとしても、常に妨害された。

私は、これがアダムスキーのスペースピープルのための基地であったのではないかと何度と

無く疑問に思った、そして、この初期の段階で彼らと交際があったかもしれない。

むしろ私達両方ともアダムスキーの主張が認められるための最も大きな障害は『ブラザーズ』が我々の太陽系の惑星から来たという点にまえから悩まされた。

この質問に、Carol Honey は驚くべき答えを出した。

「私は、彼自身がこれを信じていなかったことを知っている」と、彼が言った。

「彼は、金星、火星、土星が他の太陽系の特定の場所の名前であると私に話した。つまり暗号であり、これで彼らがどこから来たかわかることができた。

「これはすこしは意味をなすが、それでも、なぜ、彼が 1952 年の最初のコンタクトでアダムスキーはオーソンの来た星を決定するのに水星、金星と地球の軌道の回りに線を引いて、金星が故郷の惑星であることを確認したと書いたのか？

「私には、答えられない」と、ハニーが答えた。

「これは、矛盾である。

他の誰もがこれには悩んだが私もそうだった！

その最初の本は別の人* ...によって書かれ、そして、シャーロットプロジェクトが二番目の本を書いたことで、ジョージが非常に悩んだことを私は知っている。

彼女が言うことには我々の太陽系の中の惑星に人が住んでいると、

書くよう彼からたのまれたのであった

そして、彼はそれで行き詰まった。

「こんな事情になってしまっは逆説的である

アダムスキーは、スペースピープルが我々の太陽系の中から来た事を批評家に納得させるために費やさなければならなかったのだから。

ルーZinsstag と私が以前にコメントしたように、アダムスキーの人生は非常にもっとイージーだったとしばしば述べて、彼が本当に、スペースピープルは太陽系の外から来たと言ったと話した。

(彼が常にそのような人種がありえると指摘するのは速かったけれども)。

彼らは実際、太陽系の外から来たというアダムスキーのプライベートな告白によって、我々の太陽系の惑星の一部には人が住んでいる可能性を否定出来るのかどうか、私はハニーに尋ねた。

彼がスペースピープルについて考えてきたことを、話した

「これらの惑星の一部で生きることができる。たとえば、火星のように」、と彼は答えた、そして、彼は月のクレーターの中の底の写真を私に見せて言った

そして、もちろんアダムスキーは本の中では決して月の表面に生活していると言わなかった。写真には、これらのかまぼこ型プレハブ建築物のような建物の 1 つが写っていた、そして、背景に、人間を見ることができた。

前米空軍ジェットパイロット『メル・ノエル』（偽名）に、私は、1976年に会った、

*注 1953年の任務の間にクララ・ジョンは他のパイロット2人とUFOを探しだし視覚的および電波で通信したと主張した。

我々の太陽系の中の惑星の地表には彼らの生命は存在しない、しかし、それは地下に存在する。と宇宙人は話した。

彼らは、金星、火星、水星、木星と土星を彼らの出身惑星として出した。

エリザベス Klarer（その経験が極めてアダムスキーのそれに似ているコンタクティ）は1981年、南アフリカで彼女に会った時、私に話した。そして、とても多くの（自分自身も含めて）50人のコンタクティがスペースピープルの出身地として、金星をあげた。

その時、彼女は誰も訪問客が金星（火星）をあげて、太陽系外の出身であることを受け入れなかったと言う。

土星その他も、使われた。

もちろん、このようにエリザベス Klarer は言った後、金星で発見される生命の存在についての悪い条件のため、単に彼女の宇宙人をもう一つの太陽系へ移動させたことも考えられる。— この場合はプロキシマ・ケンタウリであるが —

これはさらに問題を複雑にする、

金星は、かつてプロキシマ・ケンタウリの故郷であったと彼女は、言う

それは計り知れない昔から、この太陽系の生命のゆりかごであったというのである。

ルーZinsstag と私は、太陽系の中での発見に関する面白い話をハニーから聞いた

それは、この論争に若干の光を投じるかもしれない。

およそ1960年、その時、宇宙問題に関するアイゼンハワー大統領のアドバイザーであった地球物理学者、ロイド Berkner 博士は、ヒューズ・エアクラフト社で非公開の講義を行った

その講義で、彼は、明らかに火星上の空気は、呼吸可能であることを明らかにした。

同じ時に、『月、火星と金星の上のソヴェートロシアによる最近の発見』と題された機密文書はヒューズのところへ行った。と、ハニーが言った。

文書を見るために苦心して試みたにもかかわらず、ハニーはアクセス出来なかった。

キャロルハニーのおかげで、ルーZinsstag と私は、ついにルーシーMcGinnis に会うことができた、

我々のアメリカへの以前の訪問ではいろいろと、つてを頼ったが、連絡できず会えなかった。

我々両方は、彼女が知的で非常に知覚の鋭い女性であるとわかった。

私は、最初に彼女が「宇宙のパイオニア」と「宇宙船の中で」とを和解させた方法を尋ねた。

「私は、しばしばそれについて不思議に思った」と、彼女が答えた。

「最初の本は、明らかにフィクションとして書かれた、

それは、この問題を混乱させたかもしれない。

彼は、何かもっと多くのことを知っていたかもしれないが私は、知らない。

私はあなたの見た文書を作ったが、内容は私を決して悩まさなかった。

私とその宇宙船を見なくても、私は文書を書くことができた。

ルーシーMcGinnis はもちろんアダムスキーの 1952 年のデザートセンターのコンタクトの 6 人の証人のうちの 1 人である。そこで、(この有名な出来事の 27 回目の記念日である 1979 年 11 月 20 日にデザートセンターからあまり遠くないところで彼女に会うことになった。重大な出来事を再現して彼女から聞くことは、魅力的だった — また、特に Palomar で数年後、彼女が体験した個人的な目撃事件に興味をもっていった。

「ある日の午後、私は 1 階の私の部屋にいた」と、彼女が切り出した。

「何日であったかもう私は覚えていないが、何かの理由で、私は起きて、外に出た。

私がドアから出て見上げると大きい大きい受け皿のようなものがあつたので私は、驚いた！

私が見上げると、それは透けて見ることができた。

それには、2 つのはじめて聞くような話があつた：

そこには、彼らが上ったり下がったりするに 階段を見ることができた。

「アダムスキーは「空飛ぶ円盤は着陸した」のなかでオーソンの宇宙船が半透明だったとコメントした、そして、それがガラスのような物質でできているように見え、それが特殊な方法で処理された金属であつたことを、彼は確信していた。

「私は、彼らが不透明な状態から半透明の状態までこれらの主要な元素を変化させる方法を知っている」と彼は書いた。6、これに付け加えると宇宙人は、彼らの不透明な宇宙船の部分を変化させるメカニカルな手段を他に持つように見える。

『ルーシーマクギネス』の宇宙船はオーソンのものと同じ構造を持っており、しばらくの間浮いていたので彼女は船上の人々の鮮明な姿を見ることができた。

「何人いたか私は、覚えていない」と彼女は言った、「しかし、彼らは動き回っていた。

私には— 彼らが足首の回りが細く閉まったスキースーツのようなものを着ていたようにみえた、それから突然、それは徐々に透明になり始めた。

「私はルーシーMcGinnis にアダムスキーが元々我々の太陽系の惑星の名前を故意に使い、文字通りでなくむしろ象徴的に使ったというハニーの意外な事実に対する彼女の考えを聞いた、— 彼はそのようなことは何もいわなかったと彼女は答えた。

ハニーは、また、『新しく配置された少年』(第 8 章でルーZinsstag が書いた) がアダムスキーを混乱させるために催眠術の先進的技術を使ったと考えていた。

注

1954 年 6 月の、ジェロルド・ベーカーは手紙の中でこの意見は、軽くあつかうことはできないと書いた。

アルフレッド・ベイリー (デザートセンターのコンタクトを証言し宣誓供述書に署名した 6

人の証人のうちの1人)は伝えられるところでは、その場所からはUFOや宇宙飛行士にコンタクトしたことは、他の人の誰よりよく見るができなかったと言ったという。ルーシーMcGinnisは、違う意見を持つ：

「...私は降りてくるのを見た。そして、アリスは双眼鏡を持った、ただ、— ウィリアムソンもベイリーもどうだったか。私は覚えていない。

あまり遠くだったので詳細に見ることはできなかった、しかし、このもう1人の男性を[Orthon『TG』...我々は見えていた — 彼ら二人が出会うところを。

彼らは互いに向かって話し、そして、我々は彼が船に戻るのを見た...

このとき、アリスはその絵を描いた、そして、彼を見たと言った —、しかし、その距離から彼の顔を見ることができなかったと言った。

この意見は軽く退けられることができない — ハニーが資格のある催眠術師であって、催眠を使用するために医者と心理学者を訓練していた。

— この時のアダムスキーの動作(1961-63)は催眠術をかけられた誰かと同じかどうか、私は彼に尋ねた？

「はい」と、彼が答えた。

あなたは、催眠で本当に誰かをコントロールしようとはしない、

— 誰かがそれに協力する気があるかどうかであなたは、彼らに催眠術をかけることができる、彼らにサジェスションとアイデアを注入し与えると、それしたがってあとに続く。それが何も問題がおきないことを、彼らは知っている。」

ハニーは、アダムスキーの土星報告に書かれた装置は催眠領域を拡大する手段として使われ、聴覚で視覚の幻覚を生じさせたと信じている。

しかし、誰がそのような偽装工作の責任者だったのか？

ハニーは、『否定的な』スペースピープルである『少年の新しい組』がそうであったことを今も確信している。

ルーZinsstagは、もしそれを、地球人のスパイが彼の信用を失墜させるためにアダムスキーに逆情報を流そうとしたと考えなければこれを信用すると話した。

私は、ルーシーMcGinnisにこの期間に起きた混乱に関して彼女の意見をきいた。

彼女は、答えた — アダムスキーの悪い特大の自我が原因で、最初からのグループが彼のもとを去ったという信念を述べた。

彼女も、— 金星と土星への嫌疑のかかっている旅行で彼の自我を強めるために嘘をつき本来のグループが彼のもとを去ったときそれがひどく収縮したと思っている。

私の見たさまざまな考えの中でこれが非常に説得力のある仮説だとわかる、しかし、それはまだこの複雑な人間とその複雑な主張について、全ての疑問に答えてはいない。

ジョージ・アダムスキーの真実とは、何であるか？

我々はまだその全てを知らないのかもしれない、しかし、私は重要な手掛かりを提供することができたと思っている。 —。

私の親友は（1952年以来の友人である）、1963年に始った一連の偶然の状況を通して アダムスキーが関係したのと同じ宇宙人、または、似たような宇宙人のグループに会った。もしアダムスキーのことを言わなければ、私が、出会ったなかで、最も信頼できるコンタクト事件であるが、証人の名前もこのリアルな経験の詳細も出さないことに私は、同意した。

注

* ハニーはカリフォルニアの催眠術師プロフェショナル協会の副議長でありプロフェショナル催眠術師技術審査委員会（カリフォルニア）の議長である。

私の友人によれば、アダムスキーは選ばれて、本当にこの特定のグループの宇宙人と連絡をとりあった、しかし、初期に彼は委任されたちょっとした秘密の情報を明らかにしたので、それによって彼らへの関心が増大することから保護するために信用できない間違った情報を流すことが必要になった。

正確にこの逆情報がなにか、もちろん私も知らない、しかし、私はそれが「宇宙船の中に」で出てきていると言うことができる。そして、それはいずれにせよ「宇宙のパイオニア」から引き出された材料で重く装飾された。

私は「円盤は着陸した」でアダムスキーが話したことはほとんど完全に正確であるといわれた。

私の友人のコンタクトで、アダムスキーは彼らの宇宙船に乗ったが、どこで乗せたか、人に言わないことを約束したと確かめた。

彼らは、太陽系の中に基地を持つということ以外は、彼らの故郷について話すことは等しく気が進まなかった —。

—アダムスキーが広めようとした逆情報をどの程度知っていたかは明白にしなかった。

面白いことに、— アダムスキーがある時、彼が絶対に重要な信頼を裏切ったとプライベートに認めたことをキャロルハニーは、確認した —。

しかし我々は、寛大に考えることもできる —。

特に『彼は、フェンスの両側からの秘密情報に関与して以来、アダムスキーへの圧力は、数え切れないにちがいがなかった、。

「私の心臓は、秘密の墓場である」と、彼がかつてルーZinsstagに話した。

私は宇宙人がカモフラージュとごまかし術での専門家であるという意見である。そして、催眠術、テレパシー、計画されたイメージと精神的な不正操作の他の形の高度な方法を使用する。

アダムスキーが説明したようにこれらが最高の動機で必ずしも使われるわけではない —：

「最近、私は尋ねられた — 全てのスペースヒープが慈悲深いかどうか、...、残念であるが — — 答えは否定であると言った..

彼らは、テレパシーの中の達人であって、異なる彼らの親友に対して不信の念を与えた...

ここで働くことは、非常に賢くて、類似した方向で彼らの印象を示す

(臭気、見えない足取り、そして UFO フィールドでの詐欺に関して、私のシリーズにおいて言及した。

。) アダムスキーがコーワカーへこれが政府が問題に関して沈黙するもう一つの理由であると後年の手紙の中で説明した 7、一。

これらの不親切なグループの動きは極めていわゆる『黒服を着た男性』(MIB) の邪悪な活動と似ているように聞こえる。それは、アダムスキーがルーZinsstag に話している。(第 3 章)

アダムスキーがまず彼自身を哲学者と考えたので、彼の哲学と原則について 2、3 コメントすることは必要である。

彼の支持者の多くは、最初の哲学者であったことを主張する — — たとえば — — 惑星を教室にたとえて生徒が彼らの発展の状態によって進歩する} 学校であることを彼が教えるために。

しかし、実際、ヨガ行者 Ramacharaka (ウィリアム・ウォーカー・アトキンソンは、この人の本当の名前であった-----アメリカの法廷弁護士) は、世紀の変わり目で述べた — 地球は生命の存在する多くの惑星のうちのほんの 1 つであると。

人間は、彼らの発展に応じた惑星に住み— 精神的な発展の程度によってその場所を変える、と彼は、1903 年に言った、

そして、アダムスキーの大好きなテーマである惑星間の輪廻を論議した。

アダムスキーは、『肘掛け椅子』哲学者では決してなかった：

彼が教えたことはすべての実用的で、絶えず毎日応用するように言った。

彼の哲学は広範にわたり、多くはオリジナルなもので研究に値する。

テレパシー宇宙の言語 (1958) は、現存するこの問題に関する数少ない研究に対して価値ある貢献をする。

(1936/1964) 生命の科学の研究コースは、我々の細胞と心の結果についての魅力的な考えを含む。

宇宙哲学 (1961) は、おそらく彼が書いた哲学の導入としては最も包括的である。

デズモンド・レスリーは、

彼の旧友を復活させようとして、秘教的な説明をした。

『ブラザーズ』は、地球の環境において我々のように、『実体化する』ことができるが、彼ら自身の惑星は『より高い振動数』にある。

それゆえに、我々が、知っているように太陽系において生命は発見されなかったと彼は説明した。

アダムスキーさえ認めたと言われているが『兄弟』が必ずしも太陽系から来たというわけではないという事実は別として

一まったく、違う観点から見渡せば我々の太陽系においてこれまで発見されたことの全部

の真実が我々は話されなかったと私には思われる。

レスリーは、— アダムスキーの潔白を証明することのために、Paramahansa Yoganandallを引用する

そして、地球上に生きている非常に進歩した神の化身であるグルの並外れた妙技を議論する。その人は浮揚し、彼ら自身を見えなくし、彼らのイメージどおり巨大な距離を移動し、壁、その他の中を歩く。

しかし、身体的に（精神的に、そして、精神的にとっても高等であるがこれら著しい人々がまだ生身の人間であるという事実は決して変化しない。 —、

それは、多くの宇宙人がこれらより素晴らしい妙技ができるというのが私の信念である：本当に、私はこの惑星で非常に進歩した人間と他の星の人間との間でこの点でほとんど違いがわからない。

これらの能力は、我々が正確に予想すべきものであって、疑う余地なく彼らがすぐに他にも存在する逆身体的な環境にも適応できることを多分説明するだろう

アダムスキーは、かつて我々の現在の身体の状態では他のより先進の惑星を訪問することができないと明確にデズモンド・レスリーに言った。

秘教的エソテリックな理由以外の多くの真実が、この記載の中にある、レスリーがアダムスキーにスペースピープルの物質的硬度について尋ねたとき、オーソンと彼の最初のコンタクトに言及して彼が答えた：

「それらの人は、気味の悪いコンコンチキの幽霊ではなかった。

宇宙船のパイロットは、傷つくことから助けるためにフォース・フィールドのそばの私の腕をさっと掴んだが、その時彼の手を先端でひっかいた。そしてあなたや私と同じように疑い様もなく赤い血を出したことをあなたに話した。

しかし宇宙人は物質の領域の構造を変えることができるために、見えなくなることができ、壁の中を歩くことができる、そして、この妙技は、スピリッチャルで機械的な手段で成し遂げられる。

たとえば、ハワード・メンガーの写真の 1 つは女性宇宙飛行士のベルトの上で光る装置が写っている

彼女がそれにさわると、彼女は見えなくなった。12、

アダムスキーと同一のパターンでメンガーのコンタクトがあったが、ある時、宇宙飛行士が彼の目の前で徐々に消えて、それから再び現れたと私に話した。

H. G. Wells はこうした話しが、なんと好きだったことか！

私は、現在の多くのUFO研究家の間の一般的な傾向に反撥を感じる

その UFO は、証人の心に残った一時的イメージである；

彼らは知覚力が十分に鋭いものにとっては『リアルである』が、客観的な現実感がない。

宇宙人の『超自然的な』スピリッチャルで技術的能力を我々のものと比較すると、きわめ

て原始的で、我々が多くの UFO と乗員をスピリッチャルなものに見てしまうのも不思議ではない。

我々は、アダムスキーのスペース人々がどこから来たか考えると、確かに窮地に直面する。

そして、他の宇宙人の出身地も同じである。－

しかし、この困惑が生まれるのも多分意図的なことだろう。

繁栄する固有の文明が我々の太陽系の惑星にはないと仮定した場合、（それは、彼らを長年調査した上での仮定である）、太陽系以外からの存在による一時的または永久の基地が、これらの惑星と彼らの衛星の一部、地球上にさえ存在しないとは言えない。

アダムスキーは、宇宙人が我々の惑星の上に秘密の基地を持ったと、最初に述べたそして、私は 21 年間のコンタクトの主張の研究によって更なる証拠を発見した。

最終的な分析で、本当は『彼ら』がどこから来るかは重要でない。

その、遺伝的には我々はアダムスキーと連絡をとったグループと関係することを私は、確信している

現在の彼らのほとんど無関心ともいえる動きとともに、彼らの最後がどうなったか聞いたことはない。

（彼らは、多分野心的なプロジェクトには従事していないだろう）

ジョージ・アダムスキーについての多くの疑問は、未解決のままである。

たぶん、我々はこの議論の的になっている人間の、けた外れな主張を評価するのに、あまりに寛大だったかもしれない、しかしそう思われなかったとしても、公平なものであるように努力したつもりだ。

ただ、この感情的な対立で満たされた被験者に対して意地の悪い見方は取らなかったつもりだ。

ルーシー McGinnis は 11 月 20 日のデザートセンターの証人であったが、その重大な出来事から 27 年後の 1979 年のインタビュー終了後に、彼女が言った事よりの確なものは、結論として何も考えられない：

「彼は宇宙の兄弟を求めた－それは彼の哲学の深さであった。

彼は、非常に優しい人であったが、相当に揺るぎない自己を持っていた、これまで彼の話を聞いた誰もがそれを知っている－それは隠すことができなかった。しかし、彼は深い真心があった。

本当に、人前に出て、話す勇気があったので、彼が選ばれたと思う。

コンタクトした他の人が多くいたが、彼らは怖れたのだ。

著者についての解説

TIMOTHY GOOD.

TIMOTHY GOOD は UFO 事件のよく知られた英国の独立した研究家である。そして、彼は世界のあらゆる場所でおきた事件に関心をむけている。



彼は 1942 年ロンドンで生まれ、最初は 1955 年に Donald Keyhoe の *Flying Saucers Are Real* を読んだ後この問題に興味を持つようになって、等しく魅力的なジョージ・アダムスキーの本を見つけた。

今日、彼は、実際に起きた UFO との第 3 種遭遇の研究のスペシャリストとして、英国で最も有名な講師である。

彼は、UFO の上院の超党派 UFO 研究グループのアドバイザーであって、現れて、いくつかの BBC テレビ番組を貢献した。

Mr Good はケントに住み、また、プロのフリーランスのバイオリン奏者として有名で、UFO 調査と講義とほとんどは商業録音と TV の仕事で予定は埋まっている。

これは、彼の最初の本である。

LOU ZINSSTAG

LOU ZINSSTAG は、Basle (1905 年のスイス) で生まれた。

,

伝統的な古典的な教育を受けた後に、彼女は秘書になった。

彼女が、13 歳とき、ドイツの文学がナチによって検閲された時に、英語の本と恋に落ちた。

UFOS に対する彼女の関心は Donald Keyhoe の「*Flying Saucers from Outer Space*」を 1954 年の初期に読んだ後、始った、そして、1957 年には、彼女はジョージ・アダムスキーのスイス代表になった。

忠実に彼を世界に広めたが、次第に広がる

意見の相違と不信の念は、1964 年に彼女はともに働くのをやめることを決心させた。

ルー Zinsstag は、Basle バーゼルの彼女の家でまだ UFO の関心は衰えておらず、世界の中の UFO の歴史と写真の個人的な蔵書としては最も包括的に集めている有名人である。

彼女は、偉大なスイスの心理学者カール Gustav ユングと母方の親戚である。

これは、彼女の第二の本である。

1958 年、彼女は「*UFO Sightungen dber der Schweiz 1949-1958*」を書いた

GEORGE ADAMSKI

GEORGE ADAMSKI (1891-1965)

1952 年 11 月 20 日ジョージ・アダムスキーは、カリフォルニアの砂漠に着陸した UFO の乗員と会って、話したといった。6 人の目撃の証言者がいた。その遭遇と他のことのセンセーショナルな報道はアダムスキーを世界的有名人として確立した。そして、当時の最も影響力があるオランダのユリアナ女王 ヨハネス 2 3 世法王に始まるパーソナリティの何人かと会談した。

アダムスキーは敵意と称賛を起こさせた — 彼はすぐに起こした—

そして、今だに全ての UFO 被接触者のなかで最も論争が沸き起こる問題の人である。

30 年後の今も論争は続いている。

詐欺師かまたはパイオニアか？

専門家の評価は、分かれた。

アダムスキーを 10 年間知っていたルーZinsstag と、

そして、指導的 UFO 研究者ティモシーグッドは未発表の証拠を掘り起こして、今はじめてこの謎の男性と彼の並外れた主張に関して完全に新しい光を投げかけ実証的に評価する。

「この長い時間切れになってからの評価は、刺激的でジョージ・アダムスキーの論争の的となる主張について新しい 多くのことを含む。

何か、明らかに相当重要なこの男性についての、新たな情報は非常に論争を引き起こす。」

Falkender 夫人

元 Siir Harold Wilson 首相の 1956 年以降のパーソナルな政治的な秘書

「これは、軽くとられる本でない。

それが外面上はなにげないことであつてもちょっとした時に、深く重要な秘密を新たに、もっと明確にしてくれる。」

ニーヨーク技術研究所 Hans Holzer 教授



GEORGE ADAMSKI (1891-1965)

ISBN、0 9508414 0 4

CETI PUBLICATIONS

付録

THE SILVER SPRING FILM の コピーは利用できない、しかし、マドレーン

Rodeffer 夫人は親切に彼女の電話番号を伝えることに同意した、そのため、映画に興味があるそれらはそれについて彼女と話し合うことができる。

電話番号は、以下の通りである

Area code (301) 622 1007。

興味がある方のために — ジョージ・アダムスキーの本、記事、写真とテープを得るには、以下のアドレスから入手可能である：

1 Tape recordings of lectures (list available on request)

2 Inside The Space Ships.

This edition also incorporates the original account of the Desert Center contact, as described in Flying Saucers Have Landed

3 Photographs of UFOS (picture sheet available on request)

4 Questions and Answers (pamphlet)

5 Behind The Flying Saucer Mystery (original title Flying Saucers Farewell)

6 Telepathy - The Universal Language (3 booklets)

7 The Science of Life Study Course.

Information and qualification questionnaire available on request (twelve lessons - one per month)

8 Cosna~ Bulletin is issued every three months, or as time permits, and is available on a donation basis FLYING SAUCER REVIEW Britain's FSR is the world' s leading journal on the subject.

Published bi-monthly, it has a distinguished team of scientifically-qualified consultants and is taken by many gover.nmental bodies and learned institutions in more than sixty countries. Please write for subscription details to:

隔月で発表されて、それは科学的に資格のあるコンサルタントの優れたチームを持って、60 以上の国で多くの組織と博識な機関によってされる。

申込詳細を手紙で注文してください：

FSR Publications Ltd., West Malling, Maidstone, Kent ME19 6JZ, England.

The George Adamski Foundation, P.O. Box 1 722, Vista, California 92083, U.S.A.

ルーZinsstag とティモシーGood は、Geonge Adamski 財団と決して関係していないし、この本において表される他のどの組織も意見で必ずしもそれらを反映するというわけでもない

著者は、この本の間語に対する継続関心を持っており、これらを一般的に結論につける視覚的でレコーディングされた証拠など、どんな更なる情報でも歓迎する。

全て出版社に申し出てください。1958年3月7日

索引

Abranov, Alexander, 126 Abranov アレキサンダー、126
Aerial Phenomena Research Organization, 45 Aerial Phenomena Research 機構、45
Aerojet-General Corporation, 154
Aetherius', 55
 Aetherius Society, 54
Air Technical Intelligence Center,
Aldrm, Edwin E. 126
Aldrm (エドウィン E. 126)
Allingham, Cedric, 161, 176 アリングム、セドリック、161、176
Allward, Maurice, 119 Allward、モーリス、
Alpha Regio (Venus), 143 Alpha Regio (ビーナス)
Anders, William A., 120 アンダーズ、ウィリアム A.
Anderson.
Senator Clinton P., 163 クリントン P. 上院議員
 Antarctica, 131, 134 南極大陸、131、134
 Anti-gravity, 14, 49, 96 反重力、
 Apollo 8, 118-120, 122 アポロ 8、118-120、122
 Apollo 10, 119 アポロ 10、
 Apollo 11, 117, 122, 126 アポロ 11
 Apollo 12, 119 アポロ 12
 Apollo 13, 119 アポロ 13
Arlington Cemetery, 182-183 アーリントン Cemetery
 Armstrong, Neil, 117-118, 122, 126 アームストロング、ニール
Arnold. Kenneth, アーノルド ケニス
Ashazha, Dr Vladimir, 127 'ウラジミール博士

Ashtar' 55
 Asteroid belts, 1 13 Asteroid ベルト
 Atkinson,. アトキンソン
 William Walker, 197 ウィリアム・ウォーカー
 Atomic Energy Commission, 162 AtomicEnergy 委員会
 Aurora 7, 1 15 オーロラ
 Bailey, Alfred, 194 ベイリー、アルフレッド
 Jerrold, 12-13, 194 ジェロルド
 Bakos, Dr Gustav, 1 12 Bakos、Gustav 博士
 Barker, Gray, 7, 32, 87, 150-152 バーカー、グレイ
 Barsukov, Valery, 144 Barsukov、バレリー
 Basle Cathedral, 23, 65 Basle 大聖堂
 Bauer, Dora, 22, 60 バウアー、ドラ、
 Beebe, Mr, 183 ビービ、氏、
 Benton. ベントン。
 William, 134 ウィリアム
 Berger, Fritz, 24 ベルガー、フリッツ
 Bergier.
 Jacques, 123 ジャック
 Berkner, Dr Lloyd, 139, 193 Berkner、ロイド博士、1
 Berlitz, Charles, 69 ベルリッツ、チャールズ
 Bernhard, Prince, 21 ベルンハルト、皇太子、
 Beta Regio (Venus), 143-144 Beta Regio (ビーナス)
 Binder, Otto, 126 ビンダー (オットー)
 Black, John, 106 ブラック、ジョン
 Blagonravov, Anatoli, 1 39
 Blodget, Charlotte, 5. Blodget、シャーロット
 、 123
 Bloom, G. L., 35 ブルーム (G. L.)
 Borman, Frank, 124 ボーマン、フランク
 Bouguer's Law, 161 ブゲールの法
 Bowart.
 106、19235、124、161 Bowart. //
 Walter, 71-72, 88, 89 ウォルター、
 Bowen, Charles, 97, 159 ボーエン、チャールズ
 Bozhich, Dr Sergei, 127 セルゲイ博士、

Bracy, Joseph L., 1 12 Bracy、ジョーゼフ L
 BBC, 3, 113, 121 BBC
 British Flying Saucer Bureau, 172 英国の Flying している Saucer Bureau
 Brush Creek case, 106
 Brussels University, 159 ブリュッセル大学
 Bryant. ブライアント
 Arthur, 183 アーサー
 Buckle, Eileen, 183 バックル、アイリーン
 Burgess, Eric, 132 バージェス、Eric
 Campbell, Donald B., 143 キャンベル、ドナルド B.
 Carpenter, Scott, 115-116 Carr. カーペンター、スコット 115-116 カー
 Dr Michael, 132 マイケル博士
 Caswell, Ronald, 108, 155, 159 Caswell、ロナルド
 Central Intelligence Agency, 88 , 89 , 中央情報局
 146-147, 152
 Channel 11 TV, Los Angeles, 152
 チャネル 11 TV、ロサンゼルス、152
 Chapman, Robert, vii-viii チャップマン、ロバート、
 Chatelain, Maurice, 1 26 Chatelain、モーリス、
 Connair, Major T. J. Jr., 146 Connair、メージャー
 Cooper, Gordon Leroy, 116 クーパー、ゴードン・ルロイ
 Cosmos 954, 94-95
 Cramp, Leonard G., 47, 171-173, Cramp、レナード G.
 Creighton, Gordon, vii-viii, 98, 159 Creighton、ゴードン
 Cultural Exchange Committee, vii-viii, 98, 159 の
 D'Aquila, Rey, 21, 68
 Darbshire, Stephen, 47, 171-173 Darbshire、スティーブン
 Davidson, Dr Leon, 35 デーヴィッドソン、レオン博士
 Decker, Tom, 179 Decker、トム
 De Havilland Aircraft Company, 1 8, De Havilland Aircraft 社
 D'Aquila, Rey, 21, 68
 De Mille, Cecil B., 176 デ Mille、セシル B.
 Desert Hot Springs (contact), 64 ホットスプリングス砂漠 (接触)
 Diaz, Dr Leopoldo, 108-11 1 ディアシュ、Leopoldo 博士
 Eastman-Kodak Company, 42, 160, イーストマン・コダック社、
 Ecumenical Council, 63

Ecumenical Council Medallion, 63 ,
 全般的な会議、63 の Ecumenical 会議 Medallion、63、
 Edwards Air Force Base, 125 エドワーズ空軍基地、
 Eidgen6ssische Technische Hochschule, 41 , 43
 Einstein, Dr Albert, 69, 172 アインシュタイン、アルバート博士、
 Eisenhower, President, 26, 193 アイゼンハワー、大統領
 El Baz, Farouk, 126
 Eratosthenes crater (Moon), 120 Eratosthenes クレーター (月)、
 Explorer 1, 114 エクスプローラ 1
 Explorer 2 , 42-43 エクスプローラ 2
 Explorer 15, I14 エクスプローラ 15
 Fahrni, Frau Alice, 43 Fahrni、夫人アリス
 Farmer, Dr Crofton, 132 ファーマー、Crofton 博士
 Federal Aviation Agency, 1 54 連邦航空局
 Federal Bureau of Investigation, 1 46, 連邦捜査局
 125 Eidgen6ssische Technische Hochschule、41、4369、172、26、193
 El Baz、Farouk、126 151-152
 Feoktistov, Konstantin, 1 1 5
 Firefly Effect, ix, 92, I15-116
 'Firkon', 106
 Firsoff, V. A., 138, 141
 Ford, John, 176 フォード、ジョン、
 Foreign Technology Division, 146 Fou6r6.
 Feoktistov、Konstantin、
 Foreign Technology Division、146 の Fou6r6.
 Rene, 123
 Frankfurt-Mannheim Express film, (フランクフルト・マンハイム急行 123)
 Rene 160, 184-185
 Freedom of Information Act, 147 情報公開法、147 Freeman, Lt. Col. フリーマン、コロラ
 ド大尉
 George P., Jr., ジョージ P. , Jr.、
 Frei, Beryl, 2 フレイ、Beryl、
 Friedman, Dr Herbert, 139 フリードマン、ハーバート博士
 Friedman, Stanton, 97 フリードマン、スタントン
 Fry, Daniel, 94 フライ、ダニエル
 Gassendi crater (Moon), 1 24 ガセンディ・クレーター (月)

Gemini 4, 1 16
 George Adamski Foundation, 1 30, ジョージ・アダムスキー財団、
 Gibbons, Gavin, 2
 Gibbs-Smith, Charles, 159 ギブズ-スミス、チャー
 Girvan, Waveney, 3, 11, 15, 17-19, ギボンス、Gavin
 Gizeh Pyramids, 126
 Glendale Letter, 72-75
 Glenn, John, ix, 115 グレン、ジョン
 Goddard Space Flight Center, 1 20, Goddard Space センター
 Gizeh Pyramids、126
 Glendale Letter、72-75
 184-185
 Gold, Thomas, 1 1 7 トーマス
 Gotthard Pass, Switzerland, 96 Gotthard Pass、スイス、
 Grants Pass, Oregon (contact), Grants Pass、オレゴン（接触）、
 Gray, Congressman, 153
 Green fireballs, 95
 Grevler, Ann, 174
 Ground Saucer Watch, 147, 174
 Gruithuisen, Franz von, 142
 Guadalajara (contact), 29-30
 Guided Missile Research Center, 34
 Guinen, Edward, 1 1 2
 Hall, Richard, 18
 Hall, Ross, 18-19
 Halley's Comet, 112
 Halstead, Dr Frank, 124-125
 Hammar skjold, Dag, 153
 Hansen, 123
 Hart, M. N., 151
 Hayden, Professor Francis, 153
 Hasselblad Company, 1 1 9
 Heiden, Richard W., 146
 Hellas Crater (Mars), 1 3 1
 Henderson, Dr Garry, 116
 Hess, Dr Harry, 139

Hill, Barney & Betty, 98
 Hinfelaar, Henk, 70-71, 80, 85, 91
 Hitler, Adolf, 105 Holzer. ヒトラー、アドルフ、105
 Holzer.
 Professor Hans, ix, 93-94, ハンス教授
 Homet, Professor Marcel F., 16
 Honey, Carol A., 74-86, 137-138, ハニー、キャロル A.
 Homet, Marcel F. 教授、
 152, 154, 191-196
 'Honeycomb' system, 154
 Hotel Krafft. 4 Krafft. ホテル)
 『ハチの巣形の』システム
 Basle, 24, 30, 31-32
 Hougan, Jim, 85 Hougan、ジム、
 House of Representatives Committee on Science & Astronautics,
 183 サイエンスと Astronautics の下院委員会
 Hughes Aircraft, 77, 83, 85, 138, ヒューズ・エアクラフト、
 Huguenin, Dr Robert L., 133 Huguenin、ロバート L. 博士
 Human, Philip J., 14 Human、フィリップ J.、14
 Humphrey, Vice President, 165 ハンプリー、副大統領、1 65
 Hynek, Dr Allen, 97 Hynek、アレン博士、97
 'Ilmuth' , 106
 International bankers, 44, 87 インターナショナル銀行家、44、87
 Jastrow, Dr Robert, 133-134 Jastrow、ロバート博士、133-134
 John, Clara, 192 ジョン、クララ、192
 Johnson, President Lyndon, 70 ジョンソン、リンดอน大統領、70
 Jones, Dr, 180-181 ジョーンズ、博士、180-181
 Juliana, Queen, 21-22, 154 ジュリアナ、女王、21-22
 June 2, 164 6月2日 154、164
 Jung, Dr Carl Gustav, 6, 11, 45-50 ユング、カール Gustav 博士、6、11、45-50
 Jupiter, 112, 113-114, 193 木星、112、113-114、193
 'Kalna', 106 『Kalna』、106
 Kansas City (contact), 156 カンザスシティー (接触)
 Keel, John A., 71 Keel、ジョン A.、
 Kellerman, Dr Kenneth, 113 Kellerman、ケニス博士、
 Kennedy, President John, 63-64, 154 ケネディ、ジョン大統領

Keyhoe, Major Donald E., 5, 1 1, Keyhoe、ドナルド E.少佐
 KFOX Radio, Long Beach, 5 KFOX Radio、ロングビーチ
 Kieffer, Dr Hugh, 132 Kieffer、ヒュー博士、
 King, George, 54, 57 王、ジョージ、
 Klarer, Elizabeth, 193 Klarer、エリザベス
 KMPC Radio, Los Angeles, 5 KMPC Radio、ロサンゼルス
 Kolosimo, Peter, 1 1 Kolosimo、ピーター
 Komarov, Vladimir, 1 15 Komarov、ウラジミール
 Korkosz.
 Frank, 137
 Kowal, Charles, 1 13
 Kozyrev, Dr N., 138
 Krohn, Mr, 37
 Lade, John, 3, 18, 82
 Laguna Beach Monastery, 5, 191
 Lake Michigan (incident), 66
 Lee Funeral Home, 182
 Lee, Gloria, 56
 Leslie, Desmond, 1, 5, 7, 32, 54, 61, 78, 175-176, 197-198
 Leslie, Jack, 64-65 Levin, Gilbert, 134 Li, Jack, 170-171
 Lokker, Mr., 21
 London Symphony Orchestra, 1 60,
 Lovell, James, 122 ラヴェル、ジェームズ、
 Lowell, Dr Percival, 129 ローウェル、パーシバル博士
 Lowell Observatory, 129 ローウェル Observatory
 Lowman, Dr Paul D., Jr., 120 Lowman、博士ポール D. , Jr.
 Lunik 1, 121
 Lunik 3, 121
 Lyndon B. Johnson Space Cenier, 116-117, 126 リンドン B. Johnson Space Cenier
 Macdonald, Dr Gordon J. F., 138 マクドナルド、ゴードン J. F.博士
 Mall (Washington D.C. sighting), Mall (ワシントン D.C.観察)、
 'Mandala archetype', 48 『マンダラ原型』
 Mansour, Joseph, 176 Mansour、ジョセフ
 Mantell, Capt. マンテル、大尉
 Thomas, 183 トーマス、
 Mare Crisium (Moon), 125 Mare Crisium (月)

Mariner 2, 137-138
 Mariner 5, 140
 Mariner 9, 129-130, 131, 133
 Marley, Pev, 176 マーリー、Pev
 Marov, Mikhail, 139 Marov、ミハイル、
 MARS argon, 130 MARS アルゴン
 atmospheric pressure, 130, 131, 気圧
 'canals', 129-130 『運河』
 carbon dioxide, 129-132, 133 二酸化炭素
 colour changes, 1 34 カラー変化
 dust storms, 129, 130 砂塵嵐
 evaporation clouds, 1 3 1 蒸発雲
 fog, 131, 133 霧
 frost, 131, 133 霜、
 geiger-counter readings, 134 geiger-カウンター読本
 geometric patterns, 130, 132 幾何学のパターン
 ice, 132 氷
 ice-caps, 129, 132 氷冠
 image orthicon photographs, イメージ・オルシコン写真、
 micro-organisms, 134 微生物
 nitrogen, 130 窒素、
 oases, 133 オアシス
 permafrost, 132 永久凍結層
 poles, 129
 sand distribution, 129-130
 sand dunes, 130-131 砂丘
 seasons, 129
 snow, 131 雪
 temperatures, 130-133 温度
 topography, 133 地形学
 water, 132-133 水
 water vapour, 132-133 水蒸気
 wind, 129-131 風、
 Masefield, Charles, 183 メースフィールド、チャールズ、
 Masursky, Harold, 143 Masursky、ハロルド、
 Mayflower Hotel, Washington D.C., メイフラワーホテル、ワシントン D.C.、

Maxfield, J. P., 35
 Maxwell Montes (Venus), r43 マクスウェル Montes (ビーナス)
 McCampbell, James, viii-ix McCampbell、ジェームズ
 McCarthy, Colin, 161 McCarthy、コリン、
 McCormack. マコーマック
 Maxfield、J. P.、35
 Speaker of the House, 下院議長、
 McDivitt, James, 1 16 McDivitt、ジェームズ
 McElroy, Dr Michael, 132 McElroy、マイケル博士、
 McGinnis, Lucy, 2, 7. McGinnis、ルーシー
 McLeaish, John, 1 19, 126
 'Men in black', 36-37, 196
 Menger, Howard, 198
 Menzel, Dr Donald, 48-49
 Mercury, 115, 193
 Mercury space capsule, 1 95
 Mexican Government, 15, 29-30
 'Michalek' 55 Miller, Congressman, 183
 Monguzzi, Gianpietro, 47
 MOON animals, I18, 119, 120-121
 artificial bridges, 125
 atmosphere, 24, 122-124
 atmospheric pressure, 1 18, 122, 1 24
 bases, 118, 122-123
 centrifugal force, 24, 124
 centripetal force, 24
 clouds, 124
 colours, I19-121
 domes, 122-124
 dust, il7
 forests, 1 18-120
 gravity, 24, 122, 124
 lava tubes, 124
 lakes, 118-120, 123-124, 189
 magnetic field, 24
 magnetic shield, 122-123

- marias, 1 18
- meteorites, 24, 1 17
- moonquakes, 124
- obelisks, 125-126
- pressurization, 122
- rilles, 124
- rivers, 117, 119, 123-124
- river beds, 1 17
- rotation, 24
- soil, 121
- temperatures, 121-122
- topography, 1 17-1 19
- transient lunar phenomena (TLPS), 124
- UFOs, 126-127
- vegetation, 117, 118-121, 124, 189
- water, 124
- Moore, Charles, 137
- Moore, William, 69
- Moore, Patrick, 113, 125, 176
- Morlet, May, 60, 61-63, 65, 73, 159
- Morlet, Patrick, 159 Morlet、パトリック、
- Moseley, James, 13, 19 モーズリー、ジェームズ、
- Mount Palomar Observatory, 176 パロマ山 Observatory
- Mount Shasta, 191 Shasta 山、
- Muller, Robert, 1 10*111 Muller、ロバート、
- Murco, Louis, 86 Murco、ルイス
- Mustang, (P-51 aircraft), 183 Mustang (P-51 航空機) (
- National Aeronautics & Space Administration, 114, 116-117, 119-120, 122, 125-127, 130, 159
- National Investigations Committee on Aerial Phenomena, 18 国家の Investigations 委員会
- National Security Agency, 1 1 7 国家安全保障局、1
- Nepoklonov, Boris, 139 Nepoklonov、ボリス
- Neptune, 112, 113 ネプチューン
- Nevada Desert, 125 ネヴァダ砂漠
- Noachis Hellespontis (Mars), 133 Noachis Hellespontis (火星)

'Noel, Mel', 192-193 『ノエル (メル)』
 Aerial Phenomena, 18, 17, 139, 112, 113, 125, 133 の、192-193 の
 Oberth, Professor Hermann, 33, 164 オーベルト、ヘルマン教授
 Ogden, Richard, 146, 150, 151-152 オグデンリチャード。
 Oliver, Norman, 185 オリバー、ノーマン
 O'Neill, John J., 125 オニール、ジョン J.
 Orbiter 2, 125
 Orthographic Projection, 47, 171
 'Orthon', 6-7, 12, 13, 81, 105, 157,
 Oxnam, Bishop, 153 Oxnam、ビショップ、
 Packer, Michael, 109 パッカー、マイケル
 Palmer, Ray, 152 パーマー、レイ
 Park-Sheraton Hotel (New York), Park Sheraton Hotel (ニューヨーク)、
 Patagonia, 105 ペンタゴン
 Pentagon, 26-27.28, 185
 Petersen, Major Hans C., 27, 60, Petersen、ハンス C.少佐
 Pettengill.
 Dr Gordon H., 143 ゴードン H.博士
 Phelps, G. B., 35 フェルプス、G. B.、
 Phobos, 132 フォボス、
 Phoebe Regio (Venus), 143-144 フェーベ Regio (ビーナス)、
 Piccolomini Crater (Moon), 125 ビッコローミニ Crater (月)、
 Pickering.143 35 132 143-144125 ピカリング。
 W. H., 120-121
 Pioneer, 1 14 パイオニア、
 Pioneer Venus Orbiter 1, 138, パイオニア・ビーナス Orbiter141-142
 Pioneer Venus Orbiter 2, 138,パイオニアビーナス Orbiter 2、138、

 Pitt, John, 151 ピット、ジョン、
 Pluto, 112, 113 プルートー
 Point Loma Navy Electronics Laboratory, 35
 Pope John XXIII, 43, 61-63, 155 ヨハネス 23 世法王
 Pope Pius XII, 26 ピウス XII 法王
 Previn, Andr6, 152 プレヴィン、Andr
 Price, Congressman, 153 連邦議会議員
 Project Bluebook, 146

Prokoviev.
 Professor V. K., 138 V. K.教授、
 Proxima Centauri, 193 プロキシマ・ケンタウリ、
 Pumphrey.138 19
 Warner T. (Funeral Home), 182 ワーナーT. (葬式ホーム)
 Ragaz, Herr, 13, 44
 Ragent, Dr Boris, 141 ボリス博士
 Ramacharaka, Yogi, 197
 Rank, J. Arthur, Co., 176 Rank、J.アーサー、
 Reap, Dr Beldon, 181 Beldon 博士、
 Reuters, 21
 Rochester, N.Y. (incident), 179 ロチェスター、N.Y. (出来事)、
 Rodeffer, Madeleine, 154, 159-184, Rodeffer、マドレーン、
 Rodeffer, Nelson, 160, 161, 165, Rodeffer、ネルソン、
 160、161、165、
 168, 181, 182
 Roestenberg, Jessie, 2-3 Roestenberg、ジェシー、
 Ross, Dr Dennis K., 188 ロス、デニス K.博士
 Ross, Malcolm, 137 ロス、マルコム、
 Rowe, Kelvin, 54, 156-157 Rowe、ケルヴィン
 Royal Danish Air Force, 107 ロイヤル・デンマークの空軍、
 Royal Netherlands Air Force, 154 ロイヤル・オランダ空軍、
 Royal Netherlands Air Staff, 2 1 ロイヤル・オランダ Air Staff、
 Royal Philharmonic Orchestra, 1 86 ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団
 Royal Order of Tibet, 5, 191 ロイヤル・Order チベット
 Ruppelt, Capt. Ruppelt、1 等陸尉
 Edward, 49, 93 エドワード
 Russell, Roy, 75 ラッセル、ロイ
 Sagan, Carl, 126 セーガン、カール、
 Salton Sea, California (sighting), 147 Salton 海、カリフォルニア (観察)
 Sanborn, Agnes, 48 サンボーン、アグネス
 Sands, Dr George, 131 Sands、ジョージ博士
 Sanmartin, Alberto, 1 6 Sanmartin、アルベルト
 Saunier, Suzanne, 22, 86 Saunier、スーザン
 Saturn, 67, 112, 113-114, 189, 192, サターン
 Saturn Report, 67-71, 83, 92 土星 Report

Schiaparelli, 129 スキヤパレリ、
 Schmidt Crater (Moon), 119 シュミット Crater (月)
 Scully, Frank, 28, 86 スカリー、フランク
 Seal of State, 148-153
 Seattle (motel incident), 106- 107 シアトル (モーテル出来事)
 Selivanov, Arnold, 139 Selivanov、アーノルド、
 Senate Committee on Science & Astronautics, 163-164 上院委員会、
 Senate Finance Committee for Space Research, 153
 Shell Oil, 21 シェル石油
 Sherwood, William T., 160, Sherwood、ウィリアム T.
 Shimbersky, Mary, 5, 6 Shimbersky、メアリー、
 'Silence Group', 5, 35, 40, 42, 57, 『沈黙 Group』、
 Skylab, 95 スカイラブ、
 Smith, Arthur, 94-95 スミス、アーサー上院議員
 Smith, Senator Margaret Chase, 1 53 スミス、マーガレット Chase
 Smith, Wilbert, 108 スミス、ウィルバート
 'Solar Wind', 1 14 『太陽の Wind』
 Solis Lacus (Mars), 133 Solis Lacus (火星)
 Spaulding, William, 174-175 Spaulding、ウィリアム、
 Stadel, Herr, 23
 Stanford, Ray, 19 スタンフォード、レイ
 Steckling, Fred, 5, 122-124, 127, Steckling、フレッド
 Steckling, Ingrid, 160, 163, 184-185 Steckling、イングリッド
 Steckling, Glen, 163 、Steckling グレン
 Steiger, Brad, 37 スタイガー、ブラッド
 Straat, Patricia Ann, 134 Straat、パトリシア・アン
 Straith, R. E., 148-153
 Straith Letter, 148-153
 Stupple, David, 188 Stupple、デイビッド、
 Sub-atomic particles, 1 10 Ste-原子的な分子
 Sullivan, Charles, 1 17 サリヴァン、チャールズ
 Sun, 24
 Suter, Ernst, 31, 36-37 Suter、エルンスト、
 Swiss Guards, 61, 62 スイスの Guards
 Tacker, Lt. Col. Tacker、コロラド大尉
 Lawrence J., 148 ローレンス J.

Tate, Chaplain David F., 183 テート、Chaplain デイビッド F.
 Taylor, F. W., 141 テイラー、F. W.,
 Taylor, General Robert, 1 53 テイラー、ロバート将軍
 Teleportation, 69
 Terra Aphrodite (Venus), 143 Terra Aphrodite (ビーナス)
 Terra Ishtar (Venus), 143 Terra Ishtar (ビーナス)、
 Tibet, 5, 191 チベット
 Tilt of Earth's axis, 24-25 地球の軸
 Time & Life Magazine, 21 Time とライフ・マガジン
 Tolman, Alan G., 37 Tolman アラン G.
 Translating device, 108 Translating している装置
 Trench, Brinsley Le Poer, ix, 159 トレンチ、Brinsley Le Poer、ix
 Truman, President Harry, 62 トルーマン、ハリー大統領
 Tsiolkovsky Crater (Moon), 1 19 Tsiolkovsky Crater (月)
 UFO Education Center, 110 UFO Education センター
 Ulrich, Martha, 74 Ulrich、マーサ
 United Nations, 1 10, 153 国連、
 U.S. Active Reserve Air Force, 162
 U.S. Air Force, 11, 13, 45, 93, アメリカ空軍
 U.S. Air Force Research Department, 37 U.S. 空軍研究部
 U.S. Army, 72, 107 U.S. 軍
 U.S. Code, 151 U.S. コード
 U.S. Congress, 183 U.S. 国会
 U.S. Customs, 142 U.S. 習慣
 U.S. District Court, 117 U.S. 地方裁判所
 U.S. Information Agency, 151 U.S. 情報機関
 U.S. Senate, 163-164 U.S. 議会
 U.S. State Department, 42, U.S. 国務省
 U.S. Supreme Court, 1 17 U.S. 最高裁判所
 Uranus, 112, 113 ウラヌス、
 Vallee, Dr Jacques, 154 Vallee、ジャック博士
 Van Allen, James A., 114 ヴァン・アレン、ジェームズ
 Van Allen Radiation Belts, 1 1 4 ヴァン・アレン放射帯
 Van Allen. ヴァン・アレン
 Van den Berg, Basil, 14-16 Van 巢バーグ
 Vasilevsky.

Basil, 14-16
 Vasilevsky.
 A., 140
 Vatican, 61-63, 155 バチカン、
 Vega, Hugo Luyo, 177 ヴェガ、ユゴーLuyo
 Venera 2, 139
 Venera 3, 139
 Venera 4, 139
 Venera 9, 139-140
 Venera 10, 139-140
 Venera 11, 142
 Venera 12, 142
 Venera 13, 143-144
 Venera 14, 143-144
 VENUS animals, 136 VENUS 動物
 argon, 141 アルゴン
 'ashen light', 142 『灰の光』
 atmospheric heating, 143 大気加熱、
 atmospheric pressure, 137, 気圧
 atmospheric rotation, 143 大気回転
 aurorae, 142
 axial rotation, 143 軸回転、
 carbon dioxide, 137, 141, 142 カarbon 二酸化物
 carbon monoxide, 142 カarbon 一酸化物、
 chemical erosion, 140, 144 化学的な浸食、
 chemical fires, 142 化学的な火、
 clouds, 136, 137, 143 雲、
 electrical storms, 142, 143 電気の嵐、
 evaporation, 143 蒸発、
 fluorosulfuric acid, 140 fluorosulfuric 酸
 'greenhouse effect', 141 『温室効果』、
 helium, 141 ヘリウム
 horizon, 140 地平線、
 hydrogen fluoride, 140 水素フッ化物、
 infra-red radiometer, 142 赤外線放射計
 ionosphere, 144 電離層

kinetic temperature, 1 38 運動の温度
lightning, 143, 144 稲妻
magnetic field, 144 磁場、
mountains, 139, 143 山、
neon, 141 ネオン、
nitrogen, 138, 141, 142 窒素
oceans, 143, 190 海、
oxygen, 137, 138, 141 酸素、
potassium basalt, 144 カリウム玄武岩、
radar mapping, 142-143 レーダー・マッピング、
rainfall, 137 雨量
rocks, 139 岩、
spectroscopic readings, 1 37 分光器の読書
sulphuric acid, 140 硫黄の酸、
sunlight, 139, 143 太陽光線
surface temperatures, 138-142, 144 表面温度、
thunder, 143 雷、
topography, 143-144, 190 地形学、
upper atmosphere, 144 上の空気
vegetation, 136 植物、
volcanoes, 143 火山、
water vapour, 137-138, 141, 142 水蒸気、
Viking 1, 130-134 バイキング 1、
Viking 2, 130-134 バイキング 2
Vista, California (sightings), 162 追憶、カリフォルニア（観察）、
Von Braun, Werner, 164 Von ブラウン、ワーナー
Von Eshleemann.f ~ 208
Dr R., 140. R.博士
Vorster Wolfgang A., 25-26, 28 ウルフガング A.、
Voskhod 1 I15 ボスホード
Voyager, 112, I13, 114 ボイジャー
Wall Street, 88 ウォール街、
Walton, Travis, 9825-26, 281 I15, 112, I13 ウォールトン、トラヴィス
Ward, Lord George, 157 ロード・ジョージ、
Washington Sanatorium, 180-181 ワシントン Sanatorium、
Wells, Alice K., 6, 182, 191, 194 ウェルズ、アリス K.

Wells, H. G., 198 ウェルズ、H. G.
White House, 63-64, 154 ホワイトハウス、
Whritenour, Joan, 37 Whritenour、ジョーン
Wilkins, Dr H. P., 125 ウィルキンズ、H. P.博士
Willard Hotel, Washington D.C. , ウィラード・ホテル (ワシントン D.C.)
Williamson, George Hunt, 19, 194 ウィリアムソン、ジョージ・ハント、19、194
Winder, Brian, 159 Winder、ブライアン、
Wissler, Frau, 26-27 ウィスラー、夫人
WOAI Radio, 109 WOAI Radio、
WROC TV, Rochester, N.Y., 179 WROC TV、ロチェスター、N.Y.、
WTOP TV, Washington D.C., 163 WTOP テレビ、ワシントン D.C.
Yegorov, Boris, 1 15 Yegorov、ボリス
Yogananda.Paramahansa, 197
Young, Andrew & Louise, 140 ヤング、アンドリューとルイーズ
Zwicky, Dr Fritz, 33-34, 41 Zwicky) フリッツ博士、
Paramahansa、197
,

「特別最高機密」 ABOVE TOP SECRET

より ティモシー、

グッド著

宇宙航行学の偉大な先駆者のうちの 1 人ヘルマン・オーベルト博士に、1972 年に私は会う名誉を持った

1955 年に、オーベルトはウェルナー フォンブラウン博士によってアメリカ合衆国に招待され — 軍の弾道ミサイル機関とジョージ J C マーシャル・スペースプライトセンター、後の NASA で、ロケット開発に取り組んだ。

UFO 問題についてのオーベルトの声明は常に明確だった、UFO の推進力についての彼の仮説によって UFO が地球外起源であることを確信していると私に話した：

UFO が突然に方向を変えて飛ぶが、これは人工の重力フィールドで飛んでいることで説明できるが、こうしたマシンを今日、我々はつぐめない。

この仮説は、また、円筒形または葉巻き型の母船が地球を去って飛ぶのを説明するのを手助けする。

このやり方では重力のフィールドだけが全てのディスクのために必要であるのでこれらは、空気を押し出すために高圧の電荷と強い磁場を生じ、これらの高い高度での通り道をイオン化させて影響する—

第 2 にこれは、これらの光を説明する。そして、それは最終的に UFO 飛行の静けさを説明する。この仮定は UFO の近くで必ずしも観察されないが強い電気と磁気効果を説明する—

以前に、UFO との科学的なレベルの接触が実際にあったとオーベルト博士は、ほのめかした「我々の、特定の科学的な分野での前進を単独な自分の手柄にすることはできない；我々は助けられたと言ったといわれる — 誰にと尋ねられると、彼は返事をした：

「他の世界の人々によって」

さらに米国に試験飛行する先進的な宇宙船があるという持続的なうわさがある。これは、宇宙人との接触と壊れた UFO の研究の結果として得られた情報に基づいて作られたという。

1959 年に、Wemher フォンブラウン博士は（偉大な宇宙工学のもう一人の開拓者）の興味をそそる声明を出した。ドイツで報告された米国のロケット、ジェーノー 2 が軌道から、それたことについて、彼が述べた：

「我々は現在の我々の多くの人には知られていない、今まで仮定したよりはるかに強いある力に直面しているのに気づく。現時点では私はそれ以上言うことができない

"我々は、現在それらの力とより密接な交流を始めており、そして、— 6 から 9 月間たてばより多くの精度で問題に関して話すことが可能かもしれない と強調した

さらにこの問題について発表されなかった。

ロバート Sarbacher 博士がコメントした（第16章を見る）ように、
フォンブラウンはおそらく 1940 年代後期にクラッシュした UFO の修復にかかわったのだ
ろう。

そして、それは私の意見だが

彼は、この問題を詳しく述べることは安全保障の守秘義務に違反することから話せずこれ
を証明することができないので、もちろん、これ以上は私は証明できない。

—宇宙計画において宇宙人と選ばれた科学者との最高機密のコンタクトがなされたという
信頼できる筋からの情報を私は、実証できる。.

フォンブラウンの声明はこのあたりに由来しこれを補強するものであることを認められな
ければならない。

『我々は、現在、それらの力と、より密接な交流を始めようとしている』と、彼が言った
時、なにを意味していたのか、
それはソビエトなのか？



Top: Werner von Braun with JFK in 1962 at the Marshall Space Travel Center. "From 1932 until 1945 Werner von Braun was Adolph Hitler's most dedicated Nazi rocket scientist."
Bottom: Reunion of the von Braun brothers with their father in Oberaudorf, Bavaria, in February 1968. Left to right are Magnus, Baron von Braun, Sigismund, and Werner.



右の写真 1962 年のマーシャルスペーストラベラルセンターにて、フォン
ブラウンとケネディ大統領

1932 年から 1945 年までヒットラーにもっとも献身したロケット科学者

左の写真 1968.2 月ババリア オーバードルフにて ブラウンの兄弟と父

左から兄弟マグナス 父バロン フォン ブラウン 兄弟ジークスムン
ト ウェルナー



1974年 ヘルマン・オーベルト教授は（宇宙飛行の偉大なパイオニア）UFO ニュースの中に書き込んだ。

『UFO が存在するというのが私の結論である。

極めて確実に存在し、もう一つ別の、またはもっと他の太陽系からの宇宙船である。

彼らは、何世紀もの間、我々の地球を長期に科学的調査を行っている人種の仲間である、おそらく有人の知的観察者によって操縦されている。』

短波ラジオからの
宇宙人のメッセージ
Via short Wave Radio

ジョージ.ハント.ウィリアムソン講演録
1954年6月21日(月曜日)

ジョージ.ハント.ウィリアムソン博士は1954年6月21日(月曜日)、ミシガンのデ

トロイトで以下のように講義した：

デトロイトのこの場所で「空飛ぶ円盤」の件に関して皆様に話しかけることは、すばらしい特権、および楽しみです。世界中で近ごろ「空飛ぶ円盤」期間は、(今まで)人を憤慨させると思われた出来事よりも人を憤慨させる笑うべき出来事です。しかし世界中で今、「空飛ぶ円盤」として知られているこの現象がとても遠くない将来にそれぞれの生活、および我々のみんなに影響がある重要なことかもしれないことを理解し始めています！

今夜、私は、あなたに我々自身の空飛ぶ円盤に関する経験をお伝えします。私は、また、いろいろな同様の経験を持った多くの男を知っています。忘れがたい空飛ぶ円盤をもつ砂漠での接触をしたときに、私は、1952年11月のジョージ Adamski と一緒でした。私の妻および私(両方)は、そのイベントへの目撃者でした。その出来事は、空飛ぶ円盤は着陸した(Desmond レスリー、とジョージ Adamski による)、と題された本で述べられます。しかし、我々の空飛ぶ円盤との仕事は、Adamski 氏と我々との交流よりも前から開始し、長かったのです。我々は彼のことを前から聞いてはいましたが、結局、彼に会ったのは、我々自身の仕事を通してです。我々は、集めた情報の何を伝えるかあれこれ考えて、そして我々から400マイル離れていたジョージ Adamski に会うために、行くことに決めました。

「空飛ぶ円盤は着陸した」という本で、Adamski 氏は、空飛ぶ円盤のいくつかのよい写真を紹介しています。世界のすばらしい天文台には、空飛ぶ円盤の写真があります。私には、今、Palomar マウントの「大きい目」(望遠鏡)で、働いている学校に行った資格のある天文学者の1人の友がいます。いろいろな大学の学生は、あるプロジェクトを作動させるために大きい観測所で何時間も過ごしています。私のこの友は、Palomar マウントにあって、以前のクラスメート、天文学者に、ジョージ Adamski のようなアマチュアの写真家が撮ることができた空飛ぶ円盤の写真、および Palomar 山天文台から写真をとることができなかったか、および Adamski の写真が偽物かとたずねました。天文学者は、Adamski 氏の写真は偽物でないと答えました。そして、もし Adamski の写真がよいと思ったら、Palomar 山でとったものも見るべきですといいました。

政府はストーリーを持っています。彼らは、また、空飛ぶ円盤とラジオでコンタクトしました。政府は、今までにこのインフォメーションを知らせるかどうか、我々は知りません。我々すべてがそれについてすでに知っていることを確認するその時まで、彼らは待っているのかもしれませんが。エドワーズ空軍基地に MQ 707 として知られている空飛ぶ円盤とのテレコミュニケーションのためのプロジェクトがあります。彼らは空飛ぶ円盤が着陸できないか試みています。

1952年8月に、我々は、短波、あるいはラジオ電信経由で宇宙人と接触をしました。

私は以前にミネソタで1年間 Chippewa Indians の中で働いて彼らの知られていなかった小さな伝説、および書き留められなかった事実を集めました。私は、そのときまで他の人々より、空飛ぶ円盤について知っていませんでした。新聞に少し掲載されて、始めて私は、空飛ぶ円盤のことを知ったのです。

ミネソタへの途中で Kehoe の最初の本「空飛ぶ円盤は現実だ」のコピーを読んだ。私がミネソタに到着したときに、数日間雨が降り続いていて私は客車から出ることができませんでした。したがって、私は本を読み続けました。一旦それを読み始めたら、読み終えるまで、本を置くことができませんでした。それを読み終わった後に、私は、完全にそれらの事が少なくとも惑星間の出来ごとかもしれないことを確信しました。

海の中にいる男のように彼は客観的な方法でこの出来事に入りこんですべての事実を分析して宇宙人であるという結論以外は考えられなく思えたと書いた。

実際、彼自身これを受け入れることが困難なほど、ファンタスティックであったが、それ以外の結論が証拠に合わないと書いたと信じている。

私がこの本を読んだので、私が集めていたすべてのインディアン伝説の意味が、はっきりして来るようでした、そして、私は、集めた多くのストーリーが空飛ぶ円盤の伝説に聞こえたことを確認し始めました。メキシコの Indians の中で私と仕事をしていた妻も同じことを見つけていたとわかりました。それ以上の調査で、我々は、すべてのアメリカインディアン種族が実際には同じ伝説を持っていたとわかりました。僅かの違いがありましたが、彼らは、ほとんど、すべて同じ基礎的な事実を持っていました。

長い間、それらは単に迷信深い人々の伝説だったと言い、いかなる基本的意味、あるいは事実もないという理由で、人類学者は、世界中のいわゆるプリミティブな人々やインディアン伝説、およびお話を廃棄しました。もはや、彼らはこれをしていません、というのも、彼らは、これらの伝説の意味を理解し初めているからです。そして、書き言葉を持たなかったため、これらの伝説、あるいはストーリーが書き留められなかったにもかかわらず、世代から世代へ伝わりました。

Chippewa の伝説の1つは、「ジン Guin」、あるいは「地球-ゴロゴロいうもの」、あるいは「その地球を一その雑音一回す」の表現です。伝説の本質は、これです：

いろいろな時に雲によって取り巻かれ、回転している車が下って電光を発するだろう、あるいはぐるぐる回っている車から、時々光が放たれるのが見られるでしょう。それから、上空から来た「Bococitti」、金髪の神と呼んだ若い金髪の男が、歩くでしょう。これらのようなストーリーは、アメリカ合衆国の至る所で、および世界中のほとんどのプリミティブな人々が同じ種類の伝説を持っているという事実を見ることができます。

私がミネソタを去った後に、私は妻の Prescott と結ばれ、アリゾナに私の家族は住んだ。私の友、アルフレッド C. ベイリー私を訪れて、私の最近の旅で何を私が集めたか見たいといました。私は、空飛ぶ円盤を言いませんでしたが、彼はいくつかの伝説を読みました。彼は、私が集めた材料を読み終わったあと、彼は言いました：「これは空

飛ぶ円盤のように聞こえます。私は、あなたの旅がインディアンのこれらの伝説を集めるためにあったように思いました」

我々は、空飛ぶ円盤現象を議論して、たぶんそれらが気象現象だろうと思いました、というのも、我々は、気候条件を観察する専門家ではないからです。

Indians はそれら同じ事件によって作られた伝説を見ていたのでしょう。

我々は、ロケットによって他の惑星への旅の可能性について語りました。我々のうち1人は、多くの可能性を示唆しました。

未来に我々が地球から他の惑星に行くことを計画し、その星に住んでいる生物を見つけ、彼らがラジオを持ち、あるいは同様の型のコミュニケーションをしていたならば、我々は着陸する前に彼らの言葉を学んでラジオをモニターし、住民の文化について調べるという試みをするでしょう。

もし他の惑星に住んでいる人たちが我々を訪れたならば、まさに同じようにするでしょう。

たぶん、彼らは、恐れのない地球の人々にコンタクトすることに興味があるでしょう。

．我々はこれらの可能性を議論したが、本当にそれについて最初あまりまじめでなかった。我々はこのように推理した。ケニス・アーノルドが1947年に彼らを初めて観察して以来、宇宙からの人々は確かに、我々の言語と我々のモールス信号によるコミュニケーション・システムを知っていなければならない。彼らが疑う余地なく我々のラジオをモニターし、モールス信号のシステムは、秘密でもない、そして、それが世界中至る所で毎日に扱われるので、短い期間で我々の言語を理解するだろう。

しかし我々はそれがあまりに素晴らしい推測なので我々はそれを考えないようにした。しかし、数週間後に A、ベイリーが私に電話してきて言った「空飛ぶ円盤について何を議論していたかを覚えている？。我々は成功したよ。」

「何を言ってる？」私は聞きました、「誰かに会ったの？」

「いいや」、彼は、「そうじゃないんだ、ラジオで彼らとコンタクトしたんだ」と答えました。

それから、皆さんすべてが言うだろう質問をあげました。「それは悪ふざけですか？」

「はい」、彼は、言いました、「そのハムの技術者は、宇宙人が彼のような人以外には誰ともコンタクトしていない理由が考えられないことから、それが悪ふざけだと思っています。彼は、なぜ宇宙人が政府、あるいはアインシュタインにコンタクトしないかあれこれ考えています。」

私は、後にそのハムの技術者に聞きました。「あなたは、なぜ彼らが政府にコンタクトしなかったか知っていますか？」彼は、道理に合った仮定をかんがえていました。

我々が受け取ったメッセージに関して、ハムの技術者は彼らがアマチュアから受け

取ったものと思いました。

彼は、符号の音が至って大きいことに気づきました、そして、彼は、彼の全く完全にセットされたボリュームの音をオフに近いぐらい、小さくする必要がありました。彼は、また、符号がとても速かったことに気づきました。そのハムの技術者は、単に「ハム」(アマチュアの)交換手ではなく、アリゾナのサンタフェ鉄道で商業的にライセンスされた交換手です、そして、彼は、受け取ってから手紙を出すまでとても速いことで有名でした。

しかし、彼は、我々が受けた多くのメッセージを聞きのがしました。たびたび、彼れらに速度を落とすようにと頼みました。そして、語と語の間で速度を落とすのですが、文章と文章の間では落とさないのです。または、次の語の前に長い空白があっても、1つの語はとても早く送られて来るのです。その時、メッセージが単なるアマチュアからのものでないことを理解し始めました。

もし彼らが地球のメキシコの共産主義者だったらと思いました。

これは貧困な想像でした、そしてこのことは長くは思いませんでした。上陸の用意をしているメキシコの共産主義者で、彼らが地上に着陸したとき、我々が、友情で彼らを迎えようと、ロシア人として外へ出てくるのだと思いました。パニックを引き起こすことが目的の原子爆弾攻撃への予備戦略だろうと思いました。しかし、彼は、すばやくその考え無くしました。

彼の裏庭のアマチュア無線の掘っ建て小屋は、2つのセクションに分けられていました。1つの場所は、彼の修理と仕事用でした、そして、もう一つの場所は、彼の無線のセットがありました。

彼は、サンタフェ鉄道のためと警察ラジオの技術的な仕事をしました。彼は、仕事用のベンチにいと、空飛ぶ円盤の人々がメッセージを与える前に予備警告を発しそれからスタートすることに気づきました。

警告は、予備ビートの複合形でした。しかし、もし彼がセットにすわっていたら、彼らは、決してこの予備の警告をしませんでした。

これは、とても不思議なフィーリングを与えました、というのも、彼らは、ラジオの道具に向かっているかどうかを知っているようでした。

メッセージは、インターナショナルのモールス符号で受けられました。

それが我々と宇宙人との無線でのコンタクトのはじまりで、しかもとぎれとぎれの無線電信だった。

そのハムの技術者は、ある種のテストをすることに決めました。彼れらに、私のことはよく知っているのに、私はあなたが誰だか知らないことはとても不利に働いていると告げた。

彼は頼みました：「こうしてコンタクトにしたからには、我々に興味があるのでしょうか。

我々に、あなたが誰であるか知ることができるように、ある種の保険を与えてくださいませんか?」

彼らはただちに返事をしてきました。そして、言われました:「はい、はい。もしあなたが望遠鏡を持っているなら明日が絶好の太陽の機会になるでしょう。」

次の日の正午に望遠鏡を手にとれば太陽のあたりにあると意味したのでしょう。

我々は、望遠鏡を持たず、何を彼らが「太陽のそば」に意味したかを正確に知りませんでした。私は、次の日、外で炎をあげて燃え上がっている太陽を見上げますが、もちろん何も見えませんでした。しかし、その日の夕方、アリゾナのニュース番組フェニックスは、5:45 p.m. にいわゆる「空飛ぶ円盤」の大艦隊がその日の正午に見られたと発表しました。

これは、何か他のものが発展するときまで我々が結論に飛びつかず待っていることに決めることを意味しています。

次の日ロサンゼルス・タイムズがマウント・ウィルソン観測所からのレポートで前日の正午に、恐ろしい太陽スポットが、突然に太陽の一部分に現れるたと伝えた。今太陽スポットは、非活動期である。

太陽スポットの活動期間以外は、太陽スポットは普通は出てこない。最も小さいものでも太陽スポットは出てこない。そして、30日間から普通は2週持続するかわりに、この太陽スポットは、たった1日だけ持続しました。我々は、どんな関係があるのか、あるいはこれが不思議な偶然なのか知りません。

私は、技術者ではないと言っておきましょう。人類学が私の気に入った理由の1つは、私が数学を取る必要がなかったということでした。

数学を取る必要がないので、女性がそこに入るという理由から、男たちも人類学に入ると言われている!

そんなわけで今、この夕方より科学の専門用語を使って、私が皆様に話すことは、受け入れるか、または拒否されるかのどちらかでしょう。

私は、私自身の意見、あるいは考えのどれかを押し付ける予定はありません、というのも、私は、あなたが私の意見に興味がないことを確信します。しかし、あえて私の持った経験と、他の人の空飛ぶ円盤の経験がここで話されるべきだと感じています。

我々は、問い合わせてみて、それが全く真実だったことがわかった通信に興味がありました。そのハムの技術者は、テストを試みることに決めました。彼は、波長40メートルで質問し、即時に答えを得ました。それから、すぐに波長160メートルに変え、そしてもう一つの質問をしましたするとすぐに答えがやってきました。彼が40メートルから160メートルにすばやくスイッチをかえたら、この波長を見つける時間はなく、質問を聞けるはずもなく、それに答えることができたはずはないはずでした。

それは、彼がした最初のテストの1つでした。

それから、ある夜、彼がもう一つのハムと通信していた間に、彼のいとは、彼を訪れてきました。彼がいとこに空飛ぶ円盤との交信を告げませんでした。しかし、彼は、不思議なブンブンという音を、外部に聞きました。彼は、彼の掘っ建て小屋の外部、および時々それが閃かすメッセージを送っている時に蛍光を放つ管を持っています。彼は、彼のいとこに外側に行って何か変なものがあったかを確認するようにと頼みました。いとは、外から速く来いと、彼を呼びました。

「あなたは、私が気が狂っていると思うでしょう、しかし、私は、空飛ぶ円盤がいると思う」と、彼は興奮して言いました。アンテナの上に、大きいオレンジのディスクが、舞っていました、しかし、それは、ハイスピードですぐに離陸しました。それから、そのハムの技術者は、彼のいとこに、彼がラジオ通信を確立するときに何をしていたかを話しました。

そのハムの技術者は通信によって、彼らが喜んである地域に上陸するだろうと考えた。彼らにそのことを頼みました、すると、彼らは、喜んで降りるだろうと答えました、それは、空飛ぶ円盤を見るチャンスでしょう、そして、数百のこのような機会がをつくります。それから、そのハムの技術者は、コンタクトするために、どこに次の日行くかすべての計画をねりました。彼は、1台の車をこのことに用意する予定でした、そして、我々の車は彼の後を追うことにしました。

同じ夕方ハムの技術者の義父は、テネシーから来ました。彼は、きわめてかなり年配の紳士で、とても老年であるのに、こどもじみていて、バランスを保つことができませんでした。彼は、本当に病気の男でした。夕方、放送を終ってから、ハムの技術者の娘が掘っ建て小屋に入って来て、我々に、年配の紳士についてどうすべきか、本当に問題があると話しました。彼女は、宇宙人に問い合わせてうまれた旅に彼を連れていくべきでないと考えた、しかし、彼をそのままひとりにしておくことはできないとも彼女は考えた。旅に彼を連れていけば、彼が変なことを見て心底攻撃してくるだろうと思った。そして、彼に別世界の人と通信していると話すことができませんでした。また、彼女は、もし彼らが彼に会ったら着陸したくないだろうと思いました。

我々は、少なくとも1時間この問題を議論しました、そして、我々は、まだこのときはテレパシーの実験を試みていませんでした、それは決して心に浮かびませんでした。しかし受話器は、いつもと変わらずオンでした、そして、直ちに、1つのメッセージが入りました：「今、父について」。

私は、肩ごしに、何を彼が書いてきたか確認し見たときに、私の毛が総毛だったことを信じてください。そのハムの技術者は、青ざめて、書かれたことの周りを回りました：。不可能なこととして、私は今までこうしたたぐいのことを疑ってきたとしても、それは、私の目前で確かに起こりました。このことを信じて下さい」。

これらの宇宙人は、我々に老人の状態について話しました、(ドクターによって後に病状は確かめられた)。彼れらは、接触を妨げるベッドのわきの食塩水があると言って、

誰かが、それを動かしてきれいにしてくれと行ってきました。娘は、中に行って、これを解決しました。彼女は、戻って来たときとても青ざめているように見えました。宇宙人は、ハムの無線小屋と家のなかのすべてを知っているようでした。このメッセージは、年配の紳士に関して最も長かったのです、それは我々が受けた最も重要なメッセージだったと感じました。次の日に我々は彼を連れていくことがよいだろうと言いました。その通信文の終りは：「決して年をとることを恐れないで下さい、というのも、ふたたび命に入ることができるよう手伝うことができるからです。」。

あなたは、すべて自分でそれを解釈する必要があるでしょう、しかし、私は、それはとても重要なメッセージだと感じます。

つぎに日、おじの空軍大佐の家に泊まっていた14歳の少年は次のドアから出てきて我々に、何が昨夜起こったかとたずねました。

そのハムの技術者は毎晩ほとんど放送し、隣近所がこれに慣れっこになっていたのも、この質問を変だと思いました。

彼はやって来た少年に、何か普通でないものを見たかとたずねました。

少年は、年を取った紳士についてラジオ通信をしていた同じ時に起きていたと答えました。

気をつけていたのでポーチのなかの双眼鏡で見ました-彼は白い長い管の軸が家の上に火のように燃えているのを見た。

それが宇宙のどこまで消えていくか見終わることができませんでした。

地平線の低いところで、ちょうど家に接するところで、寝室へ行きました。

少年は、これが夢ではないことを知っていたと言いました。

彼は、十分に目覚めていて、何を見たかを知っていました。

.

これはありふれたチェックでしたが、誰も、何を我々がしているかを知っていませんでした。実際は、私は、次の月まで私の父に話しませんでした、彼は、きわめて疑い深く、我々が一杯食わせられていると思いました。しかし、私は、それからのち私の母から連絡を受けました、彼女は、父が空飛ぶ円盤をついに見たと言いました、そして、それは、気候観測所の彼の友人である、責任者によって確認されました。私の父は、また驚きました。

.

運わるく、我々は、次の日のコンタクトに成功しませんでした。ハムの技術者は、最初に出発しました、そして、我々は彼を追う予定でした。しかし、彼の車の後を追おうとしたとき、たくさんのトラックにぶつかりました、そして、我々は彼を見失いました。

彼は、道路の左側を走りました。しかし運わるく、彼が乗る車が見えませんでした。我々は、たびたび彼を見つけようと試みましたが、できませんでした。我々すべてがその日の夕方遅くふたたび帰ったとき、空飛ぶ円盤の人々とのラジオ通信に再び成功した。プランが変えられた、しかしすべてが用意ができたとき、「ある人」から問い合わせがあるだろうと言いました。私は、何を彼らが意味したかを知りませんでした、しかし、それは彼らが言ったことです。

今、私は、あなたがこの方法のすべてに驚くことを知っています。砂漠で金星人と話し、短波ラジオによって空飛ぶ円盤と話をすることは、とても面白い出来事です、しかし、物語が終わったときと、および興奮が静まったときに、それは本当に何を意味しますか？それは、ちょうど、道にまよった金星人が砂漠で偶然人の中に落ちてきて、人と語って離陸したというだけのことです。そして、それがそのことで終りなら、多くを意味しません。

全世界の人々は、何をそれが意味するかとたずねています。もし空飛ぶ円盤が地球外の物なら、そして、彼れらがここに来たとしても、我々に何を意味します？

我々を征服するために、すべては、全滅させられる予定ですか？なぜ彼らは来たか。我々は、あらゆる種類の質問をしました。

彼女が薬に興味があるので、質問の1つは、私の妻によっていました：「あなたは、この宇宙船などの恐ろしい開発を医学でもおこなったのですか？」

彼らが答えました

No です”。 ”

我々を驚かすことが言われました：

「それはそう思えません。あなたは宇宙船を持っています、しかし、医学で進歩していない？なぜですか？」

答えは：「いかなる病気の要素もなく、それで医学はない」。

彼らは、また、人が癌あるいは他の病気の激しい苦痛で死ぬことは自然でない、および我々が持っている病原菌が原因で病気を引き起こすのではないと言いました。病原菌は、単に腐肉を常食とする生物です、そして、病気が起こるということが、不正確な思考です。

我々は、その他の惑星で命の長さについて尋ねました。彼らは、火星、あるいは金星の、住民が300～1500年、生き続けていて、惑星でのレッスンを学んで次の段階にいくまで生きていると答えました。

私を信じてください。空飛ぶ円盤の出来事は幻想的です。しかし生きていること自身が幻想的ではないでしょうか。我々がここで生きているという事実が幻想的です。事実は

小説よりも奇なり、そして、我々は、オープンな姿勢で臨まなくてははいけません。我々は、単に今を知るものは明日を知るものの青ざめた影であることを理解します。コロンブスの生涯においてスペインの裁判所で出合った学者たちを思い出して下さい!すばらしい科学者は科学全般についてすべて知っているはずだと思われたという理由で、コロンブスは、3年以上へ出発が延期されました。彼れらは、全く地球が平らだと確信していました、しかし、もちろん、今我々は、それが真実でないことを知っています。その学者たちは、この地球の古代人が地球が丸かったことを完全に知っていたことを知っているべきでした。宇宙人の先祖は、また、他の惑星に住んだことを知っていました。これらの宇宙人が我々に話していることは、実は新しいことではありません。それは、単に我々にとって新しいだけです。老人たちの言葉を思い出して下さい「太陽の下にどのような新しいものもありません」

不思議な気候、竜巻、etc について多くの話があったので、我々の原子爆弾の実験について尋ねました。彼らは、「はい」といいました、我々の原子爆弾の実験をきわめて心配していました。自然の異変の原因をわれわれがつくったと私には思えます。原子爆弾が爆発させられた3日後に、我々は、約1,200人を殺したトルコ地震が起きました。原子爆弾の爆発は、我々の地球を振って混ぜて、いくらかこれらの物事の原因になります。我々の天文学者さえも、大きい太陽スポットが太陽に現れると話します、(原子爆弾が爆発したとき9000万マイル以上離れている)。もしそれが遠く離れた太陽や、多くの距離がはなれたものにさえ影響を及ぼすのであれば、爆発がトルコ災害に貢献したと仮定することは、論理的です。これらの人々は、我々の原子爆弾を心配します、しかし、彼れらの主な懸念は、我々の原子爆弾ではありません。

彼れらは、我々の太陽系全体が宇宙の新しいエリアに移動していることから宇宙線の放射が速い割合で増すだろうと言います。近ごろ、有名なアメリカ人の物理学者は、電子量および宇宙線の放射が、恐ろしい割合で加速的に増加しているが、現在の理論ではそれを説明できないと科学の世界で発表した。

彼は警報を出した。

彼の仕事は、新聞には報道されなかった。それは、ほんの少しの科学雑誌で報道されましたが、ただちに上部機関に沈黙させられました。しかし-科学雑誌のニュース・レター--のバックナンバーをのぞいて見れば、記事を見るでしょう。それが発表される前に、宇宙人は、これについて話しました。

彼らが我々に話したもう一つのことは、月とある特別の衛星のことでした。それは近ごろ発表されました、しかし、私は、偶然何人かの人々が2年以上前にこの現象を調査していたことを知っています。

実際は、我々の政府は、我々から2マイル離れたローウェル観測所で我々が北アリゾナ

で宇宙人とのラジオ通信をしていたときに、調査していました。

今回の通信で、空飛ぶ円盤の彼らは、ローウェル観測所のことを話し、地球の引力のフィールドに 2つの衛星、あるいは人工の宇宙ステーションを置き、100万ドル以上相当の電子装置を火星の丘の上に設置したことを知った。

この調査は、ただ1人の秘密ではなく、ワシントン解説者、フランク エドワーズのニュース番組で話し、いくつかの科学雑誌などで詳しく書かれました。しかし、これらの宇宙ステーションだけは、発表されませんでした。私は、それらがロシアの宇宙ステーションでなくアメリカに属するものでもないと述べることができます。それらは、急速に移動するため望遠鏡によっては観測できません。電子装置によって観測することが出来ます。

宇宙人は、我々が宇宙のこの新しいエリアに移動するのでいくつかのとても不思議な物事が肉体と心と、そして魂をもつ体に起こると言いました。

人々の心が、まずは変わる予定です。また、竜巻、および地震があるでしょう。最近の歴史で活動的だったことがない火山は、活動的になって噴火するでしょう。たぶんアラスカ、および太平洋が今に活動的になるでしょう。この写真がたぶん一部分発表されるということです。あなたの新聞のニュースの小さいコーナーを見て下さい。あなた自身でこの傾向を確かめてください。

イオニア諸島の災害は、3つの地球の主要な断層線が集まる地中海のエリアより上でした。

また、数年前に大きい爆発がシアトル全域で感じられましたが、その時緑色の火の玉が爆発してすさまじい反響を引き起こして、シアトルを越えてワシントンでも感じられた。シアトルは、3つの地球の主要な断層線が集まるエリアよりまた上です。

これらの空飛ぶ円盤は、宇宙で多くの異なる場所から来ていています。人がこの地球上で受け入れることができる唯一のことは、空飛ぶ円盤の機械的なデバイスといったフィジカル現象であり、さらにその時がきても世界のある人々は空飛ぶ円盤のことを笑うでしょう。

ちなみに、我々は、これらの宇宙船が鳴り響く電磁石の磁界で働くと言われました。彼れらは、我々がまだ宇宙の第4学年の最初の力を発見しないでいると言います。彼れらが使っているものは我々自身の惑星にある、宇宙船を作れるの力と、同じ力です。すべての天体は、鳴り響いている電磁石の磁界で働きます。小型宇宙船は、互いに反対の回転している車を持っています。彼れらは、惑星間の兄弟の援助によってこのパワーがまた我々地球のものになる時代に来ていていると言います。

宇宙人の言葉についてですが。我々のように食べない宇宙人がいます、そして、発音の機関を持たない人たちがいます、しかし、彼れらはコミュニケーションのためにテレパシーを使います。

なぜあなたに、これらの人々のことを言う必要があるかを話させてください：

人はどこから来て何のためにどこへ行こうとするのか。

彼らは、頭と2つの足、2つの手、および2つの目があるという理由で、あるいは人間は猿から進化したという理解では、人は人ではないと言います。

人がスピリチュアルな存在であるがゆえに、人は、宇宙のなかに実在し、宇宙の中に住みそして、宇宙人もまた楽しみと-苦痛をともに味わうレッスンを経験しているフィジカルな肉体と乗り物をもつ存在である。

我々は、地球を学校にたとえることができる。もしあなたがこの地球を越えて前進したら、最初の学年にもどって、すでに学び終えたことの邪魔をしないでしょ。宇宙人もまた、我々の前進的な学習の邪魔をしないでしょ。

彼らは、我々が成功するまで、または、この地球で我々が受ける必要のあるレッスンを学び終えるまでこの惑星を外れる予定はないと言っています。

彼らは、キリストの言葉をこれにたとえます：「私の父の家には、多くの邸宅があります」。宇宙で、多くの惑星があります、そして、彼らは、それらのすべてが「生命」によって住まわれていると言います。これらの経験を持った後に、私は聖書、および他の多くの神話をあらためて読み直し、宇宙人によって言われた事を思い返しました。ヘブライ人は、言います：「世界は、神の言葉によって組み立てられた」。「世界」が複数であることに注意してください。

いくらかの天文の理論はどうでしょう？それが数学に基づくという理由で、天文学は、純粋な、また真実の科学として知られています。我々のほとんどが在学中だったときに、天文学者は、惑星ジュピターの大気は致死的なメタン、およびアンモニア・ガスを含んでいると言いました。近ごろ、彼らは、科学雑誌を通して100パーセント間違っていたことを発表しました、ジュピターは水素です。

もし1つのことが100パーセント不正確なら、他のことについても同じ不正確さがあるかもしれません。

今までに多くの新聞に発表されたのでご存知でしょうが、アンドロメダおよびその他の銀河への距離が以前に発表された2倍の距離だということに気づきました。ふたたび、彼らは100パーセント間違っていました。彼らが思ったより、それは2倍遠かったのです！

これは、コロンブスの一生にあったことと同じような状況です。

地球が平らだと言った、コロンブスの時代の科学者は、疑いなく同程度に重要人物でした；、彼らは、すばらしい当時の心を表しました。今日の間違いよりも、明日の真実が、基礎とされます。

宇宙人は、すべての惑星に生命があり、人が住んでいると言います。彼は、彗星が形成中の惑星だと言います。

それは今の最新の天文学の理論の1つです。

彼らは、太陽から分かれた理論や、微小惑星体の仮説を否定しています。

最新の理論は、丘の下へ雪のたまを転がすようにだんだん大きくなって、惑星および他の天体が宇宙塵の集積で形づくられるということです。

彗星は何百万もの年の後、惑星になり、土着の単細胞生命が生まれ植物、etc が現れる。

また、惑星には、人の命の発生の用意ができています、または、教室が完全に用意されたときに、魂をもった人の命が、宇宙の上からやってきます。

つまり、これら宇宙人が言っていることは、彼らがあなたの兄弟であり姉であり、彼らと異なる創造物ではないということです。我々が存在する唯一の理由は、我々がこの特定の教室でレッスンを受けているということです。彼らが火星、あるいは金星にいる理由は、彼らが我々の学年を卒業したという理由です。彼らは、いかなる基礎的な違いもないと言います、生命は、地球惑星の始めに宇宙から来ました。アダム、およびイブの創世紀の物語は、真実ですが、寓意です。

あなたもみんなも、「宇宙飛行士」です。我々は、地下に生きているのではなく、惑星の表面で暮らします、したがって、火星の民族が「宇宙人」であると同じ理由で、我々はすべて宇宙人です。我々は、宇宙船をもっていません。我々は、惑星から惑星へ旅行しません、しかし、我々は宇宙人です。

近ごろ、世界の最先端の地理学者の1人のフィンランドの教授が、腐蝕土を形づくるすべての地球のバクテリアが急速な割合で死んでいるということに気づいたと発表した。腐蝕土を作り出すのに、約9千年を要します、そして、もしそれが再び増殖しなければ、約2年で腐植土は減少するでしょう。我々の地球でこれは凶作の意味します。これを止めるいかなる方法も知られていません。それは、増大する宇宙線の放射のために死に続けます。これらの事は絶対の事実です、そして、宇宙人はそれをチェックすることができます。・

空飛ぶ円盤の人たちは、短波通信によって、あなたがたが誰のいうことを信ずるかは重要でないと話しました。真実それが起こる予定であるという理由で。私はいつも信じていると。

Francis Bacon は言いました：「真実は、時間の娘です(権威ではない)」。いいたいことが隠れるところに、真実は、とても速く死ぬでしょう、そして、真実の語られる予定もないことは、とても被害をあたえる。しかし、僅かのチャンスで、1人の命とすべてが変わるという理由で、真実があることは、とても重要です。私の命は、宇宙人との通信で完全に変えられました。私は、この通信での新しい知識に照らして正しくないという理由で、学校で学んだものの大部分を否定する必要がありました。

イングランドの若い天文学者ジョン・ロビンソンは、我々の地球が70マイル上空に純

粋な水素の層があると発表して多くの年を取った天文学者を狼狽させた。つまり、もしあなたが火星に住んで、分光器で地球をよく調べたら、それが大気が水素であるという理由で、天国の名前に関係ある命あるものは地球で暮らすことができいと言うでしょう。しかし、すべての命、酸素、水、蒸気、etc が我々地球惑星の表面近くに見けられるます。そして、木星も水素で覆われていると、私が言うように、発表されました;本当に誰も、木星で暮らすことができないのでしょうか?

.

もう一つ問題は、何人かの天文学者がこれらの星のすばらしい権威であるということです。

いわゆる天体物理学者は、これらの星がこうしたものと言います。

近ごろ、有名な天文学者は、ジュピターの核が明らかに堅いと発表しました。

我々の地質学者が地球のコアが堅いかどうかに関してまだ質問と討論をしているときに、どのようにそれを知ることができたのでしょうか?

我々は、足の下の惑星の性質をまだ知りません。

したがって、数百万かける何百万マイル離れた木星の何かを知ることができますか? 分光器と木星の間にはあらゆる種類の宇宙の碎片の山が浮いていて、何百万マイルの距離があります。それが、分光器で木星のデーターを読む時、おなじ時間の同じ分光器がまったく異なる数値を読み取る理由だ。それはまったく正確ではありません。

私が前に言ったように、宇宙人は、すべての惑星に住んでいる。そして我々の太陽系(そして9ではない)に12の惑星があると言います。もちろん、12は、我々の象徴学および我々の歴史で重要です;例えば、12人の使徒、12ヶ月、12は、黄道帯、etc にサインします。彼らは、冥王星を越えた1つの惑星、および水星、および太陽の間にさらに2つの惑星があると言います。これらの1つは、今まで1800年の後半に太陽の表面に目に見えて、バルカンと呼ばれました、しかし、それは、ほとんどの科学の世界によって受け入れられませんでした。我々がした通信は、火星、ビーナス、ジュピター、および土星の人々とたいがいは一緒でした。彼らは、土星が我々の太陽系の裁判所、あるいは本部だと言います。

宇宙人がエーテルかどうかに関して多くの議論が今まであります。 彼らは他の次元の目に見えない世界からですか

または、彼らは別の世界と別の次元のからきた不可視の存在であり肉体をもたない精霊ですか?つまり、死んでから、我々は、単に、もう一つの次元、別世界になるのですか? 空飛ぶ円盤は現実に存在するですか?彼らはわれわれと同じように体を持った、火星といった別のシステムの惑星の3次元の存在ですか?すべてのこれらの考えは、ほとんどそのとおりです。

空飛ぶ円盤は、多くの異なる場所から来ていています；
我々自身の太陽系と、我々自身の次元にある他の太陽系と、そしてより高い次元からも来ています。
彼らは、現在の時空間で、51の太陽系があり、現在、地球を取り巻いて3-1200万隻の宇宙船がいるはずだと主張します。

彼らは、はっきりしたプランに従って進めています。
彼らは、地球の至る所にエージェントがいると言います。
これらはいくつかのグループに入ります。
彼らは、1800個の宇宙船によって他の星から地球への人々の流入があったと言います。

いろいろな図書館の新聞記事のマイクロフィルムは、この期間に大気で見られた莫大な宇宙船の話を記録しています。
我々の惑星の表面に住む、地球起源でないもう一つのグループは約1000万人から構成されている。アメリカ合衆国に今これらのうちの約600万がおります。

通信したグループは、空飛ぶ円盤から降りませんでした。
彼らは、転生の循環を通してここにいます、そして、約1947の空飛ぶ円盤の存在を伝えるプログラムがスタートしたことは、他の惑星で元来は暮らしたという事実に人々を目ざめさせるためでした。
空飛ぶ円盤は、あるはっきりとした仕事をするために、ここに 着陸しています。
これら宇宙人は、永久に我々の中にいません。彼らは、短期間ここにいるだけです。彼らは、宇宙人であり、また、地球の我々が過去50年間に前の1万年よりも、はるかに前進した理由が宇宙からの、このアシスタンスの援助のためであると言います。

彼らは、またある人々が地球から他の惑星へ連れていかれるだろうと言いました。しかし、彼らの惑星にいったなら、この地球上の完全でない人々の心に悪い影響をあたえるという単純な理由で連れて行けない人たちがいるでしょう。しかし、ある人々は、今連れていかれています、そして、彼らは、そこで教えられて教師としてもどされるでしょう。

私は、どんな教会を代表するわけでもなく、ただそれをクリアなものにしたいだけです、または、どんな特定のグループ、および私の意見も、重要ではありません；私は、

単に、宇宙人々によって伝えられたものを繰り返すのみです。彼らは、命は永遠です、そして、キリストが地球惑星の担当だと言います。空飛ぶ円盤の人々は地球に来ることが予言された「主」です。キリストの再来です。彼らは、キリストが再来すること、および審判があることが真実だと言います。地震、etc があるでしょう。ある、地球の魂は彼らによって新しい段階に進みました

新しい段階の成長に適さない者は、ほかのところで行くでしょう。

彼らは、成長するもののみが地球上に残ると単に言います、(発達変化するものである)。審判についていえば、「審判」は、単に我々自身の開発です。いくらかの人は、新しいより高い振動に住むことができるでしょう、そして、いくらかの人はしません。すべては、しかしながら、彼れらの成長に最適な「学校」に着地するでしょう。

それは、宇宙から今の我々の惑星への恐ろしいほどの関心です。これらの人々は、彼らが神であるべきでないと主張します、彼らは、ただ少し我々より進んでいるだけです、そして、彼らは、まだ十分、ミスをします。我々は、1950に核エネルギーを発見するでしょう、しかし、40年代に起こった技術的な進歩のスピードと我々の第2の世界大戦を考えました。彼らは、我々の全体のシステムが終わる必要があります、新しい振動率の地球上の宇宙の新しいシステムにうまれかわるべきであること確信していたと言いました。

彼らは、この教室に降りて我々が学んでいることを止めて我々の感覚に口出しをする予定はありません。我々の何人かが神自身はなぜ慈悲を働かしてくれないのか不思議に思う今、**彼らははこの地球で戦争を止めませんでした**。または、我々は、宇宙人がとても壮大で、またパワフルなら、戦争を止めないのか不思議に思います。それは戦うこと経験をする必要のある魂があるという理由です、そして、地球の人間が戦争で爆破された後の魂の約2万回分は、ついにこうしたことがすべてばからしいことであることを理解します。

これらの人々は、戦争を見ることが好きではありません、彼らは、戦争で我々の若さが破壊されるのを見ることが好きではありません、そして、我々のよい達成の多くは、破壊されました。しかし、同時に、我々がすることの中に、死を見ません。彼らは命が永遠であると主張します。そして、それゆえに、もしあなたが1つの肉体を脱ぎ捨てても、永久に生きているという理由で、死は、それほど重要ではありません。戦場で我々の少年が死ぬのを見るときに、彼らは、それが死でないことを理解します。それにも関わらず、

新しい人々が年をとるころには、この惑星で結局、すべての戦争の永久の終りを見るだろう、と我々に話します。

.

彼らは、また、我々が宇宙のこのセクションで唯一の戦っている惑星だと言います。我々は、戦争がある唯一の惑星ではありません、しかし、宇宙のこのセクションで、我々は、唯一の戦っている惑星なのです。

あなたにたとえを話しました。ある人が軸をもった車輪を発明した。しかし、その軸にワックスを塗らないために早く回転しなかった。それで、その人間は、まだ棍棒をもって走り回る冷えた惑星である。それはよく起こることです、そして、私は、このことの全体が循環だと付け加えるでしょう。我々は完全さへ進んでいます、しかし、我々は、宇宙のこのセクションで最も低い開発の惑星です。つまり、我々は、とても壮大な文化をもっていると思いました、しかし、我々はそうではありません—我々は、ごみ箱よりももっと下にあるようです！

私はシンシナティのレクチャーので、私は、この地球のシステムを「ごみ箱」と呼びました。1人の女性がこれを信じるのができたと言いました、しかし彼女は、すべての創造分野においてアメリカ合衆国にあるよりも優れたものを持つことができたと思えることができませんでした！、確かにそれはとても十分にすばらしいものです、そして、私は、私がアメリカ合衆国市民であることを誇りに思います、

私は我々の達成と開発を誇りに思います、しかし、我々は、事実を直視する必要があります。とにかく、彼女は、ごみ箱という表現が好きではありませんでした！もう一つの女性は、私に、宇宙人は地球を地獄だと言ったのかとたずねました。私は、彼女に、彼らの言いたいことはこれだと言いました：我々は、今その地獄の中にいます！

我々が金星人に、宇宙人の世界が天国のように聞こえたと話した時でした。彼らは、まだ未開発のままであるから、そういつてはいけない、6兆年先行している惑星を知っているとしました。彼らは、人間は必ずしも我々が今知っている形態を取らないと言いました。これはとても幻想的ですが私を信じてください。我々に言われたまま、私はここで話すだけです。

宇宙人さえ、それを完全に理解することはできないが、幾何学的な人間の世界を知っているとしました。共に、可能なら、立方体、あるいは三角形の人間を想像して下さい！それは、ちょっと我々の理解を越えています。聖書が言うように：「目は見ませんでした、また、耳は。父が我々のために店に入るか聞きませんでした」。宇宙人は、これが真実だと言います。この惑星で、我々は、ある肉体の形態を持っています。魂がこもった存在としての我々は、この特定の惑星が提供する必要があるレッスンを学ぶために、このフォームを取りました。

主要な断層線は、地球を覆っています。政府が原子爆弾を爆発させる地点をニューメキシコの、西南の地点に決めれば、断層線はほんのすこし動かされるでしょう。運わるく、これらの実験は、ちょうど2つの主要な断層線の上で爆発させられました。

3月25日ごろに太平洋で大きい原子爆弾のテストを行い、およそ1日後(に)、ハワイ諸島で、すごい地震が起きました。原子爆弾は、危険な条件を引き起こすことでなく、原子爆弾がすでに危ない状況を目立たせること、および、原子爆弾の実験によって我々の断層線の張りのストレスへの弱さが、目に付いたということです。原子爆弾の実験は小さい亀裂を、より弱いものにするかもしれません、そして、この全体に起こることを見近なグラウンドや、離れた場所に見つけるかもしれない。

大被害があるでしょう。実際は、これらはすでにスタートしました。地震は増大するでしょう、ある地帯は崩壊するでしょう。南極と北極の氷山は、とても速い割合で溶けはじめて、これが近ごろ遠く離れたフロリダに氷山が見られた理由なのだと思います。また、ヨーロッパで村全体を埋めた雪崩が起きました。雪は、とても速く溶けています。流氷は、北ヨーロッパの港で数ヶ月前に起きました。船が港の中にまたは外へ出入りすることができないほど動きを妨げた。

宇宙人によると、世界は、終わりにならない。世界は終わらないでしょう。むしろ我々地球の人間たちが、かつて知っていた真実の黄金時代が再び来るだろうということです。一歴史家がすべての人がエンゼルと話す能力を持った黄金時代というあの時代です。

病気はもはや存在しないでしょう。戦争は、もはや我々を疫病にかかせないでしょう。彼らは、また、我々の命が永遠であることをはっきり言います。彼らは、我々が信じる創造者としての同じ神を信ずると言います、しかし、彼らはまた言いました：「あなたがたは、行為によってではなく、言葉によって崇拝するだけだ」

宇宙人が話すときに、どの国も、民族も、教会に対しても差別的な考えで決して話しません。我々のことを話すときに、彼らは、完全性をもつ人間として、地球の人々のことを話します―彼らは、世界中のみんなに興味があります。

ある人々は、宗教がこの問題からはずされるべきだと示唆します。しかし、どのようにあなたは宗教を残すことができるか。それは結合されなければいけません。多くの、モルモン教徒、オスピウム、クリスチャンサイエンスの一員、あるいは他のある種の狂信者のような人が、私の言うことが教会で学んだ事と同じだと言うでしょう。すべての宗教は、いくらかの真実を持っています。宇宙人は、我々に、神が真実を手渡した、しかし人間が分離させたと話しました。我々はいつも分離させられています。それが、我々がとても多くの教会、および多数の哲学を持っている理由だ。

長い間、科学は、宗教から見ると右端にいて、しかしだんだんと一緒に交わる年月を通して、左側、および宗教のほうに近寄ってきました。真実は真実を否定することができますか?真実よりも高い、いかなる宗教ありません。そして、科学は、いくらか真実を持っています、そして、宗教がいくらか、同じ真実を持っていれば、その真実はそれ自身を否定することはできません。私は、科学者が宗教の真実を、そして、狂信者が科学の真実を互いに認めなくてはいいけないと感じています。 たぶん、我々の心中で共にそれらを溶かすような大きな爆発が必要になるでしょう。しかし、宇宙人の心の中では、すでに1つです。実際は、彼らは、どこでそれが見つけられても、真実が真実を否定しないという理由で、いつも1つでした。 彼らは、また、我々に、新しい宇宙線放射のもとで、すべての虚偽、および悪ふざけが亡くなるだろうと話しました。我々は、驚く必要がないでしょう、真実のみが出てくるだけです。我々は知るでしょう!これは、起こるだろう心の変化の1つです。新聞を見ていて下さい、あなたは、多くの物事が暴露されるのをみるでしょう。あなたは、それを水瓶座から来る真実の光と呼ぶことができます、あなたは、それを新しい波動、あるいは新しい密度と呼ぶことができます、または、それを新しい次元、あるいは新しい黄金時代と呼ぶことができます。最新(最後)の年の没落で、我々は、古い第3の密度を脱ぎ捨てました、そして、我々は、そのなかに、もはやいません。我々は、今、移り変わる段階にきています、あるいは新しい次元の始めの、あるいは新しい密度に変っています。ゆっくり変化が来ているので、我々は、十分にはそれに気づきません。多くの人々は、我々が魚座から水瓶座へ行くと言います。これら宇宙人は、ここで我々を手伝って、この新しい次元へ案内する予定です ―この新時代へ我々を案内します。 我々の抵抗にもかかわらず、新時代が来るのです。 人々は、何が将来起こる予定かあれこれ考えています。宇宙人は、我々の教育の邪魔をしないと言いました、しかし、否定する資格はあります。それは、否定かもしれません、しかし、私は、それについて明確にするよう試みるでしょう。もし我々が原子爆弾で戦争

をしようとすれば、彼らは結局妨害するでしょう。もし我々が平和な「ワンワールド」を作ろうとすれば、この地球上に降りてきて我々ニューエイジを手伝うでしょう。もし地球の魂のレッスンが必要であるという理由で我々が積極的に戦争を進め、ある長さの戦争を自由にやることを決めれば、妨害をするでしょう、というのも、我々の惑星は、建設的で平和でなければいけないし、破壊されてはいけません、あるとき彼らが言いました。：「地球を征服するつもりだが愛をもって地球を征服するために、我々はここにいます」。大きな疑問はこれらのことがいつ起こるのかということです。我々は繰り返して質問しました。我々へのラジオ・メッセージは、何回も言いました。：

「とてもはやく、一すぐに、一すぐに」。

我々は返事をしました：「でも、あなたの10,000年も、すぐにです。すぐにはどれくらいの長さだかおしえてください?」

彼らは答えました：「我々がすぐという意味は、あなたたちがすぐと言うことと同じ意味だと考えて下さい!」 気短な人にとってもそれはとても速いということです。！私が皆様に話したことを信じるかどうかは、重要ではありません。しかし、上空を見守って下さい。オープンな姿勢でこのことを自分で調査し重大な関心をもって下さい。我々は、実際に、この地球は新しい時代に入っています! 私は、とても皆様と話すことがうれしく、皆様すべてとお知りあいになりたくおもっています。 Thank you!

コンタクティ、ジョージ・ハント・ウィリアムソンについて

アレック・Hidel による調査

ジョージ・ハント・ウィリアムソンは、1950 年代時代のアダムスキーと金星人 (UFO Space Brother) とのカーニバルの、宣伝マンであったが、含蓄ある UFO 学だけでなく神秘主義オカルティスでありまた、伝説的な「インディ・ジョーンズ」のような一匹狼の考古学者であった。

——要旨と抜粋：——

「UFO 研究者だけとして単に彼を見ることは、重大な誤りである。
全てのオカルティストの上において、空飛ぶ円盤と彼らオカルティストの新しい魔術的活動との取次役として彼はいた。」

「それは計画と偶然とによって、動いたことは疑えない。そして、ウィリアムソンのたくさんの、多彩な協力者の全てがニュー・エイジの考えを形づくった。
彼らは戦後のオカルティストのなかで重要な一つのグループを成した。
彼らの影響は、それがあまり認められないか、他の研究者の、フィールドの中に知られなかったという事実によって注目に値する。」

「Pelley、そして、アダムスキー。..Hunrath、そして、Laughead 兄弟、John Mc Coy とスタンフォード、これらの人々の入り組んだ人生によって、現代の UFO 神話の最初の成長が始まり形づくられた。」

1950 年代は、宇宙時代の神話と救い主の数々（前のものより頭の変な）が踊り出た。
60 年代の比較的初期の時代に、1986 に死んだアメリカのチャネラー George Hunt Williamson 博士は、これらの中で最も早く、そして、最も影響力があった。
ウィリアムソンは、地球外文明との交流のテーマで多くの作品を書いた作家であった。
UFO 研究者だけとして単に彼を分類することは、重大な誤りである。
全てのオカルティステより上に、彼の活動はあり、新しい永遠的なマジシャンの（永遠の Flying Saucer の）案内役となって助けた。
この事実が最初に考慮に入れられない限り、彼の仕事をわけることができない。
ほとんど何も、ウィリアムソンの人生は知られていない。
Messengers Of Deception でジャック Vallee は彼の本当の名前がマイケル d オブレノヴィッチであったという。
この誤報は、UFO 調査の初期にいくつかの記事で繰り返された。

写真複写された、雑誌「コンタクティ運動」(未知のソース)の参考文献の閉じ込みに述べられている。「大部分の彼の執筆が英国風にされたウィリアムソンという名前の下で発表されたが、[マイケル d'Obrenovic という彼のユーゴスラヴィアの名前があると。

実際は、ウィリアムソンはイリノイ州クック郡、シカゴ、でジョージと Bernice (Hunt) の 2 人の息子を生んだ。

ユーゴスラビアの政府への問合せで d'Obrenovic という名前をつけられる家族が一時はあったが、ずいぶん昔、1903 年くらいに廃絶されたことが分かった。それは、革命家によって暗殺された。

ウィリアムソンが使用したその名前は完全に偽名だったようだ。それは彼が H.R.H.Prince マイケル d'Obrenovic van Lazar (Sumadya のデューク) のような顔をして結婚式に出席した、1961 年にさかのぼる。

彼はさらに彼自身の晩年にも、いつも通りにマビューズ博士のように変装と偽名を使用した。

ウィリアムソンのアカデミックな資格は、すべて偽だった。

後期の 1950 年代に、彼はアメリカの名士録にインディアンズのホピ族とズーニ族を研究する主要な人類学者の権威者としてリストされた。

後に彼はさまざまな資格を自分で授与した。、1 つの顕著なケースには、サンフランシスコ・グレート・ウェスタン大学として知られている機関から得られたというのがそんな事実はまったくない。そして、研究者ジョン J.Robinson は Saucer News でそれを「マッサージ・パーラーと書きたくなるほどであった。」

ウィリアムソンの正規の教育は 1951 年 2 月に実際に終わった。アリゾナ大学は彼の更なる研究は学力の問題から不適合とした。

かれは再登録することを潔しとせず、彼はその代わりに一時、(インディアナの) Noblesville へ移った、そして、ソウルクラフトオルガニゼーション (ウィリアム・ダドリー Pelley のハウスジャーナル) の編集者の地位をバローとともに得た。

Pelley は、その時、ルーズベルトへの戦争反対行為のため 8 年の奉仕義務契約期間を果たした後に刑務所から最近自由にされ、命の新しい開放を楽しんでいた。

彼は元ファシストや、銀シャツ党のリーダー、32 章に編集された高い知性との自動筆記によるコンタクトなどオカルトの問題に対する不変の関心があった。

ウィリアムソンに加えて、彼の戦後のサークルは、含蓄のあるコンタクトマン、ジョージ・アダムスキーなど同じような種類の人間が加わっていたと思われる。

ある事情通は、ガイ・バラードの I AM カルトに対する Pelley とアダムスキーの相互の関心の結果が知り合うきっかけであったと示唆する。

Pelley がウィリアムソンをアダムスキーに紹介したかもしれないことを示唆する証拠が、ある。

多くの UFO ファンのように、ウィリアムソンは後にアリゾナ州南西部の Prescott に引き

つけられ、ラジオ電信と直接の声によって宇宙人と連絡をとる試みをする。

調査者ショーン Devney の状況の目撃者の一致した言によれば、「ウィリアムソンがチャンネルをはじめたとき、それは幾分本当に不可解だった。

[彼は直後に他の人に何人かの異なる声で話し始める。]

1952 年 11 月 20 日の Palomar 山（カリフォルニア）の近くの砂漠での、ジョージ・アダムスキーの金星人オーソンとの歴史的な最初の出会いの目撃者の中にウィリアムソンと彼の妻ベティはいた。

この出来事は、彼の他の活動に触媒作用を及ぼしたようである。

その時から、高速ギアに変わってそれを追いかけた。1954 年に *The Saucers Speak* を発表し、それに続いて今までで最も注目に値する UFO 文書をかきつづけた。

ほとんど知られていないが、影響力があるもう一つの UFO cultist は、チャールズ Laughead 博士であった、--彼はまた、ロッキード航空機会社を設立したと言われた--Laughead の英国風にされた名前で、彼の妻リリアンと一緒に、1957 年にウィリアムソンの「Transcripts」を出版した。

（リリアン Laughead は、ウィリアムソンが *Other Tongues, Other Flesh* を書く際、金星人「砂漠の足跡のレムリアによる解釈に対して彼女がひたむきに貢献した）

Laughead は、ジョージ・アダムスキー、や他と同じ疑似神秘的な背景から現れたと考えられる。

1949-1950 に、彼は有名なマリオン・ドロシー・マーティン（別名「Keech 夫人」）を助けるためにミシガン州立大学の職をあきらめた。そして、世界の終わりが差し迫っていると宇宙人によって話されたといった。

次に、「予言が外れるとき」として話されたものの全文である (Festinger, Reicken, Schacter, そして、ミネソタ大学 1956)。

その事での Laughead の役割は、基本的にエージェントであった。

彼なしではことが進行したどうか疑わしい。

彼は、「アームストロング博士として *When Prophecy Fails* 「予言が外れるとき」で言及される。

Keech 夫人との彼の努力は Thurber の「備える人」と同類だった。そして、その人は「世界の終わりに備えるためメガホンによって人々に警告した。」

定められた時間がいきつ戻りつして、時と世界が前の通りに続いた。、Laughead は他に進んで、Acambaro（メキシコ）のホテルで偶然 Andrija Puharich 博士に会った。

Puharich は Laughead と彼の妻の印象を記録する。そして、「素敵であるが、素朴な人々であると書いている。」

、Laughead はそのような環境で理解ある M.D.に会ったことを喜んで、直ちにジョージ・ハント・ウィリアムソンと彼との仕事の記録報告を急いで始めた：

「非常にすばらしいチャネラーまたは霊媒である青年の助けによって、我々の南アメリカ

の古代の神秘学の学校の1つで、1年以上、頻繁なコミュニケーションがあった。

科学と宗教と、この惑星の古代史、生命の起源の問題へと、広範囲にわたる主題にこのセッションは言及した。

この **Brotherhood** は、宇宙船の知性と、他の惑星のシステムとの接触のためのコミュニケーション・センターとして役に立つ。

これらの知性の一部は、明らかに人間でない。

彼らの知識と知恵は、我々の理解をはるかに上回る。

単純化するために、我々は **Space Beings** または **Space Brothers** として彼らに言及した…」

Puharich はこうしたことに初めは全く問題を感じないようだった。そして、空想の飛躍に疑いを見なかった。

後に、メインの円卓財団で彼の調査を続けるために帰ると、彼は2つのスペース・メッセージ（「各々異なるチャネルからの」）を含んだ **Laughead** からの手紙を受け取った。」

カーボン紙の自己更新した超常的な経験と共に、彼の心は変わっていった。そして、**Uri** ゲラーとの後半生で書くことになる **Spectra/Hoova** との通信のための、基礎が置かれた。

Spectra (**Uri** ゲラーを通して通信すると言われているタカの頭の実在) の **Puharich** の追求は、青白い正統な科学を越えて効果的な位置に彼を置いた。

1970年代のほとんどの人々は、彼の法外な話を立証する準備ができていなかった。

立証しようとしたのはレイ・スタンフォードであった。そして、長年、彼自身被接触者のそばにいた。

1973の秋に、スタンフォードがゲラーにあう途中、約30のマイル（車と一緒に）の距離を **teleported** されたといった。

これは、2つ別々の機会に起こって、全てまじめにサウル・ポール **Sirag** に報告された。

ゲラーとスタンフォードのつながりの詳細については、ロバート・アントン・ウィルソンの **Cosmic Trigger** を読んでください。

多分 **Laughead** とウィリアムソンとスタンフォードは同じ環境から出ている。

初期の50年代を通して、双子の兄弟レックスは、テレパシーによるコミュニケーションを長く追求して **UFO** 事例に巻き込まれていった。

彼らの仲間のコンタクティのうちの1人はジョン・マッコイであった。そして、1958年に彼はウィリアムソンと **UFO Confidential** を共同執筆した。

マッコイは、多くの奇妙な新しい概念を **UFO** 調査に持ち込んだ。（特に「国際的な **Bankers**」のカルテルが1950年代のf発見の背後にあったという理論）の話をつくった。

（「国際的な **Bankers**」は、もちろん信念ある保守的なヘブライ人（ユダヤ人）を言う言葉である。）

よかれあしかれ、彼とウィリアムソンは、世界的に **UFO** 研究者の感受性に影響し続ける。

スタンフォード兄弟はその後別々の道に向かった。そして、各々選んだフィールドで有名になった。

レックスは広く超心理学者（ニューヨークのセントジョーンズ大学で最初の）として働いた、そして、レイは人間理解運動協会（AUM）を形成した。それはかなり典型的な Great White Brotherhood の準備機関であり、それ以後はテキサスの Parapsychological Research 超心理学研究センターの基礎となった。

本来のアダムスキー/ウィリアムソンのサークル他は、それほど幸運でなかった。

チャネラー・ウィルバー・ウィルキンソンとカール Hunrath（その人は 1953 年の後半、ウィリアムソンに協力した）は、地上に浮かんだ UFO と連絡をとるためにロサンゼルス Gardena 空港から出発した後、その年の 11 月に消えた。

彼らに賃貸された飛行機の跡は、決して見つけれなかった。

D.J. Carlsbad、カリフォルニア、アダムスキーの最も早い空飛ぶ円盤写真を処理した責任のある男の Detweiler は、その後まもなく死んだ。

ハル・ネルソン（Hunrath とウィリアムソンの同僚）は、おぼれ死んだ。そして、ウォール街の証券マン Lyman（雑誌 The Saucers Speak に書かれたコンタクト実験をしたハム無線通信士）[「密度」レベル、「光子ベルト」その他の概念を創始した。「Message From Our Space ブラザーズ Via Shortwave Radio」と称される 1954 年の非常に楽しいがばかげたのウィリアムソンの論文は言うまでもなく]。..

ウィリアムソンは、後で Hunrath が「オリオン Nebula の 6 つの太陽系の Blacks のために、代理人として働いていた」という意見を危険をおかして言った

彼自身の調査は終わらずにつづいた。そして、秘密の古代人の知識と神智学の文学がそれらを取り囲んだ。

それは間違いなく計画と偶然によって進行した。そして、莫大な役割を果たした彼と彼のいろいろな協力者が全てのその明示でニュー・エイジ考えを形づくる。

一緒に、彼らは一つの大部分の重要な神秘的なグループの戦後の時代を構成した。

彼らの影響は、あまり認められないか、この分野の研究者によって、知られさえしなかったという事実によっていっそう注目に値する。

50 年代が終わりに近づいて、ウィリアムソンは UFO 調査の活発な活動をやめて、代わりにアンデス山脈で修道院を設立した。

これに、数年彼の時間を費やした。

後で、彼はサンタバーバラ（カリフォルニア）に戻って、ネストリウス派の教会に属した。

常に、謎であった彼は 1986 に死んだ（終わりまで彼の秘密を保持して）。

ソウルクラフトグループとその分派と彼のかかわりあいの詳細は、現在、失われている。

サークルの他の人は、死んだか、ほうぼうに散った。

Pelley、そして、アダムスキー。..Hunrath と Laughead ...ジョン Mc Coy と兄弟... スタンフォードが現代の UFO 神話が最初に成長して、形になったときこれらの人のもつれ合った人生がそのなかにあった。

>From The Excluded Middle #3 私書箱 1077、ロサンゼルス、CA 90048

CloudRider@aol.com を通して

[ジョージ・ハント・ウィリアムソン]

Size: 作成される 13k のファイル:

1997 年 3 月 21 日

HERE TO HELP: UFOs AND THE SPACE BROTHERS



GERARD AARTSEN

Message from space:
Life is One, so live as one
.... or perish

Latent ipsum dolor sit amet, consectetur adipiscing elit. Cras vel purus a tortor sodales aliquam. Ut varius pulvinar est, a malesuada leo accumsan porta. Ut duell-ent consectetur leo, ac nulla velit suscipit ut. Quisque volutpat commodo venenatis. Aliquam pharetra nunc quis nec interdum libero. Prae-ut

Pellentesque ut tellus at libero ultrices sagittis et a purus. Vestibulum interdum, libero vulputate molestie pulvinar, erat risus mattis tortor, ultricies consequat eros sapien nec nunc. Arcu-ut del nulla, dignissim a vulputate risus, ultrices ut tellus. Suspendisse ornare velit ac tortor fringit aliquam. Nullam vulputate

HERE TO HELP: UFOs THE SPACE BROTHERS

スペースブラザーズは助けるためにここにいる：

GERARD AARTSEN ギアード アルテッセン著

スペースからのメッセージ：

生命は一体のもので、1 なるものとして生きている。....それができなければ死がある
： UFO と、スペースブラザーズは助けるためにここにいる、

同じ著者による本：

Our Elder Brothers Return - A History in Books (1875 — Present)

我々のブラザーズは帰ってきた一本にかかれたものの歴史 (1875 年から - 現在まで)

「スペースブラザーズのための使者 George Adamski」

「George Adamski - A Herald for the Space Brothers」

オンライン出版 www.biblioteca-ga.info

で発表されたー

著者は、info@bgapublications で連絡できるかもしれない！

UFO とスペースブラザーズ：助けるためにここにいる

「HERE TO HELP: UFOs AND THE SPACE BROTHERS」

GERARD AARTSEN 著

初版 2011 年 12 月に出版 2012 年三月に再版

著作権 c 2011 年 Gerard Aartsen、アムステルダム オランダ

Photo credits: Page vi:

フォトクレジット：vi ページ：

カメラマンまたは著作権所有者未知。

ページ 54、57 と 100-103：

カメラマンまたは著作権所有者未知。

UFO 研究のために、1958 と 1963 年に Alberto Perego の出版した本から転載される。

72 ページ :

Still photograph by Pablo Dessy from video footage by Monica Coli, c analuisacid.com.

Monica Coli (c analuisacid.com.) によるビデオ場面からの Pablo Dessy によるスチール写真

ページ 94-95 と 107 :

カメラマン不明。

Share International 誌からの許可で複製する。

ページ 58 と 120 :

カメラマンまたは著作権者 (s) 未知。

著作権

チェックの簡潔な引用を除いて、この本の部分は、版權所有者から書面による許諾なしで全く、いっさい複製されてはならない。

ISBN-13/EAN-13 :

978-90-815495-0-9 Published by BGA Publications, Amsterdam, the Netherlands.

www.bgapublications.nl Typeset in Calisto MT.

www.bgapublications.nl。

表紙デザイン : Jan Henkes.

表紙の写真 :

アルゼンチンの Mendoza の都市 Malargüe の近くの宇宙船

nlx Fernandez によって 2008 年 4 月上旬に写真が撮られた 7 枚のうちの 1 枚である。

この本は至る所にいるスペースブラザーズとシスターズの協力で書かれた。

2010 年 2 月 17 日にインド Madhya Pradesh Hoshangabad 地区の、Raisen の地元の管理のセンターの近くの密生したジャングルの中に深く隠された洞穴で、地球外生物と UFO を表現した有史以前の複雑な洞窟絵画が見つかったと、Rajasthan Times は報じた。

ベンジャミン・クレーム (シェア・インターナショナル誌、2010 年 6 月) から来ている情報によると

洞穴芸術は 40,000 年前に描かれ宇宙船・タイプの航空機とフォースフィールド、飛行軌跡と火星からの男性を表している。



On 17 February 2010 the *Rajasthan Times* reported that intricate prehistoric cave paintings depicting extraterrestrials and UFOs were found in caves hidden deep within dense jungle in the Hoshangabad district of Madhya Pradesh, India, near the local administrative centre of Raisen. According to information coming from Benjamin Creme (*Share International* magazine, June 2010) the cave art, which depicts a man from Mars, a saucer-type craft, and a force field or trail, was painted 40,000 years ago.

目次

序文

1 章 宇宙人は存在する

2 章 陰謀は隠蔽から、始まる

3 章 しかし、実際は

4 章 スペースからの友人。

5 章 スペースシップの中で。

6 章 すべては、ディスクロージャ計画へ行く

エピローグ...

付録

The Golden Rule 168

黄金律 168

Sources and references ... 170

ソースと引用... 170

Index 175.

Index 175

List of illustrations 1 VII

図のリスト VII 。

Extraterrestrial pilot 54 & 57

1

地球外のパイロット..... 54 & 57

2.

Flying saucer photographed by Amicizia participant

アメシジア Amicizia 関係者によって空飛ぶ円盤の写真が撮られた..... 58 3.

ローマ、1959 年 6 月の Alberto Perego とジョージアダムスキー.....。 65 4.

アルゼンチンにある地下基地から出てきた光の存在.....。 72 5.

エルサレムの上空の UFO 『星』、2011 年 1 月 28 日.....。 84 6

.

ペルークスコの上の宇宙船。 94-95 7.

空飛ぶ円盤の内部…。 100-103 8.

スイスの反重力の宇宙船の円柱.....。 107 9.

UFO は、東京の地震の影響を軽くした.....。 113 10.

Bruno Sammaciccia と Gaspare de Lama...120 viii

序文

時代を超越した智慧の教えからその手がかりをえることは、意識の進化を導く

この本は、地球または他のどこでも、人類に消滅のふちに我々の世界を持ってきた競争と食欲の長年の方法に代わる生命の目的を示すスペース訪問客の試みの十分な証拠をまとめた。

1950 年代に政府によって始められる侮辱情報キャンペーンによって、現実の一般的な疑惑に対処するのにスペースピープルの目撃例の数が十分でないようにされたので、私は、そのような平和な宇宙人の方法の証拠としてこれを贈ろうとしている

これはおそらく前には知らなかったために、たとえそれがこれまで維持してきた信条に疑問を呈することになるとしても、それは、読者が点と線をつなぐのを助ける。

地球外の存在が事実であると確認した後、真実を暴露する以降の試みの中で、UFO 現象の一般的な認識で、初期の隠蔽が持っていた破壊的な影響を、我々は最初に見てゆく。

地球の上の地球外の存在の目的のはっきりした理解のためにこれらの隠蔽から生じた、陰謀説も見る。

そして、最後にこれらを解く証拠を提供する。

それから、我々は世界の事態の詳細な観察をするそして世界のシステムと機関は砕けている、ことについても我々は書く、

草分け的な思想家の仕事によって立証された過去と現在のコンタクティの証言を通してより幅広い現実を示し続ける

スペースピープルが彼らのテクノロジーを共有することで人類を支えてきた実用的な方法を含めて、大部分の援助活動は世界に気づかれていず、生命のより精神的な理解でより広い利益を得るのを援助するスペースピープルによる一貫した試みを、我々は世界の異なる地域で知った。

最後に、本来 UFO とのコンタクトは事件でなく、人類が現在経験しているその大きな移行を支持し助けるために起きていることを、我々は理解した。

この移行がとる形についての「アセンション」、「inter 次元の入口を開くこと」、「特別次元存在の到着」その他を含む」人気がある思考形態に欠陥はないが、その本当の性質は、空想的ではなく、より深いことが示される。

我々の政府は、大量の情報と証拠を所有する

活動家は、彼らにそれを明らかにするように圧力をかけている。

しかし、現在大部分の UFO 狂によって主唱するか、予想されるより、UFO とスペースピープルの現実の確認はまったく異なる形をとった『発表』となるかもしれない。

おそらく、我々の政府はスペースからの来客を知っており 1940 年代から彼らを知っていたことを発表し、人類が人間の重要な価値に表現を与え始める前には起こらないだろうが、世界は絶望的な中で、これを理解し、つかみとって貪欲な思いの増加に応じて、我々は現

在、世界規模で再接続し始めている。

我々が理解するように、UFO は、人類自身で、我々の惑星と我々の命の将来を決めるのを助けるためにここにいる。

アムステルダム、 2011 年 11 月

覚書

著者は、スコットランドの Anna Spiga と、スペインの Horacio Londner によるイタリアとスペインの情報源からの協力と、オランダの Adrie van Dijk の写真による助力に感謝を表明する。

著者は英国の Benjamin Creme にも時代を超越した教えについての彼の疲れない詳細な推敲によって、大いに恩恵を受けている。

UFO とスペースブラザーズは助けるためにここにいる：

1 章

宇宙人は存在する

世界中で素晴らしい UFO 目撃例と、世界が UFO の存在についての事実を認める準備をしていることを示す注目すべき出来事の量もますます増大し続けている。

そしてまた引退した官僚と、他の高官の多くは、他の世界からの航空機の存在と彼らの経験と、記録に基づいて、活発に報告している。

政府のファイルにアクセスの許可が与えられるために長年苦闘し、目撃者の声を記録し、確認する、世界的な『エクソポリティック』運動が、現在存在している。

多くの個人、グループと組織の努力によっいて、事件を確認するという成果が得られているようである。

真実をすっかり覆いつくすためのカバーはもはや十分大きくないことを示している。

その結果、とりあえずではあるが、再び期待される地球外生命と人間の交互作用の調査が、主流科学さえ公的に始まった。

2010 年に、ロンドンの王立協会は、宇宙のどこか他の所からの、生命とのコンタクトに関して、別の 2 つの出来事についての議論を組織した。

2010 年 1 月に、協会は地球外の生命の探知の科学と社会のために結果に関する議論を持った。そして、同じ問題に異なる角度から取り組んだ 4 つのパネルの議論は 10 月まで続いた。

『地球外の生命と起こっている政治問題と国連課題』というタイトルの議論は、国連の上部が参加した

国連外宇宙問題事務局（UNOOSA）の Mrs Mazlan Othman

マレーシアの天体物理学者（ミセス Mazlan オスマン）、国連地球外の問題」の（責任者として彼女を大使として指定したので、Othman 教授は若干のメディアで報道された：

私は、宇宙人への大使に任命されるつもりは毛頭ない

「しかし」宇宙人がこの惑星に来るならば、誰が人類を代表しなければならないかという重要な問題を調査することは、国連とその加盟国のために意味をなす。" 2

世界的な経済界は、また、騒ぎに加わっている。

In 2011 年 1 月サウジアラビアがスポンサーのリヤドの国際競争力の発展会議でコンタクト
アウトースペースで学ぶこと」とタイトルをつけられたパネルディスカッションが特集さ
れた」:

そこで UFO 研究者スタントン・フリードマン、ニックポップとジャック・バレーは、世界
財界の指導者の参加者が地球外生物とのコンタクトが行われるかもしれないという可能性
の感覚を得るのを手伝った

それはまだ見られないままであるが、宇宙の人々の動機が彼ら自身の存在と同時に我々が
後の章で討議するようであるならば、それは開放されるだろう

3、

しかしより重要なことは、必要な記録に基づいた彼らの直接の観察を、世界に知らせた、
数多くの官僚と軍の専門家の信憑性と完全性は、否定することができない。

2010 年は、この点で 2 つの主要な出来事が見られた。

1 つは公的政府の将軍と、パイロットの記録に基づく、レスリー・キーンの本「UFO」の
出版であった:

それらは著者が情報公開法のもとに接近した公文書に、基づく。

彼女はジョン・ポデスタ (ビル・クリントン管轄下の第 4 番目の大統領主席補佐官) の助
けを借りて、2001 年に調査を開始した。

アメリカ政府が怠ることによってどのように一般の疑念をつくったかについて、彼女は教
える— (—この重要な話題について何人かとは活発に偽りを暴くため議論した。

もう 1 つは 2010 年 9 月 27 日に起こった。

前例のない記者会見はワシントン DC のナショナルプレスクラブで行われた。そして、そ
れは世界中の主流メディアによって報告された。

この記者会見で、UFO の存在と核ミサイルを制圧するか、はずす彼らの能力を、7 人の前
アメリカ空軍人員は証言した。

UFO 研究家 Robert Hastings (その人は会議を組織した) は、以下のように述べた:

「私は、信じる (あつ。)

この惑星は、別の世界から存在によって訪問されている、

そしてその人たちは、いかなる理由があるにしても、第 2 次世界大戦戦終了後始まった核
兵器競争に対する興味をもっていた。」

4

彼は会議の 7 人の軍人は、すべて類似した経験をした一団のおよそ 120 人の前の軍当局者
の中の者たちであると述べた。

特に前の USAF 核ミサイル発射役員 Robert Salas は彼が米軍の隠蔽の役割について話した

とき、彼のことばを細かくミンチにして省略しなかった：

「米国空軍は、核基地での未確認の空中物体の国家の安全上の意味について嘘をついている

そして、我々はそれを証明することができる。」

彼は地球外生物がメッセージを送っていたのを感じている。そして、核兵器の上に文字通り光を照射した：

「彼らは我々の武器体系にもっと多くの損害（永久的な損傷）を与えることができた、しかし、彼らはそうしなかった。

彼らが滅ぼしたいならば、彼らが持つすべての権能で、そうできたと思うので、個人的には敵対的な意図があったとは思わない。」

アメリカ政府が大衆のパニックを恐れて UFO に関する情報の発表を控えていると、Hastings は考えている、しかし、彼は主張する、人々は自身で何を信じるべきか決めてもよいとしなければならない。

人々には、事実を知る権利がある。

これは国家安全保障上の問題である、しかし、それは知る権利の問題でもある。（アクセス権の問題）

地球のあらゆる国の市民は、この秘密を打ち明けられなければならない。」

CNN のライブで、事件を議論しているとき、UFO を最初に目撃したときと同じように目撃者は印象がこみあげてきて、感動しているようだった。

それで非常に重要なことだが、多くの政府と軍隊の前職員であった目撃者は、そうすることができず、一般的にせず退ける

最終的には彼ら自身の経験について、アルミ箔の帽子フルーツケーキとして意見を述べる
ここでの焦点は、まだ UFO の現実を証明することに、ある。

そして、それだけの議論の余地のない証拠とそれほど多くの否定できない証言に直面して、私は、この点でつけ加えるべき多くがあると思わない

これまでよりすばらしい量とほとんど毎日詳細に記録され続けたこれらの並外れた航空機の事実を否定すると言ってゆずらない人は、誰でも、明らかに犯罪的な隠蔽の犠牲者である

問題が最初に関心を得て、世界的に注目された、1940 年代と 1950 年代から政府と軍隊は、主要な政治的および経済的な利権のためその犯罪を犯した。

あるいは企業によって援助され・恩顧を被っているメディアが、未知数のものを公平な、適当な研究を通してその思考範囲を広げるというよりはむしろ、その特定の現実の思考様式にフィットしないどんな事実でも無視するのを好む視点の狭い主流科学の偏見で苦しむ
したがって、この本でされるアプローチは、UFO が本物で、（コスモスでの他から離れた所での化学事故の無計画な結果によるとするよりもむしろ）原因として生命の普遍性の事実を証言しているとする理解から書かれている点で他の本と異なる。

前世紀の第二次世界大戦の間の核分裂技術と核兵器と原子力発電施設といったその応用の発見以来、地球はこれらの惑星間の航空機と彼らの仲間によって常時訪問されてきた。政府の背後にいる軍隊、航空と宇宙航行学で働く多くの目撃者が彼ら自身の経験に基づいて述べて証明するために進み出る時、地球上の地球外の実在は本当であることは当然で、論理的に次の問題は、彼らの存在と彼らの意図と目的に関すること、つまり、この本が書くようにしていることが問題になる。

4

エキスポリテックスの専門家と発表擁護団体の間のコンセンサスは、このことであるようである

我々の所には、異なる課題をもっているいろいろな地球外の人種が訪ねてきている
そして、今日の世界では普通のことだが、より騒がしいレポートは、最も多くの注意をひくようである、そして、しばしば、信じやすく書かれている。

しかし、対照的に、初期のコンタクティは、希望の明確なメッセージを持ってきた。

Orfeo (Orville) Angelucci は、たとえば、1952年に彼の「スペースコンタクト」で言った：「我々は古代の地球とわれわれの星の親類関係のため、地球の住民の方へ深い兄弟関係の意味を感じている

我々はあなたたちのはるか昔の時代を見ることができる

そして、あなたたちは我々の前の世界の特定の面を再現している。

心からの同情と理解で、我々はあなたの世界がその産みの苦しみの中で行っていることを見てきた。我々は、あなたが単に我々を年上の兄弟として期待することをお願いしている。」

6

ウィルバート B.スミスは 1950-1954年にカナダ政府 UFO 研究計画プロジェクトマグネットの責任者であった)

そして、彼自身コンタクティであった、

1958年に言った：

「[スペース] ピープルは、我々に素晴らしい宇宙計画について話す、

そこでは我々は、その計画の一部に含まれており、

その計画は、1人の人の一生または、国、または、文明、または、惑星または太陽系を越えている。

我々は、科学の不十分さについて話された

そして、新しい科学の基本となる基礎部分を与えられた、

それはよりシンプルで、我々が作り出した数学的な化け物より受け入れられる。」

7

7

同様に、ジョージ・アダムスキは (Flying Saucers Have Landed (1953) 宇宙船の内部で (1955) で彼のコンタクトについて書いた)

そして、(1958 に言われた) :

"彼らの出現は、ブラザーフッドの宇宙的計画に従っている、
彼らは必要なときに援助の手と助言のことばを述べる；
最近の地球の状況はそれ自体で、必要性があるのが見られる。"

8

UFO 研究者を含む多くの人々は常に UFO の接近、あるいは、墜落した宇宙船の研究、宇宙船に搭乗者との対話を通して手に入るもの、または特に得られた新技術の結果として我々が世界を動かす方法、重大な影響を及ぼすようになることについては、詳細に知ることから分離されている。

5

しかし、多くの人々が理解していないことは、これらの変化が我々の生活の外面的なものに限られたものではないということである。

1947 年 6 月に、

地球の地球外の訪問の可能性の意味と評価において『天体の住民との関係』と題のついた論文を、ロバート・オッペンハイマーとアルバート・アインシュタインは、書いた :

地球の特定の場所に他の天体の民族が、居住することに関しての国際法の姿勢は、予測するのが難しい。しかし、予見できる唯一のことは、伝統的な概念の深い変化があるということである。」

9

天文学者と宇宙論研究者カール・サガン博士は、以下のように語ったと伝えられた :

「我々が一人でないということを発見する日に、我々の社会は、進化して、若干素晴らしくて不思議な新しい方向に変形し始めるかもしれない。

しかし、彼の有名なテレビシリーズ「コスモス Cosmos」が経験主義者の教義を支持して、生命を物質で最も貴重な形」としていたが、驚くべき不思議な変化は、存在の具体的な面で本質的な、『真実』を発見する試みの中で、我々が犠牲にしてきた生命のスピリチュアルな現実によって人類は社会を再編成をすることになると、セーガンは予見した。

10,

「フリチョフ・カブラ (物理学者で著者) は科学の限られた見方に対して反対意見を述べていた。そして、言った」。

古典物理学と大体の西洋の考え方の基礎をなす機械学的で還元主義的な見方によって、すべての科学者は、ものすごく影響された。

複雑な現象を基本的な建築用ブロックに切り分ける方法のあと、切り分けられた 1 つ 1 つのブロック通して相互作用しているメカニズムを探すことは我々の文化においてひどく染みみついている。

そして、この思考方法が科学そのものであり、そして、科学的研究法としてしばしば同一視された。6

神秘主義または超常的な現象の場合のような見方、概念またはこのフレームワークになじまない考えはまじめにとられなかった、あるいは、個人の自然発生的な憑依--トランス経験の場合のように、彼らは精神病だと思われた。」

11

本当に、UFO とスペースピープルの接近が生命の我々の認識において深い変化を与える結果、我々の既存の経済と社会組織は精査されることを意味すると、一人以上のコンタクティはほめかした。

たとえば、George Adamski は以下のように言った：

我々の一部がする気があるならば、我々の [宇宙の] 隣人は彼らの知識を我々と共有する気がある。

彼らは我々の生命に対する視点が間違った思考の建築に基づいていることを知っている、そして、我々の現在の態度とふるまいは結果として人類自体の自己破壊に導く。」

12

ここでは、彼は一般に常識的に可能であるとか本当であると容認されている概念に合わないものの偽りを暴くために、それ自体を貸してきた主流科学に明らかに、言及した。

同様に、イタリアのコンタクティ Giorgio Dibitonto は、言われた：

"あなたは、物質と精神とを互いに対抗させてきた。

"もしあなたがこのことから開放されることができたなら、あなたの心をその厚かましい傲慢さから解放し、おとなしくて単純になり、純粹で善なるものになる

そして、あなたは悪と不幸の全部の問題を解決するだろう。

それによって [ハートの知恵] を抑制するか、破壊するならば、知性は罠に捕らえられる。そのことで、ハートと心は互いに敵になる、そして、結果はあらゆる種類の不幸と病気となる。

13

世界中を一瞥するだけで、我々の惑星と我々の命の状態についてのこの評価は確かめられる。

したがって、George Adamski は（「彼らの計画の範囲は巨大である、同じパターンがうまく配置されるようにしている。」）と言う

彼らは我々がもつ疑惑を裁かない、なぜならば、適切な時に、このファンタジーによって生まれるジレンマの全てが、現実の力によって死ぬことを、彼らは知っているからである。。そして、地球の人々は、明確に現実的に考えるようになる、そして、神秘は自然の法則の理解に取り替えられるはずだ。」 7

14

どんな変化が予想されるかというより意見が一致するために、次の章において、最初の隠蔽が作りだした損傷の範囲を発見し、多くの人々に UFO 現象の背景にある恐れを感じさせた方法を確認する。

我々の多くが、厳格な唯物論的な見方で生命を見ることに根ざしていることにこの問題があることを我々は、知る必要がある

長年大部分の古い時代の感覚の人々は未知のものを分けて分離することを許し『見知らぬ他』のものには恐れで反応する、そして、認められた還元主義的な実践に基づかない何事に対しては軽蔑だけで反応し、そのほかのものにはかわりあわないことを学ぶ。

この恐れと軽蔑は、成長した

著者ティモシー・グッドの言葉によれば、

「コンタクティを軽蔑することは、現在義務的になっている、

ひとつには『スペース兄弟』によって彼らに与えられる陳腐で福音書のメッセージのせいと、彼らが遭遇した地球外生物が宇宙人の外観と、ふるまいとその起源についての先入観に一致しないことによる

そして、その一方でグッド氏は広範な種類の国と情報源」から多くのケースの報告書をつくった、そして、全てに共通して科学的に面白いデータ要素を含んでいる

この章では、時代を超越した知恵の人が、精神的な哲学と我々の日常生活の実用的な応用に関して人類へ手の届くものにしてきたことと、UFO 現象と時代を超越した智慧の教育の間に存在する多くの重要な関係と平行関係を示すことによって些細な問題を越えてむしろ主題の範囲を広げるはずである、

この文脈において、見ると、それは明らかになる

スペースからのメッセージには『陳腐な』『福音書のようなものは』何も、ない、

彼らは贅沢に暮らす人々と必要以上に飢えた人々を分断させることを終える社会経済変化を主唱する、 8

それによって、惑星の我々全員が互いに依存し親しく関連するために彼または彼女が誰でもハートで知っている真実を、人間の歴史で最初に、表現する：

Notes

メモ

1 See the Royal Society of London website:

1、London 王立協会のウェブサイトを見る：

<royalsociety.org/ Event.aspx?ID= 1887> and <royalsociety.org/ extra-terrestrial-life /> [Accessed 5 June 2011] 2 Gregory Katz (2010), 'UN Official denies she has a role representing Earth to extraterrestrials' .

<royalsociety.org/ Event.aspx ? ID= 1887>と<royalsociety.org/ 外の地球の生命/> [2011 年 6 月 5 日にアクセスされる] 2 人の Gregory Katz (2010) (『国連 Official は、彼女には地球外生物に Earth を意味している役割があることを否定する』)。

AP News, [online] 5 October.

AP News、[直結] 10 月 5 日。

Available at <www.royalsociety.org.nz/2010/ 10106/ britain-alien/ >.

<www.royalsociety.org.nz/2010/10106/britain-alien/> で利用できる。

[Accessed 5 June 2011] 3 Global Competitiveness Forum website, <www.gcf.org.sa / en / >, [accessed 4 June 2011];

[2011 年 6 月 5 日にアクセスされる] 3 つの Global Competitiveness Forum ウェブサイト<www.gcf.org.sa/en/> [2011 年 6 月 4 日にアクセスされる]；

videos of the discussions can be watched here:

議論のビデオは、ここで見られることができる：

<news.exopoliticsinstitute.org/ index.php/ videos-of-extraterrestrial-lifepanel-for-business-leaders-releasedl 1 >.

<財界人-releasedl のための地球外の lifepanel の news.exopoliticsinstitute.org/index.php/ ビデオ 1 >。

4 Jason Hanna (2010), 'UFOs eyed nukes, ex-Air Force personnel say'.

4 人の Jason Hanna (2010) (『UFO は、核兵器 (人員が言う前空軍) を見た』)。

CNN newsblog This Just In, [online] 27 September.

CNN newsblog This Just In、[直結] 9 月 27 日。

Available at <news. blogs.cnn.com/ 20 1 0109 / 27 I ufos-showed-interest-in-nukes-exair-force-personnel-say/ > [Accessed 5 June 2011] 5

Ledyard King-Gannett (2010), 'Former Air Force Officers Discuss Sightings'.

<ニュース. blogs.cnn.com/20 1 0109/私が UFO 示した 27-利益-流行の-核兵器-exair-力-人員-言う/> [2011 年 6 月 5 日にアクセスされる] 5 つの Ledyard King-Gannett (2010) (『以前の Discuss Sightings 空軍巡査』) で利用できる。

Air Force Times News, [online] 27 September.

空軍 Times News、[直結] 9 月 27 日。

Available at <www.airforcetimes .com/ news/ 20 1 0109 I ap-Former-Air-Forceofficers-discuss-UFO-sightings-092 71 01> .

への From Experiment — の Spirit。

In Gerard Aartsen (2010), George Adamski -A Heraldfor the Space Brothers, p.126 13

Giorgio Dibitonto (1990) , Angels in Starships, pp.47-49 14 Adamski (1964), op cit.

Gerard Aartsen (2010) に、George Adamski-A Heraldfor が、Space Brothers、126 ページ 13 Giorgio Dibitonto (1990)、Starships の Angels、pp.47-49 14 Adamski (1964)、前掲書である

15 Timothy Good (1998), Alien Base-Earth's Encounters with Extraterrestrials,

15 人の Timothy Good (1998)、地球外生物との外国の基地-アースの遭遇、

p.2

2 ページ

16 Ibidem

16 の Ibidem

10

2 章

陰謀は隠蔽から、始まる

1947 年 7 月の USA のニューメキシコ、ロズウェルの近くの UFO の事故についての、最初の宣伝に続いて、隠蔽の努力は最初、十分され、4 そして、その隠蔽工作も含めて過熱状態になった

そして、ジョージ・アダムスキー、その他の初期のコンタクティから来た経験と情報によって、発生したものへの大衆の興味を失わせた。

そして、地球外存在の一般市民の間での受容が数十年遅れることになるような非常に広範囲まで及ぶ潜行性の波及効果に達した。

おそらく健康的な時間に、存在する一般世間の間の疑念の要求を満たすこれらの隠蔽工作は、伝染性の疑いの文化を引き起こした

現在 Ufology の分野では突飛な推測と『推論』が『研究』の標準的な方法であるようにみえる。

同時に、科学的方法に固執すると主張する人々も、必ずしも疑惑を晴らす助けになっていない。

まじめにとりあげたいと心から思う一部の人々、特に暴露的、懐疑論者と研究者にとって、真実は、経験的なデータに基づく事実から成るだけである。

知ることのできるすべては測定可能である、あるいは、測定可能なものは知る価値があるというまぎらわしい概念は別として、

誰もが万能薬としてこの論理で続けていくなれば、我々は流血の暗黒時代に生きることになるかもしれない。

あなたが未知のものに直面する気がないならば、どのように、あなたは新しい何かを発見するのか、直面する気がなければもともと測定不能ではないか？

11

また宇宙では、彼らの計算では既知の宇宙の 96 パーセントしか彼らの機器が計測できないと話すので、そのような『存在しなければならないとする』粒子群を証明するために何百万ドルも使う理由が、科学者にはない

したがって、結論は — 我々が厳密に唯物論的な世界観を主張するならば — 事実と、真実を確立する我々の能力は、我々の機器の感度、あるいは、おそらく適合性-によらなければならない。

もちろん、我々の器具が測ることができないものは、まだ器具の測定範囲の向こうで実在する場合がある。

もちろん、我々が理解を拡大しようとするならば、最初のレベルを含めて、知られている点より上は、仮説をもとに研究する必要がある。

そして、よく知られた箱の外で考えることも重要で、特に主流科学には一般的に傲慢さがあるので、あまり遠く箱から離れないことも等しく重要である。

こんな例は多分、ごく少数の人しかあげないだろうが、私は動物学者と原理主義的無神論者の **Richard Dawkins** に同意する。、その人は以下のように言う：

「我々は心を開いていなければならないが、我々の脳が外へ飛び出すほどには心を開いてはいけない」 I

（おそらく数人の脳には若干の新鮮な空気が通り抜けると有難いのだが）。

言い換えると、どんな仮説も後に続く我々が、それが本物であるか、真実であることを知っていることが必要である

—それは仮説そのものの中にあるものことではなく—我々の既存の知識と我々自身の経験に基づいてそれが真実で確実と思えることは必要である）。

同時に、我々は覚えていなければならない

Carl Sagan が彼の『愚かな思考の発見キット』でその仮説に可能性があるかどうかふるいわけ、データを精査することで、経験的に真実であることを証明する目的のために、競っている仮説を区別することを簡単にする、

多くの質的な問題が存在する中で真実が探求されなければならない、しかし、それらを見つけることは、困難に満ちた挑戦である」

2、

特にその機器が作動することが出来ない領域ならば余計であると、我々はつけ加えるだろう。

それから、

すでに知られていることを超えたことを研究するよう命令を出しても、我々の『機器』が、測定化できるものを越えて計測できるか、といった質的な問題」、に直面することは避けることができない」

どんな新情報、教育または仮説でも、証拠を確かめることを通して、また可能な限り異なる独立の情報源でチェックすることで、すでに、提供されたものの後を追っていく。

また我々自身の意識があたかも 1 人の先生の教えのように、「すでに知られている真実を強化するか、補強するものとして、同意するか、拒絶するか納得するまでそれをチェックす

る

3,

.12

4

同様に、突飛な物語と主張が通常最も多くの興味を生み出すということも知っている、まったく、有名であることだけで有名人を誉め称える世界で、過剰な想像力または飽くなき関心をもつ多くの人々がいる、我々が共用している伝統と我々自身の経験を出発点として、事実とフィクションを識別し、用心深く歩くことはいっそう重要である。

人生の、普遍的な原理は、全世界に昔から源泉としてある教えにその源を発している、時代を超えた知恵の伝統は、確実によくテストされた作業仮説を提供する。

例えばダーウィンが書いたような、形態の進化の結果が『生命』であるといった概念ではなく、確かにすべての主な原因 **Primal Cause** は意識の進化を通してそれ自体がこれまでより完全な表現力を求めたとする仮説を出した。

この考え方は最初は、**Helena P. Blavatsky** 夫人（1831-1891）によって、西側の読者に広く紹介された。

これらの今までの秘教的な知恵の教えの人は、生物学的存在ではなく神の不滅の火花 **Spark** でスピリッチャルな面を開発した存在ではあるが、しかしそれは、世界を経験するためには、乗り物（すなわち個性）を必要とし、それによって自己を表現している。

したがって、生命は、我々の銀河の周辺的存在であるこの地球の固体の物理面に限られていず、それよりも宇宙的な原理にもとづき、その人間の王国での表現の進化は、止まらない

13

Mme ブラワツキー、ベアード **T.スポールディング**、アリス **A.・ベイリー**、ルドルフ・アレキサンダー、**Murdo** 博士を含むいろいろな著者と **MacDonald-Bayne** 博士と **George Adamski** は、人間の王国から進化したスピリッチャルな王国の現実を証言した

そして、それらは意識のこの進行中の進化のよい見本としてあり、そこにこの惑星の入会者と **Masters** マスター達が住む。

彼らの経験の確実性を支える事項は、主流科学がよく知らない事実とその基礎をおいており、この生命の概念は、主流科学は仮説としてさえ、受け入れる気がない。

寓意的であったり、散文的であったりするが、この人生観の普遍性についての証拠は、世界の教師、例えばヘラクレスとヘルメス、ミトラ、**Vyasa**、クリシュナ、ブッダ、キリスト、シャンカラとモハメド）の人生の指針の神話と歴史の報告書で、最も有名な何人かの名前をあげるとわかる。

これらの宗教的な伝統と地球外の訪問の長年の関係が 1953 年という早い時期にデズモン

ド・レスリーによる本 **Flying Saucers Have Landed** の彼の部分に書かれたが、地球外からの訪問者の教えの多くはその後世界の主要な宗教の基礎になった。

同じ見解の、更なる確認は、より現代的なインドのアバター **Avatars**（例えばラーマクリシュナ、ラマナ・マハリシ、パラマハンサ・ヨガナンダと **Sathya SaiBaba** 聖者,サイババ）の教えに見られる

彼らの多くは地球外の起源の神の化身と考えられ、**George Adamski**、**Wilbert Smith**、**Bruno Sammaciccia**、**Giorgio Dibitonto** とマイケルウルフのような、初期から後のコンタクティまで他の多くの者たちの間に伝えられた、スペースの人々からの、教えのようなものが含まれている。

これらのスペースの人々からの知恵の教えは、宗教的な伝統のソースと智慧の **Masters** の数人の弟子を通して与えられ **H.P. Blavatsky**、**Alice A. Bailey** や最近の **Benjamin Crème** といった彼らの秘教的な考え方に対応するもので、多くの西側の哲学者と科学者を長く困らせた問題に、啓示的な光を投げかける。

14

それで、コンタクティまたは研究者の主張を研究するとき、我々の最初の懸念は彼らの宇宙とのコンタクトが伝達する経験と情報が先人の聖師 **Guides** と聖人 **Teachers** によってよく述べられてきた教えと基本的な信条にどのように連なるのか認めることからでなければならない

地球人類が進歩する中で宇宙からの使者の知恵が、たとえその仲介者と世紀を過ごすことによってゆがめられたとしても文明と時代を形づくった。

時代と文化背景の詳細な変化を考慮に入れても、これらの教えは生命のこの仮説を支持するいろいろな情報源の圧倒的量の証拠と一緒に、構成する。そして、それは前進するためのしっかりした揺るぎない基礎を与える。

経験的に確認することに関心がある研究者の見地からすると、それが徐々にその人自身の意識によって経験される前に、これの多くは最初に作業仮説として受理されることが必要とされる。

そして、奥義に通じた秘教主義者ベンジャミン・クレームは彼の聴衆または彼の読者への彼の訴えにおいて、彼が以下のように言うとき、セーガン博士が言及したのと同じ質的な挑戦に、本当に触れているようである（12 ページを見る）：

「私が言わなければならないものは、主に予言なので、証明することはできない。
、私がお願いすることは、事件がおきても、驚愕せず、世界に現れている現実に向き合おうとする開いた心を、あなたが持つということである。」

5

我々がこれが起きたことを認めると、それは世界に常にあるミステリーを説明する一臨死体験、あの世、幽霊の性質、古代文明または、本当に、我々の空に千年とまではい

かないが、それは何世紀に及んで UFO の現象がある。

15

これと同時に、著者または研究者がこの古くからの伝統の信条と智慧の教えで概説された人の起源については無視して主張し、その代わりに地球外の人々による実験についての推測、または異種交配を使って説明するとき、このことの基礎として彼らの古代のシュメールの研究があると言っても、我々はその真実性についての疑問に関心をもつ必要はない。そのような主張はブラバッキーの代表作 (**Secret Doctrine**) で書かれた人類の最も古代の記録を無視している。そして、それは智慧のマスターズとの密接な協力で書かれ、アルバート・アインシュタインが参考のために彼の机にコピーを置いておいた。

6

だが、誰でも HPB ブラバッキーの研究の有効性または関連についてはまだ質問しなければならない、// 1885 年に **Psychical Research (SPR)** 協会によって彼女のレポートは詐欺であると『明らかにされた』とされているが、実は 1986 年に、同じ **SPR** によって全く、明解にレポートが詐欺的であるといったことは、撤回されたことが、わかった。したがって

7

実際、人がより HPB ブラバッキーの自身の言葉を読むと、彼女が 19 世紀の頑固な『啓明派 **Enlightenment**』の支持者が見せるものへの 1890 年からの反撃として本当に予言者であったことがはっきりする。(平均的な男よりいくぶん遠く見えることができた人々の 1 人として) そしてそれは、2011 年になってもその通用性は何も失わなかった：

「我々の時代は目にみえて毎日、真実と正義を侮り、明言するので、知恵があるとは言えない、知恵において他の時代より劣っていると、我々は言う。

なぜなら今世紀の文化はこの世で『最高のもの』ごとに賞とプレミアムを与えるが、最大の赤ちゃんと最も強い拳闘家と最も太ったブタに最も大きな照明を与え、物質の崇拜はするが、道徳的なものへ励ましを与えない、道徳的な美德のために与える少しの賞もない)

最終的には、これは、道徳的な物質的な自由の 1 つだと宣言される時代だが、実は最も野蛮なモラルの中に生きている精神的な奴隷制度の時代である、…これは以前には決してわかっていなかった

より高度化し中間クラスの必要に適するようにと急速に文明化するように宣告を下したがこれと対比して巨大な不幸とともに、飢えは集中(集結)している。

8

同様に、この点で、智慧の **Masters** の 1 人との彼の接点と仕事を通して、**Benjamin Creme** がまさしくその社会変動を予測し、知って、年月を通して、主唱していたことは、明らかにされるかもしれない。現在新しい時代の長としての世界的智慧の教師の **Masters** によるスピリッチャルヒエラルキーの実世間への復帰に備えていたことを、我々の回りに証明している。

実際 1982 年 7 月彼のマスターは、記事で書いた：

" ..社会の段階的な変化と今まで未知だったスケールで大きな構造の変化がこの2、3年の間に世界で起こって、新しい夜明けを告げている。

正義を要求し、共有するすべての地上の人々の連合した祈りの声は、誰も抵抗することができない。

このようにして、世界は変わる。

" 9

ベンジャミン・クレームが長年にわたって言ってきた多くの他の声明は、正しいとわかった。

たとえば、1979年、にされた「Great Pyramid ピラミッドとスフィンクスの地域周辺の下は、都市で (Atlantean アトランティス人の植民地の都市) あるという彼の発表は、2011年5月に掘られてそして、今やそれは明らかにされ、見よ、衛星画像からの『失われた』17のピラミッドを含む複雑な古代の集落の発見によって予備的な確証は認められた、

II カバーアップと、陰謀論と推測

この生命の広い展望と意識の進化からなので見れば UFO の接近は、希望を吹き込む出来事であるだけだ。

多くの人々が、今日、脅威としてそれを認めるというのにそれはどうしてそう思えるのかと人は尋ねるかもしれない？

-17

1963年という早い時期に、イタリアの領事アルベルト・ペレゴには、何が起きていたかについての良い考えがあった。

彼は書いた：

「1952年11月20日に、2つの[UFO] 着陸は起こった。そして1つは、北アメリカカリフォルニアで他は南アメリカ (ブラジル) だった。

同じ日に、地球外のパイロットによって、(『その他の惑星に居住している;』) 米の2人の男性は、Earth上の核戦争は宇宙の中で深刻な混乱の原因となるそして、宇宙船の飛来の一の目的は、『保護することが』、一般的な興味であった』ことを直接知らされた。

「このニュースは、カリフォルニアのジョージ・アダムスキとブラジルのダイノークラスペドン Kraspedon 12によって同時に明らかにされた (そして、独立しており、彼らは、互いを知らない)。

最初の人アマチュア天文学者であった。そして、後者は物理学者であった。

そのあと、中傷され、あらゆる点で評判を落され、我々の『科学者』によってばかにされて、これらの2人の男性は、話を偽造したことで責められ、殉教者になった！

その結果、アダムスキーとクラスペドン **Kraspedon** がとても詳しく記述したことを、今日まで世界一般のオピニオンの見解は、漠然とわかっているだけである。

彼らの前にも、他の『一般人』が、宇宙船と宇宙人・パイロットに接触をしている：

Galbraith in Ontario (1948);

オンタリオのガルブレイス (1948) ；

Enrico Bossa in Argentina (1950);

アルゼンチンのエンリーコ Bossa (1950) ；

Daniel Fry in New Mexico (1950);

ニューメキシコのダニエル・フライ (1950) ；

Truman Bethurum in California (1952);

カリフォルニア (1952) のトゥルーマン・ベサラム；

Orfeo Angelucci in California (1952).

カリフォルニアの Orfeo アンジェルッチ。(1952)

But all were discredited and derided."

しかし、これらすべては評判を落されて、ばかにされた。」

13

私が本で書いたように、George Adamski は Space Brothers のための使者で一彼は、我々の太陽系の他の惑星から、男性と女性との会談と経験を解説した

George Adamski が本のために世界的に有名になると、当局は、深刻に心配した。

そこでお金の相当な金額の提供によって、または、脅迫によって彼が沈黙するか、外されることを拒否したので、主流メディアはこのことを些細なものにするよう協力を求められた。

そして Adamski と彼の経験を、嘲笑した。

14 18

アダムスキーが彼の本 **Inside the Space Ships** を上梓した 1955 年 9 月に記者会見で言ったように：

「最近ニューヨークにいたとき、私はスティーブ・アレンのテレビ番組にいた、そして、私は話された。『あなたの口から言葉を出してはいけない。

我々は、この事件全部を軽く扱うように言われた。』と、彼に言ったとは言わなかった」

15

これらの努力は、彼が今日も依然として多くによって無視されていると考えられるのだから、実際効果的だった。

それにもかかわらず、アダムスキーの宇宙人は彼に言った。

..あなたの空には我々の宇宙からの船が見られる、そして、これらが他の惑星の知的な存在

によってだけ作られることができ、案内されることができることを、空軍とあなたの政府は知っている。

あなたの世界の政府の高い地位の人には、我々の方から連絡した。

「16

アダムスキーが以下のように言ったとき、カナダ政府研究者ウィルバート・スミスはこれを確認めた：

この惑星のすべての国は、どこか他の所からの宇宙航空機と彼らの居住者が存在することを、公式に知らされている..

"17

この概念はベンジャミン・クレームを含む他の多くによってさらに確かめられる。そして、そして、クレームは以下のように彼の最新の本で言う：

「米国政府は、(他の全ての政府のように) UFO が存在するということを知っている。」

18

これらの声明は、UFO 研究（1948 年頃）に関する米大統領の特別会議 **Special Panel** の最初の年次報告でアメリカ政府自体によって確認されているようである、

『政府の支配と否定の政策』と呼ばれているセクションで：政府が市民の心の認識を無視と否定でコントロールしようとするとき最も難しい面の一つは報道機関の実際の影響力である。

はっきりした意図がしっかりと得られている外交関係が確立されるまで、**MAJESTIC TWELVE** からの賛同と大統領の **Special Panel** 会議の推薦でニューメキシコの、ロズウェルとそのような質の他のどの事件も）事件の表面の厳しい否定の方針が、実施される。

メディアにコントロールされた相互対話型放出プログラムは、どんな一般人の調査も信用しないそのようなやり方で、1947 年の国家安全保安法 **Security ACt** の規定に基づいて開始された。」

19

Majestic-12 一団の 12 人の厳選された個人で構成され、一般人 6 人と軍人 6 人（軍から 2 人、海軍と空軍から各々 2 人）で構成されていた。（彼らは地球外存在と意図について可能な限り多くの情報を集めるために、1940 年代に割り当てられた）

このグループの確実性を研究している間に、UFO 研究者スタントン T.フリードマンはメリーランド カレッジパークの米国国立公文書館で、(1954 年 7 月 14 日付けの)

政府文書を発見した

それには、透かしと最初の機密解除模様を完備した、公式政府文書のすべての特徴がある、それは、「堂々とした」上記の最高機密指定のものとして、「**MJ-12**」「**-12**」、あるいは、「**Majic-12**」、に言及する

そして、**Majestic-12 Special Studies Group** の重要な現実の証拠は、そこにある。

20

ジョージ・アダムスキ（その人はそういう大規模な偽りを暴く上での最初の犠牲者の 1 人であった）

それは、MJ-12 評価から始めた隠蔽運動から生じたと言われる：

「私は、あなたとこの知識を共有することの代償が本当に高かったことを約束する。
私が直面しなければならなかった懐疑論と嘲笑は、私に他のコンタクトした人と共鳴することを可能にする、そしてその人は訪問客に接した彼らの経験について話すのを嫌う。
まさしくこの疑惑がコンタクトストーリーのまねと偽造のためのドアを広く開けたことは、皮肉である、
そしてそれによってより多くの混乱が生まただけであった。

これらの恒常的な否定のために、世間から本当の事実は遠ざけられた。

それで、多くの人々は、彼らの熱心な調査において、スペースピープルの実態に関して惑わされた。

同じ懐疑論と嘲笑は、彼らが惑星間を通して与えられた事実に関して我々のリーダーを沈黙させるのに、尽力した。

「21

たしかに、アダムスキの経験は一人だけでなかった。

彼らが宇宙船または撮られた写真を見たと言った人々についての 1963 年の、テレビ番組で、イタリアのジャーナリストブルーノ Ghibaudi は働いていた

20

その年インタビューにおいて

「これらの経験をしたか、これらを経験した多くの人々がそれを撮影し、それから大胆にそれについて話しすることは、簡単な仕事でなかった」と、彼は言った

彼らの仕事を失ってまたは嘲笑といやがらせの雪崩または官僚によってグリルで焼かれる時間まで受けさせられ、現在 **thoroughly** それをとおして全部にうんざりしていて、再び彼らの口を開くのは嫌だった。

「22

結局、Ghibaudi は彼の調査を続けたが、プログラムは中止された。

政府の側の UFO とスペース訪問客の性質について世間を混乱させ、脅かし、数十年の長い隠蔽と計画的な試みは、真実を奪いとるために長く戦った人々のコミュニティさえも感染させられ、秘密主義の政府機関は、人々を突飛な推測に導いた。

1950 年代と 1960 年代のアダムスキーへの個人攻撃以来、UFO は他の銀河からだけで我々の太陽系の中他の惑星からもはや来ることができなかった。

しかし、最近はそれも 1 つの選択肢のようである、そして、今は、『研究』がされこの分野のとても尊敬された研究者の何人かさえ UFO が地球の秘密結社から始まることがあり得

と考えている。

人がそれを1つの理論と呼ぶことができるならば、それは基本的に、このように書く：「彼らの秘密の宇宙船を推進するためにナチスまたは彼らの後継者が反重力テクノロジーを開発することに成功したとするならば、どうか？

彼らの何人かは地球外の場所に逃げるために、このテクノロジーを使用したというのは正しくないか？」いいや、(現実には、そんなことはしていないはずだ。)

そして、これの原因となる関係の提示さえ、研究者の最も法外な推測だと言っても十分だろう。

その人たちは推測と研究とは等しくないことに気づかなければならない。

スペース訪問客の現実をすっかり隠すために、秘密政府はすべて秘密にする作戦を与えられた

この線の推理をしていくと、我々には、『今の文明を超えた』非常に先進的なテクノロジーを隠しているあらゆる可能性は残っている

そして、なぜ、彼らは彼ら自身の利益のために地球に植民地を作る予定になっていないのか？

21

この『推理』に関して出てくるちょっとした問題は、当然のことながら、彼らの権限で、地球外の訪問客についてのすべての情報を世間に秘密にし全く同じ経済利権によって人類の大多数と世界の最大の部分がすでに植民地化されている』ということである、

1950年代という早い時期に、彼らが UFO 問題のために公共の支持がないのではないかと考えたので、政治家が地球外の訪問客の本当の性質について意見を述べるのを嫌ったと、カナダの研究者とコンタクティウィルバート・スミスは思った：

空飛ぶ円盤の全部の問題は広告が損なわれるタイプのため、政治家は彼らの首を差し出すのを嫌う。(その人は世間の反応に性質に非常に敏感である)

"23

この否定的な広告の理由はジョージ・アダムスキに明らかだった。そして、その人は 1955 年に彼のスイスでルーZinsstag に会って言った：

「それは全く理解できる、人は報道機関を支配する、そして、すべての流れ出る情報は真実を恐れるので、彼らは世間から、最高の知識を秘密にしておく。

彼らは、世界の金融システムを支配する人々である。

「24

奥義に通じた秘教主義者、ベンジャミン・クレームによると(その人は 1950 年代にスペース訪問客と働いて、1959 年以降知恵のマスターズの 1 人と接触していた)は以下のように言う：

「、60 年以上の間活発に UFO の現実の歪曲を唯一の目的としてする機関がアメリカ合衆国にある。25

「Creme によると「このように、世界の政府を管理する、背後にいる人々は、彼らの権力を保持する (26。)」

結局、彼は言う。「それは、彼らが政府を操作する際の無知と恐れである。

人類が **Space Brothers** が本当に存在し、そしてそのような、空間と時間を支配するこれらの宇宙船が本当に存在することを知ることになるかもしれないことを、彼らは理解している。

政府が明らかに、どうすべきかわからないので、我々はブラザーズに助けるよう頼むことができる。ブラザーズは人類をアドバイズすることができ、教えることができる。

22

我々を助けるために待っているこれらの情け深い、無害な存在があるとき、我々が今日持つ政府その他を、誰が必要とするか？」

27

そして、60 年代から、UFO についての事実とスペースからの来客の現実は、すっかり隠され始めそして、中傷された、我々は、装置を『インプラントする』ため、悪意のある『宇宙人』によって徐々に『誘拐』されると思い始めた

人間で『実験し』、『遺伝子を集め』、『ハイブリッドを飼育し』ならびに牛の『手足を切断し』(経済/財政的な権力を持つ家の血統を地球固有の起源いわゆる『イルミナティ』にするか、または形が数千年の秘密結社『地球外のレプティリアン爬虫類』に変動するまでも、たどっていく)

(『Ephelim エフリム』あるいは(『アヌンナキ』はあなたの陰謀説の好み次第である)、そしてその人たちは彼らの目標、人類の『New World Order』のために働いているとする、冗談は抜きにして、他の人は『今の文明を超えた』ことを信じる理由があるように提案するが、それは太陽系の (月?!火星?の上の)、どこかに隠れたという。

まるで経済と財政的な資源がまだ全世界のエリートが手にしてはいないかのように、彼らは個人的な利用のために地球を買収する機会を待っているとする。

ニューワールドオーダー？恐怖？

つまり、正確に隠蔽し、秘密に操作し：恐れにつながる疑いを生む。(簡単に不合理な状態になる)

そして、否定的な感情のうち、恐れは、最も伝染性で自己強化していくことがわかった。

しかし、現在 UFO 狂と陰謀理論家の間の陰謀説では同様にどちらも初期のコンタクトに彼らの希望の **message** を広げることを控えさせるために、脅そうと企んでいる会社と軍隊によって、それは産まれ、たぶん熱狂または恐ろしさのレベルに達したとする事実は多くない。これらが若干の現実の事実に基づかないものならば陰謀理論家が期待するような種類の大部分のこと存在しない。

23

これらの事実の一部は巧みにゆがめられて伝えられ、さもなければ、彼らは誤解されたようである

ーしかしどんなケースでも、最初の隠蔽から拡大した秘密の文化から生じた恐怖と推測をあおっている。

たとえば、1977 年引退した政治家と経済学者

の前からのドイツの首相の、**Willy Brandt** は優れた委員会を率いて 1980 年に、南北の生き残りのための計画ーと題された

ーこれらの目的を達成するための世界的な交渉ならびに提案という彼らの総体的なレポートを発表した

それらは、食物、援助、環境、取引、金融と通貨改革に対する包括的な戦略を提唱する

28

裕福な北、そして、貧困南部地方の半球、の間の拡大政策経済ギャップへの解決である

これらの提案はその重要な人類の調和を表した最初の試みと考えることができた。そして、スペースピープルの世界の問題を解決する方法へのアドバイスの反映だけでなく全世界のスピリットチャルな教えの本質でも認められる。そして、そのことを我々は後の章で見よう
しかし、我々が知っているように、世界の経済で財政的な権力は長く数百の裕福な家族と機関の手にあった、

1979 年英国で **Margaret Thatcher** マーガレットサッチャーの選挙勝利を通してネオコンサバティブ新保守派の生活の見方が支配的になったとき、状況は悪化した

1980 年に米国の **Ronald Reagan** ロナルドレーガン大統領では最高の心は、社会と政府の中にそのようなものがない；

もしそういうものがあるならば、ビジネスは彼らから盗むだろう」。これは、結果として経済的利益になった

そして第二次世界大戦の **Nazis** を通して終わろうとし始めた物質的な力は、そこで、
こともあろうに社会の機能からすべてを測定するほうに価値が動き、社会は戦場のようなものへと酷薄なものへと変化した。

24

すべてが、人間行動を含む、経験的なデータに切り詰められるかもしれないという概念は人類が利己心によって動機づけされるだけだという考えに信用を与えた。そして、それはフリードリヒハイエクとジェームズ・M・ブキャナンの初期の新進歩主義者経済学者の理論を知らせた。

アメリカのクリントン政権と英国の **Tony Blair** のニュー労働党政府によるその採用について、3-部作の BBC ドキュメンタリー「しくまれた罫」の中で、有無を言わさぬほど年代順に記録された

我々の自由の夢はどうしたのだろうか。 729

左の政党の政策のすべては、結局会社と強力な金融企業、例えば **IMF** と世界銀行の手によ

っている。その結果、**Brandt** コミッション報告の提案は棚上げにされた、するとまず最初にこれまでより高い頻度で、彼らが引き起こした世界の病氣― 飢え、貧困、不平等と分裂― が出現した：

ますます多くの人々を貧困で奴隷にする競争、食欲と狭い利己心

またはすべて『自由市場』の名でされる低賃金の一時雇用と消費主義。

数少ないデスクロージャー擁護団体の 1 つは以前のカナダの防衛大臣と副首相であった **Paul Hellyer** と関係する。

2005 年 9 月の **Exopolitics Toronto Symposium** エクソポリティクのトロントシンポジウムのスピーチにおいて、「UFO は、頭上を飛んでいる飛行機と同じくらい本物である」、そして、「秘密のベールは、持ち上げられなければならない」と彼が断言したとき、その人はデスクロージャーとエクソポリティク活動家の環の中で、すぐに有名になった。

彼の最近の本「トンネルの向こうの光--人類のサバイバルのための計画」は当時のニーズの鋭い洞察とその時あったパブリックサービスを結合した人からのその理由についての貴重な声である。

この惑星で人類の生存を現実に単独で保証するオープンマインドな幅広い見方が見られる珍しい声である。

25

彼自身の著者の説明は、彼が全世界の **Teachers** の重要なメッセージの強烈な理解を含んだ見解に基づいて活動しているキリスト教徒として本当に、寛容な種類の 1 人であることを示す：

「私の哲学は、3 つの言葉に要約することができる：

黄金律」―我々が自身にしてみらいたい方法で他の人を扱うようにという法則（付録を見る）。

Hellyer 氏によって経済的であるか、社会的であるか、生態学的であるか、政治的であるか、信心深い、科学的であるにせよ、本当に不正は世界を救うことに対する大きな障害であるとみなされる。

そうしたことから、1 章において、彼がイスラエルの抑圧の方針を直接に経験した中で、パレスチナの人々の窮境を雄弁に、そして、感動的に非難する。

そして、ベツレヘムの『星』も「神の宇宙船の一つ」と確認し、中で、もう一つは暴露されたことが無視されているトリノの聖外衣 **Shroud** の確実性の動かぬすべての証拠を要約する。

もっともなことだが、**Hellyer** 氏は「食欲と無能の組合せで何億もの人々を惨めさと絶望の人生へと運命づけることができる所だ」と古い世界秩序の場所について言う。

それで、この 30 年あまりにわたり個人と国の自由と正義を着実に減らし、絶壁の淵へと国際社会を動かすのが現在の世界秩序の組織である

現在 NOW の文字（『New World Order』のために）だけで陰謀を起こす人々の才知を脅し追い払うのに十分で、極右からの支持の不足はないので、陰謀の本はもう一つの成功が予約されている

3!

これは、抑圧、競争、貪欲と無知について何が本当に『新しいか』という問題を、もちろん、含んでいる？

本当に新しい世界秩序は協力、分担と、正義と自由の上にすべてのために人類の重要な一致の表現力としてたぶん築き上げられる。そして、個人の価値とコミュニティの正義に基づく。

26

これらの多くは誤解され、United Nations Organisation 国連は、恐ろしい『イルミナティ』、の手の中にある--『New World Order』を確立するための単なる機械だと非難された（世界エリートが誤解させるよう一括りにして名づけた名前である）

数千年間超秘密主義の中で世界の全権を支配するとして嫌疑がかかっていたが、権力ブローカーのこの選り抜きのグループに関する証拠書類の跡を明るみに出したと主張することで陰謀理論家は、彼らの裏をかいたようである、形の変動する『レプテリアン』としての彼らの『本当の』形態とまではいかないが、彼らの邪悪な努力のあとを確認した。

しかし、もう少し詳細な調査は、かなり異なる歴史を明らかにする

それは全 Internet コミュニティが持つ束縛されたような、大きな恐れの原因をほとんど与えない。

オランダ人の作家で哲学者のベンジャミン Adamah が説明するように現代の『啓蒙主義者』という言葉は『目覚めた人』を意味するラテン語でドイツの哲学者でフリーメーソンの A・ワイスハウプト (1748-1830) によって、1778 年に設立されたドイツの f Illuminatenorden（「Enlightened 啓明された秩序」）に由来し、それは、国家の模範と政府のより進んだ形を捜した。

Enlightened のワイスハウプトはおよそ 8 年間トップに存在し、彼らは個々の一層の自由を主唱して、フランス革命の前に存在した政治と社会システムに反対したので 1784 年に違法になったあと溶解し始めたことを、Adamah は示す。

Adamah はおよそ 100 年後、同じ名前の下で類似したグループを設立した試みを示し続ける。そして、それは例外なく失敗した。

それから特に John Robison による本「ヨーロッパのすべての宗教と政府に対する陰謀の証拠」（1798）とそして、20 世紀前半にロシアの偽造として源を発した「シオンの議定書」

は、ナチスがユダヤ人を悩ましたとき世界の受動的な観察に貢献し世界を支配すると嫌疑のかかっている策略をユダヤ人の罪に負わせたように、復古派と反啓蒙主義者によって燦製ニシンのような『イルミナティ』が指名された

27

32

その要点を述べると、最初の啓蒙主義者は、専制君主王を替えるときに、「哲学者の王位」を提案した—これは **Europe** の歴史のなかで、今日、世界を優先的に支配している選挙で選ばれていない財閥会社に相当するものである。

そして、時代を超越した智慧の教育によれば、最初の「哲学者の王位」はアトランティスの文明で見つかった、そこで、昔の **Wisdom** 智慧の入会者とマスターズは多数の進歩した統治者であった。そして、その人は個性にまだ恵まれていなくて、初期の精神的な能力だけを備えていた。

33

彼らが約 98,000 年前 **Atlantean** アトランティス大陸の最終的な破壊から、遠い山と砂漠の中心に撤退させこれらの知恵の **Masters** は秘密結社に、本当になった、そして、彼らは、年数ごとに、人類を進化の計画でそれ自体を再編成する気にさせるために中から進歩した先生を行かせた。

同様に、フリーメーソンまたは **Masonry** は、一般に、アトランティス時代にトレーニング中だった智慧のマスターズの一団の弟子の残りである。

34

言い換えると、本当の **Enlightened Ones** 啓明された存在と、歴史上の啓蒙主義者は、世界の富と財源を支配するための、彼らの想像上の凶悪な不吉な双子の計画または、現実の試みとは関係がない。

嫌疑のかかっている『イルミナティ』の邪悪な努力に同調したとして特に原理主義者キリスト教徒によって定期的に訴えられる人々の 1 人は、1919 年から 1949 年まで、チベットのマスター **Djwhal Khul (DK)** の筆記者として働いたアリス・ベイリーである。そして、マダムブラバッキーを通して与えられたように、教えの予備段階を詳しく述べた。

28

しかし、彼女の全く忘れられた本「戦争と平和のあいだ」は、間違いなく、彼女自身か人類の長老の・ブラザーズの意図をしめすものとして残されなければならない。

その中で、彼女は枢軸国の権力と第二次世界大戦の連合国の対立を人の神の性質の勝利のための基本的な精神的な争いと定義する。そして米国の大統領フランクリン・D・ルーズベルトによって、「我々の戦う 10 の現実的理由」で宣言されたものと、ヒトラーとムッソリーニの「4つの自由」として定められた狙いとを対比する。31

Notes

メモ

Richard Dawkins (2007), *The Enemies of Reason*, episode 2:

Richard Dawkins (2007)、*Reason の Enemies*、エピソード 2 :

'The Irrational Health Service'.

『Irrational Health Service』。

Channel Four TV (UK), 20 August.

Channel Four テレビ (英国)、8 月 20 日に。

2 Carl Sagan (1997), *The Demon-Haunted World*, pp.196-97 3 The Tibetan Master
Djwhal Khul, in Alice A. Bailey (1944), *Discipleship*

2 Carl Sagan (1997) (デーモン幽霊がでる世界) pp.196-97 3 が、Alice A. Bailey (1944)
(弟子としての身分) で、チベットの Master Djwhal Khul である

in the *New Age*, Vol.I, II th printing, 1985, p. viii 4 Ibidem, p.91

ニュー・エイジ、第 I 巻、II th 印刷、1985、viii ページ 4 Ibidem、91 ページで

Life, a universal principle 5 Benjamin Creme (2010), public lecture in Nagoya, Japan,

18 May. 6 Sylvia Cranston (1993), *HPB - The Extraordinary Life and Influence of*

生命、万能の主義 5 Benjamin Creme (2010)、Nagoya での全学共通講義、Japan、5 月

18 日。6 Sylvia Cranston (1993) (HPB) ー驚異的な生命、そして、影響

Helena Blavatsky, *Founder of the Modern Theosophical Movement*, p.xx

Helena Blavatsky、現代の神知学的な運動の Founder、xx ページ

7 Ibid., p.xvii

7 つの Ibid., xvii ページ

8 Helena P. Blavatsky (1890), 'The Dual Aspect of Wisdom '.

8 人の Helena P. Blavatsky (1890)、『知恵の二重面』。

Lucifer, Vol. VII, No.37, 15 September, pp.I-9.

魔王、第 VII 巻、No.37、9 月 15 日、pp.I-9。

Available at <www.theosociety.org/pasadena/hpb-sio/sio-dual.htm> 9 Benjamin

Creme's Master (1982), 'A new era dawns', *Share International magazine*, VoU, No.7,

July, p.2 10 Benjamin Creme (1979), *The Reappearance of the Christ and the Masters*

of Wisdom, p.222 11 See for instance:

<www.theosociety.org/pasadena/hpb-sio/sio-dual.htm で利用できて、>9 人の Benjamin

Creme は、Master (1982) (『新しい時代は始まる』) *Share International 誌*, VoU, No.7、

7 月、2 ページ 10 Benjamin Creme (1979)、*Christ の Reappearance と Wisdom* (222

ページ 11 See たとえば) の Masters である :

BBC News (2011), 'Buried city revealed by satellite'.

BBC News (2011 年 1 月)、『衛星によって明かされる埋込み都市』。

[online]

[online]

25 May. Available at <www.bbc.co.uk/news/world-13518143> [Accessed 26 May 2011]

5月25日。<www.bbc.co.uk/ニュース/世界-13518143> [2011年5月26日にアクセスされる] で Available である

Cover-ups, conspiracies and speculation 12 Pen name of Aladino Felix.

隠蔽、12のPenがAladino Felixの挙げる陰謀と推測。

It seems the ridicule that befell Mr Felix led him to eventually recant his claims.

Felix氏に起こった嘲笑が彼に結局彼の主張を改めさせたようである。

13 Alberto Perego (1963), L'aviiazione di altri pianeti opera tra noi:

13人のAlberto Perego (1963)、L『aviiazione di altri pianeti オペラ tra noi :

rapportoagli italiani:

rapportoagli italiani :

1943-1963, p.63 14 Gerard Aartsen (2010), George Adamski - A Heraldfor the Space Brothers, pp.52-54 32

1943-1963、63ページ14 Gerard Aartsen (2010)、George Adamski—A Heraldfor が、Space Brothers (pp.52-54 32) である

FROM COVER-UP TO CONSPIRACY

隠蔽から陰謀まで

15 George Adamski (1955a), Many Mansions, 1974 reprint, pp.5-6 16 Adamski (1955), Inside the Space Ships, p.99 17 Wilbert B. Smith, letter dated 23 February 1959, as quoted in Ronald Caswell (1967), 'In Defence of Wilbert Smith', UFO Contact, IGAP

15人のGeorge Adamski (1955a)、多くの大邸宅、1974の再プリント、pp.5-6 16 Adamski (1955)、内側に宇宙船、99ページ17 Wilbert B.鉄工、1959年2月23日に日付を入れられる手紙（そのことはRonald Caswell (1967)、『Wilbert 鉄工を守るため』、UFO 接点、IGAP で引用した）

Journal Vol.2, No.8, December, p.203

ジャーナル第2巻、No.8、12月、203ページ

18 Creme (2010), The Gathering of the Forces of Light - UFOs and their Spiritual Mission, p.48

18のCreme (2010)、光のForcesのGathering—UFOと彼らのSpiritual Mission (48ページ)

19 Laurent Basset (dir.;

19のLaurent Basset (dir.;

2002), The Secret - Evidence We Are Not Alone.

2002)、Secret — Evidence We Are Not Alone。

20 'Cutler-Twining Memo', 14 July 1954.

20 の『Cutler-燃糸 Memo』、1954 年 7 月 14 日に。

Source:

ソース :

Laurent Basset (dir.;

Laurent Basset (dir.;

2002), op cit.

2002)、前掲書に。

The authenticity of the MJ-12 documents has been confirmed by Benjamin Creme in a private communication between one of his London associates and a US co-worker.

MJ-12 文書の確実性は、彼の London 同僚と米同僚の 1 つの間の個人的なコミュニケーションにおいて、Benjamin Creme によって確かめられた。

21 Adamski (1957-58), Cosmic Science for the Promotion of Cosmic Principles

21 人の Adamski (1957-58)、宇宙主義の昇進のための宇宙科学

and Truths, Part 3, Question #57 22 Gordon W. Creighton (1963), 'The Italian Scene- Part3:

そして、当り前のこと、パート 3、質問#57 22 Gordon W. Creighton (1963)、『イタリアの Scene- Part3 :

Bruno Ghibaudi's contact claim'.

Bruno Ghibaudi の接点主張』。

Flying Saucer Review Vol.9, No.3, May-June, p.18 23 Wilbert B. Smith (n.d.), 'Official Reticence', Flying Saucer Review, Vol.6, No.3, 1960, as quoted in Timothy Good (1988), Above Top Secret, p.198 24 Lou Zinsstag & Timothy Good (1983), George Adamski - The Untold Story, p.44 25 Creme (2010), op cit, p.48 26 Ibid., p.49 27 Ibid., p.50 The new world order?

Timothy Good (1988)、Above Top Secret、198 ページ 24 で Lou Zinsstag と Timothy Good (1983) (George Adamski — Untold Story、44 ページ 25 Creme (2010)、オペ市民、48 ページ 26 Ibid.、49 ページ 27 Ibid.、50 ページ新しい世界順に) を引用される、空飛ぶ Saucer レビューVol.9、No.3、5 月に 6 月の、18 ページ 23 Wilbert B. Smith (n.d.)、『公式 Reticence』、Flying Saucer Review、Vol.6、No.3、1960 ?

28 Willy Brandt (ed.;

28 人の Willy Brandt (ed.;

1980), North-South -A Programme for Survival 29 Adam Curtis (dir.;

1980)、Survival 29 Adam Curtis のための南北の-A Programme (dir.;

2007), The Trap - What Happened to Our Dream of Freedom?, Part 2:

2007)、Trap — Freedom の Our Dream への What Happened ? パート 2 :

'The Lonely Robot' 30 Paul Hellyer (2010), Light at the End of the Tunnel.

『Lonely な Robot』 30 Paul Hellyer (20 は、私である 0)、トンネルの End の光。

A Survival Plan for the Human Species, p.211 31 Wikipedia, 'New World Order (conspiracy theory) - History of the term'.

Human Species, p.211 31 Wikipedia, 『New World Order (陰謀説) — 語の History — 』
のための Survival Plan.

Available at <en.wikipedia.org/wiki/New_World_Order_(conspiracy_theory)#History_of_the_term> [Accessed 31 March 2011] 32 Benjamin Adamah (2008), "De Illuminati bestaan niet" (The Illuminati do not exist).

「Illuminati bestaan niet の」 (Illuminati が、存在しない)、<en.wikipedia.org/wiki/New_World_Order_(陰謀説)#History_of_the_term> [アクセスされた 2020 年 3 月 31 日 11]
32 の Benjamin Adamah (2008) で利用できる。

Lecture for Delft University of Technology Studium Generale, [online] 3 November.

Delft 工業大学 Studium Generale ([直結] 11 月 3 日) のために講義を下さい。

Available at <collegerama.tudelft.nl/mediasite/Viewer.I?peid==1da12dee770a42f89000d42125d02cdf1d> 33 Bailey (1957), The Externalization of the Hierarchy, pp.121-124.

<collegerama.tudelft.nl/メディア人/Viewer.Iで利用できる?peid==1da12dee770a42f89000d42125d02cdf1d> 33 Bailey (1957)、Hierarchy の Externalization、
pp.121-124。

34 Bailey (1934), A Treatise on White Magic, 14th printing, 1979, pp.398-99 35 Bailey (1942), Between War and Peace, pp.62-64 36 Creme (2010), op cit, p.46 37 Andy Coghlan and Debora MacKenzie (2011), 'Revealed - the capitalist network that runs the world'.

34 人の Bailey (1934)、White マジック(ミサイル名)の上の A Treatise、14 回目の印刷、
1979、pp.398-99 35 Bailey (1942)、Between War and Peace、pp.62-64 36 Creme (2010)、
オペ市民、46 ページ 37 Andy Coghlan と Debora MacKenzie (2011) (『現される — 世
界を走らせる資本主義的ネットワーク — 』)。

New Scientist magazine No.2835, [online] 33

新しい Scientist 誌 No.2835、[直結] 33

HERE TO HELP:

ここで、助けるために:

UFOs AND THE SPACE BROTHERS 22 October, pp.8-9.

UFO AND THE SPACE BROTHERS は、10 月 22 日 (pp.8-9) である。

Available at <www.newscientist.com/article1mg21228354.5OO-revealed--the-capitalist-network-that-runs-the-world>.

OO を明らかにされる <www.newscientist.com/article1mg21228354.5 で利用できる — 花

粉囊パイ talis t-ネットワーク-その ru ns-theworld。

html> [Accessed 24 October 2011] 38 Creme (ed. ;

html> [2011 年 10 月 24 日にアクセスされる] 38 の Creme (ed.;

20 10a), 'Questions and Answers', Share International magazine Vo1.29, No.9, November, p.23 39 Chip Berlet (2007), 'Siren Song - Conspiracy!

2010a),『質問と Answers』,Share International 誌 Vo1.29、No.9、11 月、23 ページ 39 Chip Berlet (2007)、『妖婦 Song-Conspiracy !

!

!

The New Internationalist, issue 405 [online], October.

ニュー-Internationalist、問題 405 [直結]、10 月。

Available at <www.newint.org/features/2007/10/01/paranoia/> [Accessed 1 August 2011] 40 Benjamin Creme's Master (2011) , 'The voice of the people is heard'.

<www.newint.org/features/2007/10/01/paranoia/>で利用できる[アクセスした 2011 年 8 月私] 40 人の Benjamin Creme の Master (2011) (『人々の声は、聞こえる』)。

Share International, Vo1.30, No.2, March, p.3

割当 International、Vo1.30、No.2、3 月、3 ページ

41 Adamski (1955), op cit, p.241 42 Bailey (1951), A Treatise on the Seven Rays, Volume III -Esoteric Astrology, 10th printing 1975, pp.472-73 34

41 人の Adamski (1955)、オペ市民、241 ページ 42 Bailey (1951)、Seven Rays の上の A Treatise、巻 III-Esoteric Astrology、10 回目の印刷 1975、pp.472-73 34

3.

3 章.

Meanwhile, in reality

一方、実際におきていることは

以上のように、多くが恐れる陰謀は、大部分は地球外の実在の最初の隠蔽の結果生まれた人々の想像力の産物で、古い時代の権力の現実に、部分的に一致するだけである。

そして、それは、人々の必要に貢献する代わりに、古い時代の権力を持つ者たちの限られた利権を保護する。

ますます、これらの地球を取り巻いた陰謀は、疑がわれている『宇宙からの』脅威と混ぜこぜにさせられた

それは、UFO の現実と起源そして、スペースからの来客と 20 世紀の後半に起こった公共機関との接触について、世間に知らさずしておくために生じた

その結果、多分我々を理解し慈悲深い宇宙からの訪問客がいるのに、現在人々の多くに、相当な人数が、人々を『誘拐し』人々を服従させるといったすべて極悪方法と目的のために、ここにいることを確信させた、そしてこうした極悪な宇宙人は千年以上地球に継続していたとは言えないとしても、少なくとも数十年の間は来ていたと言ったとしても、多くは意味をなさない。

彼らが惑星または人類を征服することに関して真剣であるならば、アダムスキーは「彼らの優れた知識で」「彼らは、ずいぶん昔に世界を征服することができたはずだ」と叫んだ。

"1

人々が『宇宙人のアブダクション』の主張の有効性を当然のことと思うとき、一貫して無視される 1 つの事実は、初期のコンタクティの誰もがスペースからの来客者によって誘拐されたことについて決して話さなかったということである。

隠れた政府職員が 1950 年代のコンタクティに反対するため彼らの中傷と偽情報運動を開始したあと、始めて『アブダクション』についての話は現れ始めた、そして、特にジョージ・アダムスキに対しては標的にされ、その人は、彼らの間で最も人気があつて有名であつた、そして世界に偏在する読者と連絡をとっていた

そして、組織化された反対キャンペーンと破壊活動で応じられた初の個人であつた。

2

スペース訪問客の意図について尋ねられて、アダムスキーは、かつて以下のように述べた：

彼ら宇宙人が取り出しす力は、我々の所有する最大の爆弾を 7 月 4 日の役に立たない爆竹のように見せることを、みんなは知っている。

この事実は、彼らの敵意に関する質問に十分答えてはいるのではないか？

私の知っている限りでは、宇宙旅行者から地球の人々の方への敵意が証明された事件は、なかった。

あなたはこれまで怪物に関して報告した、完全な高高度飛行のための認定記章のある我々のジェットパイロットの 1 人に会ったことがありますか。？

私は、あなたが見たと報告する怪物は宇宙航空機の珍しさと近づき過ぎた事に起因する激しい恐れの結果と、なじみの薄い宇宙人のユニフォームの形態にあると思っている。」

3

宇宙人から放射され実験され、インプラントその他を与えられたと主張するそれらの人々からのレポートには真実が何もない？

Benjamin Creme によると、このレポートの全ては、全く偽りである。

そのような出来事は一つとしてない。

これらの物語の全ては、人々のアストラル界の想像力によって結果的に熱がでる

そしてその人はアストラル界の感覚でこれらを感じて、そう動く、

彼らはそれを他の人に話して、風潮を造っていく；

または世界の特定のネガティブな勢力と働く

世間からこの惑星を地球外との関係の現実を遠ざけることが、狙いである

4

同様にかってアダムスキーは、「他の著者によって本に書かれたことは、本物なのか」という、質問に答えて言った：

「書いた人々の多くは彼らの経験が本物だと思っていることが私にはわかるので、これは嘘だと言う事は、賢い行為でない。

彼らにとっては、これらの経験は本物である。

しかし、そして夢想家の、夢でもある。」そして、コンタクトについて書かれる記事の多くがこのカテゴリーに分類されることは、不運である。」

36

スティーブン・グリーア博士 (Disclosure Project ディスクロージャープロジェクトの創設者) は、彼の組織が ET に関連する数 10 のパターンがまわりに集まっている偽コンタクト経験 (別名アブダクション) 切断、生体解剖 // などの「偽造 UFO 1」事件を発見したと 2006 年に書いた。

多数の、確証となる軍のおよび影の半政府要員である目撃者は、彼らの心理戦争のために実際に伝導誘拐と切断を証言した。

そのような目撃者、特別な軍事行動と関係している陸軍レンジャー部隊は、以下のように私に述べた：

『我々が― 著名な軍人と政治家を含めて何人を誘拐して、彼らが ET 存在を憎むことを学んで、彼らとの争いを支持するようにそれを怖がらせたかはあなたは全くわからないだろう。』

6

これが恐れと無知によって引き起こされた「風潮」であるというクレームの断定は故ハンス C.ペーターセン少佐（デンマークのアダムスキーの同僚）によって引合いに出される世論調査の結果で支えられている

彼は、「カナダ、米国、中央アメリカと南アメリカで報告された誘拐の例はアメリカ大陸の外では最近まで、主に存在しなかったと言った

最近の世論調査では、1000 万人のアメリカ人は、彼らの誘拐の存在についての信念を示した

突然その存在を主張されたアブダクションは、ある時点で急速に伸び始めた。今日、2%がどこかほかで見つかる ― 一般的にイングランドとドイツ ― のに対してすべてのアブダクションの存在を主張する 98%がアメリカの大陸で起こったと言う°。

" 7

天体物理学者と宇宙論学者の Carl Sagan 博士は彼の 1993 年の『彼らは、我々を迎えに来ているか?』という記事で、指摘した。（ただ彼自身は地球外宇宙人による UFO 現象の説明を拒絶したようである）、：

「額面通りに外国の誘拐物語を受け入れる人々はアメリカの大人を対象にしたローパー世論調査に基づいて特に動かされ権威を与えていた、

世論調査のスポンサーはすべてのアメリカ人の 2 パーセントがアブダクションされ、そして、他の世界からの存在によって繰り返しそれをされたという結論を出した。彼ら自身それを信じているというものだった。

37

宇宙人がアメリカ人をとくにえこひいきしていないとするならば、惑星の全部の人数は 1 億人以上であるだろう。

これは、二、三秒ごとに、アブダクションされていることを意味する。

隣人の多くが気づかずにいたことは、意外である。」

セーガンは、あてつけに以下のように付け加える：

なぜ、巨大な恒星間の距離を超えて到来しているような物理学とエンジニアリングでとても進歩した存在が、過去の生物学を基にした考えで実験しなければならないのか？」

B

本当に、ベンジャミン、Creme は以下のように言う : [Space Brothers] は、この惑星の人々から遺伝子を取り出したり、性的な実験を実行しなければならないというのは、完全にナンセンスである」

that [the Space Brothers] should carry out genetic or sexual experimentation on people from this planet

when they have a technology which is several thousand years ahead of anything that 彼らには何より今日数千年先と考えることができるほどのテクノロジーがある。それは、スピリッチャルなものに関心を向ける人々の賢明で優れた概念を攻撃する馬鹿げた計画的な方法である。

「9

Elsewhere he adds:

どこか他の所で彼はつけ加える :

" [特に米国に、Space Brothers を長年中傷することを仕事にしている機関がある。

彼らは政府関係機関であるが、管理する当局に、必ずしも知られているというわけではない...彼らは特別な仕事の専門家である。そして、それは人間の心を腐敗させることになっている...

"10

彼が言った事はイタリアのコンタクティ Paolo di Girolamo によって補強される。その人はイタリアの Arnicizia (友好) の関係者の 1 人であった、そして、その人は以下のように彼の本 Nai eLora (『我々と彼ら』) で言った :

「我々の世界 (特にアメリカ) の政府は世間に地球外生物のネガティブな見方を与えることにすべての関心を持つ。だがその実その地球外生物の人たちはその代わりにポジティブな意図によって動機づけられているように見える」

II

著者は言う

我々は、彼らが我々に与えたテクノロジーを使用している、そして、彼らに存在していない敵意から地球を『保護し』、『守るために』) 高額のお金を使っている。

陰謀理論家が疑い、または明らかにした莫大な『秘密会計』予算の主張は、火星での神秘的な基地建設よりはむしろ薬物または催眠によって誘発された『アブダクション』、キャトル・ミューティレーション、その他を行うのに用いられているだろうといった、事実はその報告に見ることができない。これは、地球外の宇宙航空機の現実を認めることは、大部

分の科学者を悩ませているのと似た、現実を説明する上での盲点を示している

38

評判の良い目撃者 Reputable eye-witnesses

政府高官、または、当局とのコンタクトについては通常、この議論においていつでも、見落されるもう一つの有意な要因であることは事実である。

-歴史的に、または現代において-彼らの個人的経験は記録に基づいており彼らのコンタクトの説明は、満場一致で良好である。

これらは主に、彼らの話に外から塩をふりかけることによって、世間的信憑性に関してすべて打ち負かされた人々であることは、ここで注意されなければならない

そして、もし彼ら地球外生物を特権的エリートが所有し使用しているならばエリートは地球外生物の否定的な認識から利益を得るはずなので、彼ら自身の利権に反した行動をしていることになる。

現在、政府と軍当局者が、地球外の航空機とその能力についての彼らの知識とかそれに接した経験について答える機会の急増に加えて、他の惑星からのスペースピープルが地球上で最高に高い地位の個人と連絡したような、いくつかの目立つ事実が、最近明るみに出た。

Kirsan Ilyumzhinov (南ロシアの Kalmykia 州の大統領) がそのような遭遇に関係した。その人は 1997 年 9 月 18 日にモスクワのアパートで地球外の訪問客に会って、彼らの宇宙船に乗って時間を過ごしたと、言う。

ロシアの主要なテレビチャンネルのジャーナリスト・ウラジーミル・ポズナーとの会見において、One Mr Ilyumzhinov はその経験を説明した

彼は、バルコニーのドアが開くのを聞き、そして、誰かが彼を呼んでいた。

それを見るために行ったとき、彼は宇宙船に招き入れられて、旅行をした。

その朝、アパートが空であるとわかると、即座に彼の運転手、政府大臣と彼の秘書が全面的な捜査を開始しようとしていたとき、大統領は、彼の地球外のホストによって家にちょうど連れてこられた。

39

イリウムジノフ氏は 1995 年以降世界チェス連邦 FIDE の責任者でもあった

彼が以下のように言ったとき、彼がテレパシーを通してスペース訪問客と情報交換したことを示すようだった：

「私は、彼らと話すためにどの言語を使用したか、しばしば尋ねられた。
おそらく、それは普通の考えの交換領域のレベルの上でおこなわれた。」
後に続くことはインタビューの部分の写しである。そして、それは 2010 年 4 月 26 日に放送された：

「1997 年 9 月の土曜日の夕方であった。
ここモスクワの Leontiefski Lane で、私はアパートのテラスにいた、そして、私はすぐに Kalmykia を去らねばならなかった。
その晩、私は本を読んで、テレビを見ていた、そして、私は休んだ。
私は寝入った、そして、誰かが私をバルコニー・ドアを通して呼んだという感覚があった。
そして、それは開いていた。
起きたとき、私は一種の半不透明の月のようなものを見た。
私はこのチューブに乗り込んだ、そして、私は黄色の宇宙服を着た人々を見た。

）彼らは、私を連れて行ってその宇宙船を訪問したが、そのとき彼らは以下のように言った）、：

『我々は、この惑星のどこかでサンプルをえる必要がある。

『それから、話をした：

『なぜ、あなたは、ここにいて言うって、テレビで生放送しないのか？』、『皆が見られるようにして、我々と情報交換すべきだ。』かれらは私に言った：

「世界」はまだ、我々に会う準備が出来ていない。

『その後で、彼らは私を家に連れ戻した。

その朝にアパートに到着して、私がそこにいないとわかった 3 人の目撃者—運転手、大臣と私の秘書—がいなかったならば、私はおそらく私自身もそれを信じなかつただろう。

バルコニーのドアは、開いていて私が居ないのでどうしたのか不審に思った。（私のアパートは最上階にある）。

彼らはあたりを見まわして、友人に電話をし始めた...

私の〔携帯〕電話その他いろいろがそこにあったので、彼らは台所に座り、電話する誰かを見つけ、あるいは、誰かとコンタクトした。

アパートはロックされていた、しかし、彼らは自身でアパートの鍵を持っていた。

彼らは私がベッドルームから出てくるのを見た、そして、彼らは台所にいる私の後に続いた。

彼らは、私を見た、そして、私に『あなたは、どこにいったのか？』と尋ねた：

私はそれが普通であるように彼らに、すると、『私は、UFO にいてそれで飛んできた。』と答えた。

彼らは狼狽して、つけ加えた：

『我々はまじめに聞いているのです。

40

「それで、私は座って、私自身で論理的に考えた。

彼らがそこにいた間、ほぼ 1 時間、ずっと私はアパートにいなかった。

彼らのうちの 1 人がロビーにいたので私はそこを通り抜けることができなかったので、開いたバルコニーを見渡す出窓がある部屋から出ていった。

数ヶ月間あまり、これについての衝撃は、彼らに残っていた。

「さて、無理もない話だがそう、それが私でなかったら、私もそれを信じないだろう。

あらためて、私が振り返って再び彼らについての話しを思い返す時まだ私自身でそれを信じるのに苦労する。」

12

多くのメディアが Ilyumzhinov 氏の経験に言及したときも、彼は「アブダクション」という言葉を彼自身決して使用しなかった。

実際、英国のテレビに関するインタビューにおいて、彼は以下のように地球外からの訪問者について言った：

「彼らは、我々のような人間である。

彼らには、同じ考え（同じ見方）がある。

私は彼らと話した、私は我々がこの「宇宙」の全世界で孤立したものでないと思う。

我々は、ユニークな存在ではない。」

13

すでに彼が 2002 年 7 月 22 日にラジオ・スポボダで彼の経験について話したように、イリウムジノフ氏が地球外生物との彼のコンタクトについて意見を述べたことは最初でなかった。

しかし、2007 年のプライムタイムのテレビの彼への率直なインタビューは、イリウムジノフ氏が州の秘密を偶然に明かしたかどうか調査するように自由民主党の議員がロシアの大統領メドヴェージェフに頼むよう促すことになった。

In a letter to the Kremlin, Mr Andrei Lebedev, a member of the parliament's Security Committee, wrote:

Kremlin への手紙では、Andrei Lebedev 氏（議会の安全委員会のメンバー）は、書いた：

I ask you to say

私は、Kalmykia 州の上部責任者がロシアの大統領に宇宙の文明の典型との彼の接触について公的報告をしたかどうか、あなたに言うようお願いする

Ilyumzhinov のような秘密情報にアクセスするような高級な人々にはそのようなコンタクトを知らせるための確立した手順が、あるのか？

And did he in the course of his seemingly innocent conversation disclose secret information?"

そして、彼の一見純真な会話の間に、彼は、秘密情報を明らかにしたというのか？」

静かに、イリウムジノフ氏は、答ええた（その人は 1993 年以降カルムイキアの仏教共和国の知事であった）：

41

「Pozner は尋ねた。

私は答えた。

尊敬されたロシア帝国議会代理アンドレイ・レーベジェフを含む誰かならば、これ以上質問をするだろうが、私は会って、どんな話題でも、検討する準備ができています。」

14

代理のものからのものではあるが、スペースピープルに会っていた世界的リーダーである故ドワイト・アイゼンハワー米大統領が関係する類似した報告がある。

2010 年 5 月 8 日にリリースされた声明で、以前の米国の国家下院議員ニューハンプシャーの Henry W. McElroy Jr は、以下のように言った：

非常に先進の知識と情報が現時点と、将来の人間のいろいろな問題を解決するのを援助することができるということを、我々は知っている。」

マケルロイ氏は、州で政府関係と退役軍人問題委員会に貢献する間、彼が見た文書について彼は個人的な証言をして、撮影し、YouTube で公表した：

「私が認めた文書は、アイゼンハワー大統領への公式要約報告書類であった。

この要約は希望感で溢れていた、そして、それはここアメリカ合衆国のアイゼンハワー大統領に地球外の実在の継続した存在を知らせていた。

「これらの訪問客にはいかなる場合も、なにも危害の原因になることはなかった、それから、または、将来何にも混乱の原因となる全く少しの意図もなかった、要約のトーンは懸念の必要がないことを私に知らせた。

1961 年の彼の告別の辞の彼の楽観主義のため、アイゼンハワーがこれらの地球外の、離れた世界からの宇宙飛行士に本当に会ったと、私は個人的に思っている。」

McElroy は、以前の数人の軍と海軍と国家公務員だけでなく以前の宇宙飛行士にも感謝を続けた。

「その人たちは、アメリカ国民が公的に彼らの報告書を共有できるようにしようとし、我々の存在についての知識をより高い理解まで上げる努力した点で、米国民の感嘆に値する」

面白いことに、UFO 研究家は大統領アイゼンハワーは、カリフォルニア（1954 年 2 月）、そして、再び 1955 年にエドワーズ空軍基地で宇宙からの訪問客に会った。と長く主張してきた。

Significantly, in this context

この文脈において、ジョージ・アダムスキは、1955 年 9 月のデトロイト担当大臣と一緒に彼の記者会見で、意味ありげにエグザミナー Examiner の記事に言及した。

それは、1955 年 7 月にドワイト D.アイゼンハワー米大統領、英国のアンソニー・エデン首相、ソビエト連邦の首相ニコライ A.ブルガーニン、そして、フランスのエドガー・フォール首相との間のジュネーブ会議で、この 4 大国は人々に関する状況を検討したというものである。―彼らは宇宙船とは言わなかった。しかし彼らは「他の世界の人々」のことを「人々」と言っている。しかも彼らは、ここにいる！とも言ってもいるのである＞

ヘンリー・マケルロイによって報告された「希望感」は、例えばジョージ・アダムスキとウィルバート・スミスといった初期の塩をふりかけられたコンタクティーからの情報だけが伝えているわけではない

UFO が植民地を作るとか、人類に勝つためにここにいるならば、それは数世紀前に彼らの優れたテクノロジーでそうすることができた。

第 1 章で述べた Robert Salas のような軍当局の証言においても、反響している。(核兵器の収容サイロの上の UFO の存在はこれらの基地を武装解除するとしても、明らかに何らかの損害を与えるつもりはなかったと、その人はコメントした)

In confirmation of the Eisenhower brief,

アイゼンハワーへの要約報告の確認にもあった、

one of the Majestic-12 documents (see Chapter 2) that were leaked to US researcher Tim S. Cooper

Majestic- トウェルブ文書（第 2 章で見た）の 1 つは米国の研究者ティム S.クーパーに漏洩され 1994 年に次のように述べ始めた：

目的と方法に関しては、我々は確信してない、しかし、これらの訪問客が征服をするつもりであるならば、それが彼らにとって難しくなく、自由に我々の空域を透過する彼らの能力と、電力網は言うまでもなく、ラジオ、電話、テレビジョンとテレタイプ通信の変換装置を動かなくする彼らの能力を与えられていることは明白である。」

The Vatican connection

バチカンとのコネクション

インディペンデント紙のいくぶん哲学的解説において、

英国の宇宙科学者デービッド・ホワイトハウス博士は知的な地球外存在によって、現在の宗教のあり方と異なるものになりうる可能性を最近示唆した。そして、言った、

：イスラム教は、彼らを歓迎する。コーランは、宇宙からの生命に実際に言及している、

43

そして、一部のイスラム教徒は言った。

我々以外にいるその圧倒的多数を我々が決して見ないでいる時を楽しむために、神が我々のために広大な宇宙をつくったと仮定することは、高慢である」。

地球外生物への仏教とヒンズーの反応についての彼の説明で、

一なるものとの統一という彼らの原理によれば、ホワイトハウス博士は、はるか遠くまで同じ価値観が共有されると言う、彼ら仏教とヒンズー教徒が、意識の宇宙兄弟の関係の一部として彼らを受け入れることに問題がない」。

科学が我々自身の惑星の外で生命を発見したならば、キリスト教が『新しい』現実に適応することが最も苛酷で困難であるとわかるかもしれないと、**Whitehouse** ホワイトハウス博士は思う：

ある日、我々は宇宙人と談話するかもしれない。

将来の法王とその仲間は、信仰についての疑問を議論するかもしれない。

しかし、それが起こる前に、調査そのものが我々の信条についての最後の不快な質問に直面させる。

もし我々が『神のイメージとよく似たもので』作られたならば、生きものは、宇宙の深いところにもいるとして、それは我々との間に生物学的類縁関係を負わないのか、また、神のイメージで作られているのか？」

19

しかし、同じ記事では、ホワイトハウス博士も、バチカンの天文学観測所の責任者 **Jose Gabriel Funes** によってなされた声明を引合いに出す

2008年のイタリアの新聞 **L'Osservatore Romano** のインタビュー記事で

神は宇宙の他の部分で知的な生命をつくることができた、そして、彼らは我々の兄弟でさえありえる」、声明は世界中で急速に広がった。

Vatican と **UFO** の間の関係は、米新聞社と英国の新聞 **The Sun** で 1985 年 7 月 23 日最初に公になった。

それはヨハネス 23 世 1960 年代の法王（別名「グッドポップ法王」）の間、何千もの奇跡

と治癒は、世界中でされ、地球外存在との遭遇がされたことを明らかにした。
文書で十分に裏付けられた遭遇は、1961年7月にある晩、カステル Gandolfo（イタリア）
の法王の夏の住居で行われた。

44

庭にいる間、Pope と彼のアシスタントの1人は空に変わった航空機を認めた：

「それは卵形で、青くて琥珀色のせん光灯を持っていた。

航空機は2、3分こちらを向き我々の頭を飛びこえるようで、そして、庭の南端の、草の上に着陸した。

変な存在が、航空機から出てきた、

彼は人間的に見えたが、彼は金色の明りに囲まれた、耳を示した。

法王と私は、ひざまずいた。

我々は、何を目撃しているか、わからなかった。

しかし、我々はそれがこの世界からのものではないことを知っていたので、それは天からの出来事でなければならなかった。

Holy 聖なる父は立ち上がって、その存在の方へ歩いた。

彼ら二人は、一緒に 15～20 分を過ごした。

彼らは互いに強烈に話したようだった。

彼らは私を呼ばなかったので、私はいたところのままで、会話は何も聞くことができなかった。

その存在は、向きを変え、航空機の方へ歩いた

そして、そこを離れ去った。

法王は私の方へ来て、私に言った：

『神の息子は、至る所にいる。

時に、我々は我々自身の兄弟を認めることは困難である。

"

これが書かれた時、このレポートには、多くの影響はなかった

しかし、2007年に、それはイエス・キリスト（Higinio Alas）の Ecumenical カトリック教会の司教によって、ペルーの UFO Expert 会議で再び議論された

その人は電話インタビューで、以下のように言った：

「我々が現実の中に神を信じるとき、父は宇宙の全てに彼の刻印シールを押した、神の生命の刻印のシールである、生命は、他の銀河と惑星にもいなければならない」。

その後この物語は、メキシコの UFO 研究者 Jaime Maussan によって、彼のテレビ番組 Tercer Milenio で取り上げられた。

20

A description in the book

「Le proiezie di Papa Giovanni パパ法王・ジョヴァンニの Le proiezie di」(Pier カルピ著
「ヨハネ John 法王の予言」1976 年)

という本に書かれたことによると事件は 1935 年に起こった。この法王とスペース訪問客の
間での近接遭遇を考えるとこのことの重要性は増してくる。

バラ十字会員の寺院で行われる入会儀式で、兄弟の 1 人は、自分の声ではなく話し始めた。

大法官は、兄弟が言ったすべてを書き写すよう命令を出した：

天国の明りは、赤くて、青くて、緑である。そして、彼らは速い。我々地球の息子に会いた
いと思って誰か遠くから来る。

45

そして、すでに、遭遇はおこっていた。

しかし、その人は本当に彼らを認めても、黙ったままにしていた」。

この兄弟は(イタリア) Bergamo の司教、アンジェロ Roncalli であった、その人は、後で
ジョン XXIIIP という名前で法王になる』

面白いことにこの傍注として、ヨーロッパの彼の最後の講義ツアーの間、ジョージ・アダ
ムスキーは 1963 年 5 月 31 日にヨハネス 23 世法王に会った。

ルー Lou Zinsstag (その人は彼とヨーロッパの彼のツアーの多くに同行した) によると
アダムスキーは、スイス衛兵の脇を通して聖ペテロドームの左にある、高い木製の入り口
の 1 つにある、小さな戸口から法王の住居へ入ることを許可された

彼は、Zinsstag 夫人に後で話した

彼は法王によって本当に迎えられた。そして、法王は以下のように彼に言った：

「私は、あなたを待っていた。」

旅行の初期にコペンハーゲンでスペースブラザーから受けた秘密のメッセージを、彼は法
王に手渡した。

お返しに、法王は新しい Ecumenical エキュメニカル会議のメダルを、アダムスキーに渡
した、

それは、ヨハネス 23 世法王の死去の後の 2 日後に、発売されただけである。

22

スペース訪問客の性質について証言した世間的名士のもう一つの例は元宇宙飛行士、エド
ガー・ミッチェル博士である。

彼が英国の 2008 年のラジオ・インタビューで以下のように言ったとき

厳しく訓練された科学者として、月を歩いた 6 人目の男として、ミッチェル博士は、彼の
評判だけでなく、彼の専門的経験においてもこれは、支持されるべきだ

「宇宙を通して生命がある、我々はまったく宇宙で一人ではない。

C..

C。

.

私は、確かに、我々が宇宙で孤立した一人でないということを知っている。

私は、我々の惑星を宇宙人が訪ねた事実と、UFO 現象は本当であることを知る上で、偶然十分特権的な立場であったので政府によってそれが非常に長い間隠されてきたことも理解している。

46

しかし UFO の性質について広く知られたことは実際の知識より、ナンセンスなことが多くあるとミッチェル博士は言う、

「いくつかのコンタクトは本当である、そして、その事実と進展は我々にほとんど知られている」とその人は説明されて、内容は詳細に知らされていたといった。

地球外の訪問客の意図に関しては、Mitchell 博士は、司会者と彼のリスナーを明白に安心させた：

「ちがう、ちがう、それは敵対的でない。

そのことは、かなり明らかである

それが敵対的だったならば、我々は今ごろはそこから去っていただろう。

、そしてそれが彼らの本当の意図だったならば、我々は防御できない。」

23

Spiritual reality check

スピリチュアルな現実のチェック

これらは、世界の異なる地域の、いろいろな人生の状態が評判の良い直接の目撃者の若干の例である

その人達は彼らが会ったか、知っているスペース人々の著しく穏やかな意図を証言する。

このように宇宙からの来客者が利己的な目的のためにここに来ていないと、現在主張するのは、初期のコンタクティまたはベンジャミン・クレームだけでなく、数人の高い地位の高官と政府関係者もいる。

Having advanced to the point

彼らは、おそらく、生命についてといろいろな、自然の王国の徴候について多くを理解し適切で先進の知識を得ている

我々より、スペースピープルは、我々が自分のことを理解するより我々について多くのことを当然知っている

したがって、彼らの利益のために、結果的に秘密にされる極悪なことは、単に何も実行する必要がない

推論された事実結果から人はほとんど宇宙人をこれらの醜いもののかき立てて、擬人化して、言う、

Adamski が以下のように説明したように：

「我々が他の世界から兄弟を認めることができる前に、我々は我々自身を知らなければならぬ。彼らと我々の違うのはその理解の質だけである。

"24

その自覚は、意識の増大と進歩のための必要条件のようである

何をおいても、すべての時代の主要な教えの教師は、我々に勧める

我々が進化の通り道で進歩するならば、デルフォイの託宣「汝自身を知れ！」のように我々自身の本当の性質、について学ぶことだ。

47

同様に、出所の怪しいトーマスの福音書によれば、イエスは以下のように言った：

「あなた自身を知るとき、あなたは生きた神の子供たちであることを知る、そして、あなたはそれを理解する。

「25

または、H.P.ブラワツキーは述べる：

"．とつくの昔に、人が何であったかと、人の起源、命のサイクルという問題の秘教的な哲学の解決はされていた、そして今も解決されている；そして、彼が出発したところの源泉へ最終的に統合される。

「26

Source 源泉への進化の通り道で我々より前にいる人々は、平均的な人類より我々の本質で多くのものを理解しており、したがって、彼らの働きで人間の状態を表すことがよりよくできる－彼らが、アーティスト、作家、作曲家、科学者、哲学者または先生である。

27

これは、ベンジャミン・クレームによって主張を支持されて十分な証拠を与えられたベンジャミン・クレームの働きは、H.P.ブラワツキー（HPB）とアリス・ベイリーによる本の推敲によって築かれた基礎を基にした

それによれば、スペースピープルとの本物の接触は、人類の宇宙的眠りからの目ざめを支持し、常に良い面の性質がある

それは、Atlantean アトランティス時代に、人類が経路からはぐれ始めたとき見失った宇宙兄弟の意識との関係を再結合する準備のために、この惑星のための進化の計画が配置されている。

多くの意識の「大躍進」の予測や、次元の入口を開くこと」人類の「アセンション」または単に精神的な認識での「進展」といった多分独自の異なる表現で多々知らされているが、世界の心のベルトでつながれた人類は、もう一度生命の精神的な現実と直面する準備ができています。そして、それは時を越えた地球と地球外の起源からの教訓で、永遠に繰り返言われてきた事実を表す概念で満ちている

ーすべての生命は、相互に関係している（それゆえに、我々の関係は無害なものであることが必要である）、

まったく、我々自身とこの惑星の最終的な破壊を防止しなければならないとするならば、我々はこのことが実現する方法を見つける必要がある。

48

要するに、人類はその計画の部分に対する責任をとらなければならない。

人間の王国が意識で発展しているという事実の面白い実例は、2つの『超自然』的発生の例から来る。（ほぼ1世紀間隔で）

最初は「神智学 Theosophist」（HPBによって編集される）の記事から得られる。これはわずか130年前西洋の世界がまだあの世についての考えに真剣に取り組んでいたことを示す。1880年7月号で、HPBの姉妹 Vera Zelihovski は彼女の故郷 Tiflis (Tbilisi) で、ブラバッキーの息子が地元の宿で事件で偶然に殺されたときの、未亡人ブラバッキーの物語を語った。

犯人はうずたかく積まれた干し草の中に死体を隠した、しかし、彼らが次の夜それを処分する前に、青年（または「星の倍」）の幽霊は彼の母を彼の物体が隠された場所へ案内した。

28

第2は、最初、秘密のレポートで見つかったと言われている物語である

それはソビエト連邦を離脱した科学者によってソビエト連邦から密かに持ち出され、1985年10月22日の版の、Weekly World News によって掲載された。

そのレポートによると3人のソビエト宇宙飛行士が最も恐るべき光景を目撃したという。彼らが宇宙ステーションソリュート7号に乗って、155日目の1985年7月に彼らが見たものは、翼の輝く天使の団であった。

ジャンボジェットと同じくらい大きさの彼らの顔は、天使のような微笑で旋回した。

12日後に、6人の他のソビエト科学者（宇宙飛行士 Svetlana Savitskaya を含む）によっても認められた。

「彼らは微笑んでいた」と、彼女は言った。「彼らは素晴らしい秘密を共有した。」

この現象の性質について尋ねられて、
ベンジャミン・クレームのマスターは、シェア・インターナショナル誌で説明する
それは、アストラル物質に投影されたビジョンであった「その目的は、より高い世界とその意味についての考えを彼らに思い出させることであった...

"29

意識の拡大で、世界は着実に小さくなった。

49

Benjamin Creme が言うように、人々は、何が世界で起きているかわかっている。
彼らは、人々が死ぬほど飢えているということを知っている。
America と Europe などの大きい豊かな国の人々は、人々が死にかかっているということを知っている。
我々は、テレビ画面で彼らが死んでいくのを見る
しかしコマーシャルをとばすために、我々がスイッチを切れば、もはや見ない。
スイッチが切られたとしても、人々は常に、飢餓で死にそうになっている。
毎年病気で 500 万の子供たちが死ぬ原因は、栄養失調によるものだった。
これは、起こしてはならない。
我々は、すべてのこれらの病気を根絶する方法の答えを受け取る。
世界には一人当たり 12 パーセント食物の余剰がある。
それは、単に配送されないだけのことである。
経済問題に対する解答は、世界の資源の再配分の問題である。
これは、世界に普遍的な正義を成就させる、したがって、平和をつくる。それは、平和への唯一の道である。

" 30

人類の本当に挑戦すべきものは、邪悪な『宇宙人』または逃亡しここ、または、我々の太陽系の他の惑星の部分に潜伏する素晴らしい『文明を壊す』悪徳実業家ではない

しかし、我々自身の無知と恐れと貪欲によって我々は分断され、その結果—我々のスピリッチャルな性格についてというよりは、生命のスピリッチャルな性質について不案内となり、恐れが活発になった、そして、しばしば犯罪的な、悪徳実業家の自宅のサービスと、政府情報部員の秘密の努力によって生まれる—『ハリウッド映画』によって補強される。そして、誰もが人類の惑星間の援助者の良い知識に対して不正確で不当な描写を恒久化する。

民衆をスペースからの来客の本当の性質について知らないようにしておくために、世界の政府が長年行ってきたので、この問題の適切な推理と研究は、恐れを基調とした推測に代わった。

そして、経済と軍の利権をもとめる彼ら自身のイメージを基に—すなわち絶えず権力を求

める空腹な権力者のイメージによって、スペースピープルを演じようと企んだので、スペースブラザーズの実際の訪問の目的に従って、最初のコンタクティが、世界に伝えた希望のメッセージは、邪悪な宇宙人の利己的で有害な陰謀説に、すり代わった。

50

-

我々は、こういうことは重要でないのを思い出さなければならない

人がベンジャミン・クレームの主張を信じるならば、彼は、智慧のマスターズの 1 人と恒常的なテレパシーで接触中で、コンタクトがなければ利用できない独特の洞察を彼に与えている

だが Creme の権威である地球の上の地球外存在は、我々が恐れるものは何もない、むしろ無条件の天の恵みであることを信じるべきだ』

現在明白でなければならないように、地球外の訪問客の穏やかな性質に対する議論は時を越えた智慧の教育の遺産だけで支えられてはいない、

それらは、我々自身の惑星にいる知恵のマスターズ、人類の歴史の教師そして、ベンジャミン・クレーム以前の彼らの弟子の多くの人生と働きに見られるような、人々の存在について話し、その人たちは、厳しく人間の状態の向こうまで進化したが

それだけでなく初期のコンタクティの証言によっても、以降の権威者による偽りは暴かれている。

31、

そのうえ、直接、または、代理で、我々は後のコンタクティの証言をする。そして、その人の何人かは世界、異なる世代と異なる分野の異なる部分の当局と高官である。

前の章で文書化されたように、陰謀説の実際の起源については、純然たる事実と結合される

これらは互いに意味をなし互いに支持するだけでなくこの総計は行為と経験への砦となるしかしそれだけでなく、また、内部の論理を含み、人類の共有遺産を構成する既存の知恵、知識と経験を基にしている。

まとめると、これらは、最初のコンタクティを通して届いた、希望のメッセージを失格させるためにプロモートされた邪悪な『宇宙人』というイメージを信じさせる基礎となっている、侵略する宇宙の概念を完全に論破する。

51

Notes

1 George Adamski (1957-58), Cosmic Science for the promotion of Cosmic Principles and Truths, Series 1, Part No.3, Question #58 2 See Gerard Aartsen (2010), George Adamski - A Herald for the Space Brothers, Chapter 3, the section 'The opposition', pp.50-55 3 Adamski (1957-58), op cit, Part No. 1, Question 20 4 Benjamin Creme (2001), The Great Approach - New Light and Life for Humanity, p.131 5 Adamski (1957-58), op cit, Part 5, Question #88 6 Steven Greer (2006), 'Exopolitics or Xenopolitics'.

1 人のジョージ・アダムスキー (1957-58)、Cosmic Principles の昇進と Truths のための Cosmic サイエンス、Series 1、品番 3、Question #58 2 See ジェラード Aartsen (2010)、ジョージ・アダムスキー-Space Brothers、第 3 章、セクション『反対勢力』、pp.50-55 3 アダムスキー (1957-58)、オペ市民、品番 1、Question 20 4 ベンジャミン・クレーム (2001)、Great Approach のための A ヘルルドー-Humanity、131 ページ 5 アダムスキー (1957-58)、オペ市民、パート 5、Question #88 6 スティーブン・グリーア (2006)、『Exopolitics または Xenopolitics』のためのニュー-Light とライフ。

The Disclosure Project, [online] 2 May. Available at <www.disclosureproject.org/docs/pdf/ExopoliticsOrXenopolitics.pdf> [Accessed 10 July 2011] 7 Hans C. Peterson (n.d.), 'In Defence of the Abductees' (Denmark, Jelling:

ディスクロージャー・プロジェクト // [直結] 5 月 2 日。<www.disclosureproject.org/医者/pdf/ExopoliticsOrXenopolitics.pdf>で Available な [2011 年 7 月 10 日アクセスする] 7 Hans C. Peterson (n.d.) (『Abductees の Defence で』) (Denmark, Jelling : IGAPC-RCN).

IGAPC-RCN)。

As quoted in Fred Steckling (n.d.), 'UFO Abductions and their validity'.

Fred Steckling (n.d.) で引合いに出されるように、『UFO Abductions と彼らの妥当性』。Available at <www.adamskifoundation.com/

<www.adamskifoundation.com/で利用できる

[com/html/News2.htm](http://www.adamskifoundation.com/html/News2.htm)> 8 Carl Sagan (1993), 'Are they coming for us?'.

[com/html/News2.htm](http://www.adamskifoundation.com/html/News2.htm)> 8 人の Carl Sagan (1993) (『彼らは、我々を迎えに来ているか?』)。Parade Magazine, March.

Magazine (3 月) を運びなさい。

As quoted in Fred Steckling, op cit 9 Creme (2001), The Gathering of the Forces of Light- UFOs and their Spiritual Mission, p.49 10 Ibidem, p.48 11 Paolo di Girolamo (2009), Noi e Loro, p.202 Reputable eye-witnesses 12 Translated from the French

transcription at <lestempspresents.overblog.

<lestempspresents.overblog. でフランスの転換から Fred Steckling、オペ市民 9 Creme (2010)、Light- UFO と彼らの Spiritual Mission の Forces の Gathering、49 ページ 10 で Ibidem、48 ページ 11 Paolo di Girolamo (2009)、Noi e Loro、202 ページ Reputable な目撃者 12 Translated を引用されるように、

coml article-abduction-d-un-gou verneur -russe-506 72828. html> [Accessed 8 May 2011) 13 Available at <www.youtube.com/ watch?v=ufCqRa5KZyk> [Accessed 12 September 2011).

coml 文-誘拐-d-非-gou verneur-russe-506 72828. html> [2011 年 5 月 8 日アクセスする) <www.youtube.com/腕時計?v=ufCqRa5KZyk> で 13 Available [2011 年 9 月 12 日アクセスする)。

Also referenced in Antonio Huneus (2010), 'Russian-style Exopolitics - Kirsan Ilyumzhinov's alien abduction'.

Antonio Huneus (2010) (『ロシアのスタイル Exopolitics — Kirsan Ilyumzhinov の外国の誘拐 — 』) でもリファレンスをつけられる。

Open Minds TV [online) 16 June.

開は、テレビに注意する [直結) 6 月 16 日。

Available at <www.openminds.tv/ russian-exopolitics/ > [Accessed 17 July 2011) 14 Tony Halpin (2010), 'Were Russian secrets shared with 'space alien' visitors?'.
<www.openminds.tv/russian-exopolitics/> で利用できる [2011 年 7 月 17 日アクセスする) 14 Tony Halpin (2010)、『ロシアの秘密は、スペース外国人と共有されたか』訪問客?』。

The Times[online)7May.

The Times [直結) 7May。

Available at <www.tirnesonline.co.uk/ tollnews/ world/ europe/ article7118769.ece>

[Accessed 16 June 2011J 15 'Former Legislator Makes Statement on Un-Released Eisenhower Brief Available at <www.youtube.com/ watch?v=mrK2YgfjnHo> See also:

<www.tirnesonline.co.uk/tollnews/界/エウロペ/article7118769.ece> で利用できる [アクセスされた 6 月 16 日 2011J 15 『<www.youtube.com/腕時計?v=mrK2YgfjnHo> See の Un-Released Eisenhower Brief Available の上の以前の Legislator Makes Statement も』: 'Behind the Story and How it Began', available at <briefftoeisenhower.

『Story と How の後に Began』 (<briefftoeisenhower で利用できる)。

wordpress.coml20 10105121 Ibehind-the-story-and-how-it-began/ > 16 Given that Adamski lived in southern California, his reference was most likely to the Los Angeles Examiner (published from 1903 to 1962).

wordpress.coml20 10105121 Ibehind-the-story-and-how-it-began/> 南 California (Los Angeles 審査官 (1903 年から 1962 年まで発表される) に、参照がたぶんあっただろう彼

のもの) に、Adamski が住んでいた 16 の Given。

17 Adamski (1955a), Many Mansions, 1983 reprint, p.8.

17 人の Adamski (1955a)、Many Mansion、1983 の再プリント、8 ページ。

52

52

MEANWHILE, IN REALITY

一方、実際は

18 'Majestic Twelve Project - Annual Report', Summer 1952 (?) Available at
<[www.majesticdocuments.com/pdf/mj_12_fifthannualreport .pdf](http://www.majesticdocuments.com/pdf/mj_12_fifthannualreport.pdf)> The Vatican
connection

18 の『堂々とした 12 のプロジェクト一年報』、<[www.majesticdocuments.com/pdf/mj_12_fifthannualreport .pdf](http://www.majesticdocuments.com/pdf/mj_12_fifthannualreport.pdf)> で利用できる 1952 年夏 (?) >バチカン接続

19 David Whitehouse (2010), 'Is anybody out there - with a soul?'.

19 人の David Whitehouse (2010) (『誰か、向こうにいるか — 魂で?』)。

The Independent [online] , 3 November.

インディペンデント [直結]、3 November.

Available at <[www.independent.co.uk/opinion/faith /
is-anybody-out-there-ndash-with-a-soul-2123442.html](http://www.independent.co.uk/opinion/faith/is-anybody-out-there-ndash-with-a-soul-2123442.html)> [Accessed 1 August 2011] 20
Share International (2010), 'Pope John XXIII and UFOs'.

<[www.independent.co.uk/
意見 / 信 頼
/is-anybody-out-there-ndash-with-a-soul-2123442.html](http://www.independent.co.uk/意見/信頼/is-anybody-out-there-ndash-with-a-soul-2123442.html)> [2011 年 8 月 1 日にアクセスさ
れる] 20 の Share International (2010) (『John XXIII 法王と UFO』) で利用できる。

Vo1.29, No.6, July-August, p .

Vo1.29、No.6、July-August、p。

12 .

12 .

(Tercer Milenio segment available at:

(以下で利用できる Tercer Milenio 部分 :

<www.youtube.com/watch?v=rRC1Uqwac-8>.

<www.youtube.com/watch?v=rRC1Uqwac-8>。

21 Pier Carpi (1976), Le Profezie di Papa Giovanni, p.154

21 の埠頭手帳 (1976)、ル・Profezie di papa Giovanni、154 ページ

22 Lou Zinsstag and Timothy Good (1983), George Adamski - The Untold

22 の Lou Zinsstag と Timothy Good (1983) (George Adamski) 一口で言い表せないもの
Story, pp.61-63

物語、pp.61-63

23 Interview with Dr Edgar Mitchell in Nick Margerrison (2008), Kerrang!
 Edgar Mitchell 博士が Nick Margerrison (2008) (Kerrang) にある 23 のインタビュー！
 Radio, UK, 23 JULY.
 ラジオ、英国、23 の JULY。
 Available at <[www.youtube.com/ watch? v=RhNdx dveK7c](http://www.youtube.com/watch?v=RhNdx dveK7c)> Spiritual reality check 24
 Adamski (1957-58), op cit, Part No.4, Question #69 25 Elaine H. Pagels and Helmut
 Koester (1992), 'From Jesus to Christ - the story of the storytellers':
 <[www.youtube.com/腕時計？v=RhNdx dveK7c](http://www.youtube.com/watch?v=RhNdx dveK7c)> Spiritual 現実チェック 24 Adamski
 (1957-58)、オペ市民、Part No.4、Question #69 25 Elaine H. Pagels と Helmut Koester
 (1992) (『イエスから Christ まで—物語 of the 語り手：』) で利用できる
 The Gospel of Thomas'.
 Thomas の Gospel。
 In Robert J. Miller (ed.;
 流行の Robert J. Miller (ed.;
 1995), The Complete Gospels.
 1995)、Complete Gospel。
 Article available at <www.liberatedthinking.com.
 文は、<www.liberatedthinking.com で利用できる
 com I data I Library I Christianity I Gospels/ thomas. htm> [Accessed 2 August 2011] 26
 H.P. Blavatsky (1888), The Secret Doctrine, 6th Adyar edition, 1971, vol.2, p.361 27 See
 e.g. Alice A. Bailey (1922), Initiation, Human and Solar or Benjamin
 com I データ I Library I キリスト教 I Gospel/thomas. htm> [2011 年 8 月 2 日にアクセス
 される] 26h.p. Blavatsky (1888)、秘密の教義、第 6 の Adyar 版、1971、vol.2、27 が認
 める 361 ページ (例えば Alice A. Bailey (1922))、入会、人間と太陽または Benjamin
 Creme (1995), The Ageless Wisdom Teaching-An Introduction to Humanity's
 クリーム (1995)、人類『s』への年をとらない知恵 Teaching-An 紹介
 Spiritual Legacy
 精神的な遺産
 28 V.P.
 28 人の V.P。
 Zelihovsky(1880), 'A Spectre Guide'.
 Zelihovsky (1880)、『Spectre Guide』。
 In H.P.
 In H.P.
 Blavatsky(ed;
 Blavatsky (である;

1880),

1880),

The Theosophist, VoU, No. 10, July;

神知学者、VoU、No.10、7 月;

centenary re-issue (USA, Mecosta, MI:

百年間の再発行 (USA、Mecosta、MI :

Wizards Bookshelf, 1980), p.245-46 29 Creme (ed. ;

ウィザード Bookshelf、1980)、245-46 ページ 29 Creme (ed.;

1986), Share International magazine Vol.4, No.3, March, p.20 .

1986)、Share International 誌第 4 巻、No.3、3 月、20 ページ。

The story was also discussed on the American TV programme Praise the Lord (Trinity Broadcasting Network, 29 May 1986;

物語は、アメリカのテレビ番組 Praise の上でも議論された Lord (Trinity 放送ネットワーク、1986 年 5 月 29 日に;

available at <[www.itbn.org/ index/ detaillib / Networks 1 sublib / TBN/ ec/ BwMDltMjoNfy02GuwND-iahAZNOMDoK1](http://www.itbn.org/index/detaillib/Networks%201%20sublib/TBN/ec/BwMDltMjoNfy02GuwND-iahAZNOMDoK1)> 30 Creme (201 Oa), 'Questions and Answers', Share International magazine Vol.29, No.8, October, p.22 31 Aartsen (2008), Our Elder Brothers Return - A History in Books, published online at <www.biblioteca-ga.info> 53

<[www.itbn.org/ インデックス /detaillib/ ネットワーク 1 下位 放 /TBN/ec/BwMDltMjoNfy02GuwND-iahAZNOMDoK1](http://www.itbn.org/インデックス/detaillib/ネットワーク1下位解放/TBN/ec/BwMDltMjoNfy02GuwND-iahAZNOMDoK1)> 30 の Creme (201 の Oa)、『質問と Answers』、Share International 誌 Vol.29、No.8、10 月、22 ページ 31 Aartsen (2008)、Our Elder Brothers Return で利用できて - Books の A History は、<www.biblioteca-ga.info> 53 で直結を発表した

HERE TO HELP:

ここで、助けるために :

UFOs AND THE SPACE BROTHERS Photograph of an extraterrestrial pilot.

地球外のパイロットの UFO AND THE SPACE BROTHERS Photograph.

First published in Alberto Perego, L'aviazione di altri pianeti opera tra noi:

第 1 は、Alberto Perego (L'aviazione di altri pianeti オペラ tra noi) で公表した :

rapporto agli italiani:

rapporto agli italiani :

1943-1963 (Rome, 1963) 54

1943-1963 (Rome、1963) で 54



Photograph of an extraterrestrial pilot. First published in Alberto Perego, *L'aviazione di altri pianeti opera tra noi: rapporto agli italiani: 1943-1963* (Rome, 1963)

4.

4 章

From space in friendship

スペースからの友情

「本当の地球外のパイロットの写真を見よう
(1957 年に Italy でとられる [ページ 54 と 57])。

我々は、実際メタルカラーの柔軟で光る生地 of 宇宙服を着て眼鏡をかけた、確かに小さな
口の男性を見た

彼の口は小さいというよりむしろ、柔らかい宇宙服に取り付けられた光る生地 of 金属の襟
であった、。

我々は、不可解なブレスレットそして、お腹についた不可解な装置...
に気がつく

このように、1963 年に Italy で出版された本はその 2 つの写真とともに始まる。

著者は続ける：

誰が、これらの写真を撮ったのか？

いつ？

どのように？

このパイロットは、どこの出身であるか？

彼は、何を食べるか？

彼は、何を飲むか？

タバコは？

彼の性行動は、どうか？

これらの質問に対する答えは、何だったか？

来たるべき年には、あなたは少しずつ、徐々に、すべてを知っていく。

(私自身では書いておいたが私は詳細を現在明らかにすることができない。)

今のところ知るうえで重要なことは、彼らが男性であるということである。」

著者の Alberto Perego (1903-1981)、はイタリア人の領事として多くの世界中の国に仕え
た、そして、イタリーと、世界中で 1950 年代から 60 年代から現代までの UFO の目撃例
の歴史を記録するのに尽力した外交官である。

彼がここで実現すると約束した多くの詳細は、彼の 4 冊目の本で表面上はなく、1943 年から 1970 年のメディア報告と目撃例の包括的な概要を、伝える、そこにおいて彼は、写真を撮ったコンタクティをほのめかすだけだった。その理由は？

1963 年にこれらの写真を含めた彼の 3 冊目の本の出版の後、ブラジルのイタリアの領事として、イタリアの外務省は、彼を Belo horizonte に行かせた

そこでは彼は、最後の年を強制的に隔離されて費やした、1970 年代に 2、3 回、ローマに戻り彼の友人 Eufemio del Buono によって組織された臨時会議で話すだけであった
そこで Perego が一般の人からいくらか予想外の認知されたことをようやく楽しんだ。

2

2010 年 11 月 7 日に彼は、評判が高い Accademia di Romania の、ジャーナリスト Ivan Ceci によって伝記を書かれ始めることで回復し、そして、彼の地球外の実在の研究についての包括的なウェブサイトは、Progetto Perego と呼ばれている。

55

それでも、誰でも彼の復旧に同意しているというわけではないようである、彼のウェブサイトは度重なるハッキングの標的で、長い期間の間それはオフラインにされた。

Perego は、写真について以下のように興味をそそる説明を続ける：

「彼らが美しいか、醜いか、背が高いか、背が低いか、大きいことやせているか茶色またはブロンドかどうかは本当は重要でない。彼らは男性である、そして我々の原子力の狂気に直面して示された寛容性と忍耐をみれば、我々より確実によき人間性をもっている。「我々は、彼らに感謝しなければならない

我々の大気を永久に浄化するため、広く深く転換させてくれており、彼らなしでは、我々の原子爆発の残基によって、すでに回復不能なほど地球は汚染されていた。

我々は、これまで、彼らが核戦争を防いでくれたことに感謝しなければならない。

「これらの地球外のパイロットに会った人々は、彼らのインテリジェンスと尊厳と同情、のために魅力的であると彼らを解説するそして、特に彼らの誠実で公平な友好を彼らは示す、そして、それは、彼らに会った人々を奮起させた。

しかし、彼らの写真が我々の新聞で発表されたならば、何がおこるだろうか？それは、結果としてグロテスクなカーニバルになる（我々の愚かではかな悪意ある性質に見合ってい

る)。」

Alberto Perego は、もちろん、Arniciziaー、または Friendship に関わった著名なイタリア人の 1 人であった。その冷静で正確な見方は「2007 年の Contattismi di Massa」(英語では 2007 年のマスコンタクト)として発表された) という Stefano Breccia の本の出版で有名になっただけだった



Another photograph of the extraterrestrial pilot. First published in Alberto Perego, *L'aviazione di altri pianeti opera tra noi: rapporto agli italiani: 1943-1963* (Rome, 1963)

他の地球外のパイロットの写真。Alberto Perego の、最初の出版「L'aviazione di altri pianeti opera tra noi: rapporto agli italiani: 1943- 1963 (Rome, 1963)

57

Perego はいろいろなことを発見し次の計画された本 (『すべてを言おう』)、で、どんな情報も明らかにしようと努力していたが、当局はスリルに満ちた関心は持たなかった彼にもすべてを言うことについて心変わりがあったようである。そして、以下のように言う :

"どちらにしても我々は、Ufology を古い機関を倒すために必要な革命の政治運動に変えなければならない

または、我々はたとえ考えが何であっても、我々は必要に応じて話さなければならないだけである。」と認めている

4

これは、我々に Adamski のスペースコンタクティが自分の経験と知識を他と共有し、判断力を使いなさいと彼に言ったことを思い出させる

5,

そして、それは、Perego も、地球外生物と一緒にの会議で類似した何かを言われたことを示すことができる

。

彼には多くの情報があったことは、彼の 2 冊目の本 Sono Extraterrestri !

("They are extraterrestrial!"; (「彼らは地球外である！」

;

で現れた、

空飛ぶ円盤の衝撃的な写真のいくつかが中にあることで明らかに示された



One of the hundreds of photographs taken by the Amiciza contactees.

58

これは 1958 年に Amiciza コンタクティによってとられた何百もの写真の 1 つである。

58

そしてまた、彼の伝記作者 IvanCeci は、Perego が地下基地と国際的な危機に関する干渉、ならびに彼らの容貌と彼らのモラルと倫理の若干の特性について詳細を知っていたと言う、

6

しかし、より多くの詳細は、イタリアの毎週の *Le Ore* とのインタビューにおいて、ジャーナリスト Bruno Ghibaudi を通してすでに出てきた

その後の 1963 年 1 月の第 2 版で、以下の見出しの下：「はい、私は空飛ぶ円盤のパイロットと話した」で「Bruno Ghibaudi は確かめた。

インタビューは Gordon W. Creighton によって英語に翻訳されて、『イタリアの Scene』というタイトルの連続の一部としてその年の 6 月に *Flying Saucer Review* に発表された。そして、それは同様に数人の他の目撃者の報告を含んだ。

そして、英国の研究者で作家の Timothy Good は 1998 年に彼の本「宇宙人の基地」でそこから引用することによってこの翻訳されたインタビューを忘却から救い出したが、それでも彼はこのケースにおける歴史上の広がり知らなかった。

Ghibaudi はその時に Italy の有名なジャーナリストであった。そして、テレビジョンとラジオで航空と宇宙旅行を報道した。

Pescara の海岸沖は長年、イタリアの Amicizia のコンタクトの震央であったが彼が空飛ぶ

円盤の一連の写真を撮ったおよそ1年前に、彼は、全くの驚きでただ UFO を見つけ認めたと主張した人々についてテレビ番組を製作するよう命じられた

Creighton によると「自身の国で、宇宙人を見たか、写真を撮ったか、パイロットに会ったかなりの数の人が、あった、

または着陸した UFO は金属片と、その他の材料を確かに残していった」。

Ghibaudi はインタビューで、それを明らかにした

彼は、宇宙からの来客した何人かに会おうと誘われた

場合によっては会見を手配した人を含めて数人の目撃者が、現れることを、彼自身の経験から、彼は確かめた

宇宙を通して人体は普遍的なハーモニーの一部として一般的な形態である、こうした考えは、通常、地球人によって不可能であるとして拒絶されたが、間違いなく、たいてい、真実はきわめてシンプルな受け入れ易いものである。

「Creighton は、Ghibaudi との会見談についての彼の要約を続ける：

したがって、個々の、いろいろな表面的な違いがあっても、宇宙のいたるところに存在する、人間は、我々に似ている...

これらのスペース訪問客は、多くの異なる世界からこの危機の時期に、地球に来ており、彼は言う。

現在起こっていることは単に、地球人の生まれたばかりの文明が特に重大な危機的段階にあるので、スペースの存在は我々に知らせる用意ができています。

Ghibaudi は彼らの慈悲と我々を助けたいという彼らの願望を確認し、彼らの狙いは、核災害を防止することである。

それが避けられないならば、彼らは介入するという確実で安定した意向を示したと、

Ghibaudi はきっぱりと言った。」

次に疑われていることに関してはどうか

彼が会った人は誰でも、

愛、憎しみ、友好、忠誠、団結といったような『人間の』感情は地球外生物の間でも見つかった

Ghibaudi は、きっぱりと答えた；『私が彼らとした経験は、彼らの中には悪い感情がほとんどまったく不在で、良い意見が非常に強硬であると私に断言することを許す、

7

領事 Perego は、George Adamski の Italy の主な連絡要員でもあった。彼の氏名と住所は、スペースブラザーズの使者である George Adamski を伝えるための

1959 年の国際的な Get Acquainted Program (GAP) のための、ナショナルコンタクトのリストにも見られる。

Adamski は世界中で UFO 現象に興味を持っている人々の間に、彼のスペースコンタクトからのアドバイスによって、巨大な理解と友好を促進する準備をした。

Friendship Case については詳細に発表されており、世界中の多くの国で、公的にはほとんど知られていないが Space Brothers 自体が類似した努力を準備していたことは、現在明白である、

しかし G A P で努力もした Timothy Good は顕著な例外であったが、Adamski の任務が大部分の研究者によって組織的に無視されており、そんなことから彼のプログラムと Italy の Caso Amicizia との明らかな関連は、これまで気づかれずに過ぎて行った。

60

Amicizia の場合についての優れた文書 II は友好関係の劇的な再建を訴える、かなりの数のスペースピープル、は生きていて、Italy のまわりで地下と水中の基地で働いていたと考えられる

類似したプロジェクトが他のヨーロッパ諸国そして、Siberia で、同時に、南アメリカとオーストラリアで続く間、

そしてその人たちは 100 人以上のかなりのイタリア人との規則的な接点を持っていた。

9

彼の 2003 年の死のずっと前ではなく、著名なイタリアの心理学者と神学者 Bruno Sammaciccia は、これらのスペースからの人々と彼との、経験を明らかにすることに決めた

それは 1956 年に始まって、1970 年代後期まで続いた。

このケース（そして、特に Space Brothers から来ている情報）が他のコンタクティから来ている情報との多くの著しい類似を示す間、関係する人間が宇宙船に乗って招待されず、確かに地下で水中の基地へのアクセスをされたという点で、それは異なる。

Sammaciccia 教授は 4 つの学位を持って、1982 年のユネスコの『その年の人』の候補者に指名された）

私は、以前「超常的な現象の広範囲な経験」を持ったそして、「東洋からの多くの Masters と会った」。

Sammaciccia（その人は Pescara、Abruzzo、Italy に住んでいた）と彼の友人の会計士の、Giancarlo、とエンジニアの Giulio の 2 人は 1956 年 4 月に、変な経験をした。

彼らは、Ascoli Piceno の地図を調べていた、

Pescara の北西の城には宝が隠されている可能性があった。

ペンがそのペンホルダーから飛んで、地図に着いた。

彼らが紙を取り出し用意したとき、ペンは書いた：

「現在、私はあなたに
私は、誰であるか、
私がどこから来たか、
そして、私があなたに頼むことを望んでいるものを説明するつもりである；

私は、我々の善意と知識を与えるために、ここにいる。」
彼らはずっと、奇妙な「情け深い感覚」を経験していた。

11

彼らの変な経験の数日後に、彼らは Ascoli Piceno の城に行った、そこで、彼らは声が以下のように言うのを聞いた：

さて、友人、我々の 1 人が現れるつもりなので、穏やかなままでそこにいなさい。
準備できたか、まだ準備ができないか？

61

彼らが初めてスペース友人と会った時、
彼らは、最初の 1 人に激しい感情を感じた、
それから、2 人目の人は、壁の後ろから現れた。
両方とも、イタリア語を話したが、2 人の男のうちの 1 人は、
他がほんの高さ 1 メートルでしかないのに。
高さ 2.5 メートル以上であった、
Sammacicia の物語は、Stefano Breccia の本の Friendship Case について書かれた部分の
メイン部分をつくっている

12

Mass Contacts

大衆の大量コンタクト

スペース関係者にある異なる性格だけでなく、これらの Space Brothers によって示された
ユーモアのセンスの多くの詳細を与え見事に取り込んでいる

1 つの意図しない面白いエピソードは、Dimpietro（地球外の高さ 3 メートルの人）は
Sammacicia の妻 Rafaella に自己紹介する機会に一般に「ポプラ」と、友人によって言わ
れると述べた

帰って来ると同時に、彼女は Dimpietro が彼が身長で彼女を震え上がらせなかったの
で Milan の彼らのアパートの台所の床に座っているのを発見した、

残念なことに、台所で人間の「ポプラ」を認めたとき、彼女の夫が帰るまで彼女がベッドルームへ逃げて、そこにいたように、彼女はおびえていた。

Dimpietro は、イタリアの中部東部で最も大きな基地の指揮官であった、より小さな基地が Como 湖の下のミラノの近く Bologna で、ローマで、Pescara で、Pineto で、そして、どこか他の所にもあった。

彼らの最初の遭遇で、イタリアの友人は言われた：

「これは、人間の歴史の臨界時間である。」そして：我々は征服する気は何もないし、勝つためにここにいるのではない。

我々は多くの世紀の間、地球の上にいた。そして、惑星のまわりにある秘密の基地で生きてきた、62

そして、地球の人間のそれと比較して彼らは生命について強い倫理的な懸念を感じている
「我々の〔善意〕と〔真実〕への意志は、人間の疑いより強い。

"13

世界に我々は、ものすごい愛があなたの方に向けてあるのでここに来たことを知らせてください。

あなたは愛について話す、しかし、あなたは愛が何であるか、わからない。

それは、生命自体のまさしくその基礎である。

"14

友好を促進すること

Breccia 教授はエンジニアであるが、

そしてその人はスペース人々のテクノロジーが最も重要であると考えた、

Sammacicia の本当の興味を、Breccia に書いた、

「経験の背後にある道徳的な意味についてであった、

amicizia (友好 friendship) を感じたが、それはすべてに広がった、

我々の友人とのすべての機会に..スピリッチャルな気高さを示した

活発に Sammacicia と彼の友人に連絡した Space Brothers は、食物、果物と原料さえ手に入れる際に、

グループの援助を引き出すプロセスで、互いの間で循環することを経験することによって
友好と責任性の分担の感覚を促進することに取り組んだ

それによって彼らが少しでも必要とするならば彼らは従来のものでない方向で明らかに再分配を与えることができた、

"15

時々、友人は使用した商品の経費を返済した、それは必要な資金を提供するために彼らに

定期的にされた

コンタクティ-の、Gaspere デ Lama は、インタビューで以下のように言った：

この必要な物資は、間接的に、人々の間で愛によって発生するエネルギーに代わるものを要求するゲームでもありえた]。Uredda

これは私 [Stefano] の考えであるがと、Breccia にこのことを話した、そして、彼は私の話を聞いて、『それは、本当にそうだった』と言った。

"16

Space Brothers がグループを教えたので、

最も利己的でない感覚の愛、ならびに倫理、尊敬と利他現象は、あらゆる考えとあらゆる活動を導かなければならない。

これらの価値は、安全で健康的な進化のプロセスを保証するために重要である

ーその人類が受けるレッスンは、ひどい自己破壊の危険性を避けることに一致することの実行である。」

63

スペース訪問客によると、彼らの主な課題は、人類がその核兵器保有量を使わないことを確認することであった

そして、我々を理解の高次の方に押して、我々の進化の進展を助け我々の苦しみのプロセスの一部さえ共有すること。

Benjamin Creme の主張であったスペース訪問客は、全く無害であることの確認であった

著者 Stefano Breccia は（その人は彼自身の若干の遭遇をした）Sammacicia の会見に基づくドキュメンタリーの中で言う：

「彼らは、誰にでも危害の原因となることができないと言った。

「倫理と道德の彼らの感覚を意識的に注入された」彼らの装置は誰でも傷つけることさえ拒否する。

本当に、彼らは言った

彼らが誰かを傷つけることが避けることができないならば、そのケースでは彼ら自身で自爆する。」

18

その上火星の Firkon が George Adamski に話したように)。

..単に地球の好戦的なものたちさえ含めた我々の仲間としての兄弟の命を守るか、我々の命

だけを守るかといった問題の場合を比較するとしたら、我々は、仲間の存在を殺すよりはむしろ我々自身が滅ぼされる方を許す

19

長年にわたって、Space Brothers に接した経験をした人々の総計は拡大したそして、すべての分野からの人々が、含まれていた

その人たちの何人かはむしろイタリアの社会で有名である、

di Paolo Girolamo は、大学教授のような人としてテレビジョン・ジャーナリストである

19

主流メディアでは報じない、妖しい話題を欧米の Blog 記事から紹介。

“Friendship Project” : Alberto Perego と UFO

・“Friendship Project” がらみ。後で参照するために作成。

要旨:

・Alberto Perego 博士はイタリアの外交官(領事)。彼は 1954 年 11 月に何度か、群衆とともに空に白い点の編隊が非常に高速で移動するのを目撃した。またある時は一度に 100 以上の物体を目撃した。

・彼はまたエンジェルヘアーの出現を目撃した。それは僅か数時間で消え去った。

・彼を含む多数の目撃者のいるこの事件を速やかにイタリア政府に報告したが、レーダーによる痕跡は全く見られなかった、という返事が返ってきたのみだった。



・1963 年に彼は 563 頁からなる本、“L'aviazione di altri pianeti opera tra noi” を出版した。この本には多数のイタリア人による UFO 目撃報告と、UFO は異星人の船だという彼の主張を書いたものだ。

ソース:

345



コメント:

・イタリアの有名な「友愛プロジェクト」("Friendship Project")の関係者。

・下のソースはイタリア語。後で Google 翻訳(イタリア語→英語)を試してみるつもり。

<http://ildemocratico.com/2010/10/28/un-convegno-dedicato-al-pioniere-degli-studi-sugli-ufo-alberto-perego/>

(2012.3.11)

関連記事

- [1981 年 8 月、ドイツ:UFO と異星人遭遇事件\(Lintel 湖事件\)\(その 1\) \(03/11\)](#)
- ["Friendship Project" : Alberto Perego と UFO \(03/11\)](#)
- [1948 年 7 月 24 日アラバマ州:DC3 が B-29 サイズの UFO とニアミス \(03/09\)](#)

有名な画家 Gaspare デ Lama と同じように Alberto Perego は、自身 1954 年 11 月 6 日の Vatican の向こうの空の小さい範囲の十字の形の光の何百もの UFO 編隊の出現の多くの目撃者の 1 人であった

George Adamski は UFO とスペースピープルに接した彼の経験に関する彼の最後の本である Flying Saucers Farewell で、面白いエピソードを解説するそれは

1959 年 6 月 12 日のローマへの彼の訪問の間、起こった

彼と彼の Lou Zinsstag がスイス空港で、Alberto Perego に会った。

64

夕食をとった後に、ホテルに行くことに先立って、皆は散歩に出た、しかし、彼らが主な大通りに着く頃には、すでに真夜中だったので、タクシーは見つからなかった。

ローマの通りをよく知らない Adamski は、予感の後、彼らがある方向に入ることを示唆される

、そこに突然、どこからともなく、タクシーが止まった」。

しかし、Adamski は書く、「我々をホテルまで直進する代わりに、ドライバーは、我々を Rome の観光ツアーに連れていき始めた

彼がホテルの前によりやく移動する時は、ほとんど夜明けだった

旅行のあらゆる時点で、最も楽しかった...私にはこれは決して忘れられない夜だったむ！」

意外なことに、ドライバーは追加料金お金を受け取ることを拒否した。そして、「私は、アメリカ人のためにそれをしてうれしい」と言った。

20

多くの類似した経験は、Share International 誌の編集者に、手紙で報告された、Benjamin Creme の Master によってこれは世界の教師自身または智慧の Masters の 1 人による支持、援助、またはインスピレーションを与える行為として、本当に、世界中の歴史でローカルな伝説として生き残る多くの神の干渉』に相当する例』として本物か、確かめた

Adamski によって書かれたエピソードのドライバーは、Benjamin Creme の Master によると、Space Brother であった。

22



From left to right: Alberto Perego, Mario Maioli, who would later become the first General Secretary of the Centro Ufologico Nazionale (CUN), Lou Zinsstag and George Adamski in a restaurant in Rome, June 1959

65

左から右へ、Alberto Perego、Mario Maioli、この人は後で Centro Ufologico Nazionale

(CUN) の初の書記長になる、
1959 年 6 月ローマのレストランでの Lou Zinsstag と George Adamski、
65

22

Bruno Sammaciccia がスペースピープルに『W56』として言及するとき、
ナンバー『56』で、コンタクトが始まったときの、年齢に言及している

そして『V』のダブルである『W』、で、『克服』を意味させていた
彼らは、彼ら自身を『Akrij』と称した。(『Aukree』)と発音した
面白いことに、Sammaciccia によれば、

『Akrij』という語の 1 つの形として、または、別のもう一つの形としていろいろな質の地球の言語に見つけ出せる

ーサンスクリット語では、それは『賢人』を意味し、アラビア語の類似した語では『友人のグループ』と訳し、エジプト語においては、それは『神』を意味する。(ギリシア語の形では『高いところにいる人々』を意味する)「W56 は、彼らの明らかな科学的な発達にもかかわらず、優れた存在として人々の中で動かなかった;」、著者 Stefano Breccia は、述べる
それどころか、彼らはほとんど兄弟[のように]とても親しみやすかった

(それほど多くの人々はめいめい独立して彼らに、名前を与えて付き合っていた。).

Paolo diGirolamo 教授は Meredir (または彼は名前を Merhedir とつづる)を引合いに出すとき、このことに同意する:

「基本的に、我々はあなた自身のもつような人間であることからくる"欠点そして、欠陥があることでその個性が特徴づけられる

望みと幻想で、我々を『天使』または『優れた』ものとする誤りをしない

しかし、我々は大いに誠実と友好を評価する。」

Breccia はどこかほかで、彼らがグループを教えた方法について、つけ加える:

我々の会談の間、彼らは一種の産婆術を及ぼしていた。そして、我々自身の中から当り前で便利な何トンもの中に埋めておかれた概念を抽出した。確かに、これは Amicizia にとって最も重要な贈り物であった...

Sammaciccia は彼らにとって精神性がどのようにすべての基礎であるか以下のように述べた:

「彼らは、最も小さな昆虫にさえ神を認める...。そして、その神は、宇宙の至る所にいる。彼らの宗教は、我々のカルトほど、儀式性で満ちていない;
彼らにとって、それはちょうど深い感覚で感じられるもので[外の]外観と[認識]を必要としない

" 27

Worldwide effort

世界的な努力

スペースピープルの先端技術、知識と彼らの自然法のコントロールについての詳細な多くのことは別としてこれは偉大なアバターと年上の弟子の能力（例えば Blavatsky 夫人）を思い出させる

この場合の著しい特徴は、George Adamski の Get Acquainted Program (G A P) との類似性である。((G A P) はそれぞれの国に利害関係のある人々に Space Brothers から Adamski まで来ている最新の情報を伝える接点の国際的なネットワーク)

Adamski の任務の徹底的な観察は UFO の接近は、本来事件ではない、が人類を生命の精神的な現実気づかせ、と我々の実世間に Elder Brothers のスピリッチャルヒエラルキーを復帰させることを支持して起こっている、

私が最初の本で示したように、Adamski の G A P が孤立した試みでなく、Space Brothers による継続した、世界的な努力の部分であったという十分な証拠を、Friendship Case は提供する。

1957 年に彼の世界中の支持者に G A P を紹介して、Adamski は書いた：

「他の世界の Brothers の情報を定期的に、各々の国家元首に送る。(それを順番に進める) その考え方は、

各々の国の住民の努力を通して緊密に彼らの国の人との連合した交友を拡大し、いかなる種類の差別または区分もない。

適切な時に、これらの国家努力が世界的な理解と友好へあふれ出ることが望まれる。

「28

Likewise 似た様に、Sammacicia はイタリアの Friendship Case について書いた：

67

「彼らの考えは、進んだ人々の小集団を集めることであった...。そして、彼らが仲間へのトレーナーとして、ふるまうことができるように、少しずつ、彼らを訓練すると、我々の態度は変わることができた..。

" 29

Breccia の本は、Friendship 努力が Italy に限られていなかったことは実証される、類似したプロジェクトがドイツ、スイス、フランス、スペイン、南アメリカ、そして、ど

こか他の所で続いていた。**Bruno Sammaciccia** と彼の友人の物語を発表するための **Breccia** の計画について聞かされた後に、**Germany** の主な支持者の 1 人は **Breccia** に連絡した、そして、著者は自分の本でドイツのコンタクティからの情報を加えた。

その後の **Friendship** グループについての情報はクロアチア人の生まれのライターで映画製作者 **Nikola Duper** を通して出てきた。そして、その人は多くの他の関係者の 1 人から **Friendship** の物語を公開するよう頼まれた。スペースピープルの説明で、このコンタクティは、文字通り以下のように言う：

「**Friends** は、我々の兄弟である。彼らは人間である。

本当に、比較すると、我々地球上の人間は少しも人間的でない。

彼らは、我々より非常に人間的である... この人の証言も、人類が彼ら宇宙人の存在と彼らの訪問の現実に真剣に取り組むのを援助するスペースピープルのいろいろな努力を確かめている：

「40 年代の終わりに、宇宙の友人たちは **USA** 政府の上部管理者に協力関係を提供した。

引きかえに、彼らは、核兵器業務計画をあきらめるよう求めた。

しかし、彼らの申し込みと要請は、拒否された...

アメリカの政府と軍の拒絶の後、宇宙の友人たちは、地球上の小集団の人間と秘密にコンタクトする戦略に着手した、

"30

量と可視性よりもむしろ人間の個人の関係の質、愛の価値と **Uredda** () を強調しようとした。

" 31

彼の話では **Space Brothers** が彼らと地球の友人のグループの間で、彼らのメッセージを中継するためにトランジスターラジオを含めコミュニケーションを容易にするための装置をいろいろ使ったことに、**Bruno Sammaciccia** は関連する

68

Stefano Breccia が詳細にのべたように：

「主に長距離のコンタクトは、ラジオ放送を通して起こった：

これらの人々には素晴らしい選択度で、彼方から通常放送を中断させて、特定のレシーバーにメッセージを送ることが、できた：

人が2つのレシーバーを用意しその内の1つは他に置いたならば、
同じ周波数で両方が調整され、まるで何も起こっていないように他が続ける間、予め選ばれたただ1つのレシーバーが友人のメッセージを受ける！」

32

これらの多くは記録された、そして、ブラザーからのメッセージの1つは **Sigir** として照会された

つまり、この事実は以下の通りにビデオ・ドキュメンタリーで **Amicizia** よって、報じられた：

「親愛なる友人、親愛なる息子。

我々の誰もが動揺したりせず、我々を疑ってはいけない。

心をひとつにしていなさい。心をひとつに。心をひとつにしていってください。

我々の方はあなたの人間性とあなたの友好の心を改善するのに苦勞しているが、あなたたちの相互の弱点に耐えてください。

親愛なる友人達よ我々の世界を、理解するという事は、あなた達にはとても難しいことです。

それは自然なことです。

しかし、愛情と信用で、あなたは我々のハートへ近づくことが可能になり、それは常にあなたの方へ開かれています。よく我々を理解することも可能になります。

我々は、暖かい愛情と誠実な友好であなたを認めています。

しかし、都合の悪いことに、長年にわたって、あなたのものである、**Sigir**」とイタリアの友人との間で不一致が、起こった。そして、結局グループは解散される、

『**W56**』が彼らの利己的なものに対応することに耐えたため、

彼らの一部は『**W56**』の能力を徐々にむしばんだと思っている

『**contrari**』地球外生物または **CTR**、

それらは、より利他的でない理由のためにここにいた

(第6章参照)。

同じことは、世界中の17の **GAP** 支部にも起こり、そして、適切に彼について行われる人身攻撃がジョージ・アダムスキも通過することで衰えた、

大部分の人々は彼は、最も忘れられたままにしておかれたと感じた。

しかし、ドキュメンタリーは経験の本当の本質は、献身と尊敬と「巨大な愛の実例」であったとそう結論を出す [スペースピープル] は目撃者のハートに印象を与えそれはまだ生きている。

Amicizia の参加者の1人である **Gaspare** デ **Lama** が以下のように言うように：

「彼らは、私を豊かにした。

彼らは、私を完全な愛でほとんど不可能な世界とコンタクトさせた

69

しかし、**Space Brothers** の存在と我々の **Elder Brothers** としての **Masters** のお返しは証明を提供するだけでなく、そのような「世界最高の愛」が可能であることをも保証する。

我々は、ハートで彼らの教訓を受け止めて、それらを実行する必要があるだけである。

または、**Gaspere De Lama** がそれをどこかほかに書いたが：

「[彼ら自身] が存在するので、彼らは私をより良い世界の存在がユートピアではないと思わせた。

33

彼が話す愛は我々の感傷的な愛の概念ではない。そして、それはたとえ潜在意識でしばしば知っていたものだとしてもそれに一致した行動があるかどうかである。

ステファノ **Breccia** が明らかにするように、

彼には、**Friendship** の物語とあまり深い関係がなかったことを認めている

「スペースピープルは言った『私は誰にでもなる、そして、誰もが私でもある』。

のである、

我々がハートの中で感じるが、理解することを拒否する概念を、小さなセンテンスは明らかにしている：

これら生命体は、何らかの方法で、唯一の現実（**God**）を反映しているので、すべての生命体は、細菌から先覚者まで、全く同じものである

その上、いわゆる生命のない実体さえ、この現実に参加している。

したがって、『私自身』と、『私自身ではないもの』との間の、二元性は、意味がない。

" 33

"34

Underground bases

地下基地

それは 1950 年代と 1960 年代には常識的なものではでなかったが、地下基地の存在は最近の数十年で **UFO** 活動の目撃に関連して広範囲に文書化された。

インドディリー新聞は 2005 年 1 月 9 日版で、中国とインドは、構造プレートの中深く、ヒマラヤの境界域で地下 **UFO** 基地をあることを両方が知っている」というタイトルの文をのせた。

70

記事によると、インドと中国の境界の **Ladakh** は世界で最っともアクセスされていない地域の 1 つで両側の地方の住民で、論争が生じていてそしてそれは合意によって、どちらの国によってもパトロールされていないが、インドと中国政府は、地球外の地下基地の存在に気づいていて、**UFO** が地面から出てきているのを見ると報告している。

地元のガイドが言うことを記事は、引用する

この地域の地下のどこかから光る三角形の航空機が出て来ている、

そして、これがほとんど垂直に上がることは、新しいことではない。

地域でこれらの明りを目撃した詮索好きな巡礼者によって尋ねられるとき、変な、光る物体が地下から出てくる、そして、彼らが近づくことを誰にも許さないよう命令されたことを、インドの境界人員は確認した。この地域の人々はインド政府が誰にもよく知られていて明らかなことを隠そうとしていることに驚くと、レポートは付け加えた。

地元の学校の子供たちがスケッチ・コンテストに参加したとき、「図面の半数以上は、空と山からでてくる変な物体に関係があったと記事は実証する。

"35

ベンジャミン・クレームは 1959 年以降智慧のマスターと働いていたが報告された目撃例は本物だったことを確かめまったく、この地域は長年火星からの宇宙船のための地下基地であった

。

36

2000 年 4 月の、早い時期に

ベンジャミン・クレームは、コルドバの地区と、アルゼンチンの **Pampa** からの類似したレポートで村民は、地球外の訪問客のための「着陸プラットフォーム」にいる人について話し、彼らは、村民と交流していると言っていることは本物だったことを確かめた

37

彼の本「地球の宇宙人基地ーで、地球外生物と遭遇している **Alien Base - Earth is encounters with extraterrestrials**」で英国研究者ティモシー・グッドはドイツのビジネスマンの経験について書く、

ルートヴィヒ **Pallmann** はブラジルとペルーの辺境の地球外の基地に連れて行かれたと、言った)。

2 年後に、彼の本「非現実的な発表 **unearthly disclosure**、」で氏は全部の章で地球にある地球外の基地について書いた。

ここで彼は、アラスカ州の造機技師からの親書で、「その宇宙船は、定期的にその州のある領域に着陸した」と、George Adamski に話されたと、書く。

,

71

ヒューマノイドの存在をそこで認めたと無名のエンジニアは主張する(3 から高さ 6 フィート半の間を変化する)。」

グッドは付け加える：私が「Alien Base」で示したように、Adamski の主張の多くは退けられないことができない。

オーストラリアのノーザンテリトリーアリススプリングズの近くの、Pine Gap の、地球外のベースについて、グッドは言う

Beings of light
captured on video
in Ongamira,
Cordoba, Argentina
(Video stills: Mónica
Coll and Pablo Dessy;
© analuisacid.com)



"38

彼は「ジョージ・アダムスキに伝えられた情報に気がついたのであった、
1949 年と同じくらいずいぶん昔に、チリ空軍の政府科学者と前部隊指揮官によって、主張された大きな『宇宙実験室』は 1948 年以降運転中だった、
まったく、『宇宙船は、そこに着陸することができた

そして、その通信システムは、この研究所で地球人と宇宙飛行士の間で作動することができた

宇宙人基地で現されたように、アダムスキーは、アメリカ政府兵器部の身分証明書を持ったそしてそれは彼に軍事基地への接近を許された、そして、彼は軍のコンタクティとの定期的な会談を催したそしてその人は彼に機密情報を渡した。

2010 年に、パブロ Dessy は 2006 年に、アルゼンチンのコルドバ地区で携帯したビデオで撮影した、若干の注目に値するスチール写真を発表した。そこで彼は、Ongamira 地域（首都のブエノスアイレスの北東部）でハイキングをしていた人々の一行の一人だった。

彼らのうちの 1 人（Monica Coli）は、わずかに高い位置から短い距離で彼女の仲間の何人かを撮影した。

彼女が自宅でその写真を見た時だけ、彼女は、明らかに、光の階段または出口を通して地面から出てくる光の人影を見た。

映画撮影の時には存在も出口も、そこにいた人の目には見えなかった

"39

40

尋ねられて、ベンジャミン・クレームはそれを確かめた

写真のものは Space Brothers である。そしてそれは、etheric エーテル的なものに見られる。そして、その人は堅牢な物質の地下構築物から出てくるところだった。

41

留意する必要があるのは

フィルムまたは写真の航空機または人々のエーテルの外見は、偶然のものではない、その物体は、特定の目的をもつ、Space Brothers は、映画または写真が撮られたものをあとで見るときだけ彼ら自身が見えるようにしているかもしれない

類似した出来事は、智慧のマスターズによってしばしば天の恵みとして、あるいは、人々の信仰を強化するために明らかにされたことは知られている。

どこかほかでベンジャミン・クレームは、それを説明している

我々が、空中でも、または、海でも土地にも放出した毒素と他の汚染物質と核廃棄物の破壊的な影響を無効にする彼らの努力において、Space Brothers の地下基地は、役割を果たしている。

「彼らは、特に高レベルの核放射線の汚染で最悪の成分を無くすことができる装置を持っている。

地球外生物と一緒に友人のイタリアのグループのコンタクトが 1970 年代後期に続いたと Bruno Sammaciccia が言うが、Nikola Duper の情報提供者はおおよそ 1990 年まで彼らと続いたと言う。

。

73

"42

スペースピープルがいろいろな基地と複数の『友好』プロジェクトをヨーロッパ周辺で続けたとすると、この両方とも正しい場合がある。

イタリアでの個々のコンタクトのいくつかの事実が知られないで起きていたが、1980年のジョルジョ Dibitonto と 1981年のマウリッチオ・カバルロのような、友好の努力の更なる証拠は、南アメリカで同じ10年後に明らかになった。

1985年の始めオクタビオ・オルティスの（チリのハム短波放送の）人々によって交信された

それは外国語なまりで話し、彼らは南米チリの最南の indomitable の領域の1つのコミュニティのメンバーだと、誰かが言った。

オルティス氏は、これらの人々とラジオで話すことに数カ月を費やした

74

彼らはロードに仕えるの奉仕者」として振舞った

または等しく不可解な『イスラ・デ Friendship』または『友好の島フレンドシップアイランド』に所在する不可解なコミュニティである「ロードのエンゼルス」に仕える者、である。南アメリカの Friendship の物語がまだスペイン語を話す世界の外では多くの注目を受けていないので、Friendship の本（オルティス氏著、友好的な地球外宇宙人とのコンタクトの証拠？Evidencias de contacto extraterrestre?』主人公とスペインの UFO 研究者ジョーゼプ Guijarro による事実の広範囲な研究。）

に基づいて主要な事実をここでまとめることは、役に立つかもしれない、

-I

43

44

南米の『友好 Friendship』のブランチの物語は、1984年1月にサンチャゴのアマチュアのハム短波放送の・オクタビオ・オルティスが彼の 27MHz のラジオ送信機で、チリバルディ

ビアのロス・ラゴス地域の第 10 管理地域のチリ大学の Oceanography 海洋地理学部によって配備された船から緊急通報を受けた時から始まった、
Moralada の海路の Mitague の灯台の近くで、船からちょうど 2、3 フィートの水面に巨大なレッドボールが座ったので、彼ら研究者は、驚きで見た。
乗組員は、Iquique のキャプテンの地位へ遭難呼出を放送し始めた、
そしてそれは Ortiz 家によって聞かれた、
Octavio と、彼の妻 Claudia と娘 Cristina (Andrea と Paula) からなるその人達は、『Lucero』という名前で、彼ら自身の 27MHz の無線局（市民無線）を運営していた。
それを出してもおよそ 15 分後になっても、反応は Iquique から来なかった、
Ortiz 氏は、船とキャプテンの地位との間の連絡係をしようと申し出た。
クルーは、キャプテンの地位に変な物体が彼らの電気装置が故障する原因となったと言うように Ortiz に言った。

75

事件から若干時間がたった後

Octavio は Alberto という 1 人から連絡され、Mutilus II という名のヨットの船主が事件を目撃したと言った。
また、Alberto は Octavio に彼は、非常に倫理的であるか精神的な科学者の不可解なコミュニティとコンタクトしていたことを後で話した
かれらは、大きな精神的な能力を示し、そして、彼らのコミュニティを『'Friendship'友好』と言った

Alberto を通して、結局、Octavio は Friendship のメンバーとコンタクトし 1,200 以上時間のかかりの無線通信は、長年にわたって記録された。

1985 年 8 月 17 日の午後 2 : 30pm、

Octavio の妻 Claudia は、これらの通信のうちの 1 つにおいて、「外に出て、空を見る」ように言われた。Claudia が外に出たとき、彼女は明るい物体を認めた。

驚いていると、「発信者」// という名の『空中にいる存在』は、どの程度まで、どの方向に、彼が UFO を動かす方法を Cristina が近くで飛んでいる飛行機のそばまで行かないよう警告されるときまで彼女に言い始めた

他の目撃者によって認められることに加えて、目撃は Television Nacional de Chile (TVN) の TV カメラにも撮影され、気象部門の当局によっても見られたが、説明をすることができなかった。それとは別に、チリのラジオとテレビジョン Ernesto デ・ラ Fuente の技術指導関係の以前の責任者は 1980 年代にチリのアイランドへ移って、また、Alberto とコンタクトした。

Chiloe の周辺地域は、その頻繁な UFO 目撃例で知られている、そして、居住者（主に漁師）はそこで UFO を見ることに慣れている。

チリの TVN channel4S によって作られる 1999 の文書の La Isla de Friendship によると、Mitilus II はチリの公式船の記録に見つからなかった、しかし、その長さは 42 フィートとして測定され、最近白に塗り替えられたと、De ラ氏 Fuente は言う。

チリの海兵隊員の軍曹が、Chiloe の Castro 領域にもいて、その位置で、彼は 1992 年に、ある夜、Melinka の港の近くで、Mitilus II という名の船を見て確かめた。彼が見たものは大部分の乗組員はチリ人のように見えたが、色白と青い目でチリ人よりも背が高かった

76

船は Melinka のドックに入らなかったで、港の原簿に記録されなかった。

Octavio Ortiz と Ariel, Ernesto de la Fuente によるファーストコンタクトのひと月後、彼はその時までチェーンスモーカーで、カトリック Santiago デチリ大学の医者によって、肺がんと診断された

エアリアルは、スペースブラザーズが彼を治療することができることを Ernesto に保証した

そして、彼が Mitilus II に乗って島へ旅立つことが許された。

彼は、Quemchi の 2、3 キロメートル南にある、港で船に乗り込んだ

そこは Alberto が前に乗客を島へ連れて行ったところである。

彼らは南に向かって航海した。そして、Quillón と Melinka を過ぎておよそ 1 日半後に狭い峡谷に到着した

そこは両面に崖と植物があって、20 メートル以上は広くはなかった。

峡谷の終わりに、埠頭があった

そこで彼らは降りて、岩の中に掘削された部屋に入る前に素朴な木の柱廊のある玄関を通り過ぎた

それから、彼らはもう一つの部屋に移って、エレベーターで降りた。

すると Ernesto によると、14 人の地球外生物と彼のような治療のためにやってきた 60 人の他の訪問客が、いた、すべてチリ人ではなく、ラテンアメリカの異なる国からの人もいた、

De ラ氏 Fuente によると、地球外生物のすべてはほぼ 2 メートルで背が高く、色白の、ブロンドだった、そして、彼らの目は平和と落ち着きを発散させていた。

彼らは、彼に言った

「Lord 神に仕える者」への奉仕者として、彼らはここにいる。

治療の 4 日後に、彼は治癒した、そして、もう 2 日の回復期を過ごした後、彼は再び戻った。

彼の家を去って 10 日以内に末期患者としての Ernesto デ・ラ、Fuente は治癒されて返ってきた。

46

彼の本 Isla Friendship — Conexion 0 VNI (DelaFuente 氏が書いた) 一で：

「Friendship Community がするすべては、彼らの精神的な信条に基づく。(つまり彼らの存在理由)

彼らの技術的な科学的な仕事も、その動機づけでされる。

フレンドシップの宗教は決して秘密ではなく、むしろ、それは世界で最もよく知られた哲学の 1 つである、

そしてそれは、Christ が持ってきたのと同じである：

大きな違いは、彼らは、テクノロジーで我々より数百年先にいること、である

そして、精神性でも我々より数千年も先にいる。

彼らは、説くことを実践する。

77

彼らは、体が我々の神殿であることを教える、

しかしいろいろ経験したあとの私は、少数だけしかあまりに神聖な場所または神殿 Temple

そして、God が生きる家（彼らは、あまり遠く離れていると言う）を訪ねることができないこと、を知っている

ここでは、私は彼らは、God の Angels』について話している』ことを強調しなければならない

地球外の存在は Friendship 島の居住者とコンタクトしている。

"47

懐疑論者、の姿勢は通常、彼らを証拠を見つけるための最高の候補として見ないまたは役に立つ関係さえあると見ない、

島がないそして、島についての説明になじみがない、ことを指摘する

その Friendship 島が居住を示す基礎を置く(財産の)は何もないことは何人かによって確認された。

しかし、第 5 章で示されるように、地球外の訪問客は大部分の彼らの仕事を固体の物体に依存しない。(または航空機)

その上、また、彼らは自然の法則に熟達した人々で、自然法と医薬に対する支配をし彼らが見えないか追跡できなくなるように場所の空間を明らかに『曲げる』ことができると指摘できる

この仰天するほどの例は、H.P. Blavatsky の Sylvia Cranston の書いた記念碑的な伝記で見つかる、

India のボンベイ（ムンバイ Mumbai）へブラバッキーHPB が到着したことを述べた。

1879 年 3 月のおよそ 1 ヶ月後に彼女は、アメリカ合衆国から到着した、

HPB ブラバッキーは、彼女のアシスタントの mooljis と軽装馬車に乗った。

彼らがどこに行くか、御者に話す代わりに、途中のあらゆる曲がり目で左か、右か、まっすぐいくか命令すると、彼女は彼に言った、

彼らがボンベイの郊外の道と経路が森で交差した所に到着するまで、HPB が躊躇せず正面の素晴らしいバラ園と広々とした東部地方のベランダが背景にある良質のバンガローをもつ「個人の地所」へ指示を与え続けた。

78

ボンベイの住民は都市にそれほど近いところにあるそのような素晴らしい家の存在を知らなかったと、アシスタントは、彼の友人に煙に巻かれたような、彼の驚きについて話した。

彼らはそのようなバンガローはその地域になかったので、Moolji はそこに案内することができない方に、賭けていた。

Moolji は彼らが述べた方法のあらゆる道を行くことができると主張したが、Moolji にだけはバンガローがどこにも「完全に」見つからなかったとき、「あせり」を感じた。

HPB は、彼女の同僚に

「Adepts アデプトによって住まわれる他の全ての地点のようにバンガローは、そこに作られた幻想の環によって、常に知らない人の侵入から保護されている。」ためだと後で話した。

" 48

HPB の伝記作者がこのエピソードを引合いに出した年代記は、以下のように付け加える：

「古代の図書館はすべての埋められた、

そして、そのカルマが要求するまで、それらの巨大な宝の秘蔵は隠しておかれなければならない

人間の使用のためにそれが復活するまで、完全な固い地面、大きく開いた溝、またはそういった障害、
固い岩の幻影的な絵によって、
不敬なものによる発見から保護されている、
そしてそれは間違った男の足をわきにそらす、
しかし時が満ちて運命づけられている探索者がある点に来るとき、
、その幻影マーヤは〔幻想のヒンズー女神〕彼方へ消える
死を免れない人間としての、我々は、物質の外観が変わるという概念に不慣れな人でない
我々のより少ないセンシティブのまたは分別のある・人の。攻撃から
我々は大切なままにして、保護したい
我々が真実を隠すために知っている若干のもの
彼らが我々の『自然の』状態を越えて我々のハートと我々の気分を持ち上げるので、彼らが
そういうことを証明することができない場合でもこれは、同様にそうする。
それが起こるとき、我々が外側からの確証を必要とせずー真実は、我々の魂でとても大きく
聞こえることを我々は知っている

79

結局、Reality は証明されることができない；
それは、ただ経験することができるだけである。

79

それから、彼が長年、数式または方程式で Reality の面を、証明しなければならなかった進行中の仕事でアインシュタインはしばしば「直観した」。

それで、現実はその面の経験をまだしていない人々に、大部分は何かの証明が必要であると、我々は言うことができる。

人が Enrique Barrios の本 Amt アミを読むとき、これに似たような何かと関係する；

星からのこどもは童話のようにして、生命と宇宙の神秘を説明する。

よりよく、それを読むことは人が生命と宇宙の神秘を経験するのを助ける。そして、たとえば、ベートーベンが Freude 歓喜の歌（『喜びへの頌賦』）を聞くのと同じ喜びと一なるものの感覚を読者のもに残すーそれは、偶然の一致ででなく、人の兄弟の関係の称賛である。

Barrios は彼が 1985 年 8 月にした経験によってこの本を書いた、そしてそれは、彼は詳細なまたは答えられた質問をこれまで書かなかった。

彼は提案された、

「まるでそれが童話またはファンタジーであるように、
それについて書くのが良いと思われる、..それ以外は、彼らは、あなたがうそつきか、おかしいと思う。

「49

まったく現在この章が対処しようとした彼の本の冒頭の言葉で著者は言った問題はかなり明らかになってきている。彼の会っていたスペースからの友人は、「彼らは驚嘆するより恐怖を信じるのが簡単なので、大人のほとんどがこの本を理解しないと私に警告した」。問題を避けるために、彼は私にこれが単におとぎ話だと言うように勧めた。

彼が次のように言ったように、私は書いた：

THIS IS A STORY FOR CHILDREN, WHICH MEANS ALL OF us.

この物語は子供のためのものである。だがその思いは万人のものである。

「50

物語の仕掛けは、単にその物語の仕掛けであるが、効果的にいうことができる

Barrios 氏が主人公『Pete』の物語を語るように、

(原語のスペイン語では、Pedro』そして、英語の第2版は『Jim』)

10才の男の子はUFOが海で消えるのを見る、そして子供が浜辺に来ることを彼は考える彼の名前を聞かれると、地球外の生物はPeteに言う：

「あなたは、私は全ての人の友人なので私を友人として『Amigo』と呼ぶことができる；

80

Peteは彼の新しい友人をAmiと呼ぶことに決める。そして、スペインの単語『Amigo』(友人)または『Amistad』(友好)の省略である。

John XXIII 法王のアシスタント、と大統領 Ilyumzhinov of Kalmykia の証言も同じことを言う、

Pope John XXIII's assistant,

John XXIII 法王 23 世のアシスタントと 1950 年代のコンタクティと、(第3章を見る)

Ami は、Pete に言う：

「頭、胴と四肢のある一人間の形態は一般的なものである-しかし、小さな変化が、各々の世界にある：背の高さ、皮膚の色、耳の形、小さな違いはある。」

彼らが互いを知るようになって、Pete は、

彼の新しい友人は、子供でなく、むしろ小さな人種の地球外生物であるのだとそれを推測する

(本当に、Breccia はそのことを述べた

「最も顕著な違いは、彼らの背の高さにあった、

6メートルから10cmまで背の高さは違っていた

"51)

無邪気で単純な子供のような純真さにあふれる心の交換であると同時に、知恵とユーモアを通して人の最も奥の部分をかき回す結果となった。

Ami は Pete の生命の知識を拡大するのを手伝うと同時に、彼の読者の認識を増やすのを助ける。

たとえば、彼らが Pete の村を通過して真夜中散歩に出かけるとき、Ami は Pete に言う：

「光がそのつるに落ちるのをみれば...星をもとめて浮かび上がってくるアンテナがみられる...

Pete、生命には、楽しみ以外に目的はない。

必ず生命が提供するすべてに注意を払うようにするようにしてください。

各瞬間驚きを持ってくる...

生命で最も深い意味は、思案を越えて見つかる...

「応えて、彼の地球の友人は、以下のように書く：

「彼のことは、私を新しい方向でものごとを認めさせた。

この世界は、私はほとんど注意を払わなかった日常的なものであるのに、それは、私にとって信じられないような私自身の意味に満ちた場所であった、

"52

.

Ami は God について話し、説明する。「God については、人間には印象がない。

彼には、まったく形がない。

彼は、あなたまたは私のような人ではない。

彼は、無限の存在で純粋な創造的なエネルギーである...純粋な愛といった...

そのため、宇宙は美しくてよい空間である、それは素晴らしい。」

したがって、Ami によると、この惑星の上の『凶悪な』人々でさえ、いつかはよくなる。

53

核戦争の危険性と我々の汚染による天然資源の欠乏のために、地球の大災害を避けるために、宇宙からの人々は、なぜ例えば 1000 の宇宙船を着陸しそして、戦争をしないように世界的リーダーに言う」といったことを実行しないのか、Pete が怪しんだので、

Ami は、Pete にそれを話す

大量の着陸があるならば、

数千人は、ショックで死ぬ。

侵入者について描かれたあなた達のすべての映画を覚えているか？

我々は冷酷でない、我々はこれと似たような何かで、その原因となりたくない。」

81

地球外生物がなぜ Earth を占領しないか尋ねられたとき、

我々が平和に生きていられるようにしたいと思っている、Ami は以下を加える：人間の自

由は神聖である。『押し入る』といったことは、我々の語彙の中に存在しない。

「54

しかし、スペース人々の管理の中で柔らかに、微妙に、非常に微妙に『援助計画』がされる、
それが、」

」我々がまもなく彼らの宇宙船を発見するのを許すことによって
初の核実験と爆発の後。その後、我々は目撃例の回数を増やした。

「すぐに、我々はあなたの身内に我々を撮影し始めさせた。

"55

彼ら自身で UFO を見つけるようにする理由の 1 つは、これは、彼らとのコミュニケーションを始めるうえでの常套句なのだが、Ami によると、地球上の多くの人々が偶像崇拜の傾向があるためで、あるからだ：

それらの貧しい人々の誤って導かれた宗教の前で我々がその神の位置を奪い、成り代わると主張するならば我々は、地球の人々への尊敬が不足しているということになる。

．彼らが我々を兄弟と考えるならば、それはもう一つ別の物語となるだろう。

類似した概念は Stefano Breccia によって伝えられた。そして、その人は書いた：

彼らと彼らの Earth からの友人との間の科学的なギャップに我慢せずに、W56 は、優れた存在として自ら出てくることはなかった；

それどころか、彼らはとても親しみやすく、ほとんど兄弟のようだった...

『援助の計画』には愛へ導く宗教の起源を手にするを与えることも関わっている

Ami によると、惑星の開発の状態は、より多くの「愛の量」を持つ人々の数がどれほどいるか次第である。

「56

"57

"58

ある時、彼は先進の機器によって、彼らが Ami の船から観察している男性に見えるものを、Pete に示す

82

「男は、もう一つのスクリーンに現れた、しかし、彼はほとんど透明に見えた。彼の胸の中央で、金色の光は輝いていた...

それは、我々に地球外生物が彼らのイタリアのコンタクティに教えた『Uredda』を思い出

させた

" 59 ,

Earth の発展のためのスペース人々の参加は正確な宇宙の兄弟と姉妹の愛の表現力の測定とともにあるようである。

Ami が以下を説明するように :

「発展する世界は、四海同胞をつくっていく; 宇宙のどんなところから来る人でも、我々はすべて兄弟である、そして、すべては誰でも傷つけることなく行ったり来たりすることができる。

銀河に戦争はない (私たちの間の暴力のようなものはない) 我々の間でのような競争は、ない、

あなたの兄弟以上に偉くなりたいというのは唯一の願いではない、

みんなが望んだ唯一のものは、人生を楽しむことである;

しかし、我々が愛しあう時、我々は、人に仕えることで最もものすごい喜びを得る、

彼を助けて、彼らにとって有用で、役に立つことは、我々はうれしい。」

Ami は続ける : われわれには人生は、非常にシンプルである、

しかし、我々は多くの科学的な前進をするかもしれない。

Earth の人々がなんとか生き残ることができるならば、

彼らが不信を克服することができるならば、コスミックブラザーフッドに統合されるために彼らを助けるために宇宙の多くのところから来た自分達を目に見えるように出現する

60

Ami が Pete に彼が『1』と言う時に指摘する体の部分の点のことを尋ねた。

Ami のなぜ彼らは人の胸を指すのかという関連した質問に対する Pete の答えは忘れたが、

Ami は、彼に言った : それはあなたが、本当に、あなたであるところである。

あなたは愛である、そして、愛は胸で生まれる。

神だけが、完全な、純粋な愛である、

しかし、我々は神の愛の火の粉である、そして、我々は本当にそれに接近しようとしなければならない...

「61

長年の智慧の教えと心臓のチャクラを一致させること、それらは『スピリッチャルなハート』でありまたは聖書の右側の胸の賢い男の心臓でもある。

それは人間の魂がでその乗り物で 3 つの世界（個性）につながっているところでもある。

62 ,

83

The UFO seen over Jerusalem on 28 January 2011 was one of the four modern-day 'stars of Bethlehem' that were announced by Benjamin Creme in December 2008, which herald the open emergence of the World Teacher, Maitreya. The red-orange balls of light that were seen were smaller spacecraft servicing the 'star'. (Source: *Share International* magazine, March 2011, p.13)



The UFO seen over Jerusalem on 28 January ..

『「1 月 28 日のエルサレム」の上に UFO が、認められる

2011 was one of the four 'modern-day 'stars of Bethlehem' that were introduced, announced by Benjamin Creme

2011 年の

4 つのうちの 1 つ

2008 年, 12 月

Benjamin Crèmeによると『ベツレヘムへの現代の星』の 4 つのうちの 1 つによって用意
ができたと告げられる

which herald the arrival

ど : r :

the open emergence of the new World Teacher, Maitreya.

『「World Teacher、Maitreya 世界教師 マイトレーヤ。」の出現の前触れが開かれる

光の赤いオレンジ・ボール、サービスを主役にする小型宇宙船であったと認められた：
～（情報源：

Share trl International magazine, ∴

0 C/) March 2011, p.13)

False divisions

It should be remembered, again, that we are not talking of 'love' as some vague and sentimental idea here, but rather as the glue of the universe, the force in nature that holds galaxies and communities together, and which needs to be expressed in society through harmlessness in our relations with others, by putting into practice the realization that we are One human race and ensuring that the basic needs of every man, woman and child - for adequate food, shelter, healthcare and education - are met.

0 C/)

情報源 シェア インターナショナルマガジン

2011 年 3 月（13 ページ）

誤った分裂

ここで再び、若干漠然として感傷的な考えとして我々が『愛』について話していないことは、記憶されていなければならない

しかし、それはむしろ銀河とコミュニティを占拠する自然の力で宇宙を共に結合させる接着剤であり、それらが他と我々との関係と社会を通して無害に表される必要がある、

そして、我々は、一つの人類であり十分な食物、保護、ヘルスケアと教育といったあらゆる男性、女性と子供の基本的な必要は、満たされるよう — 確実に実行することによってそれを実現することである。

— 地球でも地球外でも — 人類のすべての先生が話す愛は、誰のためにもある自由と正義として実用的なレベルで表明されなければならない。

それは 2011 年 1 月 28 日の朝早い時間にエジプトと中東のどこか他の所での自由と正義に対する人々の欲求の表現としての民衆の大きい反乱の間、

エルサレムのテンプルマウントの上に明るい白い UFO が現れ少なくとも 3 人の異なる人によって撮影された。それは Space Brothers によるこの宇宙的な真実である黄金律の支持の衝撃的な表示であった。

スペースピープルがそのような争いの場所の上に現れることによって不協和を決して刺激しないと思っていたので、何人かは確実性を疑ったが、その出来事は、実際タイムリーに争いに関係することはなかった。

世界の主要宗教の 3 つの聖地として主張されているテンプルマウンドの上にそれが現れたというまさしくその事実は、George Adamski が Space Brothers について..彼らは、いかなる種類の間違った分離も差別も認めない.と言った意味で、何かシンボリックな意味をもつ

"63

スピリッチャルな観点から見て、これは Space Brothers のより高いバランス感覚と、我々のささいな紛争にたいする公平な視線のもう一つの例である

そして、

すべての初期のコンタクティの報告で記録されているように、正義と自由の宇宙的な理想のためにこれらの人々が合法的なものに対する支持を表明している。

85

Benjamin Creme の Master によると、それはこの文脈からみて、注目に値する

この目撃は、特に就航した 4 機の宇宙船のうちの 1 機に関わった

それはアメリカで 2009 年に始まった一連のテレビジョン取材を通して完全に一般の人が見えるようにするために、World Teacher 世界教師のいう最後の位相の出現を告げ 4 つの現代の『ベツレヘムの星』として配置され地球に來たものであった

64

テンプルマウントの上の UFO のもう一人の目撃は、2 ヶ月後の、2011 年 3 月 28 日に『いつもの』の宇宙船を見た。

65 Notes

65 :

Notes:

1 Alberto Perego (1963), L ' aviazione di altripianeti opera tra noi :

1 人の Alberto Perego (1963)、L 『aviazione di altripianeti オペラ tra noi :

rapporto agli italiani:

rapporto agli italiani :

1943-1963, pp.532-534 2 Biographical note on Alberto Perego, on the Progetto Perego

website <www.progettopererego.it/index.php?option=com_content&view=article&id=4&Itemid=4> [Accessed 17 August 2011] 3 Perego (1963), op cit.

Progetto Perego ウェブサイト <www.progettopererego.it/index.php?option=com_content&view=article&id=4&Itemid=4> [2011 年 8 月 17 日にアクセスされる] 3 Perego (1963) (前掲書) の 1943-1963、Biographical が Alberto Perego の上で注意する pp.532-534 2、

4 Roberto Pinotti, Foreword to Stefano Breccia (2009), Mass Contacts, p.8

4 つの Roberto Pinotti、Stefano 角礫岩 (2009) への前書き、大衆接点、8 ページ

5 George Adamski (1955), Inside the Space Ships, p. 102 6 Ivan Ceci (2011), 'Perego, il console degli UFO'.

5 George Adamski (1955)、Inside は Space Ships (102 ページ 6 Ivan Ceci (2011)) で『ある。そして、Perego、il は degli UFO の慰めになる』。

Corriere della Sera, [online] 16 February.

Corriere della Sera、[直結] 2 月 16 日。

Available at <misterobufo.corriere.it/2011/02/16/161_ufo_xfiles_a_vvistamenti_lovni_incontri_ra_vvicina_tec_abduction_amicizia_dischi_volanti3_lienLextraterrestri/> (updated) [Accessed 19 August 2011] 7 Gordon W. Creighton (1963), 'The Italian Scene- Part3:

<misterobufo.corriere.it/2011/02/16/161_ufo_xfiles_a_vvistamenti_lovni_incontri_ra_vvicina_tec_abduction_amicizia_dischi_volanti3_lienLextraterrestri/> (更新される) [2011 年 8 月 19 日にアクセスされる] 7 人の Gordon W. Creighton (1963) (『イタリアの Scene- Part3 : 』) で利用できる

Bruno Ghibaudi's contact claim'.

Bruno Ghibaudi の接点主張』。

Flying Saucer Review Vo1.9, No.3, May-June, p.19 8 Gerard Aartsen (2010), George Adamski - A Herald/or the Space Brothers, p.62 9 Luca Trovellesi Cesana (dir.;

Saucer レビュー-Vo1.9, No.3, 5 月に 6 月の、19 ページ 8 Gerard Aartsen (2010)、George Adamski を飛ばす-A Herald/or は、Space Brothers (62 ページ 9 Luca Trovellesi Cesana) である (dir.;

2010), If Caso Amicizia 10 Paola Harris (2009), 'Italy's disclosure of human looking aliens!' [online] Available at <www.paolaharris.com/timing.htm> [Accessed 10 March 2011] 11 Stefano Breccia (2009), Mass Contacts, pp.166-67 12 Breccia (2009), op cit, pp.170-71 13 Ibidem, p.172 14 Ibid., p.186 86

2010)、If Caso Amicizia 10 Paola ハリス (2009)、<www.paolaharris.com/timing.htm> [2011 年 3 月 10 日にアクセスされる] 11 の Stefano Breccia (2009) の『Italy は、人間的な様子の外国人の発表である！』[直結] Available、ミサ交信、pp.166-67 12 Breccia

(2009)、オペ市民、pp.170-171 13 Ibidem、p.172 14 Ibid.、186 ページ 86

FROM SPACE IN FRIENDSHIP

友好のスペースから

Fostering friendship

友好を促進すること

15 Breccia (2009), op cit, p.160 16 Ceci (2011a), 'Witness of Italian extraterrestrial contact case emerges'.

15 Breccia (2009)、オペ市民、160 ページ 16 Ceci (2011a)、『イタリアの地球外の接点事件の目撃者は、出てくる』。

ExoNews, [online] 15 August.

ExoNews // [直結] 8月15日。

Available at <news.exopolitics institute.org/index.php/interview-with-italian-witness-of-et-contact91 / > [Accessed 3 September 2011] 17 Cesana (dir.;

< news.exopolitics institute.org/ インデックス。 et-contact91 の italian- 目撃者と php/interview/>で利用できる [2011年9月3日アクセスする] 17 Cesana (dir.;

2010), op cit 18 Ibid.

2010)、オペ市民 18 Ibid.

19 Adamski (1955), op cit, p.79 20 Perego (1963), op cit, pp.89-92 21 Adamski (1961), Flying Saucers Farewell, pp.171-72 22 Benjamin Creme (2011), 'Questions and answers', Share International magazine, Vol.30, No.7, September, p.23 23 Breccia (2009), op cit, p.227 24 Ibid., p.249 25 Paolo di Girolamo (2009), Noi eLora, p. 71 26 Breccia (2009), op cit, p.298 27 Ibid, p.237 Worldwide effort 28 Adamski, letter to associates dated 15 July 1957, as reprinted in Daniel Ross (ed.), UFOs and Space Science, No.1, December 1989, p.20 29 Breccia (2009), op cit, p.246 30 Nikola Duper(n.d.), 'The story of "Friendship"', [online], p.2.

19人のAdamski (1955)、オペ市民、79 ページ 20 Perego (1963)、オペ市民、pp.89-92 21 Adamski (1961)、Flying Saucers Farewell、pp.171-72 22 Benjamin Creme (2011)、『質疑応答』、Share International 誌、Vol.30、No.7、9月、23 ページ 23 Breccia (2009)、オペ市民、227 ページ 24 Ibid.、249 ページ 25 Paolo di Girolamo (2009)、Noi eLora、71 ページ 26 Breccia (2009)、オペ市民、298 ページ 27 Ibid、237 ページ Worldwide 努力 28 Adamski、1957年7月15日に日付を入れられる同僚への手紙（そのことはDaniel Ross (ed.)、UFOとSpace Science、No.1、1989年12月、20 ページ 29でBreccia (2009)、オペ市民、246 ページ 30 Nikola Duper (n.d.)、『「友好」の物語、2 ページ。[直結]』を再版した)

Available at <w56. duper.org/ doc/ Friendship. pdf> [Accessed 19 August 2011] 31 Ibid.,

p.7 32 Breccia (2009), op cit, p.250 33 Ceci (2011a), op cit 34 Breccia (2009), op cit, p.294
Underground bases 35 India Daily (2005), 'China and India both know about
underground UFO base in the Himalayan border area deep into the tectonic plates'.

<w56.duper.org/医者/Friendship.pdf>で利用できる [2011 年 8 月 19 日アクセスする]

31 Ibid., 7 ページ 32 Breccia (2009)、オペ市民、250 ページ 33 Ceci (2011a)、オペ市民
34 Breccia (2009)、オペ市民、294 ページ Underground 基地 35 India デイリー (2005)、
『China と India は、構造プレートの中に深く、ヒマラヤの境界域で地下 UFO 基地を両方
とも知っている』。

[online)

[online)

9 January.

1 月 9 日。

Available at <www.indiadaily.com/editorial/01-09a-05.asp> [Accessed 3 September
2011) 36 Creme (ed.;

<www.indiadaily.com/editorial/01-09a-05.asp>で利用できる [2011 年 9 月 3 日アクセス
する) 36 Creme (ed.;

2005), 'Signs of the time'.

2005)、『当時のサイン』。

Share International Vol.24, No.3, April, pp.18, 23 37 Creme (2001), The Great Approach
- New Light and Life for Humanity, pp.134-35 38 Timothy Good (2000), Unearthly
Disclosure, p.256 39 Ibid., p.262 40 Pablo Dessy (2009), 'LSeres de luz en Ongamira?'.

International Vol.24, No.3, 4 月, pp.18, 23 37 の Creme (2001)、Great Approach — ニ
ュー光と Humanity, pp.134-35 38 Timothy Good (2000)、Unearthly Disclosure、256
ページ 39 Ibid., 262 ページ 40 Pablo Dessy (2009)、『LSeres デ luz en Ongamira ?』の
ための Life — を共有しなさい。

Ana Luisa Cid blog 87

名言集 Luisa Cid ブログ 87

HERE TO HELP:

ここで、助けるために :

UFOs AND THE SPACE BROTHERS [online] 8 August.

8 月 8 日 UFO AND THE SPACE BROTHERS [直結]。

Available at <analuisacid.coml?p=629> [Accessed 12 March 2011] 41 Aartsen (2011),
'The Friendship Case:

<analuisacid.coml?p=629> [2011 年 3 月 12 日にアクセスされる] 41 の Aartsen (2011)
(『Friendship Case : 』) で利用できる

Space Brothers teach lessons of brotherhood'.

スペース Brothers は、友愛団体のレッスンを教える』。

Share International magazine Vol.30, No.3, April, pp.11-13 42 Creme (2010), The Gathering of the Forces of Light- UFOs and their Spiritual Mission, p.30 Friendship continues 43 Octavio Ortiz (2010), Friendship -I, Evidencias de contacto extraterrestre? 割当 International 誌 Vol.30 (No.3) 4月 (pp.11-13 42 Creme) (20は私である0)、Light-UFO の Forces のうち Gathering、そして、彼らの Spiritual Mission、30 ページ Friendship は 43 人の Octavio Ortiz (2010) (Friendship-I, Evidencias デ contacto 外のテル休息者) を続ける？

44 Published in the Spanish magazine Kanna-7, No.292, June 1998 45 See <www.youtube.com/watch?v=tNKbmqwvRY> 46 Televisión Nacional de Chile (TVN, 1999), La Isla de Friendship 47 Ernesto de la Fuente (2001), Isla Friendship - Conexión 0 VNI, pp.123-24.

44 スペインの雑誌 Kanna-7、No.292、Chile (TVN、1999) の nacional な June 1998 45 See <www.youtube.com/watch?v=tNKbmqwvRY> 46 Televisión Nacional de Chile で Published、La Isla デ Friendship 47 Ernesto デ・ラ Fuente (2001 は、私である)、Isla Friendship — Conexión 0 VNI (pp.123-24)。

Published as PDF:

PDF として発表される：

<www.youblisher.com/p/91249-Isla-Friendship/> 48 Henry S. Olcott (1895), Old Diary Leaves:

<www.youblisher.com/p/91249-Isla-Friendship/> 48 人の Henry S. Olcott (1895)、Old Diary Leaves :

The True Story of the Theosophical Society, Second Series, 1878-83, p.45, as quoted in Sylvia Cranston (1993), HPB - The Extraordinary Life and Influence of Helena Blavatsky, Founder of the Modern Theosophical Movement, pp.200-01 More friendship from space 49 Enrique Barrios (1989), Ami, Child of the Stars, p.34 50 Ibid., p.6 51 Breccia (2009), op cit, p.249 52 Barrios (1989), op cit, p.30 53 Ibid., p.28 54 Ibid., p.26 55 Ibid., pp.32-33 56 Ibid., pp.54-55 57 Breccia (2009), op cit, p.249 58 Barrios (1989), op cit, p.75 59 Ibid., p.50 60 Ibid., p.86 61 Ibid., p.105 62 Ecclesiastes 10:2 False divisions 63 Adamski (1957-58), Cosmic Science for the Promotion of Cosmic Principles and Truths, Part 1, Question #6 64 Creme (ed.;

Theosophical Society, Second Series, 1878-83、45 ページの True Story (Sylvia Cranston (1993) (HPB — Extraordinary Life と Helena Blavatsky、Modern Theosophical Movement の Founder、スペース 49 人の Enrique Barrios (1989) からの pp.200-01 More 友好、Ami、Stars の Child、34 ページ 50 Ibid.、6 ページ 51 Breccia (2009)、オペ市民、249 ページ 52 Barrios (1989)、オペ市民、30 ページ 53 Ibid.、28 ページ 54 Ibid.、26 ペ

ージ 55 Ibid., pp.32-33 56 Ibid., pp.54-55 57 Breccia (2009)、オペ市民、249 ページ 58
 Barrios (1989)、オペ市民、75 ページ 59 Ibid., 50 ページ 60 Ibid., 86 ページ 61 Ibid.,
 p.105 62 Ecclesiastes 10:2 False 部門 63 Adamski (1957-58)、Cosmic Principles と Truths
 の Promotion のための Cosmic Science、パート 1、Question #6 64 Creme の Influence)
 で引合いに出されるものとしての) (ed.;
 2011), op cit, Vo1.30, No.2, March, p.13 65 Ibid., No.4, May, p.11 88
 2011)、オペ市民、Vo1.30、No.2、3 月、13 ページ 65 Ibid., No.4、5 月、p.11 88

5.

Inside the space ships

5 章 宇宙船の中に

イタリアの **Friendship Case** の多くの驚くべき詳細さの中にスペース人々がどのように彼らの地下基地を造るかという一部のコンタテクティによる説明がある：

彼らは、地球の物質の分子を蓄積することによってこれらを堅牢な壁に圧縮することであるスペースをつくる。

大陸プレートの底の、非常に深い地点に 1 つの巨大な基地があったと言われる。そして、それは地球外生物のすべてのヨーロッパの活動のためのハブで、そこでは主に機械の管理をしていた。

とても小さな基地が、彼らの生きる場所として使われた。

ドイツの **Friendship** 主人公『Hans』によると、**Stefano Breccia** の本 **Mass Contacts**, において引合いに出されたように、使われる物質の力線がきつく絡み合った組織を生み出すために、宇宙人々は磁力を使う。

この手順で横にそれを圧縮することによって、『『開かれた』物質の特性を持った』ものになる、

または、「天文学的な密度で「それ自体の上から [中に] 押しつぶして」、半透明の壁になった...、そして、それには信じ難いほどの強さが生じる。

この方法で彼らは空洞を開けることができ、[それ] は明らかにどんな形であれ地殻構造上の組織のまわりに打撃を与えることなく、彼らの基地にすることができた。

そのような組織は、長く安定的なままで、それを生み出したフィールドは、活発だった」。

それは地域をもとの状態にもどすために、単にスイッチを動かすだけだった。

私は地下基地に入ったが、それは相当な経験だった、

Bruno Sammaciccia が以下を解説するように：

「私は、私の足の下土地が、ちょっと震えていたのを感じ始めた（活動する空気ドリルに近いとき、あなたが感じるのと同じ感覚）；

89

空の部屋が我々の下にあるかもしれない、そして、地面が我々の体重の下で落ちるのではないかと、私は思った。しかし、地面はそれ自体を開けた、そして、誰かが出てきた。

[男] はホール中央のなにも支えるものがない空間にのぼって行って進んで我々に話した

私はその下に落ちてゆくのではないかと思った、しかし、その場所にしっかり足で立って、彼は言った；（そこには何も見えるものがあるというわけではなかった）

私はそうして、まるでなんらかの見えない踏み板が穴に落ちるのを防いでいるように感じた。

それから、この見えない床は、垂直の通路を下がり始めた。」

著しい類似性は、マウリッチオ・カバルロ（天国を前にして著者）のコンタクトストーリーで、2005年のPaola ハリスとのインタビューにおいて：水中の基地でされた彼の経験の説明に見つかる—

2

我々は海のある地点に行った、そして、まわりの水は回り始めた；

それがハリケーンのように見えたので、もちろん、私は震え上がった、そして、我々と我々のボートは下がり始めた。行く間、私の回りのすべては結晶壁を認めることができた、水はもう液体でなかあった、それは固かった。

冷い水の壁はトンネルのように固かった、そして、

それらの壁が光線のように開かれた点まで行った。」

ドイツの **Friendship** とのコンタクティ **Sammacicia**、『**Hans**』と **Cavallo** が基地の重要な条件と彼らの入り口を解説した

—そして、若干の基地は、**Earth** の表面の下の固体の物理構造であるようである

多くは、実際はエーテルの物理構造である、

それらは、この章のオープニングの説明の場合のように。単に固体の物理物質の『屈曲』だけで物理物質の置換を必要としてない、

我々の現在の科学が認める 3 次元を上回る物質の次元の存在は、時代を超えた智慧の教育の学生にとって新しくない。

これらの教えによると、固体と液体と、ガス状より上に、物質のエーテルの物理相として知られている、第 4 のレベルの物理物質が、ある

原子は氷、水と蒸気の分子が異なる周波数で振動するように、そこで、すぐその下のレベルより、より高い周波数で振動する

-90

濃い物理的形態は、青写真からの析出されたものである

その存在はエーテルの物理レベルの上にある、それらは英国の生物学者 **Rupert Sheldrake** シェルドレイクが自然のいろいろな固体の物理的形態を読み出す一種のメモリーバンクとして「形態発生場」の考えを事実と仮定して以来、もう秘教的な概念ではない。

5

この考え方は同様に、生命は、その表現のために単に濃い物理的形態に依存しているだけでなく、エーテルの物理的形態となっていたものが表れることができることを理解することをより簡単にするはずで本当にそれは我々の太陽系のなかの地球とは違う、他の惑星の、

教え方と一致する。

実際、George Adamski も迎えた、火星からの人 Firkon によって Giorgio Dibitonto が言われたように、

「宇宙は、あなたが知っている物的要素を越えて、果てしない領域を含む。

あなたの科学によって観察される唯一の次元は、物質である。

宇宙では、物質次元だけでは、ない。

長さ幅と深さだけでない超物質次元のものを含んでいる、それだけに生命の現実の非常に大きな豊かさもある

その結果、その前と、その上と下と、その中においても、それなしで呼ぶその全ての概念は、時代遅れのものになる。

宇宙のより高い部分ほど、その生命の力のエランビタールは、より新しい自由な形態で表れる、そして、意識それ自体をより広い視野まで広げる。」

6

エーテルの物理測定が大部分の人々の視界から隠されるという事実に、問題が、もちろん、ある

それらは我々が使い現実として受け入れていて問題がない電気または磁気概念についても同じである

しかし、生命体を囲んでいるエネルギー・フィールドを記録する Semyon Kirlian キルリアンのテクノロジーが人間のオーラの写真を撮るためにこの後さらに開発されると、ますます多くの人々が徐々にオーラを認めることができるとおもわれる。

91

オーストリアの医師 Wilhelm Reich の論文『Orgone の発見』は、ドイツの生物学者 Kammerer を引用する、

「特別なエランビタールの存在は、私には非常に有望に思える！」と、言った

つまりそれは、電気、磁気、運動のエネルギーの熱また、これらの一部または全部の組合せでなくでないエネルギーをもつもので、特に我々が『生命』と言うプロセスだけに属しているエネルギーである。

このエネルギーは我々が『生物』と呼ぶ自然の物体だけに制限されたもののことを、意味していない。

「7

実験を通して、ライヒはこれを原基的生命力と呼び、Reich はその後オーゴン放射線はすべての物体に浸透することを、確認した。

ライヒは 1950 年代に F B I によって収監されそこで死んだが、ベンジャミン・クレームによるとそのライヒのすべての物質をよく透過する『オーゴン放射線』と物質のエーテルの次元の発見は、事実であるという。それは現在の科学者が、彼らのフランスとスイスの国

境にある・強粒子大加速器で長さ 27km の粒子加速器で発見する寸前である。

宇宙の 96 パーセントは、『暗黒物質』で作られていると 1930 年代にスイスの天文学者 Fritz Zwicky によって最初に推測された、この彼の仮説は『暗いエネルギー』の概念によって後で拡張されなければならなかった。

物質のエーテルの次元の概念は、この点で重要である。

Benjamin Creme は、人がエネルギーのエーテルのレベルの現実性を理解しない限り、人は UFO 現象または、収穫円の作成といったこれら全てに関連する物質のレベルのより良質で、より微妙な、ことを理解することができない、とさえ言う、

"8

しかし Enrique Barrios の主人公 Ami がそれを彼の Earth 友人 Pete に、宇宙船の原理を彼らの原子の振動の率を下げることによって見えるようになること、または彼らがその振動の率を原始状態にもどすと我々の視野から消えることを「自転車の車が速くまわるならば、あなたはスポークを認めることができない。と説明することは理解するのに本当にあまり難しくない：

我々は、船の分子の動きを速くする。

92

" 9

私が本「George Adamski- A Herald for the Space Brothers,
—Space Brothers のための使者」、で論じたように、

たとえ彼が固体物理とエーテルの物質の濃度の違いに気づいていたとしても、スペースピープルから「メッセージ」を受け取ったと言うニセの神秘主義者の主張の氾濫によって混乱の危険にさらされていたので、Adamski は、自分の経験とメッセージとが神秘主義者の主張とを正確に区別することを辞退した。(UFO などがエーテル状の物理存在ではあっても) これらが現実の物理存在として本物であることを世界に明らかにすることが Adamski の任務であった。

10

同時に、スペースピープルが異なる次元の平面に住んでいる『エーテル人』かスピリッツャルな存在であるかどうかという問題に答えて、彼は言った：

「スペースのエーテルはそれ自体が見えない、それでも、自然の物体の密度を変えスペースのエーテルによる波を活性化させることでその中を移動する。

しかし、これらのエーテル波を移動させる人々によると、スペースそれ自体に住んでいる『エーテリアン』の人々、その他の者ではない』II、

i.e.彼ら自体が天上の外存在としてあるのではない。

George Adamski は彼が会ったスペース人々の物理的実在性を強調するために、彼の昔の共

著者の Desmond Leslie に話した：

「彼らは、呪われた幽霊でない」。

12

他の機会に、著者 Timothy Good によると、

彼は「なぜ、幽霊は宇宙船を必要とするのか？」と、尋ねることで、そのおかしさを強く否定した：

13

本当に、言わなければならないことはスペースピープルの多くは我々を助けるために Earth に来る非常に進化した存在である。そして、彼らの一部は彼らの住む惑星の Spiritual Hierarchy の中の知恵のマスターである、彼 Adamski の 1955 年の本 Space Ships の中で説明によってもそれは補強されるように、その人は思いによってどこにでも旅行することができる。

しかし、Benjamin Creme によると、適切なすべての方向から我々を助けるために彼らは宇宙船のテクノロジーを必要とする。

実際のところ、Creme は言う。「木製からの宇宙船の多くは、1989 年 2 月 16 日にペルーの、Cuzco、Valle Sagrado Urubamba で写真を撮られた

93



A space ship from Jupiter, photographed on 16 February 1989 in the Valle Sagrado Urubamba, Cuzco, Peru. The ship was not visible to the anonymous photographer or the people in the photograph. According to Benjamin Creme's Master the image of the ship, which was in etheric matter, was projected onto the film by the ship's crew, which totalled about 500.

宇宙船は、匿名のカメラマンまたは写真をとった人々の目には見えなかった。

Benjamin Creme の Master によると、エーテル物質であった宇宙船の画像は宇宙船の仲間によってフィルムに投影された。そして、それは合計およそ 500 枚になった。



**This second photograph was taken a little higher up the mountain.
(Photographs first published in *Share International* magazine, November
1994, p.17)**

**George Adamski gave a very close description of this kind of craft in 1949:
"She has a chisel type nose and a fan shape tail. She has fins on her,
something like fish, very close to the body." (*Pioneers of Space*, p.123)**

95

この2枚目の写真は、山の上の少し高いところで撮られた。

George Adamski は、1949 年にこの種の航空機の非常にくわしい説明を与えた（この写真は *Share International* 誌、1994 年 11 月の、17 ページに最初に発表された）：

"She has a chisel type nose

「彼女は、彫刻されたようなタイプの鼻と、扇状 fan の形の尾がある
彼女は、彼女は魚のひれのような何かを持っていてその体はそれに非常に近いものだ。
大きな船は母船で、研究所とその他がある。(これらの長さは最高 4 マイルある)
」
(宇宙のパイオニア (123 ページ)).」

95

14

これらがエーテルの物質の中にいるという事実は、宇宙からの訪問客がインプラント装置の挿入と品種改良のため、遺伝子収集するために誘拐しているといった大量の極悪なデマを飛ばして非難することを不可能にする。

Benjamin Crème は言う：

「宇宙船には物体としては誰も、決して乗れない。
それは不可能である。これらの宇宙船は、固体の物理でない。
宇宙船に入るために、あなたは濃い物体から出なければならない
そして、あなたは宇宙船のエーテル的なものに入る。そして、それは彼ら自身エーテルの中にいる。それは、物質ではあるが、エーテル物質である。」

15

物理的に濃密な物質の束縛を含まない、認識の高められた状態とエーテル的なものの経験が、Giorgio Dibitonto の本「Starships の Angels」に書かれている：

「船の内部のこの素晴らしい光線と明りは、私は説明することができない効果を生じた。
我々はリニューアルされて、新しく生まれかわったと感じた、そして、我々のすべての精神的なエネルギーは言いようのない平和な感覚で喜んでいた。

同時に、我々を変化させ、我々の内部にある眠りへとむかう機能がすべて呼びさまされている幸福な状態に、いるのに気づいた。

言葉と映像によって我々に与えられるかもしれないすべてを熱心に受け入れたいと、我々は感じた。

地球ではめったに感じられないような全てを含む愛で、我々の心臓は熱くなった。

"16

しかし、コンタクティが宇宙船の上で彼らの旅行を解説する方法としては、それはたいてい誤解されるので体の外に取り出される経験は、中に含まれていない。

例えば 1975 年にコンタクトした Travis Walton の有名なケースでは、何があったか説明するには奥義に通じた秘教主義者が必要である。

Benjamin Creme は、たとえば、その Walton のことを述べて(その人は誘拐されてはいず、招待されている)、彼自身の自由意志で航空機に乗り込み母船に乗って、取り出されたエー

テルの物理体で、彼が連れて行かれる経験をしたとき、彼の物理的身体は見えなくなり、保護されていた」といった。

96

17

Benjamin Creme によると、彼は世界にこの話をするよう頼まれたが、世界の物笑いになることが怖かったので話す事はやめた。

一部のコンタクティが持っているマイナスな記憶は、Adamski がこうしたことについて言ったことで説明されるかもしれない：

「人が、接近するか、入ろうと誘われるとき [宇宙船] の強力な放射線（力場）は、切られるか最低限まで下げられる。

しかし、恐れは、人を殺すこともできる破壊的な力である。）、

そして、宇宙船による損傷被害についての報告は宇宙船からの放射線というよりもむしろ恐れの結果であるというのが、私の意見である。」

18

Orfeo Angelucci も、その体験は、人が『神秘的な』状態にいるような感じを若干与えるようだと思った：..

「内部は、エーテルの真珠層のような素材でできていた...（洗練された色の光りを出す薄い物質 irri [原文のまま]）

リクライニングチェアが、直接入口の向かい側にあった。

それは同じ半透明の、かすかに光る物質でできていた—我々が知っているような物質にはないもので、それが現実の材料であるようには見えないような薄さだった、...

座ると、私は材料の肌合いに驚嘆した。

その中で着席すると、空気中に停止したように感じた、なぜならば、その椅子の材質それ自体が私の体の適当なあらゆる表面または動きにフィットした。

私が背中を後ろにもたせて、くつろいだので、平和と幸福の感覚は強まった。」

19

1955 年の Angelucci の本「The secret of the saucers---

UFO の秘密」の説明は他の、コンタクティの受けた衝撃と似ている。

たとえば、Dibitonto は以下のように書いている：

「単一な光源を認めることはできなかった、中央の部屋はすべての方向から来るような光で照明されていた...

今まで起きたことのない感情が溢れた；

この同じ神秘的な明りで、そして、身体的に出てきたエネルギーというより、精神的なエネルギーで、我々全員はあふれた。

"20

George Adamski は宇宙船の内部を、以下のように解説した：

「航空機の中には、一つとして暗い影が、なかった。

私は、光がどこから来るのか、あきらかにすることができなかった。

97

それは、柔らかい気持ちの良い輝きであらゆる隙間に浸透し入り込むようだった。

その光をうまく表現する方法が、ない。

それは白くなく、青くもなかった、それは正確に私が名をつけることができる他のどの色でもなかった。

" 21

母船の内部は、Adamski によって「親しみやすい青っぽい白い拡散光と同じ種類のガラス質の半透明の金属壁」と書かれた。

"22

"22

Adamski が最新技術を取り入れた宇宙船の中に連れて行かれた後に、彼は Cosmic Science 速報に書いた

それは、：

「彼らは何世紀もの間スペースを旅したという事実にもかかわらず、これらの訪問客は、彼らの航空機を絶えず改善している。

1957 年 5 月に、私には彼らの最新の船の 1 隻に乗りその処女航海の間、検査する、特権を得た。

再び乗ったこの船の直径は、私が「宇宙船の内部で」に書いた最初の金星からの宇宙船の半分であった。

中心を通り抜けている磁極がなかったし、床のレンズもなかった。

これらは、より先進の機器と入れ替えられていた。

人々の地面での反応と考えを描くことが、できる新しい革新も、彼らは仕上げた。

"23

後者は、UFO 研究者の間で全く一般に知られている、その、予備モデルは、土星のマザーシップの上でパイロットによって Adamski に説明された、

「宇宙船の内部で」で書いたように：「ディスクは、現在地球の居住地点の上に浮かんで、その地点から発散している音を記録している。

これは、スクリーンで線と点と短い距離で示されている。

他の機械はオリジナル・サウンドと共に、この情報を集めて、信号の産みだす図の意味によって、それを解釈している。」

ディスクの働きは、Zuhl によって、さらに以下のように説明された：

「宇宙のすべては、それ自身の特定のパターンを持つ。

たとえば、もしも誰かが『家』という言葉と話すと、ある種の住居の心像は、彼の心の中

にうまれている。

98

人間の感情を含む多くのものは、同様に記録される。

「これらの機械を用いて、我々は、あなたの仲間が何を考えているか、そして、彼らが我々の方へ敵対的かどうかわかってさえいる。

厳しい、こわがらせる言葉があるかどうか、

または、彼ら自身の方法で思考さえ画像化し、我々のレコーダーは、それらを正確に拾い上げる。

同様に、あなたの間の誰が親しみやすく受け入れ理解するか我々にはわかっている。

宇宙の全ての『振動』による動きを最近では地球ではそれを『周波数』と呼んでいる。」

'24

ここで、我々は研究者江本勝 Masuru Emoto と Andreas Lauterwasser の同じテーマの研究を思い出す。そして、それは第 6 章で短く参照のため引用する。

Alberto Perego の 1958 年の本「Sana Extraterrestri ! ('They are extraterrestrial! 『彼らは地球外の存在である！』の中で

『)、イタリアの領事で UFO 研究者 Alberto Perego は、1957 年 10 月に Adriatic Coast の Francavilla に着陸している、空飛ぶ円盤の操縦室の内部の写真を含めて見せてもらった。彼は、ディスクの直径がおよそ 24 メートルであったと報告する；

そのキャビンは 10 メートル。

オリジナルの写真をとった状況について、Perego は以下のように書く (*100-103 ページに載ったものをここで複生する)：

私は長いこと、知っていた私の仲間の 2 人の男性（その人を）は、二回ディスクに入ることが出来た。

彼らはパイロットによって写真を撮ることを許可された、しかし、パイロットはキャビンにいなかった、彼らの声だけが拡声器によって聞こえた。

席は、床から非常に高かった。

この事実を見て、カメラマンは、パイロットが非常に背が高いと推論した。

「25

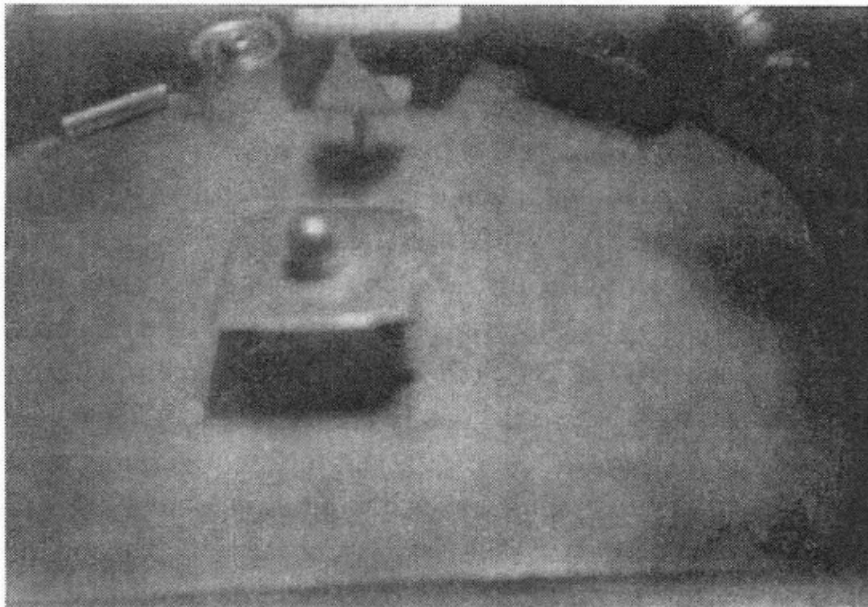
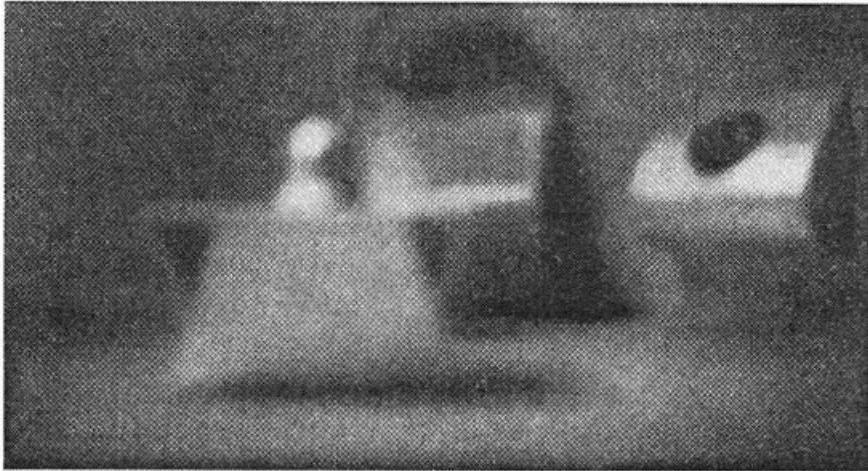
この後の事実は、Friendship Case の Bruno Sammaciccia の説明によって、後で確かめられた。

*

以下のページの写真は、Friendship Case の匿名の会員によって撮られ、この章に拡大して掲載するためにデジタル的に画質を向上させている。

これらは、事前の書面による著者の許諾がないとこの章からの複製は許可しないかもしれない。

99



The photographs on pages 100-103 show the interior of a flying saucer, for which Alberto Perego gave the following details:

"A kind of table in the centre surmounted by a sphere that pulsates light (at intervals). It seems that the sphere showed the position of the disk in relation to the planet, and that an enlarged view of the fly-over areas is shown on the 'table'."

(Alberto Perego, *Sono Extraterrestri!*, Italy 1958)

100

ページ

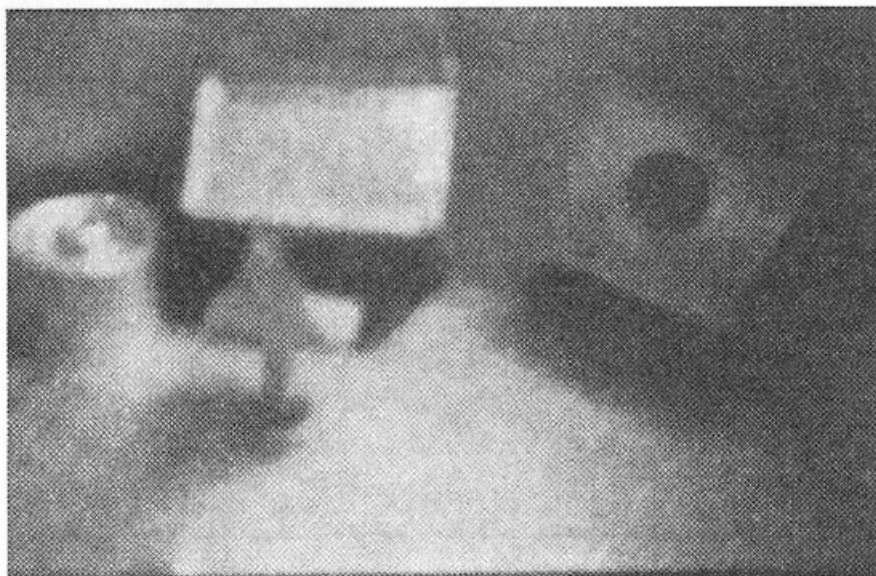
100-103 の写真は、空飛ぶ円盤の内部を示す（Alberto Perego は以下のように詳細な内部の様子を伝えた）：

中心にある一種のテーブルに置いてある脈動する球が、間隔をおいて明るくなる、球は惑星に関する宇宙船の位置を示し、『テーブル』には立体的に交差する領域の拡大図

が示されているようだ。

(Alberto Perego, Sono Extraterrestri ! Italy 1958)

100



"A seat with a triangular back rest, placed in front of a 'control panel'. To the right there is a kind of monitor next to another device (use unknown)."
(Alberto Perego, *Sono Extraterrestri!*, Italy 1958)

101

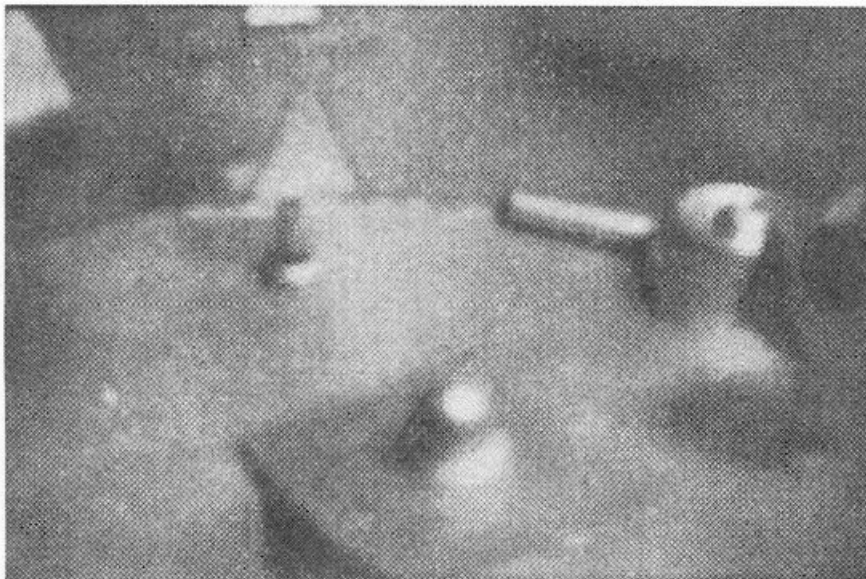
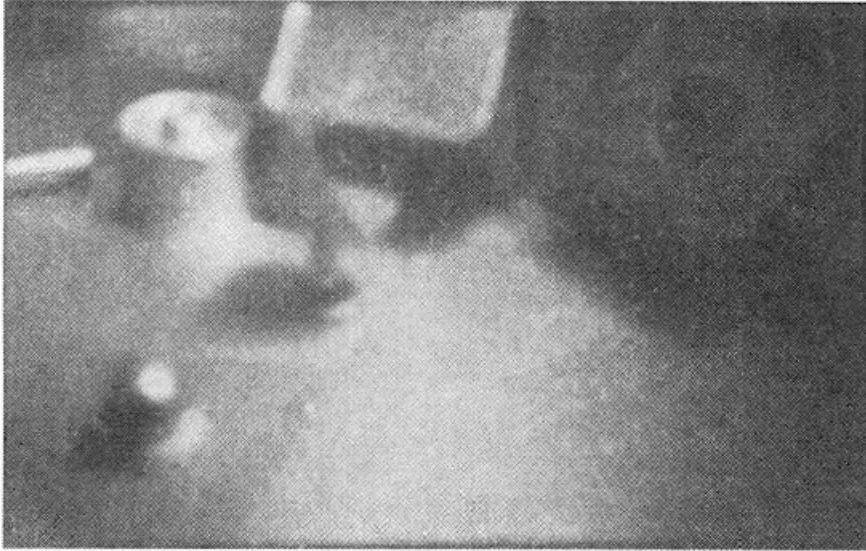
M

『制御盤』の前に三角形の背もたれのある席が置かれている

Perego, Sono Extraterrestri!, Italy 1958)

右には、一種のモニターがあり、その隣に使用目的は未知のもう一つの装置がある」(Alberto Perego, Sono Extraterrestri! Italy 1958)

101



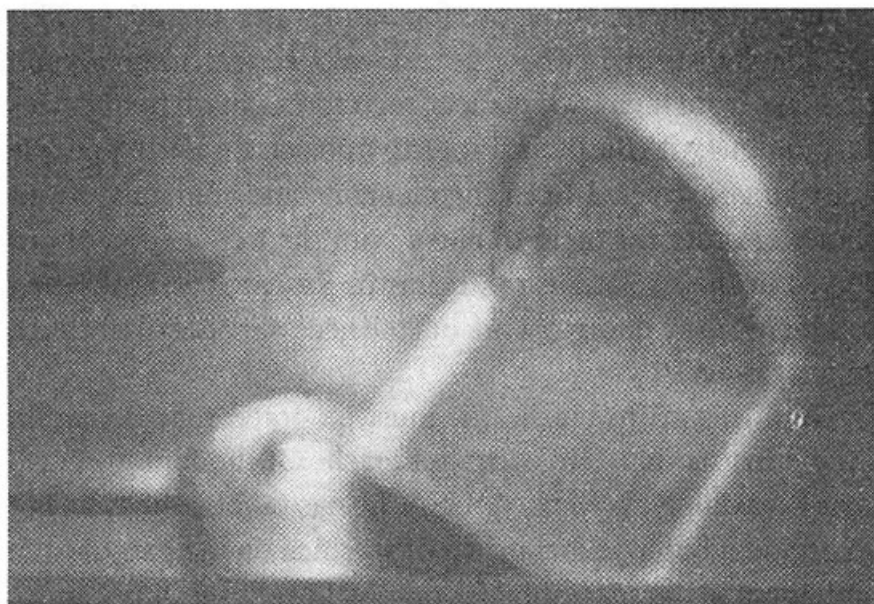
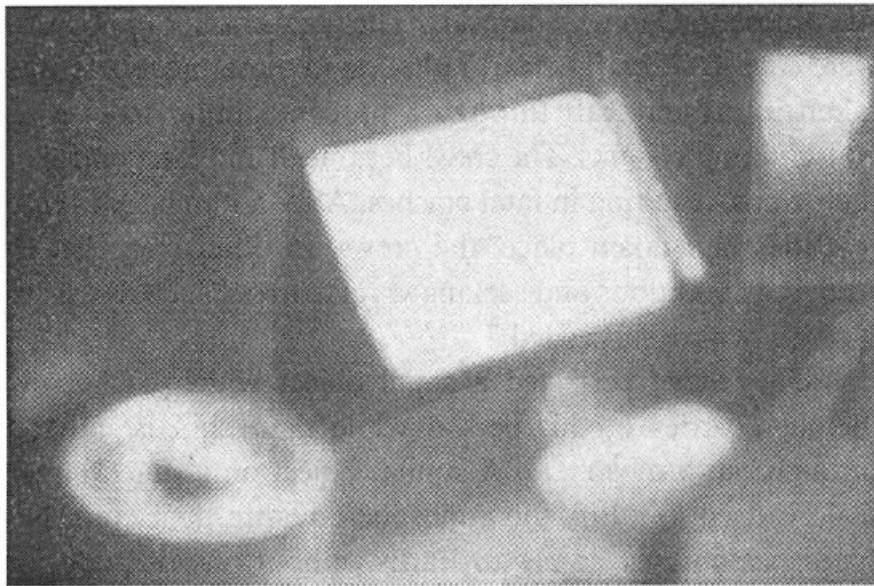
“To the left of the ‘control panel’ a kind of metal dust bin (use unknown), and a cylinder placed on the ground (use unknown), and further to the left another seat similar to the first one, in front of a small rectangular luminous quadrant. Then another device similar to a monitor.”
(Alberto Perego, *Sono Extraterrestri!*, Italy 1958)

102

『制御盤』の左にある、金属の、ちりを払うごみ箱一種、(使用法は未知)
そして、シリンダーが床に置かれている、(使用法は未知)
そして、さらにまた左には、小さな長方形の明るい象限の窓の前に最初のものに似た別の
座席が設置してある。
そしてモニターに似たもう一つの装置。」

(Alberto Perego, Sono Extraterrestri!, Italy 1958)

102



The last two photographs show the 'control panel', luminous [top] and switched off [bottom].
(Alberto Perego, *Sono Extraterrestri!*, Italy 1958)

103

最後の2つの写真は、『コントロール盤』を示す、

〔上〕は照明の点灯

そして〔下は〕、スイッチを切る。

(Alberto Perego, *Sano Extraterrestri!*, Italy 1958)

103

Space travel 宇宙旅行、

George Adamski によると「UFO の初期の事故は、我々の大気中の〔原子核〕放射が我々の空調装置と類似したプロセスで彼らの航空機に入った時に事故の原因となった。

クルーは病気になって、彼らの船をコントロールできなくなった。そして、結果として致命的な事故になった。

いくつかのこれらの死が起こったあと、他の船に乗った乗務員は状況を調査して、そのような災害を避ける方法を捜し始めた。

彼らは今は、成功している。」

「彼らの船が我々の大気を通して動く間、各々の乗員が彼の身体が運ぶ小さな器具を、彼らは仕上げた。

非常により大きいスケールの類似した物は、彼らの航空機の中の空気を浄化するのに用いられる。

彼が我々の空気だけでなく、我々の食物と水の中にも存在する放射線に耐えるのを助けるために、宇宙人は、保護のためにこれらを 1 つも持たずには、地球に決して来ない。

26

「彼らの機器は彼ら自身の惑星からの鉱物と成分で開発された、したがって、ユーザーと調和した周波数を含む。

地球とこれらの装置の関係が体の周波数に調和するために、地球の人々の保護用物体は、地球の成分と鉱物から造られなければならない。

現在そのような機器に関して必要な詳細なことを解決するための研究に努力しており指導されている。」

27

Benjamin Creme が事故で FO は壊れることができないと主張する点に注意されなければならない。

USA ニューメキシコ州 Roswell の近くの有名な事故について、それは「事故ではなく宇宙船にのっていたそれぞれの個人の慎重な犠牲的行為だった」と、彼は言った。

通常これらはエーテル物質でできているので、それらの宇宙船は墜落することができないーこれらは重さを持たないし、消滅させることもできない。

我々に宇宙船と 5 人の宇宙飛行士の証拠があるように乗組員は、故意に濃い物質に物質の振動性率を降ろして、宇宙船を衝突させた、こうして同じではないとしても

その人たちは研究されることができ、確かにこの惑星の人間と類似していると認められた、

104

「28

おそらく、初期の事故に巻き込まれた UFO のクルーは、放射線への暴露の結果として病気になったと Adamski が言ったが、故意にそうしたのだった。

2002 年のドキュメンタリー

「秘密の証拠 我々は孤独ではない The Secret - Evidence We Are Not Alone,」の中でアメリカ政府が常に UFO 現象で大きな興味をもっており、今でも公的に承認しているよりもそれについてはるかに、多くのことを知っており、一般市民にそれをさとらせないようにする努力をしたことを、Majestic-12 文書は示していた、Roswell 事故現場から回収された航空機と体の目撃者で、米軍情報 Intelligence Corps の米軍の軍曹 Frank Kaufmann は、以下のことを述べた：

「[航空機] は、燃料を運んでいなかった。
彼らは、それが航空機自体の下にある連続した八角形のセルによって推進されると仮定した、
明らかに、これらは何らかの方法で大気からエネルギーを取り入れ推進エネルギーと融合させていたことを示す。
それは、まだ地球の科学者が発見しなかったか、それをまだ理解していない領域の 1 つである。

" 29

Adamski は、無制限の、このフリーエネルギーのソースをほのめかしていた、
彼が Inside に Space Ships を書いたとき、スペースピープルはそれを宇宙旅行のために使うとした：

「まさしくドームの最上部から床の中心へ厚さ 2 フィートのものが下に伸びている。
後で、私はこれが船の磁極であると話された。そして、それによって、彼らは推進力の目的のために自然の力を吸いあげていた。

「火星の Firkon は、以下のように説明する：
「床を通して下に伸びる棒の上部は通常プラスで底がマイナスであるのに気がつく。
しかし、必要に応じて、これらの棒は、単にボタンを押すだけで極性を反転させることが可能である。

"30

後で、1958 年に、Adamski は以下のことを加えた：
我々の生きている体がエネルギーを吸い込むのと同じように、彼らのパワーはスペースから得られる。
各々のケースで、自然の成分は、電気またはエネルギーに変わる..。

105

訪問客は自然と調和する方法を研究していて、このエネルギーを利用する方法を、学んだ；
しかし、地球の我々自身にあるお互いに対する敵意のため、彼らは詳細なプロセスを私に

説明しなかった。

"31

Orfeo Angelucci の「UFO の秘密」で同じ概念が見つかる：

" 円盤は、宇宙的な磁力を利用することによって作動し、制御された；

このようにすべての宇宙の地点で、彼らは活性化した分子を受け取り、固有のエネルギーに変えた

"32,

「Timothy Good は彼の本「Unearthly Disclosure」で、

米空軍役員によると、地球外の航空機は、「地球の磁場を利用して、電磁推進の形を使用する」。

"33

しかし、惑星間の旅行のためには、実際の推進力は、必要でない。

Adamski に言われたように、「我々にとっての速度は、あなたの思うようなことを意味していない。

1 度、船はアウトースペースに乗り出すと、船の速度はスペースの活動と同等になる！

人工的に推進される代わりに、あなたの飛行機のように、我々の宇宙船はスペースの流れに乗って旅行する。

34

Adamski が『空飛ぶ円盤』について話されたことに関していうと：

「我々はあなたが思うようには飛ばない。

我々はメカニカルな手順によって大気を無効にする。

それをあなたは、『重力を中断させる』と、言う。

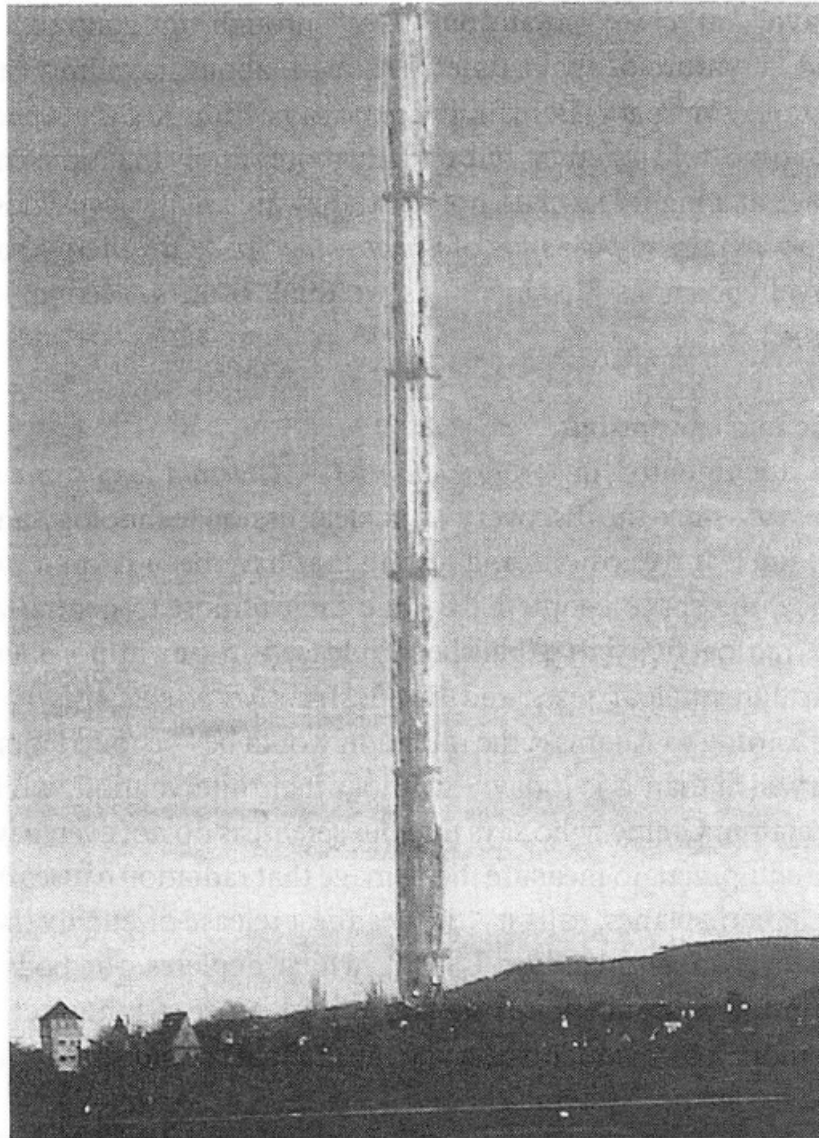
そういうわけで、我々の航空機は、その速度で動かしても

進行方向に急激な変化をもたらすことができる、あなたの飛行士とあなたの科学者をととも不思議な思いにさせる。

Enrique Barrios はスペースコンタクティによって、慣性をキャンセルすると説明されている。

36.

Barrios は、Ami に我々は以下のようにしていて、そうはしないと言う：



centrally from the dome at the top of the craft to its base, as described by George Adamski. The Master added: "As soon as the 'switch' is thrown, the vehicle is free of the pull of gravity and rises automatically. (...) Some nations, including the US, Britain, Russia and Germany, have been looking for this anti-gravity technology for many years. They have been shown it by the Space Brothers." (*Share International* magazine, March 2011, p.16) Benjamin Creme later added that our scientists have yet to 'grasp' the technology they have been shown.

107

Page107:

この長さ 100 メートルの円筒形の物の写真は、2010 年 2 月 19 日にスイスの、バーゼルに、近いところでとられた、それより上にあるおよそ 50 メートルの高さの巨大なドームと目撃者が見た地面の近くの泡の形は写っていない。

Benjamin Creme の Master によると、写真は一種の X 線によるもので、垂直のチューブ状の宇宙船の柱の大きな内部構造と大部分は UFO の技術的な成分を示している。そして、それをクルーは逆の重力に使う。

George Adamski によって解説されるように、それは航空機の最上位のドームから基底まで中央を走る。

106

Master は以下のように付け加えた：

M

『スイッチ』が入れられるとすぐに、宇宙船は重力の力がなくなって、自動的に上がる。the US、Britain、Russia と Germany を含めて、いくつかの国は長年この反重力テクノロジーを研究してきた。彼らは、Space Brothers によってそれを見せられた。」我々の科学者はまだ彼らが教えられたテクノロジーを『得て』いないと、Benjamin Creme は後で付け加えた（シェア International 誌、2011 年 3 月、16 ページ）。

107

『旅行』というよりむしろ「時空の湾曲と収縮」を通して我々自身」を目的の場所に『位置させる』

しかし、宇宙の膨大な距離を進むことについて、Benjamin Creme は以下のように述べる：しかしこれは、空間と時間が『一緒に折り重なる』ということではない；

実はその時間とスペースが、存在しなくなるというよりこれらの、より高次の「それは、幻想なのである。

それらの一Space Brothers—はすでに Space の Masters で『時間』にして数秒で、莫大な『距離』を進むことができると我々は考えている。

In the 2002 documentary

"37

The nuclear opt-out

核の廃棄

A Space Brothers の使者としての George Adamski に書かれているように一、核分裂技術と核爆発の発見と行われたテストから、これが持つ我々の大気中での核実験の破壊的な影響と、リリースされた放射能を制圧するために宇宙の人々は、彼らの出来るだけのことをした。

Adamski によると

彼らの干渉なしでは、放射線は、今日あるより、非常に全面的に存在する」

38

Benjamin Creme はそれを「これまでに地球で起きた最も致命的なエネルギーの放出」と

呼ぶが、(その人は放射線がエーテルの次元での損害の原因となることを測るために我々の科学者が器材さえ持っていないと言う) それらは我々の体の免疫系を減少させ「ますます多くのアルツハイマー病、記憶喪失、方向感覚の喪失と我々の体の防御システムのゆっくりとした崩壊の原因となる」。

39

核戦争は人類の消滅の条件と呼ぶような、惑星を無数の世紀の間不毛にする我々の土地と水と空気、の中の毒素の、明らかな影響は別として
スペースピープルは以下のように述べた：

「我々の銀河のバランスを無効にすることであなたの惑星自体の物体がある程度不具にされた可能性があったかもしれない。

そのような多数回爆発でリリースされるエネルギーそれから外宇宙にあなたの大気を通してしみ出るもので我々にとっての宇宙旅行は長い間、来るのに、難しくて危険になった。

108

"40

原子爆弾の爆発は我々の大気圏の中で異常状態の原因となったと、**Space Brothers** は警告する。そして、それは電離層で積み重なった：

「そうしたことが各々の爆発で深く成長することが、続いた；
そして、少しずつ、地球環境は悪化している。

「41

Benjamin Creme によると、この影響を制圧させるために、カルマの法則の許す範囲内でスペースピープルの入ることが可能な最善の努力にもかかわらず、空気の核放射線はこのように増強する

そして、彼らの得たチャンスと努力の 90 パーセントは、気候変動の結果である豪雨を通して大気圏から消えてゆく。

42,

これらの雨はこれらの洪水の原因になるだけでなく、あらゆる原子力発電所によって空気に放出される核放射線を含む」多くの非常に有毒な汚染物質を落下の原因になり、最近の大量の鳥と魚の死の原因となる。

43

(**Adamski** によると) 核実験から生じる危険な状況の 1 つは時々放射線の濃度が一緒に集まって、ある状況の下で大気圏から『火の玉』として十分な成分を引き抜くことができる」ことになる。

スペースピープルは彼らのより良質の機器で、これらの見えるか、または見えない放射線の地帯を見つけることができる、

そうすると、彼らはこれらに干渉して、崩壊させる...

"44

同様に、原子爆発の結果として生じる原子雲は、これより非常に大きいスケールで同じ集中したエネルギーから成る、

Adamski は、以下のように説明する：

我々の飛行機の 1 機は、そのような見えない『雲』と接触しなければならない、その飛行機は爆発するか、崩壊し、見物人の目の前で消えるように見える。

これは、不可解な報告された飛行機失踪のいくつかを説明する。

若干の例においては消えた飛行機の近くで、宇宙船が数回レーダーで追われ、視たというレポートさえある、そしてこれらの消えた飛行機の近くで宇宙船が我々の飛行機をさらっていったこともあった。

109

しかし発見するには能率が悪い機器のため、我々のパイロットがこれらの『雲』の通り道ではどうすることもできないということを、スペースピープルは知っていると、私は話された。

彼らは、これらの悲劇を避けるために、可能な限り速やかな解決点にたどり着くために、出来るだけのことをする。

しかし、彼らが到着したとき、まさに我々の飛行機の一つ以上が集中したエネルギーのこれらのポケットの1つに入ってしまったのである。

そういう事情で、彼らは待機状態にいるときより多くのことをすることができなかった；

飛行機がそのような力に巻き込まれると、飛行機の搭乗員を救うことは不可能である。

しかし後で、スペースピープルは、更なる大災害を避けるために、見えない雲を崩壊させている。

"45

彼らのもつより高度な機器では、**Space Brothers** はこれらの破壊的な雲を見つけることができ、制圧することができる。

面白いことに、**Wilbert B. Smith** は彼の『結びつけている力』という文において、いくつかの不可解な飛行機墜落にこれと類似した理由を与えた。

『どこか他の所』からの人々は、彼に知らせた

「我々のパイロットがこの惑星の「分子を結びつける力」が縮小した領域を完全に無視してまわりを飛んでいることに悩んでいた、そして、頻繁に、彼らの[エアプレーイン] 航空機は、十分な安全率で設計されていないので、分解した。

彼らはまた、我々の原爆を爆発させ実際に、各々の爆発でそのような一対の『渦』をつくる傾向についての2、3の無作法な注意を述べた

「46

明らかに、Smith はまた、このことが、1948年1月の敵対的な UFO 活動として非難されたケンタッキー州空軍州兵のキャプテン Thomas F. マンテルの不可解な事故の原因となったことを信じていた。

47

Adamski は、核放射線の危険な影響について、その後の情報を1958年6月に与えた：

"

最初の原子爆弾の爆発のずっと前から、我々の科学者は、宇宙から来ている自然な宇宙線を勉強していた。

彼らの研究は、ある状況下では、これらの宇宙線が致命的でありえるということを証明した；

110

しかし、通常、これらの悪影響は、これらの我々の大気を通る通路でろ過された。

しかし、最初の核爆弾を爆発させることは、これらの光線の通常の自由な流れに対して、人工のバリアとなり始めた、そして以降の、各々の爆発は、そのバリアの深さを増すことになった

こうなると、放射線はこの人工のバリアを通ろうとして、宇宙線は今までと違う方法で通過しなければならない。

我々の大気は宇宙からのすべての有害な放射線造粒をろ過することができるわけではないために結果としてこの散在的な高濃度の宇宙線が突破する

「我々自身が作ってしまった放射線のこのバリアは、その背後に大きな水の物体が貯えられている、繕った箇所と比較することができた。

最初の小さな割目が繕った箇所に現れるとき、たくわえられた水の重さは、不自然な力で放出しようとして中を急ぐ。

同じ原理は、放射線雲を突破する宇宙線にもあてはまる

それは、現時点で惑星をとり囲んでいる。

世界中でそれでも核爆弾は、爆発しその結果、同様に我々の空気は、宇宙のこれらの自然力と核爆弾の〔放射性降下物〕によって汚染されている

これは我々自身が生み出し...我々だけがそれを変えることができる異常な条件である。

しかし、我々はすべての将来の核実験を禁止することになった、それでも、大気をきれいにするのに、何年もかかる。

"48

第1章で述べたとおり、研究者 Robert Hastings が用意ができたと告げた2010年9月の記者会見で、そのおよそ120人の前軍当局者は UFO が我々の核保有能力に顕著な関心をもっていているという事実を証言した—しかもそれは、Benjamin Creme によると、現在24の国によ

って、共有される49

(「軍事研究(特に軍事衛星111の発達した使用)の実験場として、アウタースペースの我々の利用を嫌う」ために、thatthe 地球外生物がようであると、Lou Zinsstag がすでに思った Adamski のスイスの接点)、

ーそしてそれは、Benjamin Creme によると、現在24の国によって共有される。しかし、1983年に、Adamski のスイスの接点 Lou Zinsstag は、それをすでに疑った

49

地球外生物は、「軍事研究の実験場として、アウタースペースを我々が利用すること特に軍事衛星の両方の超大国による使用の増大を嫌うようだった。

"111

特に、彼女は船上に原子炉と燃料を運ぶ衛星のタイプを指摘した。

具体的には、彼女はロシアの衛星 Cosmos 954に言及していた

それは、1978年1月に北 Canada に落下したが、「それがより高い軌道に着くことを望まなかった誰かによって落とされた」と、彼女は推測する。

同様に、アメリカのスカイラブは、1979年1月に落下した、

この時は Australia だった。

それはまるで両方とも誰かによって拒否されたように、見える...と Zinsstag 夫人が書く

「George Adamski が米空軍が1960年に Earth の成層圏のかなり高い所に運び込んだ原子爆弾について、彼女に話したと、すでに1963年に彼女は、読者に思い出させる、そこで、それは実験的な理由で爆発させた：

「ロシアにも類似した考えがあった、しかし、アメリカは最初にそれをしたかった。

しかし、初のテストの後、全てのプロジェクトは、どちらの側でも 突然廃棄され、決して再び始められなかった ー。

『警告は、非常に明白だった』と、Adamski は言った。『大きな声が大声で否定を叫んでいたのだ！

だめ、絶対にだめである！

それは爆弾でなく、連続した爆破テスト計画であったのだが、許されなかった！』

50

Benjamin Creme の情報は Space Brothers がこの核放射線を制圧するためにスピリッチャルな任務に従事しているということである。そして、それは同じ効果について Alberto Perego の言った事でも確かめられる。(56ページを認める)

実際、彼の Master は、以下のように言った：

「カルマ的な限度の範囲内でこの汚染を制圧し、無害にする我々の Space Brothers の援助がなければこの惑星での生活は、全く惨めである。

彼らの宇宙船（爆縮装置を用いた）の艦隊は、毎日こうしている。

"51

彼らが濃密な物質の次元で、惑星の磁場を再配置すると同時に、「買い占められたりまたはどんなグループによってもそれが隅に置かれたままにすることができない方向で、すべての目的に使える、無制限な、安全な電力として、新エネルギー・グリッドの一部としてこの惑星に与える」...

「52

Creme は収穫円は、地球の磁力線を妨害し目をくらますような青色の光の渦のある場所で見つかり、言う

112
The blinding blue light that was filmed near Tokyo on 7 april 2011, during the 7.5 earthquake there, was the result of space ships counteracting the energy of the earthquake by causing it to 'implode'. According to Benjamin Creme's Master, the "implosion" technology which the Space Brothers have been using to neutralize concentrations of radioactive pollution, is now also being developed to mitigate the effects of earthquakes. (Share International magazine, May 2011, p.11)



これは、2011の4月7日の東京の近くで震度7.5の地震の間に撮影された、それは『内側に破裂させる』原因となることによって地震のエネルギーを打ち消した宇宙船によるものである。Benjamin Creme の Master によると

C1

「放射能による汚染の集中「も、SpaceBrothers が「内破」技術を使って無効にしたが、地震の影響を軽くするためにも、現在このようにスペースピープルによって使われる磁気エネルギー存在は開発されてよいものになっている。

（シェア(Share International 誌、2011年5月、11ページ)

112

スペースピープルは、「我々の自由意志を侵害することなく、わずかに触れる程度の方法で、地球の人々に〔彼ら〕が我々の〔太陽の〕システムの部分として分離する惑星としてでなく、組織的方向で働くことを話すために収穫円を使う

かれらは、将来のテクノロジーをこの惑星が開発するのを助けている、
そのうえ、静かに、彼らが100パーセント親しみやすくして無害であることを知られるようにしている。

" 53

収穫円に関しては、**Creme** は、少数のわずかおよそ4パーセントが捏造であると言う、

54

収穫がない所では、スペースピープルのこの特別の活動の跡は通常ない、しかし、ますます、どうやら、水が雪と氷になった本体で相似た円が見つかっている。

彼らのテクノロジーによって、スペースピープルは **Creme** が光の **Technology** という基盤を確立している。そこにおいて、太陽からの直接的なエネルギーは地球の磁場からのエネルギーと結合されている。

光の **Technology** を通してこのエネルギーは世界中のあらゆる場所で利用できる

国内の目的とか産業とか彼らの用途に従い、いろいろな形とサイズの箱に保存されそして、無限の量を自由に利用できる。

Benjamin Creme の **Master** は、以下のようにインタビューにおいて言った：

これは、すべての人間のニーズにエネルギーを提供する。

無駄もなく、それはきれいである、そして、世界のあらゆる都市のあらゆる家への無尽蔵に供給される。

援助は、**Russia** で、そして、我々の **Space Brothers** によるアメリカ合衆国の科学者に与えられている。

" 55

このように考えられる例は、**Bruno Sammaciccia** によって彼がイタリアの **Forlimpopoli** の近くの地下基地の周辺を示されたときのことに、書かれている。

地球外存在である **Meredit** は、彼に示した

我々が知っているどんな電子的装置とも非常に異なって、一年中十分なエネルギーを放出する装置が含まれていると、彼が言った：

「彼は、そのふたを開けると、中に、スクリーンがあった、そして、そのスクリーンに、どんな音も立てることもなく、広く光が投影され動いていた；

114

それは、ダークグリーンの光であった。

多分、人はそれにさわることをさえただろう。それは、熱いブイヨンのようなだった。『これは、その初期状態のエネルギーである。それは、固体のエネルギーに、または、さらに微細なエネルギーに変わるかもしれない。そして、これはそばにあるこの小さな機器次第である。』

そう、あなたがそのノブのある点にさわるならば、あなたが必要とするエネルギー量と種類を選べる、そして、この基地内の、あなたが好きなどどこにでも、それはそれを配布することが出来る。』

「56

そして、ベンジャミン・クレーム（1991年に）によると、

「ソビエト連邦にある町のエネルギー源のすべてが、直接太陽から彼らの衛星の1つで受け取る

それは、光の **Technology** の使用である。このテクノロジーはどこか他の所というよりも **Soviet Union** において進歩した。なぜなら **Space Brothers** がこの15年間そこで基地を持ったので。」

57

Sharing technology

テクノロジーの共有

彼の本「**Light at the End of the tunne** 進路変換の終わりにある光/ー人類のサバイバル のためのプラン」にて

Paul Hellyer は、2009年のコペンハーゲン気候サミットの厳しい結果を無くすきれいで安全なエネルギーへの移行を助け利用できるよう地球外のテクノロジーの発表を要求して（以下のように言う）

「我々が彼らに願うならば、**Star Visitors** が我々に惑星を保存するのに必要なテクノロジーを与えるということは私の心の中に、疑いはない。」

58

数十年早く、スペースピープルが「[彼ら] には援助を与える気持ちがあり準備ができていて用意している」と、ウィルバート・スミスは、断定的に述べた。

58

実際、我々の選択の自由に干渉しない線に沿って、彼らは我々をすでに大いに助けた。」

本当にマジスティックトゥエルブ **Special Studies Group** にリンクされている文書の説明はスペースピープルが彼らのテクノロジーを共有するために内気でなかったことを示すようである。そして、それは人類がこの50～60年間技術的業績で相当に進歩するのを援助してきた。

115

秘密の証拠 我々は、孤独ではないという、ドキュメンタリーの中で数学者とコンピューターサイエンスの専門家ライアン S.ウッドは主な MJ-12研究者の1人でもあるが、地球外のテクノロジーを検討する総合研究所からの、分析的レポートを参照する：

「飛行計器と操縦は、ガラス棒に似た光学導波管ファイバーで動かす。彼らは軟かなプラスチックのようなものに覆われたものを持って指示するだけである。

すべての機能は刺激を感じる敏感な感触または構造体を使って、操作されているかもしれない。

機器はプラスチック版によってカバーされて、色でコード化されているようである。」

60

ウッド氏が指摘しているように1947年の光ファイバー(繊維)技術の説明がこの量だけで終わるものではない、タッチスクリーン技術は、2007年のスマートフォンと2010年のタブレット型コンピューターの導入以来当り前になったただだった。

1947年の晩夏に Lt General Nathan Twining 将軍のために準備され承認されたもう一つの文書は、その夏の間、政府科学者とエンジニアが UFO 技術を評価できるようになった、決定結果を含んでいた、それは一連の純粋な銀の点をつないだ一連の細い格子状の線について、書いている」

それは我々が現在集積回路またはコンピューター・チップとして知っているものを、非常に思い出させる。

"61

Benjamin Creme によると America と Russia である程度、[Space Brothers] が科学者と働いていることは、真実である。

研究所で彼らは彼らの心と研究の両方で印象づけている。

"62

彼は、地球外生物との相互研究で、開発されたテクノロジーの1つの例を解説した（「それは、地球でのあらゆる運動をモニターすることができる。」）それは明らかに、1980年代のロシアと、アメリカの大きな軍備縮小の背後にある必要とされた要請理由であった。

"63,

クレームは1つの例を、確認した、

Space Brothers のそばで働いた科学者はマイケル博士 Wolf (1941-2000) であった、その人は彼の本、「天国を掴み取った人 The Catchers of Heaven 」で彼の経験について書いた、しかしそれは小説化された状態でそれを発表してもよいだけだった。これは、彼の本で、事実とフィクションを切り離すことを、もちろん、難しくする。彼の主張と意外な事実が論争的になると思われる1つの理由は彼の私生活とアメリカ政府のための彼の科学的な研究になければならない。彼は本当の名前によって一人の当局者にも言及しないようにしている、そして、そして、彼が詳細に引用する彼の息子の日記は、彼自身の考えを表すちょっとした物語装置と哲学ではないのか、真偽はわからない。Wolf 博士 (本当の名前マイケル WulfKruvant) は、1984年の彼らのクリスマス休暇に、彼が車を運転していたとき、スイスの崖から落ちて死んだ彼の妻 Sarah と十代の息子 Daniel の思い出のために、彼の本を書いた

.64

彼は本では、反則は必然的に伴ったが、しかしそれ彼はそれを越えないと思っているようである

当初1990年代に Wolfs 博士の物語の真実を与えた後に、彼の兄弟 Ron Kruvant は、2008年にインタビューに出て、マイケルには精神的な問題があつて、彼の本の大部分の物語をでっち上げたと言った、。

しかし、2010年香港を拠点にする研究者の、ニール・グールドは、フランスのエレクトロニクス・エンジニアで情報将校のフィリップ・デ・ラ Mezussiere と面談した、そして、(ヴォルフ博士が、5年の間地球外生物と会っていて働いたことを、確認した)。

ある時、MrDe ラ Mezussiere が述べた、

2人のスペースピープルが2、3分入ることを申しでたとき、彼は Wolf 博士と部屋にいた、そしてその人は同じプロジェクトで Wolf 博士と働いていた。

65

Wolfs 博士の「天国を掴む (1993年)」において、彼は、長く引き延ばされた亡くなった妻と息子への喪と再会の願いに、彼の経験と哲学的考えは織り交ぜられている、それを、読むのは楽ではないが、ここに述べられたことは他のコンタクティからの報告で見つけることもできいろいろな面白いことを確認させ、提供もする。

117

たとえば、ウルフは以下のように言う：

「我々は、それを理解しなければならない、我々は、この広大な世界で一人でない、

我々には富と個人の権力のために、故意に破壊されることが、美しさのために耐えられない宇宙の隣人がいる、その **OFF WORLDERS** 地球外の存在は、きっと彼らの進化によってすでにこの問題の向こうに通過している事である

それは同様に、我々が **Adamski**、**Angelucci** と **Dibitonto** の説明で読んだものを、彼の宇宙船の内部の説明は、強く思い出させる：

我々は、私には非常に親密な部屋と思われるところに立っていた、明るく照明されているが、目を痛めるほどまぶし過ぎはしない。

光は、ただの一つの光源から発っていないようだった、しかし、至る所からあった。閉まった戸口には、少しの接続部分も構造上の接続部分も、縫い目もなく、ドアノブもないように見えた。」

66

彼のスペースの概念そして、推進力についても親密に聞こえる：

「超空間環境で、船上で拡大された重力波の生成を使用する、それは、速度が増加するということでない;それは線形の時間である、力によって (i. e. 重力)それ自体を減らす、ように実施される、それを時空を『ゆがめるワープする』と人は言うかもしれない。

(...)

そのような先進の重力操作において、スペースそれ自身が、または物理的にも交差しなかった

重力波は時間で動いており、スペースはそれ自体の上に折り重なる (...)

このように、宇宙船はいわゆる『正常』な推進力の概念なしで点 A から点 B に行く事を示すのはほとんど困難でない

" 67

同時に、スペースピープルには、『時代遅れの』地球の技術を利用することに問題はなかった。

例えば、我々が第4章で見たように、彼らのイタリア人と情報交換するためラジオと磁気録音装置とにコンタクトする。

彼ら **Friendship** の南米の支部の努力とともに彼らのコミュニケーションのためにスペースピープルが使用した無線周波数だけではない。イタリアの **Friendship** グループの人々も無線を使用することなく定期的な通信を受けたと、**Bruno Sammaciccia** は書く。

Breccia は、以下のように書く：

118

「かつて、私は **Bruno** のトランジスタ装置からメッセージをもらった

(それはラジオでなく、周波数設定の出来ない、携帯用のディスク・プレーヤーであった)；最初に、私は電源ケーブルを切った、そして、私はそれを開けて、スピーカーのケーブルの1つを切った、それでも、何も変わらなかった！まるですべてがOKであるように、スピーカーは作動していた。

"68

面白いこれとの相関関係は、George Adamski のインターナショナル GAP Get Acquainted Program のデンマークと英国の共同出版された雑誌「UFO コンタクティ」の1967年12月号の Robert Caswell の記事「地球外の『記録装置』について」に見つかる

カナダ政府科学者、UFO 研究者でコンタクティの Wilbert Smith が『手紙』をオーディオテープに記録することによって、彼の通信部分を渡した方法と、彼は関連させる。

ある時、彼自身コンタクティである Smith がエンジニアへの手紙をレコーディングしているとき、コンタクティからテープに転写されたものを通して彼の地球外のソースからの科学情報を受け取るのを偶然許された

彼は、しばらくの間、情報が秘密のままにされるべきものであることを忘れていた。」

,

しばらくして、それが何についてであるかわからなかった通信員によってテープが彼に返されたとき、Smith はテープを再生して、彼は接触するとわずかに粘着性がある「余白」を見つけて驚いた、そのテープに記録されたセッションの間は、空白にはされていなかったことを、彼は知っていた。

この『空代の』スペースが特別な、秘密の情報が記録された領域であると、彼は若干ショックの感覚で理解した。彼らは、きれいにぬぐいとった！」

69

我々が第2章で見たように、UFO 現象と関連した陰謀説についての誤解の多くはねじまげられた事実によるか、誤った理解に根ざしている。

類似した状況は、インプラントの問題にも関係するようである。

たとえば、スペースピープルとのコミュニケーションを楽にする技術的強化について、Bruno Samrnaciccia は話す。

119

ある日、浜辺を歩いている間、彼らは彼の犬 Dik (シェパード) を海へつれてくるように彼に言った。

突然、それは現れそして、変な音をたてた...

"それからスペースピープルは Sammaciccia に、知らせた

彼らは犬のパッドの中に『中核』となるものを置いた。そして、それは電氣的に振動しているプラスとマイナスの棒であった。

彼らはそれがまったく犬を傷つけないことを Bruno に保証した、しかし、明らかに、それ

はコミュニケーションを助けた：

「我々が彼らとコンタクトしなければならなかったとき、通常犬の Dik を中央において、円形に我々自身を配置した、犬は、通常座っていた、そして、コミュニケーションが始まると、私はコミュニケーションのプロセスと出来事が以前より非常に簡単であると感じた...

「70

その後スムーズに行くようにスペースからの友人は通信を容易にするため『増幅器』の『中心核』をその足に入れた。



Bruno Sammaciccia (left), with Gaspare de Lama, and Bruno's German shepherd dog Dik, that served as an 'amplifier' after the friends from space had implanted 'nuclei' in its paws to facilitate communications.

120

Bruno Sammaciccia(左)と Gaspare de Lama,と Bruno のドイツのシェパード Dik)

the Bruno Sammaciccia (left), with Gaspare de Lama, and Bruno's German shepherd dog Dik,
that served
as an 'amplifier' after the friends from space
had implanted 'nuclei' in its paws to facilitate communications.

その時、スペースからの友人は、ある場所の30キロメートル以内に来なければならなかった

それは、スペースからの訪問客と情報交換する目的で、特に調製された、
そのために彼らは、銅板を靴につけているよう、あるいは長方形の板で、色はプラチナと銀の間の小さなものをもつよう頼まれもした、

もっと詳しく、言う、その表面は小さなダイヤモンドで覆われていてそれをスペースピープルは、一枚のアルミ箔でラップして彼らに与えた」

71

テクノロジーと認識

ベンジャミン・クレームの本（「テクノロジーは、人間の創造力の結果である。」）によるとあらゆる進化の前進には、技術的なものが付随した。

秘教的な見方からする我々の現在のテクノロジーは **Atlantean** アトランティスの魔法のスパイラルな高い回転に関係している。

72

この意見は、特に **H.P. Blavatsky** の『魔法』という言葉の説明に焦点をあてると、心に訴えてくる、彼女はそのスピリッチャルな感覚と思いは、精神的に『偉大な生命』またはスピリッチャルな神の生命と言う、

語源は、**magh** にある、

サンスクリット語の **mahat**、**Zend maz**、ギリシア語の **megas** とラテン語系の **magus** に認められるように、すべて『巨大な』を意味している。

73

そんなわけで、意識の成長とともに、より大きな創造力は来る

それは、技術的進歩としてあらゆる文明となって表れる。

また、これがより大きな生命の理解と高められた責任感が、同時に起こらないならば、そして、道徳的で倫理発展が遅れているならば、意識の焦点は生命の材質または物理面の上にだけ単に残る

惑星の急速に悪化している物理的状态に我々が見ることができるよう、我々の社会と我々の惑星人生の健全性は本当に危くなるー我々のまさしくその生息地が、利益のために浪費されて略奪され、奪われる。

幾度もスペースピープルは、我々に、精神性を無視してテクノロジーを置く危険について、警告した（たとえば **Bruno Sammaciccia** を通して）：

多くの他の民族によって、テクノロジーと科学は最も重要なものとして保持されているので、とりわけ人々が忘れていたことは魂である；

もしも「人」がこの単純な概念を忘れるなら、人々は深刻な危険に直面しそうである。残念なことに、あなたたちはこの方向に行っている、そして、あなた達は将来深刻な問題に取り組まなければならないことになる。

さらに、もう一つお金の問題も、ある：

あなたは環境的な困難の多くを解くことができる、しかし、大きな経済的権力はそのような解決が採用されるのを防ぐ。

74

類似したメッセージは **Enrique Barrios** に与えられた。そして、その人は以下の通りにそれを言い換えた：「科学的なレベルが世界の愛のレベルを打ちのめすとき、その世界は自滅する。それには数学的関係がある...

" 75

他のコンタクティは、また、同じ内容のことを話された。

Orfeo Angelucci のコンタクトは、たとえば、彼に知らせた：

「すでに、人の物質的な科学知識は、彼のハートにある兄弟の愛と精神的な理解の成長を遠く追い越した。そこに、現在の危険がある。人の科学知識の破壊的な位相を増すことは、許されない。我々は、地球でその知識を建設的目的に向けるために、現在働いている。

また、我々は、人間が直面している進化による自身の危機の本当の性質と大きな認識についての深い知識と理解がされることを望む。そして **Adamski** は、土星の母船への彼の訪問の時に言われた：「人間の科学知識がここまで人間の社会的な進展を追い越した今、この隙間は緊急に急いで満たされなければならない。

「76

"77

そうするために、**Space Brothers** は **Adamski** の G A P と **Friendship** の努力のように、我々人間との関係で無害性を通して我々の生来のスピリットチャリティを表す方法を教える試みを始めなかったがしかし、彼らはそれが安全である限り、紛争を解決するアプローチとして戦争をまだ断念しなかったその民族とテクノロジーを共有した。

これらの若干の例は、上で記述された。

122

INSIDE THE SPACE SHIPS

宇宙船の中に

以前の宇宙飛行士 **Edgar Mitchell** 博士が地球外のテクノロジーの取得に関して:「私はいくつかの UFO 航空機」は自家製であると疑うと言った。この60年ほどで、若干のバックエンジニアリングとこの種の器材の作成があったと、私は思う、しかし、それは推定訪問客が持っているものほどはまだ洗練されていない。

「78

彼の疑いは、奥義に通じた人主義者 **Benjamin Creme** によって確かめられその人はいくつかの政府の間で、それを言っている、

特に、アメリカとロシアほかはバックエンジニアである程度の『反重力』テクノロジーを管理しているが、我々の **Space Brothers** によって示されているように、現れて、自由に消え、重要な速度等で旅行するスペースの完全な支配を成し遂げた」ようなものはこれらの国の誰も持たない。

これらの機能は宇宙船が個体物理学の物質で作られてはいないので、**Space Brothers** によって可能なのである

" 79

George Adamski は、彼の聴衆に「宇宙船の中に含まれる性質の多くの相は、どんな機械の設計図の青写真にでも、見つかる」と指摘することに慣れている。スペースピープルは、単に彼らの船を造るのに彼らの惑星が定めた基本的な法則を使うだけだった。」地球が1秒につき162マイルの速度で太陽を軌道に乗って回っているが、1秒につきおよそ18,5マイルでその軸を中心に自転していると、**Adamski** は説明する。..我々はこの動きの感覚を感じないし、我々はこの巨大な球体を包んでいる大気によって保護されているので重力による困難を経験していない;

しかし、この空気は、宇宙での地球の運動によってつくられる!」、この状況を慎重に分析して、彼は言った、スペースピープルは「彼らの船の周りを保護するフォースフィールドまたは取り囲む『大気』を人工的につくる機械的手段を彼らの航空機に取りつけた。

"80

さらに、**Adamski** の声明の確認において、**Benjamin Creme** は言う:

「各々の船はあらゆる武器を排除する磁場をそのまわりに持つので、宇宙船は我々の武器で撃ち落とされることができない;

123

それは、武器の使用を思いとどまらせることができる。宇宙船は武器を受け付けない。彼らは、文字通りびくともしない;しかし、過去数回、**Roswell** 事件のような彼らの宇宙船の偽装された衝突で、**Space People** は犠牲になった。

これは、彼らの人類のために働きの背後に存在する驚異的な愛によるものである。
それは、本当にスピリッチャルな任務である — それは自己犠牲とっていいほどの—
私は、この惑星がこのような攻撃を繰り返すことができるとは思わない。

"81

調査によると、少なくとも3つの確定された単独の UFO 事故が、アメリカにあった
1945年のニューメキシコ州、San Antonio、1947年のニューメキシコ州の Roswell、
そして、1942年の California、San Bernardino の3つ
その他の報告では、1963年のニューメキシコ州 Albuquerque の近く
そして、1965年のペンシルバニアの Kecksburg、
さらにロシア、ブラジルとプエルトリコからのいくつかのレポート。
Orfeo Angelucci は、宇宙船の建設に関して言った」。..彼らのディスクの明らかに単純な組織のもつ複雑さは、とても大きなものだった
地球用探査 ufo の「それぞれは多少母船のリモコンの操縦下にはいるが人工頭脳」があると、
思われる。

"82

マイケル Wolf 博士が次のように言ったとき、そのような人工頭脳に言及しているようだった」。
..それは、生きた乗物である

CONVEYANCES ..

乗り物なのに

私は、いわゆる金属片の射出するエネルギーは、賢くふるまう『ような』エネルギー」であつたのを認めた

83

もう一つの参照がウルフが Robert Lewis 中將と呼ぶ3つ星の将軍によって書かれた本にされる

「今は我々は知りたくない、我々の最も進歩したテクノロジーは宇宙人の科学— 『新しい Physics — 』と比較されるとき、原始的である。

そして、

もしあるとしても、時に物理的な手段に対する依存を、ほとんど許すことなく、彼らは精神的に結合するか、それに結びつく、

124

また、「重力と反重力波の伝達は、電力を犠牲にしない。

他の『生きた』装置のためのパワーがある、例えば『継ぎ目のない』ドア [数人のコンタクトの説明で見つかるもう一つの特性]、金属の操作と、(低温核融合で作られたもの)
我々が『生命』物質と呼ぶほかないものを含む、知的な物質、こうした技術によって、継ぎ目のないドアは知的なインタフェース方式で機能している、そして、CONVEYANCE 乗

り物のサイズと形は時代のニーズを満たすために変えられるかもしれない。

" 85

Bruno Sammaciccia は、彼が次のように書くとき、この「生体」に言及しているようである：

「彼らのスーツは、生命体である、これらがカバーする体に、とてもフィットしている
これらは、他のものによってすり切れることが絶対にできないと言える。

86

彼の概念は、次の、研究者ウィリアム・ブロフィーの言ったことで確かめられる。(父は USA ニューメキシコの アルマゴールド AAF に基地を置く B29爆撃機のパイロットで1945年8月15日にサンアントニオ (ニューメキシコ) の近くで壊れた UFO の回復と関係していた)

Brophy 氏は、以下のように述べる：

「1945年の San Antonio 宇宙人が着ていた特別な記憶材質スーツを、テストした Wright Patterson AFE の科学者は、UFO の飛行の記憶を受信した...

「彼もまた以下のように述べた：

「米国空軍はこれらを生きた記憶をもつ材質と考えて、スーツは分離して金庫室に置いてある。

" 87

Adamski の「宇宙船の内部で」で、金星からのマスターによると、彼らの宇宙のエネルギーの使用についての知識と、コントロールで「我々は、望むならば、より大きな力であなたの力を無効にすることができる。

「88

実際、アダムスキーは後でつけ加えた、我々がそれを理解するとき、タバコ・パッケージより大きくない機器が、不道德な人の手にいくとき、このパワーは痕跡を去ることなく、形を破壊することができる、我々がそのような知識を共有する際、彼らの躊躇を理解することができる。

「89

しかし、マスターはアダムスキーを安心させた。「我々は、自衛においてさえ。」 同胞を殺さない、

マイケルウルフは、また、以下のように言ってさらに同じことを示す：

125

."

90

ある日彼は、そこにいる外の宇宙からの訪問客でまったく有効な権力を持たないが、指でさわる変化で、または動きを考えるだけで、地球上でどんな権力でも制圧することができ、無効にすることができるのを見つける。それを見た将軍は、彼の権力が上昇するのを本当に喜ぶ

私は、これはかなりの問題でなければならないと思う、

"91

同様に、Meredit は Bruno Sammaciccia に訓練中の一団の若い地球外の科学者について言った：

彼らが強力な武器と接触するので、我々は多くの道徳的な面への配慮をずっと続けている、そして、強い倫理態度を備えていないならば、彼らは大きな損害の原因となる場合がある。我々はこの同じ倫理態度を、こうした機器と同時に我々の武器にもより一層課してきた、あなたが危害を与えるためにこれらを利用しようとするならば、これらは働かないだろう、あるいは、これらは自身さえ崩壊させてしまう。

"92

Bruno Sammaciccia は、スペースピープルのこの態度を説明する：

「彼らはテクノロジーの前にモラルを置いた、ここ地球では我々はちょうど正反対の動きをしている。

"93

人類が技術的発達でかなりに進歩するのを援助しているとき、スペースピープルはちょうど今我々が知りたかったものを『与えなかった』。

They have given hints,

彼らは、ヒントを与えた、彼らはその基礎をなしている原理を理解させるために、彼らのテクノロジーのサンプルを我々の科学者に示す、あるいは、既存の技術的限界の解決を彼らの心に印象づけた。

このように、どんな新開発でも、理解の大きな努力が我々の部分で必要とされる。

彼らのテクノロジーの多くは、根底にある1なるものの深い理解から起こる。

そして、Cosmos のすべての相互関連の理解なしでは、その発展での必然的な進展はない、または彼らの反重力装置を使うテクノロジーの使用は我々とは無縁のままである。

我々が戦争と経済と政治のシステムのなかにあるすべての恐怖を放棄した時、光の Technology が人類に与えられるだけであると、Benjamin Creme は言うところのその理由に賛成である

126

" 94

基本的に One 1つのものとして、我々が親しく互いに関係し、生命と我々自身の認識において前進をした時だけ、そしてその1つのものとしての生命の物理次元の表現は我々にとって手に入れるために偶然の出来事でないといふことが理解したとき、その全体の、不可欠な部分ではないとしても、直接創造の核心に由来するテクノロジーと、科学とエネルギーを、我々は任せられることができる。

それゆえに、Adamski は以下のように言った：

我々が安全に彼らが宇宙船を推進するために利用した自然の力を完全に理解をする前に、我々は、多くの成長をしなければならない

それが人類の進展のために使われることができるのと同じくらい簡単に、この、同じエネルギーは、恐ろしい破壊のために悪用されることもできる

"95

Notes

メモ

1 Stefano Breccia (2009), Mass Contacts, pp.284-85 2 Ibidem, p.187

1つの Stefano Breccia (2009)、ミサ交信、pp.284-85 2 Ibidem、187ページ

3 Paola Harris (2006), 'Why Me?' .

3つの Paola ハリス (2006)、『理由 Me ? 』。

Interview with Maurizio Cavallo [online] .

Maurizio Cavallo [直結] とのインタビュー。

Available at <www.paolaharris.com/cavallo.htm> [Accessed 19 August 2011] 4 See Benjamin Creme's comment about the photograph of space people, seen in the etheric, exiting an underground basis in Ongamira, Argentina, in Chapter 4.

<www.paolaharris.com/cavallo.htm> [2011年8月19日にアクセスされる]で利用できて、4人の See Benjamin Creme は、第4章で Ongamira (Argentina) で地下基礎を出て、スペース人々 (etheric なもので認められる) の写真についてのコメントである。

5 See e.g. Rupert Sheldrake (1981), A New Science of Life - The Hypothesis

例えば、5つは Rupert Sheldrake (1981) (生命の新しい科学) を認める一仮説 of Formative Causation

Formative Causation の

6 Giorgio Dibitonto (1990), Angels in Starships, p.42 7 Wilhelm Reich (1942), 'The Discovery of the Orgone'.

6つの Giorgio Dibitonto (1990)、Starships の Angels、42ページ 7 Wilhelm Reich (1942)、『Orgone の Discovery』。

In Wilhelm Reich (1960), Selected Writings, p.195 8 Creme (2010), The Gathering of the Forces of Light - UFOs and their Spiritual Mission, p.67 9 Enrique Barrios (1989), Ami, Child o/the Stars, p.42 10 Gerard Aartsen (2010), George Adamski - A Herald for the Space Brothers, pp.7-8 11 George Adamski (1957-58), Cosmic Science for the Promotion of Cosmic Principles and Truths, Part 1, Question # 12 127

Wilhelm Reich (1960)、Selected Writings、195ページ8 Creme (2010)、光の Forces の Gathering で—UFO と彼らの Spiritual Mission、67ページ9 Enrique Barrios (1989)、Ami、Child o/Stars、42ページ10 Gerard Aartsen (2010)、George Adamski—Space Brothers、pp.7-8 11 George Adamski (1957-58)、Cosmic Principles と Truths の Promotion のための Cosmic Science、パート1、Question # 12 127のための A Herald

HERE TO HELP:

ここで、助けるために：

UFOs AND THE SPACE BROTHERS 12 Desmond Leslie & George Adamski (1970), Flying Saucers Have Landed, Revised and Enlarged edition, p.250 13 Timothy Good (1998), Alien Base - Earth's Encounters with Extraterrestrials, p.152 14 Creme (2001), The Great Approach - New Light and Life for Humanity, p.133 15 Creme (2010), op cit, p.49 16 Dibitonto (1990), op cit, p.82 17 Creme (2010), op cit, p.57 18 Adamski (1957-58), op cit, Part 4, Question #67 19 Orfeo Angelucci (1955), The Secret of the Saucers, p.20-21 20 Dibitonto (1990), op cit, p.67 21 Adamski (1955), Inside the Space Ships, p.50 22Ibid., p.119 23 Adamski (1957-58), op cit, Part 3, Question #46 24 Adamski (1955), op cit, p.150 25 Alberto Perego (1958), Sana Extraterrestrif, 20th and 21st page in photo section (unnumbered) Space travel 26 Adamski (1957-58), op cit, Part 1, Question #7 27 Ibid.

UFO AND THE SPACE BROTHERS 12 Desmond Leslie と George Adamski (1970)、Flying Saucers Have Landed, Revised と Enlarged 版、250ページ13 Timothy Good (1998)、Alien Base—Extraterrestrials、152ページ14 Creme (2001)、Great Approach による Earth の Encounters—ニュー光と Humanity、133ページ15 Creme (2010)、オペ市民、49ページ16 Dibitonto (1990)、オペ市民、82ページ17 Creme (2010)、オペ市民、57ページ18 Adamski (1957-58)、オペ市民、パート4、Question #67 19 Orfeo Angelucci (1955)、Saucers の Secret、20-21ページ20 Dibitonto (1990)、オペ市民、67ページ21 Adamski (1955) のための Life、Inside は Space Ships、50ページ22Ibid.、119ページ23 Adamski (1957-58)、オペ市民、パート3、Question #46 24 Adamski (1955)、オペ市民、150ページ25 Alberto Perego (1958)、Sana Extraterrestrif、写真部 (ページづけなし) Space 旅行26 Adamski (1957-58) における20および21番目のページ、オペ市民、パート1、Question #7 27 Ibid である。

, Part 1, Question #8 28 Creme (2001), op cit, p.138 29 Laurent Basset (dir.

パート1、Question #8 28 Creme (2001)、オペ市民、138ページ29 Laurent Basset // (dir.

;
;

2002), The Secret - Evidence We Are Not Alone.

2002)、Secret — Evidence We Are Not Alone。

30 Adamski (1955), op cit, p.47 31 Adamski (1957-58), op cit, Part 5, Question # 82 32 Angelucci (1955), op cit, p.10 33 Timothy Good (2000), Unearthly Disclosure, p.262 34 Adamski (1955), op cit, p.70 35 Ibid., p.89 36 Barrios (1989), op cit, p.46 37 Creme (2010), op cit, p.59 The nuclear opt-out 38 Adamski (1957-58), op cit, Part 2, Question #26 39 Creme (2010), op cit, p.13-14 40 Adamski (1955), op cit, p.92 41 Adamski (1957-58), op cit, Part 4, Question #73 42 Creme (ed.;

30人の Adamski (1955)、オペ市民、47ページ31 Adamski (1957-58)、オペ市民、パート5、Question # 82 32 Angelucci (1955)、オペ市民、p.10 33 Timothy Good (2000) はディスクロージャー、262ページ34 Adamski (1955)、オペ市民、70ページ35 Ibid.、89ページ36 Barrios (1989)、オペ市民、46ページ37 Creme (2010)、オペ市民を Unearthly する。そして、59ページが核独り立ち38 Adamski (1957-58)、オペ市民、パート2、Question #26 39 Creme (2010)、オペ市民、13-14ページ40 Adamski (1955)、オペ市民、92ページ41 Adamski (1957-58)、オペ市民、パート4、Question #73 42 Creme である、(ed.;

201 I) Share International magazine, Vol.30, No.6, July/ August, p.18 43 Creme (ed.;

201冊の I) Share International 誌、Vol.30、No.6、July/8月、18ページ43 Creme (ed.;

2011), op cit, Vol.30, No.3, April 201 1, p.27 44 Adamski (1957-58), op cit, Part 2, Question #27 45 Ibid., Part 2, Question #28 128

2011)、オペ市民、Vol.30、No.3、April 201 1、27ページ44 Adamski (1957-58)、オペ市民、パート2、Question #27 45 Ibid.、パート2、Question #28 128

INSIDE THE SPACE SHIPS

宇宙船の中に

46 Wilbert B. Smith (1961), 'Binding Forces'.

46の Wilbert B.鉄工 (1961)、『拘束力』。

Flying Saucer Review, Vol. 7, No.2, March-April, p.7 47 Smith (1958) , speech given 31 March in Ottawa, Canada.

空飛ぶ Saucer Review、第7巻、No.2、3月に4月の、7ページ47 Smith (1958)、Ottawa で3月31日にされる言葉、Canada。

Transcript published in Flying Saucer Review Vol. 9, No.5, September-October 1963, pp.14-15 48 Adamski (1957-58), op cit, Part 4, Question #73 49 Creme (2010), op cit, p.71

50 Lou Zinsstag & Timothy Good (1983), George Adamski - The Untold Story, pp.94-95

51 Creme (1997), Maitreya's Mission Vol.3, p.192 52 Ibid.

写しは、Flying Saucer レビュー第9巻、No.5、1963年9月～10月、pp.14-15で48人の Adamski

(1957-58)、オペ市民、パート4、Question #73 49 Creme (2010)、オペ市民、71ページ
50 Lou Zinsstag と Timothy Good (1983) (George Adamski — Untold Story、pp.94-95
51 Creme (1997)、Maitreya の Mission Vo1.3、192ページ52 Ibid) を発表した。
53 Ibid., p.186 54 Ibid., p.187 55 Ibid.,p.194 56 Breccia (2009), op cit, p.190-91 57 Creme,
(1993), Maitreya's Mission Vo1.2, p.199 Sharing technology 58 Paul Hellyer (2010),
Light at the End o/the Tunnel-A Survival Plan/or the
53は、同上、186ページ54同上、187ページ55 Ibid.,p.194 56角礫岩 (2009)、オペ市民、
190-91ページ57クリーム、(1993)、Maitreya の Mission Vo1.2、199ページ共有技術58 Paul
Hellyer (2010) である、終わり o/トンネル-A 生き残り計画で光/、あるいは、
Human Species, pp.242-43
人間の Species、pp.242-43
59 Smith (no date;
59人の Smith (日付でない;
1950s), 'The Philosophy of the Saucers' .
1950年代)、『Saucers の Philosophy』。
Available at <www.presidentialufo.com/ wilbert -smith-articles I 125-the-philosoph
yof-the-saucers> [Accessed 28 March 2011) 60 Basset (dir.;
<www.presidentialufo.com/wilbert-鉄工-文 I 125-the-philosoph yof-宇宙船>で利用できる
[2011年3月28日アクセスする) 60 Basset (dir.;
2002), op cit.
2002)、前掲書に。
61 Ibid.
61の Ibid。
62 Creme (2010), op cit, p.68 63 See for instance Creme (1993), op cit, p.197 64 Michael
Wolf (1993), The Catchers o/Heaven, 1996 reprint, p.114 65 Neil Gould (2010), interview
with Philippe de la Mezussiere, [online] July.
62の Creme (2010)、オペ市民、68ページ63 See (たとえば Creme (1993))、オペ市民、
197ページ64マイケル狼座 (1993)、Catchers o/天、1996の再プリント、114ページ65 Neil
Gould (2010)、Philippe デ・ラ Mezussiere とのインタビュー、[直結] 7月。
Available at <www.youtube.com/ watch?v=yOR1NNg90cO> 66 Wolf(1993),opcit,p.199 67
Ibid., pp.254-55 68 Breccia (2009), op cit, p.250 69 Ronald Caswell (1967), 'Wired for
sound'.
<www.youtube.com/腕時計?v=yOR1NNg90cO> 66の Wolf (1993) ,opcit,p.199 67 Ibid.,
pp.254-55 68 Breccia (2009)、オペ市民、『音のために有線で』250ページ69 Ronald Caswell
(1967) で利用できる。
UFO Contact, IGAP journal vol.2, no.8, December, p.213 70 Breccia (2009), op cit, p.175

71 Ibid., p.174 Technology and awareness 72 Creme (ed.;

UFO 交信、IGAP ジャーナル第2巻、no.8、12月、213ページ70 Breccia (2009)、オペ市民、175ページ71 Ibid.、174ページ Technology と認識72 Creme (ed.;

2011), op cit, Vo1.30, No.4, May, p.23 73 H.P. Blavatsky (1888), The Secret Doctrine, 6th Adyar ed., 1971 , vol.5, footnote p.444 74 Breccia (2009), op cit, pp.244-45 129

2011)、オペ市民、Vo1.30、No.4、5月、23ページ73 H.P. Blavatsky (1888)、Secret Doctrine、第6の Adyar ed.、1971、第5巻、脚注444ページ74 Breccia (2009)、オペ市民、pp.244-45 129

HERE TO HELP:

ここで、助けるために :

UFOs AND THE SPACE BROTHERS 75 Barrios (1989), op cit, p.20 76 Angelucci (1955), op cit, p.33 77 Adamski (1955), op cit, p.13 7 78 Interview with Dr Edgar Mitchell in Nick Margerrison (2008), Kerrang!

UFO AND THE SPACE BROTHERS 75 Barrios (1989)、オペ市民、20ページ76 Angelucci (1955)、オペ市民、33ページ77 Adamski (1955)、オペ市民、Edgar Mitchell 博士が Nick Margerrison (2008) にある p.13 7 78 Interview、Kerrang !

Radio, UK, 23 July.

ラジオ、英国、7月23日。

Available at <[www.youtube.com / watch? v=RhNdx dveK7c](http://www.youtube.com/watch?v=RhNdx dveK7c)> 79 Creme (ed.;

<www.youtube.com/腕時計?v=RhNdx dveK7c> 79の Creme で利用できる (ed.;

2011), op cit, Vo1.30, No.8, October 2011, p.22 80 Adamski (1957-58), op cit, Part 3, Question #47 81 Creme (ed.;

2011)、オペ市民、Vo1.30、No.8、2011年10月、22ページ80 Adamski (1957-58)、オペ市民、パート3、Question #47 81 Creme (ed.;

2010a), ShareInternationa/Vol.29, No.8, October, p.23 82 Angelucci(1955), opcit, p.10 83 Wolf(1993), opcit,p.110 84 Ibid., p.316 85 Ibid., p.213 86 Breccia (2009), op cit, p.230 87 William Brophy (2011), comment on Facebook posting, [online] 18 September.

2010a)、ShareInternationa/第29巻、No.8、10月、23ページ82 Angelucci (1955)、opcit、p.10 83狼座 (1993)、opcit,p.110 84 Ibid.、316ページ85 Ibid.、213ページ86 Breccia (2009)、オペ市民、230ページ87 William Brophy (2011)、Facebook 記帳についてのコメント、[直結] 9月18日。

Available at <[www.facebook.com/ groups/ EWNEUSNI](http://www.facebook.com/groups/EWNEUSNI)> 88 Adamski (1955), op cit, p.92 89 Adamski (1957-58), op cit, Part 5, Question #82 90 Adamski (1955), op cit, p.92 91 Wolf (1993), op cit, p.323 92 Breccia (2009), op cit, p.189 93 Ibid, p.192 94 Creme (2010), op cit, p.184 95 Adamski (1957-58), op cit, Part 2, Question #23 130

<www.facebook.com/グループ/EWNEUSN I> 88人の Adamski (1955)、オペ市民、92ページ89 Adamski (1957-58)、オペ市民、パート5、Question #82 90 Adamski (1955)、オペ市民、92ページ91狼座 (1993)、オペ市民、323ページ92 Breccia (2009)、オペ市民、189ページ93 Ibid、192ページ94 Creme (2010)、オペ市民、184ページ95 Adamski (1957-58)、オペ市民、パート2、Question #23 130で利用できる

6.

6.章

Disclosure:

ディスクロージャー：すべては、計画の中で

もし地球外生物と一緒に会えば、スペースピープルは常に良い性質で自分たちの宇宙船に乗るよう人々を招待し、誘拐もせず悪質な実験には賛成せず、今まで流された『否定的な』ETs についての話はまったく、真実ではなかったといえるのか。

たしかに、ジョージ・アダムスキの知るスペースコンタクティは、圧倒的に貪欲な力で他のひとに終わりまでかかわることを望む人たちも中にはいることを確かめた。

私は、他の世界でもこうした人たちを見つけることもできる。.

そして、Lou Zinsstag によれば、我々の太陽系では、「我々に友好的でない3つの惑星がある」と、Adamski は言った。1963年12月の彼の速報で、この声明に関してアダムスキーは以下のように詳しく述べた

2

「最近、敵対的な宇宙旅行者によって攻撃された若干の金星人の宇宙船が、あった。しかし、反射する光線（それは、彼らの船の器材の一部である）を用いて、敵対的な船は、生命を奪うことなく破損された。」

3

しかしそれと同時に、彼は、他のところにも、怪物はいないことを全く明白にした
我々の知っている、そして、大部分の敵意ある報告は場合によっては、十分限度を超えて接近したときは宇宙人を撃ち殺すことさえするようなおびえた人々のところから来る
しかし、このような場合に、スペースピープルは、彼らを脅して追い払うために、決して身体的に彼らを傷つけない方法として光線を使った。

" 4

実際、Bruno Sammaciccia と彼の友人が地下基地で勉強している若い地球外生物を見たいと頼んだとき、地下基地に招き入れたスペースピープルは彼らに言った：「秘密にするならいいでしょう、しかし地球の人たちが、地球上に宇宙の生物がいることを知ることは、本当は良いニュースではないし、喜んでいないので、我々は、彼らを脅して追い払いたくない、彼らは、地球のあなたたちのことを何か野獣として考えている。」

131

5

それだけでなく // Sammaciccia は、へそ曲がりな『地球外生物、いわゆる CTR グループについて、言及した』

その人達は、彼ら自身のことより地球人類の福祉を考えたりはしない、そして、その人達

は、イタリアのコンタクティが『W56』（4章を参照）と呼んでいたグループと競っているようだった。

Sammacicia によれば、「彼らは科学だけを崇拝する、そういうわけで、CTR はまさしく「冷淡」である。

彼らには、一種の『科学的な理念』がある。

2010年5月のインタビューで、Amiciziaの参加者 Gaspare de Lama は CTR のことを、次のように言った：

「これは、CTR が悪いことを意味しない；

if they didn't destroy their own civilisation it means that

もし彼らが自身の文明を破壊していないならば、それは互いの存在を認め合う文明であることを意味する、彼らは、妻（ペット）を愛するが、しかし、彼らにはよりクールなイデオロギーがある、そして、ストレイトに、彼らの神は科学でもありうる。だが W56 にとっては、神は愛 Love である。」

6

そして、Sammacicia 氏によれば、彼らは、人々を誘拐したりしない；今日 UFO の本で大きな反響を得ているこの現象は、彼らがしたとすることはできない。」

彼が、彼らのコンタクトしたスペースからの者と CTR の間で続いていた戦争について言った、我々の友人は去る前に、CTR が我々を悩ませることができないようにする望みを表した。

" 7

マイケル博士 Wolf は彼の地球外の同僚の Kolta が以下のように言ったとして引用する：

我々は、この宇宙にたとえそれが 1 つの惑星では悪が見つからないとしても特別な場所は存在しないと思っている、

唯一の本当の悪魔が人のハートの中に存在し、自身まわりを自由に走りまわるとき、悪魔を追放する知恵を得るまでは、なぜ存在が、悪を創りだし、悪魔に化身するかを人が理解するのは、本当に難しい。

" 8

Adamski は他の世界の住民も地球の他の多くの者のように人類と基本的に異ならないと、話した：

「他の世界での生活の目的も、あなたと基本的に同じである。

Inherent in all mankind, however deeply buried it may be, is the yearning to rise to something higher.

それがどんなにひどく大きい溝を埋められないとしても、より高い何かまで上がりたいという切望は他の世界の人間にも同じようにある。

132

地球の学校組織は、ある意味では、生命のユニバーサルな進展に従って作られている。
あなたたちの学校は、より高くより完全な教育の方へと、等級から等級へと、そして、学校から学校へと進歩していく。

同様に、人は惑星から惑星に、そして、今あるシステムからより高い理解の仕方のシステムへと、普遍的なものへのサービスの増加と発展へ向かって進歩していく。」

9

どこか他の所で、アダムスキーは以下のように付け加えた：

「宇宙は、多くの存在の多様な状態にあわせた学習部門をもつ広大な学校である。

主要な惑星があり、そして同時に地球にいる我々の現実の想像力の範囲のはるか向こうに、惑星は広がっている。」

10

エンリケ・バリオスのスペースコンタクティは彼の登場人物アミを通して次のように、言う：

「あなたが半時間さえも生き残ることもできない世界が、ある... 本当に monstrous 奇怪な人間が住む世界も、ある...

" II

そして、奥義に通じた人主義者 Benjamin Creme は、それ「惑星 [すなわち地球] がどのように我々自身の地球のものと他の、程度の低い惑星のネガティブな力から脅迫されているか、人々はわかってはいけない。これらは、地球のネガティブな心を刺激する。と説明する

12

実際、冥王星からの人々が存在する、「あなたは、暗夜に彼らと会うのは好きでないだろう！」と、彼さえ言った

3

Law and order However, this does not mean that just anyone can come to our planet and ransack the place.

しかし、宇宙の法と秩序は、誰も地球に来ることができて、その場所を略奪することができることを意味していない。

According to Benjamin Creme "[a]

ベンジャミン・クレームによれば

11

この宇宙のシステムの中にあるすべての惑星のヒエラルキーは互いと接触している、そして、地球外を意味することの中で起こるすべてがこの法のもとで起こっている。」

14

本当に — 彼は、言う — すべての惑星は「異なる段階にある生活で満ちている。

我々は、中間のステージにいる；

木星、水星、土星とそして、他のいろいろな惑星と比較すると、金星は、信じられないくらい発展している。

They have no need to carry out experiments on us;

彼らには、我々のすべき実験を行う必要がない；

they know."

彼らは知っている。」

15

15

What's more, "there is indeed a kind of Interplanetary Parliament representing all the planets.

その上、「すべての惑星を意味している一種の惑星連合会議 **Interplanetary Parliament** が、本当にある。

133

地球の人々の自身の無知がもたらした困難を克服するのを援助するために、**Space Brothers** はここにいる、そして、**[World Teacher]** も働いている、そして、全体として我々のスピリチュアルヒエラルキーのマスター**Spiritual Hierarchy [Masters]** は（救助の仕事をしている）。」

16

16

Likewise, of the space travellers George Adamski said:

スペーストラベラーズと同様に、ジョージ・アダムスキは以下のように言った：

「地球上の、我々にはいろいろなサイズと色の人々がいる；

この同じ状態は、地球と異なる世界の中にも存在する。

スペーストラベラーズは我々と同一である、我々とすべての住民がいる **Cosmos** と彼ら自身についての深い知識を、彼らだけは持つ。

我々が、また、宇宙旅行に熟達することを学ぶとき、我々の **Cosmos** の概念は無限に広げられる。」

17

この概念はブルーノ **Sammacicia** によっても補強される。そして、その人は言われた：

"There are other people besides us, at various levels of civilization, but man is universal;

「我々の他に、文明のいろいろなレベルの、他の人がいる、しかし、人間は普遍的にいる；あなたは我々自身の間でさえ、あなたは非常に背が高い人と非常に小さなものを見るように1つの人種から次の異なる人種まで小さなバリエーションを見つけるかもしれない、皮膚色の違いがあるかもしれないし、肉がほとんど透明な人々がいる、しかし、繰り返すが、ほとんどあらゆる文明は人間から成り立つ...

事故によってでなければ、人種は決して修正されない（どんな種でも）、そして、これが通常起こるとき、突然変異は退行性のもので(退化)である。」

18

Enrique Barrios の登場人物 Pete との間の会話で、彼の地球外の友人 Ami に
もしかしてほしい何百万もある世界のどこでも、凶悪な人種は宇宙旅行を習得する前に
自滅して、生き残ることは出来ないのではないかと問いかけた。
そのような存在は他の惑星に侵入するために必要な彼らの惑星を適切に維持する技術的発
展を達成することが決してできなかったと、Ami は説明する
こうした文明は親切心がなく、なんとか高い科学的なレベルに到達することができるとし
ても、他の世界に出発することができるずっと前に、遅かれ早かれ、それはそれ自体に対
してその破壊力を使う。

) 134

我々が想像する怪物は、我々自身の内部にいる。
この怪物を捨てるまで、我々は宇宙の不思議を理解することができない。
本当の知性と、親切心と愛は、手をつなぐようになる、これらは、愛にむかって進む進化
の同一のプロセスの結果である。」 Ami は、この原理をだれもが逃れることができない法則
と呼ぶくらいはるか遠くにまで広げて説明する。

19

最初に我々が生命の本当の性質を良く理解するとそのような「法則」が存在することは理
解するのが簡単になる。

George Adamski が十代の時チベットの Masters から勉強したとき、教えを受けた智慧の
概要を、一般にはほとんど知られていない彼の最初の本「Far East Masters 極東の賢者の
智慧」、で発表した、

意識は見えない本質から、見えるすべてを形作ると、彼は述べる、

「最初の見えない状態から、徐々にその振動数を最後に見える状態として知られている振
動の極端に粗い状態に持ってくるまで下降させ [原文のまま]、高い密度の組み立て成分の
状態にまで持ってくる。

そこから — 教えは、我々に話す — 生命の表現力として、すでにある計画に従って意識の
進化を促進するために、形態の進化が拡大し始める

"20

この進化のプロセスの結果すべての惑星に、Masters のヒエラルキーがある。そして、そ
の人は彼らにとって特別な惑星のロゴスの計画に仕える。

この Planetary Logoi 惑星のロゴスに従って、我々のエーテルの体のチャクラと同様に、太陽系にいろいろな中心を作る、これらは太陽の理法が表現された肉体として、主の計画に仕える。

星の回りを軌道に乗って回る代わりに、例えば最近発見された『孤児惑星』が我々の銀河を自由に浮いて飛ぶように、Benjamin Creme によると、太陽系の物理的な惑星は太陽をエーテルの物理的状态に進展させているが、現在の、我々の視力にはこのエーテル状態は見えない。

我々のシステムでは、惑星バルカン vulcan はその同じエーテルの状態に到着しているので、我々の視力には見えない。

"21

135

しかし、太陽系の進化の異なるあらゆる段階の惑星との間で続いている永遠の闘いがある Creme は地球でされる宇宙人とのコンタクトは法律で定められていると主張すると言う：

」

22,

惑星からの全くダークな実体は非常に進歩するための時間があり、彼ら自身の意志と力でここに来ることができたと、我々は思うかもしれない。

彼らは非常に多くの人々とコンタクトし、そして、何回か近づいた。

しかしこれは止められた。

"23

[加えられる強調]

アーティストで作家のヴェラ・スタンリーアルダー Vera Stanley Alder による「我々の太陽系のソウル」によって天国のような存在の現実について驚くほど鮮明な解説が与えられたそしてその人はアリス・ベイリーを取り囲むグループの「永遠の知恵」の学生であった。このグループのメンバーはチベットの Master Djwhal Khu から個人的な命令を受け取った、そして、これについての彼女の研究に基づいて、Alder 夫人自身が 6 冊の本を書いた F4 それによって彼女は、アリス・ベイリーを通して与えられたマスター DK--- Djwhal Khu の教えの簡略化された概略を提供した、

彼女の最後の本は自叙伝であった、1942 年にした生命の性質についての深い経験のいくつかを、彼女はこの教えの先生と共有していた。

一連の 7 つの『レッスン』で、Alder 夫人は意識的に物理肉体を去る方法を最初に教えられた、

ひとたび彼女の固体の肉体の乗り物の限界の外に出ると、いかに生命と意識は、その存在のいろいろな区分の終わりのないレベルで、自己を表現するか、例えば人体の細胞、そして、その細胞の範囲内にある原子さえも、それは人類または惑星の生命の単位として重要

な部分で、いろいろな構成体の個々の部分の間での不一致がいかに全体の幸福に影響を及ぼすかを経験した、

George Adamski が言ったように、そして、多数の会合でも、彼自身で教えたが、各々の個人は、正確には認めることができないとしても、最終的に周囲に放射している影響の中心である。

"25

外からの刺激に対する鉱物と植物の一見意識的な反応に関する科学実験の魅力的な概要が Yogi Bhaeracharuk による本「Gnani Yoga Lessons—Yoga a/Wisdom (1909)」

で伝えられたが、それは『初心者のための知恵』という副題がついていた方がよかった、近年、意識は動物と人間の王国に限定されず、異なる段階のものからも来ているという更なる証拠を、いくつかの実験は提供した。

- The Yoga a/Wisdom (1909)

26

たとえば、江本勝博士は、水の結晶は実験を通して話された言葉に、確かな反応を示すことについて書いた。

27

エモト博士の研究について、ベンジャミン・クレームは言葉の背後にある音と思いと感情の意図は、原子が、振動を通して相互に関係するので、我々の回りのすべてに良い面または負の影響を及ぼすと言った

28

江本博士の調査結果はドイツの音響研究者でカメラマンの Alexander Lauterwasser によって支持される。そして、その人は音の振動に対する水の反応を研究した。

29

Emique バリオスは彼の登場人物アミを通してほぼ同じことを話されている。そして、その人は以下のように言う：「惑星は、生物である。

すべてのことは相互依存していて、互いに関係する。Earth に起こることはそれに居住するすべての人々に影響を及ぼす、そして、人々に起こることは Earth に影響を及ぼす。

"30

1942 の彼女の『授業』の 1 つでは、Alder 夫人は生きた存在として惑星地球を垣間見る。そして、おなかの中にあるそれは、太陽系を構成するいくつかの大きな中心となる存在の中の 1 つであった。

最初、彼女と彼女の教師は、地球のエーテル体を認められるほど、十分な高さまで動いた、彼女はそれを「地球の上に存在している秋の朝の、クモの巣のような無限に繊細な銀のト

レサリー(狭間飾り)」と言った、
それは後になると、惑星の表面を縁取る「青いリン光性の光のように」も見えた。
彼らはさらに上へ動いて、地球という星の乗り物を観察した：
「地球は我々の見ている大きな美しい虹色の泡の中央に平衡を保って掛かっていたが、だんだん速く視野からは小さくなっていった。

...

137

洗練された色は、このミステリアスな球を通し、そして互いを通過し、追って速い波状の運動と混ざり合って表面を周り回転した。それは地球の状態、またはその幸福の欠如を反映し、人類の感情的な状態の変化に応じており、
それは我々の状態を反映して人間のオーラの色がどのように変化し振動が変わるかに類似している。

次の経験のステージでは、太陽系のエーテルの網は観察される。その状態は生きていて電氣的に撚り合わさった良質の網のように、パルス状に動く。

太陽は、クモの巣の核の中心に位置していた。(そのまさしくその核にあった)

私は、そのハートから広がって、惑星とリンクする虹色に色づけられたその輝くフィラメントを見たので、これらの生きた7つの光線を数えることで、7つの大惑星を見つけることができた。

私は太陽自体によって、生命の本質が育てられ、供給されているのを認めた。

各々の惑星は、回転して7つの色のついた光線を放射していた、そして、これらが最も良質の電気の蜘蛛の巣を張って散らばるまで、小さな星「惑星？」との間は分離し、再分割された

これは完全に記述するのが不可能なほど素晴らしい展望である。

著者である彼女は、さらにより高い観察点に移動し、どのようにエーテルのウェブを通して、下に行き、他に類のない球体として太陽系が現れたか、そして、太陽系はさらに、それ以上のものであることが理解できたかをのべる。我々の見るものはとても小さいが、彼らは輝く惑星を見ている。

彼ら全員は巨大な金色の星の軌道をまわった。そして、それは明らかに彼らの太陽であった。」

3J

Benjamin Creme は、以下の通りに同じ概念を解説する：

「進化の計画は、信じられないくらい高度なその心の中にある、発展した宇宙的存在としてのそれは—惑星地球の魂で—我々の **Planetary Logos** である。われわれの地球は、我々自身とこれまでに地球を歩いたすべての生きものを含むすべてがその上にあり—それは巨大な生命存在の表出であることを意味している。

138

彼には、**Solar Logos** の巨大な計画に関係した、この惑星の進化の計画がある。

Solar Logos とは、宇宙的存在がさらに進化したものである、

その表現の具体化されたものは、太陽系で、太陽系の中に含まれるものと他のすべての惑星を含む。

すべての惑星は、**Planetary Logos** を持ち、その計画は、**Solar Logos** に関係する。

Solar Logos は **Planetary Logoi** を認めているが、そこで働いているものを越えて、より広い意味と目的とを持った、さらに大きな計画を持つ。」

32

このヒエラルキー的な相互関連性は地球人としての我々が理解していることを表現しているだけでなく、我々地球人が知らないようなものも表現しており、我々の理解が増大するのを援助する目的で、我々の文化システムの外の存在によって訪問される、その深い理由も示されている。

よく知られた格言が言うように、

"**Natura non facit saltum**" (自然に、劇的な飛躍はない)]

言い換えると — 身体的に、技術的に、または、精神的にも — 走ることができるようになる前に、我々は歩くことを学ばなければならない。

そして、我々自身のいる太陽系にも数千もの多くの惑星があつて我々がやつと現在水瓶座の時代に入って同化できたとしても、これらの惑星から来ている **Space Brothers** は、我々より何百万年先とまではいかないまでも、もっと進化している。

太陽のロゴスの計画の線に沿って、我々にもっと教えなければならないことがある。

Adamski の我々自身の太陽系の惑星から来たという彼のコンタクト主張を補強して **Benjamin Creme** が：私の経験において、我々が **UFO** と言うもの（空飛ぶ円盤）は、我々自身の太陽系の惑星から来る。と言い、上記のことを考えるとそれは、すべてあまり不自然には思えない

プレヤデス星団またはシリウスからではなく、または、だいたい我々自身の太陽系の外か

らではない、しかし、主に、火星と金星からしかし、木星と水星のような 2、3 の他の惑星も、関係している。

"33

より公的に知られてはいないけれども、**Wilbert Smith** も同じ意見を持つようだった。

『**Wilbert Smith** を守るため』と題をつけた文で、**Ronald Caswell** は書いた：

139

スミスは、彼の会った地球外の『ヘルパー』を上からの少年と言う習慣があった。

彼は、彼らのことを「どこか他の所からきた人々」または「どこか他の所からの我々の友人」と言った。

そしてたとえば、前の **Adamski** の文で、彼のコンタクティが惑星のどこから来たかという
とすなわち金星、土星、火星、等であった、—**Wilbert Smith** がこのように推測していたこと
とは、非公式なものだったと私は、信じている

Caswell 氏が書いた同じ文で、スミスにはアダムスキーについての広範囲な知識がなかった
ので、その **Smith** の情報は、**George Adamski** の説明に基づくことはできなかったとある。

34

Bruno Ghibaudi も尋ねられたとき、宇宙船が「おそらく、火星と金星を含むいくつかの場
所から来ている」ことを、示した。

"35

彼の **Master** はコンタクティについては本物であることを、確認したが、彼らコンタクティ
は、我々の太陽系の外からだと主張していることは問題だと、**Benjamin Creme** は言った：
なぜなら、生命は、我々の太陽系の他の惑星では不可能であることを知らせる一部の人々
は（**Space Brothers** とのかなり本物の接点をもつものでさえ）彼らは、我々の太陽系の外
の通常プレヤデス星団から来ると主張する

私は個人的には、それをそのようには思っていない。

明白な接点が、我々の文明とプレヤデス星団との間にはない。

「36

宇宙のすべては相互に関連し相互依存しているので、エネルギー的な接続が、おそらく
Solar Logos のレベルにはある、しかし、明らかに、これらは我々の惑星文明との接点を越
えている。

他のことを主張しているコンタクティの動機に関して、経験に基づいた推測では、彼らが
まさしく少数派の 1 人として事実決して動揺しなかった **Adamski** に起きたことをとても
よく知っているということである。

他の人のコンタクト経験を認証することに対して、**Adamski** は繰り返し拒絶した、

Share International 誌のあらゆる号の Q アンド A 部への前書きで、編集者 Benjamin Creme は彼の読者に、他の人たちの仕事の妥当性についての、質問をすることを控えるよう頼んだ

彼は他のグループの活動と、通信の確実性を判断し決定する最高権威として彼自身を高い位置に置きたいとは思わないと言う。

140

しかし、彼はスペースピープルどこから来ているかという起源の話題の重さを十分、感じているようである

意外なことに、(第 5 章に書かれている) Travis Walton だけでなく、Billy Meier ビリーマイヤーも彼らの場合は長く保持してきた方針からそれていった

Creme 氏は彼らについて次のように言った：

私は、コンタクトの現実性を完全に支持している

しかし、彼らは、我々自身のいる太陽系の人々と会っていることを確信している（そして、情報を持っている）

37

そう、我々は太陽系のとても進歩している惑星に住む人々から有益なことを学ぶことができるだけである

より高いシステムからきた存在のとれる唯一の方法は東洋の偉大なアバターのように人間に化身し慈愛をもって意味ありげに相互作用することができるだけだとする、

彼らは人類に神の起源と、すべての生命の統一性、について教えるためにくるが、彼らは、彼ら自身の面については、注意を決して向けさせない。それは、我々との分離の感覚を起こすことができ、したがって、彼らは、どこ出身であるか、決して明かさない。

さらに彼らの、進歩したレベルでは、空間（場所または距離）が全く重要ではないと、我々は仮定するかもしれない。

惑星の変化

Benjamin Creme は彼の最新の本「光の力の集結－UFO と彼らの霊的使命 Spiritual Mission、」で、説明する

惑星の進化の通り道は我々自身の進化のそれと類似している：

「何千回もの輪廻の代わりに人間の魂の進化を進めさせるために、惑星は、主に 7 つの（何百万年もの長さの）サイクルを持つ。

金星はその最後のラウンド（第 7 番目）にいる。火星と地球は両方とも第 4 ラウンドの最

中である。その時がくると、惑星は『目がさめる』。

惑星の本当の精神的な性質を呼びさますために前の時間が十分に続いたことは人々に明らかになる、

そして、多くの人々がますます完成されていく。

141

第4ラウンドの最中の驚くほど意味ありげな点ですべては、新たに始まる。」

何百万もの人々が抑圧と不正に対して立ち上がっている、これは、現在地球で展開している出来事を説明する。

38

そのような惑星のイニシエーションは、通常大きな物理大変動に伴って起き、また大きな惑星意識の拡大があるとき、通常惑星の磁極は、動く。

そして、長年にわたって、この概念は多くの人に誰にとっても大量破壊の用意ができたと告げていたが、「地球の傾き」が完全な破壊を意味するかどうか、自身がフォロワーのグループで尋ねられたとき **George Adamski** は、「惑星の小さな部分だけが、直接影響を受ける」と説明した。

彼は、この傾きは自然であること、を付け加えた

規則正しい変化は自然な結果としてすべての惑星の身体に起こる」

それらは「人間によって変えることができない一定時間のサイクルに付着している。

彼らの上からの視点はより大きな全体的な観察をしているが、**Brothers** ブラザーズの技術知識と地球上のどれよりも先進の機器で、彼らは自然の変化を見ている...

そして、調査結果が明確であるとき、彼らはこれらを我々と快く共有する。

これが我々にとって、何か意味することになるかどうかは、その時が来たとき、我々がどれくらい受け入れられるか次第である。

"39

他の所で彼は付け加えた：

「現在世界には多くの障害が存在し、もう数年の間はこれが続く。これは、世界とそのシステムの大きな過渡期である。

長い年月がすぎた後、**Benjamin Creme** は木星、水星と他の2、3の惑星からもいるが、主に火星と金星から来ている、『スペースブラザーズ』には、このための用意はできていて地

球のまわりに光の環を置き、それによって地球の地軸を保つと告げた。

40

それは、非常にわずかに軸を離れている、
しかし、それを防ぐのを許されている、karmic な限度の範囲内で、この環は配置され、多くの『運命の予言者』によって起こることが予測されていた地軸の移動が起きないようにした。

142

それは、起こらない。
何も、光のその環を移すことができない。
彼らの助力なしでは、この惑星は、多分混乱状態になるだろう。

「41

彼は後で、光のこの環が 1979 年に惑星のまわりに置かれたと付け加えた。

42

ほぼ、彼の一番最初の本で、Benjamin Creme は UFO の接近の究極の理由をすでに書いている。

これは基本的にはスピリッチャルな任務である。
その任務の部分は、光の力がエネルギー的な釣合いに達するまで、この惑星を無傷の状態に保つことである。
これは達成された。

この世界が危険な交差点に立っていたときはざっと、1959 年後半と、1956 の間の期間で、あった。

世界の将来は、本当に未決定の状態だった、
そしてスピリッチャルヒエラルキーの高位の人と地球外の惑星にいる何人かの高いヒエラルキーによるすべての努力、特に火星と金星は、徐々に増大する悪を相殺するために動いた。

ある意味で、— 水瓶座のスピリッチャルな時代の幕開けを妨げる悪の力の最後の努力で — 惑星は爆発した；

地上天国の出現とキリストの再臨*を妨害するため。

"43

地球上の彼らの任務はこの惑星の徹底した観察で、仲裁することはないが、すべてより上に我々の安全があった。そして、彼らは、1956 年以降、私に少なくとも 2 つの出来事で、原子爆弾による戦争を防止しなければならなかったと、話した。

"44

Enrique Barrios は、これを以下の通りに彼の主人公 Ami が説明する：

「あなたは、地球で決定的な地点に接近している

『キリスト』という言葉がここで使われるが*

これは **Spiritual Hierarchy** のマスターズの中の、**World Teacher** のオフィスを意味している

その人は、世界のすべての主要な宗教で、異なる名前の下で期待されてきた教師となる人のことである。:

キリスト教徒ではキリスト、ユダヤ教ではメシア；仏教徒では 5 番目のブッダまたは **Maitreya** マイトレヤブッダ；

ヒンズー教徒では第 10 番目に輪廻化身したヴィシュヌ **Vishnu**、またはカルキアバター **Kalki Avatar**；

そして、イスラム教徒では 12 番目のマハディ **Mahdi** またはイマムマハディ **Imam Mahdi**。これらは、来るべき普遍的な 1 つの教義のいろいろな宗教的な表現である。（実際には時代を超えた智慧の教育において知られている）例えばアリス・ベイリー（1948 年）の言っている事を見なさい、

キリストの再臨に進む時、あなたは再び団結するそして、何人かが『水瓶座の時代』と言っていることが実現する、または、自滅してゆく

143

Ami によると、水瓶座の時代は、「惑星地球は新しい進化のステージになり、千年の野蛮な時代が終わり、愛のニュー・エイジへと、『突然変異』した種」が生まれる。

あなたは、すでに水瓶座の時代に入った』

しかし、現実にはそうでなく、時間の流れだけがその区分になっているだけだ。

地球は、異なる種類の法則と宇宙地質学的放射線によって支配され始めている。

多くの愛が人々に生まれ、異なる方法で生き始める、しかし、しかし、彼らはまだ、進化の初期の、劣ったレベルに属している主義に従い続ける。

起きることは、人々が内部的に感じるものと彼らが外部的にしなければならないこととの衝突である。

「45

この移行時のこれは、大きな出来事となるが、もしいたとしてもわずかな数の、最も見聞の広い UFO の研究者しか、これらの問題のつながりに気づいていないようである。我々が現在自由と正義の需要で大規模な人達の抗議の形で世界中で目撃される社会的な抗議は、この初歩のプロセスの結果でもあって、**Adamski** の 1962 年の文『社界的騒乱』によって本当に予告されていた：

「地球物理学的騒乱が起こるだけでなく、多くの人々は社会そのものに生息している。社会に生息している人々は、周囲の多くの色合いの変化に影響される。平和な心と、平和な世界という希望は、過渡期が終わるまで、実現しないというのは確実である。

人類に対するそのサービスを成し遂げるために新しいものが生まれるとしても、その前に、古くなったものは去り行かなければならない。

賢者は変化の各々の行為を観察する、馬鹿は怒り狂うかもしれず、自滅するかもしれない。したがって、この地球の上の問題のいくつかの原因ならびにこれらの解決に関しては、人類もその責任を持つ

"46

我々には物質を霊化する確かな役割があるので、我々が惑星のロゴスの心の進展計画に目を覚ますことができる最も近いものである

我々には、生息地である自然界の破壊と国境界と戦争について責任があるだけでない、我々が人間に課している苦しみにも責任がある。

これは、我々の **Elder Brothers** と智慧のマスターだけでなく同様にスペース **Brothers** によっても言われている。

144

地球外生物が我々の核兵器を破壊することができたが、イタリアのジャーナリスト **Bruno Ghibaudi** によれば、「人間のハートは、それでも不変のままである。」、そしてそれは彼らが人間の心に影響するために、巧妙な方法で働くと言った理由である：

「彼らはどんな種類の抑制的な活動でも、その危険性を完全に認識している。

彼らは、結局、地球人が自身で進歩しなければならないということを知っている...

"47

1958年3月31日に **Ottawa** でされたカナダの **UFO** 研究者 **Wilbert Smith** によるスピーチにおいてスペースピープルが地球人類を助けているこれらの巧妙な方法」の心に訴える例は、以下のように、解説された：

『どこか他の所』からの人々は、偏見の多くと誤報の物語を私が長年費やして克服するために、私を助ける際に、大きな忍耐と理解を示した。

私は初めて宇宙の基本的な『**ONENESS**』を理解し始めた、そして、そのような解決のすべてはそこにある。私が理解しなければならなかった最も重要なものの1つは、我々が一人であるわけではないということである。

人間の形をした人類は、宇宙全体を通して広がっていて、信じられないほど古くから存在する。

彼は、以下のように言い続ける：

この問題について尋ねるかもしれない『これらの人々が本当に我々の兄弟で、我々の福祉に興味を持っているならば、なぜ、彼らはそれほどよそよそしいままなのか？』我々は答えを与えられた。

1人1人に独立と選択の自由が与えられなければならないという宇宙の法則がある、そのために、彼は経験を与えられるかもしれず、そこから学ぶのかもしれない。

だれも他の人の生き方に干渉する権利を持たない―実際、我々の十戒は他の存在への干渉に対する厳しい命令である。

145

この法則を無視するならば、我々はその結果に苦しまなければならない、そして、現在の嘆かわしい世界情勢はこの主義違反に直接起因していることが、少し考えれば理解される。

48

地球外生物がなぜ人類の戦争を止めないか尋ねられるが、

マイケル・ヴォルフの「**The Catchers of Heaven 天国の Catchers**」の、中で、彼は、同一の理由を与える：

スタートレックのようなものたちには一種の非干渉の命令がある、人間達は、どんな強制的な平和にでも憤慨するはずだ。

そう、この地球の多くの大国は、たとえそれが彼らが希望したことであつたとしても、自身でそれをせず、押しつけられたという事実から、そのような行為に憤慨する、

"49

1983年にイタリア語で最初に出版された「**Starships of Angels**」で、**Giorgio Dibitonto** は、彼と彼の友人の2人がどのように1980年に**Space Brothers**から連絡され、多くの年月にわたって、集中的コンタクトと経験のために訓練されたかを述べている。

結局、彼らは宇宙船の中に持っていかれ何回か旅行へいく、そこで高い存在は、彼らに地球と、他の惑星の生命について価値あるレッスンを教える。

Dibitonto 氏と彼の仲間は、人類がそのコースを変えないならば差し迫った大災害の警告を伝えるよう頼まれもする

意外なことに出版者、故 **Wendelle** スティーヴンズは、前書きで、自らのベンジャミン・クレームへのインタビュー記事を紹介し、この本の著者は、アダムスキーが、彼の本で世界に紹介した土星人 **Ramu** ラミュー（この人は **Dibitonto** にラファエルとして自己紹介した）と **Zuhl** と金星人オーソン **Orthon** とカルナ **Kalna** と火星人 **Firkon** と **Ilmuth** (**George Adamski**.のような地球に住んでいる宇宙人として) といったスパーピープルと全く同じ人たちのことを書いたことをクレームが著者に確認したとして関連づける

Orthon によって Dibitonto と彼の仲間は「生命が一なるもの---ワンネス」であることを理解することは重要であると明確に言われる。

世界の多くの地域の発展途上国は、貧困の結果から、栄養不良と病気を通して飢餓と死に至っている。それは、繁栄する文化の人々が非常に重い罪の重荷を負わねばならない問題だ。」

最初ラファエルは、

地球に広く広がっている状態が生み出した結果であると

彼が言うことによってヒントを付け加えた：

「地球は調和していない、そしてそれは、崩壊する災いを生み出す振動となっていて、

悲しんでいる地球の多数の人を激しく打ちつける、

これまでにこの惑星には生命エネルギーがむしばまれた地帯が徐々に広がっている

ある日、あなたは、科学の限られた理解を越えたこれらの状況の現実を理解する。

本当の状況を認識し始めたわずかな人々は誤解され、孤立して残される。

146

50

"51

Conscious connections

意識的な関係

あるときジョルジョ **Giorgio Dibitonto** が母船を訪問したとき、我々人間の生命のエネルギー的でスピリッチャルな 3 つの世界の基盤（身体的で、感情的エモーショナルで、精神的メンタルな表現という）を理解するために、彼のホストがどのように彼と彼の仲間のために熱心だったかを、述べた

そして彼らがどのように我々が見ている固体の物質の片割れとしてエーテルが存在するかを彼に示したを、述べた：

衣服を着た 3 人は、淡い色合いに混合し溶解していくようだった、

そのあと、溶解した彼ら自身が再構築し、衣服を着た男性、女性と子供の 3 人に同じように再び会った

この人達は前と同じではないはずなのに同じであった。

肉体の状態は、その時まるで内部からの若干輝く光源によって照らされているようなかすかに青く光る性質があるようだった、

どうも体は、前より光るようだった。

それは、まるで 1 つの体が他の人の体の上に覆っていて、2 つの体が重りあっているようだった

我々は、各々3人の分離した体を明らかに認めることができたが、それでも、彼らは一体となって現れた。」

Ilmuth は「あなたは、植物の世界、鉱物界そして人の生命エネルギーのいろいろな次元を視覚的にこのように理解することができる、」と、説明した、
スペースビジターは本当に、それはすべての生命の相互関連を示すのに役立つのでこのことを理解する事は以後重要であると、考えたようである

52

アダムスキーによると、「我々は、大気圏を通して飛ぶ彼らの航空機で宇宙の隣人の存在を知っている

彼らの現実的な証明の前は、大多数の人々は、他の惑星にいる人間の住民を知らなかった。知識を通して我々の太陽系の家族に我々を迎い入れることは彼らの偽りのない希望である。

147

53

Dibitonto 氏の解説は、著者の語り口が持つ紛れもないキリスト教的な含みにもかかわらず、言いがたい微妙な、方向で、地球での高濃度の物理的な生活と他の惑星での生活との間と、それだけではなく、より高い存在の内部の次元の生活との間にある意識的な経験の障壁を壊す

そして、我々の宇宙での鮮明な経験の結果、すべてにおいて重要な一なるものを理解し、経験し行うときのみ、創造主の身体として、人類は自由に歩き回ることが許可されることが読者に伝えられる。

この非常に拡張された人生観の更なる証明は、メキシコの被接触者カルロス・ディアスから来る、

その地球外生物とのコンタクトは、1981 年 1 月メキシコシティーの近くの Ajusco 公園で雑誌のための任務をしているとき、彼が車から 30 メートルくらいのところに大きな、卵型のオレンジ UFO を見て、写真を撮った時から始まった。

それは、その年の、3 月までなかったが、彼の解説では人間の外観をもつ、地球外生物によって最初に連絡されてから、それらと今日まで関係が続いていると言う。

54

彼のコンタクトを通して、彼はすべての生命の相互関連と、環境を維持する必要の認識が染み込んだと、ディアス氏は言う（他のコンタクティに与えられたメッセージが強く思い出される）

地球の上のあらゆる生命体が全体にとって重要であると、彼の経験は、Diaz に教えた：

「素晴らしい相互作用が生きとし生ける物の間にあることを、私は経験した。

しかし、この相互作用は妨げられている。

あらゆる個人、あらゆる種は、この交互作用の重要な部分である。

148

類似した概念は、再び、エンリケ・バリオスに伝えられ、その分身『ピート』はどうして一部の人は、宇宙の他の部分にいる人々の存在についてまだ否定的なのか疑問に思っていた

Ami は答えた：

「それらの人々は；我々宇宙人が存在しないというだけでなく単純な考えで生きているので我々も、慎重に見ている。

あなたたちは防御の手段としてスパイ活動を使っていますが、我々があなたたちを観察していないと思うのは間違っていますね。」

ヴェラ・スタンリーエルダー Vera Stanley Alder's の経験をみると

(ページ 136-38)

彼は続ける：全ての宇宙は生きた生物として一つに統一されている、

我々は、少し野蛮な世界で生み出された科学的発見も見落すことができない。

私は、あなたに特に凶悪なものが手にした力は、銀河の全部の平衡を変えることができることを話した

またアミは、ピートに言った：地球のあなた達は現在変わらないならば、まるで明日がないように、惑星の資源を減少させ続け、-空気、水と食物を汚染する—これでは未来はない！」

彼の経験を通して、カルロス・ディアスは言う、

我々の不注意に自然と惑星の活力を無効にしてきた人間の歴史の中で、重要な段階を通り抜けようとしていることを彼は、理解している

しかしと — 彼は、言う — 我々の創造力は、これを変えることができる：

55

「我々は、我々と地球の将来が我々の手にあると理解しなければならない。この情報を共有することの私の意図は、行動しようと人々を誘うことである。

これは、人々を行動しようと誘うことである

私は地球外の生命の存在について聞くべきだと人々を誘いたい、そして、この経験は私を我々が持っている素晴らしい地球という家に気づかせてくれた。

そして、私は我々が生命を尊重し、愛することを学ぶならば、彼らとの出会いは避けることが出来ないことであること信じている。

"56

それは、おそらく Amicizia の関係者パオロ di ジローラモが言ったよりも、明確には言うことはできなかった

彼は以下のように言った：人類と宇宙の関係に関して [スペースピープルの] 確認で最も魅力的な部分はすでに、過去の哲学者によって想像されていたマイクロコスモスとマクロコスモスとの間の実存的な統合が現実的にあるということである。」

149

57

我々は、生命がすべての場所にあるように見る地点まで我々の生命観を広げたことである
— 本当に、そのすべての原因は、そこである
— そしてまったく、太陽系よりもっと遠いシステムからのスペーストラベラーズが我々を訪ねてくることは、論理的でない

我々が我々自身の太陽系の中のより進化した兄弟と姉妹から多くを学ばなければならないとき、形態の進化は、当然意識の進化も促進させていることを理解することは、難しい

Adamski が以下のように言ったように：

我々がスピリットと呼ぶそれは、それを表すべき物質の形なしでは現れることができなかった；そして、物質は精神または原因なしでは存在することができなかった。

「58

しかし、双方とも足並みそろえて進む必要がある。

そして、我々の技術的発達がいかなる道徳的・倫理的進展を追い越したことが明白なとき、はるか地平線まで意識を進展させた人々がいる。

これらのうちの一人は、アーヴィン Laszli (科学のハンガリーの哲学者) である

システム理論家であり重要な理論家である、

そしてその人は宇宙を生きている創造物としてとらえる理論を発展させた。

彼は、ローマ・クラブ (1968 年に確立されて、その 1972 年のレポート『成長への限界』は世界的な評価を得た)、によく似た、ブダペストのクラブを設立した

進化に関して中心の課題が存在する、それは人類の退廃と分極化と災難の方へ向かう方向を変える価値としての、人間性のもつ価値で、そして優先課題を再考する上で重要な要因として、意識を置いた。

そして今日の変化をヒューマニズムと倫理と世界的な持続性の方向に、進むようにする」。

ブタペストクラブには、メンバーの間に高い地位の聖職者、科学者とアーティスト（例えばダライラマ、ミカエルゴルバチョフ、Liv Ullmann、Elie Wiesel、Vaclav Havel とバイオリニストの故ユーディメニューインと Peter Ustinov）がいた。

2008 年のインタビュー記事では、彼が地球外生物とのコンタクトに関する情報にアクセスしたことを、Laszl6 は明らかにした、しかし、彼はそれが非常に秘密にしておかれるはずであると付け加えた。

150

しかし、彼が多くの詳細を明かすのを辞退したという事実にもかかわらず、彼は以下のように言った（彼ら宇宙人は決してもう私に何も話さないの）：「私は、コンタクトがされたと確信している。」

59

真実のルネッサンス的教養人、科学者と哲学者であることに加えて、Laszl6 博士は、いくつかのピアノ演奏がレコーディングされているクラシックの音楽家でもある。

Laszl6 は、それは偶然の一致ではないと言う

「しかし、芸術のすべての形、特に音楽は、あなたにこの一なるものの意味を与える（完全性の意味）」ので、多くの科学者は良い音楽家でもある。

現在、すべての偉大な科学者とすべての偉大なアーティストは、一なるものの存在を求めている」。

Laszl6 は我々は地球の歴史の中で臨界点にいると言う。そして、それを彼は混沌点と呼ぶ。彼は、「人類が自制心を失うか、新しい異なる方向に進むかの分岐点」としてそれを説明する。

我々は、その地点に接近している、

「Laszl6 は、2006 年 6 月の終わりにオランダのテレビのインタビューで言った

我々は、この惑星に誰でもその資源を共有できる方法で、住まなければならない。たった今、我々はこれらのキャパシティを使いすぎている。

我々が行動しないならば、瓦解が来る。

そして、私は、我々が理解しないならば、我々が動くとは思わない。

あなたは言わなければならない。『これは、私たちの最優先課題である。

すべての人々にとって、私は子供たちのために、私自身で、持続可能な世界を成し遂げたい。それは、理解から始まる、

しかし、それは価値観の変化と基本的な進化で我々の意識を前へと運ぶ。」

Laszl6 によると、宗教にも取り入れられているスピリチュアルな要素の 1 つは、Oneness の概念である：我々には、分離はない。

我々の鍵となる問題の 1 つは、『私は他とは分離している』という感覚である。

『これは私ではなく他の人に起こることだ、何があなたに起こるか、何が、自然に起こるかは、私には関係がない、彼らは私ではない。

『私』と『私でないものに』世界を分けること、それは我々の問題の根本にある、そして、そういうわけで、我々は精神性と宗教を必要とする。」

私は、やがて人々が目がさめると思っている。

151

人々が変わらないならば、我々は環境問題、貧困問題、食物問題、文化的な紛争、戦争といった深刻な問題に陥ることを認めている。

私は、徐々に信じる、そして、おそらく、現在よりもっと人々の心の集合体の変化が速くなる、そして、それは重要なことである、

最終的には、あなた自身を変え、あなたの意識を変えなさい

そして、今までと違った様に行動しなさい。

"一緒に考えて、動いていくことだ。

あなたがただ考え、行って、それから助けに来る人を瞑想するだけならば、多くの援助はない。

あなたは行動しなければならない。

それは、我々が買う製品、我々が家に家具を備える方法、我々が他の人と情報交換する方法、我々が選挙するリーダーは親切か、政治的なふるまいはどんな種類だろう、我々が保護したい会社の種類は何かといったライフスタイルに関係し、消費者行動に関係する。

しかし、我々がそうするすべての鍵は、考え方である：

『私がすることは、この地球の 65～70 億人に関して矛盾がないか？

また、私は多くのエネルギーを使い、誰もが多くの資源と、多くの廃棄物を生産して生きるならば全部は、ぼろぼろになる？

『言い換えると：『私は、持続可能な方向に住んでいるのか？』それは、新しい倫理と（新しい哲学の問題である。

自身に尋ねてみなさい：私がすることは、持続可能か？」

Laszl6 は、我々は、すべてに挑戦する必要があると言う；

まだ展望がないので、我々は意志が欠如しているだけである：

我々は、問題の緊急性と重大性にまだ目覚めていない、..

そういうわけで、私は、起きあがって言う！

我々には、5 年または 6 年がある。

我々は、それをしなければならない。

我々は、それをすることができる。」

最近経済学者デイビッド・コーテンによる論文でも彼の断言と、同じことが言われている、

彼は以下のように言った：

私が古い経済学によって加えられた荒廃を目撃して、私の最大の悲しみは、我々の人間の現実と我々の人間の可能性の間の深いギャップの認識から来ている

それでも、彼は言う。「我々は、人間の今までの経験全体の中で創造的な機会にあふれた、最も刺激的な時点に生かされている。現在は、こうした時間である。」

我々には、来るべき数代にわたって我々自身と我々の子供たちのためにこの世界の向きを周辺から変える力がある。

我々は、次の時代を待ち望む人である。

" 61

A declaration of hope

希望の宣言

As we can see the existing structures failing

我々の目の前で既存の構造が崩壊しそして、砕けるのを見ることができるよう、すでに国を統治するのが難しくなり、そして、本当に、壊れた経済の中で財政的なシステムの挑戦に取り組む展望または腕前が欠如しているリーダーは政府を常に維持するのが困難になり、我々の社会の教育的なシステムの失敗のために社会とコミュニティがばらばらになっている時、Laszl6 教授の楽観的な見解を見失うことは、簡単かもしれない

そして、間違いなくこの章が記載するような現実の広い見方が欠如している多くの人々の経験から見ると、絶望の犠牲になる。同時に、ますます多くの人々は、自分の立場と意見を明らかにしたいという意欲を示し、彼らの政府に強いメッセージを送る

人間社会の情勢が普通の生活』の基礎となる『ビジネス』をもはやすることができないために、誰でも見るように、古いやり方による『解決』方法はもはや機能していない。

ちょうど中東の人々のように、執念深い絶対の統治者に直面して彼らは戦慄の数十年を耐えてきた、

さて、民主主義の外見のもとで会社組織の権力を消費してきた場所で、ますますいわゆる西側の本当の民主主義を求める人々は増大し過去 10 年ほどの間に、UFO の真実を求める集団の運動はふくれあがりその粘り強さは、地球外の存在の事実を非民主的な、秘密主義の実体にそらしてきた政府をますます困惑させている

スペースピープル自身は、素晴らしい目撃体験をますます頻発させ、彼ら自身をますます世界中に示していることから見ても、常に結末を見て政府への圧力の準備ができていようである。同時に、政府が今まで持っていた知識について、彼らが、世間から隠していたとする声明を出すなら、ベンジャミン・クレームの言葉で言えば、彼らの「政治的な自殺となる」ことは明らかである

153

62

6

しかし、こんな時代は今までにはないという異なる徴候は、いろいろなところから提供されている

たとえば、ジョルジョ **Dibitonto** が火星の **Firkon** によって現在の人類の労苦に対する支持の合図が言われたように、

「地球でこれまでに起こった一つの事件も決して、現在のあなたの前に立ちあがっていることに匹敵することはできない。

火の雲と柱を、あなたは、それを今日では空飛ぶ円盤と呼ぶだろう

そして、エジプトから逃げたヘブライ人のリーダーの上に、マザーシップが見られた。

正確に同じサインと現実の予告は、現在の新しい最終的な移動の旅を予告している、

それらは、あなたの現在の惨めさから、宇宙的な愛の本当の希望の状態にあなたを案内する

すべての人々がこれを理解することは、最も重要である。

時間は短い。」

Ilmuth は安心させるようにつけ加えた：

我々がその頃したように、我々は、あなたに同行する、

そして今度は、我々の存在は、もっと目につく。

ヘブライ人がオアシスを求めて走破したように人類は、荒野を旅行する。

しかし、我々はあなたを援助し、慰めるためにもっと目にみえるようにし、前のようにあなたの上にいる。

「金星人 **Kalna** は詳しく述べた：

「ヘブライ人は偉大な万能の兄弟によってリードされた。そして、その人はこの重要な任務を成し遂げるためにここに生まれた。

彼の名前は、モーゼであった。

みんなが愛し、大いにそれを賞賛する新しいモーゼによって、あなたはリードされる。

彼は、この新しい脱出に関して良い兄弟または父のようなすべての人々をリードする、

我々があなたを、宇宙に連れてくるというメッセージは暗雲が惑星地球の地平線の上で集まっているとき、希望と救済の1つである、

"63

今、明白でなければならないことはこれらの「暗雲」は、主に我々自身が、作りだしたものである

これまで人類の問題の解決に一致を見ることができなかった

我々は、長年互いに分離させる古いセンスで取り組むと言ってゆずらなかった

154

古い信仰と確信が一つずつ層をなし積みあがっているような所に、その分離は、我々の独自の『荒野の経験』の条件をつくり、政治、経済、財政、社会的な環境危機がそれと一緒にになって『最悪の嵐』となって来ている。

問題が無知の結果であり、または、場合によっては、我々の生来の一なるものとの一致を無視する結果であるならば、我々の兄弟と姉妹と分離させるという意味でそれは我々を恐れさせる

ー現在の人口過剰問題でさえ、実際には、一人当たり 10 パーセントの食物余剰が生じている豊かな惑星に住んでいるという事実にもかかわらず、現在の競争に基づくシステムの中で、生き残りのための争いに我々は負けるかもしれない

この解決法はその正反対にすることでなければならぬことを知らされた。

それは、再びエンリケ・バリオスである

その人は理解されるために最も簡単な言葉で、彼の本「アミ、星の子供」で根底にある当り前のことを表している、

ピートにそれを学ぶ準備が最後にできたとき、

「愛は宇宙の基本的な法」であるとアミは彼に話した：それは単純で、自然である、しかし、それを経験するのはあまり簡単ではない、そのためには、進化が必要である。

進化は、愛に近づいていくものである。最も進化した存在は、多くの愛を表し、経験している。あまり進化していない存在は、愛を少なくしか表せず、愛を少ししか経験していない。」

彼は、地球の友人にさらに説明する

我々が我々内部にバリアを持つために、この表現は妨げられている：

「自我が大きいくほど、我々は、残りの他の人に関して、我々自身をより重要な存在であると思う。自我は、他の人の価値を下げ、傷つけ、支配し、利用する許可を与えられていると感じさせる；彼らの命にさえ指示する。

自我は愛に対する障害で、我々に同情、圧痛、愛情 愛。を感じないようにさせる..。

自我は、生命に対して我々を鈍感にする。

"64

同じ障害は、1950 年の手紙で、アルバート・アインシュタインによって述べられた：「人間は全体の一部である。そして、それは我々によって宇宙と呼ばれている。そして、そこから切り離された部分は時間と空間が制限されている。残りの者達から切り離されたものとして彼の考えと感情は自身を経験する。これは彼の意識がつくる一種の光学的妄想である。この妄想は我々が自ら作り上げた一種の刑務所である。そして、我々の最も近くのもの和我々の個人の欲求と、そして、数人の人への愛情に制限する。

我々の仕事は、すべての生きている生きものを抱擁するために我々の同情の環を広げることによって、この刑務所から我々自身とその美しい自然の全体を解放することでなければ

ならない

「65

同様に、人類の先師は、代々我々に知らせてきた、しかし、特にベンジャミン・クレームと pertinentto から来た情報は、世界の現在について述べている、我々がこの惑星で生き残るために、我々が One 一なる存在であると理解するならば、すべての人たちのための経済と、社会を形成するための裁判官をつくることによってその実現に表現を与え始める

上記に引用したアインシュタインの声明で彼は、付け加えた

誰も、完全な自由は、達成することはできない

「しかし、そのような達成に努めることは、本来自由の一部で内面の安心感を確保する際の基盤である。

また、Ami は彼の若い地球の友人 Pete に説明する：「我々は、我々自身であろうとしなければならない、それが自由だ

[すなわち、我々に与えられた愛を表明していくことだ] 他に自由はない...

"66

それで、どのようにしたら、我々は人類の十分なメンバーが協力に基づいて文明を分担することは、人類が生き残ることを可能にする最後の砦でさえあると確信し思うようにすることができるのか？

まさか、人々にはできないとか、望まないとか言って彼ら宇宙人が数千年も調節してきたことをあきらめようとしているのだろうか？

何人かの情報によると、我々は重大な分岐点に直面しそうである、そして、彼らは言う、それは Space Brothers が移行のこの大変な時期にここにくる理由である。

アルベルト・ペレゴは 1963 年当時でさえ書いていた：

彼ら [スペースピープル] は将来の、惑星地球の大きな繁栄を予見する、

我々のリーダーが新しい対立を避けて、宇宙人たちが我々の内の一人であることを確かめるならば、我々を助ける。

この 20 年の事件に基づいて、我々は、これを疑う理由がない

これまで、本当に、核戦争が起こらなかったことで彼らに借りがあることを、我々は忘れてはならない。

「また、地球外のパイロットによると、すでに技術的に所有する（新聞、ラジオ、テレビ、空軍）を想定すれば我々の政治的で宗教的なリーダーが惑星全部に新しい現実を知らせることは、2、3 ヶ月かかるだけであることを意味する、我々はこのように、新しい時代を開始することができる。」

67

Mr Lutterworth Desmond Leslie デスモンドレスリーの 1958 年の小説「Amazing」では、こうしたことが起こるかもしれない 1 つの方法を架空の報告書で書いている。

主人公のスペースブラザーが世界のすべての国に無制限の自由できれいなエネルギーのキーを配布することによって、地球の会社または国が誰によっても追いつめられないようにする「輝く時間」を開始する物語の中の劇的な場面で

このブラザーが国連組織の最高議会のすべてのメンバーの影を精神的に青ざめさせるメッセージを伝える、

この電力 power は、地上を変えると、私は言いたい。もう、小集団、また、一人の男でさえも飢えを通して多数を支配することはできない；そのため、飢えも貧困も寒さも、これ以上ない；なぜならば、人が、自然と調和して生きることを学ぶので、再びこの時間にどんな病気もでてこない、

それに絶えず戦う代わりに、彼は病気の原因を破壊する。

"68

小説として発表されたが、思い出さなければならないことは著者は、この物語がジョージ・アダムスキの任務に基づいた 75 パーセントのノンフィクションであると後で言った、

69

また、レスリーの書いたフィクションで、新しい文明の説明のための引用は、ウィルバート・スミスが、1950 年代後期の同じ時期に書いた言葉が繰り返されている

スミスは『宇宙船の哲学』で言う：

「やがて、特定の事件が露見したとき、これらのどこか他の所からの人々を我々が受け入れることができるように、我々は案内される、彼らは相互理解と信用の共通基盤の上で自由に我々に会う。

157

我々は彼らから学ぶことができ、至る所ですべての人が心の底から深く希望してきた黄金時代をもたらす。

" 70

我々がスピリッチャルな性質を多く表すことができる組織を構築し始めるとき、この新しい文明は起こる。

Ami が Pete に言うように：

「問題は、そこに生きる人々にあるのではなく、彼らが使用するシステムである。

人々は進化した、しかし、システムは過去のままだった。

間違ったシステムは、善人を苦しめる。

これらのシステムは人々を不幸にする。そして、それは彼らを最後に悪くする。

良い世界的組織システムは、簡単に悪いものをよくすることができる。

" 71

奥義に通じた作家ヴェラ・スタンリーAlderは、彼女の自叙伝で生命の一なるものについて
の実際の経験を記述する

平凡なものから素晴らしいものまで、彼女は惑星の将来の展望についての結論与えられた。
彼女は、「非常に望ましく理想的だ」と言う

世界を目撃した

彼女は、何が、これほど世界を変えることができたのか？」と怪しまざるを得なかった。

彼女の先生は答えた：

ほとんど法外な苦しみと退廃の刺激を通る中で、本当は各自がよく知っている自由意志に
よって、彼に与えられたレッスンを困難な方法で学び抜くことを人類は決心をした、
進化が続かなければならない、結局、その刺激は、人類を奮起させ、底から表面まですべ
てのクズの清掃と鎮圧が完成するようにさせた。

このような、現状を鮮明に見せられた人々に強烈な嫌悪感と、それへの反発からくる発奮
が世界的に起こったほどだ。」

ジョルジョ Dibitonto が宇宙からのコンタクティによって話されたものをほとんど文字通
りの引用したように、Alder 夫人の先生は続ける：「この変化は、世界史の上で最も大きな
イベントが行われることを可能にする。

再び再臨するとキリストは、我々に話した。ユダヤ人は、メシアが来ることを信じている；
東洋はマイトレーヤ Matreya（原文のまま）弥勒菩薩を待っている。

古代のエジプト人は来たるべき人を伝えてきた、その人は、人類に進化のために次の授業
を与えるために、12 黄道帯各々の時期に現れる。」

158

Alder 夫人の本は、1942 年に彼女に与えられたビジョンを解説しており、それはベンジャ
ミン・クレームの最初の本が 1979 年に出版される前に発表され、彼女がベンジャミン・ク
レームとおなじことを書いていたことを意味する。

それも、この事件についての彼女の解説は、それは人類の恐れと独りよがりな独善的意識
を捨てさせると Creme が示していたことと、ほとんど同一である：

すべての方向から人々は黙って [大きくて美しい大学] に流れるように入る。

スクリーンに金色の光が、徐々に積み重なっていった。

人物がその中に突然現れるまで、それはこれまでより大きく輝いていった。

私は、彼を期待することにほとんど耐えることができなかった。

しかし、彼はすぐに話し始めた。

彼のことは極めて少なくて、非常に遅かった。

彼らは、身体的に別の意味と思いをしみ込ませているようだった。

私は、ホールで大きなコミュニケーションの働きを感じた。

Creme 氏によると、世界の先生としてマイトレーヤが個人的な名前で宣言するこの世界事
件は、世界中の誰によっても実際目撃された、

"72

現在世界中で高まっている政府への上る圧力の結果、世界的なテレビ放送で人類に向けて発信しようと誘われた。

我々はテレビ画面で主の顔を見るが、我々は、各々の内心で彼ら自身の言語で主の言葉を聞いている、主は精神的に 14 才以上の誰にも、影響を与えている彼は、この惑星で具体化された愛を込めた主のエネルギーを莫大な強さで流れ出させ、誰もが、彼らの存在の精神的なエキスを経験しそして、人類の生来の一致を達成する。ベンジャミン・クレームは、常にイベントに立ち会うとき彼の声明の正確さを証明する時間が、展開して、満足だった。彼は、決してドグマとしてでなく、いつも単なる情報として表現した。

彼が絶対確実かどうかという問題はあるとして、もしそうでないとすれば、我々は、彼が正しいか間違っているかいつわかることができるのだろうか、これについて Creme 氏は答えた：

「私は、絶対確実でない；マスターの主張の絶対確実性さえない。
そう—私はあなたの言う、問題点に同意する—。

159

マスターに関連した、直観力そして、識別力のある能力だけは、長い年月の直接経験とともに来るので、私が公的に声明をすることが人に許されると思っている。

" 73

しかし、英国の伝記作家デズモンド・レスリーの 1942 年の経験と、デズモンド・レスリーがジョージ・アダムスキの任務について小説化した話、そして、直接ウィルバート・スミスが体験したスペースコンタクとからの多くのこと、領事ペレゴとジョルジョ Dibitonto などがそれぞれ独立して、確認されており、その上で、Creme 氏が地球にいる地球外存在について政府と軍隊が、情報を発表することについて言わなければならなかったことを知るべき正当な理由が、ある：

政府は強制されるときだけ、行うものである。マイトレーヤ [World Teacher] が公然と知られるようになるとき、彼は質問される... そして、関係の真実は、明らかとなる。

そして他の惑星からの人々の存在の現実は、[公然と] 知られる....

Space Brothers の知識と、現実の承認、マイトレーヤと Spiritual Hierarchy のマスターズの存在が承認される。

彼らは、宇宙船が本物であること、

Space Brothers が本当であることを確認する、他の惑星に彼らの文明を持っているために、

その人は、親善だけで占領などはしない。そして、その人は無害である。そして、その人は互いに助けあっていこうとし、そして、カルマの法則が許す限り、その人はこの惑星を助ける。

"74

この概念が正しいならば、我々がニュースで見、この時に通りで目撃しているものは、ペレゴの言う「新しい時代」の開始の用意を人類に示す以外の何物でもない

それは、レスリーの「輝く時間」であり、スミスの「黄金時代」または、エンリケ・バリ奥斯、ヴェラ・スタンリーAlder とベンジャミン・クレームがそれを、水瓶座の新しい時代と呼んだ。我々のスペースブラザーズとシスターズの助けを借り、マイトレーヤ、智慧のマスターズ World Teacher 世界の教師とによって—すべての人類にとって自由と正義の時代が始まることを表している。

or, as Enrique Barrios, Vera Stanley Alder and Benjamin Creme call it, the new age of Aquarius

- the age of justice and freedom for all

- by Maitreya, the World Teacher, and the Masters of Wisdom, with the help of our Brothers and Sisters from space。

160

Notes

メモ

1 George Adamski (1955), Inside the Space Ships, p.180 2 Lou Zinsstag & Timothy Good (1983), George Adamski - The Untold Story, p.88 3 Adamski (1965), Cosmic Bulletin, p.2

4 Adamski (1965a), Answers to Questions Most Frequently Asked About Our Space Visitors and Other Planets, p.12 5 Stefano Breccia (2009), Mass Contacts, p.188 6 Ivan Ceci (20 II a), 'Witness of Italian extraterrestrial contact case emerges'.

私はジョージ・アダムスキー(1955)である、Inside は Space Ships、180 ページ 2 ルー Zinsstag とティモシー・グッド (1983) (ジョージ・アダムスキー) である—Untold はストーリー、88 ページ 3 アダムスキー (1965)、Cosmic ブリテン、2 ページ 4 アダムスキー (1965a)、Questions Most Frequently Asked About Our Space Visitors と Other Planets への Answers、12 ページ 5 ステファノ Breccia (2009)、ミサ Contacts である、188 ページ 6 イヴァン Ceci (20 II)、『目撃者！Italian の地球外の接触事実が出てくる』。

ExoNews, [online] 15 August.

ExoNews、[直結] 8 月 15 日。

Available at <news.exopolitics institute.org/index.php/interview-with-italian-witness-of-et-contact91 / >

< news.exopolitics institute.org/インデックス。et-contact91 の italian-目撃者と phplinterview/>で利用できる

[Accessed 3 September 20 II] 7 Breccia (2009), op cit, pp.240-41 8 Michael Wolf(1993),

[アクセスされた 2020 年 9 月 3 日 II] 7 つの Breccia (2009)、オペ市民、pp.240-41 8 マイケル狼座 (1993)、

The Catchers of Heaven , 1996 reprint, p.201 9 Adamski (1955), op cit, pp.88-89 10 Adamski (1957-58),

天、1996 の再プリント、201 ページ 9 Adamski (1955)、オペ市民、pp.88-89 10 Adamski (1957-58) の Catchers、

Cosmic Science for the promotion of Cosmic Principles and Truths,

Cosmic Principles と Truths の昇進のための宇宙 Science、

Series I, Part 2, Question #39 11 Enrique Barrios (1989), Ami, Child of the Stars, p.21 12

連続 I、パート 2、Question #39 11 Enrique Barrios (1989)、Ami、Stars の Child、21 ページ 12

Benjamin Creme (2010), The Gathering of the Forces of Light - UFOs and their Spiritual Mission, p.46 13 Creme (2001),

Benjamin Creme (2010)、光の Forces の Gathering—UFO と彼らの Spiritual Mission (46 ページ 13 Creme (2001))

The Great Approach - New Light and Life for Humanity, p.135 Law and order 14 Creme

(2001), op cit, p.129 15 Ibidem, p.131 16 Creme (2010), op cit, p.86 17 Adamski (1957-58),

op cit, Part I, Question #5 18 Breccia (2009), op cit, p.244 19 Barrios (1989), op cit,

pp.19-20 20 Adamski, Wisdom of the Masters of the Far East (1936),2000 reprint, p.24

21 Creme (ed.;

Great Approach—ニュー光と Humanity、135 ページ Law と命令を出す 14 Creme (2001)、
オペ市民、129 ページ 15 Ibidem、131 ページ 16 Creme (2010)、オペ市民、86 ページ 17
Adamski (1957-58)、オペ市民、パート I、Question #5 18 Breccia (2009)、オペ市民、
244 ページ 19 Barrios (1989)、オペ市民、pp.19-20 20 Adamski、Far East (1936) ,2000
再プリントの Masters の Wisdom、24 ページ 21 Creme のための Life (ed.;

20 II), 'Questions and Answers', Share International magazine Vol.30, No.6, July/August,
p.35 22 Creme (1979), The Reappearance of the Christ and the Masters of Wisdom,
p.209 23 Creme (ed.;

20 の II)、『質問と Answers』、シェア International magazine Vol.30、No.6、7 月/8 月、
35 ページ 22 Creme (1979)、キリストと Wisdom のマスターズの Reappearance、209 ペ
ージ 23 Creme (ed.;

2011), op cit 24 Alice A. Bailey, Discipleship in the New Age, Vols I (1944) and 2 (1955)
25 Adamski (1957-58), op cit, Part 4, Question #72 26 Yogi Ramacharaka (1909),
Lessons in Gnani Yoga - The Yoga of Wisdom.

2011)、オペ市民 24 アリス・ベイリー、ニュー・エイジ、Vols I (1944) と 2 人の (1955)
25 人のアダムスキー (1957-58) の Discipleship、オペ市民、パート 4、Question #72 26 Yogi
Ramacharaka (1909)、Gnani Yoga — Wisdom の Yoga — の Lessons.

Yogi Ramacharaka was the name used to publish the books written by American New
Thoughtwriter William Walker Atkinson in co-operation

ヨガ行者 Ramacharaka は、アメリカのニューThoughtwriter William Walker Atkinson
によって協力に書かれる本を出版するのに用いられる名前であった

161

161

HERE TO HELP:

HERE TO HELP :

UFOs AND THE SPACE BROTHERS with Baba Bharata, a disciple of the real Yogi
Ramacharaka, an Indian initiate who lived from 1799-1893.

ババ・バーラタと一緒に UFO AND THE SPACE BROTHERS、本当の Yogi Ramacharaka
の弟子、1799-1893 年から生きたインドの入会者。

27 Masaru Emoto (1999), Messages from Water

27 人の江本勝 (1999)、Messages from Water

28 Creme (2002), 'Questions and answers'.

28 の Creme (2002)、『質疑応答』。

Share International Vol.21, No. 1, January/ February, p.47 29 Alexander Lauterwasser
(2007), Water Sound Images:

シェア・インターナショナル Vol.21、No.1、1 月/2 月、47 ページ 29 アレキサンダー
Lauterwasser (2007)、Water Sound Images :

The Creative Music of the Universe 30 Barrios (1989), op cit, p.65 31 Vera Stanley Alder
(1979), From the Mundane to the Magnificent - A Volume of Autobiography, pp.42-49 32
Creme (20 10), op cit, p.115 33 Ibid., p.61 34 Ronald Caswell (1967), 'In Defence of
Wilbert Smith'.

Creative 宇宙 30 バリオス (1989)、オペ市民、65 ページ 31 ヴェラ・スタンリーAlder (1979)
の Music、From は Magnificent — Autobiography、pp.42-49 32 Creme (20 10)、オペ市
民、115 ページ 33 Ibid., 61 ページ 34 ロナルド・キャスウェル (1967)、『ウィルバート・
スミスの Defence で』の A Volume — への Mundane である。

UFO Contact Vol 2.

UFO Contact Vol 2。

, No.8 , December, p.205 35 Gordon W. Creighton (1963), 'The Italian Scene- Part 3:

No.8、12 月、205 ページ 35 ゴードン W.クレイトン (1963)、『イタリアの Scene-パート 3 :
Bruno Ghibaudi's contact claim'.

ブルーノ Ghibaudi の接触主張』。

Flying Saucer R eview Vol.9, No.3, May-June, p.19 36 Creme (2010), op cit, p.47 37
Creme (20 10a), 'Questions and answers', Share International Vol.29, No. 10, December,
p.27 Planetary changes 38 Creme (2010), op cit, p.45 39 Adamski (1957-58), op cit Part 2,
Question No.32 40 Adamski (1962) , 'World Disturbances'.

空飛ぶ Saucer R eview Vol.9、No.3、5 月に 6 月の、19 ページ 36 Creme (2010)、オペ市
民、47 ページ 37 Creme (20 の 10a)、『質疑応答』、シェア・インターナショナル Vol.29、
第 10、12 月、27 ページ Planetary 変化 38 Creme (2010)、オペ市民、45 ページ 39 アダ
ムスキー (1957-58)、オペ市民パート 2、Question No.32 40 アダムスキー (1962)、『世界
Disturbances』。

Cosmic Science newsletter Vol.1.1 , No. 1 , January 1962,p.4 41 Creme (2001), op cit,
p.130 42 Creme (201 0a) op cit 43 Creme (1979), op cit, p.211 44 Breccia (2009), op cit,
p.239 45 Barrios (1989), op cit, pp. 99-1 00 46 Adamski (1962), op cit 47 Timothy Good
(1998), Alien Base - Earth 'sEncounters with Extraterrestrials, pp .216-17 48 Wilbert B.
Smith (1958), speech given 31 March in Ottawa, Canada.

宇宙的なサイエンス会報 Vol.1.1 (No.1) 1962 年 1 月,p.4 41 Creme (2001)、オペ市民、130
ページ 42 Creme (201 の 0a) オペ市民 43 Creme (1979)、オペ市民、p.211 44 Breccia
(2009)、オペ市民、239 ページ 45 バリオス (1989)、オペ市民、pp. 99-1 00 46 アダムス
キー(1962)、オペ市民 47 ティモシー・グッド(1998)、Alien 基地 — 地球『Extraterrestrials、
pp 17.216 48 ウィルバート B.スミス (1958)、Ottawa で 3 月 31 日にされる言葉、カナダ
による sEncounters — が。

Transcript published in Fly ing Saucer Review Vo1.9, No.5 , SeptemberOctober

コピーは、Fly ing Saucer Review Vo1.9, No.5, SeptemberOctober で公開される

1963, pp.14-15

1963, pp.14-15

49 Wolf(1993), op cit, p.323 50 Giorgio Dibitonto (1990), Angels in Starships, p.81 51

Ibid., pp .20-21

49 人のヴォルフ (1993)、オペ市民、323 ページ 50 ジョルジョ Dibitonto (1990)、Starships
のエンゼルス、81 ページ 51 Ibid., pp 21.20

Conscious connections

意識的な接続

52 Dibitonto (1990) op cit, pp .71-72 53 Adamski (1957-58), op cit, Part 1, Question No.4
162

52 人の Dibitonto (1990) オペ市民、pp 72.71 53 アダムスキー (1957-58)、オペ市民、パ
ート 1、Question No.4 162

DiSCLOSURE:

DiSCLOSURE :

ALL GOES TO PLAN 54 The X Factor (1989), 'Carlos Diaz'.

ALL GOES TO PLAN 54 は、X Factor (1989) (『カルロス・ディアス』) である。

Issue 89 , p.2469 55 Barrios (1989), op cit. p.76 56 Interview with Carlos Diaz in
Michael Hesemann (dir.;

問題 89、2469 ページ 55 バリオス (1989)、カルロス・ディアスがマイケル Hesemann に
ある前掲書 76 ページ 56 Interview (dir.;

2001), Ships of Light - The Carlos Diaz Experience.

2001)、Light — カルロス・ディアス Experience — の Ships。

Available at <[www.youtube.com/ watch?v=SaAluEBxXLI](http://www.youtube.com/watch?v=SaAluEBxXLI)> 57 Paolo di Girolamo (2009),

Noi e Loro, p.141 58 Adamski (1957-58), op cit, Part 2, Question NO.38 59 Interview
with Ervin Laszlo in Tessa Koops (2008), 'Tessa Koops meets ...

テサ Koops (2008) でアーヴィン・ラズローと <[www.youtube.com/ 腕時計 ?
v=SaAluEBxXLI](http://www.youtube.com/watch?v=SaAluEBxXLI)> 57 人のパオロ di ジローラモ (2009)、Noi e Loro、141 ページ 58 アダ
ムスキー (1957-58)、オペ市民、パート 2、Question NO.38 59 Interview で利用できて、
『テサ Koops は会う...

'Available at:

『以下で利用できる :

<[www.disclose.tv / action / viewvideol_4817 I Ervin_Laszlo_ Contact _
with_Extraterrestrials_soon_2](http://www.disclose.tv/action/viewvideol_4817_I_Ervin_Laszlo_Contact_with_Extraterrestrials_soon_2)> 60 Interview with Ervin Laszlo in Annemiek Schrijver
(2006), 'Het Alziend Oog'.

<www.disclose.tv/アクション/viewvideo14817 は、私 Ervin_Laszlo_ Contact _である with_Extraterrestrials_soon_2>アーヴィン・ラズローが Annemiek Schrijver (2006) (『興奮した Alziend Oog』) にある 60 の Interview。

IKON TV, 31 December.

IKON テレビ、12 月 31 日に。

Available at <tvblik.nl/alziend-oogl-ervin-laszlo> 61 David Korten (2011), 'The Path to Real Prosperity'.

<tvblik.nl/alziend-oogl-ervin-laszlo> 61 人のデイビッド・コーテン (2011) (『Real Prosperity への Path』) で利用できる。

YES!

YES !

Magazine [online] 7 September.

9 月 7 日雑誌 [直結]。

Available at <www.yesmagazine.org/blogs/david-korten/the-path-to-real-prosperity> [Accessed 10 September 20 II] A declaration of hope 62 Creme (2010), op cit, p.37 63 Dibitonto (1990), op cit, pp.32-33 64 Barrios (1989), op cit., pp.79-80 65 As quoted in The New York Times, 29 March 1972.

望み 62 Creme (2010)、オペ市民、37 ページ 63 Dibitonto (1990)、オペ市民、pp.32-33 64 Barrios (1989)、前掲書、pp.79-80 の<本当の繁栄への www.yesmagazine.org/ブログ/david-korten/経路> [アクセスされた 2020 年 9 月 10 日 II] A 宣言で利用できて、1972 年 3 月 29 日に、65 の As は、The New York Times で引用した。

Source:

ソース :

<en.wikiquote.org/wiki/Albert_Einstein> [Accessed 28 August 2011] 66 Barrios (1989), op cit., p.1 05 67 Alberto Perego (1963), L' aviazione di altripianeti opera tra noi:

<en.wikiquote.org/wiki/Albert_Einstein> [2011 年 8 月 28 日にアクセスされる] 66 人の Barrios (1989)、前掲書、p.1 05 67 Alberto Perego (1963)、L』 aviazione di altripianeti オペラ tra noi :

rap porto agli italiani:

ラップ porto agli italiani :

1943-1963, p.536 68 Desmond Leslie (1958), The Amazing Mr Lutterworth, p.202 69 Zinsstag & Good (1983), op cit, p.78 70 Smith (n .d.), 'The Philosophy of the Saucers' .

1943-1963、536 ページ 68 Desmond Leslie (1958)、Lutterworth Amazing 氏、202 ページ 69 Zinsstag と、よくやった (1983)。そして、オペが市民、78 ページ 70 Smith (n .d.)、『Saucers の Philosophy』である。

Available at <[www.presidentialufo.com/wilbert-smith-articles I 125-the-p hilosop h](http://www.presidentialufo.com/wilbert-smith-articles-I-125-the-p-hilosop-h)

yof-the-saucers> [Accessed 28 March 2011] 71 Barrios (1989), op cit., pp.37-38 72 Alder (1979), op cit, pp.198-99 73 Creme (2010a), op cit 74 Creme (2010), op cit, pp.50-51 163 <www.presidentialufo.com/wilbert-鉄工-文 I 125-the-p hilosop h yof-受け皿> [2011 年 3 月 28 日にアクセスされる] 71 人の Barrios (1989)、前掲書、pp.37-38 72 Alder (1979)、オペ市民、pp.198-99 73 Creme (2010a)、オペ市民 74 Creme (2010)、オペ市民、pp.50-51 163 で利用できる

エピローグ Epilogue

過去と現在のコンタクティから来ているレポートで多くの類似点が見つかるが、この本で示すように、彼らにも関していくつか異なることを理解すべきである。

第2章で示されるように、この本のために選ばれた類似点の選択はランダムではなく、時代を超えた教えと直接に、または関係する賛同に基づいている。

結局、レポートの矛盾または分裂は、限られた認識と理解の不足からとか、以前の人生か、生涯の条件付けのために、伝達された情報の歪曲がおきて、変化したという理由によるものかもしれない；または嘲笑の恐れから脚色が必要になったりしている。

しかし、それらが時代を超えた智慧の信条と相互に互いを支えるだけでなく、同じことが確認されるということの重要性からみると、そのような矛盾は、ほとんど問題にならないとすることに賛成である。

その上人々に、多数の誤報がされ、そして地球外生物の存在の世間認識を混同させることが唯一の目的で事実を不明瞭にし、その人は本物のコンタクトをしたか、しなかったか不明にされた。

参照の枠組みをここに提供し、読者自身がそのすべてのもみ殻から小麦を切り離す能力があることに、気づくことを望む。多くの陰謀論の支持者は、我々には我々自身が知り、独学する義務があると言う；知識が自分を守る」ことは彼らのスローガンの1つである、そして、彼らの健全な心のだれも知識の重要性を否定しない。

しかし、無知と恐れからしている『研究』のなかで、推測に基づいた、疑いのかかったことを基礎にし『事実』のようにしている『知識』ならば、それは無知と恐れを恒久化し、それによってすべての人類のための正義、自由と平和の明るい方への闘いを長期化させるだけである。

165

すべての生命が相互関係する、そして、人類社会が基本的に1であるということを知ると、今の世界の状態は、我々のもとを消え去る、我々と向き合っている危機が本当に精神的な

性質の問題であることに疑いはない：

経済的であるか、政治的であるか、軍の利権より上に彼らの幸福を置き、ただ我々が仲間の人間の世話をし始める時、そして、惑星の恩恵をすべてに分配して、我々が精神的な存在として本当の性格を表しているようにしなさい。

初期のコンタクティによって報告される経験と事実を否定する陰謀は、とても効果的だった、その批判的思考法は、今は主に陰謀を企てる者たちの思考法であることは明らかになった。

この偽情報との戦争で、我々の実質的な力は勝利させるのに、しかしそれとの戦いの代わりに我々が手元にある本当の挑戦から、人為的に離脱した想像力で我々の気を散らさせるならば、事実に基づく行動で人類社会は 1 つであることを理解することが無能であった結果である。

多くの人々が現在わかっているように、「エネルギーは、思いに続く」、あるいは、言い換えると、注意を払って、同調するものに、我々はエネルギーを与えている。

それで、我々自身が知る必要に同意するならば、最初に、推測し自身が何を知りたいか決める必要がある。

過去の、恐れが増大する方法に基づくのではなく、地球に存在する地球外生物起源の知恵の伝統に基づいた、人類の将来の希望を吹き込む事実は無視されたか、忘れられた。

地球で次に起こることに対する責任がどこに終息するか見るためには、この事実を共有することだけが、我々に許された道である。：それは個々の私たち一人一人の手に、それは常にあった

166

付録 appendix

黄金律

いろいろな宗教で表されているところの、(愛 **harmlessness** の法則)

バハーイ教の伝統

どんな魂にも、あなたが置かれることを望まない重荷を置いてはいけない、そして、誰にも、あなた自身が希望していないことを希望してはいけない。」

-Baha'u'llah, -バハーウッラー

Gleanings Buddhism

仏教選集

あなた自身が傷つけるとわかるはずの仕方で、他の人を扱ってはいけない。」

-

ーゴータマ・ブッダ、Udana- Varga5 : 18

儒教

あなた自身がされることを望まないことを他の人にしてはいけない。」

-孔子、論語 15.23

キリスト教

「したがって、全くすべてのことは、汝らよ、あなたにするようにかれらにもしなければならぬ、これは、律法と予言である。」

-イエス、マシュー7:12

ヒンズー教

「その人の自身が自身を傷つけると考えることを、別の人に、人は決してしてはならない。これは、手短に言えば、正義の法則である。」

ーマハーバーラタ、Anusasana Parva113.8

イスラム教

あなたの兄弟が願うまで、それはあなた自身が望むことと同じだと、本当に誰も思っていない。」

-預言者マホメット (Nawawi の 40 の Hadith ハディース 13 168)

ジャイナ教

人がされたいと思うように、世界のすべての生きものを人は扱わなければならない。」

-マハービーラ、Mahavira Sutrakritanga 1.11.33

ユダヤ教

「あなたが憎むことは、隣人にはしない。これは、全体の基本となる法である；すべての残りは、このことの解説である。」

-ヒレル、タルムード、安息日 31

アメリカインディアンは「悪はしない、隣人を憎むな。

彼は憎むべきではない、しかし、あなた自身はそうだ。」

-ピーマのことわざ

シーク教、「私は、誰にとっても知らないよそ者ではない；そして、誰も私にとって知らないよそ者ではない。本当に、私はすべての人と友人である。」 -Guru Granth Sahib, 1299

ページ

「隣人の幸福を自身の幸福と考えなさい、そして、あなたの隣人の不幸はあなた自身の不幸とする」という道教の教え。

- T'ai Shang Kan Ying P'ien, 213-218 Wicca"

汝らは全てに危害をあたえないようにしようとしなければならない

- Wiccan Rede

ゾロアスター教「たとえ何があなた自身に不愉快であろうとも、他にしてはいけない。」

Shayast-na-Shayast 13:29-

169

情報源と引用

IndiaDaily.

IndiaDaily に。

'China and India both know about underground UFO base in the Himalayan border area deep into the tectonic plates', 9 January 2005 TheX Factor.

『両方とも地殻構造プレートの中に深くヒマラヤの境界域で地下 UFO ベースについて知る中国とインド』、2005 年 1 月 9 日に TheX Factor。

'Carlos Diaz', Issue 89,2000 (UK, London:

『カルロス・ディアス』、Issue 89,2000 (英国、ロンドン :

Marshall Cavendish Ltd) 'Cutler-Twining Memo', 14 July 1954 'Majestic Twelve Project - Annual Report', 1952 (7) Gerard Aartsen.

マーシャル・キャベンディッシュ社)、『カトラー-双晶化 Memo』、1954 年 7 月 14 日に「マジェスティックトゥエルブプロジェクト Twelve Project 一年次報告」(1952 の(7)ジェラード Aartsen)。

'The Friendship Case:

『Friendship Case :

Space Brothers teach lessons of brotherhood'.

スペース・ブラザーズは、兄弟の関係のレッスンを教える』。

Share International magazine Vo1.30, No.3, April 2011 Gerard Aartsen.

シェア・インターナショナル誌 Vo1.30 (No.3) 2011 年 4 月ジェラード Aartsen.

George Adamski - A Herald for the Space Brothers (the Netherlands, Amsterdam:

ジョージ・アダムスキ — Space Brothers のための A ヘルルド — (オランダ、アムステルダム :

BGA Publications, 2010) Gerard Aartsen.

BGA Publications、2010) ジェラード Aartsen。

Our Elder Brothers Return - A History in Books (the Netherlands, Amsterdam:

我々のエルダー・ブラザーズ Return — Books の A History — (オランダ、アムステルダム :

BGA Publications, 2008);

BGA Publications、2008) ;

published online at www.biblioteca-ga.info Benjamin Adamah.

出版されたオンライン [atwww.biblioteca-ga.info](http://www.biblioteca-ga.info) ベンジャミン Adamah。

"De Illuminati bestaan niet".

「Illuminati bestaan niet の」。

Lecture for Delft University of Technology Studium Generale, 3 November 2008 George Adamski.

Delft 工業大学 Studium Generale のための講義、2008 年 11 月 3 日にジョージ・アダムスキ。

Answers to Questions Most Frequently Asked About Our Space Visitors and Other Planets (USA, Palomar Gardens, CA:

Questions Most Frequently Asked About Our Space Visitors と Other Planets に対する答え (USA、パロマー庭園、CA :

G. Adamski, 1965) George Adamski.

G. アダムスキー、1965) ジョージ・アダムスキ。

Cosmic Science for the promotion of Cosmic Principles and Truths.

Cosmic Principles と Truths の昇進のための宇宙サイエンス。

(USA, Valley Center, CA:

(USA、谷センター、CA :

Cosmic Science, 1957-58) George Adamski.

宇宙サイエンス、1957-58) ジョージ・アダムスキ。

Flying Saucers Farewell.

空飛ぶ Saucers Farewell。

(USA, New York, NY:

(USA、ニューヨーク、NY :

Abelard-Schuman, 1961) George Adamski.

アベラルー・シューマン、1961) ジョージ・アダムスキ。

Inside the Space Ships (USA, New York, NY:

Space Ships の中に (USA、ニューヨーク、NY :

Abelard Schumann, 1955) George Adamski.

アベラルー・シューマン、1955) ジョージ・アダムスキ。

Many Mansions (USA, Detroit, MI:

多くのマンション (USA、デトロイト、MI :

Interplanetary Relations, 1955), 1974 reprint George Adamski.

惑星間の Relations、1955) ,1974 は、ジョージ・アダムスキを再版する。

Pioneers of Space (USA, Los Angeles, CA:

先駆者 of Space (USA、ロサンゼルス、CA :

Leonard Freefield, 1949) George Adamski.

レナード-Freefield、1949) ジョージ・アダムスキ。

'The Space People' (1964).

『Space People』(1964)。

In:

以下で :

Gerard Aartsen, George Adamski - A Herald for the Space Brothers, 2010 George Adamski.

ジェラード Aartsen、ジョージ・アダムスキー Space Brothers (2010 人のジョージ・アダムスキ) のための A ヘルルド。

Wisdom of the Masters of the Far East (USA, Laguna Beach, CA:

極東のマスターズの智慧

(USA、ラグーナビーチ、CA :

Royal Order of Tibet, 1936), Health Research reprint, 2000 Vera Stanley Alder.

チベット (1936) の国王の勲位)、Health Research 再版、2000 のヴェラ・スタンリー Alder。

From the Mundane to the Magnificent - A Volume of Autobiography.

Mundane から Magnificent まで - Autobiography の A Volume。

(UK, London:

(英国、ロンドン :

Rider Books, 1979) Orfeo Angelucci.

ライダー Books、1979) Orfeo アンジェルッチ。

The Secret of the Saucers.

Saucers の Secret。

(USA, Amherst, WI:

(USA、アマーフト、WI :

The Amherst Press, 1955) 170

アマースト・プレス、1955) 170

SOURCES AND REFERENCES

SOURCES AND REFERENCES

Alice A. Bailey.

アリス・ベイリー。

Discipleship in the New Age, Vols I (UK, London:

ニュー・エイジ (Vols I) の中の弟子としての身分 (英国、ロンドン :

Lucis Trust, 1944, 11th printing, 1985) and 2 (1955, 6th printing, 1980) Alice A. Bailey.

Lucis トラスト、1944、11 回目の印刷、1985)、そして、2 人の (1955、6 回目の印刷、1980)

アリス・ベイリー。

The Externalization o/the Hierarchy (UK, London:

Externalization o/Hierarchy (英国、ロンドン :

Lucis Trust, .

Lucis トラスト。

1957) Alice A. Bailey.

1957) アリス・ベイリー。

Initiation, Human and Solar(UK, London:

開始、Human と Solar (英国、ロンドン :

Lucis Trust, 1922) Alice A. Bailey.

Lucis トラスト、1922) アリス・ベイリー。

A Treatise on White Magic (UK, London:

ホワイト Magic の上の Treatise (英国、ロンドン :

Lucis Trust, 1934), 14th printing, 1979 Alice A. Bailey.

Lucis トラスト、1934)、14 回目の印刷、1979 人のアリス・ベイリー。

Between War and Peace (USA, New York, NY:

戦争と Peace 間の (USA、ニューヨーク、NY :

Lucis Press, 1942) Alice A. Bailey.

Lucis Press、1942) アリス・ベイリー。

A Treatise on the Seven Rays, Volume III-Esoteric Astrology (UK, London:

Seven Rays (Volume III-Esoteric Astrology) の上の Treatise (英国、ロンドン :

Lucis Trust, 1951), 10th printing 1975 Enrique Barrios.

Lucis トラスト、1951)、1975 人のエンリケ・バリオスを印刷している第 10。

AmI;

AmI;

Child o/the Stars (USA, Santa Fe, NM:

幼児 o/スターズ (USA、サンタフェ、NM :

Lotus Press, 1989) Laurent Basset (dir.).
 ロータス・プレス、1989) ローラン Basset (dir.)。
 The Secret - Evidence We Are Not Alone (USA:
 Secret — Evidence We Are Not Alone — (USA :
 iO Productions, 2002) Chip Berlet, 'Siren Song - Conspiracy!'.
 iO Productions、2002) チップ Berlet、『サイレン Song—Conspiracy ! 』。
 The New Internationalist, issue 405, October 2007 H.P. Blavatsky.
 ニューInternationalist は 405 を出す。そして、2007 年 10 月が H.P.ブラワツキーである。
 'The Dual Aspect of Wisdom', Lucifer, Vol. VII, No.37, 15 September 1890 H.P.
 Blavatsky.
 『Wisdom の Dual Aspect』、魔王、第 VII 巻、No.37、1890 年 9 月 15 日に H.P.ブラワツ
 キー。
 The Secret Doctrine (UK, London:
 Secret Doctrine (英国、ロンドン :
 The Theosophical Publishing Company, 1888).
 Theosophical Publishing 社、1888)。
 Adyar edition (India, Adyar:
 Adyar 版 (インド、Adyar :
 The Theosophical Publishing House, 1938), 6th ed., 1971 Willy Brandt (ed.).
 Theosophical Publishing 下院、1938)、第 6 の ed.、1971 人のウィリー・ブランドト (ed.)。
 North-South - A Programme/or Survival (USA, Cambridge, MA:
 南北 — A Programme/or Survival — (USA、ケンブリッジ、MA :
 The MIT Press/ UK, London:
 MIT プレス/英国、ロンドン :
 Pan Books, 1980) Stefano Breccia.
 パン Books、1980) ステファノ Breccia。
 Mass Contacts (UK, Milton Keynes:
 大量の Contacts (英国、ミルトン・ケインズ :
 AuthorHouse, 2009) Fritjof Capra.
 AuthorHouse、2009) フリチョフ・カプラ。
 'The New Physics and the Scientific Reality of our Time'.
 『ニューPhysics と我々の Time の Scientific Reality』。
 In David Lorimer (ed), The Spirit 0/ Science - From Experiment to Experience (UK,
 Edinburgh:
 デイビッド・ロリマー (の) で、Spirit 0/サイエンス—Experience への From Experiment
 (英国、エジンバラ :

Floris Books, 1998) Pier Carpi.

フロリス Books、1998) Pier カルピ。

Le ProJezie di Papa Giovanni (Italy, Rome:

ル・ProJezie di パパ・ジョヴァンニ (イタリア、ローマ :

Edizione Mediterranee, 1976) Ronald Caswell.

Edizione Mediterranee、1976) ロナルド・キャスウェル。

'In Defence of Wilbert Smith', UFO Contact, IGAP Journal V01.2, No.8, December 1967
Ronald Caswell.

『ウィルバート・スミスの Defence で』、UFO Contact、IGAP ジャーナル V01.2、No.8、
1967 年 12 月にロナルド・キャスウェル。

'Wired for sound'.

『音のために有線の』。

UFO Contact, I GAP Journal V 01.2, No.8, December 1967 I van Ceci.

UFO Contact、私はG A P ジャーナル V 01.2 である、No.8、1967 年 12 月に、私は Ceci
をバンで運ぶ。

'Perego, il console degli UFO', Com'eredella Sera, 16 February 20 II I van Ceci.

『ペレゴ、il は degli UFO の慰めになる』、Com'eredella 世羅、2020 年 2 月 16 日に II I
バン Ceci。

'Witness offItalian extraterrestrial contact case emerges', ExoN ews, 15 August 2011
Luca Trovellesi Cesana (dir.).

『offItalian の地球外生物接触事実が出てくるのを目撃する』、ExoN ews、2011 年 8 月 15
日にルーカ Trovellesi Cesana (dir.)。

II Caso Amicizia (Italy:

II Caso Amicizia (イタリア :

Studi03TV, 2010) 171

Studi03TV、2010) 171

HERE TO HELP:

HERE TO HELP :

UFOs AND THE SPACE BROTHERS Sylvia Cranston.

UFO AND THE SPACE BROTHERS Sylvia Cranston。

HPB - The Extraordinary Life and Influence of Helena Blavatsky, Founder of the
Modern Theosophical Movement (USA, New York, NY:

HPB — Extraordinary Life とヘレナ・ブラワツキー (Modern Theosophical Movement
のファウンダー) の Influence — (USA、ニューヨーク、NY :

Tarcher Putnam, 1993)

Tarcher パットナム、1993)

Gordon W. Creighton.

ゴードン W.クレイトン。

'TheItalian Scene' Part 3:

『TheItalian Scene-パート 3 :

Bruno Ghibaudi's contact claim'.

ブルーノ Ghibaudi の接触主張』。

Flying Saucer Review VoL9, No.3, May-June 1963 Benjamin Creme.

空飛ぶ Saucer Review VoL9 (No.3) 1963 年 5 月～6 月ベンジャミン Creme.

The Ageless Wisdom Teaching -An introduction to humanity's spiritual legacy (USA, Los Angeles, CA:

人類社会の精神的な遺産への Ageless な Wisdom Teaching-An 導入 (USA、ロサンゼルス、CA :

Share International, 1995) Benjamin Creme.

シェア・インターナショナル、1995) ベンジャミン・クレーム。

The Gathering of the Forces of Light - UFOs and their Spiritual Mission (USA, Los Angeles, CA:

Light の Forces の Gathering-UFO と彼らの Spiritual ミッション (USA、ロサンゼルス、CA :

Share International, 2010) Benjamin Creme.

シェア・インターナショナル、2010) ベンジャミン・クレーム。

The Great Approach - New Light and Life for Humanity (USA, Los Angeles, CA:

Great Approach-Humanity のためのニューLight とライフ (USA、ロサンゼルス、CA :
Share International, 2001) Benjamin Creme.

シェア・インターナショナル、2001) ベンジャミン・クレーム。

Maitreya 's Mission, Vol. Two (USA, Los Angeles, CA:

マイトレーヤ 『s ミッション、Vol. Two (USA、ロサンゼルス、CA :

Share International, 1993) Benjamin Creme.

シェア・インターナショナル、1993) ベンジャミン・クレーム。

Maitreya's Mission Vol. Three (USA, Los Angeles, CA:

マイトレーヤのミッション Vol. Three (USA、ロサンゼルス、CA :

Share International, 1997)

シェア・インターナショナル、1997)

Benjamin Creme.

ベンジャミン・クレーム。

The Reappearance of the Christ and the Masters of Wisdom (UK, London:

キリストの Reappearance と Wisdom のマスターズ (英国、ロンドン :

Tara Press, 1979) Benjamin Creme (ed.).

タラ・プレス、1979) ベンジャミン・クレーム (ed.)。

Share International magazine Vol.4, No.3, March 1986;

シェア・インターナショナル誌第4巻、No.3、1986年3月;

VoL21, No.1, January/February 2002;

VoL21、No.1、1月/2002年2月;

Vo1.24, No.3, April 2005;

Vo1.24、No.3、2005年4月;

Vo1.29, No.6, July/August 2010;

Vo1.29、No.6、7月/2010年8月;

No.8, October 2010;

No.8、2010年10月に;

No.9, November 2010;

No.9、2010年11月に;

No. 10, December 2010;

2010年12月10日 No.;

Vo1.30, No.2, March 2011;

Vo1.30、No.2、2011年3月;

No.3, April 2011;

No.3、2011年4月に;

No.4, May 2011;

No.4、2011年5月に;

No.6, July/August 2011;

No.6、7月/2011年8月;

No.7, September 2011 Adam Curtis (dir.).

No.7、2011年9月にアダム・カーティス (dir.)。

The Trap - What Happened to Our Dream of Freedom?, Part 2:

Trap — Freedom の Our Dream への What Happened ? パート 2 :

"The Lonely Robot".

「Lonely な Robot」。

(UK, London:

(英国、ロンドン :

British Broadcasting Corporation, 2007) Pablo Dessy.

英国放送協会、2007) パブロ Dessy。

'LSeres de luz en Ongamira?', analuisacid.com, 8 August 2009 Giorgio Dibitonto.

『LSeres デ luz エヌ Ongamira ? 』(analuisacid.com) 2009年8月8日 ジョルジョ Dibitonto.

Angels in Starships (USA, Phoenix, AZ:
 Starships のエンゼルス (USA、フェニックス、AZ :
 UFO Photo Archives, 1990) Nikola Duper.
 UFO Photo Archives、1990) ニコラ Duper。
 'The story of "Friendship" ' (PDF, 2009) Masaru Emoto.
 『「友好」の物語』(PDF、2009) 江本勝。
 Messagesfrom Water (The Netherlands, Ouderkerk aan de Amstel:
 Messagesfrom Water (オランダ、Ouderkerk aan デ・アムステル :
 Hado Publishing, 2003) Ernesto de la Fuente.
 波戸 Publishing、2003) アーネスト・デ・ラ・フェンテ。
 Isla Friendship - Conexion OVNI(Chile:
 イスラ Friendship — Conexion OVNI — (チリ :
 PDF, 2001) Paolo di Girolamo.
 PDF、2001) パオロ di ジローラモ。
 Noi e Loro (Italy:
 Noi e Loro (イタリア :
 Nexus Edizioni, 2009) Timothy Good.
 結びつき Edizioni、2009) ティモシー・グッド。
 Above Top Secret (UK, London:
 上記の Top Secret (英国、ロンドン :
 Guild Publishing, 1988) Timothy Good.
 ギルド Publishing、1988) ティモシー・グッド。
 Alien Base - Earth's Encounters with Extraterrestrials.
 外国人基地—Extraterrestrials による地球の Encounters。
 (UK, London:
 (英国、ロンドン :
 Century, 1998) Timothy Good.
 世紀、1998) ティモシー・グッド。
 Unearthly Disclosure (UK, London:
 神秘的な Disclosure (英国、ロンドン :
 Century, 2000) 172
 世紀、2000) 172
 SOURCES AND REFERENCES
 SOURCES AND REFERENCES
 Neil Gould.
 ニール・グールド。

Interview with Philippe de la Mezussiere (Exopolitics Hong Kong, July 2010) Steven Greer M.D.

フィリップ・デ・ラ Mezussiere (Exopolitics 香港、7 月の 2010) スティーブン・グリーア M.D. と一緒にインタビュー記事

'Exopolitics or Xenopolitics'.

『Exopolitics または Xenopolitics』。

The Disclosure Project, 2 May 2006 Josep Guijarro.

Disclosure Project、2006 年 5 月 2 日にジョーゼプ Guijarro。

Karma-7, No.292, June 1998 Tony Halpin.

カルマ-7、No.292、1998 年 6 月にトニー・ハルビン。

'Were Russian secrets shared with 'space alien' visitors?' (UK, London:

『ロシアの秘密は、スペース外国人と共有されたか』訪問客？』(英国、ロンドン :

The Times, 7 May 2010) Jason Hanna, 'UFOs eyed nukes, ex-Air Force personnel say'.

タイムズ、2010 年 5 月 7 日に)、ジェイソン・ハンナ、『UFO は、核兵器 (人員が言う前空軍) を見た』。

CNN newsblog This Just In, 27 September 2010 Paola Harris.

CNN newsblog This Just In、2010 年 9 月 27 日にパオラ・ハリス。

'Italy's disclosure of human looking aliens!' (2009) Paola Harris.

『イタリアは、外国人に見えている人間の発表である！』(2009) パオラ・ハリス。

'Why Me?', interview with Maurizio Cavallo (2006) Paul Hellyer.

『理由 Me?』、マウリッチオ・カバルロ (2006) ポール Hellyer によるインタビュー記事。

Light at the End of the Tunnel.

トンネルの End で火がつきなさい。

A Survival Plan for the Human Species (USA, Bloomington, IN:

Human Species のための Survival Plan (USA、ブルーミントン、IN :

AuthorHouse, 2010) Michael Hesemann (dir.).

AuthorHouse、2010) マイケル Hesemann (dir.)。

Ships of Light - The Carlos Diaz Experience (Germany, Dusseldorf:

Light — カルロス・ディアス Experience — の船 (ドイツ、デュッセルドルフ :

2000 Film Productions, 2001) Gregory Katz.

2000 の Film Productions、2001) グレゴリー・カッツ。

'UN Official denies she has a role representing Earth to extraterrestrials'.

『国連 Official は、彼女には地球外生物に地球を意味している役割があることを否定する』。

AP News, 5 October 2010 Ledyard King-Gannett.

AP News、2010 年 10 月 5 日に Ledyard キング・ガネット。

'Former Air Force Officers Discuss Sightings', Air Force Times News, 27 September

2010 Tessa Koops.

『前 Discuss Sightings 空軍巡査』(空軍タイムズ News) 2010 年 9 月 27 日テサ Koops.

'Tessa Koops meets Ervin Laszlo' (The Netherlands, Haarlem:

『テサ Koops は、アーヴィン Laszlo に会う』(オランダ、ハーレルム :

Tessed Productions 2008)

Tessed Productions 2008)

David Korten.

デイビッド・コーテン。

'The Path to Real Prosperity'.

『Real Prosperity への Path』。

YESfMagazine, 7 September 2011 Alexander Lauterwasser.

YESfMagazine に // 2011 で 9 月 7 日ある私アレキサンダーLauterwasser.

Water Sound Images:

水サウンド Images :

The CreativeMusicofthe Universe (USA, Berkeley, CA:

CreativeMusicofthe ユニヴァース (USA、バークレー、CA :

Macromedia Press, 2007) DesmondLeslie.

マクロメディア・プレス、2007) DesmondLeslie.

TheAmazingMr Lutterworth(UK, London:

TheAmazingMr Lutterworth (英国、ロンドン :

Allan Wingate, 1958) Desmond Leslie & George Adamski.

アラン・ウィングート、1958) デズモンド・レスリーとジョージ・アダムスキ。

Flying Saucers Have Landed, Revised and Enlarged edition (UK, London:

空飛ぶ Saucers Have Landed、Revised と Enlarged 版 (英国、ロンドン :

Neville Spearman 1970) Nick Margerrison.

ネヴィル・スピアマン 1970) ニック Margerrison.

Interview with Dr Edgar Mitchell (UK, Peterborough:

エドガー・ミッチェル博士と一緒にのインタビュー記事 (英国、ピーターバラ :

Kerrang!

Kerrang !

Radio, 23 July 2008) Benjamin Creme's Master.

ラジオ、2008 年 7 月 23 日に) ベンジャミン・クレームのマスター。

'A New Era Dawns'.

『ニュー時代 Dawns』。

Share International, VoU, No.6, July 1982 Benjamin Creme's Master.

インターナショナル、VoU、No.6 を共有しなさい、1982 年 7 月に、ベンジャミン・クレーム

ムはマスターである。

'The voice of the people is heard'.

『人々の声は、聞こえる』。

Share International, Vo1.30, No.2, March 2011 Henry S. Olcott.

シェア・インターナショナル、Vo1.30、No.2、2011 年 3 月にヘンリーS.オルカット。

Old Diary Leaves:

古い Diary Leaves :

The True Story of the Theosophical Society, Second Series, 1878-83 (1895) Robert Oppenheimer and Albert Einstein.

神智学協会、Second Series、1878-83 の (1895) ロバート・オッペンハイマーとアルバート・アインシュタインのトゥルー・ストーリー。

'Relationship with Inhabitants of Celestial Bodies' (Draft, 1947) 173

『Celestial Bodies の Inhabitants との関係』(草案、1947) 173

HERE TO HELP:

HERE TO HELP :

UFOs AND THE SPACE BROTHERS Octavio Ortiz.

UFO AND THE SPACE BROTHERS Octavio Ortiz。

Friendship-iEvidenciasdecontacto extraterrestre?

友好-iEvidenciasdecontacto 外のテル休息者？

(Spain , Malaga:

(スペイン、マラガ :

Ediciones Corona Borealis, 2010)

Ediciones 北冠座、2010)

Elaine H. Pagels and Helmut Koester.

エレヌ・ペイゲルスとヘルムート・ケスター。

'From Jesus to Christ - the story of the storytellers:

『イエスからキリストまでー語り手の物語 :

The Gospel of Thomas'.

トーマスの福音書。

In Robert J. Miller (ed.), The Complete Gospels (USA, Santa Rosa, CA:

ロバートJ.ミラー (ed.) で、Complete 福音書 (USA、サンタローザ、CA :

Polebridge Press, 1995) Alberto Perego.

Polebridge Press、1995) アルベルト・ペレゴ。

L'aviazione di altri pianeti opera tra noi:

L『aviazione di altri pianeti オペラ tra noi :

rapporto ag/i italiani:

rapporto ag/i italiani :

1943-1963 (Italy, Rome:

1943-1963 (イタリア、ローマ :

Centro Italiano Studi A viazione Elettromagnetica Roma, 1963) Alberto Perego.

Centro Italiano Studi A viazione Elettromagnetica ローマ、1963) アルベルト・ペレゴ。

Sono Extraterrestri!

ソノ Extraterrestri !

(Italy, Rome:

(イタリア、ローマ :

Edizioni Alper, 1958) Hans C. Peterson.

Edizioni アルパー、1958) ハンス C.ピーターソン。

'In Defence of the Abductees' (Denmark, Jelling:

『Abductees の Defence で』 (デンマーク、Jelling :

IGAPE-RCN, n.d.)

IGAPE-RCN、n.d.)

Yogi Ramacharaka.

ヨガ行者 Ramacharaka。

Lessons in Gnani Yoga - The Yoga of Wisdom.

Gnani Yoga のレッスン - Wisdom の Yoga。

(USA, New York, NY:

(USA、ニューヨーク、NY :

Yogi Publication Society, 1909) Wilhelm Reich.

ヨガ行者 Publication 協会、1909) ウィルヘルム・ライヒ。

'The Discovery of the Orgone'.

『Orgone のディスカバリー』。

In Wilhelm Reich, Selected Writings (USA, New York, NY:

ウィルヘルム・ライヒで、Selected Writings (USA、ニューヨーク、NY :

Farrar, Straus and Cudahy, 1960) Daniel Ross (ed.).

ファラー、シュトラウスと Cudahy (1960)) ダニエル・ロス (ed.)。

UFOs and Space Science, No.1, December 1989 Carl Sagan.

1989 年 12 月 UFO と Space サイエンス (No.1) カール・セーガン。

'Are they coming for us?'.

『彼らは、我々を迎えに来ているか?』。

Parade Magazine, March 1993 Carl Sagan.

パレード Magazine、1993 年 3 月にカール・サガン。

The Demon-Haunted World (UK, London:

Demon-Haunted World (英国、ロンドン :
 Headline Book Publishing, 1997) Annemiek Schrijver.
 主なブック Publishing、1997) Annemiek Schrijver。
 'HetAlziend Oog', 31 December 2006.
 『HetAlziend Oog』、2006 年 12 月 31 日に。
 (The Netherlands, Hilversum:
 (オランダ、Hilversum :
 IKON TV, 2006) Rupert Sheldrake Ph.D. A New Science of Life - The Hypothesis of
 Formative Causation (UK, London:
 IKON テレビ、2006)、ルパート・シェルドレーク博士は、ライフ — Formative Causation
 の Hypothesis — の A ニュー・サイエンスである (英国、ロンドン :
 Blond & Briggs, 1981) Wilbert B. Smith.
 ブロンドとブリッグス (1981)) ウィルバート B.スミス。
 Speech given 3 I March 1958 in Ottawa, Canada.
 3 を与えられるスピーチ Ottawa (カナダ) の 1958 年 3 月私。
 Flying Saucer Review Vo1.9, No.5, September-October 1963.
 空飛ぶ Saucer Review Vo1.9、No.5、1963 年 9 月～10 月。
 WilbertB.
 WilbertB。
 Smith.
 スミス。
 'Binding Forces'.
 『拘束力のある Forces』。
 Flying Saucer Review, Vol. 7, No.2, March-April 1961 Wilbert B. Smith.
 飛行 Saucer Review、第 7 巻、No.2、1961 年 3 月～4 月にウィルバート B.スミス。
 'Official Reticence'.
 『公式 Reticence』。
 Flying Saucer Review, Vol.6, No.3, May-June 1960 Wilbert B. Smith.
 飛行 Saucer Review、Vo1.6、No.3、1960 年 5 月～6 月にウィルバート B.スミス。
 'The Philosophy of the Saucers' (n.d.), <www.presidentialufo.com> Television Nacional
 de Chile (TVN).
 『Saucers の Philosophy』 (n.d.)、<www.presidentialufo.com> Television Nacional デ・
 チリ (TVN)。
 La Isla de Friendship, 1999 David Whitehouse.
 La イスラ・デ Friendship、1999 人のデービッド・ホワイトハウス。
 'Is anybody out there - with a soul?'.

『誰か、向こうにいるか ― 魂で?』。

The Independent, 3 November 2010 Michael Wolf.

インディペンデント、2010 年 11 月 3 日にマイケル・ヴォルフ。

The Catchers of Heaven.

天の Catchers。

(USA, Pittsburgh, PA:

(USA、ピッツバーグ、PA :

Dorrance Publishing, 1993), 2nd printing 1996 Lou Zinsstag & Timothy Good.

Dorrance Publishing, 1993)、1996 のルーZinsstag とティモシー・グッドを印刷している
第 2。

George Adamski - The Untold Story (UK, Beckenham:

ジョージ・アダムスキ ― Untold Story ― (英国、Beckenham :

CETI Publications, 1983) 174 INDEX A

CETI Publications, 1983) 174 の INDEX A

'Abductions' hoaxed 37

『誘拐』は、37 をかついだ

astral imagination 36

星の想像力 36

stories only began after

話は、後に始まるだけだった

debunking in 1950s 35

1950 年代 35 に偽りを暴くこと

not true 36

36 を正しく調整してはいけない

Adamski, George 7, 18, 20,

アダムスキー、ジョージ 7、18、20、

22,43, 64-66, 73, 85,

22,43、64-66、73、85、

94, 104, 108, 109, 112,

94、104、108、109、112、

122, 123, 127, 131,

122、123、127、131、

133, 134, 136, 146,

133、134、136、146、

148, 150, 160

148、150、160

about tilt of the Earth 142
地球 142 の傾きについて
asked by contacts to use
使う接触によって必要とされる
discretion 58
判断 58
character assassination
登場人物暗殺
committed on 69
69 の上でゆだねられる
Cosmic Science bulletin 98
宇宙サイエンス速報 98
declined to distinguish
区別するために断られる
between solid and etheric
固体でエーテルのものの中で
physical 93
身体検査 93
description of spaceship
宇宙船の解説
interior 97
内部 97
Flying Saucers Farewell 64
空飛ぶ Saucers Farewell 64
Flying Saucers Have Landed 5
空飛ぶ Saucers Have Landed 5
Get Acquainted Program
Acquainted Program を得なさい
60-61, 67, 69, 119,122
60-61、67、69、119,122
hinted at unlimited, free
自由に、無制限のもので暗示される
energy 105
エネルギー105
Inside the Space Ships
Space Ships の中に

5, 93, 98, 105, 125

5、93、98、105、125

met with organized

組織されて一致される

opposition 36

反対 36

175

175

met with Pope John XXIII

ヨハネス 2 3 世法王と応じられる

46

46

visit to Rome in 1959 64

1959 64 のローマへの訪問

went to Tibet as a teenager

ティーンエイジャーの時チベットに行った

135

135

Wisdom of the Masters of the

マスターズの知恵の

Far East 135

極東 135

'World Disturbances' 144

『世界 Disturbances』 144

Ageless Wisdom teaching ix, 8, 13, 14, 16, 51, 83, 90,

ix、8、13、14、16、51、83、90 を教えている年をとらない Wisdom、

135, 136, 143, 165

135、136、143, 165

'Akrij' 66

『Akrij』 66

Alas, Higinio 45

ああ、Higinio 45

Alder, Vera Stanley 136, 137,

ハンノキ、ヴェラ・スタンリー 136、137、

149

149

From the Mundane to the

Mundane から

Magnificent 158

素晴らしい 158

Alien Base - Earth s Encounters

外国人基地ー地球 s Encounters

with Extraterrestrials 59, 71, 73

Extraterrestrials 59、71、73 で

Alzheimer's disease

アルツハイマー病

caused by nuclear radiation on etheric planes 108

エーテルの飛行機 108 で核放射線に起因する

Amazing Mr Lutterworth, The

Lutterworth 氏を驚かせる、

fictionalized account of

報告書を小説化される

Adamski's mission 157

アダムスキーの任務 157

'Ami' 81-83, 134, 137, 149, 155, 156, 158

『アミ』 81-83、134、137、149、155、156、158

explains etheric-physical 92 Ami, Child of the Stars 80, 155 Amicizia, see Friendship Case

エーテルの身体の 92 人のアミ、スターズ 80 のチャイルド、155 の Amicizia が Friendship Case を見ると説明する

Angels in Starships 96, 146 Angelucci, Orfeo (Orville) 5, 18, 122, 124

Starships 96、146 人のアンジェルーチ、Orfeo (オービル) 5、18、122、124 のエンゼルス

HERE TO HELP:

HERE TO HELP :

UFOs AND THE SPACE BROTHERS about propulsion of space ships 106 The Secret of the Saucers 97, 106 Anti-gravity technology 123, 124 Aquarius, age of 139, 143, 144 'Arab Spring' 31, 153 Ascoli Piceno 61, 62 Atlantis 28, 48 Atlantean magic 121 Atomic war prevented by Space Brothers 56, 60, 143, 157 Avatars 14, 141 B

Saucers 97、106 の Anti-重力技術 123、124 の水瓶座、139 オ、143、144 の『アラブ春』 31、153 のアスコリ Piceno 61、62 のアトランティス 28、121 の Atomic 戦争が Space Brothers 56 によって防止した 48 の Atlantean 魔法、60、143、157 の Avatars 14、141

の B の Secret で、宇宙船 106 の推進力についての UFO AND THE SPACE BROTHERS
が、ある

Bailey, Alice A. 15, 28, 48, 136

ベイリー、アリス A. 15、28、48、136

Between War and Peace 29

戦争と Peace 29 の間で

The Reappearance of the Christ

キリストの Reappearance

143

143

Barrios, Enrique

バリオス、エンリケ

80, 106, 122, 133, 134,

80、106、122、133、134、

137, 143, 149

137、143、149

Aml~ Child of the Stars

スターズの Aml~ Child

80, 155

80、155

explanation of etheric

エーテルのものの説明

physical 92

身体検査 92

Basic necessities of life 85 Beethoven, 'Ode to Joy' 80

生命 85 ベートーベン (『ジョイへの頌賦』 80) の基本的な必需品

Blavatsky, Helena P. 15, 16,

Blavatsky、ヘレナ P. 15、16、

29, 48, 49, 67, 78

29、48、49、67、78

definition of magic 121

魔法 121 の定義

The Secret Doctrine 16

Secret Doctrine 16

The Theosophist 49

Theosophist 49

Brandt, Willy 24
 ブラント、ウィリー 24
 'Breakaway civilization' 50 Breccia, Stefano 58, 62,
 『離脱した文明』 50 Breccia、ステファノ 58、62、
 66, 68, 70, 82, 118
 66、68、70、82、118
 Mass Contacts 58, 62, 89
 大量の Contacts 58、62、89
 Brophy, William 125
 ブロフィー、ウィリアム 125
 Brotherhood 5, 80
 兄弟の関係 5、80
 cosmic 44, 48, 83
 宇宙 44、48、83
 Buddhism, response to
 仏教、反応はそうする
 extraterrestrial life 44
 地球外生物生命 44
 Buono, Eufemio del 56
 ブオノ、Eufemio del 56
 c
 c
 Capra, Fritjof 6
 キャプラ、フリチョフ 6
 Carpi, Pier
 カルピ、Pier
 Le profezie di Papa Giovanni
 ル・profezie di パパ・ジョヴァンニ
 45
 45
 Caswell, Ronald
 キャスウェル、ロナルド
 'In Defence of Wilbert
 『ウィルバートの Defence で
 Smith' 119, 140
 スミス』 119、140

Catchers of Heaven, The
天のキャッチャー、
117, 146
117、146
Cavallo, Maurizio 74, 90
カバルロ、マウリッチオ 74、90
Ceci, Ivan 56, 59
Ceci、イヴァン 56、59
'Chaos point' 151
『混沌点』 151
Christ 143, 158
キリスト 143、158
reappearance of 143
143 の再現
Christianity, response to extraterrestrial life 44
キリスト教、地球外生物生命 44 への反応
Club of Budapest 150
ブダペスト 150 のクラブ
Club of Rome 150
ローマ・クラブ 150
CNN
CNN
coverage of September 2010 press conference 3
2010 年 9 月の報道は、会議 3 を押す
Coming One, Doctrine of the
来たるべき One、Doctrine
142, 159
142、159
Co-operation 16, 26, 30
協力 16、26、30
civilization based on 156
156 に基づく文明
with extraterrestrials 126 Competition ix, 25, 26, 30
地球外生物 126 Competition ix で、25、26、30
cause of our problems 155
我々の問題 155 の原因

176

176